



# 講義内容 2008

グローバル・メディア・スタディーズ学部

# 講 義 内 容

グローバル・メディア・スタディーズ学部

『講 義 内 容』 の 見 方 .....( 2 )  
 参 考 .....( 4 )

目 次 案 内

I 全 学 共 通 科 目

1 宗 教 教 育 科 目 .....( 7 )  
 2 教 養 教 育 科 目 .....( 8 )  
     (1) 人 文 分 野 .....( 8 )  
     (2) 社 会 分 野 .....(10)  
     (3) 自 然 分 野 .....(10)  
 3 外 国 語 科 目 .....(12)  
 4 保 健 体 育 科 目 .....(15)

II 専 門 教 育 科 目 .....(16)

III 他 学 部 履 修 科 目 .....(25)

IV 「日本語」・「日本事情」科目 .....(27)

全 学 共 通 科 目	宗教教育
	人文分野 社会分野 自然分野
	外国語 保健体育
	専門教育
履 修 科 目	他学部
	「日本語」 「日本事情」

## 『講義内容』の見方

- 1、『講義内容』は、『履修要項』（別冊）、『授業時間表』（別冊）と合わせて利用してください。
- 2、『講義内容』は、グローバル・メディア・スタディーズ学部で開講されている全ての科目が掲載されています。その中で、履修できる科目は、所属する学科で開講されている科目のみです。  
（この冊子に掲載されている科目全てが履修できる科目ではありませんので、注意してください。）
- 3、履修できる科目は、所属学科の『授業時間表』（別冊）に掲載されている科目です。  
『授業時間表』で履修コード（※）を確認し、『講義内容』を閲覧してください。
- 4、他学部履修科目を履修する場合は、教務部⑪番窓口で『他学部履修科目授業時間表』を受け取り、履修コードを確認し、『講義内容』を閲覧してください。
- 5、教職課程・資格講座に登録している場合は、教務部で『講義内容（教職課程・資格講座）』と『授業時間表（課程各講座授業時間表）』を受け取ってください。

### ※ 履修コードとは

履修コードとは、各授業に割り振られている6桁の番号です。4月の履修科目登録時（事前登録・履修届登録）にも使用します。同名科目・同担当者の科目が2つ以上ある場合、履修コードで判別することになります。履修コードの見間違いがないよう、十分注意してください。

～『講義内容』の利用手順～

①『履修要項』（別冊）を参照し、「授業科目の区分」や「履修できる科目」を調べる。

②『授業時間表』（別冊）を参照し、履修したい科目の履修コードを確認する。

（『授業時間表』の記載例）

曜日時限	科目名	担当者名	コード	備考	区分	教場名
月 1	仏教と人間	駒澤 太郎	111111	GM1必		玉-111

↑  
※履修コード

③『講義内容』の目次ページから、同じ履修コードを探し、ページを開く。

（『講義内容』目次ページの記載例）

科目名	担当者名	履修コード	ページ
仏教と人間	駒澤 太郎	111111	1

↑  
※

④目次ページの履修コードと科目枠の履修コードが同じであることを確認した上で、授業内容を閲覧する。

（『講義内容』科目枠の記載例）

履修コード	111111 ←※
科目名	仏教と人間
担当者名	こまざわ たろう 駒澤 太郎

# 参 考

## 外国語科目

### 英 会 話 I

#### 〈英会話 I の授業内容と履修上の留意点〉

基本的な日常表現ができることを目指した大学初級レベルの英語会話の授業です。達成目標の目安は英検 2 級合格、TOEFL® のスコアー450点、TOEIC® のスコアー500点程度。各担当者の講義内容 (syllabus) をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選んでください。

### 英 会 話 II

#### 〈英会話 II の授業内容と履修上の留意点〉

英語を母語とする外国人教師が担当します。英会話 I のレベルを修得しているか、またはそれに相当する力を持っていることを前提とします。関心のあるトピックを話したり、議論できることを目指した大学中級レベルの英語会話の授業です。達成目標の目安は英検準 1 級合格、TOEFL® のスコアー480点、TOEIC® のスコアー700点程度。各担当者の講義内容 (syllabus) をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選んでください。

### 英 会 話 III

#### 〈英会話 III の授業内容と履修上の留意点〉

英語を母語とする外国人教師が担当します。英会話 II のレベルを修得しているか、またはそれに相当する力を持っていることを前提とします。自分の専門分野のトピックを発表し、論じられる表現力を目指した大学上級レベルの英語会話の授業です。達成目標は英検 1 級合格、TOEFL® のスコアー500点以上、TOEIC® のスコアー900点程度。各担当者の講義内容 (syllabus) をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選んでください。

### 英 語 L L I

#### 〈英語 L L I の授業内容と履修上の留意点〉

情報メディア機器 (1号館 3・4階 P C 教場) を使用し、発音、アクセント、イントネーションなどの口頭練習とデジタル化されたテープ教材またはビデオ教材を用いて、日常会話などのヒアリングとスピーキングを訓練します。英検 2 級合格、TOEFL® のスコアー450点、TOEIC® のスコアー500点程度を達成目標とする初級レベルです。各担当者の講義内容 (syllabus) をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選んでください。

## 英 語 L L II

### 〈英語 L L II の授業内容と履修上の留意点〉

中級：L L I 程度の基礎訓練を修得していることを前提とします。テープ教材またはビデオ教材を用いて、ニュース等の時事問題、やや専門的なテーマの英語スピーチ等の聴解力を集中的に訓練します。また、英語で要約・説明できる表現力を修得します。英検準1級合格、TOEFL® のスコア480点、TOEIC® のスコア700点程度をめざします。各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選んでください。

## 英 語 L L III

### 〈英語 L L III の授業内容と履修上の留意点〉

上級：L L II を修得、またはそれと同等以上のレベルであることを前提とします。英語圏の大学の教養／専門科目等の授業が開き取れ、演習で議論できる程度の英語の表現力を養成します。英検1級、TOEFL® のスコア500点以上、TOEIC® のスコア900点程度を目指した訓練コースです。各担当者の講義内容（syllabus）をよく読み、時間表で曜日・時限を確認してクラスを選んでください。

# 保健体育科目

## 保健体育科目の目標

本学の『保健体育科目』は、総合的人間性の形成を目指し以下の点に留意して開設されています。

人間がひととして生きていくうえで、自己の身体について知り、理解を深めていくことは重要なことであり、健康の増進や、体力向上のための基本的な知識や習慣を、生涯を通じて知的・身体的遺産として獲得することは、あらゆる人間活動を支える基盤であります。スポーツは、単に楽しみとしてではなく、健康や体力づくりの手段として、また、身体を認識する手段としても重要であると考えられます。本学の『保健体育科目』は、様々なスポーツ種目を展開し、その種目の特性に沿った活動や経験を通して、生涯を通じて健康の増進や体力の向上を図ると共に、スポーツを享受する能力を高め、ゆとりある人間社会の形成を実現する能力を学生自らが考え獲得することを目標としています。

さらに、人間疎外条件の多い現代社会において、運動実践の過程で習得される公正、協調、克己、決断、集中などのスポーツの本質的要素であるパーソナリティを共通の体験を通して得ることで、学生時代でなければ得られない人間関係を構築し、社会性を養い、人間愛豊かな人間を形成することを目指しています。

## 「健康・スポーツ実習」開講種目一覧

(於：玉川校舎)

	2 時 限		4 時 限	
金曜日	※佐藤	卓球	※村松	ハンドボール
	村松	ハンドボール	岩本	室内球技
	山口	ソフトボール	森本	ソフトボール
	岩本	室内球技	山口	卓球
	末次	ダブルダッチ	田中	テニス

※は、科目の担当

## 「健康・スポーツ実習(集中授業)」開講科目一覧

集中開講科目は、前期・後期の両方を受講する必要があります。

また、前期と後期で受講する科目が変わります。種目の選択を第1回目の授業で行いますので、必ず参加してください。

《日程》前期：7月13日(日)～17日(木) 後期：1月5日(月)～9日(金)

《時間》10:00～12:00・13:00～15:30

(於：玉川校舎)

前期		後期	
※山口	室内球技	鈴木	卓球
秋田	卓球	高橋	ソフトボール
大石	太極拳	光永	トレーニング&太極拳
牧野	バドミントン	村松	室内球技

※は、科目の担当

# I. 全学共通科目

## 1. 宗教教育科目

科目名	担当者名	履修コード	ページ
仏教と人間	角田 泰隆	205301	5
仏教と人間	熊本 英人	205401	5
仏教と人間	袴谷 憲昭	205501	6
仏教と人間	石井 公成	205601	6
仏教と人間〔再クラス〕	吉津 宜英	205701	7
仏教と人間〔再クラス〕	下室 覚道	205801	7
仏教と人間〔再クラス〕	大谷 哲夫	205901	8
仏教と人間〔再クラス〕	晴山 俊英	206001	8
自然と宗教	小川 順敬	206101	8
社会と宗教	矢野 秀武	206201	9
文化と宗教	佐藤 憲昭	206301	9
坐禅	佐藤 秀孝 ・池上 光洋	206401	10
坐禅	佐藤 秀孝 ・池上 光洋	206501	10



## 2. 教養教育科目

### (1) 人文分野

科目名	担当者名	履修コード	ページ
文学〔日本文学「古典」〕	塩崎 真理子	206601	13
文学〔日本文学「日本のことば」〕	相澤 貴之	206701	13
文学〔日本文学「古典」〕	佐原 作美	206801	14
文学〔日本文学「古典」〕	坂口 博規	206901	14
文学〔日本文学「近代」〕	石割 透	207001	14
文学〔日本文学「近代」〕	松田 直行	207101	15
文学〔日本のことば〕	萩原 義雄	207201	16
文学〔外国文学「アメリカ文学」〕	田中 保	207301	17
文学〔外国文学「中国文学」〕	児島 弘一郎	207401	17
文学〔日本文学「古典」〕	藺部 幹生	207501	17
文学〔日本文学「近代」〕	小林 治	207701	18
文学〔日本文学「古典」〕 - フレックスB開講 -	池田 大輔	342501	18
文学〔日本文学「近代」〕 - フレックスB開講 -	中西 亮太	342601	19
文学〔日本文学「古典」〕 - フレックスB開講 -	伊藤 達氏	342701	19
歴史学〔日本中世史〕	今野 慶信	207801	20
歴史学〔東アジア考古学〕	千葉 基次	207901	20
歴史学〔古代オリエント史〕	大城 道則	208001	21
歴史学〔西洋中世史〕	舟橋 倫子	208101	21
歴史学〔日本近世史〕	出口 宏幸	208201	22
歴史学〔日本近代史〕	立川 章次	208301	22
歴史学〔日本近代史〕 - フレックスB開講 -	林 彰	342801	22
歴史学〔中国史概観〕 - フレックスB開講 -	小林 惣八	342901	23
歴史学〔アジア史概観〕 - フレックスB開講 -	山口 洋	343001	23
芸術学〔日本美術〕	北野 良枝	208401	23
芸術学〔西洋美術〕	矢野 陽子	208501	24
芸術学〔音楽〕	浦本 裕子	208601	24
哲学〔西洋思想の源流〕	滝口 清栄	208701	25
哲学〔西洋思想の源流〕	佐藤 暁	208801	25
哲学〔西洋思想の源流〕	河谷 淳	208901	26
哲学〔近代の人間観と世界観〕	古田 知章	209001	26
哲学〔近代の人間観と世界観〕	佐藤 暁	209101	27
哲学〔近代の人間観と世界観〕	小島 優子	209201	27
哲学〔現代文明と人間〕	黒崎 剛	209301	28
哲学〔現代文明と人間〕	滝沢 正之	209401	28
哲学〔現代文明と人間〕	麻生 享志	209501	29
哲学〔西洋思想の源流〕 - フレックスB開講 -	滝沢 正之	343101	29
哲学〔近代の人間観と世界観〕 - フレックスB開講 -	伊古田 理	343201	30
哲学〔現代文明と人間〕 - フレックスB開講 -	鈴木 聡	343301	30
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	鈴木 聡	209601	30
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	山口 祐弘	209701	31
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	河谷 淳	209801	31
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	滝口 清栄	209901	32
論理学〔知の技法〕	伊古田 理	210001	32
論理学〔科学方法論と現代論理学〕	鈴木 聡	210101	33
論理学〔知の技法〕	小島 優子	210201	33

論理学〔科学方法論と現代論理学〕 - フレックスB開講 -	伊古田 理	343401	34
論理学〔科学方法論と現代論理学〕 - フレックスB開講 -	麻生 享志	343501	34
倫理学〔人間観〕	古田 知章	210601	35
倫理学〔応用倫理学〕	黒崎 剛	210701	35
倫理学〔価値観〕	久保 陽一	210801	36
倫理学〔応用倫理学〕	滝沢 正之	210901	36
倫理学〔制度とモラル〕	滝口 清栄	211001	37
倫理学〔東洋倫理〕	末木 恭彦	211101	37
倫理学〔応用倫理学〕	黒崎 剛	211111	38
宗教学〔比較宗教文化〕	池上 良正	211201	38
宗教学〔聖と俗〕	田中 かの子	211301	39
宗教学〔世界観と儀礼〕	小川 順敬	211401	39
宗教学〔日本人の宗教〕	矢野 秀武	211501	40
宗教学〔生活と宗教〕	菅原 壽清	211511	40
宗教学〔民俗宗教の諸相〕	星野 靖二	211521	41
宗教学〔比較宗教文化〕 - フレックスB開講 -	田中 かの子	342401	41
教育の思想	豊田 千代子	212002	41
教育の思想	北村 三子	212102	42
教育の思想	北村 三子	212202	42
教育の思想	伊藤 茂樹	212302	42
教育の思想	伊藤 茂樹	212402	42
教育の思想	伊藤 茂樹	212702	42
教育の思想	萩原 建次郎	212502	42
教育の思想	坂本 信昭	212602	43
教育の思想 - フレックスB開講 -	山本 敏子	343802	43
教育と社会	豊田 千代子	212902	43
教育と社会	北村 三子	213002	44
教育と社会	北村 三子	213102	44
教育と社会	伊藤 茂樹	213202	44
教育と社会	伊藤 茂樹	213302	44
教育と社会	伊藤 茂樹	213602	44
教育と社会	萩原 建次郎	213402	44
教育と社会	坂本 信昭	213502	45
教育と社会 - フレックスB開講 -	山本 敏子	343902	45
発達と学習の心理学	小倉 康仁	213802	46
発達と学習の心理学	大浜 幾久子	213902	46
発達と学習の心理学	大浜 幾久子	214002	46
発達と学習の心理学	藤原 善美	214102	47
発達と学習の心理学	飯田 都	214202	47
発達と学習の心理学	飯田 都	214602	47
発達と学習の心理学	角野 善司	214302	47
発達と学習の心理学	角野 善司	214402	47
発達と学習の心理学	角野 善司	214502	47
発達と学習の心理学 - フレックスB開講 -	藤原 善美	344002	48
カリキュラムと学習	小倉 康仁	214802	48
カリキュラムと学習	大浜 幾久子	214902	49
カリキュラムと学習	大浜 幾久子	215002	49
カリキュラムと学習	藤原 善美	215102	49
カリキュラムと学習	杉山 二季	215202	50
カリキュラムと学習	杉山 二季	215602	50
カリキュラムと学習	角野 善司	215302	50

カリキュラムと学習	角野 善司	215402	50
カリキュラムと学習	角野 善司	215502	50
カリキュラムと学習 - フレックスB開講 -	藤原 善美	344102	50

## (2) 社会分野

科目名	担当者名	履修コード	ページ
社会学〔現代社会を考える〕	阿部 真大	215801	51
社会学〔現代社会を考える〕	呉 炳三	215901	51
社会学〔現代文化を考える〕	呉 炳三	216001	51
社会学〔社会生活を考える〕	呉 炳三	216301	51
社会学〔現代文化を考える〕	神長 唯	216101	52
社会学〔社会生活を考える〕	小畑 和	216201	52
社会学〔現代社会を考える〕 - フレックスB開講 -	阿部 真大	344201	53
社会学〔現代文化を考える〕 - フレックスB開講 -	橋爪 敏	344301	53
法学・憲法〔法と社会生活〕	長谷川 日出世	217501	53
法学・憲法〔法と社会生活〕	和知 恵一	217601	54
法学・憲法〔法と社会生活〕	沼田 雅之	217701	55
法学・憲法〔法と社会生活〕	鷄徳 啓登	217801	56
法学・憲法〔法と権利〕	沼田 雅之	217901	57
法学・憲法〔法と国家〕	新田 浩司	218101	58
法学・憲法〔法と国家〕	新田 浩司	218201	58
法学・憲法〔法と国家〕	織田 晃子	218401	58
法学・憲法〔法と権利〕	茂野 隆晴	218501	59
法学・憲法〔法と権利〕 - フレックスB開講 -	鷄徳 啓登	344601	59
法学・憲法〔法と社会生活〕 - フレックスB開講 -	長谷川 日出世	344701	60
政治学〔社会生活とデモクラシー〕	白鳥 浩	218701	60
政治学〔政治システムと政治参加〕	富崎 隆	218801	61
政治学〔国際社会と日本〕	山崎 望	218901	61
政治学〔政治システムと政治参加〕 - フレックスB開講 -	真下 英二	344801	62
政治学〔国際社会と日本〕 - フレックスB開講 -	山村 恒雄	344901	62
経済学〔現代社会と市場経済〕	梶中 貴	219001	63
経済学〔現代経済と人間〕	森田 成也	219101	63
経済学〔現代経済理解へのガイド〕	松前 龍直	219201	64
経済学〔現代経済理解へのガイド〕	矢野 浩一	219301	64
経済学〔現代経済と人間〕 - フレックスB開講 -	沼田 郷	345001	65

## (3) 自然分野

科目名	担当者名	履修コード	ページ
生物学〔生態と進化〕	清水 善和	220201	66
生物学〔生態と進化〕	清水 善和	220301	66
生物学〔生物と環境〕	中村 敏枝	220401	66
生物学〔生態と進化〕 - フレックスB開講 -	清水 善和	345501	67
生物学〔生物と環境〕 - フレックスB開講 -	中村 敏枝	345601	67
自然環境論〔生命と環境〕	山縣 毅	221101	68
自然環境論〔生命と環境〕	山縣 毅	221201	68
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	221301	68
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	221801	68
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	221901	68
自然環境論〔生物の集団と環境〕	坂巻 義章	222001	68
自然環境論〔地球・太陽系環境〕	坂野井 和代	221401	69
自然環境論〔地球・太陽系環境〕	坂野井 和代	221501	69

自然環境論〔生命と環境〕	中村 敏枝	221601	69
自然環境論〔生命と環境〕	中村 敏枝	221701	69
自然環境論〔宇宙から見た地球環境〕 - フレックスB開講 -	篠原 正雄	346301	70
自然環境論〔生命と環境〕 - フレックスB開講 -	山縣 毅	346401	70
数学〔微積分学入門〕	小沢 誠	222401	71
数学〔線型代数学入門〕	小沢 誠	222501	72
数学〔現代数学入門〕	福田 賢一	222601	73
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	高橋 良博	226201	73
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	加藤 博己	226301	74
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	加藤 博己	226401	74
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕	杉山 雅美	226501	74
心理学〔人間関係を考える〕	高橋 良博	226601	75
心理学〔人間関係を考える〕	鈴木 順一	226701	76
心理学〔人間関係を考える〕	加藤 博己	226801	77
心理学〔人間関係を考える〕	鈴木 順一	226901	78
心理学〔心を科学する〕	高橋 良博	227001	79
心理学〔心を科学する〕	堀内 正彦	227101	79
心理学〔心を科学する〕	中丸 茂	227201	80
心理学〔心を科学する〕(夏季集中)	深堀 友覚	227301	81
心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕 - フレックスB開講 -	鈴木 順一	345301	81
心理学〔人間関係を考える〕 - フレックスB開講 -	鈴木 順一	345401	82

### 3. 外国語科目

#### 《選択科目》

科目名	担当者名	履修コード	ページ
英文講読	林 明人	284901	85
英文講読	矢島 直子	285001	85
英文講読	石原 孝哉	285101	85
時事英語研究	高野 秀夫	285701	86
時事英語研究	林 明人	285801	86
時事英語研究	岸本 茂和	285811	87
時事英語研究	落合 和昭	285901	87
時事英語研究	矢島 直子	285911	88
マルチ・メディア	落合 和昭	286501	89
マルチ・メディア	大庭 直樹	286601	90
マルチ・メディア	西村 祐子	286701	91
マルチ・メディア	大庭 直樹	286801	92
英会話I	ロビン、G. F.	264201	92
英会話I	ロビン、G. F.	264301	92
英会話I	ウェルズ、J. K.	264401	93
英会話I	ウェルズ、J. K.	264501	93
英会話I	ソルタ、P. N. F.	264601	94
英会話I	ソルタ、P. N. F.	264701	94
英会話I	レーン、C. M.	264801	95
英会話I	レーン、C. M.	264901	95
英会話I	ピアス、D. M.	265001	96
英会話I	ピアス、D. M.	265101	97
英会話I	レイン、R. V.	265201	98
英会話I	ロンゴ、T.	265301	99
英会話II	セイジ、K.	287401	100
英会話II	ロンゴ、T.	287501	101
英会話II	レイン、R. V.	287601	102
英会話III	ウェルズ、J. K.	287701	102
英会話III	ピアス、D. M.	287801	103
英語LLI	西村 祐子	265401	104
英語LLI	西村 祐子	265701	104
英語LLI	塙 美智子	265501	104
英語LLI	塙 美智子	265601	104
英語LLI	外池 一子	265801	105
英語LLI	外池 一子	265901	105
英語LLI	甲斐 捷子	266001	105
英語LLI	久保 ひさ子	266101	106
英語LLII	セイジ、K	288501	106
英語LLII	高橋 明子	288601	106

英語LLII	甲斐 捷子	288701	107
英語LLIII	甲斐 捷子	289301	107
英語LLIII	白鳥 義博	289401	107
英語LLIII	久保 ひさ子	289501	107
ドイツ語外国書講読	野島 利彰	285202	108
時事ドイツ語	野島 利彰	286002	108
上級ドイツ語	松岡 晋	286902	108
ドイツ語コミュニケーションI	小林 ゲアリン デ	288001	109
ドイツ語コミュニケーションII	小林 ゲアリン デ	288801	109
ドイツ語IA (選)	松岡 晋	289601	109
ドイツ語IB (選)	井村 行子	290201	110
ドイツ語II (選)	井村 行子	290801	110
フランス語外国書講読	東 辰之介	285302	110
時事フランス語	桑田 禮彰	286102	110
上級フランス語	小玉 齊夫	287002	111
フランス語コミュニケーションI	ラリア・三倉、 M.	288101	111
フランス語コミュニケーションII	ラリア・三倉、 M.	288901	111
フランス語IA (選)	出口 雅敏	289701	112
フランス語IA (選)	東 辰之介	289711	112
フランス語IB (選)	菅原 猛	290301	112
フランス語II (選)	桑田 禮彰	290901	112
中国語外国書講読	佐藤 普美子	285402	113
時事中国語	塩旗 伸一郎	286202	113
上級中国語	児島 弘一郎	287102	113
中国語コミュニケーションI	陳 洲拳	288201	113
中国語コミュニケーションII	小川 隆	289001	114
中国語IA (選)	吉田 建一郎	289801	114
中国語IA (選)	岩崎 皇	289811	114
中国語IB (選)	蘭 明	290401	114
中国語II (選)	三田村 圭子	291001	114
スペイン語外国書講読	齋藤 明美	285502	115
時事スペイン語	齋藤 明美	286302	115
上級スペイン語	上野 勝広	287202	115
スペイン語コミュニケーションI	モラーレス ム ニョス, S	288301	116
スペイン語コミュニケーションII	モラーレス ム ニョス, S	289101	116
スペイン語IA (選)	亀山 晃一	289901	116
スペイン語IB (選)	齋藤 明美	290501	117
スペイン語II (選)	佐藤 麻里乃	291101	117
ロシア語外国書講読	廣田 英靖	285602	118
時事ロシア語	木村 英明	286402	118
上級ロシア語	クロチコフ、Y.	287302	118
ロシア語コミュニケーションI	安徳 ニーナ	288401	119
ロシア語コミュニケーションII	安徳 ニーナ	289201	119
ロシア語IA (選)	クロチコフ、Y.	290001	119
ロシア語IB (選)	木村 英明	290601	120

ロシア語II (選)	クロチコフ、Y.	291201	120
朝鮮語IA (選)	宋 美玲	290101	120
朝鮮語IB (選)	宋 美玲	290701	121
朝鮮語II (選)	宋 美玲	291211	121

## 4. 保健体育科目

科目名	担当者名	履修コード	ページ
健康・スポーツ実習（室内球技）	岩本 哲也	195701	125
健康・スポーツ実習（室内球技）	岩本 哲也	195801	125
健康・スポーツ実習（ダブルダッチ）	末次 美樹	195701	125
健康・スポーツ実習（ソフトボール）	山口 良博	195701	126
健康・スポーツ実習（卓球）	佐藤 政之	195701	126
健康・スポーツ実習（ハンドボール）	村松 誠	195701	127
健康・スポーツ実習（ハンドボール）	村松 誠	195801	127
健康・スポーツ実習（ソフトボール）	森本 葵	195801	127
健康・スポーツ実習（テニス）	田中 佳孝	195801	128
健康・スポーツ実習（卓球）	山口 良博	195801	128
健康・スポーツ実習〔再クラス〕（室内球技）	三幣 晴三	195901	129
健康・スポーツ実習〔再クラス〕（室内球技）	三幣 晴三	196001	129
健康・スポーツ実習〔再クラス〕（室内球技）	三幣 晴三	196101	129
健康・スポーツ実習〔再クラス〕（室内球技）	三幣 晴三	196201	129
健康・スポーツ実習〔再クラス〕（室内球技）	村松 誠	196301	130
健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（ソフトボール）	高橋 俊介	196402	131
健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（トレーニング&太極拳）	光永 吉輝	196402	132
健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（室内球技）	山口 良博	196402	133
健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（卓球）	秋田 浩一	196402	134
健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（室内球技）	村松 誠	196402	135
健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（太極拳）	大石 武士	196402	136
健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（バドミントン）	牧野 茂	196402	137
健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（卓球）	鈴木 淳平	196402	138



## Ⅱ. 専門教育科目

科目名	担当者名	履修コード	ページ
Oral Communication I	モエ、R. A.	400101	141
Oral Communication I	モエ、R. A.	400201	141
Oral Communication I	ハードグループ、 B.	400301	141
Oral Communication I	ハードグループ、 B.	400401	141
Oral Communication I	オーラ、B.	400501	141
Oral Communication I	オーラ、B.	400601	141
Oral Communication I	オーラ、B.	400701	141
Oral Communication I	トランブリー、 J.	400801	141
Oral Communication I	トランブリー、 J.	400901	141
Oral Communication I	トランブリー、 J.	401001	141
Oral Communication I	トランブリー、 J.	401101	141
Oral Communication I	ハードグループ、 B.	401201	141
Oral Communication I	ローズ、S.	401211	141
Oral Communication I	ローズ、S.	401221	141
Oral Communication I	ローズ、S.	401231	141
Oral Communication I	ローズ、S.	401241	141
Oral Communication II	モエ、R. A.	401301	142
Oral Communication II	モエ、R. A.	401401	142
Oral Communication II	ハードグループ、 B.	401501	142
Oral Communication II	ハードグループ、 B.	401601	142
Oral Communication II	オーラ、B.	401701	142
Oral Communication II	オーラ、B.	401801	142
Oral Communication II	オーラ、B.	401901	142
Oral Communication II	トランブリー、 J.	402001	142
Oral Communication II	トランブリー、 J.	402101	142
Oral Communication II	トランブリー、 J.	402201	142
Oral Communication II	トランブリー、 J.	402301	142
Oral Communication II	ハードグループ、 B.	402401	142
Oral Communication II	ローズ、S.	402411	142
Oral Communication II	ローズ、S.	402421	142
Oral Communication II	ローズ、S.	402431	142

Oral Communication II	ローズ、S.	402441	142
Critical Reading	フアーロー、D.	402501	143
Critical Reading	アシュウェル、 T.	402601	143
Critical Reading	フアーロー、D.	402801	143
Critical Reading	ローズ、S.	402901	143
Critical Reading	ワイリー、A. D.	403001	143
Critical Reading	ブラック、A.	403101	143
Critical Reading	レオーネ、J. V.	403201	143
Critical Reading	ギャリソン、E.	403301	143
Critical Reading	オーラ、B.	403401	143
Critical Reading	オーラ、B.	403501	143
Critical Reading	レオーネ、J. V.	403601	143
Critical Reading	フアーロー、D.	403611	143
Critical Reading	ワイリー、A. D.	403631	143
Critical Reading	アシュウェル、 T.	403641	143
Critical Reading	ブラック、A.	403651	143
Critical Reading	フアーロー、D.	403661	143
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、J. G.	403701	144
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、E.	403801	144
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、J. G.	403901	144
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、E.	404001	144
Listening Skills & Strategies	ランドルフ、M.	404101	144
Listening Skills & Strategies	ランドルフ、M.	404201	144
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、J. G.	404301	144
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、E.	404401	144
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、J. G.	404501	144
Listening Skills & Strategies	ギャリソン、E.	404601	144
Listening Skills & Strategies	ランドルフ、M.	404701	144
Listening Skills & Strategies	ランドルフ、M.	404801	144
Listening Skills & Strategies	ブラック、A.	404821	144
Listening Skills & Strategies	ブラック、A.	404831	144
Listening Skills & Strategies	レオーネ、J. V.	404841	144
Listening Skills & Strategies	レオーネ、J. V.	404851	144
Introduction to Writing	フアーロー、D.	404901	145
Introduction to Writing	アシュウェル、 T.	405001	145
Introduction to Writing	フアーロー、D.	405101	145
Introduction to Writing	ローズ、S.	405201	145

Introduction to Writing	オーラ、B.	405301	145
Introduction to Writing	オーラ、B.	405401	145
Introduction to Writing	ブラック、A.	405501	145
Introduction to Writing	レオーネ、J. V.	405601	145
Introduction to Writing	フアーロー、D.	405701	145
Introduction to Writing	ギャリソン、E.	405801	145
Introduction to Writing	ブラック、A.	405901	145
Introduction to Writing	レオーネ、J. V.	406001	145
Introduction to Writing	フアーロ、D.	406011	145
Introduction to Writing	ワイリー、A. D.	406031	145
Introduction to Writing	アシュウェル、 T.	406041	145
Introduction to Writing	ワイリー、A. D.	406051	145
グローバルメディアスタディーズ概論	齋藤 信男 ・石橋 直樹 ・各務 洋子 ・金山 智子 ・川崎 賢一 ・絹川 真哉 ・クボタ、L. ・高 媛 ・芝崎 厚士 ・白水 繁彦 ・手塚 義治 ・苗村 憲司 ・西岡 洋子 ・福家 秀紀 ・山口 浩 ・吉田 尚史 ・リンスキー、 M	406101	146
グローバルメディア概論	川崎 賢一	406501	147
メディアリテラシー	金山 智子	406701	147
メディアリテラシー	金山 智子	406801	147
グローバル経営論I	各務 洋子	406901	148
情報リテラシー	吉田 尚史	407101	149
情報リテラシー	苗村 憲司	407201	149
情報リテラシー	吉田 尚史	407301	149
情報リテラシー	齋藤 信男	407401	149
情報リテラシー	廣瀬 毅士	407501	149
情報リテラシー	石橋 直樹	407601	149
情報リテラシー	南 政樹	407701	149
情報リテラシー	石橋 直樹	407801	149
情報リテラシー実習	吉田 尚史	407901	150
情報リテラシー実習	苗村 憲司	408001	150

情報リテラシー実習	吉田 尚史	408101	150
情報リテラシー実習	齋藤 信男	408201	150
情報リテラシー実習	廣瀬 毅士	408301	150
情報リテラシー実習	石橋 直樹	408401	150
情報リテラシー実習	南 政樹	408501	150
情報リテラシー実習	石橋 直樹	408601	150
Public Speaking	スメザム、M.	408701	151
Public Speaking	モハメッド、G.	408801	151
Public Speaking	バーンハート、 J. L.	408901	151
Public Speaking	ランドルフ、M.	409001	151
Public Speaking	モハメッド、G.	409101	151
Public Speaking	バーンハート、 J. L.	409201	151
Public Speaking	スメザム、M.	409301	151
Public Speaking	モハメッド、G.	409401	151
Public Speaking	ダーリング、M.	409501	151
Public Speaking	タンドン、S.	409601	151
Public Speaking	ワイリー、A. D.	409701	151
Public Speaking	ダーリング、M.	409801	151
Public Speaking	グレコ、M. A.	409811	151
Public Speaking	ゴールド、F.	409821	151
Public Speaking	ランドルフ、M.	409831	151
Public Speaking	タンドン、S.	409841	151
Public Speaking	グレコ、M. A.	409851	151
Public Speaking	ワイリー、A. D.	409861	151
Academic Writing	トランブリー、 J.	409901	152
Academic Writing	ワイリー、A. D.	410001	152
Academic Writing	タンドン、S.	410101	152
Academic Writing	ワイリー、A. D.	410201	152
Academic Writing	ダーリング、M.	410301	152
Academic Writing	ブラック、A.	410401	152
Academic Writing	ゴールド、F.	410501	152
Academic Writing	トランブリー、 J.	410601	152
Academic Writing	ワイリー、A. D.	410701	152
Academic Writing	ワイリー、A. D.	410801	152
Academic Writing	ダーリング、M.	410901	152
Academic Writing	ブラック、A.	411001	152
Academic Writing	ゴールド、F.	411011	152
Academic Writing	グレコ、M. A.	411021	152
Academic Writing	グレコ、M. A.	411031	152

Academic Writing	バーンハート、 J. L.	411041	152
Academic Writing	バーンハート、 J. L.	411051	152
Academic Writing	タンドン、S.	411061	152
Strategic Presentation	スメザム、M.	411101	153
Strategic Presentation	モハメッド、G.	411201	153
Strategic Presentation	バーンハート、 J. L.	411301	153
Strategic Presentation	ランドルフ、M.	411401	153
Strategic Presentation	モハメッド、G.	411501	153
Strategic Presentation	バーンハート、 J. L.	411601	153
Strategic Presentation	スメザム、M.	411611	153
Strategic Presentation	モハメッド、G.	411701	153
Strategic Presentation	ダーリング、M.	411801	153
Strategic Presentation	タンドン、S.	411901	153
Strategic Presentation	ワイリー、A. D.	412001	153
Strategic Presentation	ダーリング、M.	412101	153
Strategic Presentation	グレコ、M. A.	412201	153
Strategic Presentation	ゴールド、F.	412211	153
Strategic Presentation	ランドルフ、M.	412221	153
Strategic Presentation	タンドン、S.	412231	153
Strategic Presentation	グレコ、M. A.	412241	153
Strategic Presentation	ワイリー、A. D.	412251	153
クリエイティブビジネス論	クボタ、L.	415901	154
クリエイティブビジネス論	クボタ、L.	416001	154
コンテンツビジネス論	山口 浩	416101	154
コンテンツビジネス論	クボタ、L.	416201	155
メディアと企業	山口 浩	416301	155
メディアと企業	山口 浩	416401	156
グローバル企業行動論	リンスキー、M	416501	156
世界政治とメディア	五野井 郁夫	416701	157
国際関係とメディア	芝崎 厚士	416801	158
インターネットとメディア	吉田 尚史	417001	159
メディアと情報	齋藤 信男	417201	160
知的財産権と経済	絹川 真哉	417301	160
知的財産権と統計	絹川 真哉	417401	161
グローバル文化論	川崎 賢一	417501	161
メディア文化論	高 媛	417601	162
演習I a	石橋 直樹	418801	162
演習I a	各務 洋子	418301	163
演習I a	金山 智子	418401	164
演習I a	川崎 賢一	417801	164
演習I a	絹川 真哉	418901	165
演習I a	クボタ、L.	417701	165
演習I a	高 媛	419001	165
演習I a	齋藤 信男	417901	166
演習I a	芝崎 厚士	419101	167

演習I a	白水 繁彦	418001	167
演習I a	手塚 義治	418501	168
演習I a	苗村 憲司	418101	168
演習I a	西岡 洋子	418601	169
演習I a	福家 秀紀	418201	169
演習I a	山口 浩	418701	170
演習I a	吉田 尚史	419301	171
演習I a	リンスキー、M	419201	171
演習I b	クボタ、L.	419501	171
演習I b	川崎 賢一	419601	172
演習I b	齋藤 信男	419701	172
演習I b	白水 繁彦	419801	172
演習I b	苗村 憲司	419901	173
演習I b	福家 秀紀	420001	173
演習I b	各務 洋子	420101	174
演習I b	金山 智子	420201	174
演習I b	手塚 義治	420301	175
演習I b	西岡 洋子	420401	175
演習I b	山口 浩	420501	176
演習I b	石橋 直樹	420601	176
演習I b	絹川 真哉	420701	177
演習I b	高 媛	420801	177
演習I b	芝崎 厚士	420901	178
演習I b	リンスキー、M	421001	178
演習I b	吉田 尚史	421101	179
演習II a	石橋 直樹	422301	179
演習II a	各務 洋子	421801	180
演習II a	金山 智子	421901	180
演習II a	川崎 賢一	421301	181
演習II a	絹川 真哉	422401	181
演習II a	クボタ、L.	421201	182
演習II a	高 媛	422501	182
演習II a	齋藤 信男	421401	183
演習II a	芝崎 厚士	422601	184
演習II a	白水 繁彦	421501	184
演習II a	手塚 義治	422001	185
演習II a	苗村 憲司	421601	185
演習II a	西岡 洋子	422101	186
演習II a	福家 秀紀	421701	186
演習II a	山口 浩	422201	187
演習II a	吉田 尚史	422801	188
演習II a	リンスキー、M	422701	188
演習II b	石橋 直樹	424001	188
演習II b	各務 洋子	423501	189
演習II b	金山 智子	423601	189
演習II b	川崎 賢一	423001	190
演習II b	絹川 真哉	424101	190
演習II b	クボタ、L.	422901	190
演習II b	高 媛	424201	191
演習II b	齋藤 信男	423101	191
演習II b	芝崎 厚士	424301	192

演習II b	白水 繁彦	423201	192
演習II b	手塚 義治	423701	193
演習II b	苗村 憲司	423301	193
演習II b	西岡 洋子	423801	193
演習II b	福家 秀紀	423401	194
演習II b	山口 浩	423901	194
演習II b	吉田 尚史	424501	195
演習II b	リンスキー、M	424401	195
メディア・コミュニケーション概論	西岡 洋子	427501	196
メディア政策論	西岡 洋子	427801	197
グローバル経営論II	各務 洋子	427901	198
コンピュータワークショップ	北川 和裕	428001	198
コンピュータワークショップ	苗村 憲司	428101	199
コンピュータワークショップ	苗村 憲司	428201	199
コンピュータワークショップ	石橋 直樹	428301	199
Cross-Cultural Communication Practicum	内山 浩道	428401	200
Cross-Cultural Communication Practicum	内山 浩道	428501	200
Cross-Cultural Communication Practicum	内山 浩道	428801	200
Cross-Cultural Communication Practicum	内山 浩道	428901	200
Media English	レオーネ、J. V.	429201	201
Media English	ハードグレーブ、 B.	429301	201
Media English	ギャリソン、E.	429401	201
Media English	ゴールド、F.	429501	201
Media English	レオーネ、J. V.	429601	201
Media English	ハードグレーブ、 B.	429701	201
Media English	ギャリソン、E.	429801	201
Media English	ゴールド、F.	429901	201
Integrated Media & Technology Readings	ワイリー、A. D.	430001	202
Integrated Media & Technology Readings	ギャリソン、E.	430101	202
Integrated Media & Technology Readings	スメザム、M.	430201	202
Integrated Media & Technology Readings	ブラック、A.	430301	202
Integrated Media & Technology Readings	ワイリー、A. D.	430401	202
Integrated Media & Technology Readings	ギャリソン、E.	430501	202
Integrated Media & Technology Readings	スメザム、M.	430601	202
Integrated Media & Technology Readings	ブラック、A.	430701	202
情報社会論	高 媛	430801	203
イノベーション普及論I	白水 繁彦	430901	203
イノベーション普及論II	白水 繁彦	431001	204
知識創造戦略論	各務 洋子	431101	205
知識経営論	リンスキー、M	431201	205
異文化経営論	リンスキー、M	431301	206
マルチメディアビジネス論	クボタ、L.	431401	206
デジタル融合戦略論	クボタ、L.	431501	207
グローバルビジネス人材マネジメント	リンスキー、M	431601	207
企業会計の実務	伊藤 克容	431701	208

コンテンツファイナンスI	山口 浩	431801	208
コンテンツファイナンスII	山口 浩	431901	209
情報メディア産業論I	福家 秀紀	432001	209
情報メディア産業論II	福家 秀紀	432101	210
ネットワークコミュニケーション論	菅谷 実	432201	211
グローバルメディアガバナンス論	西岡 洋子	432301	212
比較メディア制度論	西岡 洋子	432401	212
都市とメディア	高 媛	432501	212
グローバルアート政策論	川崎 賢一	432601	213
グローバル創造都市論	川崎 賢一	432701	214
グローバル交流論	芝崎 厚士	432801	215
異文化間コミュニケーション論	高 媛	432901	216
グローバルシティズンシップ	金山 智子	433001	216
グローバル英語概論	町田 尚子	433101	217
英語圏文学概論	佐藤 アヤ子	433201	218
NPO/NGOとメディア	金山 智子	433301	218
グローバル市民社会論	芝崎 厚士	433401	219
コンテンツデザイン各論I	金山 智子	433501	220
コンテンツデザイン演習I	金山 智子	433601	221
コンテンツデザイン各論IV	高橋 克三	433701	222
コンテンツデザイン演習IV	高橋 克三	433801	222
実践メディアビジネス講座I	各務 洋子 ・クボタ、L. ・山口 浩 ・リンスキー、 M	433901	223
実践メディアビジネス講座II	川崎 賢一 ・金山 智子 ・高 媛 ・芝崎 厚士 ・白水 繁彦 ・手塚 義治	434001	223
メディアとデータベース	石橋 直樹	434101	224
コンテンツデザイン概論	岡田 智博	434201	224
情報保護と社会	苗村 憲司	434301	225
E-コマース論	大場 みち子	434401	225
複合ドキュメント概論	吉田 尚史	434501	226
教育環境とメディア	齋藤 信男	434601	227
Webコンテンツ	齋藤 信男	434701	228
イスラムと文化	奥田 敦	434711	229
キリスト教文化	豊川 慎	434721	229
韓国の文化と社会I	春木 育美	434731	229
韓国の文化と社会II	春木 育美	434741	230
国際法	山村 恒雄	434751	230
国際協力法	山村 恒雄	434761	230
メディアスタディーズ方法論	手塚 義治	434801	231
メディア表現概論	手塚 義治	434901	231
映像コンテンツ論	手塚 義治	435001	231
放送メディア論	増淵 敏之	435101	232
音楽メディア論	増淵 敏之	435201	232



メディア史	高 媛	435301	232
メディアイベント論	高 媛	435401	233
国際移動とメディアI	白水 繁彦	435501	233
国際移動とメディアII	白水 繁彦	435601	234
統合リスクマネジメント論	山口 浩	435701	234
ネットワーク経済論	福家 秀紀	435801	235
グローバルネットワーク論	福家 秀紀	435901	235
著作権の経済分析	絹川 真哉	436001	236
特許権の経済分析	絹川 真哉	436101	236
知的財産法/個人情報保護法	新保 史生	436201	236
メディア法	新保 史生	436301	237
コンテンツデザイン各論II	手塚 義治	436401	237
コンテンツデザイン演習II	手塚 義治	436501	237
コンテンツデザイン各論III	石橋 直樹	436601	238
コンテンツデザイン演習III	石橋 直樹	436701	238
コンテンツデザイン各論III	吉田 尚史	436711	239
コンテンツデザイン演習III	吉田 尚史	436721	240
実践メディアビジネス講座III	苗村 憲司 ・石橋 直樹 ・齋藤 信男 ・吉田 尚史	436801	241
実践メディアビジネス講座IV	各務 洋子 ・西岡 洋子 ・福家 秀紀	436901	242
テクノロジーマネジメント	石橋 直樹	437001	242
メディアと知識論	齋藤 信男	437101	243
ネットワーク進化論	北川 和裕	437201	243
メディアとセキュリティ	苗村 憲司	437301	244
国際標準化論	苗村 憲司	437401	244
海外演習実践講座I	内山 浩道 ・アシュウエル、 T. ・各務 洋子	437501	245
海外演習実践講座II	内山 浩道 ・川崎 賢一 ・ギャリソン、 J. G.	437601	245
海外演習実践講座III	内山 浩道 ・町田 尚子 ・モエ、 R. A.	437701	245

### Ⅲ. 他学部履修科目

〔フレックスA時間帯（月～金の1～5時限、土の1～4時限）に開講される他学部履修科目〕

科目名	担当者名	履修コード	ページ
インド仏教文化史	金沢 篤	003801	249
中国仏教文化史	永井 政之	003901	249
日本仏教文化史	袴谷 憲昭	004001	250
中国哲学史	前川 亨	007401	250
演劇概論	森井 直子	016601	251
西洋思想史	河谷 淳	016701	251
比較文学	木村 朗子	017001	251
日本民俗学	谷口 貢	017101	252
イギリス文学特講I	石原 孝哉	025601	252
イギリス文学特講II	高野 正夫	025701	252
イギリス文学特講III	岡崎 寿一郎	025801	253
イギリス文学特講IV	川崎 明子	025901	254
イギリス文学特講V	富士川 義之	026001	255
イギリス文学特講VI	富士川 義之	026101	255
演劇特講（イギリス・アメリカ）	落合 和昭	026201	256
アメリカ文学特講I	東 雄一郎	026401	257
文化地理学	小田 匡保	033101	257
人口地理学	山内 昌和	035101	258
現代地理学特論	平井 幸弘	041001	258
西洋文化史	西浦 麻美子	046911	259
日本史特講VII〔近代〕	熊本 史雄	048401	260
東洋史特講III〔近世史〕	杉山 清彦	049711	261
考古学特講III	設楽 博己	052911	261
哲学史	山口 祐弘	053201	261
産業・職業社会学	山田 信行	059701	262
社会福祉発達史	堀 千鶴子	063901	262
日本経済論	小林 正人	091101	263
財務会計論	寺坪 修	092401	263
日本経済史	渡邊 恵一	093301	264
中国経済論	小杉 修二	094701	265
アメリカ経済論	瀬戸岡 紘	094801	266
EU統合論	工藤 芽衣	095001	266
現代西欧経済論	工藤 芽衣	095101	267
ロシア・東欧経済論	休講	095201	
会計監査論	森田 佳宏	097001	267
貿易論	古沢 紘造	097601	268
経済法	若林 亜理砂	119701	268
国際政治学	小堀 訓男	126601	269
ヨーロッパ政治史	土井 美徳	126701	269
比較政治学	三竹 直哉	128201	270
現代国家論	大塚 桂	133801	271
経営労務論	鹿嶋 秀晃	140001	271
経営分析論	片桐 伸夫	141301	272
アメリカ経営学	宮城 徹	141201	273
経営学史	中川 淳平	139501	274
経営史	前田 和利	139601	274
国際経済論	永田 智則	141701	275

リスクマネジメント論	石名坂 邦明	142351	275
消費者行動論	菅野 佐織	143231	276
マーケティング・コミュニケーション論	中野 香織	143241	276
マーケティング・チャネル論	青木 茂樹	143251	277

〔フレックスB時間帯（月～金の6、7時限、土の3～7時間）に開講される他学部履修科目〕

科目名	担当者名	履修コード	ページ
国際経済論	休講	308901	/
マーケティング	休講	311101	/
中小企業論	休講	311311	/
中小企業政策論	休講	311401	/
人口論	休講	311701	/
国際紛争解決法	王 志安	326201	278
経営管理論 a	休講	330111	/
経営管理論 b	休講	330121	/
会計監査論	阿部 一人	331801	279
国際会計論	山口 純平	334001	280

## IV. 「日本語」・「日本事情」科目

(対象：外国人留学生・帰国生)

科目名	担当者名	履修コード	ページ
日本語入門I a	歌代 礼子	230511	283
日本語入門I b	歌代 礼子	230521	283
日本語入門II a	歌代 礼子	230531	284
日本語入門II b	歌代 礼子	230541	284
日本語I a	佐野 典子	230611	284
日本語I b	佐野 典子	230621	285
日本語I a	多田羅 哲子	230631	285
日本語I b	多田羅 哲子	230641	285
日本語II a	佐野 典子	230711	285
日本語II b	佐野 典子	230811	285
日本語II a	多田羅 哲子	230721	286
日本語II b	多田羅 哲子	230821	286
日本語III a	多田羅 哲子	230911	286
日本語III b	多田羅 哲子	231011	286
日本語III a	湯村 礼子	230921	287
日本語III b	湯村 礼子	231021	287
日本語IV a	歌代 礼子	231111	287
日本語IV b	歌代 礼子	231211	288
日本語IV a	湯村 礼子	231121	288
日本語IV b	湯村 礼子	231221	288
日本語V a	石川 守	231311	289
日本語V b	石川 守	231411	289
日本語V a	多田羅 哲子	231321	289
日本語V b	多田羅 哲子	231421	289
日本語VI a	石川 守	231511	290
日本語VI b	石川 守	231611	290
日本語VI a	多田羅 哲子	231521	290
日本語VI b	多田羅 哲子	231621	290
日本事情I〔地理〕	須山 聡	231701	291
日本事情II〔自然〕	清水 善和	231801	291
日本事情III〔歴史〕	井上 桂子	231901	291
日本事情IV〔思想〕	佐藤 美奈子	232001	292
日本事情V〔社会〕	李 妍炎	232101	292
日本事情VI〔政治・法律〕	三竹 直哉	232201	293
日本事情VII〔文学〕	坂口 博規	232301	293
日本事情VIII〔文化・芸術〕	佐藤 美奈子	232401	294
日本事情IX〔経済〕	渡邊 恵一	232501	294
日本事情X〔経営〕	高井 徹雄	232601	295

# I 全 学 共 通 科 目

# 1. 宗 教 教 育 科 目

履修コード	205301
科目名	仏教と人間
担当者名	<small>つのだ たいりゆう</small> 角田 泰隆

**講義のねらい** 宗教とは何か、そして仏教とは何かについて、その基本的事柄について、できるだけわかりやすく講義したい。特に、葬式仏教と批判され誤解されている仏教を、正しく認識してもらいたいと思う。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期は、まず宗教とは何か(1～3)について概説し、その後、仏教の歴史(4～5)及びその基本思想(6～15)について解説する。後期は、仏教と人間(16～18)・社会(19～20)・生活(21～22)・環境(23～24)・人権(25～26)・教育等(27～30)さまざまな問題を取り上げて講義する。

**履修上の留意点** 教科書は用いないので、筆記用具を整え、講義の内容をしっかりと記録して頂きたい。(定期試験には自筆ノートも持ち込みを許可する)

**成績評価の方法** 定期試験の成績によって評価する。

**教科書** なし  
**参考書等** 授業において紹介する。

履修コード	205401
科目名	仏教と人間
担当者名	<small>くまもと えいじん</small> 熊本 英人

**講義のねらい** 「仏教と人間」は、仏教や禅の教えについての理解を深め宗教に対する正しい認識を身につけることを目標とする全学部共通の必修科目である。日本人は、なぜ宗教に無関心なのか。実は、意識していないだけで、日常生活の中で宗教的要素に囲まれて生きている。仏教を学ぶことによって、自分にとって宗教とは何かをあらためて考えてもらいたい。

**講義の内容・授業スケジュール** 仏教に限らず、宗教は、社会の変容と相互関係をもって展開してきた。インドにおける仏教の開祖ブッダの伝記や、仏教の歴史や人物などを取り上げながら、現代社会につながる話題として解説していく。

- 1～3 宗教を学ぶとは
- 4～12 ブッダの生涯と仏教の歴史
- 13～21 禅の歴史とその特質
- 22～30 日本仏教の歴史とその特質

**履修上の留意点** 出席と受講態度を重視する。

**成績評価の方法** 小レポート(随時)と年度末の筆記試験。  
**教科書** テキストおよび参考資料は、必要に応じてコピーで配布する。  
**参考書等** 講義の中で随時紹介する。

履修コード	205501
科目名	仏教と人間
担当者名	<small>はかまや のりあき</small> 袴谷 憲昭

講義のねらい 国や政府が資本を投じて創設した assetsなどを民間に譲渡することを privatization という。一方、capitalism のもたらす歪みを軽減するために設けられた regulation を解除することを deregulation という。しかるに privatization も deregulation も自ら責任を取りうる individuals の確立した社会にして初めて可能となるが、あたかもそれが既に実現しているかのように、経団連などを中心に進められたのが「自己責任」の強調による「終身雇用」の解体である。privatization と deregulation で自らの赤字軽減を企及とする little government は、その結果もたらされる社会不安を力によって押えるため、国内には警察権の強化を、国外には自衛隊の軍隊化を実現しようとしている。U.S.A.を中心に進められているこのような global な政策を globalism という。これは1980年代以降のPCの普及と共にあったが、本学部は、そのような globalism の一環を media を基本に学問的に確立していこうとする学部のはずである。その学部設立の idea は Buddhism に置かれている。その Buddhism を Buddhology の成果に基づいて講義する。

講義の内容・  
授業スケジュール

(1) 自己と他者、(2) 信仰と言葉、(3) 北西インド、(4) マガダの地、(5) 北伝の地域、(6) 南伝の地域、(7) インドの古代、(8) 開祖の伝記、(9) 三蔵の成立、(10) 発展の時代、(11) 宗教の定義、(12) 業と輪廻と、(13) 解脱と成仏、(14) 苦行と布施、(15) 無我と五蘊、(16) 縁起の思想、(17) 四諦の教義、(18) 有為と無為、(19) 一音演説法、(20) 小乗と大乘、(21) 空性と唯識、(22) 顕教と密教 以上を講義のかたわら、下記の英文を講読する。

履修上の留意点

Russell の *Political Ideals* 中の第5章 “National Independence and Internationalism” をプリントで配布して講読するのでそのコピーは必ず受領されたい。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

学年末の定期試験によって評価する。  
袴谷憲昭著『仏教入門』(大蔵出版)2004年  
袴谷憲昭著『日本仏教文化史』(大蔵出版)2005年

履修コード	205601
科目名	仏教と人間
担当者名	<small>いしい こうせい</small> 石井 公成

講義のねらい 仏教の基本的な教理と歴史、および日本を含めた世界の諸宗教について概観し、仏教の特色と仏教が果たした役割について考えてゆく。

講義の内容・  
授業スケジュール

仏教の誕生について説明したのち、諸国の様々な宗教を概観し、その後で再度、仏教に戻って仏教の特色について検討してゆく。禅宗については、文学や芸能との関係についても注意する。

履修上の留意点

講義形式ではあるものの、毎回プリントを配布し、学生諸君に少しづつ読んでもらうほか、どんどん質問して答えてもらうため、積極的に参加する意欲が必要である。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

年に7~8回行なう小テストによる。熱心に参加している者については評価する。  
プリントを配布する。  
一覧のコピーを配布する。



履修コード	205701
科目名	仏教と人間〔再クラス〕
担当者名	吉津 宜英

講義のねらい

まず最初にこの科目名は「仏教と人間」となっていますが、私は「宗教と人間」というぐらいに広く考えてゆきたいと思います。仏教を含めた宗教に対して皆さんはどんなイメージを抱き、どんな意見を持っているのでしょうか。すでに特定の宗教を信じている人もありましょう。これまで宗教に無関心な人や、宗教批判者もありましょう。私は宗教に対して肯定的な人にも、否定的な方にもまず宗教や仏教への正しい知識を持ってもらいたいと思います。宗教は政治、経済、科学技術、教育、芸術などと並んで人間の文化の一翼を担っています。太古から様々な宗教が存在しています。ある宗教は一神を信仰しますが、また多くの神々を信仰したり、仏教のように仏を重んじるものもあります。なぜ人間は宗教を求めるのでしょうか。この講義ではまず宗教の多様性の確認から始めます。そして宗教は社会の中でどのような機能を果たしているのかを考えます。また宗教をめぐる様々な問題点を取り上げます。宗教は人々の幸福を成就する目的を持っているのに、民族紛争などと絡んで宗教戦争が起き、多くの不幸な人々が出てしまう問題もあります。宗教は個人が何かを信じていれば他に迷惑をかけないですむと思うのですが、宗教集団が成立すると公共の福祉に反する社会的問題も引き起こします。講義全体としては仏教を含めた宗教の功罪両面を考察してゆくことをねらいとします。

講義の内容・授業スケジュール

前期には宗教の様々な形態について概説します。世界の諸宗教の中で仏教の特色を明らかにします。後期は仏教を含めた宗教と人間社会や世界の様々な問題を取り上げます。新霊性運動 (new spirituality movement) という新しい宗教運動にも注目します。また靖国神社問題を始めとする政教分離の課題、宗教原理主義の問題、人権と宗教の関連性、脳死の是非、クローン人間の問題、遺伝子工学と宗教倫理などのテーマを順次取り上げていきます。毎回、あるタイトルを掲げて講義を行います。

履修上の留意点

この科目専用のノートを用意して下さい。講義を筆記すると同時に自分の意見や疑問を書き留め、年間を通して受講と思索の軌跡が残るようにしてもらいたいものです。

成績評価の方法

毎回出席を取ります。年間2、3回課題の提出を依頼します。最後に期末試験を行います。それらを総合して成績評価を行います。

教科書  
参考書  
その他

特に使用しません。できるだけ参考資料としてプリントを配布します  
講義の中で随時参考図書を紹介いたします。  
私が講義中であっても挙手して質問や意見を述べて下さい。私語は厳禁です。あまり目立つ時は退場を要請します。講義開始時間から30分過ぎていたら教場に入らないで下さい。

履修コード	205801
科目名	仏教と人間〔再クラス〕
担当者名	下室 覚道

講義のねらい

日本は仏教国といわれるが、どれほどの人が仏教について理解しているであろうか。本講義では、仏教の開祖である釈尊の生涯や基本的な教え、仏教各地への伝播状況などについて理解し、宗教の存在意義や宗教と人間との関わりについて考えていきたい。また、仏教と現代社会のさまざまな問題についても考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

教科書にそって、釈尊の生涯とその教えを見ていく。次に釈尊亡き後の仏教の展開をたどり、各地域への仏教の伝播状況、その特色などについて学んでいく。特に伝播過程における日本曹洞宗の開祖である道元禪師については細かく取り上げていきたい。また、仏教と現代社会の問題においては、臓器移植や人権の問題に関して随時紹介していきたい。

履修上の留意点

仏教の基本的な知識を習得し、生きる指針にして欲しい。  
授業の出席状況、年度末試験により評価する。

成績評価の方法

松尾剛次『仏教入門』(岩波ジュニア新書)  
尚、プリントを随時配布する。

教科書

水野弘元『仏教要語の基礎知識』(春秋社)

参考書等

奈良康明『ブッダ 知れば知るほど』(実業之日本社) など

履修コード	205901
科目名	仏教と人間〔再クラス〕
担当者名	大谷 哲夫

**講義の内容・授業スケジュール** 釈尊の生涯とその教え。インド・中国・日本における仏教とくに禅仏教の流れ。特に本学の建学の理念の母胎を形作った禅の考え方を曹洞禅を中心にして講義を進める。

**履修上の留意点** 日本文化の基礎の一面を担った仏教を理解し、現代における日本人としての自分自身の存在を常に意識してもらいたい。

**成績評価の方法** 出席状況とレポートを加味して評価する。

**教科書** 特になし。必要な資料は随時配布する。

**参考書等** 必要に応じて適宜指示する。

履修コード	206001
科目名	仏教と人間〔再クラス〕
担当者名	晴山 俊英

**講義のねらい** 仏教と一口に言っても、場所により宗派により様々な相違があり、場合によっては同じ仏教でも180度違う主張をする。これは人間が人間として生きることの多様性を示していることに他なるまい。仏教を信じる信じない、そして何が「正しい仏教」なのかは、最終的には個人の信念に依ろうが、一社会人としてその予備知識を養っておきたい。その意味も込めて、本講義のねらいは各国・各宗派の特徴とその背景を、大きな仏教史の中で概観して貰うことにある。

**講義の内容・授業スケジュール** 釈尊の生涯とその教えに始まり、インド・中国・日本と仏教の発展の歴史をキーとなる人物を示しながら概観する。

- 第1回～第3回：授業と評価の概要を説明・釈尊の生涯
- 第4回～第6回：釈尊の教えとその基礎解釈 ー四諦八正道から六波羅蜜までー
- 第7回～第12回：アビダルマ仏教 ー五位七十五法の仏教用語・仏教的宇宙観ー
- 第13回～第16回：大乘仏教の成立 ー大乘仏教の特質と思想、大乘經典ー
- 第17回～第24回：中国仏教 ー伝来と発展・訳経僧と中国僧・宗派の成立ー
- 第25回～最終回：日本仏教 ー伝来と発展・南都仏教・最澄と空海・鎌倉時代ー

**履修上の留意点** 上記、回数はいくまで目安なので、その時の進み具合で多少の変動があることを理解して下さい。仏教が何らかの展開する際には、必ず人間の何らかの要請が介在していると思われる。本講義を通じて、そういった人間の要請というものを考察されたい。

**成績評価の方法** 期末試験に出席の状況（不定期に出欠をとります）を加味して評価する。

**教科書** 特になし。板書が中心となる。

**参考書等** 授業において必要があれば適宜指示する。

**その他** 試験は自筆ノートのみ持ち込み可で、試験範囲を限定することはしない。従って欠席した分については自己責任で対処すること。

履修コード	206101
科目名	自然と宗教
担当者名	小川 順敬

**講義のねらい** 人間は古来から、自然のいとなみの背後に説明のつかない大きな力を感じ、自然の事物や、自然現象を崇拜の対象としてきたと言われます。それでは、人間は自然の背後にどのような“説明のつかない力”をみたのでしょうか。あるいは、自然を人間とのつながりでどのようにとらえ、考えてきたのでしょうか。

この講義では、宗教と自然との関わりという角度から、これらの問題を考えてゆくことにしたいと思います。

**講義の内容・授業スケジュール** まず最初に、宗教現象を考えていくための宗教学、宗教人類学のいくつかの基本的な概念を概説、紹介します。その後、山と宗教、海と宗教、森と宗教、また仏教と自然、キリスト教と自然などのテーマを立て、具体的事例をあげながら人間と自然との宗教的な関わりを諸相を紹介していくことにしたいと考えています。また、環境問題に対する仏教やキリスト教、新宗教、あるいは伝統宗教からの発言や取り組みを紹介し、その考え方や今日的評価・議論を概観、紹介する予定です。

**成績評価の方法** 評価は原則として、年数回の「小試験」（出席点として処理します）および夏期レポート（前期試験に相当します）、年度末の筆記試験により行います。成績評価の具体的な方法、レポートの課題、年度末試験の方針、出席点評価等は最初の授業で詳しく説明します。

**教科書** 原則として教科書は使いません。

**参考書等** 講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。

履修コード	206201
科目名	社会と宗教
担当者名	矢野 秀武 <small>やの ひでたけ</small>

講義のねらい

宗教は、心の次元の事柄であり、深い精神性に関わり、また言い尽くしがたい個々人の思いや人生と密接なつながりをもっている。しかし、それらの信仰心や宗教活動は、特定の時代や地域、あるいは性差による違いなど、社会的・文化的な影響を帯びているものでもある。さらに、宗教思想や宗教活動が、社会に何らかの影響を及ぼすこともある。本講義では、このような宗教と社会との様々な関わりについて学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

前期はおもに、宗教集団の形成や変容の過程、カルト問題、現代文化における儀礼・祭礼や精霊信仰などをとりあげ、宗教社会学と宗教学人類学に関わる基礎知識を学ぶ。後期は、戦争やテロリズムなどの社会的暴力、ナショナリズム、民主主義、法律、教育、福祉活動といったテーマと宗教の接点をとらえ、宗教が私的な信仰心の側面だけではなく、社会一般の制度と関わる公的側面を持っている点について解説する。

成績評価の方法

レポートと年度末の筆記試験を総合して評価を行なう。レポートは夏期休暇前に課題を提示する。レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業で述べる。

参考書等

授業時に随時紹介する。

履修コード	206301
科目名	文化と宗教
担当者名	佐藤 憲昭 <small>さとう のりあき</small>

講義のねらい

私たちは自分の好みに合せて、例えば、服装の色を選択しているが、冠婚葬祭などにおいては当該社会に伝承され、社会で期待されている色彩の服装を身につけるのがふつうである。色彩の問題は服装ばかりではなく、多方面に及んでいる。しかも色彩の象徴的意味は、民族が異なると正反対の意味をもつなど、決して人類に普遍的なものではない。この講座では、内外の事例を紹介しながら、カラー・シンボリズムについて、その文化的背景に焦点を合せて考察し、「文化と宗教」の問題に接近してみたい。

講義の内容・授業スケジュール

次のテーマのもとに具体的に考察する。  
 1. 人類学の視点と方法 (1～3)、2. 文化の概念 (4～6)、3. 文化の特質と機能 (7～9)、4. 文化と社会構造 (10～12)、5. 文化人類学・民俗学における色彩の研究小史 (13～15)、6. 通儀礼におけるカラー・シンボリズムとその周辺の諸問題 (16～18)、7. 仏教儀礼におけるカラー・シンボリズムとその周辺の諸問題 (19～24)、8. 王権のカラー・シンボリズム (25～26)、9. 宗教的職能者のカラー・シンボリズム (27～29)、10. 総括 (30)。

履修上の留意点

ときどき出席をとるので、欠席をする場合 (または出席をした場合) には、欠席届 (形式は任意) を提出することが望ましい。

成績評価の方法

学年末の筆記試験で評価する。合格の基準は、講義内容を踏まえて、みずからの言葉でどのように論じているかという点にある。不合格の場合には、出席点とレポート点 (4年生のみ該当) を加算して最終評価を行う。4年生のみの提出レポートは、次の通りである。【課題】教科書を読み、その感想文を作成する。【字数】2000字。【提出先と時期】12月までの授業時に随時受けつける。【その他】ワープロ作成可。ただし、授業時以外は受理しない。4年生は必ず提出のこと。なお、追試験は実施する。

教科書等

佐々木宏幹『神と仏と日本人—宗教学人類学の構想—』(吉川弘文館)  
 授業中に適宜紹介する。

履修コード	206401・206501
科目名	坐禅
担当者名	佐藤 秀孝・池上 光洋

講義のねらい

駒澤大学では建学の理念に基づき宗教教育科目が設けられ、その中に「坐禅」の授業があります。本授業は、仏教学部だけではなく広く一般学生に門戸を開き「坐禅」の世界を知ってもらうことを、その目的としています。他大学では経験できない、駒澤ならではの授業が「坐禅」といえるでしょう。坐禅に触れることによって、本学の良さを味わい、学生生活の貴重な体験としてもらいたいと思ひ、この授業を進めるものです。

今、私たちの回りでは、さまざまな宗教が声高に叫んでいます。反面、多くの人は何を拠り所にしてよいか不安感が募っています。基本的な人生観を学生時代にこそ考え培いたいものです。

坐禅は、決して特殊な精神状態を作るものではありません。姿勢を整え、静けさの中で自己を見つめるのです。初めはぎこちないかもしれませんが、何回か経験するうちに静けさに落ちつきを感じることでしょう。

この授業では、初心者にも無理なく坐禅に親しめることに指導のポイントを置き、経験を積む中で、坐禅の静寂な時間に落ちつきと安らぎが感ぜられるよう実習を進めたいと思っています。併せて、坐禅の世界をより深く体得できるように、禅の歴史とその思想にも触れる時間を設けます。

半期単位ですので、全体で13回ほどの開講数が予定されます。その流れを以下のように進めます。

1～3 「坐禅の作法指導」(坐禅堂に即して基本的知識と、坐るに至るまでの作法を修得)

4～13 「坐禅実習」(1回の坐禅実習の時間は、初心者にも無理のない程度です)

(道元禅師の書かれた坐禅の指導書ともいえる『正法眼蔵-坐禅儀』を通して坐禅の本来の姿を学びます)

講義の内容・  
授業スケジュール

履修上の留意点

実習をその主なる内容としますので出席を重視します。特に、最初の3回は作法の説明がありますので必ず出席してください。また、まじめに授業を受けられることを要望します。事前登録科目ですので、他の受講希望者の迷惑となりますから、カラ登録や受講途中放棄はやめてください。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

出席数、出席態度、レポートを総合して成績評価とします。

適宜、プリントにて配布します。

『坐禅-講本-』(更生社) 2,226円

## 2. 教 養 教 育 科 目

履修コード	206601
科目名	文学〔日本文学「古典」〕
担当者名	塩崎 真理子 <small>しおざき まりこ</small>

**講義のねらい** 『大和物語』を、周辺文学と比較しながら読む。『大和物語』は和歌説話集の性質をもつため、話型や伝説が散見する。話型と伝説の二点をテーマとして『伊勢物語』や『今昔物語集』、『源氏物語』や他の文学作品と比較しながら講義を進めていく。また、本作品で見られた話型が現代の作品にどのように影響を与えているかも、あわせて考えてもらいたい。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- 1) ガイダンス
  - 2) 『大和物語』とは
  - 3) 生田川伝説
  - 4) 蘆刈伝説
  - 5) 采女入水譚
  - 6) 立田山伝説
  - 7) 安積山伝説
  - 8) 姨捨山伝説
  - 9) 三輪山神婚説話
  - 10) 二人妻説話
  - 11) 『大和物語』と『源氏物語』

**履修上の留意点** 作品の基礎知識と内容を事前に理解しておくこと。授業時に小レポートを提出してもらうため、問題意識をもって授業にのぞんでほしい。

**成績評価の方法** 出席状況と授業時の小レポート、課題レポートによって評価する。  
**教科書** 授業時に、プリントを配布する。  
**参考書等** 適宜、教場で指示する。

履修コード	206701
科目名	文学〔日本文学「日本のことば」〕
担当者名	相澤 貴之 <small>あいざわ たかゆき</small>

**講義のねらい** 本講義は、日本のことばについて、ときに深く、ときに広く、考え、学ぶものである。講義は現代語の国語辞典をテーマとして進めていく。国語辞典に関する基本事項の確認から始め、それをふまえて、国語辞典を起点として社会や文化の諸相を捉えることで、現代日本語に対する感覚、及び日本文化に対する感覚を磨く。

**講義の内容・授業スケジュール** 現代語の国語辞典の基本的な使い方の確認、辞典の比較研究などを通して現代の日本語を考える。更には、現代日本語文法、方言、外国語などとの関連事項を盛り込み、講義を進めていく。講義の流れは次の通りである。

**履修上の留意点** 前期1～5) 辞典の基本、6～10) 辞典の比較、11～15) 現代日本語文法との関わり、後期1～5) 辞典の研究、6～10) 方言との関連、11～15) 外国語との関連

講義の中では、紙媒体の辞典を中心にさまざまな国語辞典を利用していくが、新たに辞典を購入する必要はない。各自既に持っている辞典を利用すれば良い。電子辞書も可。ただし、常に辞典を引くという習慣を持って講義に臨むことを強く求める。

**成績評価の方法** 成績は、①前期3回、後期3回（通年で合計6回）課すレポート、②出席状況、③授業態度、の3項目により総合的に評価する。

**教科書** 授業時にプリントを配布する。  
**参考書等** 授業中に指示する。

履修コード	206801
科目名	文学〔日本文学「古典」〕
担当者名	佐原 作美

- 講義のねらい** 古来日本人の間で最もよく親しまれて来た昔話に「かぐや姫」の話がある。これは言うまでもなく『竹取物語』がもとになっているが、授業ではこれを読みながら古代日本人の心性や、思想的社会的背景を探っていききたい。
- 講義の内容・授業スケジュール** とにかく『竹取物語』を最初から最後まで約20回かけて読む。残りの時間は『万葉集』や『風土記』や『今昔物語集』などに見られる関連話を読みながら、この物語のもつ今日的意義を考えていきたい。
- 履修上の留意点** 古典文学は味読することが大切。何度も繰り返し読んでほしい。
- 成績評価の方法** 折り折りの提出物や期末試験（筆記またはレポート）を基本に、出席状況などを考慮して評価する。
- 教科書** 野口元大校注『竹取物語』新潮社（日本古典集成）刊・2650円。
- 参考書等** 必要に応じて授業時に紹介する。

履修コード	206901
科目名	文学〔日本文学「古典」〕
担当者名	坂口 博規

- 講義のねらい** 平安末期の歌人西行法師の作品を考察し、西行が中世精神の開拓者と評価される由縁を講じる。西行は真言僧であり、その宗教意識や宗教活動が和歌に如何に表現されているかを考え、また西行は「花月の歌人」と評されるが、その耽美的精神は日本の美意識の基調をなしている点も考えたい。あくまで西行という一人の歌人を「窓」にして、和歌・説話・無常観・漂泊の旅等々をキーワードに、日本文学の特質を多方面から考察したい。
- 講義の内容・授業スケジュール** はじめに西行の生涯を概説（1～10）し、その宗教意識や活動を考察（11～18）、西行は後世の遁世者の理想と仰がれる由縁を考える（19～23）。また西行の花月への愛着、漂泊の旅人の精神や人間像は、後世芭蕉をはじめとして多くの歌人・俳人たちの傾倒するところであり、そこに日本文学の伝統を形成することにも言及する（24～30）。
- 履修上の留意点** 授業は適宜配布するプリント教材により講義形式で行う。レポート作成の資料となるものであるから出席に努めてほしい。
- 成績評価の方法** 定期試験時にレポートを提出してもらい、その成績に出席点を加味して評価する。
- 教科書** 授業において適宜プリントを配布する。
- 参考書等** 教授において適宜紹介する。

履修コード	207001
科目名	文学〔日本文学「近代」〕
担当者名	石割 透

- 講義のねらい** 日本近代文学史のうえで、重要な位置を占め、多くの読者に愛され続けている芥川龍之介の文学を中心に検討する。その表現、短編小説の方法、などを探り、1910年代から20年代の時代状況も考えていきたい。
- 講義の内容・授業スケジュール** 1、芥川龍之介の短編を読む「老年」「ひよつとこ」など（3） 2、「羅生門」「鼻」「芋粥」などを「今昔物語集」の説話と対照して（5）、3、中期の作品「袈裟と盛遠」など（4）4、「地獄変」「奉教人の死」（5）などの代表的な作品を読む。それに同時代の作家の作品を絡めて話したい。
- 履修上の留意点** 前もって、その授業で扱う作品をできるだけ読んで授業にのぞむこと。図書館などに積極的に足を運ぶように。
- 成績評価の方法** 年2、3回のレポート提出。出席状況を重視する。
- 教科書** 特に指示しないが、扱かう作品は、文庫本で読める。「芥川龍之介全集1～6」（ちくま文庫）など。
- 参考書等** 授業時に指示する。
- その他** 講義形式で進める。プリントなどは必要な際に、その都度準備する。

履修コード	207101
科目名	文学〔日本文学「近代」〕
担当者名	<small>まつだ なおゆき</small> 松田 直行

講義のねらい	現代作家の小説を題材として、小説の〈いま〉を読み解き、また小説から〈いま〉を読み解く。自由な解釈を許されたテキストとして小説をとらえ、いくつかのキーワード（テーマ）を設定して、多様な読解の可能性を探る。教養教育科目なので、専門的な文学研究よりも「たくさん読んでたくさん書く」ことを目標とし、またグループ討論によって「話す／聞く」訓練も行い、日本語によるコミュニケーション能力の向上を目指す。
講義の内容・授業スケジュール 履修上の留意点	キーワード（テーマ）は以下の通り。(1)「ケータイ」、(2)「お笑い」、(3)「公園」、(4)「世田谷」、(5)「家族」、(6)「1970年代」、(7)「心の病気」。 作品は日程を定めて各自で事前に読んでくるように指示する。日程は授業で随時指示するが、欠席した場合などはインターネットの講義内容KOMS Yの詳細情報表示で確認するように。作品を読んでいるかを確認するために、授業の最初に作品内容に関する小テストを行う。 選択制の提出課題はすべてパソコンで作成し、大学のアドレスから e-mail に添付して提出していただく。
成績評価の方法	定期試験は行わない。出席点（小テストが合格点に達した場合にのみ1回10ポイント）と、授業中に実施する小レポート課題、選択制の研究課題をポイント制にして加算し、相対評価により算出する。
教科書	購入の便宜を考えて、授業で取り上げる以下の作品をすべて文庫本で教科書として指定しておく。 山本幸久『笑う招き猫』集英社文庫¥580、伊藤たかみ『アンダー・マイ・サム』講談社文庫¥560、吉田修一『パーク・ライフ』文春文庫¥410、江國香織『間宮兄弟』小学館文庫¥580、長嶋有『猛スピードで母は』文春文庫¥400、村上春樹『風の歌を聴け』講談社文庫¥400、新潮社編『空を飛ぶ恋ーケータイがつなぐ28の物語』新潮文庫¥420。



履修コード	207201
科目名	文学〔日本のことば〕
担当者名	萩原 義雄

講義のねらい 広く日本語の特徴についてを学ぶことで、学習者自身が修得してきた国語全般に渉る教養を再度この講義を通して確認していくことにより、自分が気づいていたこと、気づかずにいたことを含めて、自身の有する教養をより高めていくことを目標に授業を進めていく。

講義の内容・授業スケジュール

- 01の講義内容 ※最初に情報センターの使用手続について担当責任者説明  
国語・国文学作品に於ける研究とその展開
- 02の講義内容 和語と漢語
- 03の講義内容 漢字教育にみる日本語(「常用漢字表」の行方)
- 04の講義内容 国語辞書(近代国語辞書、大槻文彦編『大言海』)
- 05の講義内容 漢和辞書(近代漢和辞書、諸橋轍次編『大漢和辞典』)
- 07の講義内容 地名辞書(近代地名辞書、吉田東吾編『大日本地名辞書』)
- 08の講義内容 植物辞書(近代植物辞書、牧野富太郎編『日本植物大辞典』)
- 09の講義内容 和英辞書(近代英和辞書、ヘボン『和英語林集成』)
- 10の講義内容 明治近代語の研究、雑誌『太陽』を読む
- 11の講義内容 大正近代語の研究、芥川龍之介著作集を読む
- 12の講義内容 昭和現代語の研究、井上靖著作集を読む
- 13の講義内容 平成現代語の研究、村上春樹著作集を読む
- 14の講義内容 「パロディ」化の作品とは
- 15の講義内容 絵本と言語
- 16の講義内容 漫画・アニメにみることばの言語表現
- 17の講義内容 書道と言語(唐顔真卿と明朝体文字)
- 18の講義内容 文字遊び(回文・逆きことば・しりとり等)
- 19の講義内容 文字の不思議さ(漢字=正字・通俗字、増画と省画、欠字=『干禄字書』、かな(誕生と広がり)、ローマ字)
- 20の講義内容 豊富な語彙を学ぼう(『分類語彙表』)
- 21の講義内容 文法はグラグラと揺れている
- 22の講義内容 文章体の特徴を知ろう
- 23の講義内容 音韻の響きと弾み
- 24の講義内容 共通語と方言語はどう変容していくのか
- 25の講義内容 日本語の系統
- 26の講義内容 言語生活からみた新聞記事・雑誌
- 27の講義内容 愈々、独り立ち

履修上の留意点

※出席は、教場IT管理に依拠します。授業開始時に当日の出席書込欄にまずチェックをしましょう！また、IDチェックを忘れてたりした場合などは、下記掲示板へ書込みをすることで確認が可能となります。

※講義内容及び連絡事項については、HP(情報言語学研究室)上に凡て逐次掲載しますので常時閲覧願います。質疑応答の問い合わせも直接研究室対応の他、IT機器を用いても応対可能とします。

成績評価の方法

(4) 成績評価方法

月毎に上記項目を常にふまえた上で、報告書を提出し内容を発表してもらいます。個人が年間分析する上記報告書における私からの質問を受けて、各自それぞれ提出してもらいます。

提出の際には、提出の年月日の記入。学籍番号。氏名を必ずファイル名と内容資料に必ず添えてください。

ご自分が調査した関連語句(書名・人名・用語など)の記入とそれに関わるネットリンク、添付画像処理についても著作権・肖像権問題に充分留意をお願いします。

また、総合教育研究学部(日本文化部門)掲示板のご利用を期待します。皆様方の声と管理担当者である萩原の考えや日程をここに反映させ、学習支援及び学習意欲の向上をめざすことが本来の目的です。ここに記載された内容は、すべてこちらで管理運営しています。今後、この授業内・外を問わず、この書き込みを通じて授業評価にも大きく反映させていきますのでご承知願います。

URL <http://www.komazawa-u.ac.jp/~hagi> を使用する。

『福田順一郎著作集』第6巻一知の職人たち／生涯を賭けた一冊一〔三一書房1997刊〕

情報機器及び文書編集ソフトを利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

情報機器を利用します。講義資料はHP(情報言語学研究室)上に凡て掲載します。授業内における講義プリントやレジュメPDF資料配布の紙面出しは必要最低限で保証します。

教科書  
参考書  
その他

履修コード	207301
科目名	文学〔外国文学「アメリカ文学」〕
担当者名	田中 保

**講義のねらい** アメリカ文学の大潮を辿りながら、主要な作家とその代表作品を取り上げて、アメリカ文学を味わいながら、多角的にアメリカという国を考察してみる。

**講義の内容・授業スケジュール** [1] オリエンテーション (1)、アメリカ文学とは (2)、アメリカ植民地時代の文学 (3～5)、南部ヴァージニアの文学 (6～8)、北部ニューイングランドの文学 (9～11)、アメリカ独立革命時代の文学 (12～15) [2] ベンジャミン・フランクリン (1)、ナサニエル・ホーソーン (2～3)、ハリエット・ピーチャー・ストウ (4)、ハーマン・メルヴィル (5)、マーク・トウェイン (6)、F. S. フィッツジェラルド (7)、ウィリアム・フォークナー (8) アーネスト・ヘミングウェイ (9)、ジョン・スタインベック (11)、テネシー・ウィリアムズ (12)、トルーマン・カポーティ (13)、J・D・サリンジャー (14)、マーガレット・ミッチェル (15)

**履修上の留意点** 前期は講義形式で、足早にアメリカ文学を概観します。後期は主な作家の一覧表から興味ある作家をひとり選んでその作家の作品を選び、グループ編成をして、発表していただく。

**成績評価の方法** ノート提出、レポート提出、発表、出席状況等で総合的に評価する。

**教科書** 特に使用しません。ときどきプリントを使用します。

**参考書等** 参考書等は授業の際に、適宜紹介します。

履修コード	207401
科目名	文学〔外国文学「中国文学」〕
担当者名	児島 弘一郎

**講義のねらい** 中国古典詩歌の主要作品をテーマ別に味読します。代表的なテーマを幾つか取り上げ、具体的な作品に即しつつ、そのような作品群が生み出された歴史・文化的な背景などを考察します。中国古典詩歌は日本人にも大きな影響を及ぼしましたが、本講座では比較文化的な視点も導入し、わが国の文化を見直す手がかりにもしたいと考えています。

**講義の内容・授業スケジュール** ガイダンス (1)・漢詩の基礎知識 (2～3)・離別―送別と留別 (4～5)・登高 (6)・行旅―左遷と探勝 (7～8)・辺塞 (9)・閨怨 (10)・挽歌と悼亡 (11)・科挙―登第と落第 (12～13)・経世と閑適 (14～15)・山水と田園 (16～18)・飲酒 (19～20)・読書 (21～22)・詠物 (23～24)・題画 (25)・歴史―詠史と懷古 (26～28)・詠懐―まどめに (29～30)

**履修上の留意点** 皆さんの中には、高校時代の漢文の授業で、「漢詩」を読んだことがある人も少なくでしょう。本講座では、外国文学としての中国古典詩歌を扱いますが、全くの初心者でも興味もてるよう、一から丁寧に説明してあります。高校の授業とは異なり、中国語音で詩歌を聴いてもらいますので、新鮮な驚きや発見があるかも知れません (但し、中国語を履修している必要はありません)。授業を通じて、詩歌を読む愉しみを感じてもらえればと願っています。

**成績評価の方法** 出席状況、前期末の簡単な確認テスト、後期末のレポート (課題図書を指定) によって、総合的に評価します。

**教科書** 教員が随時レジュメを配布します。

**参考書等** 初回のガイダンスの際に、「参考書一覧」を配布します。

履修コード	207501
科目名	文学〔日本文学「古典」〕
担当者名	菌部 幹生

**講義のねらい** 日本の古典文学の中から、『世継物語』を講読する。『世継物語』は、全56話の短い説話集であるが、大和物語・枕草子・栄花物語・古本説話集などとの共通説話を多く含み、中古から中世をつなぐ古典文学の世界を考えるうえで有用な作品である。この作品の講読を通して、時代の価値観の変遷や文学作品のあり方を考えてみたい。

**講義の内容・授業スケジュール** 1 ガイダンス。2 古典文学史。3 説話文学の変遷。4 『世継物語』の文学史的意義。5 『世継物語』の成立と成立圏。6～28 『世継物語』の講読。29 教場試験。30 まとめ。

**履修上の留意点** 毎時間の最後に、その日の講義内容に関する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

**成績評価の方法** 出席点20点、毎時間の意見文30点、教場試験50点の割合で評価する (試験はテキスト・ノート・辞書・参考書等持込可)。また、最後の授業時間中に、追・再試験に相当するレポートに関する伝達 (該当者・テーマ・提出期限等) を行うので必ず出席すること。なお、定期試験期間中の試験は行わない。

**教科書** プリントを配布する。

**参考書等** 必要があればそのつど紹介する。

履修コード	207701
科目名	文学〔日本文学「近代」〕
担当者名	小林 治 <small>こばやし おさむ</small>

講義のねらい	優れた文学作品の条件とは何だろうか。一例としてリアリティを挙げても、現実を写してありのままらしく見えるものほど実はリアルではなく、技巧によってそれらしく仮装された規範にすぎないことも多い。このような文学特有の陥穽を見通す視点から、文学について再考することを試みたい。
講義の内容・授業スケジュール	対象に予定している作家は、第二次戦後派の安部公房、島尾敏雄、ルポルタージュ文学の先駆者としての上野英信である。主に教科書と配布プリントを使用する。(1～3) 安部公房の軌跡 (4～6) 安部・初期短編の特色について (7～9) 『デンドロカカリヤ』分析 (10～12) 『飢えた皮膚』分析 (13～15) 『R62号の発明』分析 (16～18) 日本的共同体への帰属と脱出というテーマについて (19～21) 『死んだ娘が歌った』分析 (22～24) 『鏡と呼子』分析 (25～27) 島尾敏雄の軌跡 (28～30) 上野英信の軌跡
履修上の留意点	具体的に上記の作家の作品を読んでいく中で、文学作品という現象を通じて見えてくるものは何か、あるいは文学が表現し得るものは何かを考えていくので、講義を受ける前にあらかじめ対象作品だけは読んでおいていただきたい。作品名の詳細は講義を進めていく中で、時々指示するが、とりあえず下記の作品と教科書で指定する作品は必読である。 安部公房『砂の女』 島尾敏雄『出孤島記』 上野英信『追われゆく坑夫たち』
成績評価の方法	定期試験の結果、レポートの内容を総合し、さらに出席状況を加味して評価する。
教科書	安部公房『R62号の発明、鉛の卵』(新潮文庫) 552円
参考書等	安部公房『水中都市・デンドロカカリヤ』(新潮文庫) 514円 授業時に指示する。

履修コード	342501
科目名	文学〔日本文学「古典」〕 - フレックスB開講 -
担当者名	池田 大輔 <small>いけだ だいすけ</small>

講義のねらい	土佐日記、蜻蛉日記といった平安時代に輩出した日記文学作品を扱います。それらの作品を通して作者たちの心情を感じ取ることを目的とすると同時に、作品の時代背景などを確認しながらそれぞれの日記の世界観、作者たちの置かれていた立場などについても学んでもらいたい。また、作品に見られる風土や儀礼・年中行事などに興味をもってもらいたい。
講義の内容・授業スケジュール	1) ガイダンス 2) 平安時代の日記 3) 蜻蛉日記 4) 和泉式部日記 5) 紫式部日記 6) 更級日記 7) 成尋阿闍梨母集 8) 讃岐典侍日記
履修上の留意点	現代語訳のものでよいので、事前に作品を読んでおくと、より理解が深まります。学期末には試験(披見可)を行いますので、ノートはきちんと取り、配布プリントも整理しておいて下さい。出席重視なので、可能な限り休まないで下さい。
成績評価の方法	出席状況(60%)と試験(40%)などにより評価します。
教科書	毎時間、プリントを配布します。
参考書等	宮崎荘平『王朝女流日記文学案内』(朝文社) 石原昭平、津本信博、西沢正史編『女流日記文学講座』第1巻～第4巻(勉誠社)

履修コード	342601
科目名	文学〔日本文学「近代」〕 - フレックスB開講 -
担当者名	中西 <sup>なかにし</sup> 亮太 <sup>りょうた</sup>

**講義のねらい** この講義では、明治・大正・昭和の著名歌人の短歌作品を読み、論じていきます。日ごろ短歌を読み慣れていない人にとって、短歌の内容を読み解くのは、なかなか難しいことです。しかも、短歌は内容を読み解くだけでなく、言葉の音楽性まで味わうべきものです。そこで先ず、受講生が短歌の読み解き方の基本を身に付けられるよう、訓練します。次いで、短歌の響きとリズムの味わい方について話を進めます。そして、その上で、受講生が近代歌人の表現世界に対する関心と理解を深めることを目指します。講義で取り上げる作品を一首紹介しておきます。「白い手紙がとどいて明日は春となるうすいがらすも磨いて待たう」(斎藤史『魚歌』)

**講義の内容・授業スケジュール** 原則として、毎回一人の歌人の作品を読んでいきます。取り上げる歌人は、与謝野晶子、石川啄木、北原白秋、斎藤茂吉、會津八一、前川佐美雄、土屋文明、斎藤史、塚本邦雄、中城ふみ子などです。前期が明治期と大正前半の歌人たち、後期が大正後半と昭和期の歌人たちです。なお、講義をより効果的なものにするために、前後期に一度ずつ、実習として歌会をします。また、ときに現代の専門歌人を教室に招くことも予定しています。

**履修上の留意点** 当然のことですが、ただ出席するだけでなく、積極的な姿勢での受講を望みます。授業時間中や時間後の質問を歓迎します。

**成績評価の方法** 学年末に試験を実施します。

**教科書** なし。授業中、必要に応じて参考プリントを配布します。

**参考書等** (a) 高野公彦編『現代の短歌』講談社学術文庫、1、450円、ISBN4-06-158974-1。明治から昭和までの代表的な歌人の作品を収録しています。

履修コード	342701
科目名	文学〔日本文学「古典」〕 - フレックスB開講 -
担当者名	伊藤 <sup>いとう</sup> 達氏 <sup>たつし</sup>

**講義のねらい** 本講義では、芭蕉の紀行文『奥の細道』を読む。『奥の細道』を読むことによって、芭蕉の表現の様相、その俳諧観に迫り、この作品への理解を深める。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- 1) 本講義のガイダンス
  - 2～3) 近世期までの俳諧と近代以降の俳句との違いについて
  - 4～5) 芭蕉以前の俳諧の様相
  - 6～7) 『奥の細道』出立以前の芭蕉の動向
  - 8) 『奥の細道』を読む。(『奥の細道』には最古の注釈書である『おくのほそ道鈔』、それに続く『奥の細道菅菰抄』以来、現在に至るまで多くの注釈があるが、それらを適宜参照しながら読み進めていく。なお蕉風俳論や同時代の歌論・詩論・思想についても言及する。)

**履修上の留意点** 指定したテキストを購入し、授業の前には該当箇所を読んでおくこと。欠席が三分の一に達した者は単位を認定しない。疑問点があれば積極的に授業中、時間後に質問して下さい。

**成績評価の方法** 年度末の定期試験を主とする。出席状況・聴講態度も加味する。

**教科書** 萩原恭男校注『芭蕉おくのほそみち一付會良旅日記 奥細道菅菰抄』(岩波文庫)、735円 (ISBN4-00-302062-6)

**参考書等** 授業中に適宜紹介する。プリントで配布する場合もある。

履修コード	207801
科目名	歴史学〔日本中世史〕
担当者名	今野 慶信 <small>こんの よしのぶ</small>

**講義のねらい** 歴史学は「史料」に基づいた科学である。なかでも日本中世史は、明治時代、日本と西欧封建制との比較研究から生まれてきた学問分野であり、日本中世封建制度の研究は長く学界を規定してきた。しかし今日、その発展形である唯物史観に基づいた「戦後歴史学」の見直しが叫ばれ、一方では網野善彦氏の研究などに代表される社会史が学界に旋風を巻き起こしてきた。近年の日本中世史研究は、こうした流れを受け、さまざまな資料、例えば系図や絵画などを駆使して、豊かな中世史像を生み出すことに成功している。本講義では、そうした日本中世史の最新の研究動向を紹介しつつ、受講生には歴史・文化や地域に知的好奇心を持ち、過去へのまなざしと現代社会への視点を養ってもらいたいと考えている。

**講義の内容・授業スケジュール** 講義で扱う時代範囲は、平安時代末期から江戸時代初期までであるが、時代の流れを追いつつも、各回毎にテーマを設定しつつ、今ホットなトピックも努めて紹介していくことにしたい。とりわけ、近年活況を呈している地域史研究の分野において、現在我々が暮らしている関東・東京地域史研究の成果を随時紹介していくことにしたい。

**履修上の留意点** 授業で配布する資料を貼り込むなど、ノート作りには工夫してもらいたい。

**成績評価の方法** 定期試験の結果、提出レポート、出席状況などによる。

**教科書** なし。随時コピーを配布する。

**参考書等** 随時紹介する。

履修コード	207901
科目名	歴史学〔東アジア考古学〕
担当者名	千葉 基次 <small>ちばもとつぐ</small>

**講義のねらい** 長城地帯から極東アジア地域で民族・特定文物・組織その他から、一つのキーワードを選び出し、授業の主題とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 授業題目の研究史から始め、個々の研究内容を解説し、最後に今後の課題を示す。

**履修上の留意点** 板書事項もあり、薄くて充分なので専用のノートを用意することが望ましい。

**成績評価の方法** 毎時出席を確認し、平常授業を評価の基とする。レポートについては出欠状況を見て決める。

**教科書** 特になし。

**参考書等** 授業の中で紹介する。

履修コード	208001
科目名	歴史学〔古代オリエント史〕
担当者名	おおしろ 道則 大城 道則

講義のねらい	古代オリエント世界と古代地中海世界との交流関係について具体例を挙げつつ紹介し、当時の歴史背景や研究上の問題点などを解説・指摘する。
講義の内容・授業スケジュール	ヨーロッパ世界の起源である古代地中海世界は、様々な文明と多様な文化が接触・交錯し、相互に影響を与え合い、共存する場であった。我々は、ヨーロッパ世界を理解するために、その根源である古代地中海世界について考える必要がある。そのため本講義では、古代エジプト文明の成立から、古代ギリシアを通して、古代ローマ帝国の地方都市である埋没都市ポンペイや隊商都市パルミラの歴史までを取り扱う。 前期 (1) 地中海世界の中のエジプト (2) 古代エジプト形成期(統一王朝の出現) (3) 古王国時代のエジプト(ピラミッドの発展過程) (4) 古王国時代のエジプト (5) 新王国時代のエジプト (6) メソポタミアの古代都市 (7) 鉄の王国ヒッタイト 後期 (8) 古代エーゲ文明の成立 (9) 東方化の時代と大植民時代 (10) エトルリア文明 (11) 古代ローマ皇帝伝 (12) 火山で埋もれた都市ポンペイ (13) 古代ローマ人の食生活 (14) 砂漠の隊商都市パルミラの歴史
履修上の留意点	お互いの信頼関係のため講義中の携帯電話および遅刻・退室は禁じる。配布したプリントはファイルし、毎回講義に持参すること。
成績評価の方法	学年末試験、出席率、受講態度により総合的に評価する。
教科書	講義の際には講義内容に則したプリントを配布する。
参考書等	大城道則『古代エジプト文化の形成と拡散—ナイル世界と東地中海世界—』(ミネルヴァ書房)
その他	画像を多用するためパワーポイントを使用する。

履修コード	208101
科目名	歴史学〔西洋中世史〕
担当者名	ふなはし 倫子 舟橋 倫子

講義のねらい	ヨーロッパ史の基本的な流れを押えつつ、他者を理解し、歴史を学ぶ意義を共に考えることを目的とします。
講義の内容・授業スケジュール	1 ヨーロッパとは何か(風土の語るもの)(1~2) 2 古代地中海世界(ギリシャ)(3~5) 3 古代地中海世界(ローマ)(6~8) 4 キリスト教の発展と古代末期の世界(9~11) 5 ヨーロッパ中世社会の成立(12~14) 6 ヨーロッパ中世社会の発展(15~17) 7 ヨーロッパ中世社会の危機(18~20) 8 中世の文化(ロマネスクとゴシック)(21~22) 9 都市と農村(23~24) 10 修道院の世界(25~26) 11 宗教改革とは何か(26~27) 12 主権国家体制の成立(28) 13 宗教戦争(29~30)
履修上の留意点	受験で世界史を選択しなかった学生への配慮から、ある程度基礎的な説明もしますが、高校の歴史地図帳(年表と地図帳)を用意し各自で授業内容を復習するように心がけて下さい。日頃からヨーロッパに関するTV等の情報を収集するよう習慣づけて下さい。
成績評価の方法	学期末に行う試験によって評価を決定します。ノートの持ち込みを許可しますが、全て論述形式としますので、出席して自分なりにノートをとってまとめておかないと良い成績は期待できません。
教科書	教科書は特に指定しません。
参考書等	参考書は授業中に内容に応じて指示します。
その他	必要に応じてプリントを配布しますが、原則として講義形式で授業を行います。

履修コード	208201
科目名	歴史学〔日本近世史〕
担当者名	出口 宏幸

講義のねらい 戦国の世が閉じられ、近世社会へ移行することで、どのような社会的変化がおこったのか。都市と村落という視点を基本に話を進めます。受講生にとって、この授業が、歴史と向き合う貴重な「時間」になることを期待します。

講義の内容・授業スケジュール (講義の内容)  
全国的に成立した都市は、領主支配の拠点、また商業活動の舞台であり、村は生産の場でした。両空間の成立がもたらした、あらたな展開(身分・家格、社会的分業、文書社会化など)を通して、近代の直前に位置した近世社会について考えます。

(授業スケジュール)  
(1～4) 戦国から近世へ、近世社会の概要〔幕府改革〕・〔流通網の形成〕・〔都市文化の隆盛〕(5～9) 領主支配〔検地、年貢・諸役、五人組〕、〔檀家制度、村請制度〕、都市、村落〔村役人〕、家格(10～14) 山村と漁村、商人の台頭、奉公人組織、商品生産の展開、貨幣制度(15～17) 村を支えた集団、村方騒動と一揆、村の荒廃、(18) 近世の終焉

成績評価の方法 試験80%、平常点20%  
教科書 各回にプリント(資料含む)を配布します。

履修コード	208301
科目名	歴史学〔日本近代史〕
担当者名	立川 章次

講義のねらい 日本史の流れを概観し、幕末から維新期にかけての過程を考察する。  
幕末のわが国は、国内的には商品経済の流通により、封建制が内部矛盾を露呈し、崩壊への兆が、その一方、対外的には欧米列強の外圧に遭遇し、国家存亡の危機に直面したのである。幕末から明治初期にかけての人々は、この恐るべき外圧を契機として、みごと新国家の創造に成功し、近代日本の今日への基礎を築いたのである。このことに留意して新しく維新史を学びたい。

講義の内容・授業スケジュール 前期 維新変革の機運・尊攘運動の展開・王政復古・明治新政・新国家の統一といった幕末から維新期にかけての過程を考察する。  
後期は外交の転機となった幕府最初の遣米使節の人々や、咸臨丸の勝海舟、福澤諭吉、中浜万次郎といった人々の啓蒙思想の原点を考察する。

成績評価の方法 定期試験と出席日数により総合的に評価する。  
教科書 尾佐竹 猛『幕末遣外使節物語』(講談社学術文庫) 960円

履修コード	342801
科目名	歴史学〔日本近代史〕 - フレックスB開講 -
担当者名	林 彰

講義のねらい 幕末のペリー来航後の通商条約により、世界資本主義体制の一環に組み込まれていく我が国は、明治維新期を経て確立する明治憲法体制・教育勅語体制により、ほぼ近代国民国家の成り立ちが整備される。この体制は、アジア太平洋戦争の敗戦により幕を閉じることになるが、講義では近代を通じて支配する体制側の動向と民衆側の歩みを中心にとどめてみていきたい。そのさい、体制側の思想動向や体制側に抵抗ないしは同調しようとする民衆側の思想動向の把握、国内における衛生や病気などにより「隔離」される民衆の問題、アジア民衆への蔑視・差別の問題にも言及していくつもりである。

講義の内容・授業スケジュール 最初に、現在の日本に残存する過去の歴史の問題を取り上げ、その要因が日本の近代にあることを検討する。次に、近代史の概説を体制側と民衆側の動向をふまえて、敗戦までたどる。次に時間に余裕があれば、個人の人物を取り上げて、近代史のなかで果たした役割をみていきたい。

成績評価の方法 前期はレポート提出。後期は定期試験。レポートを提出しない学生には単位はなし。定期試験は、追試験も実施する。

教科書 大日方純夫『はじめて学ぶ日本近代史(上)』、大月書店、2002年。1800円+税  
ISBN4-272-52068-7C0021

履修コード	342901
科目名	歴史学〔中国史概観〕 - フレックスB開講 -
担当者名	小林 惣八 <small>こばやし そうはち</small>

**講義のねらい** 中国史の歩みを大別すると、黄河文明、殷周時代、秦漢時代、魏晉南北朝時代、隋唐時代、五代・宋時代、元・明・清時代、新生中国とに分けられる。本講義ではその歩みを多角的にとらえ通観するものである。

**成績評価の方法** 前・後期のレポート提出と定期試験による総合評価。  
詳細は追って指示する。

**教科書その他** 特別定めないが、中国史の概説書や図表を座右に置いて聞くことを望む。  
出席を重視する。

履修コード	343001
科目名	歴史学〔アジア史概観〕 - フレックスB開講 -
担当者名	山口 洋 <small>やまぐち ひろし</small>

**講義のねらい** アジア史の事例を通して、歴史的なものを見方を知る。また日本とアジアとの関係を歴史上に考えることができるようになる。

**講義の内容・授業スケジュール** アジア史の中でも、古くから記録の残された中国史を基軸に、アジアと日本の歴史を考える。具体的には以下のスケジュールで講述する。

- 第1回：ガイダンス
- 【歴史学の基礎】第2回：アジアの風土、第3回：紀年法、第4回-第5回：歴史記録とは何か、第6回-第7回：紙と印刷の歴史
- 【中国史の基礎】第8回：伝説の古代、第9回-第11回：皇帝の登場、第12回-第13回：官僚制と科挙
- 【交通の歴史】第14回：中国人の世界観、第15回-第17回：中国と西域、第18回-第19回：駅伝制、第20回-第22回：遣隋使遣唐使、第23回-第24回：鄭和の遠征

**履修上の留意点** 出席不良者の単位修得は認めない

**成績評価の方法** 数回のレポートと平常点（出席など）、筆記試験の結果を総合して判定する

**教科書等** 史料をプリントで配布する  
寺田隆信著『中国の歴史』（中公新書）  
他は、授業内で適宜紹介する

履修コード	208401
科目名	芸術学〔日本美術〕
担当者名	北野 良枝 <small>きたの よしえ</small>

**講義のねらい** 室町時代から江戸時代に至る日本絵画の流れを、中国およびヨーロッパとの関係に留意しつつ概説する。美術の歴史を理解するにあたって、常に作品を参照する必要があるため、授業では毎回、作品の画像を映写する。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期 室町から桃山時代の絵画  
(1) ガイダンス (2) 絵画に関する基礎知識  
(3) ~ (7) 室町時代の水墨画 (8) 阿弥派  
(9) 関東水墨画 (10) 土佐派  
(11) ~ (12) 狩野正信・元信 (13) ~ (15) 狩野永徳と桃山画壇  
後期 江戸時代の絵画  
(16) 江戸時代の狩野派 (17) ~ (20) 琳派  
(21) ~ (22) 浮世絵 (23) 南蘋派  
(24) 文人画 (25) ~ (26) 秋田蘭画と司馬江漢  
(27) 円山四条派 (28) 伊藤若冲と曾我蕭白  
(29) ~ (30) 江戸から明治へ

**履修上の留意点** 授業中の私語は厳禁。

**成績評価の方法** 学年末に筆記試験を実施し、その得点によって評価する。

**参考書等** 画像を映写した作品を確認するには、下記のような美術全集があり、いずれも駒沢大学図書館に所蔵されている。  
『原色日本の美術』（小学館）  
『日本美術全集』（学習研究社）  
『日本美術絵画全集』（集英社）  
『日本美術全集』（講談社）



履修コード	208501
科目名	芸術学〔西洋美術〕
担当者名	矢野 陽子

**講義のねらい** ひとつの美術作品が制作されるにあたっては、芸術家の個性や技術のみならず、その時代と地域の宗教・文化・政治状況などさまざまな要因も関係しています。この講義では私たちは異なる文化から生まれた西洋美術のうち、およそ16世紀から18世紀まで、つまりルネサンス期から革命期頃までのフランス美術を、絵画を中心に取り上げます。まず美術の主要な流れを把握し、作品に表現された内容とその表現様式の特徴を考えます。さらに芸術家と注文主や鑑賞者との関係、美術が社会のなかで占めていた位置についても考察していきます。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期 16世紀および17世紀のフランス美術  
後期 18世紀のフランス美術

**履修上の留意点** 作品の画像をスクリーンに映してそれを見ながら講義を進めるので、授業にはなるべく遅刻欠席をせず続けて出席するようにしてください。

**成績評価の方法** 夏休みの課題リポートを提出し、学年末の試験を受けた学生を評価の対象とします。リポートや試験の形式などは授業中に説明します。

**参考書等** 高階秀爾『フランス絵画史』講談社学術文庫  
大野芳材『フランス近世の美術』財務省印刷局  
その他、授業中に適宜紹介します。

履修コード	208601
科目名	芸術学〔音楽〕
担当者名	浦本 裕子

**講義のねらい** 音楽は私たちの回りに溢れている。さまざまなメディアから音楽が流れ、カラオケも今や世界共通語にまでなった。社会のグローバル化が進み、音楽も世界のものが聴けるようになり、ジャンルもボーダーレスになってきた。日本では、演歌など一部のものを除けば、流れている音楽のほとんどがヨーロッパとアフリカの音楽に基づいたものである。音楽理論はヨーロッパで生まれたクラシック音楽に由来し、ポップスにはアフリカ的な要素も多く入り込んでいる。そもそもどのように音楽が生まれてきたのだろうか、そしてどのように享受されてきたのであろうか。

本来は、音楽は生活の中での祈りや子守歌など「必要なもの」として生まれてきた。そして世界各地で、環境や生活形態が異なる中で、楽器や発声法などそれぞれ独自の音楽文化を長い時間をかけて形成してきたのである。

この授業では、そのような多様な諸民族の音楽やヨーロッパのクラシック音楽を学ぶことにより、多様な文化の一つとして音楽を理解することを目指したい。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期：諸民族の音楽・1-3概論 4-7ヨーロッパ 8-15アジア  
後期：西洋音楽史・1-2楽器 3-4中世・ルネサンス 5-7バロック 8-10古典派 11-13ロマン派 14-15近世

**履修上の留意点** ・音資料や映像資料を鑑賞するので、できるだけ出席するように。  
・授業中に簡単なレポートを書いてもらうことがあるかも知れません。

**成績評価の方法** 前期：試験またはレポート  
後期：試験

**教科書** 拓植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』（音楽之友社）

**参考書等** 藤井知昭 他 編『民族音楽概論』（東京書籍）  
久保田慶一 他 『はじめての音楽史』（音楽之友社）  
岡田暁生 『西洋音楽史』

履修コード	208701
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	滝口 清栄

講義のねらい	西洋思想は古代ギリシアで哲学的思索が始まってからすでに二千数百年の歴史をもっている。とかく現代では、目新しさを求める風潮が強くある。そしてさまざまな流行が私たちを囲んでおり、思想の世界もこの風潮を免れていない。しかし、この二千数百年の歴史は、けっして遺物の山なのではない。そうではなく、この歴史のなかでさまざまなテーマが多くの思想家たちによって提出されて、さまざまな応答がなされてきた。それらは、今日のさまざまな思想的論点の底流を形作っているとと言っても、言い過ぎではないだろう。
講義の内容・授業スケジュール	西洋思想の源流として、古代ギリシア・ローマの諸思想、そして中世の思想を取り上げる。講義にあたっては、それぞれの思想の検討だけでなく、その思想の背景にある歴史的な事情や当時の文化のあり方にも目配りをおこなう。講義スケジュールは次のようにする。 前期 ① 万物のはじめをもとめて（ソクラテス以前の哲学者たちの思索を検討する）、② ポリスの思想家たち（ソクラテス、プラトン、アリストテレスなど） 後期 ① ヘレニズム時代のコスモポリートたち（エピクロス、初期ストア派の思想家たち）、② 中世の思想（アウグスチヌス、トマス・アクイナスなど）、③ 近代の幕開け
履修上の留意点	講義は平明を心がける。ノートをよくとってほしい。ときどき質問用紙を配るので、不明な点について質問を出してほしい。
成績評価の方法 教科書	中間テスト（前期の最終授業時）と学年末試験により成績を評価する。追試験は実施する。 久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』、公論社、3200円

履修コード	208801
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	佐藤 暁

講義のねらい	哲学という営みが世界史上初めて行われた古代ギリシャ及びその強い影響下にあった中世ヨーロッパで活躍した哲学者たちの議論に、なるべく具体的かつ多く触れることによって、哲学的な問題とはどのようなものであり、哲学的に何かを論じるとは一般にどのようなことであるか、の理解を得ることを目的とします。また、一見現代の我々のものと異なって見えることもあるそれらの問題設定を知ることによって、我々が何かを考える際に自明と見なしている枠組みの相対性と普遍性を、結果的に吟味することにもなります。
講義の内容・授業スケジュール	(1) 概論：哲学とはどのような学問か (2) ソクラテス以前の哲学 (3) ～ (9) ソクラテス・プラトン (10) ～ (17) アリストテレス (18) ～ (20) ヘレニズム期の哲学 (21) (22) 教父思想とアラビア哲学 (23) (24) カロリング・ルネサンスと前期スコラ学 (25) ～ (27) 盛期スコラ学 (28) ～ (30) 後期スコラ学
成績評価の方法 教科書	学期末にレポートを提出してもらいます。 久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社3200円 ISBN978-4-7714-2002-1

履修コード	208901
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕
担当者名	河谷 <small>かわたに</small> 淳 <small>あつし</small>

**講義のねらい** この授業ではギリシア哲学（古代哲学）とキリスト教哲学（中世哲学）とを主要なテーマとして取り上げることで「考える」ということがどのような営みなのかを一緒に考えることにしたい。これらふたつの哲学思想は西洋思想の二大源流に対応するものであり、それぞれは知と信という対立のもとに理解することができよう。しかしながら、ふたつの源流は不連続と同時に連続性という側面も併せ持ち、複雑に分岐・合流を繰り返しながら近現代の思想へと流れ込んでいる。そうだとすれば現代の私たちが古代・中世哲学について考えるということは現代哲学の一形態であると言ってもよいであろう。授業ではできるだけ具体的な事例を挙げることで「哲学する」ことを身近に感じてもらえるように努めたい。

**講義の内容・授業スケジュール**

前期：Aギリシア哲学：哲学の始まり  
 序論(1,2)  
 ソクラテス以前の哲学(3～6)  
 ソクラテスの「無知の自覚」(7～9)  
 プラトンのイデア論(10～12)  
 アリストテレスの質料形相論(13,14)  
 ヘレニズム期の哲学(15)  
 後期：Bキリスト教哲学：信仰と合理性  
 アウグスティヌスの時間論(16)  
 神の存在証明（アンセルムス、トマス・アクィナス）(17,18)  
 普遍論争（唯名論と実在論）(19,20)  
 C近代哲学：認識論的転回  
 大陸合理論：デカルトにおける「私」(21～23)  
 イギリス経験論：ロック、バークリ、ヒューム(24～26)  
 カント哲学：コペルニクス的転回(27～)

**成績評価の方法**

前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに夏休みレポートと出席状況の総合点で評価する。

**教科書**

『原典による哲学の歴史』（公論社）

履修コード	209001
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	古田 <small>ふるた</small> 知章 <small>ともあき</small>

**講義のねらい** 現代において我々は、様々な場面で西洋的なものに直面し、また、我々自身、知らず知らずのうちに西洋的な人間観・世界観に基づいて判断あるいは行動していることも多い。この我々の日常にも深く係わる西洋的なものは、古代ギリシア以来の伝統のもと多岐にわたる曲折を経て、近代ヨーロッパにおいて現れた人間観・世界観に強く影響を受けている。したがって、西洋的なものの理解のためにも、また、現代に生きる我々の自己理解のためにも、近代ヨーロッパの人間観・世界観がどのような伝統と時代意識のもとに形成され、いかなる形で現代社会へと流れ込んでいるのかを学ぶことは有意義であると考えられる。

**講義の内容・授業スケジュール**

教科書を利用し、以下の内容を取り上げる（各項目ごとに、2～4回の講義を行い、Iを前期、IIを後期に扱う）。

- I. 近代の人間観・世界観の源流
  1. 哲学における基礎的な問題の整理 一人間と世界について問うこと
  2. 古代ギリシアの思想 一哲学的探求の始まり
  3. キリスト教思想と中世の哲学 一思索の新たな展開
  4. 中世から近世への連続と変動 一様々なルネサンスについて
- II. 近世・近代の人間観・世界観
  1. ルネサンスから近世の思想 一人間観・世界観の変革
  2. 科学の発展と世界観の変化との関係 一法則的世界の中での人間の位置
  3. 現代の存在論 一見えるものを支える見えない枠組み

**成績評価の方法**

二回の定期試験（中間試験、年度末試験）と平常点（出席状況、夏期レポート等）で評価する。

**教科書  
参考書等**

『原典による哲学の歴史』（公論社）  
 講義の際にその都度紹介する。

履修コード	209101
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	佐藤 暁

**講義のねらい** 科学が世界の基礎的な真相を記述している、という現代においても支配的な信念が初めて一般に共有されるようになった近代という時代の哲学は、それゆえ、現代の我々が普段何をしていることになるのか、あるいはどのような世界に住んでいるのか、といった哲学的な問いを考えるうえで必要となる道具立てのうち、最も基本的なものを作り上げた哲学と言えます。この授業では、近代の哲学者たちの議論に具体的に触れることによって、我々自身が哲学的に考えるうえで必要な思考方法にどのようなものがあるかを実際に知り、できればそれらのある程度使いこなせるようになることを目標とします。

**講義の内容・授業スケジュール** (1) 概論：人間と人間観、世界と世界観 (2)～(11) イギリス経験論 (ベーコン・ホップズ・ロック・バークリ・ヒューム) (12)～(18) 大陸合理論 (デカルト、スピノザ、ライブニッツ) (19)～(22) モラリストの哲学 (パスカル、ルソー) (23)～(30) カントとドイツ観念論 (カント・フィヒテ・シェリング・ヘーゲル)

**成績評価の方法** 学期末にレポートを提出してもらいます。  
**教科書** 久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社 3200円 ISBN978-4-7714-2002-1

履修コード	209201
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕
担当者名	小島 優子

**講義のねらい** 近代における「人間中心主義」をテーマとする。現代における環境問題を考えるとき、われわれはすぐに人間中心主義の思想のもとに自然破壊が行われてきたことに思い至る。近代における科学技術の発展はわれわれの生活をたいへん便利なものとしてきた。しかし、人間中心主義がわれわれにもたらしたものはいったい何であろうか。このことを考察するために、まず自然と人間との関係は古代ギリシア以来、どのように考えられてきたか、そして近代人の特色とは何であるについて押さえる。

近代において人間中心主義が標榜されるようになったのは、中世のように神が人々にとって中心的な問題ではなくなったことに由来する。そもそもなぜ古来人間は神を信じてきたのか、さらに近代人にとって神とはどのような存在であるのかについて考えたい。近代においてはむしろ人間とは何であるかということが、歴史的状況、社会的状況のなかで問われるようになった。そして人間はいかに生きるべきか、人間とは何かということが問題とされる。講義を通して、人間とは何か、また人間が生きるこの意味について学生諸君に考えてもらいたい。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- 1 哲学とは何か
  - 2 近代以前の哲学
    - ① 古代ギリシア哲学の世界観－人間と自然・人間と国家との関係－
    - ② 中世哲学とキリスト教神学
  - 3 近代哲学の特徴
    - ① キリスト教神学からの解放－近代人にとって神とは何か－
    - ② 自然科学の哲学への影響
    - ③ 人間中心主義の世界観

**成績評価の方法** 1回の定期試験(中間試験)と、1回の年度レポートと平常点(出席状況)で評価する。定期試験とレポート、平常点とで必要とされる点を満たさない場合には、追試験を認める。  
**教科書** 久保陽一・河谷淳編著『原典による哲学の歴史』公論社  
**参考書等** 小島優子著『最新哲学がよ〜くわかる本』秀和システム

履修コード	209301
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	黒崎 剛 <small>くろさき つよし</small>

講義のねらい	近代社会（近代とは現代も含む）のなかで人間のあり方と、社会構造（近代市民社会＝資本主義社会）について、近現代哲学を総括した上で、テーマ別に人間論と社会論について入門的な講義を行う。個々の哲学者の学説史ではないので、哲学史の知識を求める人には向かない。
講義の内容・授業スケジュール	以下のテーマを取り上げる予定 1. はじめに：われわれはどんな社会に生きているか 2. 「知識」は何のためにあるのか 3. 近代的自我：「自分である」とはどういうことか 4. 近代的自由の類型：自己決定と自律 5. 人間と自然：人はなぜ自然に生きることができないのか 6. 近代資本主義社会の構造：われわれはなぜモノとカネに支配されるか 7. 歴史哲学
履修上の留意点	近代哲学の主要テーマ別にかなり抽象的な形で取り上げるので、単位獲得のためだと割切っている人は退屈するはず。自分で考える姿勢を持つことを要求したい。
成績評価の方法 教科書	学年末試験を中心とし、受講態度および出席を加えて総合評価する。 教科書の代わりにプリントを配布。参考書は教場で紹介する。

履修コード	209401
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	滝沢 正之 <small>たきざわ まさゆき</small>

講義のねらい	現代哲学における重要な哲学者たちのうちから何人かをとりあげ、本人が書いたテキストの一部を（翻訳ではあるが）実際に読みつつ、その思想を紹介していく。
講義の内容・授業スケジュール	我々が生きている現代がさまざまな問題を抱えていることは誰でも知っている。哲学者たちの思考をたどることで、それらの問題を根本にまで立ち戻って考え直すことを試みたい。 下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典引用部分を丁寧に読み、解説していく。現代哲学の流れを紹介した後にアンケートを採り、受講者の問題関心に応じて扱う哲学者を選択する。とくに要望がない場合は、こちらで重要と思われる哲学者をピックアップする。適宜プリントで内容の補足を行う。 ちなみに昨年度は、現代思想の概観を確認したのち、マルクス、ニーチェを前期に、キルケゴール、サルトル、ハイデガーを後期に扱った。
履修上の留意点	教科書を必ず入手しておくこと。
成績評価の方法	中間試験および期末試験により評価する。中間試験はレポートにする予定。期末試験は筆記。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。
教科書	久保・河谷編『原典による哲学の歴史』（公論社）
参考書等	授業中に適宜プリントを配布する予定。 講義中に適宜指示する。

履修コード	209501
科目名	哲学〔現代文明と人間〕
担当者名	麻生 享志

**講義のねらい** 人間の生き方と密着する、また、学問としての「本当の哲学、本物の哲学」に近付くための案内をする。

**講義の内容・授業スケジュール** 自己の人生の問題を考えるきっかけを得る。そして、その追い求め方のヒントもさがす。哲学や、人生を考える上で有益な書物を読む、読み方を説明する、など。

(1)哲学とは何か(2-6)古代ギリシャ・20分で分かる哲学全歴史・ゼノンのパラドックス・時間論とタイムマシン・原子論(7-12)論理的説得とは・誤謬論、初心者 of の犯す四つの誤謬・実験と科学・帰納的推論・山のパラドックス考・自然法則の意味(13-20)経験論の教えるもの・美と感覚・主客二元論・真理論としての対応説・色は実在せず・第一性質と第二性質・プラグマティズムの真理観・哲学史再考(21-30)論理学開始のアポリア・ニーチェ道徳理論の借用・一命題一真偽値説の功罪・可能性を数えつくすこと・カラスのパラドックス、グルー、その他・「囚人のジレンマ」と哲学・保守思想と19世紀英国の思想家達・建築の哲学・神の存在論的証明の現代的意義・教育哲学、その十原理

**履修上の留意点** 最低限の常識的なルールを守ってもらい、あとは、興味に応じて講義を聞く事を”楽しんで”もらいたいと思っています。

**成績評価の方法** 成績は、出席等による平常点(約3分の1)、前・後期試験および夏休み明け提出のレポート(約3分の2)によって評価します。特に、2度の試験とレポート提出の3条件を満たさない場合、単位は出ません。追試験は、本年度は行わない予定。

**教科書等** 久保・河谷編、麻生ほか著『原典による哲学の歴史』(公論社刊) 3200円

講義に必要なものは、原則としてコピーを配布します。他に読むべきものは、講義中において詳細に紹介するので、自己の興味に合わせて読み進められたい。また、麻生著『ジョン・デューイにおけるプラグマティズムの真理観の研究』(コンテンツ・ワークス社「ブック・パーク」によるインターネットのオン・デマンド出版)は、講義の内容に直接に関係するものとしてご紹介します。

**その他** 大学という学問の場においては、講義内容を聞いて理解し、内容を記憶するだけでは、十分ではありません。自分で検討し、疑い、考えることが絶対に必要であると考えます。そのために、自分で本を読んだり、調べたりという作業が加わるでしょう。意欲ある取り組みと、徹底的に自分の頭で考える姿勢を求めます。

初日はガイダンスとし、定時に開始し、5分間程度、資料を配布して質問を受け付けます。(その間は、雑談的内容にあてる予定で、退出自由。)この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。このガイダンス資料および質問受付は、初回授業終了時5分程度にも行います。

履修コード	343101
科目名	哲学〔西洋思想の源流〕 - フレックスB開講 -
担当者名	滝沢 正之

**講義のねらい** 西洋哲学史を古代から中世にかけてを中心で紹介する。時間があれば、続けて近世から現代へと時代順に進んでいくことになる。

ただし、書店で手に入る哲学史の入門書のように、哲学者たちの思想をダイジェスト版で紹介することはしない。哲学者本人が書いたテキストそのもの(翻訳ではあるが)を実際に読んでいくことにしたい。もちろんすべてを精読するわけにはいかないので、諸著作の一部を抜き出して検討することになる。

本物の哲学者の本物の哲学書から、哲学的な思考とはどのようなものかを実感することを目標とする。それと同時に、はるか昔の頭のよい?人たちがどんな変なことを考えていたのかを楽しんでいきたい。

**講義の内容・授業スケジュール** 下に指定した教科書『原典による哲学の歴史』の原典の引用部分を丁寧に読み、解説していく。適宜プリントで補足を行う。

最初から順に読んでいく予定なので、授業スケジュールは教科書の目次を参照されたい。おおまかな目安としては、前期にタレスからプラトンまで、後期にアリストテレスからペーコンまでを検討することになると思われる。

**履修上の留意点** 教科書を必ず入手しておくこと。

**成績評価の方法** 中間試験および期末試験により評価する。中間試験はレポートにする予定。期末試験は筆記。受講者の人数が少ない場合は出席をとり、それも評価に加味したい。

**教科書** 久保・河谷編『原典による哲学の歴史』(公論社)

**参考書等** 授業中に適宜プリントを配布する予定。

講義中に適宜指示する。

履修コード	343201
科目名	哲学〔近代の人間観と世界観〕 - フレックスB開講 -
担当者名	伊古田 理 <small>いこた まさる</small>
講義のねらい	現代文明の形成にあたって中核をなした思想である、近代ヨーロッパ思想を紹介し、その問題点を探る。今年度は、特に「文科系と理科系」について検討する。現代のわれわれにとって、文科系と理科系との区分、およびそれと関連した「科学的思考」とそうでないものとの区別は、すっかり日常的になったが、しかしこれは近代以降の文化的産物なのである。この発想の特性と問題点を探ることが、本年度の課題である。
講義の内容・授業スケジュール	(1)～(3)プラトンと数学の問題 (4)～(6)アリストテレスと「実践知」 (7)～(9)ヨーロッパ中世におけるアリストテレス受容 (10)(11)F. ベーコンと「新しい知」 (12)～(14)デカルトの問題(1) (15)夏期中間試験 (16)～(18)パスカル・ヴィーコ・ヘルダー (19)～(23)カントにおける「知」の問題 (24)ドイツ・ロマン派における「知」 (25)～(27)ニーチェの思想 (28)～(30)歴史学をめぐって
履修上の留意点	本学で開講される「哲学」には内容の異なるいくつかの講義がある。履修に当たっては、講義内容をよく確認すること。
成績評価の方法	夏期中間試験と冬期定期試験の成績の平均点を素点とし、100点満点での素点に対する失点の一定割合を、夏期レポート課題によりカバーする。
教科書	久保他編『原典による哲学の歴史』(公論社)

履修コード	343301
科目名	哲学〔現代文明と人間〕 - フレックスB開講 -
担当者名	鈴木 聡 <small>すずき さとる</small>
講義のねらい	本講義では、現代哲学の重要問題を扱った素材を叩き台として、1つの問題をとことん考え抜くという態度を受講者が身につけるための機会を提供したい。
講義の内容・授業スケジュール	(1) プロローグ・(2・3) 現実と幻・(4) 確率の解釈・(5・6) 記憶と知覚・(7・8) 真実の多面性・(9・10) 日常的描写と科学的描写・(11・12) 論理の本質・(13・14) 音と科学的描写と日常的描写・(15・16) 知覚と思考・(17・18) 他我問題・(19・20) 同一性・(21・22) 言語と行為・(23・24) 本物と像・(25・26) 感覚についての諸説・(27・28) 時間論・(29・30) 「心の中」はないということ。
履修上の留意点	欠席・遅刻は一切認めない。必ず予習をして講義に出席すること。
成績評価の方法	成績は、出席状況・講義中の質問によって評価する。
教科書	開講時に指定する。

履修コード	209601
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	鈴木 聡 <small>すずき さとる</small>
講義のねらい	論理学の初歩の講義を、できるだけ丁寧にわかりやすく行う。我々は、日常生活において様々な文を用いて様々なタイプの推論を行う。多種多様な姿を持つ文にも、実は或る一定の構造が存在する。その構造を見極めることが論理学の課題である。また多種多様に見える推論にも、実は或る一定のタイプが存在する。この推論のタイプについての研究が論理学の主要課題である。論理学の習得は、正しい推論結果を導出するために、すべての学問において重要なことである。
講義の内容・授業スケジュール	(1) プロローグ・(2) 文論理における文の記号化・(3) 文論理の言語・(4～7) 文論理の意味論・(8～14) 文論理の統語論・(15) 中間試験・(16・17) 第一階量化論理の基本概念・(18・19) 第一階量化論理の言語など・(20・21) 多重量化・(22～29) 第一階量化論理の統語論・(30) 期末試験。
履修上の留意点	欠席・遅刻は一切認めない。
成績評価の方法	成績は、中間試験・期末試験・小テスト・出席点で評価する。
教科書	配布プリント
その他の	本講義は、講義→小テスト(チュートリアル)→前回の講義の復習→小テストの解説→…という形式で行う。

履修コード	209701
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	山口 祐弘 <small>やまぐち まさひろ</small>

講義のねらい  
講義の内容・  
授業スケジュール

論理学の基本思想を学ぶことによって、正しく思考し語る態度を身につける。

前期

- ①論理学の課題と目標
- ②思考の基本原則、同一律・矛盾律・排中律・理由律
- ③伝統的論理学と弁証法
- ④論理的思考の要素、概念・判断・推理
- ⑤推理の方法、直接推理
- ⑥推理の方法、間接推理
- ⑦蓋然的推理、帰納と類推
- ⑧誤謬論
- ⑨パラドックス
- ⑩論理と科学

後期

- ①記号論理学の起源
- ②命題論理学
- ③命題関数と真理表
- ④標準形
- ⑤命題論理の公理体系
- ⑥体系の無矛盾性と完全性
- ⑦命題の内部構造
- ⑧述語論理学の基本概念
- ⑨定理の演繹
- ⑩伝統的論理学の記号化

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

日常の思考と言語表現における論理性に注意をむけること。  
中間および期末試験による。  
山下太郎「新しい認識の論理」、公論社

履修コード	209801
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	河谷 淳 <small>かやたに あつし</small>

講義のねらい

ゼミ発表や就職活動において自分の考えを文章や口頭で表現するような場合、そこでは一定の「流れ」が要請されている。また、友人との何気ない会話にしてみても、反省してみるならば暗黙の前提命題からの「流れ」の帰結であることに気づく場合がある。アリストテレス以来の歴史を持つ論理学とはそうした前提から結論への妥当な「流れ」（推論の形式）とはどのようなものであるのかを考える学だと言える。この授業の目的は、「論理的である」とは一体どういうことなのかを考え、さらに、練習問題を解くことで様々なタイプの推論の妥当・非妥当性を判定するトレーニングをつんでもらうところにある。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期：伝統的論理

- 序論(1,2)
- (a) 論理学の基本概念（概念・命題・推論）(3,4)
  - (b) 演繹推理（定言・仮言三段論法の妥当性の判定）(5~9)
  - (c) 帰納推理（ミルの方法、仮説演繹法）(10~12)
  - (d) 虚偽論(13~15)

後期：現代論理（記号論理）入門

- (d) 命題論理（日常言語の記号化と推論の証明）(16~22)
- (e) 述語論理（日常言語の記号化と推論の証明）(22~)

履修上の留意点

継続して授業に出席することは言うまでもなく、毎回の授業内容を積極的に復習することが望ましい。

成績評価の方法

前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験（40点満点×2）ならびに出席状況との総合点によって評価する。



履修コード	209901
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	滝口 清栄

- 講義のねらい 私たちはさまざまな情報のうずのなかで生活している。これら多岐に及ぶ情報の伝達と表現は言葉によって行なわれている。また送り手も受け手も思考を通して情報に関わっている。この渦の中で私たちは納得したり、あるいは納得しなかったりする。こう見るならば、私たちは言葉と思考のあり方に敏感になるのではなからうか。ひとたびこの点に注意を払うようになると、日常生活そしてさまざまな学問的な営みの基礎として、論理学が大切なものと思えるであろう。本講義では、思考の基礎をしっかりとしたものとし、思考の諸法則が身につくよう心がける。
- 講義の内容・授業スケジュール 教科書はおもにそれぞれのテーマの理解を得るために使い、練習問題をそのつど配布する。形式論理学に重点をおいて授業を進めていく。  
前期では、実際に文章を論理的に解説する練習をおこない、そのあと、論理的虚偽について、概念、定義と分類、命題、演繹推理（定言三段論法、仮言三段論法など）、帰納推理、記号論理初歩を扱う。
- 履修上の留意点 理解を深めるために練習問題をできるだけ多く解いて、論理的な思考回路が身につくように工夫する。出席を重視する。
- 成績評価の方法 年間5回の小テストをおこなって、成績を出す。したがって、追試験はおこなわない。
- 教科書 山下太郎他著『新しい認識の論理』（公論社）3,200円

履修コード	210001
科目名	論理学〔知の技法〕
担当者名	伊古田 理

- 講義のねらい 本講義は、文科系の文章技術について解説し、かつトレーニングを試みる。すなわち、あるテーマについて、文献を集め、読み、考え、そのうえで自分の考えを文章としてまとめるといった一連のプロセスについての実際的なノウハウの習得を目標とする。
- 講義の内容・授業スケジュール (1)(2)「論理的」とはどういうことか (3)主張文の基本構成 (4)～(6)問題設定のしかた (7)～(9)根拠づけの考えかた (10)～(13)結論のつけかた (14)～(16)論証の基本原則 (17)(18)文献を使って文章を書く(1)－その意義 (19)～(22)文献を使って文章を書く(2)－文献を読む (23)～(28)文献を使って文章を書く(3)－文章を書く (29)(30)文章作成の倫理
- 履修上の留意点 以下の「成績評価の方法」でも触れてあるが、この授業は基本的に講義スタイルですすめてゆくが、それと平行して、数回のレポート課題を出す。そして、この提出したレポートを材料に授業を進めるケースも少なくない。したがって、レポート課題がこなせないという意識をもつ諸君には受講をすすめたくない。
- 成績評価の方法 最終的に本講義で扱ったテーマに対する諸君の考えをまとめた原稿用紙20枚程度のレポート試験（1月定期試験時提出）によって判定。このほか、随時課する小レポート（内容要約、など：期日厳守）をプラス材料として考慮する。定期試験はいっさい実施しない。
- 教科書 本年度は、テーマとして「道徳の理由（なぜ道徳なんてものに従って行動しなければならないのか）」をとりあげる。  
教科書：大庭他著『なぜ悪いことをしてはいけないのか』（ナカニシヤ出版）  
副読本：野矢茂樹『論理トレーニング』（産業図書）  
そのつど指示する。
- 参考書等 上記教科書のテーマに対する関心を予めそなえていることは、必ずしも前提しない。しかし無関心でいつづけることはできない。自分で興味をみつめてゆくつもりで授業に臨んでほしい。

履修コード	210101
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕
担当者名	鈴木 聡 <small>すずき さとる</small>

**講義のねらい** 論理学の初歩の講義を、できるだけ丁寧にわかりやすく行う。我々は、日常生活において様々な文を用いて様々なタイプの推論を行う。多種多様な姿を持つ文にも、実は或る一定の構造が存在する。その構造を見極めることが論理学の課題である。また多種多様に見える推論にも、実は或る一定のタイプが存在する。この推論のタイプについての研究が論理学の主要課題である。論理学の習得は、正しい推論結果を導出するために、すべての学問において重要なことである。

**講義の内容・授業スケジュール** (1)プロローグ・(2)文論理における文の記号化・(3)文論理の言語・(4～7)文論理の意味論・(8～14)文論理の統語論・(15)中間試験・(16・17)第一階量化論理の基本概念・(18・19)第一階量化論理の言語など・(20・21)多重量化・(22～29)第一階量化論理の統語論・(30)期末試験。

**履修上の留意点** 欠席・遅刻は一切認めない。  
**成績評価の方法** 成績は、中間試験・期末試験・小テスト・出席点で評価する。  
**教科書その他** 配布プリント  
 本講義は、講義→小テスト(チュートリアル)→前回の講義の復習→小テストの解説→…という形式で行う。

履修コード	210201
科目名	論理学〔知の技法〕
担当者名	小島 優子 <small>こじま ゆうこ</small>

**講義のねらい** 論理力は、自分の考えていることを他人に納得のゆくように筋道立てて説明するさいに、必要となる。そして論理的に文章を書くためには、論理学の構造を学ぶだけではなく、論理学の問題練習を行うことが必要である。そのために講義では毎回、問題演習を行う。いわゆる悪文と良文とはどこが異なるのか。わかりやすい文章、論理的につじつまの合う文章を書くために必要な事柄は何であるのか。講義では毎回、参考となる文章を取り上げて、論理的な文章を書き、論理的な構造を把握し身につけるためのトレーニングを行う。最終的には、論理的な力を身につけ、レポートや論文を書くための力を身につけることを目標とする。

**講義の内容・授業スケジュール**

- 1 ガイダンス 論理学とは何か
- 2 さまざまな接続関係
- 3 接続の構造
- 4 議論の組み立て
- 5 論証の構造と評価
- 6 演繹と推測
- 7 価値評価
- 8 否定
- 9 条件構造
- 10 推論の技術
- 11 批判への視点
- 12 論文を書く

**履修上の留意点** 論理力を身につけるためには、論理力トレーニングが必要となるので、講義に出席することが大事である。このために出席を重視する。

**成績評価の方法** 一回の定期試験(中間試験)と、一回の年度末レポート、および平常点(授業時に適宜与える課題)で評価する。定期試験とレポート、平常点とで必要とされる点を満たさない場合には、追試験を認める。

**教科書** 野矢茂樹『論理トレーニング』(産業図書)  
**参考書等** そのつど指示する。

履修コード	343401
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕 - フレックスB開講 -
担当者名	伊古田 理 <small>いこた まさる</small>

講義のねらい	現代論理学の内容を、「ことばの正しき」のうちで「推論の正しき」のかたちづくる領域がどのようなものかを考えることにより、紹介してゆく。 具体的には、「推論の正しき」の領域がどのようなメカニズムで機能しているかを習得することを第一の目標として、そのうえで（時間の許すかぎり）こうした領域の位置づけについて論ずることにした。
講義の内容・授業スケジュール	(1)論理とはなにか (2)~(6)三段論法 (7)~(12)命題論理(1)-命題論理の意味論 (13)夏期中間試験 (14)~(19)命題論理の「証明」 (20)~(25)述語論理(1)-述語論理の記号表記 (26)~(30)述語論理(2)-述語論理の「推論」
成績評価の方法	年2回の試験（夏期中間試験+年度末定期試験）を実施し、それとは別に各学期にそれぞれレポート課題（年間通して計3回）を出す。これらによって総合的に評価する。
教科書	野矢茂樹著『論理学』（東京大学出版会）

履修コード	343501
科目名	論理学〔科学方法論と現代論理学〕 - フレックスB開講 -
担当者名	麻生 享志 <small>あきお たかし</small>

講義のねらい	西洋哲学の中で、論理学は常に大きな位置をしめてきた。論理とは何か、正しさをどう説明すればよいか、真理をどのようなものとするか、といった問題の考察に、「論理学」は欠かせない。このような「論理の本性への考察」には、古代ギリシャの哲学者、アリストテレスの論理学を知る必要がある。彼の論理学には、当時の学問がおかれた状況が強い影響を与えていたと考えられる。その後、自然科学の発達によって学問状況は変化した。その変化に対応する形で論理学の変革も試みられた。さらに、二十世紀に入って、数学研究と論理学研究の交流・接触が考えられるようになる。このように論理学は変化の歴史を持つ。そこで（1）論理とは何かを考え、（2）変化する論理学の各内容についての知識を持ち、（3）日常生活における論理の活用について、自分で考えることの手引きを与えることをねらいとします。
講義の内容・授業スケジュール	(1-7) 概説・文献・古代・ゼノン・歴史・推理小説・日常性 (8-13) 逆接・クイズ・数理・パズル・記号・真理函数 (14-22) 原理・充足理由・矛盾・排中・演繹・背理・推理・偽・逆 (23-30) 後件肯定・科学・帰納・実験・方法・諸学・真理・まとめ
履修上の留意点	大学という学問の場においては、講義内容を聞いて理解し、練習問題をこなし、内容を記憶するだけでは、十分ではありません。自分で検討し、疑い、考えることが絶対に必要であると考えます。そのために、自分で本を読んだり、調べたりという作業が加わるでしょう。意欲ある取り組みと、徹底的に自分の頭で考える姿勢を求めます。
成績評価の方法	平常点として、出席と、講義中に行う問題や論述を主な評価材料（60%）にし、前期・後期試験・夏休みのレポート成績を加味します。追試験は本年度は行わない予定。
教科書等 参考書等 その他	なし。 多数。講義内にて詳細に説明します。 講義と問題演習（ないし論述筆記）。早退は、許可のない限り認めません。主体的な質問を大いに歓迎し、期待します。初日はガイダンスとし、定時から五分間程度、または正規の終了時刻前五分間に資料を配布して質問を受け付けます。（ガイダンス後は、雑談的内容にあてる予定です。この間、入退出自由。）この時配布する資料は、履修に必要ですので、何らかの方法で必ず入手するようにして下さい。

履修コード	210601
科目名	倫理学〔人間観〕
担当者名	古田 知章 <small>ふるた ともあき</small>

**講義のねらい** われわれは、社会の中で、一人の人間として、さまざまなものを「よい」あるいは「悪い」と判断しながら生活している。逆に言うと、この判断なしにわれわれは生きていくことができない。では、このような倫理的生活を送っているわれわれ人間とは何者であろうか。日常、われわれは「人間」という言葉、あるいは、「自分が人間である」という事態を自明なものとして扱っている。しかし「人間とは何か」と問われたとき、さまざまな問題が浮かび上がり、簡単には解答に到達できない。西洋の思想的領域では、この問いに対して、その時代の社会的状況や思想的背景との関連のもとで、さまざまな解答、そして、われわれ自身の生きる目標としての人間観が提示されてきた。現代に生きるわれわれが、自らが人間であることの意味を問い直すとき、これらの諸説を一度、検討することは有意義であると考えられる。

**講義の内容・授業スケジュール** 教科書を利用し、以下の内容を取り上げる（各項目ごとに、2～4回の講義を行い、Iを前期、IIを後期で扱う予定）。

- I. 人間観の形成の歴史とその伝統
  1. 人間と倫理 一人間であるために―
  2. 古代ギリシア思想における人間観の諸相
  3. 中世キリスト教思想における人間観
  4. 人間観の転換 ―ルネサンス・宗教改革―
- II. 新しい時代の人間観
  1. 出発点としてのデカルト《思惟する私》
  2. 自己の内面性と他者の問題
  3. 人格 ―ロックを手がかりに―
  4. 人間存在と自由

**成績評価の方法** 二回の定期試験（中間試験、年度末試験）と平常点（出席状況、夏期レポート等）で評価する。  
**教科書** 『原典による哲学の歴史』（公論社）  
**参考書等** 講義の際にその都度紹介する。

履修コード	210701
科目名	倫理学〔応用倫理学〕
担当者名	黒崎 剛 <small>くろさき つよし</small>

**講義のねらい** 「倫理」というのは、人間が世界の中で、世界に対して振る舞う上にさいして基準とする「規範」―「価値」や「義務」、「習慣」といった―の正当性を問うものである。だから「倫理学」というのは、自分が行動するに際して自覚的・無自覚的にとっている規範が半端なものではないか、みずから検証するという課題を持っている。ところで、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものともみなしていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしている。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動にともなって提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。

**講義の内容・授業スケジュール** 「生命倫理」の諸問題のうち、以下のテーマを取り上げる予定

1. 生命の倫理―講義の課題概説
2. 「インフォームド・コンセント」：自己決定の思想
3. 人工妊娠中絶
4. 安楽死と尊厳死
5. 脳死と臓器移植
6. 「生殖革命」―人工生殖の現状と問題点
7. 遺伝子操作論

**履修上の留意点** 課題はすべて現在進行形のものばかりなので、受講生にも起りつつある問題に絶えず嗅覚を働かせる態度を望む。

**成績評価の方法** レポートおよび学年末試験を中心に、受講態度、出席を加えを総合評価。  
**教科書** 教科書はプリントを使用。参考書は教場で紹介する。

履修コード	210801
科目名	倫理学〔価値観〕
担当者名	久保 陽一

講義のねらい 今日、例えば、自然環境保護をめぐる、生物に対して「固有の価値」を認めるか、人間にとって有益な「道具的価値」のみを認めるかが、議論されている。倫理思想では常に何が善で何が悪か、何が「価値」あるものかが問題とされている。そこで本講義では古今東西の倫理思想における価値観をとりあげ、その流れを捉えることにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 仏教、儒教、老荘思想、古代ギリシア哲学、キリスト教
- 2 近代哲学（カント、経験論・功利主義、ヘーゲルなど）の価値観
- 3 現代の環境倫理学など

履修上の留意点 私語をつつしみ、よくノートを取る。講義内容の疑問点は率直に問うこと（随時、質問表を配る）。

成績評価の方法 出席の割合、中間と期末の試験、レポート

教科書 久保・河谷編「原典による哲学の歴史」（公論社）

参考書等 授業中に紹介する。

履修コード	210901
科目名	倫理学〔応用倫理学〕
担当者名	滝沢 正之

講義のねらい 倫理学の一部門、応用倫理学について、その基本構成、重要な成果、さらには限界を探っていく。我々の人間的な生にとって、なにが善いことでなにが悪いことなのか、といった道徳的な価値判断は本質的な契機をなしている。しかし、社会が複雑化し科学技術が極度に発展した現代においては、そのような価値判断のよりどころが判明でないような場面が多々出現するようになっている。物事の根本に立ち戻って哲学的に思考することによって、そのような場面に一定の見通しを与えることを試みる。

講義の内容・授業スケジュール

- [1回～5回] 倫理学とはなにか（倫理学の基本概念を紹介する。）
- [6回～10回] 応用倫理学とはなにか（応用倫理学の哲学史的な位置づけなど。）
- [11回～15回] 生命倫理学の諸問題（中絶の問題、安楽死の問題、臓器移植の問題など。）
- [16回～20回] 環境倫理学の諸問題（地球温暖化の問題、希少動物保護の問題など。）
- [21回～25回] その他の諸問題（戦争における倫理、企業活動の倫理など。）

履修上の留意点 講義が中心になるので、きちんと出席してノートをとらないと理解が深まらない。適宜プリント等で復習を行うが、この点について注意されたい。

成績評価の方法 学年末試験を行う。その他に、講義中に提出してもらった課題を評価の対象とする。具体的には中間レポート等を考えている。出席については受講者数をみてとるかどうかが決める。

教科書 講義中に適宜指定する。

参考書等 久保陽一、河谷淳編著『原典による哲学の歴史』、公論社、2002年、3、200円。  
その他のものについては講義中に適宜指定する。

履修コード	211001
科目名	倫理学〔制度とモラル〕
担当者名	<small>たきぐち きよaki</small> 滝口 清栄

**講義のねらい** 人間は古くから共同体を作り、さまざまな社会的・政治的制度を生みだしてきた。そこには時代により、地域により違いが見られる。そこにはまた人間のよりよいあり方とよりよい社会的・政治的制度のあり方をめぐり、絶えることのない思想的な営みがあった。どのような時代でも人間はこの営みをやめることはなかった。私たちの社会は今どのような方向に進んでいくのか。いろいろと考えざるをえない。以上の思想的営みを歴史的視野の中で振り返る。それは、今日の問題を考えていく上でも大切な土台となるであろう。

**講義の内容・授業スケジュール** 本講義では、西洋倫理思想史のなかで古代、近代、現代から主要な思想をピックアップし、人間観の特徴と、人間のよりよき生を可能にするよりよき制度をめぐる思索のあとを検討する。制度はもちろんそれを担う人間を必要とする。ここにモラルの問題が関わる。時代的な違いを背景において以上の問題を検討していく。

**履修上の留意点** こまかなスケジュールについては開講時にスケジュール表を配布するが、おおまかに、前期には、古代ギリシア、中世、近代初頭までの諸思想を、後期には、近世、近代のイギリス、フランス、ドイツの諸思想を検討する。

**成績評価の方法** 講義は平明を心がける。ノートをよくとってほしい。ときどき質問用紙を配るので、不明な点について質問を出してほしい。

**教科書** 中間テスト（前期の最終授業時）と学年末試験により成績を評価する。追試験は実施する。  
久保陽一・河谷淳編『原典による哲学の歴史』（公論社）3,200円

履修コード	211101
科目名	倫理学〔東洋倫理〕
担当者名	<small>すえき やすひこ</small> 末木 恭彦

**講義のねらい** 倫理学は、人の行為の規範を考える学問である。主として西洋の哲学の一部門として発達した。それに相当する思索は東洋の伝統的思想の中に生まれていた。近代に至って、西洋の学問の影響下、東洋の伝統を生かそうとする試みが行れた。そのような東西のはざままで苦心して考えられた、東洋の倫理思想を紹介し、我々自身の倫理思想を獲得する一助としたい。

**講義の内容・授業スケジュール** 今年は、近代日本の哲学者・倫理学者である和辻哲郎の倫理学を紹介する。和辻倫理学の中でも『人間の学としての倫理学』を取り挙げて、一年かけてじっくりと読みたい。

**履修上の留意点** (1) ガイダンス (2) 和辻哲郎について (3～8) 第一章一節～四節について (9) 第一章五節 (10～17) 第一章六節～十一節について (18～28) 第二章について (29～30) まとめと質疑応答

**成績評価の方法** ノートをしっかり取る。  
各学期末の試験と夏期休暇のレポートによって成績をつける。追試あり。

**教科書** 和辻哲郎『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）（岩波全書版でも可）

和辻哲郎『倫理学』（一）～（四）（岩波文庫）

湯浅泰雄『和辻哲郎－近代日本哲学の運命』（ちくま学芸文庫）

坂部恵『和辻哲郎－異文化共生の形』（岩波現代文庫）

荻部直『光の領国 和辻哲郎』（創文社）

履修コード	211111
科目名	倫理学〔応用倫理学〕
担当者名	黒崎 剛

講義のねらい 「倫理」というのは、人間が世界の中で、世界に対して振る舞う上にさいして基準とする「規範」—「価値」や「義務」、「習慣」といった—の正当性を問うものである。だから「倫理学」というのは、自分が行動するに際して自覚的・無自覚的にとっている規範が半端なものではないか、みずから検証するという課題を持っている。ところで、科学技術、そして最近の生命科学の驚異的な発展によって、私たちがこれまでまったく自明のものともみなしていた多くの「価値」「規範」がその地位を失おうとしている。そこで、この授業では、生命科学と医療の分野でここ二、三十年の間に起った変動にもなつて提起されてきた問題を取り上げる。すなわち「生命倫理」をテーマとする。

講義の内容・授業スケジュール

「生命倫理」の諸問題のうち、以下のテーマを取り上げる予定

1. 生命の倫理—講義の課題概説
2. 「インフォームド・コンセント」：自己決定の思想
3. 人工妊娠中絶
4. 安楽死と尊厳死
5. 脳死と臓器移植
6. 「生殖革命」—人工生殖の現状と問題点
7. 遺伝子操作論

履修上の留意点

課題はすべて現在進行形のものばかりなので、受講生にも起りつつある問題に絶えず嗅覚を働かせる態度を望む。

成績評価の方法  
教科書

レポートおよび学年末試験を中心に、受講態度、出席を加えを総合評価。  
教科書はプリントを使用。参考書は教場で紹介する。

履修コード	211201
科目名	宗教学〔比較宗教文化〕
担当者名	池上 良正

講義のねらい 宗教学という学問は、そもそもの出発点から比較宗教学という性格をもっていた。そこでは「ひとつの宗教しか知らない者は、いかなる宗教をも知らない」（マックス・ミュラー）という信念が前提になっていた。「国際化」が進む今日の世界において、異なる社会に育った人々の生活の基盤を形づくってきた宗教文化の相互理解は、ますます重要な課題となっている。

本講義では、宗教学の基本的な視点を紹介しながら、いくつかの具体的な研究成果を学ぶことにする。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、近代宗教学の成果をふまえて、私たちの日常の身近な出来事に引き寄せながら、「宗教」を理解する広い視点を提示してみたい。後期は、多くの日本人には馴染みが薄いものの、現代世界を理解するうえでは欠くことのできない、「一神教」という特異な宗教が成立した過程を考察し、その特性に迫ってみたい。

履修上の留意点

積極的に「学ぶ」意欲をもって授業に臨むこと。

成績評価の方法

年度末に筆記試験を行なう。

教科書

特に指定しない。

参考書等

『岩波講座・宗教』（全10巻）（岩波書店）。『エリアーデ著作集』（せりか書房）。脇本平也『宗教学入門』（講談社学術文庫）。加藤隆『新約聖書の誕生』（講談社）。ランジュ『ユダヤ教とはなにか』（青土社）。板垣雄三『イスラーム誤認』（岩波書店）。

履修コード	211301
科目名	宗教学〔聖と俗〕
担当者名	田中 <small>たなか</small> かのこ <small>かのこ</small>

**講義のねらい** ありのままの世界には「聖」も「俗」もなく、あるがままに続けられてゆくその営みがみられるばかりである。そこにあえて「聖と俗」といった対立概念をみるのは、変化し続ける多様な現象の動きを把握しきれない人間の焦燥感が、二分法という遠心分離機を欲するから、ともいえる。人類の精神史において展開してきた各宗教の分立を観るにつけても、深く知れば知るほど、「～教」と「～教」を隔てる壁の存在に疑問を抱かずにはいられなくなる。一見、相違するようにみえる諸宗教の教義・儀礼・生活共同体の掟にも、歴史的な相関性があり、言語や民族の絆は、信仰の違いを超えて、多様な文化圏を形成している。さらに「いのち」の尊厳を守るための真摯な祈りはどれも、学問的に定義された「宗教」概念では捉えきれない、普遍的で深遠な思想を内に秘めている。ゆえに本講では、従来の宗教学が呪縛されてきた既存の宗教分類（例：「一神教と多神教」「世界宗教と民族宗教」）から出発せずに、最も根源的で身近な「いのち」をめぐる人間の畏れ・感謝・願いをテーマにしながら、「宗教」を考える。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期（1～15）は、ほかならぬ自らの「いのち」に気づき、その表現・解釈・ゆくえ・価値観などについて考えることに重点を置き、後期（16～30）は、ゾロアスター教、ユダヤ教、キリスト教、イスラーム、シーク教、ヒンドゥー教、ジャイナ教、仏教、儒教、道教、神道の歴史・思想・文化における「いのち」について、教科書を縦横に駆使しながら探究する。

**履修上の留意点** 既存の知識で示せる情報の範囲をはるかに凌駕した、真実の豊かさに眼を開いてほしい。  
**成績評価の方法** 独創性と応用力を発揮できる、論述式のレポートと学年末試験（追試なし）。  
**教科書その他** 拙著『比較宗教学―「いのち」の探究―』（北樹出版）2007年、改版（第3刷発行）  
 講義担当者の現地調査によるスライドや録音テープを活用する。

履修コード	211401
科目名	宗教学〔世界観と儀礼〕
担当者名	小川 <small>おがわ</small> としゆき <small>としゆき</small> 順敬

**講義のねらい** 人間の“宗教行動”を理解することはなかなか困難な作業です。目に見えぬものに語りかけたり、その声に耳をそばだてたり、時としてその声を代弁したりすることを一体どのように分かれば良いと言うのでしょうか。祈りやお告げといった“宗教行動”は、信仰を持たぬものにとっては全く理解不可能な事なのでしょうか。宗教学は、そういった行動を信仰者の立場からではなく、“人間の行動”として、その背後の考え方を探ることによって理解しようと努めてきました。

この講義では、宗教学の立場から儀礼（宗教行動）とその世界観について考えていこうと思います。一見、不可解な行動に見えても、その背後の世界観を知ることによって、宗教行動の意味をいささかでも理解する端緒が開かれるはずです。

**講義の内容・授業スケジュール** まず最初に、宗教学の基本的な考え方や方法論、いくつかの基本概念などを具体事例にそって概説、紹介します。この際、儀礼に関する議論や理論を、宗教学や宗教人類学、あるいはもう少し広く社会科学や人文学の中から紹介する予定です。ついで、様々な儀礼の諸相を具体例をあげて紹介し、その事例の検討を通して、思想や世界観、神話との関係について考えてゆくことにしたいと考えています。

**成績評価の方法** 評価は原則として、年数回の「小試験」（出席点として処理します）および夏期レポート（前期試験に相当します）、年度末の筆記試験により行います。成績評価の具体的な方法、レポートの課題、年度末試験の方針、出席点評価等は最初の授業で詳しく説明します。

**教科書** 原則として教科書は用いません。  
**参考書等** 講義の内容に関連する参考書は適宜紹介します。



履修コード	211501
科目名	宗教学〔日本人の宗教〕
担当者名	矢野 秀武 <small>やの ひでたけ</small>

**講義のねらい** 宗教というものを語り理解するには様々な方法がある。宗教学はその1つである。また宗教学の中にも宗教に対しての異なる見方がある。本講義では、宗教学における多様な見方を理解するとともに、特に宗教人類学や宗教社会学、宗教思想研究といった見方を通じて日本の宗教についての基礎的な知識を学んでもらいたい。

**講義の内容・授業スケジュール** 前半はおもに、日本の諸宗教の概説、冠婚葬祭といった儀礼・民俗宗教とその変化を中心に取り上げ、宗教人類学・宗教社会学の視点から解説を加える。後半では、宗教の思想的な側面にも触れながら、ひきつづき日本の諸宗教の概説を行なう。

**成績評価の方法** レポートと年度末の筆記試験を総合して評価を行なう。レポートは夏期休暇前に課題を提示する。レポートや試験形式、その他授業の基本的な約束事は、初回の授業で述べる。

**教科書** なし

**参考書等** 授業時に随時紹介する。

履修コード	211511
科目名	宗教学〔生活と宗教〕
担当者名	菅原 壽清 <small>すがわら としきよ</small>

**講義のねらい** 人間の精神世界の根源にあって人びとの生活を支える宗教文化の理解は、現代社会においても不可欠な問題であると思われます。そこで、本講義では宗教人類学の視点から、「生活と宗教」というテーマで、人びとの宗教的営みについてとらえてみたいと思います。

授業は講義形式とし、はじめに宗教学・宗教人類学についての基礎的な概説を行います。次に、日本を含めたアジアの多様な姿について、人々の宗教的な営みを中心に、その分布や特徴について述べます。さらに、日本と東南アジア、および中国の西南地域の人々の暮らしなどから、その宗教形態に注目して、仏教と民俗宗教との関係や、その展開過程について、それぞれの地域の具体的な事例を取り上げながら、展開したいと思います。

**講義の内容・授業スケジュール**

1. 宗教学・宗教人類学とは
2. 日本とアジア、その多様な姿
3. アジアの人々の生活と宗教
4. 日本の人々の生活と宗教

(隔年で、後期の授業内容を変えています。昨年度は、農耕儀礼と人生儀礼から、私たちに身近な生活と宗教を見てきました。今年度は、呪術と宗教、シャーマニズム、妖術などから、私たちの身近にある暮らしの中の宗教を捉えてみたいと思っています。勿論、宗教学の理論も押さえながら。)

**履修上の留意点** 講義では、調査で写した写真をプロジェクターなどを用いて映します。また、関連の写真をホームページでも公開しています。インターネットなどができれば、なお可です。さらに、DVDを用いて、授業に関連した映像も写します。広く、アジアの人々の暮らしに関心のある方は是非どうぞ。

**成績評価の方法** 試験+ $\alpha$ + $\beta$  (詳細は、講義の時説明)

$\alpha$  = 座席点 (ABCで、積極的な授業参加を評価します)

$\beta$  = レポート点 (課題や参考書に基づいて提出したレポートなど、積極的な授業参加を評価します)

**教科書** 特には、指定しません。

**参考書等** 『宗教学ハンドブック』(世界書院)  
講義において、そのつど参考書や文献を紹介します。

**その他** 講義ノートをプリントして配布します。また、学内LANでも公開の予定です。  
授業の方法—講義、ビデオ・DVD、プロジェクターによるスライドの映写など、ビジュアルな授業を展開したいと思っています。調査 Field Work に関心のある方 (社会・文化人類学、宗教人類学) 是非どうぞ。

履修コード	211521
科目名	宗教学〔民俗宗教の諸相〕
担当者名	星野 靖二

**講義のねらい** 本講座では、現代社会およびそこに生きる個人を、「宗教」という観点からとらえ、考える力を養うことをねらいとします。それは現代に生きている私たちの生活にどのような形で「宗教」が関わっているのかということについて自分の問題として考えることでもあり、またそれを可能にする方法と材料を提供していきたいと思ひます。

**講義の内容・授業スケジュール** [01] はじめに。[02～06] 現代社会における宗教：今、どのような形で宗教が問題になっているのかについて検討します。[07～11] 宗教学の考え方について：宗教学の基本的な考え方について概説します。[12～15] 世界の宗教：様々な宗教とその実践についての基本的な知識を確認します。[16～21] 日本における宗教の歴史：現代までの日本の宗教とその実践についての歴史を概観します。[22～29] 私たちと宗教：現代日本における宗教、特に民俗宗教の位置付けについて、毎回一つのトピックを取り上げて考察します。[30] おわりに。

**履修上の留意点** 講義内容についてのコメントカードを適宜提出してもらひます。  
**成績評価の方法** レポート（70点）とコメントカード（30点）によって評価します。また発言や質問など、積極的な授業参加は加点の対象とします。

**教科書** 特に使用しません。  
**参考書等** 棚次正和・山中弘編『宗教学入門』ミネルヴァ書房、2005  
 関一敏・大塚和夫編『宗教人類学入門』弘文堂、2004  
 島蘭進・福嶋信吉・葛西賢太・藤原聖子編『宗教学キーワード』有斐閣、2006  
 末木文美士『日本宗教史』岩波書店、2006

**その他** 詳細については、初回講義時に説明します。

履修コード	342401
科目名	宗教学〔比較宗教文化〕 - フレックスB開講 -
担当者名	田中 かのこ

**講義のねらい** 人間には実に様々な生き方・見方・考え方・信じ方があり、「いのち」あるうちに為しうることに、限りない可能性があるということを、諸宗教の比較は教えてくれる。わたくしたち自身も、そのなかの、かけがえのない一通りの人生を歩んでいる。「～教」や「～教徒」などというと、他の人々と区別しうる特徴をもっているかのように錯覚してしまうが、言うまでもなく、信仰者としての彼らが目指すのは、より善い「人間」としてこの一生を全うすることにほかならない。各宗教が人間にどのような有り方を望んでいるのかを、その伝統的な生活文化をとおして俯瞰し、いま、この世界のどこかで生きている、いまだ出会うことのない人々への共感を呼び覚ましてみたい。それが、誤解や偏見のない「人間」理解に繋がれば幸いである。

**講義の内容・授業スケジュール** 講義担当者の生活体験をともなう地域（インド・ヨーロッパ）を中心に、机上では知りえない、かならずしも教義一辺倒ではない信仰生活の多様性について解説する。前期（1～15）は諸宗教に共通する人間文化の特徴、後期（16～30）は各宗教の個性と他宗教との関係を念頭に置きながら、その時々の世界情勢を踏まえたトピックを臨機応変に選んでいく。

**履修上の留意点** 板書は、即興の覚え書きや、テーマの骨子を素描したものにすぎない。むしろ、講義の言葉や自分の考えに耳を傾けて、積極的にノートしよう。仏教と他宗教との関連性に注目。

**成績評価の方法** 出席状況、創意工夫や日本語の表現力を評価する課題レポート、学年末試験（追試なし）。  
**教科書** 拙著『比較宗教学―「いのち」の探究―』（北樹出版）2007年、改版（第3刷発行）  
**参考書等** 「いのち」の尊さや、異文化間の交流を扱ったもの（書物、映画など）なら何でも。

履修コード	212002
科目名	教育の思想
担当者名	豊田 千代子

**講義のねらい** 木と向き合って仕事をしてきた宮大工西岡常一の木の捉え方や弟子の育て方などに着目し、それらの検討をとおして、今日の社会や教育のあり方について考える。また、学びとは何か、それを生み出しているものは何かについても考えていく。

**講義の内容・授業スケジュール** (1) ガイダンス、西岡常一の生涯 (2) ビデオ視聴「木に学ぶ 宮大工西岡常一の技とこころ」 (3～5) 宮大工の仕事、西岡の木への捉え方 (6～8) 弟子小川三夫との関係、徒弟制度とその意味 (9～11) 小川とその弟子たち (12～14) 今日の社会・教育のあり方について、学びとは何か (15) まとめ

**成績評価の方法** 出席状況とレポートによる。  
**教科書** 初回の授業時に指示する。  
**参考書等** 適宜紹介する。

履修コード	212102・212202
科目名	教育の思想
担当者名	北村 三子

講義のねらい	教育という営みへの理解を深めつつ、近代的な教育思想・理念の性格を理解します。最終的には、教育思想や理念などをどのように実践にいかにしていかせるかを考えられるようになることを目指します。
講義の内容・授業スケジュール	人間の学びや教育を、生命としての営みのレベルから押さえ、次いで、前近代的な人間形成のあり方を対照項として近代教育の性格を論じます。特に、近代教育思想・理念との関連を見てゆきます。スケジュールは、おおむね、教育とは何か（1～3）、前近代の人間形成（4～6）、近代の人間形成（7～9）、近代教育思想とその役割（10～15）となります。
履修上の留意点	この科目は教職の専門科目ですので、新聞を読むなどして、日頃から日本の教育への関心を高めるようにしてください。
成績評価の方法 参考書等	出席状況とレポートによります。 教場で指示します。

履修コード	212302・212402・212702
科目名	教育の思想
担当者名	伊藤 茂樹

講義のねらい	私たちが今日知っている学校教育という営みは、近代という時代の到来とともに出現した制度であり、また近代社会を成り立たせる不可欠の制度でもある。この「公教育」のバックボーンとなった思想、歴史的経緯、その特色や社会的機能について概観し、今日の教育やそれが直面する諸問題について考えるための手がかりを探索する。
講義の内容・授業スケジュール	とりあげるテーマは以下の通り。 ・学校教育の本質と機能 ・近代日本における学校教育 (1・3) 学校教育という制度、(4・6) 学校という空間、(7・9) 学校教育の機能、(10・12) 外来の装置としての学校、(13・15) 立身出世と学歴主義
履修上の留意点 成績評価の方法 教科書	自分が通ってきた学校やそこで受けてきた教育について、批判的に再考する姿勢を求める。 学期末試験により評価する。 教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

履修コード	212502
科目名	教育の思想
担当者名	萩原 建次郎

講義のねらい	この授業では、第一に自分自身の教育体験のふりかえりを出発点として、「学ぶこと」「教えること」「生きること」の意味を考える機会をもちたい。第二に自己の体験と他者の体験を交流させながら、多様なものの見方を学ぶと共に、教育に対する自分の視点がどこにあるのかさぐっていききたい。第三に各自の体験知だけにとどまらずに教育学が蓄積してきた学問知（主に教育史・教育哲学）との交流によって、これまで暗黙のうちに了解してきた「教育目的」「学習」「人間の発達」などの意味について深く捉える感性と知性を養いたい。
講義の内容・授業スケジュール	① 自らの教育・学習体験をふりかえる―「学びのマップ」「私のライフライン」「学びの自分史」をつくる（1～4） ② 自己と他者との体験知の交流―「学びのマップ」「私のライフライン」「学びの自分史」を他の受講生と相互コメントを行う（5） ③ 教育をめぐる体験知と学問知との交流 （1）学ぶことの意味と構造（6～8） （2）教えることの意味と構造（9～12） （3）教える―学ぶ関係の前提にある子ども観・大人観（13～15）
履修上の留意点	この授業は講義だけではなく、受講者自身の作業が多く含まれる参加型学習になっている。よって授業の質は各自の積極的な参加姿勢に大きくかかわっていることを留意してほしい。また、コメントを毎回提出してもらおう。
成績評価の方法 教科書 参考書等	小レポート、作品の提出状況、授業への参加度、学期末レポートを総合して評価する。 特に使用しない。 そのつど紹介する。

履修コード	212602
科目名	教育の思想
担当者名	坂本 信昭

**講義のねらい** 民主主義的教育思想はルソー、ペスタロッチ、フレーベル、エレン・ケイ、デューイなど多くの思想家によって生み出され、継承されて今日に至り、教育思想と実践の面で多様な展開を示した。20世紀の教育思想を生み出し、継承することに貢献した思想家たちに教育思想・教育目的を概観することを手初めに、次のようなテーマを取り上げて進める。

**講義の内容・授業スケジュール**

- ・教育の理想と目的
- ・わが国の教育目的の変遷
- ・現代・社会の変化と教育目的
- ・その他（大村はま、林竹二などから学ぶものは何か）

**履修上の留意点** 授業の出欠は厳密にとる。

**成績評価の方法** 課題レポート、自主レポート、出席等により総合的に評価する。

**参考書等** 西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2，600円  
デューイ著『学校と社会』（岩波文庫）410円

**その他** この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

履修コード	343802
科目名	教育の思想 - フレックスB開講 -
担当者名	山本 敏子

**講義のねらい** 各自が教育についての見方、考え方を深め、現代の学校教育が抱える様々な問題を解決していくための力量を培っていくことを目指して、日本の公教育制度に影響を及ぼした西洋近代の教育思想への理解を深めるとともに、それが成立する以前に日本列島各地に息づいていた民衆教育思想を学んでいきます。

**講義の内容・授業スケジュール** 民衆教育思想の中でも、特に「しつけ」の思想に焦点を絞り、次のような柱立てで進めていく予定です。

（1）「教育基礎論」への招待（2）なぜ、「しつけ」を問うのか？（3）「教育」という概念のない社会（4～6）西洋近代教育思想の大きな流れ（7）近世の子育て文化の基層に流れる教育の思想（8～12）日本民俗学の発掘した「しつけ」の思想（13）欧米の学校管理論の移入と「しつけ」概念の変質（14）西洋近代の「discipline（規律・訓練）」と近代学校（15）まとめと討論

**履修上の留意点** 初回に受講者の皆さんと相談の上、演習の要素を取り入れた参加型の授業にすることがあります。授業への積極的な参加を期待いたします。

**成績評価の方法** 出席状況、授業中の小レポート、学期末レポート等の総合評価。

**教科書** 特に使用せず、必要に応じて資料を配布します。

履修コード	212902
科目名	教育と社会
担当者名	豊田 千代子

**講義のねらい** わたしたちが受けてきた教育を「身体、身体感覚」という観点から検討し、学校教育をめぐる諸問題を考える。また、それらの問題をもとに、近代の学校教育のあり方やそれに影響を及ぼしている社会のあり方などについて考察する。

**講義の内容・授業スケジュール** （1）ガイダンス、「身体、身体感覚」の観点からの教育体験のふり返り（2）教育体験のふり返りからみえる教育の諸問題（3～5）子どもの身体の実態（6～8）身体感覚とコミュニケーション（9～10）自分の身体への気づき（11～13）教育の諸問題と近代の社会・学校教育のあり方（14）子どもの身体をひらく教育に向けて（15）まとめ

**成績評価の方法** 出席状況とレポートによる。

**教科書** 教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。

**参考書等** 適宜紹介する。

履修コード	213002・213102
科目名	教育と社会
担当者名	北村 三子
講義のねらい	近代学校教育の性格を理解するとともに、日本におけるその成立経緯や特徴について学びます。また、現代の学校教育の問題点についても考えてゆきます。
講義の内容・授業スケジュール	内容・スケジュールは、おむね次の通りです。教育の私事性と公共性（1）、近代国家と教育（2）、国民形成と学校（3～5）、経済発展と教育（6～7）、教育基本法改正の意味（8）、いま学校で起きていること（9～13）、これからの教育を考える（14～15）
履修上の留意点	この科目は教職課程の必修科目です。日頃から教育への関心を高めるようにしてください。
成績評価の方法	出席状況とレポートによります。
参考書等	教場で指示します。

履修コード	213202・213302・213602
科目名	教育と社会
担当者名	伊藤 茂樹
講義のねらい	学校教育という営みは社会のあり方や他の諸領域に広く影響されると同時に、社会に影響を及ぼす関係にある。また一方で、学校という場もひとつの社会を形成している。こうした観点から、現代社会における学校教育が直面している諸問題や、これからの時代に学校教育が向かおうとしている方向性について、多面的に考えていく。
講義の内容・授業スケジュール	とりあげるテーマは以下の通り。 ・現代の教育問題 ・教育改革の動向 (12) 教育問題とは何か、(3-5) 戦後の教育問題の変遷、(6-10) 80年代以降の教育問題、(11) 近年の教育改革の経緯、(12-14) 教育改革の方向性、(15) 教育改革の問題点
履修上の留意点	ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えることを心がける。
成績評価の方法	学期末試験により評価する。
教科書	教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

履修コード	213402
科目名	教育と社会
担当者名	萩原 建次郎
講義のねらい	80年代半ばから不登校問題とともに「居場所」という言葉がマスコミに登場したが、いまや教育学、心理学、社会学においてもキーワードになっている。居場所の喪失感が静かに広がる中で、私たちはそこにどのような人間の姿、世界の在り様を感じるのだろうか。 この授業ではまず、「居場所」が何において生まれ、何において失うのかを探っていく。次に「居場所」となりうる場のデザインを目指した具体的な方法論はあるのか、子ども・若者の居場所にかかわるいくつかの実践を手がかりに検討し、教育の可能性を考えていく。 この授業を通して、「居場所」を切り口として今いる自分を見つめなおしながら、他者（子ども・友人・親・先生など）とのかかわりの質を問い直し、さまざまな場面での教育実践に応用していける視点と感性を養ってもらいたいと願っている。
講義の内容・授業スケジュール	①「居場所」をめぐる言説の登場（1～3） ②子ども・若者の自己形成空間の変容（4～6） ③「居場所」の意味を読み解く（7～9） ④子ども・若者の居場所空間をデザインする（10～12） ⑤「居場所」に関わる指導者論（13） ⑥「居場所」と子どもの参加・参画論（14～15）
履修上の留意点	授業はできるだけ参加型学習をとりいれたいので、積極的な姿勢が求められる。小レポートを毎回提出してもらおう。
成績評価の方法	小レポート、出席状況、授業への参加度、学期末レポートを総合して判断する。
参考書等	田中治彦編著『子ども・若者の「居場所」の構想－「教育」から「関わりの場」へ－』（学陽書房）3,000円 久田邦明編著『子ども・若者の居場所』（萌文社） ロジャー・ハート著『子どもの参画』（萌文社）

履修コード	213502
科目名	教育と社会
担当者名	坂本 信昭

**講義のねらい** 人間の社会に余暇をもつ少数の人々が生まれたときに学校は生まれた。いわば余暇とともに学校は生まれたのである。もし余暇がすべての人々のものとなるとき、それは、社会そのものが全体として学習と教育の場所、つまり学校になるときであるかも知れない。また、環境が人間形成や教育に大きな影響を与えることは否定しがたい。人びとが生活する基盤が環境なのだから、教師の思想も教え方も環境によって大きく条件づけられており、その教育を受ける子どもも教師からだけでなく環境によって教育の受けとり方が異ってくる。

**講義の内容・授業スケジュール** 講義で取り上げるテーマとしては、次のようなものを考えている。

- ・学校教育のあゆみ
- ・学校の社会的機能
- ・学校教育の現実と課題
- ・その他（教師論等）
- ・現代社会と教育環境
- ・家庭の教育環境（親子関係・家庭生活）
- ・都市の教育環境（都市の学校と子ども）
- ・農・漁村の教育環境（農・漁村の学校と子ども）

**履修上の留意点** 授業の出欠は厳密にとる。

**成績評価の方法** 課題レポート、自主レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

**参考書等** 西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円  
デュエイ著『学校と社会』（岩波文庫）410円

**その他** この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程・社会教育主事講座・博物館学講座のいずれかに登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

履修コード	343902
科目名	教育と社会 - フレックスB開講 -
担当者名	山本 敏子

**講義のねらい** 近代社会の教育は、全生活領域にわたる経営体としての家共同体の解体および近代国民国家の形成と深く関わっています。近代学校成立以前の社会における多様な教育システムを家共同体との関わりで考察することにより、近代学校システムの特質や問題点を明らかにするとともに、これからの教育のあり方を模索していきます。

**講義の内容・授業スケジュール** 近年の様々な教育問題や教育改革の動向、諸外国の教育制度等にも触れながら、次のような柱立てで進めていく予定です。

(1)「教育制度・環境論」への招待 (2～3)「家」が未成立の社会と教育システム (4～6)「家」社会の成立と教育システム (7～9)「家」の解体と近代学校システムの稼働 (10～14) 現代の教育諸問題と教育制度・環境の改善 (15) 全体のまとめと討論

**履修上の留意点** 初回に受講者の皆さんと相談の上、演習の要素を取り入れた参加型の授業にすることがあります。授業への積極的な参加を期待いたします。

**成績評価の方法** 出席状況、授業中の小レポート、学期末レポート等の総合評価。

**教科書** 特に使用せず、必要に応じて資料を配布します。

履修コード	213802
科目名	発達と学習の心理学
担当者名	小倉 康仁 <small>おぐら やすよし</small>

講義のねらい

人間の教育活動や教育問題に対して心理学的にアプローチする教育心理学の主要な関心事として、発達および学習に関する様々なトピックスがあります。この発達と学習の問題を中心にして、教育者が理解しておくべき事柄を取り上げて授業を進めていきます。つまり、「人はどのようにして育ち学んでいくのか?」、「そのプロセスにおいて親や教師や友人等からの働きかけはどのようにかわってくるのか?」といったことについて分析・考察していく予定です。

講義の内容・授業スケジュール

- ①発達の定義 (第1回)
- ②発達の規定因 (遺伝と環境) (第2回)
- ③発達のメカニズム (成熟と経験) (第2回)
- ④発達観と教育可能性 (第3回)
- ⑤レディネス、臨界期と早期教育 (第3回)
- ⑥発達の様子 (発達時期・発達段階) (第4回～第8回)
- ⑦学習のメカニズム (学習理論) (第9回～第12回)
- ⑧学習と動機づけ (学びを支える意欲) (第13回)
- ⑨教授-学習過程 (第14回)
- ⑩個性・個人差と教授法 (適性-処遇相互作用) (第15回)

成績評価の方法

平常授業期間中に課すレポート課題と学期末試験の成績および出席状況等の平常点との総合評価によって評価を行う予定です。追試験有り。

教科書  
参考書等  
その他

使用しません。(配布プリントを中心に授業を進めます)  
必要な場合は、そのつど授業で指示します。

この科目は、教職課程の必修科目です。教職課程または社会教育主事講座に登録していない学生の履修人数を制限する場合があります。1回目の授業に必ず出席し、担当者の指示に従ってください。

出席状況が非常に悪い学生は、期末試験の受験を認めない場合がありますので、注意してください。

履修コード	213902・214002
科目名	発達と学習の心理学
担当者名	大浜 幾久子 <small>おおはま きくこ</small>

講義のねらい

子どもが大人になる過程を20世紀の心理学は、どのようにとりあげ、また解明しようとしてきたのだろうか。他の諸学問分野が心理学の成立に果たしてきた役割にも言及しつつ、次のように基本的な問題をめぐる諸研究を学び、21世紀の新しい教育観を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

第1回：導入「6歳から学校教育が始まるのは何故だと思いますか?」

第2～7回：発達段階理論をめぐって

- ①エリクソンの発達段階
- ②生涯発達
- ③アイデンティティの形成
- ④ピアジェの認知発達段階
- ⑤感覚運動知能から表象的思考へ
- ⑥前操作から操作的思考へ

第8～10回：発達と学習の理論 (言語習得から考える)

- ①スキナーの行動分析学
- ②チョムスキーの生成文法
- ③ピアジェの発生的心理学

第11～14回：初期環境の貧困による発達遅滞・障害と回復

- ①事例研究
- ②愛着の成立
- ③感覚運動知能と言語習得
- ④学校教育の役割

第15回：発達と学習と学校教育 (知育と徳育)

成績評価の方法  
参考書等

定期試験 (学期末) の成績に小レポートの成績を加味する予定である。

藤永保 他 (著) 『人間発達と初期環境』有斐閣 1987

他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。

履修コード	214102
科目名	発達と学習の心理学
担当者名	藤原 善美

講義のねらい

本講義では、発達と学習の心理学を、体系的に学習します。「発達」とは、人がその誕生、あるいは受胎から死亡するまでの間に示す身体的、行動的、認知的な変化のことです。発達の諸理論におけるキーワードにふれながら、基礎的な知識の理解を目指します。また、経験による比較的永続的な行動変化のことをさす「学習」について、主な学習理論や動機づけ理論を学び、学習教育への応用を考えることを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 発達とは何か (2~3) 発達理論、発達段階と発達課題 (4~7) 胎児期・乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期から老年期を含む生涯発達 (8~10) 認知の発達、言語と知能の発達、社会的発達 (11) 発達障害 (12) 学習とは何か (13~15) 学習理論、動機づけ理論、情動の理論

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

学習意欲の高い学生の受講を望みます。  
成績は、学期末試験の結果により評価します。試験を受けない限り、評価の対象にはなりません。特に指定しません。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。

履修コード	214202・214602
科目名	発達と学習の心理学
担当者名	飯田 都

講義のねらい

人間は、親兄弟、友人、そして教師といった、多くの他者との多面的なかかわりの中で成長し、「自己」を見つけつくりあげていきます。教職を志す者は他者の成長発達に深く関わる立場にあります。人の発達・学習に関わる基本的な心理学的知識を学び、学校教育の意義をはじめ、教師や大人に求められる資質、「教える」「学ぶ」ということの意味等についての考えを深め、自らの役割を問い直していくことを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

(1) 人の発達・学習と教育 (2~5) 乳幼児期・児童期・青年期の発達課題 (6) 思春期の自我の発達、(7) 学習と認知(連合説と認知説) (8~9) 知識の種類と構造、技能と知識の獲得 (10~13) 動機づけ、(14~15) 学習過程・学習理論の教育への応用

履修上の留意点

聞いたことを受身的に自らの思想とするのではなく、講義の内容にヒントを得て、自分自身の自分らしい考えを創り出していくことを期待しています。

成績評価の方法

中間試験、期末試験、および毎授業ごとの課題の成果を総合して評価します。ただし、出席が基準に満たない場合には、単位の取得はできないと考えてください。

教科書  
参考書等

特に使用しません。授業時に資料を配布します。  
西林克彦 『間違いだらけの学習論』 新曜社  
川島一夫 『図でよむ心理学「発達」』 福村出版

履修コード	214302・214402・214502
科目名	発達と学習の心理学
担当者名	角野 善司

講義のねらい

教育心理学は、教育場面において、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、多様な観点から心理学的に考えようとするものです。この科目では、教育心理学の中でも、特に発達と学習に焦点を当てていきます。講義を通じて学び、考えたことを、生徒と接する際のヒントにしてほしいと願っています。

講義の内容・授業スケジュール

(1)教育心理学とは (2・3)発達観の変遷 (4・5)発達の規定因 (6)教育の最適期 (7)発達段階と発達課題 (8)学習への動機づけ (9)内発的動機づけ (10)学習性無力感 (11)原因帰属 (12)学習目標と遂行目標 (13-14)補遺 (15)学期末テスト

履修上の留意点

この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのももちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨んでください。

成績評価の方法

免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいきません。  
成績評価は、毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況・学期末テスト・学期末レポートの4つに基づいて行う予定です。小テストは、その日の授業で取り上げた内容に関する問題を出题して、全問正解した場合に限り合格とします。合格した回数が授業回数の半分以上ならば、学期末テストの受験、レポートの提出を認めず、単位は付与しません。

教科書  
参考書等

使用しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。  
講義の進行に合わせて、適時紹介します。



履修コード	344002
科目名	発達と学習の心理学 - フレックスB開講 -
担当者名	藤原 善美

**講義のねらい** 本講義では、発達と学習の心理学を、体系的に学習します。「発達」とは、人がその誕生、あるいは受胎から死亡するまでの間に示す身体的、行動的、認知的な変化のことで、発達の諸理論におけるキーワードにふれながら、基礎的な知識の理解を目指します。また、経験による比較的永続的な行動変化のことをさす「学習」について、主な学習理論や動機づけ理論を学び、学校教育への応用を考えることを目的とします。

**講義の内容・授業スケジュール** (1) 発達とは何化 (2~3) 発達理論、発達段階と発達課題 (4~7) 胎生期・乳児期、幼児期、児童期・青年期、成人期から老年期を含む生涯発達 (8~10) 認知の発達、言動と知能の発達、社会的発達 (11) 発達障害 (12) 学習とは何か (13~15) 学習理論、動機づけ理論、情動の理論

**履修上の留意点** 学習意欲の高い学生の受講を望みます。  
**成績評価の方法** 成績は、学期末試験の結果により評価します。試験を受けない限り、評価の対象にはなりません。  
**教科書** 特に指定しません。参考文献は、必要に応じて授業に応じて授業中に紹介します。

履修コード	214802
科目名	カリキュラムと学習
担当者名	小倉 康仁

**講義のねらい** 人間の発達と学習のしくみを踏まえた上で、カリキュラム（教育課程）の構造（構成要素）、社会的意義、編成方式などを理解し、日本の現行カリキュラム（教育課程）について考えていきます。

**講義の内容・授業スケジュール** ①カリキュラムとは？（カリキュラムの構成要素）（第1回）

②カリキュラムの意義と規定因（第2回）

③カリキュラムの編成原理（方式）（第3～4回）

④カリキュラム編成方式の変遷（第5～6回）

⑤学習指導要領の変遷（第7～8回）

⑥現行学習指導要領の特徴と問題点（第9～11回）

⑦「ゆとり教育」と「学力低下」論争（第12～13回）

⑧PISA調査結果について（第14～15回）

**成績評価の方法** 平常授業期間中に課す小レポート課題と学期末試験の成績および出席状況等の平常点との総合評価によって評価を行う予定です。追試験有り。

**教科書** 使用しません。（配布プリントを中心に授業を進めます）

**参考書等** 必要な場合は、そのつど授業時に指示します。

**その他** 前期に「発達と学習の心理学」を受講することを原則とします。

出席状況が非常に悪い学生は、期末試験の受験を認めない場合がありますので、注意してください。

履修コード	214902・215002
科目名	カリキュラムと学習
担当者名	おおはら きくこ 大浜 幾久子

**講義のねらい** はじめに、学生自身が学んできた小学校、中学校、高等学校における教育課程がどのように編成されていたのかを、当該の学習指導要領により考える。次に、現行の教育課程を学び、その背景にある基本的考え方について考察していく。とくに教科・科目等の具体的内容の削減や再編については、子どもの発達と学習の観点からの考察を深めたい。さらに、諸外国における学習課程の歴史や編成原理について、異文化間教育学的な観点から検討を試みる。その際、潜在的カリキュラムにも注目することとする。

**講義の内容・授業スケジュール**

第1回：日本の学校制度と学校カリキュラムの歴史  
 第2回：「学習指導要領」の変遷  
 第3回：現行「学習指導要領」  
 第4回：学生が学んだ小学校の「学習指導要領」と教科書  
 第5回：学生が学んだ中学校の「学習指導要領」と教科書  
 第6回：学生が学んだ高等学校の「学習指導要領」と教科書  
 第7回：小学校「算数」のカリキュラム  
 第8回：「国語」と「外国語」のカリキュラム（言語教育と文学教育）  
 第9回：小学校から「英語」を始めることの是非  
 第10回：「総合的な学習の時間」  
 第11回：総合学習を展開する学校  
 第12～14回：学校制度とカリキュラムの国際比較  
     ①フランスの学校制度とカリキュラム  
     ②国際共通教科書作成の試み  
     ③隠れたカリキュラムと教師文化  
 第15回：カリキュラム論（付：レポートの作成法）

**成績評価の方法** リポート提出（定期試験期間）を中心とした評価の予定である。  
**参考書等** 『(小学校・中学校・高等学校)学習指導要領』(文部科学省)  
 その他の参考資料については、必要に応じて準備、指示していく。  
**その他** 前期に、「学習・発達論」を履修することを原則とします。

履修コード	215102
科目名	カリキュラムと学習
担当者名	ふじわら よしみ 藤原 善美

**講義のねらい** 教育内容の全体的計画である教育課程（カリキュラム）について、授業＝学習過程のなかでの特徴や、教育目的・教育方法との関連性を、日本の教育制度に基づいて学ぶことを目的とします。また、学校教育の実際、および発達障害の特徴と特別支援教育についての理解を目指し、教育現場の諸問題について、どのような解釈、対処があるかを考えるきっかけとなればと思います。

（1）カリキュラムとは何か （2～4）日本の教育制度 （5～7）学習指導要領 （8～10）教授法 （11）教育評価 （12）特別支援教育 （13～15）学校教育の実際と今後の課題

**講義の内容・授業スケジュール** 学習意欲の高い学生の受講を望みます。  
**履修上の留意点** 成績は、学期末試験の結果により評価します。試験を受けない限り、評価の対象にはなりません。  
**成績評価の方法** 特に指定しません。参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。  
**教科書**

履修コード	215202・215602
科目名	カリキュラムと学習
担当者名	杉山 <small>すぎやま</small> 二季 <small>ふたき</small>

- 講義のねらい** カリキュラムとは単に事前に立てる教育計画だけを指すのではなく、子どもの学習経験の履歴でもあります。カリキュラムや学習をめぐる理論を理解し、授業実践を観察・検討するための多様な見方を身につけることで、子どもの経験を豊かにするためのカリキュラムをデザインする方法を考察します。
- 講義の内容・授業スケジュール** 講義では受講者の理解を踏まえながら、以下のトピックについて扱う予定です。(1)カリキュラムとは何か(2)学習指導要領の変遷(3)カリキュラムを支える教育理論(4)知識とは、学力とは何か(5)授業の反省と批評(6)かかれたカリキュラム 実践を見る目を養い、事実に基づいた考察を可能にするために、小・中・高校の授業を撮影したビデオを観察・検討する機会を何回か設けます。
- 成績評価の方法** 授業中の課題の提出状況と期末レポートの内容によって総合的に評価します。授業中の課題とは、毎回課すわけではありませんが、その日の講義を聞いて考えたことや感じたことを書いて提出してもらいます。
- 教科書 参考書等** 教科書は使用せず、必要に応じてプリントを配布します。講義中に適宜紹介します。

履修コード	215302・215402・215502
科目名	カリキュラムと学習
担当者名	角野 <small>すみの</small> 善司 <small>ぜんじ</small>

- 講義のねらい** この科目では、カリキュラムの編成・実施を中心テーマとして取り上げ、それが生徒の学習をどのように規定し、導いていくかを検討していきます。これからの教育がどのようなカリキュラムで行われていくべきかを、各自考えてほしいと願っています。
- 講義の内容・授業スケジュール** (1)カリキュラム(教育課程)とは (2)カリキュラムに関する法制 (3)カリキュラム編成の原則 (4)学習指導要領改訂の歴史 (5-6)平成10年学習指導要領改訂の経緯と基本方針 (7-8)平成15年学習指導要領一部改正の経緯と基本方針 (9-10)学習指導要領をめぐるその後の動き (11-12)カリキュラムと教育評価 (13-14)補遺 (15)学期末テスト
- 履修上の留意点** この科目は、教職課程の科目として開講されます。自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回出席するのももちろんのこと、授業を聴きながら考えるという主体的な態度で臨んでください。
- 成績評価の方法** 免許・資格に関連する科目なので、単位認定の基準を甘くするわけにはいきません。成績評価は、毎回の授業で行う小テスト・課題提出状況・学期末テスト・学期末レポートの4つに基づいて行う予定です。小テストは、その日の授業で取り上げた内容に関する問題を出題して、全問正解した場合に限り合格とします。合格した回数が授業回数の半分以上ならば、学期末テストの受験、レポートの提出を認めず、単位は付与しません。
- 教科書 参考書等** 追って指示します。講義は、図表などを載せた資料プリントも活用して進めます。講義の進行に合わせて、適時紹介します。

履修コード	344102
科目名	カリキュラムと学習 - フレックスB開講 -
担当者名	藤原 <small>ふじわら</small> 善美 <small>よしみ</small>

- 講義のねらい** 教育内容の全体的計画である教育課程(カリキュラム)について、授業=学習過程のなかでの特徴や、教育目的・教育方法との関連性を、日本の教育に基づいて学ぶことを目的とします。また、学校教育の実際、および発達障害の特徴と特別支援教育についての理解を目指し、教育現場の諸問題について、どのような解釈、対処があるのかを考えるきっかけとなればと思います。
- 講義の内容・授業スケジュール** (1)カリキュラムとは何か (2~4)日本の教育制度 (5~7)学習指導要領 (8~10)教授法 (11)教育評価 (12)特別支援教育 (13~15)学校教育の実際と今後の課題
- 履修上の留意点** 学習意欲の高い学生の受講を望みます。
- 成績評価の方法** 成績は、学期末試験の結果により評価します。試験を受けない限り、評価の対象にはなりません。特に指定しません。参考文献は、必要に応じて授業に応じて授業中に紹介します。
- 教科書**

履修コード	215801
科目名	社会学〔現代社会を考える〕
担当者名	阿部 真大

講義のねらい

人の「心」を研究する学問を「心理学」と言う。しかし、人はひとりで生きているわけではない。人の隣には別の人がいる。人と人が合わさってできるものを「社会」と呼ぶ。その「社会」を研究する学問を「社会学」と言う。生活するなかで何か問題にぶちあたったとき、その原因を「心」に求める（「自分が悪いんだ」）のもいいけれど、たまには「社会」に求めてみる（「社会が悪いんだ」）のもいいかもしれない。それで気が楽になったり問題解決の道筋が見えたりすることがあるかもしれない。この講義のねらいは「社会学」を通じてみなさんの「生きる力」を養うことです。

講義の内容・授業スケジュール

(1) イントロダクション 社会学とは何か？ (2-6) 「バイク便ライダー」を手がかりに興味と仕事について考える (7-11) 「ユニットケア」を手がかりに高齢者福祉について考える (12-16) 「合コン」を手がかりに恋愛と結婚について考える (16-19) 自分の身の回りの問題について考える (20) まとめ 再び社会学とは何か？

履修上の留意点

日頃から社会のなかにおける自分の位置を把握するよう心がけてください。新聞や雑誌、インターネットなどを見る習慣をつけておいてください。

成績評価の方法  
教科書

学期末試験と授業内に提出を求める課題を基本に評価します。出席状況も考慮します。  
阿部真大『搾取される若者たち バイク便ライダーは見た！』2006年刊（集英社）672円  
阿部真大『働きすぎる若者たち 「自分探し」の果てに』2007年刊（NHK出版）735円  
北村文・阿部真大『合コンの社会学』2007年刊（光文社）735円

履修コード	215901・216001・216301
科目名	社会学〔現代社会を考える〕 社会学〔現代文化を考える〕 社会学〔社会生活を考える〕
担当者名	呉 炳三

講義のねらい

社会学の主要な対象は人間である。その人間が社会生活のなかで引き起こす諸問題を分析する学問でもある。その分野は、「家族」「恋愛」「結婚」「教育」「文化」「政治」「法律」「犯罪」「経済」など多岐にわたっている。このような分野において特徴的であるといえる諸問題は何かを整理、理解し、それを解決する視点として、社会学の基礎的な知識を身につけることによって、よりよい社会生活に臨んでもらうことが本講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

(前期) 社会学の基礎概念：  
(1) はじめに、(2) 社会学とは、行為論として、(3～4) 社会学における行為、(5) 行為者としての個人、(6) 社会化と人間形成、(7) 国民性についてグループ討議、(8) 日本の行為論、集団論として、(9) 集団の概念、(10) 官僚制理論、(11) 小集団論、(12) 集団の類型、(13) 日本の集団論、(14) おわりに、(15) 前期テスト  
(後期) 現代社会の特徴的な諸相：  
(1) 家族、(2) 家族の機能、(3) 恋愛、(4) 結婚、(5) 自殺についてグループでディベート、(6) 少年犯罪、(7) 少子・高齢、(8) アダルトチルドレン・摂食障害、(9) 若者・IT文化、(10) フリーター、ニート・引きこもり、(11) 格差社会についてグループでディベート、(12) 性同一性障害、(13) 就職・転職・リストラ、(14) ジェンダー、(15) 後期テスト

履修上の留意点

本講義は、教員の一方的な講義ではなく、受講生とともに調べ、その結果を考えた上、答えを導く方向で講義を進めていくために、授業への積極的な取り組みが望まれる。なお、授業は指定の教科書と辞書を使用するため必ず毎回持参することと、宿題もあるので、きちんと宿題が出来る学生の受講を勧める。

成績評価の方法

出席状況（遅刻厳禁）と前・後末に行う筆記試験の結果から総合的に評価する。但し、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えないことがある。

教科書  
参考書等

開講時に説明する。  
講義中に、その都度紹介する。

履修コード	216101
科目名	社会学〔現代文化を考える〕
担当者名	神長 唯

講義のねらい  
講義の内容・  
授業スケジュール

この講義は、「社会学」についての基本的な知識や考え方を習得することを目的とする。  
(前期)社会学とはなにか(1~3)、社会学史(4~7)、社会調査(8)、社会学の基礎概念：行為と集団、組織と官僚制、文化と比較社会、社会階層、社会的逸脱など(9~15)。(後期)現代社会論：エスニシティ、ジェンダー、家族、地域社会、産業と組織、宗教と社会、社会運動、グローバリゼーション、公害・環境問題などの社会問題(16~30)。

履修上の留意点

現段階では以上の講義を予定しているが、受講生の要望も取り入れながら講義内容や取り上げる順序を一部変更することもある。

成績評価の方法

「社会学」の領域は非常に広く、この授業もあくまで社会学概論という形にならざるをえない。そのため、受講生は社会学の主要テーマをおさえたい上で興味を持った分野の関連書籍を手にとってもらいたい。

教科書  
参考書等

平常点および前・後期の中間試験ないしレポートにより総合的に評価する。ただし、授業中の私語、携帯電話の使用、寝るなど授業態度のよくない学生については出席停止とし単位を与えない。

未定。  
授業中に適宜紹介する。

履修コード	216201
科目名	社会学〔社会生活を考える〕
担当者名	小畑 和

講義のねらい

社会学はつかみどころのない学問と言われますが、その理由は、社会学が「社会人の形式として社会関係や社会集団を研究するだけでなく、家族、人口、経済、法律、政治、企業、教育…等々の領域を一切切包み込んだ社会全体を研究する学問だからです。それ故に幅広く、内容も多種多様で、明確な統一的立場を見出だし難い性格を持っています。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義では、生産力と消費力の2つのキー概念を用いて現代社会の構造を捉え、人々の社会生活が生産と消費の社会的環境の中でどのように影響されているかを明らかにしたい。また講義を通して「巨視的(Macroscopic)なものの方」を身に付けて貰いたい。

この講義では「ゆたかさは人間を幸せにしたか」を主テーマに、人々の社会生活を誕生から老後に至る過程を追いながら次の7つの要因について講義する。

- (1) マクロ的要因(現代の生産の意味、生産力と消費力の関係が個人の社会生活にどのような影響を与えるかを中心に現代社会(少子社会)を総合的に講義する。)
  - (2) 誕生に関する要因(出生・墮胎・殺児…)
  - (3) 幼児・子供の成長に関する要因(育児・保育・遊び・いじめ・体罰・塾・進学…)
  - (4) 家庭生活に関する要因(核家族化、晩婚晩産化、生涯独身、パート、共働き、残業、余暇、離婚の増大…)
  - (5) 消費生活に関する要因(広告・宣伝・ローン、消費者教育、自己破産、ホームレス問題、ゴミ問題等の消費者問題…)
  - (6) 会社生活に関する要因(入社、転職、失業、終身雇用制の崩壊…)
  - (7) 老後の生活に関する要因(年金、介護、生きがい、死の問題…)などを講義する。
- この7つの要因を通して、全体として現代社会の社会生活を考えて見たいと思います。

履修上の留意点

初回の講義で説明する。

成績評価の方法

五段階2乗方式によるが、そのやり方は初回の講義で説明する。

教科書  
参考書等  
その他

初回の講義で説明する。  
初回の講義で説明する。  
上記授業のスケジュールは進度によって多少の変更がある。

履修コード	344201
科目名	社会学〔現代社会を考える〕-フレックスB開講-
担当者名	阿部 真大

**講義のねらい** 人の「心」を研究する学問を「心理学」と言う。しかし、人はひとりで生きているわけではない。人の隣には別の人がいる。人と人が合わさってできるものを「社会」と呼ぶ。その「社会」を研究する学問を「社会学」と言う。生活するなかで何か問題にぶちあたったとき、その原因を「心」に求める（「自分が悪いんだ」）のもいいけれど、たまには「社会」に求めてみる（「社会が悪いんだ」）のもいいかもしれない。それで気が楽になったり問題解決の道筋が見えたりすることがあるかもしれない。この講義のねらいは「社会学」を通じてみなさんの「生きる力」を養うことです。

**講義の内容・授業スケジュール** (1) イントロダクション 社会学とは何か? (2-6) 「バイク便ライダー」を手がかりに興味と仕事について考える (7-11) 「ユニットケア」を手がかりに高齢者福祉について考える (12-16) 「合コン」を手がかりに恋愛と結婚について考える (16-19) 自分の身の回りの問題について考える (20) まとめ 再び社会学とは何か?

**履修上の留意点** 日頃から社会のなかにおける自分の位置を把握するよう心がけてください。新聞や雑誌、インターネットなどを見る習慣をつけておいてください。

**成績評価の方法** 学期末試験と授業内に提出を求める課題を基本に評価します。出席状況も考慮します。

**教科書** 阿部真大『搾取される若者たち バイク便ライダーは見た!』2006年刊(集英社) 672円  
阿部真大『働きすぎる若者たち 「自分探し」の果てに』2007年刊(NHK 出版) 735円  
北村文・阿部真大『合コンの社会学』2007年刊(光文社) 735円

履修コード	344301
科目名	社会学〔現代文化を考える〕-フレックスB開講-
担当者名	橋爪 敏

**講義のねらい** この講義は、「社会学」についての基本的な知識を提供し、あわせて、「現代社会」についての若干の問題を論ずることを目的とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 「講義のねらい」で述べたように、この講義は「社会学」の知識と、「社会学」的見方を通してみた「現代社会」の問題を扱うことになる。しかし、ほとんどの学生諸君は「社会学」についての予備知識は無いものと思われる。「社会学」は高等学校までの社会科とはかなり異なっている。前期1)～8)社会学とは何か、社会学の対象と方法、社会科学としての社会学9)～15)歴史から見る社会学、総合社会学、百科全書的 sociology、マルクス主義の影響。後期は16)～20)フランスにおける現代社会学への歩み21)～25)ドイツにおける現代社会学への歩み26)～30)現代社会学の展開を概観する事により、社会現象に対する科学的取り組みを理解し身に付ける事にしたい。

**成績評価の方法** 成績の評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。

**教科書** 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』(学文社)  
高尾・橋爪編『社会学の基礎』(犀書房)  
R. ニスベット『現代社会学入門1～4』(講談社学術文庫)  
その他授業中に適宜指示したい。

履修コード	217501
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	長谷川 日出世

**講義のねらい** 日常生活において生ずる様々な法律問題を解決するための法の基礎知識の習得と、我々の社会生活の基本となる日本国憲法の理解を目的とします。

**講義の内容・授業スケジュール** ①講義に関する全段的説明、②社会秩序と法、③～⑥法概念の本質、⑦～⑩法の成り立ちとその分類、⑪～⑭法の解釈、⑮～⑰日本の裁判制度、⑱憲法とは何か、⑲近代憲法の構成原理、⑳日本の憲法史、㉑～㉔日本国憲法の基本原理、(21～26)基本的人権の保障、(27)国会、(28)内閣、(29)司法権、(30)一年間のまとめ

**履修上の留意点** 日頃から、新聞、テレビニュースで報道される法律問題に関心を持つこと。講義の前に、教科書を必ず読んでおくこと。

**成績評価の方法** 学期末の試験の成績と講義への出席の度合で評価します。

**教科書** 長谷川日出世、『法の基礎概念と憲法』、成文堂、2500+税、ISBN 4-7923-0399-0

履修コード	217601
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	和知 恵一

社会分野

講義のねらい

現代社会は、高密度に人が集合し、高度に発展した複雑な社会を構成している。その構成員である我々は、社会にとって必要不可欠である多くの法によって、取り囲まれている。たとえば、電車やバスに乗ること、コンビニで文具を買うこと、アパートを借りることなど、すべて、法的な側面を持っている。自分は法と無縁であると思っている人は、そのことを知らずにいるだけなのである。講座名は、「法学・憲法」であるが、サブタイトルに（法と社会生活）とあるように、本講義においては、「良き社会人として生活していくために、社会にある『法』とは何であるかの理解をすること、またその『法』を社会生活の上で活かしていく能力を身につけること」を主眼とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義形式で進める。が、講義はどうしても一方通行になりがちなので、授業中に多数の質問を行い、挙手により解答してもらおう。つまり、全員が参加する授業を目指す。授業では、数多くの事例を挙げ、具体的に話を進める。たとえば「今朝の新聞に、官僚が『収賄罪』で逮捕された記事が掲載されていたが、どんな罪であるのか、また逮捕に際し憲法上の問題があるとあったが、どんな点で、なにが問題なのか」など、より up to date な話題を提供したい。

講義は、おおよそ以下のスケジュールで進める。憲法については、特別にテーマを定めることをせず、関連するテーマが出てきたときに、随時、該当条文に当たり、年間を通して多くの条文に触れられるよう配慮する。

(1) 法学

1. 法学を学ぶにあたって
2. 法とは何か
3. 法の体系と分類
4. 法の目的
5. 法と裁判
6. 裁判の基準（法源）
7. 法の解釈
8. 法と道徳をめぐる問題

(2) 社会生活と法（以下の項目より受講生の関心の高いものをいくつかやりたいと思う。適宜報道などと関連させたい。）

9. 犯罪と刑罰
10. 財産生活と法（人・物・契約など）
11. 家族生活と法（婚姻・親子・相続など）
12. アクシデントと法（交通事故・医療事故・欠陥商品など）
13. 企業と法（就職と労働契約・会社・手形小切手など）

履修上の留意点

楽しい授業・わかる授業・全員参加型の授業を行う必要からも私語はいっさい認めない。また出席は重視する。原則的に、欠席・早退を認めない。理由があるときは、その旨届けてくれれば出席扱いとする。授業開始時間は若干余裕を持たせるので遅刻しないように。また教科書・特に六法は毎回準備すること。できるだけ授業内容は板書したいと思うが、その単なる写し作業で終わらないでほしい。つまり、授業の中で十分考察し、理解することを要求する。したがって単に教場にいるだけでは出席とは認めない。真剣に授業を受けようという意識のある者だけに履修してほしい。板書を記録しやすいようになるべく前から着席すること。

成績評価の方法

出席を重視し、きちんと出席したものに、期末試験の受験資格を与える。その試験の得点に平常点を加味して評価する。

教科書

○小林弘人・松村裕編著『法学・憲法（新版）』（八千代出版）  
○六法（例として、『ポケット六法（平成20年版）』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）など）  
※すでに持っている六法があれば、それで構わない。

参考書等

- 茂野隆晴編『プライマリー法学～日本法のシステム～』（芦書房）
- 大久保治男監修『トピックスくらしの法』（芦書房）

その他の

その他授業の中で、随時紹介する。  
最初の講義日（2週目になることがある）に受講票を提出してもらおう。特別の事情のない限り、最初の講義の回から出席のこと。

履修コード	217701
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	沼田 <small>ぬまた まさゆき</small> 雅之

講義のねらい

法学は難しいものです。なぜなら、社会の複雑な問題に対して「法」という強制力をもって解決を図ろうとすれば、論理的で慎重な判断が求められるからです。よって、法学を学ぶためには、論理を駆使できるだけの自分自身のブラッシュアップが必要となります。しかし、そのブラッシュアップをはかる過程で、教養を高めることができ、論理的思考力を高めることができます。そして、一定の納得できる結論に達したとき、法学としての学問的快楽があるはずで、少なくとも、私はそう確信しています。ですから、この講義では問題を理解するための知識（教養）、価値判断の方法や限界、そして自分なりに「答え」を出す「面白さ」を味わっていただくことに重点をおきます。例えば、「民法」という法律の第3条1項に次のような条文があります。

「私権の享有は、出生に始まる。」

この一文は日本語ですから、読むこと自体は可能だと思います。しかし、読みこなすことはできないでしょう。ところが、この短いセンテンスの中には、深遠な世界が広がっています。この一文だけで、人類の歴史から最近話題のクローン技術の問題まで語ることができるからです。しかし、みなさんはそれを語ることはできません。一つ一つのタームを理解することはできても、「法」というものを体系的に理解していないために、その世界を語ることはできないのです。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は、その法の「体系的理解」の扉を少しだけ開けてみようというのが目的です。

法学に関する下記各テーマに沿って、判例（判決）を中心に講義形式で解説をおこないます。

ガイダンス（1）、法学の基礎（2～3）、三菱樹脂事件（4～5）、日産自動車事件（6）、マクリーン事件（7）、北方ジャーナル事件（8～9）、宇奈月温泉事件（10）、契約の自由と規制（11～12）、駿々堂製パン事件（13）、消費者の保護（14～15）、不法行為（16～17）、会社法を取り巻く問題（18）、朝日訴訟（19～20）、高知放送事件（21）、萬世工業事件（22～23）、電気窃盗事件（24）、徳島県公安条例事件（25）、映画「12人の怒れる男」の上映（26）、東海大学安楽死事件（27）、代理母出産児出生届受理申立事件（28）、予備日（29～30）

履修上の留意点

・スケジュールは執筆時点で上記のようなものを考えていますが、適宜変更がありうるので注意してください。

・テキスト、成績評価方法を含めて、初回の講義で詳しく説明いたします。

成績評価の方法

・試験成績（70%）＋平常点（30%）＝100点。

・90点以上・・・S、80点以上・・・A、70点～80点未満・・・B、60点～70点未満・・・C、60点未満・・・D。

・試験成績は、執筆時点で後期試験のみを考えています。

・平常点は、出席点（50%）と課題点（50%）で構成されます。よって、出席をとります（毎回ではありません）。出席をとる際は開始後30分後におこないます。それ以降の出席票の交付はいたしません。交通機関の乱れによる遅刻の場合は、必ず遅延証明書を持参してください。

教科書

教科書は指定いたしません。担当教員が作成したプリント教材を用います。開講当初は印刷したプリントを配布いたしますが、その後はホームページから各自でダウンロードしてもらいます（データはPDF形式で配布予定です）。

参考書等

詳細は、第1回講義時に説明いたしますので、不明な点はその際に質問してください。

・森泉 章編著『法学（第4版）』（2006年有斐閣）2,500円（ISBN 4-641-18332-5）

・西村健一郎・西井正弘・初宿正典ほか著『判例法学（第4版）』（2005年有斐閣）2,200円（ISBN 4-641-18316-3）。

・伊藤眞『法学への誘い（第2版）』（2006年有斐閣）2,500円（ISBN 4-641-12510-4）

その他

また、講義に連動して、ホームページを運用します。プリントのダウンロードサービスなどを実施する予定です。URL等は、第1回目の講義時にお知らせします。

第1回講義時に、大学配布のものとは異なるシラバスを配布します（取り上げるテーマなどが、ここで記載されたものと異なる場合があります）。それを熟読の上、履修を決定してください。



履修コード	217801
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕
担当者名	鶏徳 啓登

社会分野

講義のねらい	よく「社会あるところ法あり」といわれる。その社会にある法とは何かを研究するのが法学であり、根本的理念、法の目的などを研究する。また、憲法は国家の基本法として他の法令の根幹をなすものであり非常に重要な法である。そして、憲法制定後60年経過した現代に至って国外的、国内的に、社会情勢の変化に伴う新しい問題が生じてきている。本講義は、これら諸問題を法的に把握し、結論を出し得るようになることをねらいとする。
講義の内容・授業スケジュール	<p>法学の講義は次の内容を中心として行う。</p> <p>(1) 社会生活と法 (2) 法の意義・効力 (3) 法規範と他の社会規範との差異  (4) 法の分類と解釈の方法 (5) 市民法の概論 (6) 刑事法の概論  (7) 法と裁判</p> <p>憲法の講義は、次の内容を中心として行う。</p> <p>(1) 憲法の意義 (2) 憲法の種類 (3) 明治憲法の原則と特質  (4) 現憲法の原則 基本的人権の主体 (5) 基本的人権の分類  (6) 各種基本的人権の内容  (7) 国会の仕組みとその作用 行政機関の仕組みとその作用  (8) 裁判所の仕組みとその作用 (9) 地方自治</p>
成績評価の方法 教科書 参考書等	<p>出席状況と試験による。</p> <p>小林弘人・松村格編著『法学・憲法』(八千代出版) 3,500円  『小六法』または『ポケット型小六法』(出版社・定価各種) 及び参考書は教場にて説明致します。</p>

履修コード	217901
科目名	法学・憲法〔法と権利〕
担当者名	沼田 雅之 <small>ぬまた まさゆき</small>

**講義のねらい** 法学は難しいものです。なぜなら、社会の複雑な問題に対して「法」という強制力をもって解決を図ろうとすれば、論理的で慎重な判断が求められるからです。よって、法学を学ぶためには、論理を駆使できるだけの自分自身のブラッシュアップが必要となります。しかし、そのブラッシュアップをはかる過程で、教養を高めることができ、論理的思考力を高めることができます。そして、一定の納得できる結論に達したとき、法学としての学問的快楽があるはずで、少なくとも、私はそう確信しています。ですから、この講義では問題を理解するための知識（教養）、価値判断の方法や限界、そして自分なりに「答え」を出す「面白さ」を味わっていただくことに重点をおきます。

例えば、「民法」という法律の第3条1項に次のような条文があります。

「私権の享有は、出生に始まる。」

この一文は日本語ですから、読むこと自体は可能だと思います。しかし、読みこなすことはできないでしょう。ところが、この短いセンテンスの中には、深遠な世界が広がっています。この一文だけで、人類の歴史から最近話題のクローン技術の問題まで語ることができるからです。しかし、みなさんはそれを語ることはできません。一つ一つのタームを理解することはできても、「法」というものを体系的に理解していないために、その世界を語ることはできないのです。

この講義は、その法の「体系的理解」の扉を少しだけ開けてみようというのが目的です。

基本的に教科書に沿って解説します。また、適宜教科書以外の題材を取り上げます。

**講義の内容・授業スケジュール**

ガイダンス (1)、「紛争解決と法」(2~4)、「基本的人権と法」(5~8)、「家族関係と法」(9~11)、「財産関係と法」(12~15)、「労働関係と法」(16~17)、「犯罪と法」(18~22)、「国家と法」(23~24)、「国際関係と法」(25~27)、「現代社会の課題と法」(28~30)

**履修上の留意点**

・スケジュールは執筆時点で上記のようなものを考えていますが、適宜変更がありうるので注意してください。

**成績評価の方法**

・テキスト、成績評価方法を含めて、初回の講義で詳しく説明いたします。

・試験成績 (70%) + 平常点 (30%) = 100点。

・90点以上・・・S、80点以上・・・A、70点~80点未満・・・B、60点~70点未満・・・C、60点未満・・・D。

・試験成績は、執筆時点で後期試験のみを考えています。

・平常点は、出席点 (50%) と課題点 (50%) で構成されます。よって、出席をとります (毎回ではありません)。出席をとる際は開始後30分後におこないます。それ以降の出席票の交付はいたしません。交通機関の乱れによる遅刻の場合は、必ず遅延証明書を持参してください。

**教科書**

西村健一郎・西井正弘・初宿正典ほか著『判例法学 (第4版)』(2005年有斐閣) 2,200円 (ISBN 4-641-18316-3)。

その他適宜プリントを配布する場合があります。その場合、開講当初は印刷したプリントを配布いたしますが、その後はホームページから各自でダウンロードしてもらいます (データはPDF形式で配布予定です)。

**参考書等**

詳細は、第1回講義時に説明いたしますので、不明な点はその際に質問してください。

・森泉 章編著『法学 (第4版)』(2006年有斐閣) 2,500円 (ISBN 4-641-18332-5)

・伊藤眞『法学への誘い (第2版)』(2006年有斐閣) 2,500円 (ISBN 4-641-12510-4)

**その他**

また、講義に連動して、ホームページを運用します。プリントのダウンロードサービスなどを実施する予定です。URL等は、第1回目の講義時にお知らせします。

第1回講義時に大学配布のものとは異なるシラバスを配布します (取り上げるテーマなどがここで記載されたものと異なる場合があります)。それを熟読の上、履修を決定してください。

履修コード	218101・218201
科目名	法学・憲法〔法と国家〕
担当者名	新田 浩司

講義のねらい 法は社会のルールであり、憲法は政府と我々国民の関係という国家生活の基本的ルールを決めたものといえる。我々の生活にとって法や憲法を無視することは不可能である。法や憲法を良く知ることは、我々日本国民がより幸福に生きるために不可欠な作業である。  
この講義では、法学及び国家の根本法である憲法について、現実が発生する様々な問題にも言及しながら理解を深め、我々が国民として住民として生活する上で必要な法的思考（リーガル・マインド）を養うことを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

第1回目	ガイダンス	第14回目	国家の安全保障
第2回目	法学の基礎知識①	第15回目	精神的自由権①
第3回目	法学の基礎知識②	第16回目	精神的自由権②
第4回目	法学の基礎知識③	第17回目	経済的自由権
第5回目	法学の基礎知識④	第18回目	社会権
第6回目	法学の基礎知識⑤	第19回目	参政権
第7回目	法学の基礎知識⑥	第20回目	国務請求権
第8回目	憲法の基礎知識①	第21回目	統治機構①
第9回目	憲法の基礎知識②	第22回目	統治機構②
第10回目	日本国憲法の制定過程	第23回目	統治機構③
第11回目	日本国憲法の基本原理①	第24回目	統治機構④
第12回目	日本国憲法の基本原理②	第25回目	まとめ
第13回目	象徴天皇		

履修上の留意点

社会で起こる様々な問題は、憲法をはじめとする法律問題も多く、この講義を履修して法的思考を養い、それらの問題を考える知識を身につけてもらいたい。

成績評価の方法

夏期レポート及び学年末試験の成績により評価する。  
なお、適宜、小テスト及び授業の出席確認を予定している。

教科書  
参考書等

開講時に指示する。  
小六法（何でも可）があれば持参することが望ましい。

履修コード	218401
科目名	法学・憲法〔法と国家〕
担当者名	織田 晃子

講義のねらい 法とは何かに始まり、日本国憲法と人権、法と国家について判例を多く使って講義する。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 法とは何か
  - (1) 法と道徳
  - (2) 法の解釈
- 2 日本国憲法と人権
  - (1) 人権の主体
  - (2) 私法関係と人権
  - (3) 生命・自由および幸福追求権
  - (4) 法の下での平等
  - (5) 精神的自由権
  - (6) 居住・移転・外国移住・国籍離脱の自由
  - (7) 経済的自由権
  - (8) 社会権
  - (9) 人身の自由・裁判手続の保障
  - (10) 新しい人権
- 3 法と国家
  - (1) 日本における近代憲法の成立
  - (2) 日本国憲法の統治原理
  - (3) 司法権とその限界
  - (4) 平和主義と戦争の放棄

履修上の留意点

授業にはポケットサイズのもので十分であるが、六法を忘れないように持参し、講義中に条文がでてきたらそのつど面倒でも指摘された条文を見ること。

成績評価の方法

期末試験の成績による。

教科書  
その他の

『判例法学』（有斐閣ブックス）、『コンパクト六法』（岩波）  
プリント配布

履修コード	218501
科目名	法学・憲法〔法と権利〕
担当者名	茂野 <sup>しげの</sup> 隆晴 <sup>たかひろ</sup>

講義のねらい 法を学ぶに当たって、最も肝要なことは、「法」というものがいかようなものであり、また、いかなる特徴をもつものであるか、その本質をつかむことにある。

講義の内容・授業スケジュール 諸君は、いずれ社会の第一線に立って活躍する人達であるから、自分の立場をよく認識して、「在るべき法」の実現のためにも留意し進んでほしい。自己の使命を自覚され、年間の「法学」の内容の理解に取り組んでほしい。

1. 法を学ぶに当たって
2. 法と社会生活
3. 法と他の社会規範
4. 法の種類
5. 6. 7. 法の生成Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
8. 法の目的
9. 法の効力
10. 法と裁判
11. 法の解釈
12. 国家
13. 14. 憲法とその原理Ⅰ・Ⅱ
15. 16. 17. 基本的人権の保障Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
18. 統治機構Ⅰ(権力分立制)
19. 20. 21. 統治機構Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ(国会)
22. 23. 統治機構Ⅴ・Ⅵ(内閣)
24. 25. 統治機構Ⅶ・Ⅷ(裁判所)
26. 各論Ⅰ(民法・商法)
27. 各論Ⅱ(刑法・社会法)
28. 各論Ⅲ(行政法)
29. まとめ

成績評価の方法 学期末試験に加えて平常点としての出席状況を勘案して総合的に評価します。  
 教科書等 茂野隆晴編著『プライマリー法学—日本法のシステム—』2008年刊(芦書房)2000円(予定)  
 参考書等 茂野隆晴・新田浩司・和知恵一ほか代表編集『法学資料集』2008年刊(八千代出版)2000円(予定)

履修コード	344601
科目名	法学・憲法〔法と権利〕 - フレックスB開講 -
担当者名	鷄徳 <sup>けいとく</sup> 啓登 <sup>ひろとう</sup>

講義のねらい 人間は社会の中で生まれ、他の人と利害を対立しながら社会生活を営むものである以上、そこには相互の利害を調整し、紛争を解決するためのルール(規範)が必要である。「社会あるところ法あり。」(法諺)といわれるのはそれを如実に示すものである。この授業では、法の概論と基礎的な実定法上の権利・義務との二つに分けて、「法」とそこに認められる「権利」を講義する。

- 講義の内容・授業スケジュール
1. 法の概論は次の内容を中心として行う。
    - (1) 法の意義 (2) 法発生の背景 (3) 法とその近辺の社会規範 (4) 法の種別と解釈 (5) 法の適用
  2. 実定法上の権利・義務の講義は次の内容を中心として行う。
    - (1) 民法上の権利-権利の主体と客体、権利能力・行為能力、権利の種類と内容(財産法上の権利、親族法上の権利、相続法上の権利)、権利の発生・消滅。
    - (2) 憲法上の権利-自由権(経済的自由権、精神的自由権、身体的自由権)、平等権、社会権(生存権、教育権、勤労権、労働者の権利)、参政権(選挙権、被選挙権)、受益権(請願権、国家賠償請求権、裁判を受ける権利、刑事補償請求権)。
    - (3) 国家・地方公共団体の権利-国家作用と三権分立制の意義・統治機構、立法権と立法機関、行政権と行政機関、司法権と司法機関、地方公共団体の自治権と住民の権利。

成績評価の方法 出席状況と試験。  
 教科書等 小林弘人・松村格編著『法学・憲法』(八千代出版)3,500円  
 参考書等 『小六法』または『ポケット型小六法』(出版社・定価各種類)、その他参考書等については教場にて説明。

履修コード	344701
科目名	法学・憲法〔法と社会生活〕 - フレックスB開講 -
担当者名	長谷川 日出世 <small>はせがわ ひでよ</small>

**講義のねらい** 日常生活において生ずる様々な法律問題を解決するための法の基礎知識の習得と、我々の社会生活の基本となる日本国憲法の理解を目的とする。

**講義の内容・授業スケジュール** ①講義に関する全段的説明、②社会秩序と法、③～⑥法概念の本質、⑦～⑩法の成り立ちとその分類、⑪～⑬法の解釈、⑭～⑮日本の裁判制度、⑯憲法とは何か、⑰近代憲法の構成原理、⑱日本の憲法史、⑲～⑳日本国憲法の基本原理、(21～26)基本的人権の保障、(27)国会、(28)内閣、(29)司法権、(30)一年間のまとめ

**履修上の留意点** 日頃から、新聞、テレビニュースで報道される法律問題に関心を持つこと。講義の前に教科書を必ず読んでおくこと。

**成績評価の方法** 学期末の試験の成績と講義への出席の度合で評価します。

**教科書** 長谷川日出世、『法の基礎概念と憲法』、成文堂、2500+税、ISBN 4-7923-0399-0

履修コード	218701
科目名	政治学〔社会生活とデモクラシー〕
担当者名	白鳥 浩 <small>しらとり ひろし</small>

**講義のねらい** 「政治」とは何でしょうか。この講義においては、「政治」とは、「未来の選択である」とする視座に立ち、政治学の全体像を学んでもらいます。これは、しばしば「可能性のアート」とであるといわれるゆえんでもあります。そうした「未来の選択」、「可能性のアート」を扱う学問である「政治学」とは何か、どのように発展してきたのかを、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。

**講義の内容・授業スケジュール** 以下の内容を初めてのひとにもわかるように講義します。

- I、序論 政治学の基礎概念 (1～4)
- II、古代の政治理論 (5～8)
- III、中世の政治理論 (9～11)
- IV、近代政治理論の形成 (12～15)
- V、近代批判の政治理論 (16～18)
- VI、現代の政治理論 (19～22)
- VII、国際政治の理論 (23)
- VIII、現代の政治過程理論 (24～26)
- IX、ワールド・ポリティカル・サイエンスの形成 (27)
- X、現代日本の政治分析 (28～30)

**履修上の留意点** 関心を持って、講義に出席してください。

**成績評価の方法** 試験を中心とするが、総合的に判断する。

**教科書** 白鳥『都市対地方の政治学：日本政治の構造変動』(芦書房) 2004年

**参考書** 真柄・井戸『比較政治学』(放送大学教育振興会) 2004年

藤原『西洋政治理論史』(早瀬田大学出版部) 1985年

授業内で適宜、指示します。

履修コード	218801
科目名	政治学〔政治システムと政治参加〕
担当者名	富崎 隆 <small>とみさき たかし</small>

講義のねらい

「2001年9月11日、世界が変わった」と表現されることがあります。そして、米同時多発テロの境に、「ポスト冷戦」が終了し、「新しい時代」に入ったと議論されています。しかし、世界政治の方向性がはっきりとした訳ではありません。一方、世界の急速なグローバル化と情報化を背景に、膨大な情報が、テレビ、ラジオ、新聞、コンピュータ・ネットワークを通じ流通するようになってきました。しかし、これらの情報を単に漫然と受け取っているだけでは、毎日起こる事件の本当の意味は理解できません。事件や出来事を整理する「体系的視点」がどうしても必要となります。政治学を学ぶ基本的な意義もここにあります。

本講義では、政治学が蓄積してきた視点を、最新の成果を含めた形で、かなり網羅的に、かつ現実政治との連関を失わないように検討し、受講生が日々の政治的事件に対し自分の見解をもつための土台を提供したいと思えます。講義全体としては、現代における「国家」と「民主主義」の意義と役割、その動態について明らかにし、考えてもらうことを中心テーマとします。さらに、今日のアテロ問題とグローバル化・情報化の意味についても検討します。

講義の内容・授業スケジュール

(1～2) 講義のねらいと政治を学ぶ意義

(3～15) マクロ政治学—国家と自由民主主義体制の枠組み；政治・権力・国家の意味、望ましい国家のあり方（国家の仕事の範囲・国家の運営方法）、自由民主主義体制の意味、国家の展開・民主化と体制変動、自由民主主義体制の比較枠組み

(16～24) ミクロ政治学—自由民主主義体制の作動メカニズム；政権形態、政党と政党制、有権者の投票行動と選挙、官僚制と議会、利益集団とマスメディア、日本の民主政治

(25～30) 国際政治学；国際政治の意味、国際政治の主要理論潮流、日本の外交政策、冷戦後の世界政治をみる視点

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

テスト及びレポート・出席など総合的に評価

堀江湛編『政治学・行政学の基礎知識編』一藝社 2625円 ISBN-10：4901253913

講義時、適時指示

履修コード	218901
科目名	政治学〔国際社会と日本〕
担当者名	山崎 望 <small>やまざき のぞみ</small>

講義のねらい

本講義の副題は「国際社会と日本」です。国内政治と国際政治の相違、そしてグローバル化に伴う世界秩序の再編について、基礎的な理論や考えを学ぶことが本講義の狙いです。

講義の内容・授業スケジュール

前期は国内政治と国際政治の相違点と類似点を扱います。具体的には国内政治では主権国家、政治体制、政治と経済、福祉、政治過程と政党といったテーマについて、国際政治では主権国家システムの成立、国民国家と植民地、世界大戦と冷戦、冷戦の終焉などについて扱います。

後期は国内政治と国際政治の垣根を越えるグローバル化がはらむ問題について扱います。アメリカの帝国化、イスラーム復興運動、「テロ」のグローバル化、福祉国家の再編と新自由主義の拡大、ネオ・ナショナリズム、市民社会と新しい民主主義、EUや南米の地域主義といったテーマを扱います。そして各々のテーマについて日本がグローバル化に連関していかなる変化にさらされているのか、格差社会化、治安・管理社会化、日本の近年のナショナリズムといった個別的なテーマについて論じる予定です。

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

新聞や本を読み、インターネットなどで情報を集め、問題意識をもって出席してください。

年度末の試験。

加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦1998『現代政治学』有斐閣アルマ

ISBN 4-641-12168

参考書等  
その他の

講義中に適宜指摘します。

講義形式。講義時に簡易なレジュメを配布する予定です。

講義の後半10分にカードを配るので、質問や感想を書いてください。

履修コード	344801
科目名	政治学〔政治システムと政治参加〕 - フレックスB開講 -
担当者名	眞下 英二

講義のねらい	そもそも政治とは何か、何のために存在しているのか？政治学の基本的な知識を身につけることにより、社会における政治の役割とわれわれの生活との関わり合いについて考察していく。とりわけ、現代民主主義における参加の問題についても検討を加えていく。
講義の内容・授業スケジュール	春学期：政治学の基本的な概念を中心に検討していく。特に、民主主義に関する問題は、時間をかけて行っていく。 秋学期：より現代的な問題を取り上げながら、現代社会の民主主義の問題について検討を行う。特に、政治システムと政治参加について、より詳細に検討していく予定である。
履修上の留意点	この講義においては、他の履修者の迷惑となるような行為は一切禁止する。当然のことながら、私語は厳禁である。
成績評価の方法	また、政治学や社会科学全般に関する知識は、必ずしも必要としないが、最低限、社会的な諸問題についての知識を持っていることが期待される。 成績評価は、原則的に期末試験の得点のみによって行う。ただし、必要な場合にはレポートを課すこともある。詳細については、講義中に指示する。
教科書 参考書等	特に指定しない。 加藤秀治郎他『政治学の基礎』（一藝社）2002年 加藤秀治郎・中村昭雄『新版スタンダード政治学』（芦書房）1999年 他は追って指示する。

履修コード	344901
科目名	政治学〔国際社会と日本〕 - フレックスB開講 -
担当者名	山村 恒雄

講義のねらい	「法学」や「経済学」とは違い、「政治学」に対して抱くイメージは、人によってかなり異なるようである。この授業は副題にある通り「国際社会」のなかで日本が直面するさまざまな課題を取り上げ、それを素材として「政治を見る眼」を養うことを目的とする。具体的には、近代国際社会成立以降第二次世界大戦終了後に至るまでの国際政治の主な出来事を解説し、それを基にして現在生じている時事問題を考える素材を提供しようとするものである。したがって、授業は時事問題の解説が目的ではなく、受講生のひとりひとりが、政治問題に対して自分の意見を形成できるよう、「分析の道具」を提供しようとするものである。
講義の内容・授業スケジュール	時事問題を素材として用いるため、具体的な問題を予め示すことはできないが、分析のための基本的な知識として、以下の項目を取り上げる。 1 ウェストファリア体制の形成 2 近代の国際政治 3 地球的問題群 4 第二次世界大戦後の国際政治の変容 5 冷戦と核兵器 6 食糧問題 7 環境破壊と持続可能な開発 8 日本が直面する諸問題
履修上の留意点	受け身ではなく、積極的に授業に参加できる意欲のある人を歓迎します。
成績評価の方法	夏休み明けのレポートと学期末試験による。なお、夏休み明けのレポートを提出しない者は、学期末試験の受験資格を失うので注意すること。
教科書 参考書等	特定の教科書は使用しない。 授業中、随時指定。

履修コード	219001
科目名	経済学〔現代社会と市場経済〕
担当者名	はたなか たかし 畠中 貴

**講義のねらい** 諸々の経済現象をよりよく理解するための理論（ミクロ経済学・マクロ経済学）について概説する。経済についての体系的な理解を得ることがこの講義の目標である。

**講義の内容・授業スケジュール** 経済は家計、企業、政府の三種類の主体が行っている経済活動によって成り立っている。前期は家計が行っている経済活動、企業が行っている経済活動、そして家計と企業が互いに影響を及ぼし合う場である市場について説明する。

後期は市場メカニズムが果たしている役割、市場メカニズムがうまく機能しないケース（市場の失敗）、政府が行っている経済活動、国内総生産（GDP）、不況と失業、物価の変動、国際貿易について説明する。

**履修上の留意点** 講義の内容は抽象的な議論が多く、理解するにはそれなりの労力と時間を必要とする。世界一頭のいい人であっても、テキストを一度読んだだけ、講義を一回聴いただけで、経済学を習得することは不可能である。受講者は、テキストを何度も読み返し、自分が理解できているのがどこまで、理解できていないのがどの部分なのかを確認するという地道な作業を、一年を通じて行わなければならない。分からない部分については分かるようになるまで説明するので、どんどん質問にいくこと。

**成績評価の方法** 基本的に二度の期末試験の総合評価。前期末試験、後期末試験のうちどちらか一方でも受けていない人には単位を与えないので注意すること。追試験は実施する。

**教科書** 第一回目の授業で指示する。

履修コード	219101
科目名	経済学〔現代経済と人間〕
担当者名	もりた せいや 森田 成也

**講義のねらい** はじめて経済学を学ぶ人のために、経済学の基礎理論の初歩的知識と、その応用編としての日本経済の歩みについて、わかりやすく解説します。

**講義の内容・授業スケジュール** 授業の前半は経済学の基礎理論を、最も短銃で目の前に存在する普通の商品からはじめて、世界的に資本展開する多国籍企業にいたるまで、わかりやすくかいつまんで説明します。授業の後半は、以上の基礎理論を踏まえての日本経済の独自の歩みについてです。

<前半>

1、経済学とは何か、2、商品とは何か―商品生産社会と価値法則、3、貨幣とは何か、4、利潤の源泉としての剰余価値とその発生メカニズム、5～6、剰余価値生産の3つの形態、7、労賃とは何か、8、資本の蓄積メカニズム、9、利潤と生産価格、10、商業資本、11、利子生み資本と銀行、12、株式会社、13、土地所有と地代、14、競争と独占、15、市民社会と国家、16、外国貿易と多国籍企業と帝国主義

<後半>

17、明治維新から敗戦まで、18、戦後改革と戦後復興、19～20、高度経済成長、21、高度成長の終焉と70年代後半の中成長、22、レーガン革命と80年代前半の日本経済、23、バブル経済とその崩壊、24、平成大不況、25、小泉改革と階層的景気、26、今後の課題と展望

板書中心の授業になるので、必ずノートはとってください。出席はとくにとりません。

**履修上の留意点** 夏休みのレポートと学期末試験の2つで成績評価します。とくに学期末試験が重要です。夏休みのレポートは、学期末試験に対する追加点と考えてください

**成績評価の方法** (1) 夏休みのレポート……夏休みのレポートとして、いくつかの課題の本を指定しますので、それを読んで、内容の要約と感想を書いてください。提出は夏休み後の授業。

(2) 学期末試験……1年間の授業すべてが範囲になります。穴埋め問題と筆記問題の両方が適度なバランスで出題されます。

**教科書** 森田成也『資本と剰余価値の理論（仮題）』2008年刊（作品社）、2600円（予価）

**参考書** 松石勝彦『新版現代経済学入門』2002年刊（青木書店）、2625円



履修コード	219201
科目名	経済学〔現代経済理解へのガイド〕
担当者名	まつまえ 龍宜

**講義のねらい** 本講義は、経済学を初めて履修する学生に経済学の基礎を平易に解説するものです。講義では、なるべく数式を使わず、図や具体的な実例を示しながら、直感的に経済学の考え方を理解していただきます。本講義の目的は、学生自らが現実の経済現象を経済学的に解釈する力を身につけていただくことです。

**講義の内容・授業スケジュール** 経済学は、ミクロ経済学とマクロ経済学の2つの分野に分けられます。本講義では、この2つの分野をバランスよく、また現実の経済現象あるいは経済政策と絡めながら講義を進めます。前期はマクロ経済学に関するテーマとして、国民所得決定、有効需要と乗数メカニズム（45度線分析）、貨幣の機能、財政政策・金融政策の役割（IS/LMモデル）、開放経済下のモデル（国際金融、IS/LM/BPモデル）について取り上げます。後期はミクロ経済学に関するテーマとして、需要と供給、需要曲線と消費者行動、費用構造と供給行動、市場取引と資源配分、市場の失敗について講義します。

**履修上の留意点** 数学の知識は特に必要としません。自分で手を使ってグラフの意味を考えることを厭わないことが条件です。授業中の私語は厳禁です。

**成績評価の方法** 前期：レポート（レポート課題は前期講義終了時までに指示します）  
後期：筆記テスト

**教科書** 伊藤元重著『入門 経済学 第2版』（日本評論社）、3000円、ISBN4-535-55244-4

**参考書等** 適宜指定します。

**その他** 連絡先 matsumae.t.aa@m.titech.ac.jp

履修コード	219301
科目名	経済学〔現代経済理解へのガイド〕
担当者名	やの 浩一

**講義のねらい** 「なぜカップラーメンは値上げしたのか？」「将来、皆さんは年金をもらえるのか？」「バイト代はなぜ安いのか？」「なぜ世界には貧しい国と豊かな国があるのか？」「なぜ食品偽装は相次ぐのか？」本講義の目的は、それらの疑問を需要と供給、インセンティブの原則、情報の非対称性など経済学の原理を用いて解き明かします。本講義終了後には、学生が自分で様々な現象を経済学的に考えることができることを目指します。

**講義の内容・授業スケジュール** 経済学は、一般的にミクロ経済学とマクロ経済学の2つの分野に分けられます。本講義では身近な出来事や経済問題を解説しながら、経済学の原理を勉強します。前期はミクロ経済学に関するテーマ（経済学的な考え方、貿易、需要と供給、完全市場と不完全市場、ファイナンス、政府の役割など）について講義します。後期はマクロ経済学に関するテーマ（GDP統計、経済成長、好況と不況など短期の景気変動、雇用と失業、物価の上昇と下降、政府の経済政策、日本の財政赤字問題など）について取り上げます。

**履修上の留意点** 積極的に講義に参加してください。また私語は禁じます。

**成績評価の方法** 前期：レポート（レポート課題は前期講義終了時までに指示します）  
後期：筆記テスト

**教科書** スティグリッツ・ウォルシュ著『入門経済学 <第3版>』（東洋経済新報社）、3675円、ISBN4492313486

**参考書等** 適宜指定します。

**その他** 連絡先 koiiti.yano@gmail.com

履修コード	345001
科目名	経済学〔現代経済と人間〕 - フレックスB開講 -
担当者名	<small>あまた さとし</small> 沼田 郷

講義のねらい	現代経済に人間がどのように関わっているのか、またどのような状況におかれているのかをわかりやすく講義したいと考えています。現代経済を読み解くキーワードを理解することが目標となります。
講義の内容・授業スケジュール	・世界経済に関する理論・今日の地球環境・世界の経済格差・大量消費社会の実態・世界の貿易と投資・物質的繁栄の代償・成長するアジアと停滞するアフリカ・環境問題・経済成長と石油資源・開発論の検討・世界の貿易と投資・ODAとは何か・地球環境と資源・環境への取り組み・世界経済と多国籍企業
履修上の留意点	さしあたり、以上のような項目を準備しています。これ以外にも受講者の意見を取り入れながら随時項目を追加する予定です。また、ビデオなど映像資料を用いることも検討しています。
成績評価の方法	現代経済は非常にめまぐるしく変化しています。特に「グローバリゼーション」は、程度の差こそあれ我々人間に大きな影響を与えています。こうした今日的な問題を扱うため、受講生には日々のニュースに関心をもってもらうことが、本講義履修の留意点になります。
教科書	学期末の試験は受講生の強い要望がない限り行いません。したがって、レポートの作成を求めます(年間で1、2回)。また、出席カードの提出にかえて、講義終了時に書いていただく講義内容についての小レポートも成績に反映させます。
その他の	本講義の性質上教科書は指定しません。しかしながら、参考文献、資料等に関しては講義の中で随時お知らせいたします。
	授業方法は履修人数にもよりますが講義形式で行います。パワーポイントでの授業を基本としますが、必要に応じて資料等の配布も行います。

履修コード	220201・220301
科目名	生物学〔生態と進化〕
担当者名	清水 善和

**講義のねらい** 地球上には170万種以上の生物種が存在する（生物多様性）。それらはすべて、約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後連続と続いた進化の産物である（進化）。また、あらゆる生命活動は遺伝子とその産物によって実現される（遺伝子）。本講義では「生物多様性」、「進化」、「遺伝子」の3つをキーワードに、生物の進化や生態を体系的に捉えるとともに、それらを理解するための様々な仕組みや理論について解説する。

**講義の内容・授業スケジュール** 1章：遺伝子と進化(1-3回)、2章：40億年の生物進化（4-6回）、3章：系統と分類（7,8回）、4章：行動と進化（9,10回）、5章：動物の人口論（11,12回）、6章：共生と競争（13,14回）、7章：人類の進化（15-17回）、8章：進化論（18,19回）、9章：生態系（20,21回）、10章：物質の循環（22-24回）、11章：植生遷移（25,26回）、12章：生物多様性（27,28回）、13章：人為と生物（29,30回）

**成績評価の方法** 前期のレポート、後期の試験、通年の出席回数を勘案して評価する。  
**教科書** 講義内容を文章化した「web 版テキスト」（清水執筆）を紹介する。受講者は指定のHPより自由にダウンロードして予習・復習に利用できる。

**参考書等その他** 上記「web 版テキスト」で章ごとに参考書を紹介する。  
 講義に必要な図表等は章ごとに1枚のプリントにして教場で配布する。

履修コード	220401
科目名	生物学〔生物と環境〕
担当者名	中村 敏枝

**講義のねらい** 地球上の生き物はすべて40億年の歴史を背負っている。その中でヒトだけが自然のおきてに逆らい、自分の歴史をつくろうとした。しかし、「ヒトも生物である」という現実から逃れることはできない。「生物とは何か」4を考え、「自然との共生」について考えてみよう。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- (前期) 生物の生活
- (1) 地球の歴史と生命の起源
    - ・最初の生命 ・地球の歴史 ・極限環境生物
  - (2) 生命誕生
    - ・いまここにいる奇跡 ・受精と発生
  - (3) 生命の維持
    - ・なぜ食べるか ・消化と吸収 ・排泄物のゆくえ ・植物の光合成
  - (4) 生態系の物質循環とエネルギーの流れ
    - ・陸と海をめぐるいのちの輪
- (後期) 化学物質の功罪
- (1) ゴミ処理とダイオキシン汚染
    - ・ゴミ焼却とダイオキシン ・ゴミの減量 Reduce Reuse Recycle ・ゼロエミッションという考え方
  - (2) 人工化学物質の功罪
    - ・内分泌かく乱化学物質 - 環境ホルモン
  - (3) 人工放射性核種
    - ・原発は温暖化を防ぐ救世主か ・JCO 臨界事故
  - (4) まとめ 自然とともに生きる

**履修上の留意点** 義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

**成績評価の方法** 学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

**教科書** 赤堀他著『生物学—地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円

**参考書等** 授業時間内に随時紹介します。

**その他** 授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

履修コード	345501
科目名	生物学〔生態と進化〕 - フレックスB開講 -
担当者名	清水 善和

講義のねらい	地球上には170万種以上の生物種が存在する（生物多様性）。それらはすべて、約40億年前に誕生した始原生物に端を発し、その後連続と続いた進化の産物である（進化）。また、あらゆる生命活動は遺伝子とその産物によって実現される（遺伝子）。本講義では「生物多様性」、「進化」、「遺伝子」の3つをキーワードに、生物の進化や生態を体系的に捉えるとともに、それらを理解するための様々な仕組みや理論について解説する。
講義の内容・授業スケジュール	1章：遺伝子と進化(1-3回)、2章：40億年の生物進化（4-6回）、3章：系統と分類（7,8回）、4章：行動と進化（9,10回）、5章：動物の人口論（11,12回）、6章：共生と競争（13,14回）、7章：人類の進化（15-17回）、8章：進化論（18,19回）、9章：生態系（20,21回）、10章：物質の循環（22-24回）、11章：植生遷移（25,26回）、12章：生物多様性（27,28回）、13章：人為と生物（29,30回）
成績評価の方法	前期のレポート、後期の試験、通年の出席回数を勘案して評価する。
教科書	講義内容を文章化した「web 版テキスト」（清水執筆）を紹介する。受講者は指定のHPより自由にダウンロードして予習・復習に利用できる。
参考書等その他	上記「web 版テキスト」で章ごとに参考書を紹介する。 講義に必要な図表等は章ごとに1枚のプリントにして教場で配布する。

自然分野

履修コード	345601
科目名	生物学〔生物と環境〕 - フレックスB開講 -
担当者名	中村 敏枝

講義のねらい	地球上の生物はすべて40億年の歴史を背負っている。その中でヒトだけが自然の掟に逆らい、自らの歴史をつくろうとした。しかし、「ヒトも生物である」という現実から逃れることはできない。「生物とは何か」を考え、「自然との共生」について考えてみよう。
講義の内容・授業スケジュール	（前期）生物の生活 （1-5）地球の歴史と生命の起源 （6-13）生態系のしくみ （後期）化学物質の功罪—豊かな生活とそのつけ （14-21）ゴミ処理とダイオキシン汚染 （22-23）水銀汚染と水俣病 （24-25）人工放射性物質汚染
履修上の留意点	義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。
成績評価の方法	学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。
教科書	赤堀他著『生物学—地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円
参考書等その他	授業時間内に随時紹介します。 授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

履修コード	221101・221201
科目名	自然環境論〔生命と環境〕
担当者名	山縣 毅

講義のねらい 18世紀後半から始まった産業革命以降、産業文明の発展により、地球規模の環境変化が自然の復元能力を超えて急激に進んでいます。その変化は、人類の生存自体にも深刻な影響を及ぼすようになってきました。本講義では、地球科学的立場から、地球環境の諸問題を解説し、人間活動が地球環境に与える影響、自然と人間の関わりについて考えていくことを目標としています。

講義の内容・授業スケジュール

- 〔地球表層の環境〕
1. 大気構造とオゾン層 (1, 2回)
  2. 気候の決定要因 (3~7回)
  3. 生物生存条件としての地球磁場 (8回)
- 〔人間活動による環境変化〕
1. 公害問題の変遷 (9回)
  2. 地球温暖化とその要因 (10~16回)
  3. 大気汚染 (17回)
  4. 酸性雨 (18回)
  5. 光化学スモッグ (19回)
  6. オゾン層の破壊 (20回)
  7. 海洋汚染 (21, 22回)
  8. 廃棄物問題 (23, 24回)
  9. 資源とエネルギー (25~27回)
- 〔自然災害〕:
1. 気候変動 (28回)
  2. 地震とその災害 (29回)
  3. 火山とその災害 (30回)

成績評価の方法

成績は、定期試験とレポートにて評価します。

教科書

特になし。

参考書等

講義中に紹介します。

その他の

講義にて、資料プリントを配布します。

履修コード	221301・221801・221901・222001
科目名	自然環境論〔生物の集団と環境〕
担当者名	坂巻 義章

講義のねらい

地球環境の変化は現代の重要な問題の1つである。これは、個人の専門や興味に関係なく我々に降りかかってくる。この状況の中で人間を含めた自然、それを取り巻く環境について正しい理解をもつことは必要不可欠である。この講義では生物の生活と環境の関係を理解する事を基本とし、生態系の成り立ちやその中で起こる調節、人間による攪乱などについて取り上げる。これらの知識を基礎にこれからの環境変化についてどう対処するかを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 前期 (1) ガイダンス (2) 地球 (3) 気圏と水圏 (4) 環境とは何か (5) 生物とは何か (6) 生物界の構成 (7) 地球生物の歴史と環境① (8) 地球生物の歴史と環境② (9) 地球生物の歴史と環境③ (10) 生物の進化 (11) 進化説 (12) 環境への適応① (13) 環境への適応② (14) 生物の分布 (15) 前期のまとめと試験
- 後期 (16) 食物連鎖 (17) エネルギー流 (18) 生態ピラミッド (19) 個体群 (20) 出生と死亡 (21) 競争と住み分け (22) 捕食 (23) 共生と寄生 (24) 土壌と分解者 (25) 物質循環 (26) 里山の生態系 (27) 人口問題と環境問題① (28) 環境問題② (29) 環境問題③ (30) まとめと試験

履修上の留意点

スケジュールは基本である。開始後に理解度によって進度を調整したり、新たな内容についても触れるなどの変更はありうる。大学生として授業に参加する基本的なマナーは守って欲しい。

成績評価の方法

出席点と筆記試験(前、後期の最終回を予定)で行う。途中で課題を出すこともあるので、その場合はこれも加える。

教科書

指定しない

参考書等

指定しない。必要な場合にプリントを配布する。

その他の

講義形式の授業とする。

履修コード	221401・221501
科目名	自然環境論〔地球・太陽系環境〕
担当者名	坂野井 和代

**講義のねらい** 人間が普段活動している地球環境（陸地、大気、海洋）の基礎的な構造や原理を学ぶと共に、現在話題になっている地球温暖化等の環境問題について知る。また、近年人類が活動するようになった地球近傍の宇宙環境（地球磁気圏、太陽系の惑星など）についても触れ、地球環境システムを総合的に理解する。

**講義の内容・授業スケジュール** 主に地球温暖化についての諸問題と地球・太陽系環境の基礎について触れる。

1. ガイダンス（1回）
2. 地球温暖化について 基礎編（5回）
3. 地球環境システムの構造と原理（個体地球、大気・海洋、地球磁気圏）（9回）
4. 前期の確認・復習（1回）
5. 地球と太陽系惑星との比較（太陽、太陽系）（4回）
6. 地球大気の観測・オーロラについて（2回）
7. 地球温暖化について 応用編（5回）
8. トピックス（3回）

**履修上の留意点** なるべく1つ、1つ説明しますが、中学・高校の基礎的な数学・理科を理解する程度の知識や能力は必要です。講義の進度や話題は、受講人数やその時期の状況に応じて適宜調節します。人数によってはレポート発表形式の講義も検討します。レポート形式の場合、詳細は講義で説明します。内容は決して簡単ではありませんので、興味およびやる気のある学生を求めます。

**成績評価の方法** 評価は授業時間中および期末に出題するテストまたはレポート（口頭発表の場合もあり）によって行う。

**教科書** 使用しない。適宜資料を配付する。

**参考書等** その都度紹介する。

**その他** 特に地球温暖化について考える講義をしています。  
講義情報を、独自に下記のウェブサイトで公開しています。  
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~ksakanoi/lecture.html>

履修コード	221601・221701
科目名	自然環境論〔生命と環境〕
担当者名	中村 敏枝

**講義のねらい** 私たちは今後ますます環境に配慮した行動をとることを要求されるだろう。そのためには、生態系におけるヒトの位置と、生物の限界を正しく認識して、生活活動、経済活動、経済利益と効率などを長期的な視野で考えることが肝要である。これを本講義のねらいとする。

**講義の内容・授業スケジュール** （前期）自然環境の改変  
（1-6）自然のしくみ  
（7-12）自然の改変食をめぐる問題

（後期）人間の活動と自然環境－食をめぐる問題  
（13-18）農業－有機農業・灌漑・遺伝子組み替え作物  
（19-22）畜産業－肉食とは何か・BSE・クローン動物  
（23-25）漁業－海外依存度・環境ホルモン汚染  
（26）まとめ 私たちは自然に生かされている

**履修上の留意点** 義務教育までの数学、理科をはじめ各教科の知識を、本講義の前提とする。意見発表の機会をつくりたいので積極的に取り組む学生の参加を期待します。

**成績評価の方法** 学期終了時に講義内容についての試験またはレポートを課します。成績は上記と出席状況、授業時間内の小レポートなどを考慮して、総合的に評価します。

**参考書等** 赤堀他著『生物学－地球に生きるいのちを考える』（宣協社）2,700円

**その他** その他については授業時間内に随時紹介します。

授業スケジュールを変更して時事問題を扱うことがあるかもしれません。

履修コード	346301
科目名	自然環境論〔宇宙から見た地球環境〕 - フレックスB開講 -
担当者名	篠原 正雄

講義のねらい 現代の天文学と惑星科学の成果の上に立ち、宇宙を視点に地球の自然環境について講義する。個別の環境問題の背後にある地球環境システムについて理解し、より深いところから地球環境を考えられるようになっていただきたい。

講義の内容・授業スケジュール (1~10) 宇宙と地球環境：(自然の階層構造 宇宙137億年の歴史 地球46億年の歴史 地球の進化と地球環境の形成) (11~15) 地球環境の変動：(宇宙環境と地球環境変動 地球システムと地球環境変動 人類と地球環境変動) (16~25) 地球環境問題：(オゾン層破壊問題 地球温暖化問題 エネルギー その他の環境問題) (26~30) 宇宙と地球の未来：(文明の未来 地球と宇宙の未来 SETI：地球外文明探査)

成績評価の方法 学年末に行う筆記試験の結果により評価する。S, Aについては教務部のガイドラインを考慮するので、試験の点と成績とは一致しない。平常点は10点までの範囲で考慮する。

教科書 木下紀正・八田明夫著『地球と環境の科学』(東京教学社) 2,300円+税

参考書等 講義の中で適宜紹介する。

その他 「宇宙」に関する映像を使うことがある。教科書外の事項については適宜プリント等を配布する。

履修コード	346401
科目名	自然環境論〔生命と環境〕 - フレックスB開講 -
担当者名	山縣 毅

講義のねらい 18世紀後半から始まった産業革命以降、産業文明の発展により、地球規模の環境変化が自然の復元能力を超えて急激に進んでいます。その変化は、人類の生存自体にも深刻な影響を及ぼすようになってきました。本講義では、地球科学的立場から、地球環境の諸問題を解説し、人間活動が地球環境に与える影響、自然と人間の関わりについて考えていくことを目標としています。

講義の内容・授業スケジュール

〔地球表層の環境〕

1. 大気構造とオゾン層 (1, 2回)、2. 気候の決定要因 (3~7回)、3. 生物生存条件としての地球磁場 (8回)

〔人間活動による環境変化〕

1. 公害問題の変遷 (9回)、2. 地球温暖化とその要因 (10~16回)、3. 大気汚染 (17回)、4. 酸性雨 (18回)、5. 光化学スモッグ (19回)、6. オゾン層の破壊 (20回)、7. 海洋汚染 (21, 22回)、8. 廃棄物問題 (23, 24回)、9. 資源とエネルギー (25~27回)

〔自然災害〕：

1. 気候変動 (28回)、2. 地震とその災害 (29回)、3. 火山とその災害 (30回)

成績評価の方法 成績は、定期試験とレポートにて評価します。

教科書 特になし。

参考書等 講義中に紹介します。

その他 講義にて、資料プリントを配布します。

履修コード	222401
科目名	数学〔微積分学入門〕
担当者名	小沢 誠 <small>おざわ まこと</small>

**講義のねらい** 数学の基礎分野の一つである微積分学の入門的事項を学ぶ。将来必要になった時に困らないよう、例題を丁寧に解説し、練習問題を解けるようにする。また、単に問題が解けるだけでなく、その過程において、論理的思想を身に付けることを目標とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 教科書に従って以下の項目を解説する。各節を4～6回かけて授業を行う。

### 第1章 1変数関数の微分積分

#### §1 1変数関数

- 1.1 1変数関数
- 1.2 今までに学んだ1変数関数
- 1.3 三角関数
- 1.4 逆三角関数
- 1.5 指数関数
- 1.6 対数関数

#### §2 1変数関数の微分

- 2.1 微分
- 2.2 微分公式
- 2.3 初等関数の導関数
- 2.4 n 次導関数
- 2.5 平均値の定理と不定形の極限
- 2.6 マクローリン展開
- 2.7 関数の増減とグラフの凹凸

#### §3 1変数関数の積分

- 3.1 不定積分
- 3.2 初等関数の不定積分
- 3.3 置換積分
- 3.4 部分積分
- 3.5 有理関数の積分
- 3.6 定積分
- 3.7 面積と回転体の体積

### 第2章 2変数関数の微分積分

#### §1 2変数関数

- 1.1 2変数関数
- 1.2 2変数関数の例

#### §2 2変数関数の微分

- 2.1 偏導関数
- 2.2 高次偏導関数
- 2.3 全微分と接平面
- 2.4 合成関数の微分
- 2.5 2変数関数の極値

#### §3 2変数関数の積分

- 3.1 累次積分
- 3.2 重積分
- 3.3 極座標への変数変換
- 3.4 立体の体積

**履修上の留意点** 毎回出席すること。数学は一つ一つの積み重ねであるので、欠席した場合には補習が必要である。

**成績評価の方法** 前期と後期の試験の結果で評価する。

**教科書** 石村園子著『やさしく学べる微積分分』共立出版  
2,100円(税込) ISBN4-320-01633-5

**参考書等** 適宜紹介する。

**その他** 講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。



履修コード	222501
科目名	数学〔線形代数学入門〕
担当者名	おざわ まこと 小沢 誠

**講義のねらい** 数学の基礎分野の一つである線形代数学の入門的事項を学ぶ。将来必要になった時に困らないよう、例題を丁寧に解説し、練習問題を解けるようにする。また、単に問題が解けるだけでなく、その過程において、論理的思想を身に付けることを目標とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 教科書に従って以下の項目を解説する。各節を4～6回かけて授業を行う。

### 第1章 行列と行列式

#### §1 行列

- 1.1 行列の定義
- 1.2 行列の演算
- 1.3 正方行列と逆行列

#### §2 連立1次方程式

- 2.1 連立1次方程式
- 2.2 行基本変形
- 2.3 行列の階数
- 2.4 連立1次方程式の解
- 2.5 逆行列の求め方

#### §3 行列式

- 3.1 行列式の定義
- 3.2 行列式の性質
- 3.3 逆行列の存在条件
- 3.4 クラメールの公式

### 第2章 線形空間

#### §1 空間ベクトル

- 1.1 ベクトル
- 1.2 内積

#### §2 線形空間

- 2.1 線形空間の定義
- 2.2  $n$  項列ベクトル空間
- 2.3 線形独立と線形従属
- 2.4 部分空間
- 2.5 基底と次元
- 2.6 線形写像

#### §3 内積空間

- 3.1 内積空間
- 3.2 正規直交基底
- 3.3 固有値と固有ベクトル
- 3.4 行列の対角化
- 3.5 2次曲線の標準形

**履修上の留意点** 毎回出席すること。数学は一つ一つの積み重ねであるので、欠席した場合には補習が必要である。

**成績評価の方法** 前期と後期の試験の結果で評価する。

**教科書** 石村 園子著『やさしく学べる線形代数』（共立出版）

2,100円（税込）ISBN4-320-01660-2

**参考書等** 適宜紹介する。

**その他** 講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。

講義が理解出来なかった場合は、遠慮なく質問して欲しい。全ての受講生が理解して進められるよう努力する。

履修コード	222601
科目名	数学〔現代数学入門〕
担当者名	福田 賢一

講義のねらい

現代数学の基礎概念を、諸科学への応用例を通して学ぶ。特に社会・経済現象に応用例を求め、具体的かつ基礎的な事例から無理のない数理的抽象化を計り、実践的な応用力の養成を目指す。特に、情報環境、情報機器への理解を深めるため、その数理側面を充実させる。時間に余裕があれば、経済・金融等に必要とされる数理的基礎にも触れる。

講義の内容・授業スケジュール

前期：4回 論理の基礎と言語、情報理論の数理と論理、  
3回 論理設計・論理回路、  
1回 情報。通信機器の理解と理解と数理  
2回 まとめと演習  
～前期最終、線型代数とその応用。  
後期：3回 線型計画法、  
3回 確率現象と社会現象、保険の数理  
2回 微積分とその応用、交通・運輸の数理基礎  
2回 まとめと演習  
～最終。社会・経済現象の数理トピックス

履修上の留意点

予備知識は特に必要としない。高校数学の基礎的な知識があれば十分理解できる。しかし、系統性の強い学術分野であるから、基本的な定義、性質を明確にするとともに、基本的な事項の確実な理解・運用能力が必要とされる。また、社会・経済現象に対し興味を持ち、基礎的な認識を深める必要もある。

成績評価の方法

前後期試験結果を中心に、レポート、出欠状況を加味し、総合的に判断する。

教科書

使用しない。教材、資料等は数時限に一回の割合で配布する。

参考書等その他

内外の関連する公的な機関等のサイト等も紹介する。  
必要となり次第指示する。配布する教材、資料等に明示する。  
教材、資料等は数時限に一回の割合で配布する。再配布ができない事もあるので注意。講義に対する要望、質問等は積極的に行うこと。疑問点、理解不十分なところを放置しないように努める事。可能な限り演習を行い理解の徹底を図る。

履修コード	222601
科目名	心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕
担当者名	高橋 良博

講義のねらい

心理学の基礎を学ぶ人を対象にして、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。  
特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間行動の対人行動やストレス・適応などのトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。  
また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなども織り込み、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義の予定としては、前期では、感覚・知覚・学習などの問題について学び、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学の各研究領域に焦点をあててゆく。  
各回ごとの講義予定は以下の通りである。

- 1 オリエンテーション（講義のねらい・成績の基準・評価履修上の注意など）、
- 2 心理学の定義・心理学の領域・心理学の成り立ち、
- 3 心理学研究法、
- 4 感覚（1）、
- 5 感覚（2）、
- 6 感覚（3）、
- 7 感覚（4）、
- 8 感覚（5）、
- 9 知覚（1）、
- 10 知覚（2）、
- 11 知覚（3）、
- 12 知覚（4）、
- 13 学習（1）、
- 14 学習（2）、
- 15 学習（3）、
- 16 学習（4）、
- 17 記憶（1）、
- 18 記憶（2）、
- 19 記憶（3）、
- 20 動機づけ（1）、
- 21 動機づけ（2）、
- 22 感情と情動（1）、
- 23 感情と情動（2）、
- 24 ストレス・適応（1）、
- 25 ストレス・適応（2）、
- 26 ストレス・適応（3）、
- 24 パーソナリティ（1）、
- 25 パーソナリティ（2）、
- 26 パーソナリティ（3）、
- 27 パーソナリティ（4）、
- 28 パーソナリティ（5）、
- 29 まとめ、
- 30 試験

履修上の留意点

履修者は、講義中は私語をつつし静粛に講義を受講すること。

成績評価の方法

筆記試験の得点、レポートなどの提出物、その他、平常点（講義への出席状況や、参加度）などを得点化して総合的に評価を行う。

教科書

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』（ナカニシヤ出版）2,000円税別

参考書等

講義の中で指示する。

履修コード	226301・226401
科目名	心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕
担当者名	加藤 博己

**講義のねらい** この講義では、人間観察に重点を置きつつ、哲学から独立し、約130年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、心理学論（語源、定義、分野、研究法、歴史）を概観し、心理学の基礎知識を習得することを目指す。

**講義の内容・授業スケジュール**

前期：オリエンテーション（講義の目標、形式、内容、評価方法、注意事項の確認等）、  
**【記憶】** 1.記憶の過程、2.記憶の分類、3.記憶の仕方、4.記憶の変容、5.忘却の仕方と理由  
**【学習・思考】** 1.レスポンド条件づけ、2.オペラント条件づけ、3.その他の学習理論（試行錯誤学習、洞察学習、模倣学習、観察学習）4.初期学習  
**【パーソナリティ】** 1.パーソナリティの分類（類型論・特性論・力動論）、2.パーソナリティの測定、3.パーソナリティ検査、4.知能  
**【動機づけ】** 1.動機づけの分類、2.葛藤、3.コンプレックス  
**【情動】** 1.感情の生起、2.感情の測定  
後期：**【発達】** 1.発達段階、2.発達要因、3.愛着、4.知覚の発達、5.発達の研究法  
**【感覚・知覚・認知】** 1.感覚（感覚のモダリティ、閾値）2.知覚（図と地、群化、恒常性）、3.認知（アフォーダンス、ストループ）、対人認知（ハロー効果、ピグマリオン効果）  
**【社会】** 1.他者や社会が個人の態度に及ぼす影響（印象形成、同調実験、態度変容、バランス理論、援助の傍観者効果、認知的不協和理論）、2.相互作用（リーダーシップ論）  
**【臨床】** 1.査定、2.心理療法

**履修上の留意点**

**【心理学論】** 1.心理学の語源、2.定義、3.心理学の基礎分野、4.心理学の研究法、5.心理学の歴史。  
履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義の目標、形式、内容、評価方法等をよく理解した上で受講すること。

**成績評価の方法**

前期授業の最終日（7月）に前期試験を、定期試験期間内に、定期試験を行う。詳細は、初回のオリエンテーションで述べる。

**教科書**

鹿取廣人・杉本敏夫 2004年 『心理学 第2版』 東京大学出版会 2,520円（本体2,400円＋税）ISBN4-13-012041-7

**参考書等その他**

教科書や配付資料の引用文献を参照のこと。その他、必要に応じて紹介する。  
主に板書を用い、必要に応じて教科書を用い、数回の簡単な心理検査や実験を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方通行の講義とならないよう、前回の授業内容の理解度を確保するためのワークの実施や、授業内容についての積極的なコメントが毎回求められる。

履修コード	226501
科目名	心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕
担当者名	杉山 雅美

**講義のねらい** 書籍や雑誌、テレビ番組等を通じて、とりわけ心理テストやカウンセリングなどの側面から、心理学に対する何らかのイメージを既にもっていたり、興味を抱いていたりする人も多いことであろう。一方、高校までの履修科目には「心理学」がないこともあってか、みなさんのイメージその内容と、学問としての「心理学」との間には、少なからず違いもあるものと思います。本講義では、学問としての「心理学」の概論的内容について、身近な具体例などを通して紹介していきます。それにより、人間の心まつわる諸現象に対する、科学的視点からの理解を深めることを目的とします。

**講義の内容・授業スケジュール**

講義の内容と具体的な授業スケジュールは、実際の進捗状況等により変更することもあります。概ね以下のように進めていく予定です。

(1) ガイダンス (1回)、(2) 心理学とは何か (2～3回)、(3) 感覚・知覚 (4～6回)、(4) 学習 (7～9回)、(5) 記憶 (10～12回)、(6) 思考・言語 (13～15回)、(7) 情動・動機づけ (16～18回)、(8) パーソナリティ (19～21回)、(9) 発達 (22～24回)、(10) 臨床 (25～27回)、(11) 社会 (28～30回)

**履修上の留意点**

履修するうえでとくに予習は求めませんが、そのぶん履修者は講義中集中し、私語を極力慎んで臨んで下さい。

**成績評価の方法**

年度末に行われる筆記試験の成績と出席状況により、総合的に評価します。

**教科書**

講義の中で紹介します。

**参考書等**

講義の中で適宜紹介していきます。

履修コード	226601
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	<small>たかはし よしひろ</small> 高橋 良博

**講義のねらい** 心理学の基礎を学ぶ人を対象にして、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。

特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間関係にかかわるトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。

また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなどもとり上げ、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

**講義の内容・  
授業スケジュール**

講義の予定としては、前期では、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学立場からの人間関係に関わる各研究領域に焦点をあててゆく。講義スケジュールは以下の通りである。

1 講義についてのオリエンテーション 2 心理学の定義・心理学も領域・心理学の成り立ち 3 心理学研究法 4 感覚(1) 5 感覚(2) 6 感覚(3) 7 感覚(4) 8 知覚(1) 9 知覚(2) 10 知覚(3) 11 知覚(4) 12 学習(1) 13 学習(2) 14 学習(3) 15 学習(4) 16 記憶(1) 17 記憶(2) 18 記憶(3) 19 動機づけ(1) 20 動機づけ(2) 21 感情と情動(1) 22 感情と情動(2) 23 ストレス・適応(1) 24 ストレス・適応(2) 25 ストレス・適応(3) 26 パーソナリティ(1) 27 パーソナリティ(2) 28 パーソナリティ(3) 29 パーソナリティ(4) 30 試験

(上記の講義スケジュールは、履修学生の理解度などを確認しながら、若干の時間調整を行う可能性もある。)

**履修上の留意点**

履修者は、講義中は私語をつつしみ静粛を保って受講すること。私語その他の迷惑行為が目立つ場合、教場外への退出をもとめる事もある。

**成績評価の方法**

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点(講義への出席状況や、参加度)などを得点化して総合的に評価を行う。

**教科書  
参考書等**

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』(ナカニシヤ出版)2,000円税別  
講義中に指示する。

自然分野

履修コード	226701
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	鈴木 順一 <small>すずき じゆんいち</small>

自然分野

**講義のねらい** 講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のバケツの学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める(勉強する)ことではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証(反証)し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を獲得した人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスから遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見しようとするモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互と自己内のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具(理論と技法)を体験的に学んでいきます。

**講義の内容・授業スケジュール**

番号は進行順であり、それぞれ1回から3回程度時間が配当されます。学習計画は、進行状況により変更することがあります。

【前期】 [1]学習とは? 授業方針 [2]エンカウンター(出会いと人間関係づくり) [3]グループ形成と集団規範 [4]コミュニケーションの促進 [5]心とは何か [6]性格検査による自己理解 [7]パーソナリティ理論 [8]無意識の心の働き(精神分析的な人格理論) [9]環境を知る働き(感覚・知覚・認知)

【後期】 [10]カウンセリングの理論と技法 [11]心理療法による自己理解と他者理解 [12]自己肯定の人間関係 [13]学習理論と行動療法 [14]relaxationによる心身の健康回復

**履修上の留意点**

最初の数回の授業で、6人のグループを編成しますので必ず出席してください。授業は、グループごとに決められた場所に着席していただき、毎回グループごとに自筆で出席をとり本人を確認します。

単独・聴講学習ではなく、グループによる協力学習・相互学習・体験学習・発見学習ですので、集団規範を守ることと、全回出席することが求められます。ルールを守れない人と欠席しがちな人は、履修しないでください。

**成績評価の方法**

出席状況と平常の小試験、小レポート、個人発表とグループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。平常点で評価しますので、学年末定期試験及び追・再試験はありません。

**教科書**

使用しません。授業内で紹介する参考図書や下記参考書の指摘する部分などを読み概念学習を進めていただきます。

**参考書等その他の**

蓮見将敏・小山望編著『人間関係の心理学―体験をとおして学ぶ心理学―』(福村出版)  
すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

履修コード	226801
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	加藤 博己

**講義のねらい** この講義では、人間関係に重点を置きつつ、哲学から独立し、約130年の歴史を有する心理学の基礎分野、並びに、心理学論（語源、定義、分野、研究法、歴史）を概観し、心理学の基礎知識を習得することを旨とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期：オリエンテーション（講義の目標、形式、内容、評価方法、注意事項の確認等）、  
【記憶】1.記憶の過程、2.記憶の分類、3.記憶の仕方、4.記憶の変容、5.忘却の仕方と理由  
【学習・思考】1.レスポナント条件づけ、2.オペラント条件づけ、3.その他の学習理論（試行錯誤学習、洞察学習、模倣学習、観察学習）4.初期学習

【パーソナリティ】1.パーソナリティの分類（類型論・特性論・力動論）、2.パーソナリティの測定、3.パーソナリティ検査、4.知能

【動機づけ】1.動機づけの分類、2.葛藤、3.コンプレックス

【情動】1.感情の生起、2.感情の測定

後期：【発達】1.発達段階、2.発達要因、3.愛着、4.知覚の発達、5.発達の研究法

【感覚・知覚・認知】1.感覚（感覚のモダリティ、閾値）2.知覚（図と地、群化、恒常性）、3.認知（アフォーダンス、ストループ）、対人認知（ハロー効果、ビッグマリオン効果）

【社会】1.他者や社会が個人の態度に及ぼす影響（印象形成、同調実験、態度変容、バランス理論、援助の傍観者効果、認知的不協和理論）、2.相互作用（リーダーシップ論）

【臨床】1.査定、2.心理療法

【心理学論】1.心理学の語源、2.定義、3.心理学の基礎分野、4.心理学の研究法、5.心理学の歴史。

**履修上の留意点** 履修希望者は、初回授業のオリエンテーションに必ず出席し、講義の目標、形式、内容、評価方法等をよく理解した上で受講すること。

**成績評価の方法** 前期授業の最終日（7月）に前期試験を、定期試験期間内に、定期試験を行う。詳細は、初回のオリエンテーションで述べる。

**教科書** 鹿取廣人・杉本敏夫 2004年 『心理学 第2版』 東京大学出版会 2,520円（本体2,400円＋税）ISBN4-13-012041-7

**参考書等** 教科書や配付資料の引用文献を参照のこと。その他、必要に応じて紹介する。

**その他** 主に板書を用い、必要に応じて教科書を用い、数回の簡単な心理検査や実験を実施する予定である。本授業は講義形式であるが、一方通行の講義とならないよう、前回の授業内容の理解度を確認するためのワークの実施や、授業内容についての積極的なコメントが毎回求められる。

履修コード	226901
科目名	心理学〔人間関係を考える〕
担当者名	<small>すずき じゅんいち</small> 鈴木 順一

自然分野

講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のバケツの学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める（勉強する）ことではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証（反証）し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を獲得した人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスから遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見しようとするモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互と自己内のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具（理論と技法）を体験的に学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

番号は進行順であり、それぞれ1回から3回程度時間が配当されます。学習計画は、進行状況により変更することがあります。

【前期】 [1]学習とは？ 授業方針 [2]エンカウンター（出会いと人間関係づくり） [3]グループ形成と集団規範 [4]コミュニケーションの促進 [5]心とは何か [6]性格検査による自己理解 [7]パーソナリティ理論 [8]無意識の心の働き（精神分析的人格理論） [9]環境を知る働き（感覚・知覚・認知）

【後期】 [10]カウンセリングの理論と技法 [11]心理療法による自己理解と他者理解 [12]自己肯定の人間関係 [13]学習理論と行動療法 [14]relaxation による心身の健康回復

履修上の留意点

最初の数回の授業で、6人のグループを編成しますので必ず出席してください。授業は、グループごとに決められた場所に着席していただき、毎回グループごとに自筆で出席をとり本人を確認します。

単独・聴講学習ではなく、グループによる協学習習・相互学習・体験学習・発見学習ですので、集団規範を守ることと、全回出席することが求められます。ルールを守れない人と欠席しがちな人は、履修しないでください。

成績評価の方法

出席状況と平常の小試験、小レポート、個人発表とグループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。平常点で評価しますので、学年末定期試験及び追・再試験はありません。

教科書

使用しません。授業内で紹介する参考図書や下記参考書の指摘する部分などを読み概念学習を進めていただきます。

参考書等その他

蓮見将敏・小山望編著『人間関係の心理学―体験をととして学ぶ心理学―』（福村出版）  
すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

履修コード	227001
科目名	心理学〔心を科学する〕
担当者名	高橋 良博

**講義のねらい** 心理学の基礎を学ぶ人を対象にして、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらうことを目的に、講義を進めてゆく予定。

特に本講義では、心理学の概論的な講義の中に、人間関係にかかわるトピックスを織り込み、そのような視点を持った研究に焦点を合わせながら、講義をすすめる。

また、講義の中に、適宜、供覧実験や人格テストなどもとり上げ、心理学研究の雰囲気も伝えてゆきたい。

**講義の内容・授業スケジュール**

講義の予定としては、前期では、心理学の立場で人間をどう考え、どの様に捉えようとしているかを、中心に進める予定。後期は、前期の基礎的知識をふまえて、心理学立場からの人間関係に関わる各研究領域に焦点をあててゆく。講義予定は以下の通りに進めてゆく予定。

- 1 講義についてのオリエンテーション 2 心理学の定義・心理学も領域・心理学の成り立ち 3 心理学研究法 4 感覚(1) 5 感覚(2) 6 感覚(3) 7 感覚(4) 8 感覚(5) 9 知覚(1) 10 知覚(2) 11 知覚(3) 12 知覚(4) 13 学習(1) 14 学習(2) 15 学習(3) 16 学習(4) 17 記憶(1) 18 記憶(2) 19 記憶(3) 20 動機づけ(1) 21 動機づけ(2) 22 感情と情動(1) 23 感情と情動(2) 24 ストレス・適応(1) 25 ストレス・適応(2) 26 パーソナリティ(1) 27 パーソナリティ(2) 28 パーソナリティ(3) 29 パーソナリティ(4) 30 試験

(上記の予定は、履修学生の理解度などを考慮し、時間配分に若干の修正が加わる場合もある。)

**履修上の留意点  
成績評価の方法**

履修者は、受講中は私語をつつし静粛を保つこと。

筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点(講義への出席状況や、参加度)など総合に得点化して、最終的な評価を行う。

**教科書  
参考書等**

鈴木清編『人間理解の科学〔第2版〕—心理学への招待』(ナカニシヤ出版)2,000円税別  
講義中に指示する。

履修コード	227101
科目名	心理学〔心を科学する〕
担当者名	堀内 正彦

**講義のねらい** 人間を理解するための1つの視点として心理学を学ぶことを本講義のねらいとする。ここでいう人間理解とは一個人の性格や人格の理解も含むが、それ以外にも、人間が一般的にもつ特性を知ることを含む。例えば、物事の捉え方や判断の仕方など、様々な場面で何気なく行なっている活動全般について理解するということである。

**講義の内容・授業スケジュール**

心理学の様々な分野を概観できるように、下記の内容、スケジュールで講義を進行する予定である。

- 第1回 オリエンテーション  
第2～3回 心理学の視点  
第4～6回 発達 - 環境と遺伝 -  
第7～9回 学習  
第10～11回 記憶  
第12回 前期末試験  
  
第13～15回 感覚・知覚  
第16～18回 思考・言語  
第19～21回 動機づけ・情動  
第22～24回 個人差  
第25～27回 社会行動  
第28～30回 行動の基本様式

**履修上の留意点**

この講義に限らず何かを学ぶというこの根底には、普段の生活の中での「当たり前」のこととして捉えているようなことに対して、素朴な疑問とでもいうべき問題意識を抱くことが大切であると考えている。このような問題意識をもって授業に臨むことを希望する。

**成績評価の方法  
教科書  
その他**

試験の結果(前期の講義内と定期試験の計2回)による。

鹿取廣人・杉本敏夫(編)『心理学 第2版』(東京大学出版会)

私語については、厳格に対応します。授業の初回に行うオリエンテーションで詳細を説明しますので、必ず出席して下さい。



履修コード	227201
科目名	心理学〔心を科学する〕
担当者名	<small>なかまる しげる</small> 中丸 茂

講義のねらい

心理学は、人間の心（行動・言語を含む）を客観的に研究する学問である。心理学は、心の科学、および、心の工学と定義され、心の理解・説明・予測・制御を目的とする。本講義では、科学的観点より、日常場面での人間の行動を分析し、得られたデータの解釈の仕方といった科学的方法を身につけることを目的として行われる。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期は、科学論を中心に、心理学における中心的なパラダイムを紹介し、後期は、それらの日常生活への応用についての話を行う。また、講義は、下記のスケジュールにしたがって進めていく予定である。授業は、ビデオなどを使用し、簡単な実験を体験してもらいながら行っていく。

1. オリエンテーション 心理学って何？
2. 血液型と性格 本当に関係あるの？
3. 科学としての心理学 科学って何？
4. 行動分析学I ラムちゃんの電撃
5. 行動分析学II バナナとリンゴ
6. 行動分析学III 月に向かって吠える
7. 認知心理学I マジカルナンバー
8. 認知心理学II カクテルパーティ
9. 認知心理学III 悩めるオマタかおる
10. 心霊現象の心理学 幽霊は乗り物が好き？
11. 社会心理学I 他人を好きになる時
12. 社会心理学II 恋、愛、そして、意志決定 その他（リクエスト可）
13. 無意識の心理学 UFOは存在するか？
14. 人格心理学 社交的な人は朝に弱い
15. 占いの心理学 ラッキーカラーは、赤!!
16. 呪いの心理学 呪殺は可能か？
17. 所信の心理学I 知識は人類を駄目にする!!
18. 所信の心理学II マインド・コントロール
19. 宗教の心理学 神社の石段
20. スポーツ心理学 イメージトレーニング
21. プロファイリングモラル・ハラスメント
22. テクノ・コミュニケーション 顔文字は使ったほうがいいか

履修上の留意点

講義は、プリント中心に行い、毎回、参考文献や図書の紹介を行う。したがって、一冊の本を読めば本講義の内容を把握できるというのではなく、毎回の知識の積み重ねが必要である。（教科書理解度UP++）

成績評価の方法

筆記試験の絶対評価として処理される。また、心理学の実験や調査に参加することも、心理学を学ぶために重要であり、得点として加算される。

教科書

中丸茂『心理学者のための科学入門』1999年（北大路書房）  
中丸茂『トワイライト・サイコロジー』2000年（北大路書房）

参考書等

講義オリジナル資料 毎回配布（2～3枚）年間 40～50枚  
講義用の配布資料で紹介。

履修コード	227301
科目名	心理学〔心を科学する〕(夏季集中)
担当者名	深堀 友覚

講義のねらい

身体的な異質性も然ることながら、人間には固有の性格、価値観、知能、行動パターンといった精神的(心理的)な異質性が認められる。それらを含め、人間は個性を獲得する。しかし、人間とは決して一人では生きていけない。これはこの世に生を授かり生を全うするまで続くのである。人生とは、いわば異なる個性との共存である。個性が異なれば、そこから衝突や誤解が生じ、人間関係に支障を及ぼすこともしばしばである。

講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点

本講義では個と、個の集合体である「社会」を心理学的側面から理解していくことを目的とする。本講義を通じ、少しでも心理学の世界に興味を持って頂ければ幸いである。

パーソナリティ、学習心理学、集団・社会心理学、臨床心理学、生涯発達心理学等を講義する予定である。

短時間で集中的に行われる講義なので、主体的に講義に参加できる姿勢が望まれる。受動的にしか参加できない学生には、本講義の性質は不向きであろう。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

講義最終日に行われる筆記試験と、出席率(3分の2以上)による総合評価。

特に指定しない。授業内にプリントを配布する。

重野純『キーワードコレクション 心理学』(新曜社)1994年

中村昭二『心理学概説』(八千代出版)1982年

その他の

授業日程: 7月31日~8月3日・6日・7日、1~5時限(土、日は除く)

自然分野

履修コード	345301
科目名	心理学〔ヒューマン・ウォッチング〕-フレックスB開講-
担当者名	鈴木 順一

講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のバケツの学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める(勉強する)ことではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証(反証)し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を獲得した人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスから遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見しようとするモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互と自己内のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具(理論と技法)を体験的に学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

番号は進行順であり、それぞれ1回から3回程度時間が配当されます。学習計画は、進行状況により変更することがあります。

【前期】 [1]学習とは? 授業方針 [2]エンカウンター(出会いと人間関係づくり) [3]グループ形成と集団規範 [4]コミュニケーションの促進 [5]心とは何か [6]性格検査による自己理解 [7]パーソナリティ理論 [8]無意識の心の働き(精神分析的人格理論) [9]環境を知る働き(感覚・知覚・認知)

【後期】 [10]カウンセリングの理論と技法 [11]心理療法による自己理解と他者理解 [12]自他肯定の人間関係 [13]学習理論と行動療法 [14]relaxationによる心身の健康回復

履修上の留意点

最初の数回の授業で、6人のグループを編成しますので必ず出席してください。授業は、グループごとに決められた場所に着席していただき、毎回グループごとに自筆で出席をとり本人を確認します。

単独・聴講学習ではなく、グループによる協学習・相互学習・体験学習・発見学習ですので、集団規範を守ることと、全回出席することが求められます。ルールを守れない人と欠席しがちな人は、履修しないでください。

成績評価の方法

出席状況と平常の小試験、小レポート、個人発表とグループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。平常点で評価しますので、学年末定期試験及び追・再試験はありません。

教科書

使用しません。授業内で紹介する参考図書や下記参考書の指摘する部分などを読み概念学習を進めていただきます。

参考書等

中村昭之編著『心理学概説』(八千代出版)

その他の

すべての「心理学」の授業で、心理学卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

履修コード	345401
科目名	心理学〔人間関係を考える〕 - フレックスB 開講 -
担当者名	鈴木 順一

自然分野

講義のねらい

講義形式だけの授業形態は、学習者を受け身のパケツの学び方にしてしまう。学問とは、問い学ぶと書くように、講師が一方的に降り注ぐ知識を、頭に詰め込むことに強いて勉める（勉強する）ことではない。科学は、不思議な現象に対して、疑問を持ち、仮説を立て、仮説の基にサーチライトをあて、検証（反証）し、新たな仮説構成や発見をしていくプロセスである。

学習というと、教科書に書かれた知識を理解していくことだと考えられがちだが、行動主義的学習理論によると、「学習とは、経験を通じて行動変容していくプロセスである」と定義している。言語という道具を操る能力を獲得した人間は、概念学習ができるようになり、遺伝子の他に「遺言子」とでも呼べる知識を残し、それを世代間で、伝達・組み換え・改良していくことで文明を築き、他の生物とは異なる進化の道を歩み出すようになった。

しかし、経験から学ぶプロセスから遊離してしまった知識だけの学習は、生きるための知恵として効果的に機能できない。頭だけが参加する聴講学習は、体験学習に伴う自発性や能動性、発見しようとするモチベーションが得られない。この授業では、講義だけではなく、グループによる体験学習を取り入れて、学生相互と自己内のコミュニケーションを深め、自己理解と他者理解を促進します。心理学の人間理解の仮説の基に、自分自身や他者を見つめなおし、よりよい人間関係を築くために役立つ道具（理論と技法）を体験的に学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

番号は進行順であり、それぞれ1回から3回程度時間が配当されます。学習計画は、進行状況により変更することがあります。

【前期】 [1]学習とは？ 授業方針 [2]エンカウンター（出会いと人間関係づくり） [3]グループ形成と集団規範 [4]コミュニケーションの促進 [5]心とは何か [6]性格検査による自己理解 [7]パーソナリティ理論 [8]無意識の心の働き（精神分析的人格理論） [9]環境を知る働き（感覚・知覚・認知）

【後期】 [10]カウンセリングの理論と技法 [11]心理療法による自己理解と他者理解 [12]自己肯定の人間関係 [13]学習理論と行動療法 [14]relaxation による心身の健康回復

履修上の留意点

最初の数回の授業で、6人のグループを編成しますので必ず出席してください。授業は、グループごとに決められた場所に着席していただき、毎回グループごとに自筆で出席をとり本人を確認します。

単独・聴講学習ではなく、グループによる協力学習・相互学習・体験学習・発見学習ですので、集団規範を守ること、全回出席することが求められます。ルールを守れない人と欠席しがちな人は、履修しないでください。

成績評価の方法

出席状況と平常の小試験、小レポート、個人発表とグループ発表などで、個人とグループを、それぞれ50点満点で評価し合計します。平常点で評価しますので、学年末定期試験及び追・再試験はありません。

教科書

使用しません。授業内で紹介する参考図書や下記参考書の指摘する部分などを読み概念学習を進めていただきます。

参考書等その他

蓮見将敏・小山望編著『人間関係の心理学―体験をとらえて学ぶ心理学―』（福村出版）  
すべての「心理学」の授業で、心理学科卒業年次生の卒業論文のための調査に協力していただく時間があります。

### 3. 外国語科目

履修コード	284901
科目名	英文講読
担当者名	林 <sup>はやし</sup> 明人 <sup>あきひと</sup>

講義の内容・授業スケジュール 現代アメリカ文学の短編をなるべくたくさん読みます。単に英語を読むことから鑑賞できるようになれば幸いです。

1	pp.1-2	プリント(1)配布	16	pp.1-2	プリント(2)配布
2	pp.3-4	(試訳提出)	17	pp.3-4	(試訳提出)
3	pp.5-6		18	pp.5-6	
4	pp.7-8		19	pp.7-8	
5	pp.9-10		20	pp.9-10	
6	pp.11-12	(試訳提出)	21	pp.11-12	(試訳提出)
7	pp.13-14		22	pp.13-14	
8	pp.15-16		23	pp.15-16	
9	pp.17-18		24	pp.17-18	
10	pp.19-20		25	pp.19-20	
11	pp.21-22	(試訳提出)	26	pp.21-22	(試訳提出)
12	pp.23-24		27	pp.23-24	
13	pp.25-26		28	pp.25-26	
14	pp.27-28		29	pp.27-28	
15	前期試験		30	後期試験	

履修上の留意点 遅刻(交通機関の遅延を除く)及び授業中の出入りは認めない。

成績評価の方法

①試訳(40%)②試験(30%)③出席(30%)で総合評価するが、①~②のそれぞれの評価がいつでも3割に満たない場合、あわせて③の出席が全授業回数の3分の2以下の場合は評価の対象にしない。

教科書

教員が作成したものを uses。

外国語

履修コード	285001
科目名	英文講読
担当者名	矢島 <sup>やじま</sup> 直子 <sup>なおこ</sup>

講義のねらい 辞書を駆使して、現在イギリスで日常使われている英語を学びます。2004年エディンバラ国際演劇祭で初演された戯曲 *The Wonderful World of Dissocia* を読みます。芝居は見えていません。

講義の内容・授業スケジュール

本を読み、意味を取っていきます。その際、どういう事を伝えようとしているのか、想像力を働かせて読み取る。現代のチャキチャキの言葉で書かれているため、見た目は易しくても、内容を理解するのは難しいです。(1回目)ガイダンス(2-10)2ページずつ(11-14)3ページずつ(15)前期試験(16)試験解説(17-20)2ページずつ(21-29)3ページずつ(残りは翻訳します)

履修上の留意点

ほとんど毎回当てて、読んで意味を言ってもらいますから、必ず1回の授業の全範囲を予習してこること。辞書の文例まで読まない、意味が分からないことがあります。1回目の授業から必ず出席して下さい。

成績評価の方法

平常点と、前・後期末試験の結果を、総合的に評価します。

教科書

Anthony Neilson, *The Wonderful World of Dissocia / Realism*, Methuen/drama, £ 9.99, ISBN978-0-7136-8715-6 (初回の授業の時に説明します)。

履修コード	285101
科目名	英文講読
担当者名	石原 <sup>いしはら</sup> 孝哉 <sup>こうさい</sup>

講義のねらい

英語の総合的な読解力向上を目指します。

講義の内容・授業スケジュール

やさしい英文で書かれたイギリスの歴史の、正史には無い赤裸々な真実にスポットをあてます。内容把握、速読といった読解力のアップが目標です。

履修上の留意点

教材にDVDが付いていて、副読本、補助教材になっているので、コンピューターがあると便利です。

成績評価の方法

前・後期末試験のほか、レポート、出席を重視します。

教科書

*Horrible Histories: England*, 南雲堂, 2, 000円, ISBN978-4-523-17578-0

履修コード	285701
科目名	時事英語研究
担当者名	高野 秀夫

講義のねらい 今や、日常生活のなかに real time で入って来る世界のニュースを捉える学修は欠かせない。この時事英語の授業では、できるだけ新しい英語ニュースの教材で、時々刻々と変わる国内外の動向を異文化の視点で捉え、国際社会の理解に努め、英語力増強を目指す。平易な英文の作成にも努める。

講義の内容・授業スケジュール 教科書（毎回1章の2/3ぐらい進む予定）では、時事英語（Current English）の特徴“最初の部分で全文の内容が捉えられるように書かれている”を読み込んで生きた英語の理解に努める。また毎回時事英語のプリントで読解力と英語表現能力の増強を図る。

履修上の留意点 毎時間、英語での質疑応答があるので予習は欠かささないこと。

成績評価の方法  
教科書

英語で世界の動きを捉える習慣を身に付けること。  
前、後期末テスト、平常点（出席点、レポート等）  
・ An Introduction to Media English（北星堂）  
・ プリント

履修コード	285801
科目名	時事英語研究
担当者名	林 明人

講義の内容・授業スケジュール web 上の CNN, Herald Tribune, ASAHI などから集めたニュース英語によく使用される語をキーとした短文をたくさん読むことにより、そのキーワードの意味、および使い方をおぼえることを目的とします。そのほかに実際に英字新聞を読みます。

尚、履修希望者が70名を越えた場合は、4月の第1回目の授業で抽選となります。

遅刻（交通機関の遅延を除く）及び授業中の退席は認めない。なるべく多く試験を実施するつもりである。

1	プリント	1	16	プリント	7
2	プリント	1	17	プリント	8
3	プリント	2	18	プリント	8
4	プリント	2	19	小テスト	
5	プリント	3	20	プリント	9
6	プリント	3	21	プリント	9
7	プリント	4	22	プリント	10
8	プリント	4	23	プリント	10
9	小テスト		24	プリント	11
10	プリント	5	25	プリント	11
11	プリント	5	26	プリント	12
12	プリント	6	27	プリント	12
13	プリント	6	28	小テスト	
14	プリント	7	29	社説を読む	
15	前期試験		30	後期試験	

履修上の留意点  
成績評価の方法

遅刻（交通機関の遅延を除く）及び授業中の出入りは認めません。

①試験（40%）②小テスト（30%）③出席（30%）で総合評価するが、①～②のそれぞれの評価が一つでも3割に満たない場合、あわせて③の出席が全授業回数数の3分の2以下の場合は評価の対象にしない。

教科書  
参考書等

教員が作成したものを用います。  
Sanseido's Dictionary of News English（三省堂）

履修コード	285811
科目名	時事英語研究
担当者名	岸本 茂和 <small>きしもと しげかず</small>

講義のねらい Back-to-Basics!—基本に帰る—ことをこのクラスの標語とする。困難な現代的課題—地球温暖化—をやさしい英語で読んでみたい。副読本として A Clean Sea: The Rachel Carson Story (Cascade Pass) を並行して読んでゆく。

講義の内容・授業スケジュール (1) Orientation (2~7) p.1~p.8 (8)《遊び時間》英語固有名詞について〈プリント配布〉(9~14) p.9~p.15 (15) 中間試験 (16~21) p.16~p.23 (22~23)《遊び時間》英語慣用句について〈プリント配布〉(24~29) p.24~p.44 (30) 最終試験

履修上の留意点 予習は必須。出欠はかならずとる。3分の1以上欠席は不可とする。授業には英語辞書をかかならず携行のこと。電子辞書も可。

成績評価の方法 中間試験、最終試験、出席状況を基本に評価する。

教科書 1. Robin C. Friend and Judith Love Cohen.-A Clean Sky: The Global Warming Story. (Cascade Pass). \$7.00 (Amazon. com jp で購入できる。約850円)

履修コード	285901
科目名	時事英語研究
担当者名	落合 和昭 <small>おちあい かずあき</small>

講義のねらい このクラスのレベルは英語の中級から上級(英検二級、準一級、一級)程度とし、新聞、雑誌、インターネット、ラジオ、テレビ等で使用されている英語を読み、聞き取ることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール 講義は、主として、四段階からなる。第一段階として、ヒヤリングを通して、英語の自然なスピードに慣れる。第二段階は、書き取りをする。第三段階は、ヒヤリングで聞いたニュースの意味を、文字を通して、確認する。第四段階は、その英文を、ヒヤリングで聞いたように、できるだけ忠実に再生する。年間の授業計画は次の通りである。

第一回 オリエンテーション、第二回 『新版』(UNIT 1)、第三回 『新版』(UNIT 2-4)、第四回 『新版』(UNIT 5-10)、第五回 『新版』(UNIT 11-13)、第六回 『新版』(UNIT 14-16)、第七回 『新版』(UNIT 17,18)、第八回 『新版』(UNIT 19,20)、第九回 『英語ニュース』(UNIT 1)、第十回 『英語ニュース』(UNIT 2)、第十一回 『英語ニュース』(UNIT 3)、第十二回 『英語ニュース』(UNIT 4)、第十三回 『英語ニュース』(UNIT 5)、第十四回 『英語ニュース』(UNIT 6)、第十五回 後期試験

『英語ニュース』(UNIT 7-9)、第十六回 『英語ニュース』(UNIT 10)、第十七回 『英語ニュース』(UNIT 11)、第十八回 『英語ニュース』(UNIT 12)、第十九回 『英語ニュース』(UNIT 13)、第二十回 『英語ニュース』(UNIT 14)、第二十一回 『英語ニュース』(UNIT 15)、第二十二回 『CNN』(UNIT 1)、第二十三回 『CNN』(UNIT 2)、第二十四回 『CNN』(UNIT 3)、第二十五回 『CNN』(UNIT 4)、第二十六回 『CNN』(UNIT 5)、第二十七回 『CNN』(UNIT 6)、第二十八回 『CNN』(UNIT 7)、第二十九回 『CNN』(UNIT 8)、第三十回 後期試験: 『CNN』(UNIT 9-12)

※ 『「新版」カプセル・ニュース英語を聞く』(上記では、『新版』)

『英語ニュースで読む現代社会 2008』(上記では、『英語ニュース』)

『CNN:ビデオで見る世界のニュース』(上記では、『CNN』)

なお、ヒヤリングは毎回行う。

履修上の留意点 授業は、学生の事前の予習を前提にし、徹底した演習形式を取り、学生の積極的な参加を求める。

成績評価の方法 前期試験は20%、後期試験20%、課題・授業中の発表・小テスト等は60%。出席率は、前・後期試験を除く、平常授業の3分の2を越えなければ、成績は「不合格」とする。

教科書

1) 『「新版」カプセル・ニュース英語を聞く』 三修社 1,300円

ISBN 4-384-33368-4-C1082

2) 『英語ニュースで読む現代社会 2008』 金星堂 1,800円

ISBN978-4-7647-3868-3 C1082

3) 『CNN:ビデオで見る世界のニュース』 朝日出版社

ISBN978-4-255-15450-3 C1082

4) プリント

履修コード	285911
科目名	時事英語研究
担当者名	<small>やじよ なおこ</small> 矢島 直子

講義のねらい  
講義の内容・  
授業スケジュール

イギリスの新聞を読めるようになってもらいたいです。  
イギリスの大衆紙、高級紙の記事を集めた教科書を読んで、意味を取ってもらいます。  
(1回目) ガイダンス (2) 1課 (3-14) 2-9課 (15) 前期末試験 (16) 試験解説 (17-29)  
10-16課 (30) 後期末試験

履修上の留意点

毎回どんどん当てて読んでいってもらいますから、辞書を引いて意味が分るまで予習してくること。必ず1回目の授業から出席して下さい。

成績評価の方法  
教科書

平常点と、前・後期末試験の結果を、総合的に評価します。  
越 朋彦『イギリスの新聞を読む』 研究社、1、900円+税、ISBN978-4-327-42171-7



履修コード	286501
科目名	マルチ・メディア
担当者名	<small>おちあい かづあき</small> 落合 和昭

講義のねらい

このクラスに副タイトルを付けるとすると、「日常会話から映画の英語へ」とでもなるだろう。このクラスのレベルは英語の中級から上級（二級、準一級、一級）程度とする。自然な日常会話文や映画の台詞を通して、英語圏の日常生活で、頻繁に、使用される現代口語英語表現を学びながら、英語の運用能力を高めることを第一目標とする。また、各種の実用検定試験（英検、TOEIC、TOEFL、国連英語等）の受験準備にも役立つようにする。さらに、時間が許す限り、アメリカやカナダの作家、都市、国立公園等に関するビデオを鑑賞し、ヒヤリングの向上、文化や自然の多様性を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

一回の講義は、主として、三段階からなる。第一段階として、日常会話文や映画を通して、英語の自然なスピードに慣れ、ヒヤリングを向上させる。第二段階は、会話文や映画の中で、使用されている表現の意味や用法を、文字を通して、確認する。第三段階は、学生に登場人物になってもらって、会話文や台詞（せりふ）を再現しながら、会話練習をする。授業は徹底的した演習形式を取り、学生の予習を前提にして、進める。

- 第一回 オリエンテーション
- 第二回 『5分間』(UNIT 1～4)、『口語』1-1、UK、BT
- 第三回 『5分間』(UNIT 5～8)、『口語』1-1 WP、SP
- 第四回 『5分間』(UNIT 9～12) 『口語』1-2 UE、BT
- 第五回 『5分間』(UNIT 13～16)、『口語』1-2 WP、SP
- 第六回 『5分間』(UNIT 17～20)、『口語』1-3 UE、BT
- 第七回 『5分間』(UNIT 21～24)、『口語』1-3 WP、SP
- 第八回 『5分間』(UNIT 25～28)、『口語』1-4 UE、BT
- 第九回 『5分間』(UNIT 29～32)、『口語』1-4 WP、SP
- 第十回 『5分間』(UNIT 33～36)、『口語』1-5 UE、BT
- 第十一回 『5分間』(UNIT 37～40)、『口語』1-5 WP、SP
- 第十二回 『口語』1-6 UE、BT 映画台本の読み方
- 第十三回 『口語』1-6 WP、SP 映画台本の読み方
- 第十四回 『口語』1-7 UE、BT 映画台本の読み方
- 第十五回 前期試験：『5分間』(UNIT 37～40)
- 第十六回 『口語』1-7 WP、SP 映画台本の読み方
- 第十七回 『口語』2-8 UE、BT、WP、SP
- 第十八回 『口語』1-9 UE、BT、WP、SP
- 第十九回 『口語』1-10 UE、BT、WP、SP、
- 第二十回 『口語』2-1 UE、BT、WP、SP
- 第二十一回 『口語』2-2 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 1)
- 第二十二回 『口語』2-3 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 2)
- 第二十三回 『口語』2-4 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 3)
- 第二十四回 『口語』2-5 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 4)
- 第二十五回 『口語』2-6 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 5)
- 第二十六回 『口語』2-7 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 6)
- 第二十七回 『口語』2-8 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 7)
- 第二十八回 『口語』2-9 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 8)
- 第二十九回 『口語』2-10 UE、BT、WP、SP、『恋人』(UNIT 9)
- 第三十回 後期試験：『恋人』(UNIT 10、11、12)

※ 『5分間口語英語表現』(上記では、『5分間』)

『コミュニケーションのための口語英作文』(上記では、『口語』)

Useful Expression →UE、Basic Training →BT、Writing Practice →WP、Speaking practice →SP

『恋人たちの予感』(上記では、『恋人』)

履修上の留意点

このクラスの受講生はすでに口語英語を一年以上学んでいることが望ましい。初めて口語英語を学ぶ学生には、かなりつらい授業になるかもしれない。課題、小テスト、授業中の発表等で、かなりのことを要求するので、そのつもりで受講するように心がけてもらいたい。また、受講を希望する学生は、最初の授業の時に、必ず、担当者の許可を得なければならない。教場は40数名しか入れないLL教場を使用するので、それ以上の履修希望者がいた場合は、最初の授業の時に、抽選をする。そのため、最初の授業に出席しない学生はこのクラスを受講できない可能性がある。

成績評価の方法

前期試験は20%、後期試験は20%、その他（課題、小テスト、授業中の発表等）は60%とする。出席率は前・後期試験を除いた、平常授業の3分の2を越えなければ、成績は「不合格」となる。

教科書

- 1) 『恋人たちの予感』 松柏社 1850円 ISBN4-88198-411-X C3083
- 2) 『5分間口語英語表現』 南雲堂 700円 ISBN4-523-17216-1
- 3) 『コミュニケーションのための口語英作文』 成美堂 1600円 ISBN4-7919-5026-7 C1082
- 4) プリント

履修コード	286601
科目名	マルチ・メディア
担当者名	<small>おおいば 直樹</small> 大庭 直樹

講義のねらい

このクラスは、マルチメディアを使って英語を学ぶクラスである。  
 第一の課題は、インターネットを使って、世界の最新のニュースがどのように報道されているかを比較しながら読んでいく、ことである。インターネットという広大な情報空間から、必要な情報を探索し、その内容を理解するという訓練を積む。  
 第二の課題は、マインドマップを使って、頭の中の概念を図式化する訓練をする。このソフトを使って、英語を読んで理解したこと、聞いて理解したことを図式化して表現する訓練をする。  
 第三の課題として、Word と電子辞書を使いながら、英語による論文、公式文書、ビジネス文、手紙等の書き方を訓練する。

履修上の留意点

第四の課題は、英語の映画を一本観ながら、英語の表現の意味内容を徹底的に研究していく。  
 受講生は、一年間の課題をこなせば、コンピュータを活用した知的な活動において、相当なレベルに達するはずである。従って、このクラスを受講するには、年間を通じて毎週クラスに出席することが条件である。

成績評価の方法

試験、定期試験なるものは行わない。受講生には、サーバーの自分のフォルダに、一年間に20程度のファイルを提出してもらおう。インターネットで各自が検索する情報もすべて、サーバーの自分のフォルダに入れてもらう。成績は、各学生が一年間にフォルダにセーブされたファイルの成果をもって評価する。

その他の

受講者は、教室以外、各自の必要度にあわせて総合情報センターの自習室（朝9時より夜9時まで開館）で補修すること。

履修コード	286701
科目名	マルチ・メディア
担当者名	西村 祐子

講義のねらい 前期は米国シアトル市のワシントン大学とテレビ会議でつなぎ、ネイティブアメリカンのNPO代表を中心に、世界のマイノリティ・被差別文化について英語文献を読み、話し合う。後期はインターネットなどを利用して各地のマイノリティ文化、被差別文化についての英語情報を得、それを英語でまとめる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 小テスト、授業についての説明
2. 北米のマイノリティ：ネイティブアメリカンについて
3. ワシントン大学とのテレビ会議（1）
4. ワシントン大学とのテレビ会議（2）
5. 日本のマイノリティ：被差別部落の文化
6. 日本のマイノリティ：アイヌの文化
7. 日本のマイノリティ：沖縄の文化
8. ワシントン大学とのテレビ会議（3）
9. ワシントン大学とのテレビ会議（4）
10. 日本のマイノリティ：在日社会
11. 日本のマイノリティ：日系社会
12. 前期内容の英語でのまとめ（1）
13. 前期内容の英語でのまとめ、レポート作成（2）

後期

1. ネイティブアメリカンの思想研究
2. アジアのマイノリティ研究（1）
3. アジアのマイノリティ研究（2）
4. アジアのマイノリティ研究（3）
5. まとめと英語レポート作成（インターネットによる調査）
6. ヨーロッパのマイノリティ研究（1）
7. ヨーロッパのマイノリティ研究（2）
8. まとめと英語レポート作成
9. ワシントン大学とのテレビ会議（5）
10. ワシントン大学とのテレビ会議（6）
11. ワシントン大学とのテレビ会議（7）
12. まとめと英語レポート作成
13. 英語による研究プレゼンテーション（各自）

履修上の留意点

受講者は知識を英語で習得しそれをテレビ会議で発信するためのプレゼンテーション能力が必要となる。会議に参加できるだけの英語力がもとめられる。英語で内容を理解するための知識をインターネットなどを利用して渉猟するので読む力が必要。英語レポート作成もあるので書く力も磨かれる。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他

平常点（出席点、発表、レポート、会議での発表力など）で評価。定期試験は行わない。  
教場にて指定。  
授業で指定。

本クラスは英語上級者用のクラスなので、少人数クラスとする。基礎的な英語力を査定するために第一回目にスクリーニングを行う(小テスト)。

履修コード	286801
科目名	マルチ・メディア
担当者名	大庭 直樹 <small>おほば なるき</small>

講義のねらい

このクラスは、マルチメディアを使って英語を学ぶクラスである。  
 第一の課題は、インターネットを使って、世界の最新のニュースがどのように報道されているかを比較しながら読んでいくことである。インターネットという広大な情報空間から、必要な情報を探索し、その内容を理解するという訓練を積む。  
 第二の課題は、マインドマップを使って、頭の中の概念を図式化する訓練をする。このソフトを使って、英語を読んで理解したこと、聞いて理解したことを図式化して表現する訓練をする。  
 第三の課題として、Word と電子辞書を使いながら、英語による論文、公式文書、ビジネス文、手紙等の書き方を訓練する。  
 第四の課題は、英語の映画を一本観ながら、英語の表現の意味内容を徹底的に研究していく。  
 後期からは、パワーポイントを使って、テーマを決めてプレゼンテーションをしよう。

講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点

受講生は、一年間の課題をこなせば、コンピュータを活用した知的な活動において、相当なレベルに達するはずである。従って、このクラスを受講するには、年間を通じて毎週クラスに出席することが条件である。

成績評価の方法

試験、定期試験なるものは行わない。受講生には、サーバーの自分のフォルダに、一年間に20程度のファイルを提出してもらおう。インターネットで各自が検索する情報もすべて、サーバーの自分のフォルダに入れてもらう。成績は、各学生が一年間にフォルダにセーブされたファイルの成果をもって評価する。

そ の 他

受講者は、教室以外、各自の必要度にあわせて総合情報センターの自習室（朝9時より夜9時まで開館）で補修すること。

履修コード	264201・264301
科目名	英会話I
担当者名	ロビン, G. F.

講義のねらい

This course will focus on developing conversation skills for students using vocabulary and grammar that would normally have been acquired from previous courses in the school system. New vocabulary will be introduced as needed. Students will be encouraged to express themselves in English through pair and group activities, on which they will be graded.

講義の内容・授業スケジュール

It will consist of pair group, small group, and class discussion activities designed to gradually build and improve upon vocabulary and fluency normally acquired from previous pre-college study of English.

成績評価の方法

According to class participation, homework assignments, and a mid-term and final test, which will be given at the end of each term.

教 科 書

FIFTY FIFTY STUDENT BOOK 1 WARREN WILSON ROGER BARNARD  
 ISBN-10 9620056655 10 digit

履修コード	264401・264501
科目名	英会話
担当者名	ウェルズ, J. K.

講義のねらい

WELCOME TO ENGLISH CONVERSATION I

Speaking English is not so difficult if you have the interest and belief that you can. I hope to give you this chance to speak without feeling shy!

講義の内容・  
授業スケジュール

First Semester: Pairwork practice answering and asking questions in a relaxed environment. The first semester exam will be an interview that I give you based on the questions and answers you practiced with your partner (s).

Second Semester: Role-playing will be emphasized as I feel that speaking English while moving (not just sitting) is important. It will also give you an opportunity to show your 'acting' skills in front of other people, or should I say speaking skills. Your final exam will be a dialogue that you and your partner create/write, and which you will perform in the classroom. Do not worry, it is FUN!

There is a maximum of 40 students in my class. If there are more than 40 students the first day of class, I will be forced to choose out of a hat the students who will study with me. So please do not take my class if you are not sincere about learning from me. Thanks for understanding this.

履修上の留意点

Attendance is MOST important and so I have one very STRICT rule in my classroom. NO student will be allowed to be absent MORE THAN THREE TIMES during the school year. If I did not have this rule, students would come and go as they please. It is important to attend class. You will fail the class if you are absent more than three times.

There are NO exceptions for activities in sports or for job hunting. I am proud of the overall percentage of students who attend my class and I know you can attend regularly also.

成績評価の方法

Attendance : 50%

Tests : 25% (one test each semester)

Quizzes : 25% (usually part of assignments or announced quiz)

教科書

There is NO textbook, but you will need one larger than average notebook (A4 size) to keep all the prints I provide you in the class. This notebook will be checked and graded. Loose leaf binders are NOT allowed. I will provide you with B5 sized prints so a notebook larger than B5 should be used. Notebooks will be checked in the second class.

The first class is very important, so please do not be absent!

その他

I am now an older American and have been teaching at Komazawa for many many years! It is a great joy to be a part of such a nice university and I hope you will help me enjoy teaching you during the school year. Learning to communicate in English CAN be fun! See you in class soon!

履修コード	264601・264701
科目名	英会話I
担当者名	ソルタ, P. N. F.

外国語

講義のねらい

English Conversation I was designed for typical Japanese high school graduates who have studied English for six years at junior and senior high school, but have great difficulty in speaking and understanding spoken English. This course helps students overcome their natural shyness at speaking in a foreign language, and gives them many opportunities to practice communicating in natural spoken English about topics of interest to them. This enables students to build up their speaking and listening skills, and to improve their ability to understand and use real English for real communication. Finally, this course seeks to increase the number of situations in which students can function using natural spoken English.

講義の内容・授業スケジュール

The instructor will provide the students with the classroom materials. The course is based on the principle that the only way to become fluent in a language is through lots of practice. The emphasis in this class, therefore, will be firmly on speaking and listening exercises. Students will do most of their exercises with one other student (this is called pairwork) to give everyone the maximum number of opportunities for speaking and listening practice.

履修上の留意点

The structures / functions to be covered are: Introductions / Classroom Language, Likes and Dislikes / Adjectives, Locations / Telephone Language, There is ... There are ... / Quantities, Have ... , Want ... , Would like ... / Shopping, Uncountable nouns / At a Restaurant, Present Continuous for arrangements, Fashion/Clothing, Present Simple / Occupations, Adverbs of frequency/Routines, Transportation / Work & School, The Present Tenses / Frequency,

It will be assumed that students taking this course have studied English language at high school level for six years. Students must be willing to take a class where all the teaching will be done in English. Students should note that only two absences per semester are permitted in this course. Constant attendance, and a positive attitude towards and active participation in all class activities, will be essential for a passing grade in English Conversation I.

成績評価の方法

A final grade will be based on two measures: an end-of-year exam (60 % ), and a mark based on a student's attitude in class and class performance throughout the year (40 % ). The end-of-year exam will contain listening and written exercises. In making a final evaluation, bonus marks will be awarded to those students who have only zero/one absence ( +10 % ) or two absences ( +5% ) throughout the year.

教科書

No textbook will be used in this course.

履修コード	264801・264901
科目名	英会話I
担当者名	レーン, C. M.

**講義のねらい** This class concentrates on improving communication and fluency skills in English. Most Japanese university students already have basic vocabulary and grammatical skills in English. However, they are unable to use them when speaking. Therefore, this course aims to help students learn to use the knowledge they already have, and then to build on this knowledge. During the first semester basic conversation skills will be covered, through pair work and group work, which will be followed during the second semester by more in depth conversational discussions, also in pairs, small groups and through whole class activities. By the end of the year students should feel more confident when speaking English, and should have the ability to hold simple conversations in English, as well as being able to give their opinion on various topics.

**講義の内容・授業スケジュール** During the first semester students will study basic conversation patterns and will gain confidence and fluency skills in making general conversation. At the end of the first semester students will be required to give a three-minute speech talking about general themes. Then, during the second semester more time will be spent on group discussions whereby the students will be invited to give their opinions on a variety of topics chosen by the teacher. At the end of the year students will give a presentation in small groups on a topic of their choice.

**履修上の留意点** As this is an oral English class students will not improve unless they attend most of the classes. Students who are absent without a good reason more than twice a semester will find it hard to pass. Moreover, while it is not necessary for students to be able to speak English really well to enter this class, they must try to speak English as much as they can. If a student is too shy then they might find this class difficult.

**成績評価の方法** (ア) Attendance 20 %  
(イ) Participation during class 50 %  
(ウ) Individual presentation 10 %  
(エ) Group presentation 20%  
As this is a practical class, students must be present and participate actively in order to get a passing grade.

**教科書** A good dictionary  
A file to keep work sheets together-A4 size

履修コード	265001
科目名	英会話I
担当者名	ピアス, D. M.

外国語

講義のねらい COURSE CONTENT AND PURPOSE: Each class session will concentrate on diversified practice of speaking and listening. Improved English fluency should raise scores in standard English tests and lead to better employment.

講義の内容・授業スケジュール METHOD OF INSTRUCTION: During most of the class period you will be talking to each other in groups. If it embarrasses you to speak English loudly, you should not take this class. The textbook will be used intensively, guiding you through every detail of English conversation. Practice in aural comprehension, grammar, reading and composition will advance through simultaneous self-testing. Each class meeting will comprise a contrastive sociological analysis of a typical social interaction.

CLASS SCHEDULE: FIRST SEMESTER		SECOND SEMESTER
1	Self-introductions	1 Social Classes
2	Addressing People	2 The Idea of Success
3	Social Hierarchy	3 Candor
4	Professional Titles	4 Favoritism
5	Self assertion and Conformity	5 Authority
6	Identity in a Group	6 Arrogance and Compassion
7	Motives of Gift Giving	7 The Employment System
8	Social Cohesion	8 Company Loyalty
9	Informal Communication	9 Political Prestige
10	The Sense of Modesty	10 Business Wealth
11	Styles of News Presentation	11 Family Loyalty
12	Coverage of Scandal	12 Democracy in Family Attitudes
13	Personal Freedom	13 Courtship
14	Group Harmony	14 The Marriage Partner
15	The Consumer Society	15 Teenage Employment
16	Corporate Philanthropy	16 Adolescent Development

成績評価の方法 TESTS AND GRADING: Exams are didactic, not disciplinary. Tests will be frequent, brief, and unannounced. There are no make-up tests. All of the test questions will be taken from the textbook, as practiced in class. Anything covered in class may appear in a quiz. Attendance: The student may miss three classes in the semester, but if absences are excessive the final evaluation will be one letter-grade less. Weddings, funerals, sickness, seminars, etc. do not form exemptions from the allowed number of absences. Grading: Instead of final exams, final grades will be calculated from ordinary class performance.

教科書 TEXTBOOK: Sociology, Economics, Political Science, Themis Research Group. In the first class meeting a diagnostic test will determine the appropriate level of the class; do not buy the text until after the first class. EXAMINATIONS: There will be frequent unannounced, small exams. Such exams are didactic, not disciplinary. All exam questions will be questions that we have done together in class, which are printed in the textbook.



履修コード	265101
科目名	英会話I
担当者名	ピアス, D. M.

講義のねらい COURSE CONTENT AND PURPOSE: Each class session will concentrate on diversified practice of speaking and listening. Concentration will be upon communication rather than simple expressions; rather than to learn English, emphasis is on learning to use what you already know. Improved English fluency should raise scores in standard international English tests and lead to better employment.

講義の内容・授業スケジュール METHOD OF INSTRUCTION: During most of the class period you will be talking to each other in groups. If it embarrasses you to speak English loudly, you should not take this class. The textbook will be used intensively, guiding you through every detail of English conversation. Practice in aural comprehension, grammar, reading and composition will advance through simultaneous self-testing. Each class meeting will comprise a contrastive sociological analysis of a typical social interaction.

CLASS SCHEDULE: FIRST SEMESTER	SECOND SEMESTER
1 Self-introductions	1 Social Classes
2 Addressing People	2 The Idea of Success
3 Social Hierarchy	3 Candor
4 Professional Titles	4 Favoritism
5 Self assertion and Conformity	5 Authority
6 Identity in a Group	6 Arrogance and Compassion
7 Motives of Gift Giving	7 The Employment System
8 Social Cohesion	8 Company Loyalty
9 Informal Communication	9 Political Prestige
10 The Sense of Modesty	10 Business Wealth
11 Styles of News Presentation	11 Family Loyalty
12 Coverage of Scandal	12 Democracy in Family Attitudes
13 Personal Freedom	13 Courtship
14 Group Harmony	14 The Marriage Partner
15 The Consumer Society	15 Teenage Employment
16 Corporate Philanthropy	16 Adolescent Development

成績評価の方法 TESTS AND GRADING: Exams are didactic, not disciplinary. Tests will be frequent, brief, and unannounced. There are no make-up tests. All of the test questions will be taken from the textbook, as practiced in class. Anything covered in class may appear in a quiz. Attendance: The student may miss three classes in the semester, but if absences are excessive the final evaluation will be one letter-grade less. Weddings, funerals, sickness, seminars, etc. do not form exemptions from the allowed number of absences. Grading: Instead of final exams, final grades will be calculated from ordinary class performance.

教科書 TEXTBOOK: Sociology, Economics, Political Science, Themis Research Group. In the first class meeting a diagnostic test will determine the appropriate level of the class; do not buy the text until after the first class. EXAMINATIONS: There will be frequent unannounced, small exams. Such exams are didactic, not disciplinary. All exam questions will be questions that have been practiced in class, and are printed in the textbook.

履修コード	265201
科目名	英会話I
担当者名	レイン, R. V.

講義のねらい This course enables students to better use conversational English language patterns and idioms with increased confidence as well as improve students' skills and confidence in giving presentations in front of the class.

講義の内容・授業スケジュール [1] Class introduction. [2-28] The first half of the class is devoted to textbook speaking activities to provide the student with opportunities to use a variety of language patterns and verb tenses. The second half of the class is devoted to students giving presentations in front of the class on topics selected by the instructor. [29-30] Exams on selected textbook activities.

履修上の留意点 Students are expected to participate actively in class and practice the activities at home. Students should be aware that regular attendance is essential. Absence of 1/3 of classes will result in a failing grade.

成績評価の方法 Students will be tested orally on the textbook activities and will also be graded on their class presentations. The final grade will be determined on the basis of these grades as well as attendance and class participation.

教科書 author: Steven Molinsky and Bill Bliss  
title: Side by Side, 3rd Edition, BOOK 4  
publisher: Longman  
date: 2003  
ISBN 0-13-183937-3

外国語

履修コード	265301
科目名	英会話I
担当者名	ロンゴ, T.

講義のねらい

English Conversation 1 is for students who really want to improve their listening and speaking skills in English.

講義の内容・  
授業スケジュール

This course will present everyday functional language in various situations. Students will speak in controlled and guided activities with their classmates, which is a great way to make new friends. It should be fun! Later in the course students should be free and able to express their ideas and opinions on a range of interesting topics. Communicative, interactive-style learning will be a feature of the classes, so good attendance will be required.

- 1) Introductions: Getting to know your teacher and classmates.
- 2) Talking about skills and abilities.
- 3) Exchanging personal information politely.
- 4) Time and date.
- 5) Daily routines.
- 6) How often? Adverbs of frequency.
- 7) Who am I? Who are you? Your life story so far ...
- 8) MOVIE #1 viewing and discussion of a movie's content.
- 9) Talking about likes and dislikes.
- 10) Where does it go? Prepositions of location.
- 11) Giving directions.
- 12) Favorite holidays and places.
- 13) Comparative adjectives and superlatives.
- 14) Review and practice exercises
- 15) End of term WRITING TEST.
- 16) Review of the previous term's class topics and test questions.
- 17) Describing people.
- 18) Best friends.
- 19) Talking about family.
- 20) Favorite movies and actors/actresses.
- 21) MOVIE #2 viewing and discussion of a movie's content.
- 22) About tomorrow. Questions and answers about the future.
- 23) About yesterday. Talking about the past.
- 24) Do you remember when ... ? Conversation game.
- 25) In a restaurant. Food ordering role-plays.
- 26) What do you think of ... ? How to give and listen to opinions.
- 27) Looking ahead. Talking about goals and dreams for the future.
- 28) Review and classroom test practice time.
- 29) SPEAKING TESTS.
- 30) SPEAKING TESTS.

履修上の留意点

Please come to class smiling with a positive attitude to actually SPEAK English. Show that you really want to improve your English by not missing many classes. Good attendance will be important in your grade each semester. Bring your textbook, a notebook and an electronic dictionary to each class.

成績評価の方法

Students will be assessed at the end of the course based on attendance, assignments and performance in class. There will be a short (but not too easy) speaking test at the end of the course.

教科書

*Fifty-fifty* Book 1 (Third Edition) ISBN 962-00-5665-5

Published by Longman

Another text book will be presented in the first classroom, so that students can choose either one.

履修コード	287401
科目名	英会話II
担当者名	セイジ, K

講義のねらい

This is an elective course which aims to improve your English conversation skills. So, rather than use one textbook, study materials will draw from a variety of resources, which will include textbooks, DVDs, internet articles and etcetera. The teacher's role will be a facilitator in this class and students will be expected to take on responsibility for leveling up their English spoken skills. This course is for the students who are really interested in advancing their all round English conversation skills.

講義の内容・  
授業スケジュール

Due to the conversation focus of this class, you must be prepared to come to every class ready to speak English. Although the teacher will provide stimulus and models, students are expected to spend some of their own time following up on in class topics. This will help you be prepared to participate in class activities. Plus your individual contribution will be a high part of your grade.

外  
国  
語

履修上の留意点

Although this course may be difficult at the start, you will improve your speaking if you participate regularly and actively in class.

成績評価の方法

1. PERFORMANCE ASESMENT:

You will be assessed on multiple individual, pair and small group performances. These will include formats such as: interviews, role plays, small dramas, individual presentations, conducting small group discussions and etcetera.

2. ATTENDANCE:

Attendance, participation and attitude essential!

教科書

Given in class

参考書等

Bring notepaper and some kind of English electronic dictionary to class.

履修コード	287501
科目名	英会話II
担当者名	ロンゴ, T.

講義のねらい

English Conversation 2 is for intermediate level students who really want to improve their listening and speaking skills in English.

講義の内容  
授業スケジュール

This course will present everyday functional language in various situations. Students will speak in controlled and guided activities with their classmates, which is a great way to make new friends. It should be fun! Later in the course students should be free and able to express their ideas and opinions on a range of interesting topics. Communicative, interactive-style learning will be a feature of the classes so good attendance will be required. We will also use a range of audio and video materials to prompt class discussion.

- 1) Introductions: Getting to know your teacher and classmates.
- 2) Talking about likes/dislikes and preferences.
- 3) Family relationships.
- 4) The place where you live.
- 5) Who am I? Who are you? Your life story so far ...
- 6) Daily routines and habits.
- 7) Feelings and emotions.
- 8) Going places: Holiday destinations and travel tips.
- 9) Favorite holidays and places.
- 10) Comparative adjectives and superlatives.
- 11) Talking about the best and the worst.
- 12) Explaining problems and making excuses.
- 13) Borrowing and lending.
- 14) Talking about culture and festivals.
- 15) End of term WRITING TEST.
- 16) Review of last term's class topics and test questions.
- 17) Do you remember when ... ?
- 18) Best friends.
- 19) Favorite movies and actors/actresses.
- 20) MOVIE viewing and discussion of movie's content.
- 21) A special time and a special person.
- 22) Making plans: Offers and requests.
- 23) What should I do? How to give advice.
- 24) Dilemmas discussion game: I need your advice because ...
- 25) Tell me a story. Retelling stories and interesting past events.
- 26) In my opinion.
- 27) Looking ahead: Talking about goals and dreams for the future.
- 28) Review and classroom test practice time.
- 29) SPEAKING TESTS.
- 30) SPEAKING TESTS.

履修上の留意点

Please come to class smiling with a positive attitude to actually SPEAK English. Show that you really want to improve your English by not missing many classes. Good attendance will be important in your grade each semester. Bring your textbook, a notebook and an electronic Japanese-English dictionary to each class.

成績評価の方法

Students will be assessed at the end of the course based on attendance, assignments and performance in class. There will be a conversation test at the end of the course.

教科書

*English Firsthand 2* ISBN 962-00-5347-8  
Published by Longman

Another text book will be presented in the first classroom, so that students can choose either one.

履修コード	287601
科目名	英会話II
担当者名	レイン, R. V.

講義のねらい This course will enable students to better use conversational English language patterns and idioms with increased confidence as well as improve students' skills and confidence in giving presentations in front of the class..

講義の内容・授業スケジュール [1]Class introduction. [2-28] The first half of the class is devoted to textbook speaking activities to provide the student with opportunities to use a variety of language patterns and verb tenses. The second half of the class is devoted to students giving presentations in front of the class on topics selected by the instructor. [29-30] Exams on selected textbook activities.

履修上の留意点 Students are expected to participate actively in class and practice the activities at home. Students should be aware that regular attendance is essential. Absence of 1/3 of the scheduled classes will result in a failing grade.

成績評価の方法 Students will be tested orally on the textbook activities and will also be graded on their class presentations. The final grade will be determined on the basis of these grades as well as attendance and class participation.

教科書 author: Steven Molinsky and Bill Bliss  
title: Side by Side, 3rd Edition, BOOK 4  
publisher: Longman  
date: 2003  
ISBN 0-13-183937-3

外国語

履修コード	287701
科目名	英会話III
担当者名	ウェルズ, J. K.

講義のねらい English Conversation III  
Welcome to my class! I hope you will challenge yourself speaking English openly on a variety of subjects and activities. This is NOT a beginner's class and the class is held (in most cases) entirely in English. It is usually a small class, so there should be much opportunity for you to speak freely.

講義の内容・授業スケジュール First Semester:  
Emphasis will be put on working with your partners and talking about a variety of subjects I give you.

Second Semester: Partner and group activities will enhance your speaking ability. Current events ARE important!

履修上の留意点 Your grade will be determined by your participation in class as well as your attendance.

ATTENDANCE is VERY important and so I have one very STRICT rule in my classroom. NO student will be allowed to be absent more than three times during the school year. If I did not have this rule, students would come and go as they please. It is important to attend class.

There are NO exceptions for activities in sports or for JOB HUNTING. I am proud of the overall percentage of students who attend my class and know you can attend regularly also.

\* It is preferred that you not take English Conversation I and English Conversation III at the same time.

The first class is very important, so please do not be absent!

Auditing my class will be granted based upon the size of the class. Please talk to me about this.

成績評価の方法 Attendance : 50%

Grading: Class participation evaluation and attendance

教科書 There is NO textbook, but you will need one larger than average notebook to keep all the prints I provide you with in the class. This notebook will be checked and graded. Loose leaf binders should NOT be used. I will provide you with B5 sized prints so a notebook larger than B5 (A4 size) should be used. Notebooks will be checked in the second class.

その他の I am an older American and have been teaching at Komazawa for many, many years. I am sure some of you know me and maybe I taught you English Conversation I.

If you want to challenge yourself further, please join my class. I will interview you briefly the first class period to see if your English is good enough to join this class. It is NOT a beginner's class. See you in class!

John Wells

履修コード	287801
科目名	英会話III
担当者名	ピアス, D. M.

講義のねらい	PURPOSE: Dedicated to raising English proficiency for the examinations in the <i>shushoku katsu-do</i> process. This is the highest level of English conversation practice offered by the university; intense practice will be in more difficult levels of English.
講義の内容・授業スケジュール	PROGRAM: Practice dialogues will introduce topics concerning commerce, economics, and politics; you will practice in dialogue or group. There will be oral exchange of opinions about the topic presented in the dialogue. Speech practice will be conducted on three different levels. 1) Daily conversation, such as you are already capable of conducting. 2) Exchange of opinion on a semi-abstract level, through a mixture of lecture and dialogue. Topics will be cultural and sociological. 3) Academic conversation. Material will cover ethical-social topics such as human rights, income distribution, war, suicide, etc, in a mixture of lecture and dialogue. This level requires an entirely new world of vocabulary and speech patterns that never appear in ordinary English conversation.
履修上の留意点	REGULATIONS: Three absences per semester permitted. Classes proceed closely according to the textbook; coming to class without the textbook counts as an absence. Tests are didactic, not disciplinary; they are not announced beforehand.
成績評価の方法	GRADING: <i>Take this course only if you are fully willing to practice English conversation, in a loud voice, with others; you will be speaking English all the time.</i> Final grade depends 70% on your class performance; examinations have minor effect on the final grade.

履修コード	265401・265701
科目名	英語 L L I
担当者名	西村 祐子

講義のねらい 基本的な表現をつかってまず「話すこと」からはじめ、日常的なテーマを英語で話してみる。後期は日常的スピードで話される会話をききとり、受け答えできるように聞き取る力を向上させていく。説明は前期は日本語でおこなうが、後期にはすべて英語による授業になる。

講義の内容・  
授業スケジュール

前期

1. 小テスト(1)実施(受講希望者が多い場合はこのテストにより振り分けを行う)
2. 聞き取り、書き取り訓練(1)
3. 聞き取り、書き取り訓練(2)
4. 聞き取り、書き取り訓練(3)
5. 聞き取り、書き取り訓練(4)
6. 小テスト(2)
7. 英語での自己紹介(1)
8. 英語での自己紹介(2)
9. 英語での自己紹介(3)
10. 聞き取り、書き取り訓練(5)
11. 聞き取り、書き取り訓練(6)
12. 聞き取り、書き取り訓練(7)
13. 小テスト(3)

後期

1. 小テスト(4)
2. 聞き取り、書き取り訓練(8)
3. 聞き取り、書き取り訓練(9)
4. 聞き取り、書き取り訓練(10)
5. 聞き取り、書き取り訓練(11)
6. 小テスト(5)
7. 英語でおこなうペアワークと書く英語(1)
8. 英語でおこなうペアワークと書く英語(2)
9. 英語でおこなうペアワークと書く英語(3)
10. 英語でおこなうペアワークと書く英語(4)
11. 小テスト(6)
12. 復習とまとめ(1)
13. 復習とまとめ(2)

履修上の留意点  
成績評価の方法

全員コンピュータIDを取得しておくこと。(総合情報センターで取得可能)。  
出席は4分の3以上であること、平常点としての小テスト、発表などによる。定期試験は実施しない。

教科書  
参考書等

配布資料。小テストはTOEIC形式のものを使う(3000円程度)。  
授業中に提示する。

履修コード	265501・265601
科目名	英語 L L I
担当者名	埴 美智子

講義のねらい PC教室を使い英語の発音、アクセント、イントネーション等を習得し、明確な英語が使える、話せるようになる。自分のことばで表現する力を養成する。

講義の内容・  
授業スケジュール

日常生活の中で実際に話されている生きたことばを教材に用い、音声を聞き、繰り返し練習する。聞き、話す力を高めていく。

履修上の留意点  
成績評価の方法

表現について研究したり、ことばの広がりを見つかるように探す習慣をつける。  
日常の授業を重視し、出席状況、前後期の試験の結果を入れて総合的に評価する。

教科書  
参考書等

『Discover Great Britain and Ireland』(金星堂) ¥2,200

その他の

その都度黒板に板書し、案内する。  
いろいろなテーマが出てくるので、英語圏文化についての知識を増す努力をする。



履修コード	265801・265901
科目名	英語 L L I
担当者名	外池 一子

**講義のねらい** リスニングに欠かせない英語の音声変化と聴き取りのストラテジーを体系的に学習し、その後英語のニュースを中心に、比較的短いモノローグやダイアローグなどを正確に聴き取れるようになることを目指します。

**講義の内容・授業スケジュール** 1. 前期はテキストを中心に、以下の項目を学習します。

- (a) 個音（母音、子音）の識別
- (b) 連結
- (c) リダクション（機能語の弱形・縮約形）
- (d) 脱落・同化
- (e) リズム、イントネーション

2. 後期は実際の聴き取り練習を行いながら、さまざまなリスニングのストラテジーを実践的に身につけていきます。

- (a) ニュース
- (b) ドキュメンタリー
- (c) 映画、ドラマ
- (d) インターネット

**履修上の留意点** 授業はCALL教室で行います。コンピューターを使用しますから、受講前にユーザーIDとパスワードを取得しておくこと。

また、初回にテストを行い受講の可否を判定しますから必ず出席してください。初回のテストを受けなかった場合受講できない場合があります。

**成績評価の方法** 平常点30%、授業の進度にあわせて行う試験70%。出席日数が3分の2以上の履修者のみが評価の対象となります。

**教科書** 開講時に指示します。

**その他の参考書等** 毎週きちんと予習をして出席すること。予習をしていなかった場合は出席とは認めません。

履修コード	266001
科目名	英語 L L I
担当者名	甲斐 捷子

**講義のねらい** 外国語の習得は、乳幼児の言語習得を観察すればわかるように、音の習得が基本です。この授業では、河合楽器が製作したビデオを使って、アメリカ英語の発音を視覚的に、基礎から学び直し、バランスの取れた英語力を身につけることが目的です。一つ一つの音の習得から始めて、単語、短文を正確に聞き取り、アメリカ人と同じような発音で発話する訓練へと進みます。音の習得ができれば、英語を学ぶ楽しさが倍加するだけでなく、正確なリスニング力、スピーキング力が身につきます。中、高等学校の間に、きちんとした発音の訓練を受けなかった皆さんには、ぜひ履修していただきたい授業です。

**講義の内容・授業スケジュール** テキスト各章の構成は、課題発音を含むスキット、発音方法、日米比較、単語、短文の練習、初めのスキットとなっています。発音の様子が映像で写し出されますから、それを見ながら、また、自分の発音とビデオの発音とを重ね合わせながら、正しい発音を習得します。前期後半にはビデオ2本を終了し、American Accent Training へ進み、アメリカ英語の特色であるリエゾンの訓練を通して、リスニング力、スピーキング力の飛躍的なレベルアップを図ります。このハンドアウトは開講時に配布します。

**履修上の留意点** 発音の訓練は早いほど良いので、1、2年次での履修が望ましいと思います。

**成績評価の方法** 一応の目安として、平常評価としての出席10%、前期試験30%、後期試験30%、小テスト30%による総合評価とします。

**教科書** Sounds Right! Sounds Good! マクミランランゲージハウス2,000円

**参考書等** American Accent Training 2nd ed. Barrons. \$ 39.95

履修コード	266101
科目名	英語 L L I
担当者名	久保 <sup>くぼ</sup> ひさ子

講義のねらい 海外旅行で場面別に、一回で通じる短い、英会話文を習得する。

講義の内容・授業スケジュール 旅行英会話の短文を、パソコン使用で、聞きとり、書きとり、反復練習する。コミュニケーションできるようにするため、さらに暗記する。毎週、小テストあり。

履修上の留意点 クラス同時録音のため、遅刻しないように、又、実習授業のため、欠席しないようお願い致します。

成績評価の方法 前期試験と、授業実習点と、小テストの合計点

教科書 マイケル・ブラウン「旅行でしゃべる英会話」南雲堂

履修コード	288501
科目名	英語 L L II
担当者名	セイジ, K

講義のねらい This is an elective course which will be conducted in the LL classroom. So, we will not use a textbook; instead, use the resources of the LL classroom. The teacher and students will both be expected to contribute to this class. This course is for the students who are really interested in English and advancing their English skills considerably.

講義の内容・授業スケジュール Due to the access of abundant resources, expect this class to be more intensive in terms of how much English and the variety of formats that you will be exposed to. Plus your individual contribution will be a high part of your grade.

履修上の留意点 Although this course will be heavy, it is going to be interesting and will advance your English skills.

成績評価の方法 1. INTERACTIVE PRESENTATIONS:  
Multiple individual and pair INTERACTIVE presentations  
2. SMALL GROUP or CLASS DISCUSSIONS:  
Opportunity to conduct small group or class discussions  
3. ATTENDANCE:  
Attendance, participation and attitude essential!

教科書 LL classroom resources

参考書等 LL classroom resources

履修コード	288601
科目名	英語 L L II
担当者名	高橋 <sup>たかはし</sup> 明子

講義のねらい ニュースや映画などの多量の英語を聴き取って内容を理解し、学習した英語表現を実際に運用できるよう練習を重ねていきます。

講義の内容・授業スケジュール テキストを中心に聴き取りの練習を進め、進度に応じて映画などの教材やTOEICのリスニング・セクションの問題も取り入れます。テキストの各 Unit を二回の授業を目安にして進め、前期に Unit6 まで、後期に Unit12 までを学びます。

履修上の留意点 毎回の授業での学習の積み重ねが大事なので、欠席をなるべくしないことを心がけてください。また、受講前にユーザーIDとパスワードを取得してください。

成績評価の方法 平常点（出席状況や小テストなど）と前期・後期の試験結果とを総合して評価します。

教科書 『CNN：ビデオをで見る世界のニュース（9）』（朝日出版社）2,000円+税  
ISBN978-4-255-15450-3

履修コード	288701
科目名	英語L L II
担当者名	甲斐 捷子

講義のねらい ABC放送のアメリカ国内向けニュース番組、“World News Tonight”をビデオで学び、英語の運用能力をさらに高めることがこの授業の目的です。ストーリー性の高いニュースを、臨場感を楽しみながら、正確に聞き取り、読み、内容についても話せるように訓練します。

講義の内容・授業スケジュール 授業のはじめに、教員がビデオを一時停止させながら、報道内容をそのまま日本語で話します。この段階でニュースの大意を把握し、さらに語句の解説を英語で行いながら内容を読み進み、同時に内容についても話せるように訓練します。単元の復習の後、小テストを行い、終了とします。テキスト全15章のうち、前期7章、後期8章を終了できる予定です。

履修上の留意点 遅刻に気をつけて下さい。授業の冒頭の部分が欠けると、その後の理解に支障が出ます。  
成績評価の方法 一応の目安として、平常評価としての出席10%、小テスト30%、前期試験30%、後期試験30%とします。

教科書 ABC World News 10 山根繁 /Kathleen Yamane 著 金星堂 2,000円

履修コード	289301
科目名	英語L L III
担当者名	甲斐 捷子

講義のねらい TVニュース英語のインテンシブ・コースです。ABC放送とケーブル・テレビのニュースを同時に並行して学び、学習量を倍にすることで英語力をさらに高め、定着させることがこの授業の目的です。

講義の内容・授業スケジュール 授業のはじめに、教員がビデオを一時停止させながら、報道内容をそのまま日本語で話します。この段階でニュースの大意を把握し、さらに語句の解説を英語で行いながら内容を読み進み、同時に内容についても話せるように訓練します。語句の解説はハンドアウトで配布し、簡単な復習も含めて、1回の授業で1単元を終了します。

履修上の留意点 インテンシブ・コースですから、遅刻・欠席があると単位取得に支障が出ます。  
成績評価の方法 一応の目安として、平常評価としての出席10%、小テスト30%、前期試験30%、後期試験30%とします。

教科書 ABC World News 10 山根繁 /Kathleen Yamane 著 金星堂 2,000円  
English for the Global Age with CNN 9 Kansai University ELT Research Group 著 朝日出版社 2,000円

履修コード	289401
科目名	英語L L III
担当者名	白鳥 義博

講義のねらい 2006年から新しく始められた TOEFL iBT テストのリスニングおよびスピーキング・セクション対策のための問題集を使い、たとえば大学での英語の講義を正しく理解したり、講義への質問や意見を適切な英語で述べる練習を行います。北米への留学のためにTOEFL受験を目指す学生だけでなく、たとえば英語による面接試験を受ける準備をしたい学生など、ハイレベルな英語の聞き取りと応答の力を身につけたい学生の受講を広く歓迎します。

講義の内容・授業スケジュール 前期：(1) ガイダンス (2~14) リスニング・セクション対策演習 (15) 前期末試験、後期：(15~28) スピーキング・セクション対策演習 (29) 総復習 (30) 後期末試験

成績評価の方法 平常点と出席状況、および定期試験の結果などから総合的に評価する。  
教科書 前期：喜田慶文、『TOEFLテストリスニング問題350』改訂新版(旺文社、2006年) ¥2,600+税 ISBN978-4-01-093498-2  
後期：追って指示する。

履修コード	289501
科目名	英語L L III
担当者名	久保 ひさ子

講義のねらい 英語講演等をおおよそ、理解でき、さらに、ディベートできる程度をめざしたいと思います。  
講義の内容・授業スケジュール テキストを再生、聞きとり、書きとり、解答し、再生し反復練習する。授業後半は、ABC or BBC ニュースのビデオ or DVD、あるいは、TOEFLの試験問題を使用します。

履修上の留意点 実習授業のため、欠席しないようお願い致します。  
成績評価の方法 前期試験と授業実習の合計点  
教科書 World Times of Japan, Michigan Action English Step 6

履修コード	285202
科目名	ドイツ語外国書講読
担当者名	野島 利彰

講義のねらい  
講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書その他

ドイツの自然をテーマにいくつかの文章を読み、そこからドイツ人の自然観を探ります。文章ばかりでなく、より具体的イメージを得られるようCDブックや画像を参照します。授業終了15分前から、次回の文章の予習をしやすいよう、文法事項や単語について解説します。予習が大切です。授業に対する貢献度、例えばどれだけ予習し、どれだけ訳を発表したかが評価の重要な基準です。プリントを配布します。外国語の文章を読めるようになるには、それ以前に日本語で文章をたくさん読んでおくことが決め手です。さまざまな分野について新書版で読んでおいて下さい。

履修コード	286002
科目名	時事ドイツ語
担当者名	野島 利彰

講義のねらい  
講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書その他

新聞を通し、ドイツで現在何が問題になっているかを知ります。環境、麻薬、多数の外国人居住者などの問題を取り上げます。予習をしやすいよう、文法事項や単語について前もって解説します。予習をしておいてください。授業に対する貢献度、例えばどれだけ予習し、どれだけ訳を発表したかが評価の重要な基準です。プリントを配布します。日本の新聞や雑誌を読んでいることがドイツ語の内容理解を楽にします。普段から新聞や雑誌に目を通す癖をつけてください。

履修コード	286902
科目名	上級ドイツ語
担当者名	松岡 晋

講義のねらい  
講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書参考書その他

文法知識を完全なものにするために、また正しいドイツ語表現を学ぶために、ドイツ語の作文練習を行います。一年間、誠実に練習問題に取り組めば、きっとドイツ語に自信を持つことが出来るようになると思います。

(1) 授業方針の説明と受講者の文法知識のチェック (2~3) 第1課(規則動詞と sein, haben) (4~5) 第2課(冠詞・複数・人称代名詞・不規則動詞) (6~7) 第3課(冠詞類・前置詞・前置詞を伴う動詞・形容詞) (8~9) 第4課(助動詞・再帰動詞) (10~11) 第5課(分離動詞・命令形・非人称動詞) (12~13) 第6課(過去形・完了形・zu 不定詞) (14~17) 第7課(付加語的形容詞・形容詞の名詞化・比較・分詞・従属節) (18~19) 第8課(受動態・指示代名詞) (20~22) 第9課(関係代名詞・関係副詞) (23~25) 第10課(接続法) (26~30) 配布プリントでの補助練習

語学の学習は何よりも継続性が大事です。従って定期的出席と課題、練習問題の着実な実行が望まれます。ともかく、一年間、独和辞典を持参して、ぜひとも授業に出席するように心がけてください。

受講者数が少ないと予測されますので、筆記試験は行いません。出席と練習問題への取り組みの度合いによって、平常点評価を行います。

小林俊明『はじめての独作文 ---Version 2---』、同学社、1500円 ISBN 978-4-8102-0690-6 特になし。

初回の授業の際に、受講者の文法理解度を確認するためのチェック・テストを行うつもりです。

履修コード	288001
科目名	ドイツ語コミュニケーションI
担当者名	小林 ゲアリンデ

**講義のねらい** ドイツ語の基礎的な知識を履修するとともにドイツおよびドイツ語を国語とするオーストリア、スイスの国情について知識を身につけることを目指す。  
 日常的な状況でのドイツ語を話し、理解することに重点をおく。そのため発音練習やパートナー練習を数多く取り入れる。基本的な文法の習得と並んでドイツ語を読む楽しみにも触れたい。適宜宿題を課す。

**講義の内容・授業スケジュール** (1～4) LektionI 今日は私の名前は (5～8) LektionII 家族と友だち (9～12) LektionIII 食物と飲食 (13～16) LektionIV 私の家 (17～20) LektionV 私の一日 (21～24) LektionVI くつろぎの時 (25～29) LektionVII 生涯学習 (30) テスト

**成績評価の方法** 定期試験は行わないが、毎時間、口答対話を行い、それを総合して年度末の成績として評価する。

**教科書その他** Kursbuch + Arbeitsbuer "Schritte international I" (Huber)  
 ビデオ、カセットを使用する。

履修コード	288801
科目名	ドイツ語コミュニケーションII
担当者名	小林 ゲアリンデ

**講義のねらい** ドイツ語を1年(LLまたは他のドイツ語科目)で学んだ学生を対象とする。ドイツ語を話し、理解する能力をさらに伸ばし、ドイツ語圏諸国についての知識を拓げることを目標とする。  
 話す力、とくに正しい発音を習得する。ややこみ入った状況での会話、中級テキストを読む練習をする。

**講義の内容・授業スケジュール** (1～3) LektionI お互いに知り合う (4～6) LektionII 電話での会話 (7～9) LektionIII コーヒーショップで (10～12) LektionIV ヨーロッパ旅行 (16～19) LektionV 買い物 (16～19) LektionVI 自由時間 (20～23) LektionVII 家族と親戚 (24～28) LektionVIII 衣服・百貨店 (29) 復習 (30) テスト

**成績評価の方法** 定期試験は行わないが、毎時間、口答対話を行い、それを総合して年度末の成績として評価する。

**教科書その他** Neue Ausgabe Teilland 1 "Eurolingua Deutsch I" (Cornelsen)  
 ビデオを使用する。

履修コード	289601
科目名	ドイツ語IA (選)
担当者名	松岡 晋

**講義のねらい** ドイツ語の勉強のスタートとして初級文法を一年間で学ぶことが、この授業の目的です。ドイツ語の基礎としてどうしても知っておかなければならない事項のみが記載されたコンパクトな教科書を用いますので、まずそこに記された事柄を徹底的に覚えてください。

**講義の内容・授業スケジュール** (1～3) 独和辞典の紹介、文字と発音の基礎の説明 (4～5) 第1課[人称代名詞と動詞の現在人称変化] (6～8) 第2～3課[名詞の性と格] (9～10) 第4課[定冠詞類・不定冠詞類] (11～12) 第5課[語幹の変わる動詞] (13～14) 第6課[前置詞の格支配] (15～17) 第7課[分離動詞・非分離動詞・再帰動詞] (18～20) 第8課[話法の助動詞・未来時制] (21～22) 第9課[動詞の三基本形、過去時制] (23～24) 第10課[完了時制] (25～26) 第11課[形容詞について] (27～28) 第12課[関係文] (29～30) 付録1～2[受動態、接続法]

**履修上の留意点** 語学の学習は何よりも継続性が大事です。従って定期的出席と課題、練習問題の着実な実行が望まれます。ともかく、一年間、ぜひとも授業に出席するように心がけてください。

**成績評価の方法** 一年間に数度行う記述試験、小テストのほかに、平常点(出席率、授業中の課題の実行の具合など)を重視いたします。記述試験と平常点の割合は6対4と考えてください。

**教科書** 一年間に数度行う記述試験、小テストのほかに、平常点(出席率、授業中の課題の実行の具合など)を重視いたします。記述試験と平常点の割合は6対4と考えてください。

**参考書等その他** 特になし。  
 実際のドイツ語の文章に慣れるために、その都度の文法事項に即した例文を取めたプリントを何度か配布いたします。

履修コード	290201
科目名	ドイツ語I B (選)
担当者名	井村 行子

講義のねらい  
講義の内容・授業スケジュール  
成績評価の方法  
教科書

ドイツ語を実際に使えるようにするとともに、ドイツについての知識の習得に努めます。教科書に沿って進めます。少なくとも4課までは終わらせる予定です。

前期と後期の筆記試験の成績によります。  
『シュトラッセ・ノイ』(朝日出版社)

履修コード	290801
科目名	ドイツ語II (選)
担当者名	井村 行子

講義のねらい  
講義の内容・授業スケジュール  
成績評価の方法  
教科書

ドイツ語のレベルアップとともに、ドイツについての知識を深めます。第5課から第8課まで教科書後半をやる予定です。

前期と後期の筆記試験の成績によります。  
『シュトラッセ・ノイ』(朝日出版社)

履修コード	285302
科目名	フランス語外国書講読
担当者名	東 辰之介

講義のねらい  
講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

素朴で平明な文体をもつ魅力的な短編小説を教材として、現代フランス文学に親しむことを目的とします。

あらかじめ割り当てられた箇所を音読の上、日本語に訳していただきます。その後、担当者が解説します。授業スケジュールは受講者のレベルを考慮して調整しますが、以下のペースを目標とします。(1) 作品冒頭の解説/受講者への割り当て(以後適宜)(2)~(15) 作品前半の読解(p. 2-22)(16)~(30) 作品後半の読解(p. 23-43)

授業にきちんと出席することが何より重要です。やむを得ず遅刻や欠席をしてしまった場合は、その分を次の授業までに自分で勉強しておいてください。調べても分からない時は、質問してください。

学期末試験の結果と平常点によって評価します。平常点を重視します。  
J.M.G.Le Clézio 著 中地義和編注『ダヴィッド』(朝日出版社)  
1,068円+税 ISBN4-255-35073-6

履修コード	286102
科目名	時事フランス語
担当者名	桑田 禮彰

講義のねらい  
講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

フランス語中級。フランス語の基礎を既に習得した者を対象にします。

比較的簡単で興味深い最新の時事フランス語の文章を読んでいます。発音の基本を確認しつつ、文法事項についても、できるかぎり分かりやすく説明するつもりです。できれば最後に、実際のフランスの新聞記事を読んで見ましょう。フランス語の基礎を終えた人は、ぜひこの授業を取って、もう一歩踏み込んだフランス語の魅力、フランスの魅力に触れてください。

(1) 受講上の諸注意 (2)(3) 新フランスペット事情 (4)(5) 路面電車の復権 (6)(7) 名前とグローバリゼーション (8)(9) 60回目を迎えたカンヌ映画祭 (10)~(24) 夢の職業、他 (25)~(29) Le Monde 記事 (30) 復習と今後のフランス語学習について

最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。

ふだんの授業での評価をベースにして、年二回の試験の成績で決定します。  
クリスチャン・ボームルー、荒木善太著『ヴァリエテ・フランセーズ2008』(朝日出版社)  
1,995円 ISBN978-4-255-35192-6  
そのつど授業で指示します。

履修コード	287002
科目名	上級フランス語
担当者名	小玉 齊夫

**講義のねらい** フランス文化の実際について述べている教科書にしたがい、文法事項を再確認しながら、聞きとり、作文、ならびに会話について、可能なかぎり総合的なフランス語能力を身につけていきたいと思えます。「仏検」3級以上のちからを持つようになることが目標です。来年3月に行われる「短期セミナー」に参加を希望される方は、現在の自分のフランス語能力など気にせず、積極的に、この授業をとるようにして下さい。「短期セミナー」に参加した人たちも歓迎です。放っておくと「実力」はすぐ落ちてしまいますヨ。

**講義の内容・授業スケジュール** 1年間30授業時間として、以下のように進めていく予定です。(1-3)疑問表現、数字、いくつかの動詞の直説法現在、(4-6)情報を得るときの表現 近接未来と近接過去、(7-9)意見、感想の表現、中性代名詞、(10-12)提案、未来、比較級等、(13-15)庭作業について、半過去、関係代名詞、(16-18)賛成、反対等の議論、複合過去、大過去、(19-21)文化財尊重について、(22-24)条件法の例文、(25-27)性格、人柄、(28-30)直接話法と間接話法

**履修上の留意点** 出席するのが楽しい授業、でなくては、会話などに心を配る余裕が出てきません。つとめて、そのようにしたいと思いますので、「遊び心」も持って参加して下さい。フランス語の聞き取りは、「ある日、突然に」、それまで理解できなかった表現も、分かってくるものです。初めの「難しき」にめげずに、突然訪れて来る「その日」をめざして、地道に練習を続けていく心構えがたいせつです。

**成績評価の方法** 随時提出する宿題や学年末の試験で評価します。  
**教科書** 阿南・モラン 共著 『パシヨネマン2』(第三書房、2400円) ISBN978-4-8086-2185-8  
**参考書等** 『現代和仏小辞典』(白水社)。フランス語彙を増やすためにも、必要です。

外国語

履修コード	288101
科目名	フランス語コミュニケーションI
担当者名	ラリア・三倉, M.

**講義のねらい** 教科書の内容に沿ってフランス語コミュニケーションの聴く、話す、読む実力が自然とついてくる授業にします。

**講義の内容・授業スケジュール** あくまで全くの初心者にフランス語のコミュニケーション力の基礎を習得させる内容になっています。

(1) Alphabet /興味を持たせるための簡単な会話と表現/フランス語発音練習 (2) ~ (4) Leçon 1 (5) ~ (7) L2 (8) ~ (10) L3 (11) ~ (13) L4 (14) ~ (16) L5 (17) ~ (19) L6 (20) ~ (22) L7 (23) ~ (25) L8 (26) ~ (28) L9 (29) ~ (30) L10

**履修上の留意点** 授業は実践力をつけるため、フランス語で行います。  
**成績評価の方法** 成績評価は講義で学生の各々の能力を見極める通常点で評価します。試験はいたしません。  
**教科書** 高橋・ジュンタ共著『ヌーヴォー・ク・ドゥ・クール』第三書房 ISBN 4-8086-2136-3

履修コード	288901
科目名	フランス語コミュニケーションII
担当者名	ラリア・三倉, M.

**講義のねらい** フランス語の基礎力が備わった学生向けのフランス人講師による授業です。

**講義の内容・授業スケジュール** ビデオを使って視聴覚中心の授業をいたします。

(1) 受講上の諸注意 / à l' Aéroport の1回目 (2) ~ (4) à l' Aéroport (5) ~ (7) à l' hôtel (8) ~ (10) Paris, la nuit (11) ~ (13) Au café (14) ~ (16) Le train (17) ~ (19) Le téléphone (20) ~ (22) invitations (23) ~ (25) les courses (26) ~ (28) Au Restaurant (29) ~ (30) まとめと復習

**履修上の留意点** 授業は実践力をつけるため、フランス語で行います。  
**成績評価の方法** 試験はいたしません。通常評価で採点します。  
**教科書** 教材は“BIENVENUE EN FRANCE”よりプリントして学生に渡します。

履修コード	289701
科目名	フランス語ⅠA (選)
担当者名	出口 雅敏

講義のねらい フランス語をはじめて学ぶ学生のための授業です。初級文法の習得を中心に、読む、書く、聞く、話すための基礎をバランス良く学習することが目的です。

講義の内容・授業スケジュール (1) 受講上の諸注意 / Alphabet (2) ~ (4) 発音の基礎 (5) ~ (15) 文法の基礎 (名詞の性・数 / 主語人称代名詞 / 冠詞 / 疑問文・否定文・命令文 / 形容詞 / 縮約 / 動詞の現在時制など) (16) ~ (29) 文法の発展 (目的語人称代名詞 / 中性代名詞 / 比較 / 代名動詞 / 関係代名詞 / 動詞の過去・未来時制など) (30) 復習と今後のフランス語学習について

履修上の留意点 「仏和辞典」を毎回持参して下さい。\*但し、電子辞書やポケット版辞典は不可です。  
成績評価の方法 前期・後期の期末試験と通常点(出席状況・小テストなど)によって評価します。  
教科書 金子・猪口・松浦・白石・佐久間『プチボワソン』2008年刊(白水社)2, 300円+税

外国語

履修コード	289711
科目名	フランス語ⅠA (選)
担当者名	東 辰之介

講義のねらい フランス語初級文法の習得を目的とします。  
講義の内容・授業スケジュール (1) 受講上の諸注意 / Alphabet (2) ~ (3) 発音の基礎 (4) ~ (15) 文法の基礎 (主語人称代名詞 / 動詞の直説法現在 / 形容詞の性・数 / 名詞 / 冠詞など) (16) ~ (29) 文法の発展 (疑問代名詞 / 縮約 / 補語人称代名詞 / 比較 / 動詞の過去・未来時制など) (30) 復習と今後のフランス語学習について (中級への橋渡し)

履修上の留意点 授業にきちんと出席することが何より重要です。やむを得ず遅刻や欠席をしてしまった場合は、その分を次の授業までに自分で勉強しておいてください。調べても分からない時は、質問してください。

成績評価の方法 学期末試験の結果と平常点によって評価します。  
教科書 藤田裕二著『パスカル・オ・ジャポン』(白水社)2,000円+税, ISBN978-4-560-06083-4  
参考書等 仏和辞典が必要です。初回授業でガイダンスをします。

履修コード	290301
科目名	フランス語ⅠB (選)
担当者名	菅原 猛

講義の内容・授業スケジュール 既得の英語力を応用してフランス語の初歩を学びながら外国語で書かれた文章の構造を分析して読解力を高めてゆく。その作業は日本語の文章作法を見直すことにも通じてゆくと思われる。

履修上の留意点 履修した上で、できるだけ最後まで学習する意欲をもちつづけて欲しい。  
成績評価の方法 年2回の定期試験の成績を中心に、各課ごとに行なう練習問題の結果も平常試験として評価の対象にします。

教科書 鈴木隆芳・中野茂『フランス語文法の単位』2007年刊(駿河台出版社)2,625円(税込)

履修コード	290901
科目名	フランス語Ⅱ (選)
担当者名	桑田 禮彰

講義のねらい フランス語中級。フランス語の基礎を既に習得した者を対象にします。

講義の内容・授業スケジュール 比較的簡単で興味深い最新の時事フランス語の文章を読んでいきます。発音の基本を確認しつつ、文法事項についても、できるかぎり分かりやすく説明するつもりです。フランス語の基礎を終えた人は、ぜひこの授業を取って、もう一步踏み込んだフランス語の魅力、フランスの魅力に触れてください。

(1) 受講上の諸注意 (2) (3) 新フランスペット事情 (4) (5) 路面電車の復権 (6) (7) 名前とグローバリゼーション (8) (9) 60回目を迎えたカンヌ映画祭 (10) ~ (29) 夢の職業、他 (30) 復習と今後のフランス語学習について

履修上の留意点 最も重要なのは、もちろん授業への出席です。一回一回の出席を大切にしてください。

成績評価の方法 ふだんの授業での評価をベースにして、年2回の試験の成績で決定します。

教科書 크리스チャン・ボームルー、荒木善太著『ヴァリエテ・フランセーズ2008』(朝日出版社)1,995円 ISBN978-4-255-35192-6

参考書等 そのつど授業で指示します。



履修コード	285402
科目名	中国語外国語講読
担当者名	佐藤 普美子

**講義のねらい** 中国は「文」の国です。「話し言葉」にはない「書き言葉」独特の魅力を中国語で書かれた文章（主に「散文」）を通して、その表現の妙を味わってきましょう。

**講義の内容・授業スケジュール** 文学的文章の中でも「散文」（＝エッセイ）を時代順に――①1920年代草創期の散文小品②1930年代の小品文③1940年代の時事的散文――読み進めていきます。後期は同時代の散文や評論、合わせて名詩名文といわれる優れた表現を持つ作品の朗読も練習します。

**履修上の留意点** 文章語ではあっても、こまめに辞書を引き音読できるように準備しておきましょう。予習は不可欠です。

**成績評価の方法** 出席、予習の有無、暗誦テストによって総合的に評価します。4分の1以上欠席した場合は成績評価の対象になりません。

**教科書** 開講時、教材プリントを配布します。

**参考書等** 毎時間辞書は必ず携帯して下さい。

履修コード	286202
科目名	時事中国語
担当者名	塩旗 伸一郎

**講義のねらい** 新聞記事の見出し&リードの速読と、教科書精読の二種のアプローチにより、ニュースの文体を読み解く力を養う。

**講義の内容・授業スケジュール** 「速読」篇はその場で大意を掴む練習、「精読」篇は、「字」から「詞」（＝単語）を連想し、文を構造的にとらえる訓練を積む。

**履修上の留意点** 精読教材は予習が不可欠。  
参考記事や授業に関する情報は下記URLに掲載するので常時チェックすること。  
<http://www.komazawa-u.ac.jp/~siop/jiji.html>

**成績評価の方法** 平常点

**教科書** 三浦正道・陳祖蓓『セレクト10：時事中国語2008』（朝日出版社）1600円＋税  
その他、参考記事を随時ネット上で採取し、上記URLに掲載。

**参考書等** 辞書は『現代漢語詞典』（中国商務印書館）、『中日大辞典』（大修館書店）、『中日辞典』（小学館）、『講談社中日辞典』を、電子辞書はキャンノン wordtank G90 を推奨する。

**その他** PC教場使用を要望しているが、教場変更の可能性もあるので、掲示に注意すること。

履修コード	287102
科目名	上級中国語
担当者名	児島 弘一郎

**講義のねらい** 実用的な中国語表現の習得を目指すと同時に、各種検定試験への対策を行ないます。頻出する基本構文・語彙を反復学習しつつ、聴き取り・翻訳・作文などの訓練をします。

**講義の内容・授業スケジュール** 中国でのインタビューを中心に編集された音声教材を使用し、自然なスピードで話された中国語に毎回触れてもらいます。前期は全12課のテキストを毎回1～1.5課ずつ進め、前期の終わりから後期には、教員が用意した教材により、検定試験の具体的な対策を行ないます。

**履修上の留意点** 4分の3以上の出席、失敗を懼れない果敢さを求めます。

**成績評価の方法** 前期・後期の試験、小テスト、授業への取り組み、出席状況によって総合的に評価します。

**教科書** 楊達・南勇『リスニング中国1』（朝日出版社、2200円、CD付）。

**参考書等** 辞書や役立つ音声教材などは、教場で紹介します。

**その他** 検定試験の受験を予定していない学生も、もちろん歓迎します。

履修コード	288201
科目名	中国語コミュニケーションI
担当者名	陳 洲拳

**講義のねらい** 中国語を用いて意思疎通を円滑に進める能力を養う。日常会話の初歩的な表現を口でスムーズに応答できるように習得する。

**講義の内容・授業スケジュール** 割とやさしい教科書を使い、学んだ内容を理解し、暗誦できる程度まで繰り返して音読し、そして今まで憶えた単語や句型など活用して、日常的な会話を練習する。5課ごとに1回自由会話を行う。

**履修上の留意点** 学んだ課の本文の録音をよく聞き、まねをして読み、正確に言えるように練習すること。

**成績評価の方法** 後期のテストの成績によって評価する。

**教科書** 陳洲拳他著『中国語耳留学』（隆美出版）2600円（CD2枚付き）

履修コード	289001
科目名	中国語コミュニケーションII
担当者名	小川 隆

講義の内容・授業スケジュール 「II」とあるが、レベルは「I」と同じ。大量の口頭練習を行いながら、発音と文法を基礎から復習し、徹底的に身につける。予習は必要ないが、毎回の学習内容を必ず次の週に暗誦してもらう。かつて中国語IA・IBを履修した、でも内容が身につけているわけではない、という現状の受講生を標準とする。短期・長期の留学に興味がある人も、ぜひ参加してほしい。

成績評価の方法 成績は平常点評価。  
教科書 楊凱栄『もったのばせる中国語』（金星堂）1900円＋税 ISBN 978-4-7647-0671-2

履修コード	289801
科目名	中国語IA（選）
担当者名	吉田 建一郎

講義のねらい 中国語の基礎力を身につける  
講義の内容・授業スケジュール (1～6) 四声とピンイン (7～14) 代名詞、「是」と「不是」、名前・月日・曜日の言い方、疑問詞疑問文など (15～19) 形容詞述語文、比較文、「在」と「有」、「了」など (20～28) 助動詞、補語、存現文、使役文、受身文など

履修上の留意点 積極的に練習に参加し、自主的に努力する意志のある方のみ歓迎。  
成績評価の方法 平常点（出席状況、積極性）と定期試験をもとに総合的に評価。  
教科書 内田慶市等『中国語への道—近きより遠きへ—』金星堂、2380円（税別）、978-4-7647-0659-0

履修コード	289811
科目名	中国語IA（選）
担当者名	岩崎 皇

講義のねらい 中国語という言語を体験してもらうことが目的です。とりわけ聞き取りと発音が重要ですから、繰り返し練習します。

講義の内容・授業スケジュール テキスト(全12課)に沿って日常会話を練習していきます。5月の連休までに発音の練習をし、その後にはほぼ授業2回で1課進む予定です。

履修上の留意点 授業にはすべて出席することが前提です。やむを得ぬ理由により欠席する場合でも、6回を越えた場合は単位取得が不可能となります。具体的には、欠席を1点、遅刻早退を0.5として合計し、6点以内の者を成績評価の対象とします。

成績評価の方法 上記の出席を前提とした上で、年間4回行う試験で判断します。  
教科書 劉穎『1年生のコミュニケーション中国語』（白水社）2,200円（本体）

履修コード	290401
科目名	中国語IB（選）
担当者名	蘭 明

講義のねらい 発音と聴力の基本訓練を中心とする。

講義の内容・授業スケジュール 前期は最初の一か月（4回に分け）において、ピンインを読めるように集中的練習をする。その後、簡単な会話の練習に進む。後期は、やさしい日常会話を中心におき、授業を展開する。

履修上の留意点 暗誦と実演などがあり、積極性が求められる。  
成績評価の方法 出席など授業姿勢に評価の重きを置く。前後期二回に分け試験を行う。  
教科書 董燕・遠藤光暁『理香と王麗 話す中国語1』（朝日出版社）2,835円

履修コード	291001
科目名	中国語II（選）
担当者名	三田村 圭子

講義のねらい 基礎中国語を復習し、聞く・話す・書くを反復練習することで、より実践的な中国語を習得する。

講義の内容・授業スケジュール ①基礎中国語で学習した重要な文法や発音を復習する。  
②教科書の進度にしたがって、会話を暗記し、また簡単な文章を書けるように練習する。  
履修上の留意点 出欠は成績に加味するので、欠席の多い学生は単位取得が難しい。  
欠席が3分の1以上の場合、採点評価の対象外とする。

成績評価の方法 前・後期の中間期末試験（全4回）と平常点で総合評価する。  
本文の暗記も点数に加算する。  
教科書 董燕・遠藤光暁著『話す中国語北京篇2』（朝日出版社）2500円  
参考書等 授業開始時に説明する。

履修コード	285502
科目名	スペイン語外国書講読
担当者名	齋藤 明美

**講義のねらい** 辞書の力を借りながら内容を理解する力をつけ講読を通して基礎文法の復習と語彙力の増加を目指します。直説法過去形や接続法現在などの中級文法習得も視野に入れます。本年度はスペイン語圏を代表する名曲の歌詞を題材にしヒヤリング力と発音の向上も図ります。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- (1) スペイン語ポップスの名曲に親しむ (1-7)
  - (2) カリブのリズム(サルサ・メレンゲなど)を感じる (8-14)
  - (3) メキシコ、アンデス音楽を楽しむ(15-23)
  - (4) スペインの民謡(フラメンコ、クリスマス之歌など)を味わう (24-30)

**履修上の留意点** 初級文法修了者を対象とします。  
**成績評価の方法** 毎回の授業参加と年二回の演習課題によります。  
**教科書** GIDE語彙研究班『スペイン語語彙練習帳 スペ単ライト!』朝日出版社1200円

**参考書等その他** テキストは毎回配布します。  
 推薦辞書：『西和中辞典』(小学館) 『プエルタ新スペイン語辞典』(研究社)  
 講義内容の順序が前後する場合があります。

外国語

履修コード	286302
科目名	時事スペイン語
担当者名	齋藤 明美

**講義のねらい** 初級文法および基本語彙を復習しながら、現代のスペイン語圏の政治・社会、文化、芸術、スポーツ、文化についての簡単なテキストを呼んでいきます。またスペイン語を使った情報収集能力を高めます。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- (1) スペイン語圏の衣食住 (1-6)
  - (2) スペイン語圏の社会(若者像、職業、大学、冠婚葬祭など) (7-13)
  - (3) 文化・余暇(旅行、音楽、映画、スポーツなど) (14-19)
  - (4) 今年の重大ニュース (20-26)
  - (5) スペイン語の日本に関するニュース (27-30)

**履修上の留意点** 初級文法修了者対象。  
 興味関心もてるテーマの一つでも見つけ、辞書をたよりに貪欲に語彙や慣用表現を増やす努力をしていきましょう。またインターネット等を積極的に活用して日ごろからスペイン語に慣れましょう。

**成績評価の方法** 毎回の授業参加や演習課題(夏休み1回)そして後期定期試験によります。  
**教科書** GIDE語彙研究班『スペイン語語彙練習帳 スペ単ライト!』朝日出版社 1200円  
 テキストは毎回配布します。

**参考書等その他** 推薦辞書：『西和中辞典』(小学館)  
 『プエルタ新スペイン語辞典』(研究社)  
 講義内容の順序が前後する場合があります。

履修コード	287202
科目名	上級スペイン語
担当者名	上野 勝広

**講義のねらい** このクラスでは、スペイン語検定試験(3級・4級)に合格することを目標にします。既習の文法事項を随時復習しながら、聴解・会話・読解・作文の各技能を伸ばし、総合的なスペイン語力を身につけられるようレッスンを進めます。

- 講義の内容・授業スケジュール** 作文については年間を通じ下記のテキストを用いて、1回の授業で10ページくらい進めます。読解はインターネットのオンライン教材およびプリント、聴解・会話はビデオ・CD等の視聴覚教材を利用してゆきます。  
 前期(1)オリエンテーション(2~5)自動詞・再帰動詞・他動詞の構文、など(6~10)連結動詞の構文、など(11~15)関係節、など  
 後期(16~20)副詞節、など(21~25)受動構文、など(26~30)比較構文、など

**履修上の留意点** 「継続こそ力なり」です。休まずさばらず目標に向かって頑張れる意欲に満ちた受講者を歓迎します。また授業の学習成果を最大限あげるために、何より集中力が大切です。

**成績評価の方法** 前期末・学年末試験の結果(60%)と平常点(40%)を総合して評価します。  
**教科書** 小池和良『スペイン語作文の方法・構文編』(第三書房)2,500円

履修コード	288301
科目名	スペイン語コミュニケーションI
担当者名	モラーレス, ムニョス, S.

講義のねらい スペイン語を用いて平易な日常会話が可能となるよう、必須の語彙を蓄えさせ、基礎文法の習得を促す。同時にスペイン語圏についての知識を深める。

講義の内容・授業スケジュール (1) 世界の中のスペイン語・発音とアルファベット (2) 自己紹介をする・動詞SERとESTAR (3) 自己紹介における形容詞の用い方・所有形容詞 (4) 場所と位置関係の表現 (5) 直説法現在規則活用(6) 曜日と月・数詞 (8~9) 再帰動詞 (10) 直説法現在不規則活用動詞 (11) HABERとESTAR (12) 動詞GUSTAR (13) 食事について (14) 天候の表現 (15) 前期試験 (16) 命令法(規則活用) (17) 依頼の表現 (18) 現在進行形 (19) 約束をするときの表現 (20) 点過去規則活用 (21) 買い物をする (22) 目的語代名詞 (23~24) 身体各部の名称・病院で・動詞DO LER (25~26) 点過去不規則活用 (27) 線過去 (28~29) 現在および過去の習慣について (30) 後期試験

履修上の留意点 積極的にスペイン語を用いること。スペイン語圏のニュースに注意していること。  
成績評価の方法 出席 (20%)、短い作文、発話 (30%)、2回の口頭試験 (50%)。  
教科書 Francisca Castro Viúdez, et al. 『Español en marcha 1,A1. (Libro del alumno)』 (S.G.E.L.)

外国語

履修コード	289101
科目名	スペイン語コミュニケーションII
担当者名	モラーレス, ムニョス, S.

講義のねらい スペイン語のやさしい言い回しで心情などが表現できるようにする。過去の出来事の語り方や、未来の計画の立て方を学ぶ。現代のテーマについてスペイン語で意見を述べられるようにする。

講義の内容・授業スケジュール (1~3) 自分について話す (4から6) 評伝を読む (7から9) 習慣と行事 (10~12) 未来の事柄 (13~14) 過去と現在 (15) 前期試験 (16~18) 比較 (19~21) 広告文・求人・買い物 (22~24) 助言をする (25~27) 自由時間・世界のお祭り (28~29) 未来の計画 (30) 後期試験

履修上の留意点 以前に学んだ文法の復習をしっかりとやっておくこと。積極的にスペイン語を用いること。スペイン語圏のニュースに注意していること。

成績評価の方法 出席 (20%)、短い作文、発話 (30%)、2回の口頭試験 (50%)。  
教科書 Francisca Castro Viúdez 『Español en marcha 2,A2. (Libro del alumno)』 (S.G.E.L.)

履修コード	289901
科目名	スペイン語IA (選)
担当者名	亀山 晃一

講義のねらい 初級文法から始め、発音・アクセント・イントネーションを練習する。比較的簡単な例文を確実に習得することで会話の基礎を作り、スペイン語圏で生活したり、旅行するに当たって役立つ、コミュニケーション能力の開発と養成を行う。背景文化や歴史にも触れ、関心を育てることにより、学習継続の為に動機付けとしたい。

講義の内容・授業スケジュール I. 発音、アクセント、音節 (1~3)  
II. 名詞の性と数、冠詞、主格人称代名詞 (4~6)  
— 前期中間テスト (7) —  
III. 規則動詞、疑問文、否定文 (8~10)  
IV. 形容詞の性と数、動詞 ser と estar (11~13)  
V. hay と estar、指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞 (14~15)  
— 前期期末テスト (16) —  
VI. 時刻の表現、基数 (0~29)、直接目的格人称代名詞 (17~18)  
VII. 1人称単数が不規則活用する動詞、天候の表現、疑問詞 (19~20)  
— 後期中間テスト (21) —  
VIII. 語根母音変化動詞、不定詞の用法、序数 (22~24)  
IX. gustar 型動詞、基数 (30~100) (25~26)  
X. 曜日、月、季節 不規則活用する動詞 (27~29)  
— 後期期末テスト (30) —

履修上の留意点 決して、遅刻・欠席をしない。自ら興味を持ち、学習を継続すること。  
成績評価の方法 数回のテスト、日頃の出席状況、受講態度を総合して行う。  
教科書 開講時、指示します。

履修コード	290501
科目名	スペイン語IB (選)
担当者名	齋藤 明美

講義のねらい	基礎文法を習得しながらスペイン語で「聞く」「読む」「話す」「書く」ことができるバランスの取れた基本的コミュニケーション能力を伸ばします。直接法の習得を目指します。また日常よく使われる口語表現などを具体的なシチュエーションを通して学び、スペイン語圏を安心して旅行できるコミュニケーション能力習得を目指します。
講義の内容・授業スケジュール	(1) コースの説明、アルファベット、簡単な挨拶(1) (2) 1課：あいさつ、カフェで(発音、アクセント、挨拶、数、名詞の性・数、冠詞など)、 3課：大学で(ser 動詞と estar 動詞(不規則動詞1) (2-5) (3) 2課：バス停にて(直説法現在,規則動詞) 4課：どこ出身？(形容詞の性質と用法)(6-9) (4) 5-7課：バルにて、夏休みの計画、空港にて(直説法現在,不規則動詞)(10-15) (5) 8、9課：歓迎会にて、メキシコにて(gustar 型動詞,目的格を使った構文)(16-19) (6) 10課：海にて、太陽の下で(再帰動詞) (20-21) (7) 11、12課：エレーナをを思いながら、マラガの散歩(現在分詞、進行形、過去分詞、完了形)(22-25) (8) 13課：ロペルトへのメール(比較級、最上級、命令形)(26-30)
履修上の留意点	文法や語彙習得するためには多大な時間と努力が必要です。自ら楽しみながら勉強するコツを見つけましょう。
成績評価の方法	毎回の出席、授業参加や各期末の達成度チェック(年二回)によります。
教科書	菊田/丹波『Entre dos mundos 二つの世界で』同学社 2700円
参考書等	授業で推薦する辞典の中から各自使いやすいものを選び活用しましょう。
その他	学生の理解度にあわせながら授業を進めますのでスケジュールが前後する場合があります。

外国語

履修コード	291101
科目名	スペイン語II (選)
担当者名	佐藤 麻里乃

講義のねらい	スペイン語Iで修得した事項の定着をはかり、また新出事項を習得することによりスペイン語力の向上を目指す。
講義の内容・授業スケジュール	前期(教科書前半)は主にスペイン語Iの復習として、直説法現在形を用いた聞き取りや作文の練習を行う。後期(教科書後半)は同様の練習を通して過去形、未来形などを習得する。
履修上の留意点	受講者自身の参加度が重要になるので、できるかぎり欠席をせず、課題には積極的に取り組むこと。
成績評価の方法	授業への取り組み姿勢、課題の出来具合、および前期末・後期末の試験(もしくはレポート)を総合して評価する。
教科書	大森洋子他『Punto y seguido』朝日出版社 辞書も持参のこと。

履修コード	285602
科目名	ロシア語外国語講読
担当者名	廣田 英靖 <small>ひろた ひでやす</small>

**講義のねらい** ロシアの各メディアのホームページをパソコン画面で見渡すと、エネルギー関係を含むその豊富な天然資源のもとで、ロシアの経済発展が極めて著しいと感じられます。さらに、ロシア語で検索すると、様々な情報がリアルタイムに入手でき、日本の国土の約45倍もの広大な領土で生活するロシア人の科学、文化、芸術等の分野での思考方法、独創性、奥深さが伝わってきます。

本授業では、近年のグローバル化、多極化したIT時代の状況をも踏まえ、PCルームにてインターネットなどの機能を活用し、膨大な情報の山に秘められている、簡潔で、温かみのある短文、詩、歌などの入手順も分かりやすく説明し、五感を生かし、きらりと光る“ロシア語”を楽しく、内容豊かに学びます。気分転換もかね、『千と千尋の神隠し』などのアニメ作品で有名な宮崎駿監督など、日本を代表する多数の映画監督も、その若き日に、感銘や影響を受けたソ連時代のロシアアニメやビデオ映画を鑑賞します。

**講義の内容・授業スケジュール** インターネットを活用し、発音、基本文法を復習しつつ、平明なロシア語講読を行います。

- 4-7月 ○基礎文法の復習と  
○中級文法の導入  
○ロシア語版のソフトになれるようにする
- 9-12月 ○インターネットを駆使し様々なロシア関係の知識を集積し深める。

**成績評価の方法** 試験は行わず、平常点で評価します。

**教科書** 教場にてプリント配布。

履修コード	286402
科目名	時事ロシア語
担当者名	木村 英明 <small>きむら ひであき</small>

**講義のねらい** 1991年のソ連邦崩壊から15年以上が過ぎたロシアは、2000年代に入ってから、豊かな天然資源を基盤に著しい経済成長を維持している。また、天然資源のみならず、人的資源にも恵まれたロシアの国際政治に及ぼす影響力や、21世紀の文化創造に向けて秘める潜在力は看過できないものがある。この授業では、そんなロシアの動向にじかにロシア語で触れていきたい。

**講義の内容・授業スケジュール** ロシアの政治、経済、文化に関する平易な記事や論文を講読する予定だが、ビデオ等の映像教材も用いることにする。なるべく受講者の要望に応じたテーマを取り上げていきたい。テキストは適宜プリントの形で配布する。

4-7月 様々なスタイルのロシア語を読む。

9-12月 現代のプーチン体制を読み解く。

**履修上の留意点** 各自が、授業を通じて自分の問題意識と出会うよう、アクティブな授業参加を望む。

**成績評価の方法** 試験は行わず、平常点で評価する。

**教科書** プリントを配布する。

**参考書等** 辞書：研究社露和辞典、岩波ロシア語辞典、博友社ロシア語辞典

履修コード	287302
科目名	上級ロシア語
担当者名	クロチコフ、Y.

**講義のねらい** 会話練習。

簡単な新聞、雑誌の記事、文学書を辞書を用いて講読します。

講読した内容について自由会話をを行う。

ロシア語を通して世界を広げていきましょう。

**講義の内容・授業スケジュール** 4-7月 初歩の会話を学ぶ。

9-12月 会話力を高めながら同時にロシア語の文章の理解力を深める。

**履修上の留意点** 出席を重視します。

**成績評価の方法** 平常点で評価します。

**教科書** 教場にて指示します。プリント配布。

学生の要望も考慮してテキストを選びます。

ビデオ、オーディオ等を使用します。

履修コード	288401
科目名	ロシア語コミュニケーションI
担当者名	安徳 ニーナ

講義のねらい ロシア語I、IIで学んだことを基に、日常会話からロシア文学への入門ができることを目標とします。

日常の話題等についても自由に会話ができるようになることを目指します。

教科書にもとづいて会話形式に講義を進めます。

講義の内容・  
授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

講義で行う練習問題を主として学習態度も参考にし平常点で評価します。

講義で行う練習問題を主として学習態度も参考にし平常点で評価します。

安徳ニーナ他著「RUSSIAN AS SPEAK IT」(ナウカ社)、「21世紀のロシア語」(大学書林)

必要に応じてその都度資料を配布します。

履修コード	289201
科目名	ロシア語コミュニケーションII
担当者名	安徳 ニーナ

講義のねらい 日常会話からロシア文学への入門、新聞、雑誌を読みこなせることを目標とします。また自由に会話ができるようになることをめざします。

資料にもとづいて会話形式に講義を進めます。

講義の内容・  
授業スケジュール  
成績評価の方法  
教科書

講義で行う練習問題を主として学習態度も参考にし平常点で評価します。

新聞、雑誌の記事など必要に応じてその都度資料を配布します。(学生の希望も考慮します。)学生のレベルにあわせて、その他の資料を用います。

その他

講義の状況に応じビデオ等を使用し「現在のロシアとロシア語について」説明と話もします。

履修コード	290001
科目名	ロシア語IA (選)
担当者名	クロチコフ、Y.

講義のねらい 1) 母音、子音の基本的発音、アクセント記号(力点)の法則、イントネーションの5つの型をみっちりやります。

2) かんたんな挨拶の表現、日常つかわれるロシア語の独特な表現(ボディー・ランゲージを含む)を身につけます。

3) 平易な内容をききとりによって理解できるようにします。

4) 基礎的な初等文法を学びます。

5) アルファベットを活字体、筆記体で書けるようにします。

6) 教科書を使用して、コミュニケーションに欠かせない基本的な日常会話を習得していきます。

はじめに絵やビデオをみながら、ロシア語のやさしい単語や短文を何回も繰り返し練習します。教員が質問した事を何回もくりかえしてもらい、うけ答えをします。少し音に慣れてきたらCDを使い更に理解度を深め、語尾変化に抵抗感のなくなるように何回もゆっくり、くりかえしながら発話してもらおうようにします。授業で各人が何回も発話をさせられますが、全く恐れる必要はありません。全教員がやさしく指導してくれますので恥ずかしがらないことが大切です。

4-7月は発音やアクセントに重点をおき、9-12月は短文の読みや文法をくり返し学びます。

講義の内容・  
授業スケジュール  
成績評価の方法  
教科書

テストは行わず、平常点で評価。

『21世紀のロシア語』(大学書林) 1,800円、プリント配布。

ビデオ、オーディオ等を使用します。

参考書等

『露和辞典』

履修コード	290601
科目名	ロシア語IB (選)
担当者名	木村 英明

**講義のねらい** アジアからヨーロッパにかけて広がるロシアは、100に及ぶ民族を抱え、歴史的、文化的に多様な、世界の縮図のような国家です。ソ連崩壊後の1990年代は社会的に大変混迷しましたが、今世紀に入ってからは再び経済や文化の領域で飛躍の道をたどり始めています。ロシアの人々とじかにコミュニケーションできる機会、必要性は、隣国である日本でも確実に高まりつつあります。この授業では、言葉を通してロシアの現況、習慣や文化にも触れていきたいと思います。

**講義の内容・授業スケジュール** この授業では、4-7月では簡単な日常会話表現をもとにして、初歩の文法を速習します。音声面を重視して、できるだけコミュニケーションに役立つロシア語を学習します。9-12月ではビデオ等の映像資料も利用する予定です。

**履修上の留意点** 外国語の学習は、その外国語を使う国や人々、文化への関心が継続の意欲につながります。受講者各自が、授業を通じて、それぞれの関心と出会えるような能動的な参加を望みます。試験は行わず、平常点で評価します。

**成績評価の方法** 桑野隆『エクスプレス・ロシア語』(白水社)をもとに、必要に応じて適宜プリントを配布します。

**教科書**

**参考書等** 学生の関心に応じて、適宜紹介するようにします。  
辞書：白水社パスポート露和辞典、博友社ロシア語辞典

履修コード	291201
科目名	ロシア語II (選)
担当者名	クロチコフ, Y.

**講義のねらい** 以前に学習した発音、文法、会話の復習。  
講師が作成した練習用テキストを用いて、文法の基礎を学習しながら、同時に、会話、作文を練習します。

**講義の内容・授業スケジュール** ロシア語を通して世界を広げていきましょう。  
4-7月 発音・会話を学ぶ。  
9-12月 会話力を一層高める。

**成績評価の方法** 平常点で評価します。授業中に時々、簡単なテストを行います。

**教科書** 杉山秀子他著『やさしいロシア語読本』(大学書林)

**参考書等** ビデオ、オーディオ等を使用します。

履修コード	290101
科目名	朝鮮語IA (選)
担当者名	宋 美玲

**講義のねらい** 朝鮮語Iの授業は、同一の教員がそれぞれ違う教科書をもって週2回の授業を行う。IAのクラスは会話中心、IBのクラスは文法中心という方針である。朝鮮語の文字と発音、語彙と文法の基礎を獲得し、朝鮮語を学び朝鮮語に触れることの楽しさを堪能することを目指す。同時に多様な資料をもって韓国を始めとする朝鮮語圏の文化との触れ合いも試みる。

**講義の内容・授業スケジュール** 文字と発音の基礎を学び、実用的な会話文を中心に基本的な文法および表現を学習する。基本的な学習の内容はA、Bクラス同様であるが、後期からはIAのクラスでは、口頭練習および聞き取りと書き取り、IBのクラスでは、文法事項による作文や読解などに力を注いでいく。

**履修上の留意点** 最初の文字と発音に慣れていくまでがその後の進歩と楽しさを決定するので、4月、5月はとりわけ熱心に取り組んでほしい。

**成績評価の方法** 出席・授業への参加度および、小テストや期末試験の成績により、総合的に評価する。

**教科書** IA：長谷川由紀子著『コミュニケーション韓国語(会話編1)』(白帝社)1,800円+税

**参考書等** 野間秀樹著『暮らしの単語集 韓国語』(ナツメ社)1,000円



履修コード	290701
科目名	朝鮮語I B (選)
担当者名	宋 美玲 <small>ソン ミリョン</small>

講義のねらい 朝鮮語Iの授業は、同一の教員がそれぞれ違う教科書をもって週2回の授業を行う。IAのクラスは会話中心、IBのクラスは文法中心という方針である。朝鮮語の文字と発音、語彙と文法の基礎を獲得し、朝鮮語を学び朝鮮語に触れることの楽しさを堪能することを旨とする。同時に多様な資料をもって韓国を始めとする朝鮮語圏の文化との触れ合いも試みる。

講義の内容・授業スケジュール 文字と発音の基礎を学び、実用的な会話文を中心に基本的な文法および表現を学習する。基本的な学習の内容はA、Bクラス同様であるが、後期からはIAのクラスでは、口頭練習および聞き取りと書き取り、IBのクラスでは、文法事項による作文や読解などに力を注いでいく。

履修上の留意点 最初の文字と発音に慣れていくまでがその後の進歩と楽しさを決定するので、4月、5月はとりわけ熱心に取り組んでほしい。

成績評価の方法 出席・授業への参加度、小テストや期末試験の成績により、総合的に評価する。

教科書 IB:長谷川由紀子著『コミュニケーション韓国語(読んで書こう1)』(白帝社)2,400円+税

参考書等 野間秀樹著『暮らしの単語集 韓国語』(ナツメ社)1,000円

履修コード	291211
科目名	朝鮮語II (選)
担当者名	宋 美玲 <small>ソン ミリョン</small>

講義のねらい 基本的な文法の内容をふまえ、日常生活での基礎会話が話せるようにする。プリント資料による読解・作文の練習とドラマなどの聞き取り練習を通して実践的な習得を目指す。なお、多様な映像の資料をもって韓国を始めとする朝鮮語圏の文化との触れ合いを試みる。

講義の内容・授業スケジュール テキストを中心に基本的な文法や語彙を学習し、表現力を強化していく。また、口頭練習を通して聞き取り及び書き取りの能力を、プリントの資料をもって作文や読解の能力を強化していく。

履修上の留意点 韓国語の文字と発音を覚え、初歩的な文法事項を学習した人を対象とするので、まったく初めての人は朝鮮語Iのほうを受講すること。

成績評価の方法 受講生は、テキストの復習・予習など、積極的な授業への参加が望ましい。

授業への参加度、学習態度、小テストや期末試験の成績により、総合的に評価する。

放送大学教材 生越直樹・根本理恵著『韓国語II('02)』(放送大学教育振興会)2,200円+税

野間秀樹著『暮らしの単語集 韓国語』(ナツメ社)1,000円

金美仙著『韓国語用言 活用と用言』(三修社)2,500円+税

## 4. 保 健 体 育 科 目

履修コード	195701・195801
科目名	健康・スポーツ実習（室内球技）
担当者名	岩本 哲也

講義のねらい バスケットボール、バレーボール、バドミントンを教材とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールを学びながら、健康・体力を維持し、自己の身体への認識を深め、ゲームを通じて、これらの競技を理解すると共に、豊かな人間関係づくりを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション、授業内容の説明（バスケットボール）
- 2 時限目：ボールハンドリング、シュート、ゲーム
- 3 時限目：ハーフコート 2 対 1、ゲーム
- 4 時限目：ハーフコート 3 対 3、ゲーム
- 5 時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 6 時限目：ゲーム（リーグ戦）（バレーボール）
- 7 時限目：オーバー・アンダーパス、ゲーム
- 8 時限目：レシーブ・スパイクの基本、ゲーム
- 9 時限目：サーブ・レシーブ・スパイクの応用、ゲーム
- 10 時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 11 時限目：ゲーム（リーグ戦）（バドミントン）
- 12 時限目：ラケットティング、クリアー、スマッシュ、シングルのゲーム
- 13 時限目：ドライブ、ヘアピン、シングルのゲーム
- 14 時限目：サービス、ストロークの応用、ダブルスのゲーム
- 15 時限目：ダブルスのゲーム

履修上の留意点 服装は、一般的な運動服装とする。体育館シューズを用意すること。  
成績評価の方法 出席点（70点）、実技点（20点）、態度点（10点）、60点以上を合格とする。

履修コード	195701
科目名	健康・スポーツ実習（ダブルダッチ）
担当者名	末次 美樹

講義のねらい ダブルダッチとは、2本の長縄を使って行う、縄跳び運動ある。誰もが手軽にでき、集中力・リズム感・バランス感覚が身につく、また、動きを自分達で工夫する事で想像力やチームワークも身に付く、優れた運動である。ダブルダッチを体得することにより、現在および将来の体力・健康の保持増進を目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 時限目：オリエンテーション
- 2 時限目：ビデオ学習
- 3 時限目：短縄を使って練習
- 4 時限目：ペアでリズム・バランス感覚の確認
- 5 時限目：ターナーの練習、奇数と偶数の違い
- 6 時限目：5 回跳び・10 回跳び
- 7 時限目：ターナーの回転・スピード
- 8 時限目：ビデオ学習
- 9 時限目：連続跳び
- 10 時限目：応用
- 11 時限目：応用
- 12 時限目：応用
- 13 時限目：応用
- 14 時限目：応用
- 15 時限目：応用

履修上の留意点 服装：上下とも動きやすいものが良い。シューズ（室内専用）を用意する。  
成績評価の方法 授業率70%、総合評価（授業への参加意欲・授業態度など）30%で行う。

履修コード	195701
科目名	健康・スポーツ実習（ソフトボール）
担当者名	山口 <small>やまぐち</small> 良博 <small>よしひろ</small>

講義のねらい ソフトボールを行うための基礎技術やルールを学び、身体運動の楽しさを感じつつ健康・体力を維持し、自己の身体への認識を深める。

また、基本的に毎時間ゲームを行うことにより、チームプレーを通して協調性やリーダーシップ等を養う機会とし、生涯スポーツについても理解を深める。

講義の内容・授業スケジュール

- 1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明
- 2時限目：キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、ゲーム
- 3時限目：キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、ゲーム
- 4時限目：シートノック、フリーバッティング、ゲーム
- 5時限目：シートノック、フリーバッティング、ゲーム
- 6時限目：総合練習、ゲーム
- 7時限目：総合練習、ゲーム
- 8時限目：総合練習、ゲーム
- 9時限目：総合練習、ゲーム
- 10時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 11時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 12時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 13時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 14時限目：ゲーム（リーグ戦）
- 15時限目：ゲーム（リーグ戦）

履修上の留意点 スポーツウェア（上下）、スポーツシューズ（スパイクは不可）の着用を厳守すること。用具は貸与する。

成績評価の方法 授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、出席点70%、実技点30%の割合で評価する。

そ の 他 雨天時等の場合は、教場を変更する場合がありますので掲示板を確認すること。

履修コード	195701
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	佐藤 <small>さとう</small> 政之 <small>まさゆき</small>

講義のねらい 卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の面白さを知る。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基盤をつくる。

講義の内容・授業スケジュール

- 1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明
- 2時限目：ラケットイング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形
- 3時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム
- 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム
- 5時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム
- 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム
- 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム
- 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム
- 9時限目：シングルスゲーム
- 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習
- 11時限目：ダブルスゲーム
- 12時限目：ダブルスゲーム
- 13時限目：ダブルスゲーム
- 14時限目：ダブルスゲーム
- 15時限目：まとめ

履修上の留意点 服装は、一般的な運動服装とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。土足の場合は授業を受けることはできない。

成績評価の方法 評価は出席点70点、実技点30点とする。実技点は平素のゲームの中で採点し、受講態度を加味して評価する。個人の实技テストは行なわない。

そ の 他 30分以上の遅刻は認めない。

履修コード	195701・195801
科目名	健康・スポーツ実習（ハンドボール）
担当者名	村松 誠

講義のねらい	ハンドボール競技の面白さを体験するため、ゲームを中心とした展開を行なう。 パスキャッチ、シュートなどの基礎技能の習得から、2対1、2対2などのグループ戦術まで高めていく。また、ルールと審判法を理解し、グループで協力してゲームが運営できることを目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	1時限目：オリエンテーション 2時限目：コートでの準備とパスキャッチ 3時限目：ジャンプシュート 4時限目：基本的なルールとリードアップゲーム 5時限目：チーム分けとミニゲーム 6時限目：ランニングパスとミニゲーム 7時限目：速攻2対1とミニゲーム 8時限目：リターンパスとミニゲーム 9時限目：1対1の突破とミニゲーム 10時限目：速攻法とミニゲーム 11時限目：ゴールキーピングとミニゲーム 12時限目：審判法とミニゲーム 13時限目：リーグ戦 14時限目：リーグ戦 15時限目：実技テストとリーグ戦
履修上の留意点	服装は動きやすいものとし、運動靴を用意すること。必ず爪を短く切っておくこと。また、金具類、ネックレス、ピアスなどは、危険防止のため身につけないこと。
成績評価の方法その他	出席状況、受講態度、ゲームへの貢献、実技テストを加味して評価する。 雨天の場合は、室内でボールを使ったトレーニングを行なう。また、ハンドボールのビデオ鑑賞や詳細なルールにより、ハンドボール競技の理解を深める。

履修コード	195801
科目名	健康・スポーツ実習（ソフトボール）
担当者名	森本 葵

講義のねらい	ソフトボールは野球と同様1チーム9名で2組が得点を争うゲームである。野球が体育実技で取り上げづらいのは、ある種の経験を要するからであり、ソフトボールは、チームの中で1～2名の未経験者がいてもゲームはある程度成立する。野球は、9回の攻守に対してソフトボールは7回と、時間の区切られた実技に適している。
講義の内容・授業スケジュール	1時限目：基本練習（キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、打撃練習：トス・ハーフ・フリーバッティング、走塁練習、その他） 2時限目：〃 3時限目：試合（勝ち点制） 4時限目：〃 5時限目：〃 6時限目：〃 7時限目：〃 8時限目：審判の仕方（球審、1・3塁審） 9時限目：〃 10時限目：試合（勝ち点制） 11時限目：〃 12時限目：〃 13時限目：〃 14時限目：〃 15時限目：まとめ
履修上の留意点	用具：貸与 服装：ユニフォームの着用が必要はないが、実技のできる服装とする。 シューズ：ランニングシューズ、アップシューズは可。野球のスパイクシューズは不可とする。
成績評価の方法その他	出席を重視し70%、試合毎の勝点を20%、試合の取り組み及び技術点を10%とする。 雨天時は、視聴覚室において、ルールの解説とビデオ観戦とする。

履修コード	195801
科目名	健康・スポーツ実習（テニス）
担当者名	田中 佳孝

講義のねらい テニスは、華やかなプロスポーツから、ファミリーテニスまで様々な技術レベルによって楽しむことができ、我が国の生涯スポーツとして完全に定着したスポーツの1つである。本実習においては、フォアハンド・バックハンドグラウンドストローク、ボレー、サーブ、スマッシュなど基本的なテニスの技術の習得と、ゲームに関するルール、マナーを学ぶことによって生涯を通じて楽しくテニスが行なえる能力と態度を養うことを目標にしている。

また、テニスを教材にスポーツを楽しむという活動や経験を通してスポーツのもつ価値を実感し、自分の能力や技術に合わせた楽しみ方を身に付け、自律的にスポーツを生活化する態度を養うことを目的とする。

さらに、テニスという共通の体験を通して大学時代でなければ得られない人間関係を作り、社会性を養い、総合的な人間形成を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

- 1時限目：オリエンテーション、授業の目標の説明
- 2時限目：ラケットティング、ボレー、ミニストローク
- 3時限目：フォアハンドグラウンドストロークの基本技術
- 4時限目：バックハンドグラウンドストロークの基本技術
- 5時限目：フォアハンドボレー、バックハンドボレー
- 6時限目：サーブの基本技術
- 7時限目：ストロークの応用とミニゲーム
- 8時限目：半面でのシングルスゲーム（ゲームを楽しむ）
- 9時限目：半面でのシングルスゲーム
- 10時限目：半面でのシングルスゲーム
- 11時限目：ダブルスのルールとポジショニング
- 12時限目：ダブルスゲームを楽しむ
- 13時限目：ダブルスゲーム
- 14時限目：ダブルスゲーム
- 15時限目：まとめ

履修上の留意点

1. 服装は一般的な運動服装とする。
2. テニスシューズを必ず用意すること。
3. ラケットは貸与する。

成績評価の方法

評価は出席点70点、実技点30点とする。実技点は平素のゲームの中で採点し、授業態度を加味して評価する。

その他の

30分以上の遅刻は認めない。

履修コード	195801
科目名	健康・スポーツ実習（卓球）
担当者名	山口 良博

講義のねらい 卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の面白さを知る。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基礎をつくる。

講義の内容・授業スケジュール

- 1時限目：オリエンテーション、授業内容の説明
- 2時限目：ラケットティング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形
- 3時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム
- 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム
- 5時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム
- 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム
- 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム
- 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム
- 9時限目：シングルスゲーム
- 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習
- 11時限目：ダブルスゲーム
- 12時限目：ダブルスゲーム
- 13時限目：ダブルスゲーム
- 14時限目：ダブルスゲーム
- 15時限目：ダブルスゲーム

履修上の留意点

スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること（土足厳禁）。ラケットは貸与する。

成績評価の方法

授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、出席点70%、実技点30%の割合で評価する。

履修コード	195901・196001・196101・196201
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(室内球技)
担当者名	<sup>みゆさ</sup> 三幣 <sup>ほるみ</sup> 晴三

**講義のねらい** 室内で行なう球技（バドミントン、ミニサッカー、バスケットボール）の基本技能の習得をベースにして、各種目ともゲーム中心の授業を展開する。いずれの種目とも、将来さまざまな場で「生涯スポーツ」として楽しむことができる種目である。したがって、それぞれの種目の基本的な練習方法や楽しいゲームの展開のしかたについての理解も深めたい。

**講義の内容・授業スケジュール**

**【前期】**

- 1 時限目：オリエンテーション、前期授業内容の説明
- 2 時限目：バドミントン（ラケットの握り方、フットワーク、ミニゲーム）
- 3 時限目：〃（サービスとリターン、ルールの解説、ダブルス）
- 4 時限目：〃（ダブルス）
- 5 時限目：〃（〃）
- 6 時限目：〃（〃）
- 7 時限目：〃（〃）
- 8 時限目：〃（〃）
- 9 時限目：〃（シングルの基本）
- 10 時限目：〃（シングルスゲーム）
- 11 時限目：〃（ルール解説、シングルスゲーム）
- 12 時限目：〃（シングルス）
- 13 時限目：ミニサッカー
- 14 時限目：ミニサッカー
- 15 時限目：〃（まとめと評価）

**【後期】**

- 1 時限目：オリエンテーション、後期授業内容の説明
- 2 時限目：バドミントンゲーム
- 3 時限目：〃（リーグ戦）
- 4 時限目：〃（〃）
- 5 時限目：〃（〃）
- 6 時限目：〃（トーナメント）
- 7 時限目：〃（〃）
- 8 時限目：〃（〃）
- 9 時限目：バスケットボール（パス、ドリブル、ショットの基本技術）
- 10 時限目：〃（レイアップショット、ジャンプショットの技術、ルール解説）
- 11 時限目：〃（ファウルの種類と罰則の解説、ゲーム）
- 12 時限目：〃（ゲーム）
- 13 時限目：ミニサッカー
- 14 時限目：〃（ゲーム）
- 15 時限目：〃（まとめと評価）

**履修上の留意点**

遅刻は認めない。実技は、本校第1体育館で行なう。一般的なスポーツウェア、ならびに室内球技に適した体育館シューズを用意する。なお、バドミントンで使うラケットは、貸与する。

**成績評価の方法**

基本的な練習方法や楽しいゲームの展開のしかたについて理解するためには、毎回授業に出席して、実技を実践することが重要である。したがって成績は、出席点70%、実技点30%の割合で評価する。実技点は、各種目における個人別の技能、およびゲームの結果を加味して評価する。

**その他の事項**

曜日・時限によって定員がちがうので注意、『履修要項（学習ガイドブック）』を確認の上履修すること。

履修コード	196301
科目名	健康・スポーツ実習〔再クラス〕(室内球技)
担当者名	<small>むらまつ まこと</small> 村松 誠

講義のねらい 多様な実技種目の中から、体力・技術レベルにあった種目を選び実施することによって、運動の楽しみを感じ取ったり、好ましい運動習慣を身に着けることを目的とする。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1時限目 オリエンテーション
- 2時限目 ゲーム
- 3時限目 ゲーム
- 4時限目 球技・ゲーム
- 5時限目 球技・ゲーム
- 6時限目 球技・ゲーム
- 7時限目 球技・ゲーム
- 8時限目 球技・ゲーム
- 9時限目 球技・ゲーム
- 10時限目 球技・ゲーム
- 11時限目 球技・ゲーム
- 12時限目 球技・ゲーム
- 13時限目 球技・ゲーム
- 14時限目 球技・ゲーム
- 15時限目 まとめ

履修上の留意点

一般的な体育用の服装を用意すること。体育館用シューズを用意すること。  
多様な種目の中から、希望により実施をするが、受講条件によっては実施できないものあることを承知すること。

成績評価の方法  
そ の 他

出席点を最重視する。これに、受講態度・協力実行などを加味して評価する。  
曜日・時限によって定員がちがうので注意、『履修要項(学習ガイドブック)』を確認の上履修すること。



履修コード	196402
科目名	健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（ソフトボール）
担当者名	<small>たかほし しゅんすけ</small> 高橋 俊介

**講義のねらい** 補強運動、練習及びゲームなどを積極的に行い、体力や運動能力を高める。技術やルールを習得し、ソフトボールのゲームを行う基本的能力を身につける。また、ソフトボールの楽しさをゲームや技術の習得を通して体験する。さらに、クラスの仲間と協力して練習やゲームを行う中で社会的態度を養う。

**講義の内容・授業スケジュール**

- 第1日目  
午前：チーム分け、基本練習（キャッチボール、フライ・ゴロの捕球、トスバッティング、走塁練習、その他）  
午後：同上
- 第2日目  
午前：ゲーム  
午後：〃
- 第3日目  
午前：〃  
午後：審判法・ゲーム
- 第4日目  
午前：〃  
午後：〃
- 第5日目  
午前：〃  
午後：〃

**履修上の留意点** 一般的体育服装を用意すること。野球用ユニフォームでも良い。運動靴は必ず用意すること。スパイクシューズは認めない。用具は貸与する。

**成績評価の方法その他**

- 出席を重視し、総合的に評価する。
- 再クラス 集中授業コース実施について
- (1) 実施期間：（前期）7月13日（日）～7月17日（木）  
（後期）1月5日（月）～1月9日（金）  
7月13日および1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎101教場に集合。
- (2) 実施時間：10：00～12：00、13：00～15：30
- (3) 実施場所：玉川校舎
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は、集中授業用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。  
該当する担当者・種目が、前期に開講されるものか後期に開講されるものかを確認すること。  
「健康・スポーツ実習（集中授業）開講科目一覧」参照

履修コード	196402
科目名	健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（トレーニング&太極拳）
担当者名	<sup>みつなが</sup> 光永 <sup>よしてる</sup> 吉輝

講義のねらい

この講義では午前には、体力の基礎である、筋力、持久力、柔軟性をトレーニングの授業で学び、午後の講義では、バランス、集中力、呼吸法によるリラクセスの方法を太極拳で学ぶことをねらいとしている。

簡化太極拳は、簡単なものから複雑なものへ、やさしいものから難しいものへと構成されていて、学びやすく、覚えやすいようになっている、全コース八組（24式）あって、練習では全コース通してやってもいいし、あるいは一組が2～4式となっているが、ここでは、第一組から第四組（11式）までを学ぶねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

1日目

午前：オリエンテーション・体力測定  
午後：オリエンテーション・基本動作・第一組（3式）

2日目

午前：カイザーカムⅡの使用説明、最大筋力測定  
午後：第一組、第二組（3式）

3日目

午前：トレーニング  
午後：第一組、第二組、第三組（2式）

4日目

午前：トレーニング  
午後：第一組、第二組、第三組、第四組（3式）、総合

5日目

午前：体力測定  
午後：総合（1～11式）、テスト

履修上の留意点

服装は、トレーニングウェア。実技は、体育館地下一階トレーニング上で行うので、体育館シューズを用意すること。

成績評価の方法

出席状況、トレーニング内容、授業態度を総合的に判断して評価する。  
尚、太極拳は最終日に演武テストを行う。

その他の他

再クラス 集中授業コース実施について

- (1) 実施期間：（前期）7月13日（日）～17日（木）、（後期）1月5日（月）～9日（金）  
7月13日及び1月5日更衣の上、午前10時に玉川校舎101教場に集合。
- (2) 実施時間：10：00～12：00、13：00～15：30
- (3) 実施場所：玉川校舎
- (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は集中授業用に設定された特・4時限で提出すること。
- (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。  
該当する担当者・種目が、前期に開講されるものか後期に開講されるものかを確認すること。  
「健康・スポーツ実習（集中授業）開講科目一覧」参照

履修コード	196402
科目名	健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（室内球技）
担当者名	<small>やまぐち よしひろ</small> 山口 良博

講義のねらい

室内で行われるボールゲームを教材とし、そこで用いられる技術・戦術を体得し、同時に体力の増強を図る。本講義では、基本的に毎時間ゲームを行い、身体運動の楽しさを感じつつ、チームの勝利獲得に必要な積極的な協力関係の構築を主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

バスケットボール、バレーボール、フットサルといった、室内でのボールゲーム（主にチームスポーツ）を行う。技術・戦術の基礎を学んだ後は、主にゲームを通じて技術の習得、体力の向上を図る。

履修上の留意点  
成績評価の方法

1時限目はオリエンテーションを行い、スケジュール（どの種目をどの程度やるか等）は受講学生と相談して決定する。

スポーツウェア（上下）、体育館シューズの着用を厳守すること（土足厳禁）。

授業に出席して、積極的に取り組むことが重要である。したがって、出席点70%、実技点30%の割合で評価する。

その他の

再クラス 集中授業コース実施について

(1) 実施期間：（前期）7月13日（日）～7月17日（木）

（後期）1月5日（月）～1月9日（金）

7月13日および1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎101教場に集合。

(2) 実施時間：10：00～12：00、13：00～15：30

(3) 実施場所：玉川校舎

(4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は、集中授業用に設定された特・4時限で提出すること。

(5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

該当する担当者・種目が、前期に開講されるものか後期に開講されるものかを確認すること。

「健康・スポーツ実習（集中授業）開講科目一覧」参照

履修コード	196402
科目名	健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（卓球）
担当者名	秋田 浩一 <small>あきた こういち</small>

講義のねらい 卓球の基礎技術を習得し、シングルス、さらにはダブルスのゲームを行うことにより、卓球の面白さを知る。また、スポーツの中で最も簡単だと言われるルールを理解し、生涯スポーツとしての基盤をつくる。

講義の内容・授業スケジュール  
 1時限目：オリエンテーション、授業内容と服装等の説明  
 2時限目：ラケットティング、ネットの張り方の学習、フォアハンドの基本形  
 3時限目：フォアハンドドライブ、フォアハンドゲーム  
 4時限目：フォアハンドドライブのショート、ロングの打ち方。シングルスゲーム  
 5時限目：バックハンドショートの打ち方。バックハンドゲーム  
 6時限目：カットの打ち方、返球の方法。カット&カット、シングルスゲーム  
 7時限目：カット&ドライブリターン、シングルスゲーム  
 8時限目：スマッシュ（3球目）、シングルスゲーム  
 9時限目：シングルスゲーム  
 10時限目：ダブルスゲームの行い方。ダブルスゲームの練習  
 11～14時限目：ダブルスゲーム  
 15時限目：まとめ

履修上の留意点 服装は、一般的な運動服装とするが、必ず体育館シューズを用意すること（土足厳禁）。土足の場合は授業を受けることはできない。

成績評価の方法 評価は出席点70点、実技点30点とする。実技点は平素のゲームの中で採点し、受講態度を加味して評価する。個人の実技テストは行なわない。

その他 30分以上の遅刻は認めない。

再クラス 集中授業コース実施について

（1）実施期間：（前期）7月13日（日）～17日（木）、（後期）1月5日（月）～9日（金）7月13日及び1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎101教場に集合。

（2）実施時間：10：00～12：00、13：00～15：30

（3）実施場所：玉川校舎

（4）申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は、集中授業コース用に設定された特・4時限で提出すること。

（5）備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。

該当する担当者・種目が、前期に開講されるものか後期に開講されるものかを確認すること。

「健康・スポーツ実習（集中授業）開講科目一覧」参照

履修コード	196402
科目名	健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（室内球技）
担当者名	村松 誠

**講義のねらい** バスケットボール、バレーボール、バドミントンを教材とし、それぞれの競技を楽しむための基礎技術やルールを学びながら、健康・体力を維持し、自己の身体への認識を深め、ゲームを通じて、これらの競技を理解すると共に、豊かな人間関係づくりを目的とする。

**講義の内容・授業スケジュール**

：オリエンテーション、授業内容の説明  
 （バスケットボール）  
 ：ボールハンドリング、ドリブルシュート、グループ分け  
 ：ハーフコート2対1、ゲーム（1次リーグ）  
 ：ハーフコート3対2、ゲーム（1次リーグ）  
 ：ハーフコート4対3、ゲーム（1・2次リーグ）  
 ：ハーフコート3対3、ゲーム（2次リーグ）  
 ：ゲーム（2次リーグ）  
 （バレーボール）  
 ：オーバー・アンダーパス、ゲーム（リーグ戦）  
 ：レシーブ・スパイクの基本、ゲーム（リーグ戦）  
 ：サーブ・レシーブ・スパイクの応用、ゲーム（リーグ戦）  
 ：ゲーム（トーナメント）  
 （バドミントン）  
 ：ラケットティング、ミニラリー、スマッシュ、ドロップショット  
 ：クリアー、ネット・ショット、ダブルスのルール  
 ：サーブ、ストロークの応用、ダブルスのゲーム  
 ：ダブルスのゲーム

**履修上の留意点**

服装は、一般的な運動服装とする。ボールを扱う競技においては手のつめを短く切ること。体育館専用シューズを用意すること。

**成績評価の方法その他**

出席を70%で評価する。残りは30%は、受講態度、ゲーム成果、貢献度を加味して評価する。

- 再クラス 集中授業コース実施について
- (1) 実施期間：（前期）7月13日（日）～7月17日（木）  
 （後期）1月5日（月）～1月9日（金）  
 7月13日および1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎101教場に集合。
  - (2) 実施時間：10：00～12：00、13：00～15：30
  - (3) 実施場所：玉川校舎
  - (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は、集中授業用に設定された特・4時限で提出すること。
  - (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。  
 該当する担当者・種目が、前期に開講されるものか後期に開講されるものかを確認すること。  
 「健康・スポーツ実習（集中授業）開講科目一覧」参照

履修コード	196402
科目名	健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（太極拳）
担当者名	おおいし たいし 大石 武士

講義のねらい

太極拳は、中国古来の武術であるが、硬拳のように筋骨を鍛錬するものではなく、腰を軸に手足のバランスをとり、呼吸法にのっとって、一定の早さを保ち、ゆっくりとした柔軟な動作が要求される。このしなやかな動作は日本の能の所作に似ており、繰り返し稽古することによって内面の気、優美さ、心の静けさを養い、将来、生涯スポーツの一つとしての基礎をつくる。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 1時限目：オリエンテーション
- 2時限目：重心の移動・腹式呼吸運動
- 3時限目：第一組 起勢・左右野馬分鬃・白鶴亮翅
- 4時限目：第二組 左右膝拗歩・手揮琵琶・左右倒卷肱
- 5時限目：第三組 左攪雀尾・右攪雀尾
- 6時限目：第四組 単鞭・雲手・単鞭
- 7時限目：第五組 高探馬・右ドン脚・双峰貫耳・轉身左ドン脚
- 8時限目：第六組 左下勢独立・右下勢独立
- 9時限目：第七組 左右穿梭・海底針・閃通臂
- 10時限目：第八組 轉身搬ラン捶・如封似閉・十字手・收勢
- 11時限目：総合
- 12時限目：総合
- 13時限目：総合
- 14時限目：総合
- 15時限目：テスト

履修上の留意点  
成績評価の方法  
その他の

- 服装：一般的運動服装で身軽に動きやすいものがよい。シューズ・その他のものは不用。  
出席率70%、総合評価30%で行う。
- 再クラス 集中授業コース実施について
- (1) 実施期間：（前期）7月13日（日）～7月17日（木）  
（後期）1月5日（月）～1月9日（金）  
7月13日および1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎101教場に集合。
  - (2) 実施時間：10：00～12：00、13：00～15：30
  - (3) 実施場所：玉川校舎
  - (4) 申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は、集中授業用に設定された特・4時限で提出すること。
  - (5) 備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。  
該当する担当者・種目が、前期に開講されるものか後期に開講されるものかを確認すること。
- 「健康・スポーツ実習（集中授業）開講科目一覧」参照

履修コード	196402
科目名	健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（バドミントン）
担当者名	<sup>まさの しげる</sup> 牧野 茂

講義のねらい ゲームを楽しむための基本的な技術やルールを習得し、仲間づくりを通して社会的態度養うとともに、生涯スポーツとして取り組むことができる基礎的能力を身につけることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1日目午前：オリエンテーション、ラケットイング、ストロークの基本（回内・回外）
- 1日目午後：オーバー・ヘッド・ストローク（1）（スマッシュ、ドロップ）  
コート半面のシングルス・ゲーム
- 2日目午前：オーバー・ヘッド・ストローク（2）（スマッシュ、クリアー、ドライブ）  
サービス、コート半面のシングルス・ゲーム
- 2日目午後：アンダー・ハンド・ストローク（1）（クリアー、ヘアピン・ショット）  
サービス、シングルス・ゲーム
- 3日目午前：アンダー・ハンド・ストローク（2）（ロブ、クロス・ネットショット）  
シングルス・ゲーム
- 3日目午後：サイド・ハンド・ストローク（ドライブ、クリアー）  
サービス、シングルス・ゲーム
- 4日目午前：オーバー・ヘッド・ストローク（3）（カット、プッシュ）  
総合練習、ダブルス・ゲーム
- 4日目午後：総合練習、ダブルス・ゲーム
- 5日目午前：総合練習、ダブルス・ゲーム
- 5日目午後：総合練習、トーナメント型式のゲーム

履修上の留意点

ラケットは貸与する。  
服装は、一般的な運動服装とする。  
体育館シューズを用意すること。

成績評価の方法

成績は、出席（70点）と服装・授業態度等（30点）で評価し、60点以上を合格とする。出欠は、午前・午後の二回確認する。

その他

再クラス 集中授業コース実施について

- （1）実施期間：（前期）7月13日（日）～7月17日（木）  
（後期）1月5日（月）～1月9日（金）  
7月13日および1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎101教場に集合。
- （2）実施時間：10：00～12：00、13：00～15：30
- （3）実施場所：玉川校舎 体育館およびグラウンド
- （4）申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は、集中授業用に設定された特・4時限で提出すること。
- （5）備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。  
該当する担当者・種目が、前期に開講されるものか後期に開講されるものかを確認すること。

「健康・スポーツ実習（集中授業）開講科目一覧」参照

履修コード	196402
科目名	健康・スポーツ実習（集中授業）〔再クラス〕（卓球）
担当者名	鈴木 淳平

- 講義のねらい
- 卓球を教材に用い、身体運動の実践のなかで、その楽しさや重要性を理解する。技術やルール等を習得し、生涯スポーツとして取り組むことができる基本的技術を身につける。
  - 技術練習やゲームを行う中で、その運営を仲間と協力して行っていく社会性・協調性を養う。
- 講義の内容・授業スケジュール
- 1日目：ラケットの持ち方、スイングとフットワーク、シングルス・ゲーム
  - 2日目：サービスとレシーブ、ラリー、ダブルス・ゲーム
  - 3日目：ドライブ（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、ゲーム
  - 4日目：総合練習、ゲーム、リーグ戦
  - 5日目：総合練習、ゲーム、リーグ戦
- 履修上の留意点  
成績評価の方法
- スポーツウェア（上下）、室内用のシューズ着用で受講する。  
出席を重視し、評点の80%とします。  
出席点は、遅刻や欠席の減点法で計算します。  
その他、運動参加への意欲、積極性、協調性、受講態度等を加点評価します。
- その他
- 再クラス 集中授業コース実施について
- （1）実施期間：（前期）7月13日（日）～7月17日（木）  
（後期）1月5日（月）～1月9日（金）  
7月13日および1月5日は、更衣の上、午前10時に玉川校舎101教場に集合。
  - （2）実施時間：10：00～12：00、13：00～15：30
  - （3）実施場所：玉川校舎
  - （4）申込方法：「生涯スポーツ実習」と同様。ただし、教務部への『履修届（事前登録）』は、集中授業用に設定された特・4時限で提出すること。
  - （5）備考：再クラスの集中授業は、前期・後期を履修して2単位である。  
該当する担当者・種目が、前期に開講されるものか後期に開講されるものかを確認すること。  
「健康・スポーツ実習（集中授業）開講科目一覧」参照



## II 專 門 教 育 科 目

履修コード	400101・400201・400301・400401・400501・400601・400701・400801・400901・401001・401101・401201・401211・401221・401231・401241
科目名	Oral Communication I
担当者名	モエ, R. A.・ハードグレーブ, B.・オーラ, B.・トランブリー, J.・ローズ, S.

講義のねらい

This course is designed to teach students how to converse spontaneously in a natural manner.

講義の内容・授業スケジュール

Based on the TPP (Timed Paired Practice) method, students are randomly paired and required to converse freely until an uncorrected mistake occurs at which time the conversation is stopped. After two random pairings, students may then volunteer up to eight more times for timed conversations with the teacher. The TPP method is used in every class from start to finish.

履修上の留意点

Students may take notes and use reference materials during class when they are not being evaluated during a TPP conversation. Students should concentrate on correctly using the English they have already learned prior to entering university. Prompt attendance is a key factor, so students should be careful never to be late or absent as that will adversely affect their grades.

成績評価の方法

Evaluation is based on ability, effort, and attendance. Ability is based on the length of the conversations, effort is based on the number of conversations a student attempts, and attendance also affects grades in that tardiness and absence will lower a student's grade. This data is used in the following formulae to determine the Current Grade which will be the grade given at the end of the course:

$$(\text{Time Avg} * (\text{Tries Avg} / (5 - (\text{gEnrolled} * (\text{Lesson Period} / 90) * 1))) + (60 - (\text{Current TPP No.} * 3))) = \text{ScoreAvg}$$

Time Avg = the average length of all conversations

Tries Avg = the average number of conversations per class period

gEnrolled = the number of students enrolled in the class

Lesson Period = the length of a class period

Current TPP No. = the number of TPP exercises performed

$$((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{EL} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3 = \text{Current Grade}$$

Late = number of unexcused times tardy

Absent = number of unexcused times absent

Dismissed = number of times dismissed from class

EL = number of times excused late

教科書

There are no assigned textbooks or other resources for this course. Students are encouraged to use the English they currently know.

参考書等その他

None

If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason for being late. In the case of tardiness caused by delayed trains, the student must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	401301・401401・401501・401601・401701・401801・401901・402001・402101・402201・402301・402401・402411・402421・402431・402441
科目名	Oral Communication II
担当者名	モエ, R. A.・ハードグレーブ, B.・オーラ, B.・トランブリー, J.・ローズ, S.

講義のねらい  
講義の内容・  
授業スケジュール

This course builds upon the basic skills acquired in Oral Communication I.  
The TPP (Timed Paired Practice) method is employed in every other class, but at these times, from start to finish, students are only paired with each other and not the teacher. On alternate lesson days, students are allowed to divide themselves into pairs in order to practice conversation skills and at that time the teacher will circulate among them to provide advice and answer questions.

履修上の留意点

In this course students will be encouraged to use the conversational skills they acquired in Oral Communication I to develop conversations on specific topics. Accordingly, the topics on which students must speak will have to be related to media and technology subjects or the subject matter of any of the courses they are taking in GMS.

成績評価の方法

Evaluation is based on ability, effort, and attendance. Ability is based on the length of the conversations, effort is based on the number of conversations a student attempts, and attendance also affects grades in that unexcused tardiness and absence will lower a student's grade. This data is used in the following formulae to determine the Current Grade which will be the grade given at the end of the course:

$$(\text{Time Avg} * (\text{Tries Avg} / (5 - (\text{gEnrolled} * (\text{Lesson Period} / 90) * .1)))) = \text{Score-Avg}$$

Time Avg = the average length of all conversations

Tries Avg = the average number of conversations per class period

gEnrolled = the number of students enrolled in the class

Lesson Period = the length of a class period

$$(((100 - (\text{Late} * 5) - (\text{Absent} * 10) - (\text{Dismissed} * 5) - (\text{EL} * 2.5)) + (2 * \text{Score Avg})) / 3 = \text{Current Grade}$$

Late = number of unexcused times tardy

Absent = number of unexcused times absent

Dismissed = number of times dismissed from class

EL = number of times excused late

教科書

There are no assigned textbooks or other resources for this course. Students are encouraged to use the English they currently know.

参考書等

None

その他の

If a student is unavoidably late to class, or has a legitimate reason for being late, he or she must immediately notify the teacher of the reason for being late. In the case of tardiness caused by delayed trains, the student must obtain a notice from the train station and then submit it to the teacher. In the case of illness requiring a visit to the doctor, a receipt from the doctor showing the date of the visit is sufficient.

履修コード	402501・402601・402801・402901・403001・403101・403201・403301・403401・403501・403601・403611・403631・403641・403651・403661
科目名	Critical Reading
担当者名	フアーロー, D. ・ アシュウェル, T. ・ ローズ, S. ・ ワイリー, A. D. ・ ブラック, A. ・ レオーネ, J. V. ・ ギャリソン, E. ・ オーラ, B.

講義のねらい

This course centers on the development of the intensive reading strategies and skills students will need to extract both literal and inferential information from short and mid-length English texts. Topics covered by the texts may include but are not limited to: media and the law, artificial intelligence and the law, international business practices, technological innovation and new products, media ethics, media and society, technology-related health issues, and technology and society. Sources will include extracts from books, newspaper and magazine articles, and Internet content.

In tandem with the development of the intensive reading strategies and skills outlined above, students will also be required to read graded material which is tailored to their reading proficiency level. This extensive reading component is intended to foster a habit for reading texts in English at the same time as developing reading fluency and contributing to vocabulary acquisition.

講義の内容・授業スケジュール

For the intensive reading component of the course, students will be handed readings in advance and will be expected to prepare for the tasks which are assigned for the following class. Class time will be spent performing the assigned tasks and working on the specific skills and strategies which are necessary for the completion of subsequent tasks. Time will also be spent on monitoring progress with the extensive reading component.

履修上の留意点

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade.

成績評価の方法

For the intensive reading component of the course, performance on the in-class tasks and completion of the preparatory work needed to perform the tasks will be evaluated on a weekly basis. The final grade for this component will be based principally on students' performance on weekly mini tests on the assigned readings.

Extensive reading is evaluated on the basis of how many pages have been read in the term, on the quality of book reports, and on the improvement made between an initial and final extensive reading test.

The intensive reading component of the course is worth 60 % of the final grade. The extensive reading component of the course is worth 40 % of the final grade.

教科書

None. Materials will be provided by the teacher in advance or students will be informed where they can download materials for themselves.

参考書等

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

その他

When borrowing graded readers from the university library to complete the extensive reading part of this course, students must adhere to the library rules and to those laid out in the orientation booklet for this course. Any violation of these rules will be treated as a serious matter.

履修コード	403701・403801・403901・404001・404101・404201・404301・404401・404501・404601・404701・404801・404821・404831・404841・404851
科目名	Listening Skills & Strategies
担当者名	ギャリソン, J. G.・ギャリソン, E.・ランドルフ, M.・ブラック, A.・レオーネ, J. V.

講義のねらい	This course is designed to nurture the ability to understand English spoken at natural speed in formal and semi-formal situations when the listener is not a participant in the conversation. It is intended to integrate listening skills with accurate note-taking skills by developing the ability to identify important information presented orally.
講義の内容・授業スケジュール	Podcasts and other authentic audio and video materials with contemporary media, technology, business, or political content will be utilized to familiarize students with English speech patterns, cadence, and pronunciation with an eye toward developing their skill to identify and isolate significant information and organize it rapidly in a written form together with their own thoughts for further reference. Specifically, a short-3 to 10 minute-podcast or videocast will be assigned a week in advance. Students are expected to listen to the podcast or watch the videocast enough to gain a broad understanding of the content before attending class. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor. Class activities include listening the podcast or watching the videocast, analyzing it, and discussing issues raised therein. There will be a short test following the completion of each lesson.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書	None. Students will be informed of website URLs necessary to find material scheduled for use in class. In addition, MP3 or video files taken from the Web together with related instructor-generated materials will be posted on the GMS server for student access.
参考書等	Good, up-to-date English-Japanese dictionaries as well as a portable dictionary of the English language in either print or electronic format are recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	404901・405001・405101・405201・405301・405401・405501・405601・405701・405801・ 405901・406001・406011・406031・406041・406051
科目名	Introduction to Writing
担当者名	フアーロー, D. ・ アッシュウェル, T. ・ ローズ, S. ・ オーラ, B. ・ ブラック, A. ・ レオーネ, J. V. ・ ギャリソン, E. ・ ワイリー, A. D.

**講義のねらい** This course is an introduction to writing formally in English. It is designed to build proficiency in the skills required for basic academic and business communication by developing the ability to produce clear, correct sentences and well-organized paragraphs on specific subjects. Writing assignments will be short expository, critical, and persuasive essays, each of which will be drafted, edited, revised and proofread to produce three finished 500-word essays during the term.

**講義の内容・授業スケジュール** Students will be taught how to construct short essays on media and technology related topics. Aspects of writing longer texts such as how to draw up an outline, how to write introductory, body and concluding paragraphs, how to achieve coherence and cohesion in a text, how to incorporate information gleaned from research and how to acknowledge the ideas of others will be taught. Students will be required to conduct research in the library and via the Internet on the assigned topics to collect information which will help them complete the essays. Peer review of completed drafts and peer editing before submission of each assignment will be important class activities.

**履修上の留意点** A writing course like this one is a test of the students' ability to manage time outside class so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and finished essays. Writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work for each assignment. Students should be aware that writing time needs to be sensibly scheduled for among their other commitments.

Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade.

**成績評価の方法** Grading is principally based on the quality of the assignments students are required to write. It is also based on how well they have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher. A points system operates corresponding to the five grades that can be awarded for each assignment:

“Very good” = 5points

“Good” = 4points

“OK” = 3points

“Poor” = 2points

“Weak” = 1point

Students must accrue a minimum total of 11 points from the three assignments to pass the course. After the third draft of each assignment has been submitted to the teacher and been graded, students may re-submit revised versions of assignments as many times as they wish up until the end of the course in order to boost their points total or to meet the minimum requirement.

**教科書等  
参考書等**

None.

A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and a learner's English-English dictionary incorporated.

履修コード	406101
科目名	グローバルメディアスタディーズ概論
担当者名	齋藤 信男・石橋 直樹・各務 洋子・金山 智子・川崎 賢一・絹川 真哉・クボタ, L.・高 媛・ 芝崎 厚士・白水 繁彦・手塚 義治・苗村 憲司・西岡 洋子・福家 秀紀・山口 浩・吉田 尚史・ リンスキー, M

#### 講義のねらい

本学部の名称を体現し、学部のイントロダクションとして設置されている科目です。専任教員が個々の専門の立場から、「グローバル」と「メディア」と「コンテンツ」に関わるテーマに照準を合わせてオムニバス方式で講義をします。新しく発足した本学部の目指している教育目標、新しい学問体系構築へのアプローチ、そこにおける基本概念や哲学、基本的方法論や手法について、多元的、複合的な視座と、幅広い自由な発想で、メディアやコンテンツの本質について、学術的に研究することの意義が理解できるように構成されています。

#### 講義の内容・授業スケジュール

本学部は、人間の内面を重視する禅や仏教、最先端の科学技術に支えられた新しい発想を生み出すメディアや情報、地球規模のコミュニケーションの実践と人間の協調を実現していくグローバリズムと、その手段としての外国語、新しい産業やビジネスをインキュベートしていく経済学や経営学、社会の安定と新たな展開を支える社会学や法学など、従来の体系を超えた新たな学問のイノベーションを指向し推進していきます。その専門は多様であり、その概要を入学当初によく理解し、また、分野間の相互関係や相互作用を体験的に習得していく事が必要です。以下の項目は、上記の内容を具体化した講義のテーマの主な例です。

1. グローバル・コミュニケーションを実現するための外国語の役割
2. メディア産業、コンテンツ産業を含んだ文化産業が成立した経緯とその後のグローバルな展開
3. 多様なメディアに適応したコンテンツの創造を可能とするコミュニケーションの相互作用の論理
4. メディアの利用をより効率的、効果的に行うことを支援する知的な処理の基本的な考え方
5. コンピュータネットワークの安全性とメディアの進展における情報の保護
6. 世界共通言語としての英語の多様性、電子メディアの英語情報に見られる地域差、文体差の考察
7. 自国の文化と異文化間のコミュニケーションにおける事例研究、比較分析
8. グローバル・メディア・ビジネスとしてのメディアやコンテンツ関連企業におけるビジネスの本質
9. グローバルメディアに関する政策、ガバナンス制度比較
10. メディアやコンテンツ産業におけるコンテンツファイナンス
11. 知的資産・コンテンツの経営における人材マネジメント
12. インターネット、データベース、マルチメディアとビジネス
13. コンピュータシステム、システムソフトウェア、WEBとその将来
14. メディア・コンテンツ産業と知財管理の問題点
15. 創造都市とメディア・コンテンツの相互関係
16. ネットワーク時代のコミュニティ創りとその課題

#### 履修上の留意点

ここでは、専任教員が交替で講義を行っていきます。その中で、前期終了時には学部の教員の主な専門領域が分かる仕組みになっており、2年次以降に開講される演習の選択に参考にすることが望ましい。

#### 成績評価の方法 教科書 参考書等 その他

講義ごとにレポートを課すが、その全体の評価で成績を決めていきます。  
使用しない。  
必要に応じて随時紹介します。  
講義の担当者の順番については、第一回目に発表します。

履修コード	406501
科目名	グローバルメディア概論
担当者名	川崎 賢一

講義のねらい

グローバル化が進行する中で、グローバルなメディア産業・企業、それらの文化などについて、ローカル・ナショナル・インターナショナル・トランスナショナル・グローバルなレベルについて、概略を学習する。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は、大きく分けて、グローバルなメディアが成立するまでの、起源、発展のプロセス、文化産業論の展開、第二次大戦後以降の発展の概略、マスコミ産業からグローバルメディアへ、IT産業とグローバルメディア、グローバルメディア体制：その問題点と可能性、などについて具体的な事例を挙げながら、学習する。

〈スケジュール〉

1. イントロダクション
2. 近代社会とポスト近代社会
3. 情報社会・情報革命 (Information Revolution) について (その1)
4. 情報社会・情報革命 (Information Revolution) について (その2)
5. 情報社会・情報革命 (Information Revolution) について (その3)
6. 文化政策から見た文化システムのグローバルな発展
7. ポピュラー文化とメディアの発達
8. 文化産業と創造産業の登場と展開
9. 近代国家システムと文化交流の展開
10. 世界都市とグローバルシティに関する歴史的展開と現代的意義
11. 情報革命と近代ジャーナリズムのトランスフォーメーション(その1)
12. 情報革命と近代ジャーナリズムのトランスフォーメーション(その2)
13. インターネットと社会的トランスフォーメーション
14. 携帯電話とコミュニケーション革命
15. まとめ：地球的文化システム

履修上の留意点

授業の内容からして、前回の授業を受けて、蓄積的に内容が展開するので、毎回必ず出席すること。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。  
授業の中で指示する。  
A.Giddens, Sociology(5th Edition), Polity Press, 2006

専門教育

履修コード	406701・406801
科目名	メディアリテラシー
担当者名	金山 智子

講義のねらい

今日、メディアの存在が私たちの生活にとってますます不可欠なものになっています。マスコミ分野だけではなく、一般企業、行政、そしてNPOやNGOにおいてもメディアと関係する仕事が必要になってきています。国際社会の中で、異国間の交流や異文化の相互理解にメディアが大きな影響を与えていることにも目配りをする必要があります。「メディアとは一体どういうものなのか」をきちんと理解することが、日常生活、社会活動、そして国際関係の場面などで求められていると言えるでしょう。本講義ではメディアについての基礎的な理解について言及し、メディアが個人や社会に及ぼす影響や関係を、さまざまな観点から考えます。講義全体を通じて、クリティカルにメディア・メッセージを読み、メディア機関の社会的機能を洞察する、いわゆるメディアリテラシーの力を身につけてもらうことを目指します。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 回 コース概要の説明
- 2 回 メディア、そしてメディア・メッセージとは
- 3-4回 マスメディアによるメッセージ (大衆)
- 5-7回 マスメディアによるメッセージ (特定の人々)
- 8-9回 マスメディアによるメッセージ (個人)
- 10 回 メディア批評
- 11-12回 オルタナティブメディアによるメッセージ
- 13-14回 ネットによるメッセージ
- 15 回 まとめ

履修上の留意点

授業では、視聴覚教材を多く使用しますので欠席はしないように。また、日頃から時事問題やメディア動向について興味を持ち、それらに対する自分の考えを自分の言葉で表現する習慣を身につけるよう心がけて下さい。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

出席、レポート、学期末試験の総合評価。  
金山勉、金山智子著『やさしいマスコミ入門―発信する市民への手引き』(勁草書房)  
2,520円、ISBN: 4326653035  
特になし



履修コード	406901
科目名	グローバル経営論I
担当者名	各務 洋子

<p>講義のねらい</p> <p>講義の内容・授業スケジュール</p>	<p>グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を提示し、毎回事例研究を用いて理解しやすい講義を目指します。</p> <p>グローバル社会における企業の役割や経営学の基礎知識を体系的に理解できるように、1～3回はイントロダクションとしてわかりやすい事例を用いて総論的な内容から始めます。</p> <p>I. イントロダクション</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバル社会における企業とメディアの役割</li> <li>2. 経営学の意義と目的</li> <li>3. グローバル経営の論理</li> </ol> <p>II. グローバルな企業経営</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. グローバル経営の組織</li> <li>5. グローバル経営のマネジメント</li> <li>6. グローバル経営の戦略</li> <li>7. グローバル・マーケティング</li> </ol> <p>III. グローバル経営の革新</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. グローバル・イノベーションとナレッジ・マネジメント</li> <li>9. グローバル企業の組織間関係</li> <li>10. グローバルな人的資源戦略</li> <li>11. グローバル経営における文化</li> <li>12. グローバル企業のコーポレートガバナンス</li> </ol> <p>IV. 13～15 まとめ</p> <p>学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解するように心がけて下さい。</p>
<p>履修上の留意点</p> <p>成績評価の方法</p> <p>教科書</p> <p>参考書等</p>	<p>各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。</p> <p>開講時に指示。</p> <p>必要に応じて随時紹介。</p>

専門教育

履修コード	407101・407201・407301・407401・407501・407601・407701・407801
科目名	情報リテラシー
担当者名	吉田 尚史 苗村 憲司 齋藤 信男 廣瀬 毅士 石橋 直樹 南 政樹

講義のねらい

情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークの基本機能と構造について、利用者の観点から理解し、今後学習する講義および実習の支えとなる基礎知識を習得する。また、メディアと情報の関係を様々な視点から展開し、その意味付けをよく理解する。更に、情報と社会の接点、そこに生ずる種々の課題を理解し、情報やメディアの利用者、推進者としての基本的な心構えを体得する。

講義の内容・授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマと、各回の内容は次のとおりである。順序については変更される場合がある。

- ノートパソコンの利用
    - 各自のノートパソコンを使う上での基本的な項目、スキルについて学習・実習する。
  - メディアとコンピュータ・ネットワーク
    - 近年、情報やメディアを語る上でコンピュータ・ネットワークの理解が不可欠である。ここでは、メディアの基礎、および、コンピュータネットワークの基礎を学び、それらの関係について体得する。
  - ファイルシステムとメディア
    - メディアの格納媒体としてのファイルシステムの基礎を学ぶ。また、その応用例として文書処理のアプリケーションを用いて、ファイルシステムとメディアの関係を体得する。
  - メディア・データベースの基礎
    - 多量のメディアを対象とした処理のリテラシーとして、スプレッドシートのアプリケーションやデータベースの基礎を学習する。
  - WWWとHTML
    - WWW環境における情報やメディアのリテラシーとして、HTML、CSSなどについて学習し、実際にウェブページ群を作成しグローバル環境におけるメディア発信を体得する。
  - メディアとセキュリティ
    - ここでは、セキュリティ、プライバシー、暗号、著作権、知的財産権などについて学び、メディアと情報についてのリテラシーを深める。
- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用  
 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング  
 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア  
 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎  
 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送  
 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)  
 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)  
 第8回：メディア・データベースの基礎  
 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)  
 第10回：WWW(World Wide Web) と HTML(Hyper Text Markup Language)(1)  
 第11回：WWW(World Wide Web) と HTML(Hyper Text Markup Language)(2)  
 第12回：WWW(World Wide Web) と HTML(Hyper Text Markup Language)(3)  
 第13回：メディアとセキュリティ(1)  
 第14回：メディアとセキュリティ(2)  
 第15回：まとめ

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

本講義の内容は、「情報リテラシー実習」と対応している。

毎回の講義における出席・課題・期末試験（またはレポート）により評価する。

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

- \* 駒澤大学 PC教場利用ガイド in KOMAnet
  - \* 川合憲：「情報」, 東京大学出版会, 288ページ, 2006. ISBN4-13-062451-2
  - \* 情報処理学会「情報処理ハンドブック」
  - \* 「情報学辞典」弘文堂, ISBN: 4335550812. 2002.
  - \* CG-ARTS協会(画像情報教育振興協会), 入門マルチメディア -ITで変わるライフスタイル-, I SBN:4844370219, 2006.
  - \* CG-ARTS協会(画像情報教育振興協会), マルチメディアと情報化社会 -ユビキタスネット社会に向けた環境・技術・ビジネスの変化-, ISBN: 4844370200, 2006.
- その他、講義中あるいは教材中に適宜指示する。

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

専門教育

履修コード	407901・408001・408101・408201・408301・408401・408501・408601
科目名	情報リテラシー実習
担当者名	吉田 尚史 苗村 憲司 齋藤 信男 廣瀬 毅士 石橋 直樹 南 政樹

講義のねらい 情報扱いの手段としてのコンピュータおよびネットワークに関する基礎知識を具体化し深く体得するために、情報環境において種々の機能を利用し、その実態、問題点、将来性などを経験し考える機会を持つ。その中で、情報環境への対応の仕方だけでなく、その本質をよく理解し、新しい情報社会の支え手としての基礎知識、経験、見識、判断力を養っていく。

講義の内容・  
授業スケジュール

- この講義では、講義「情報リテラシー」と対応して実習を行う。
- 第1回：「情報」「情報リテラシー」とは、電子メール、ノートパソコンの利用
  - 第2回：コンピュータウイルスとアンチウイルスソフトウェア、タイピング
  - 第3回：コンピュータのハードウェアとソフトウェア
  - 第4回：コンピュータネットワーク、WWW、サーチエンジンの基礎
  - 第5回：ファイルシステムとメディア、ファイル転送
  - 第6回：マルチメディアドキュメント作成 (Microsoft Word)
  - 第7回：プレゼンテーション作成 (Microsoft PowerPoint)
  - 第8回：メディア・データベースの基礎
  - 第9回：スプレッドシート作成 (Microsoft Excel)
  - 第10回：WWW(World Wide Web) と HTML(Hyper Text Markup Language)(1)
  - 第11回：WWW(World Wide Web) と HTML(Hyper Text Markup Language)(2)
  - 第12回：WWW(World Wide Web) と HTML(Hyper Text Markup Language)(3)
  - 第13回：メディアとセキュリティ(1)
  - 第14回：メディアとセキュリティ(2)
  - 第15回：まとめ

順序については変更される場合がある。

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

本講義の内容は、「情報リテラシー」と対応している。  
毎回の講義における出席・課題、期末試験（またはレポート）により評価する。  
GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。  
講義中あるいは教材中に適宜指示する。

専門  
教育

履修コード	408701・408801・408901・409001・409101・409201・409301・409401・409501・409601・409701・409801・409811・409821・409831・409841・409851・409861
科目名	Public Speaking
担当者名	スメザム, M. ・ モハメッド, G. ・ バーンハート, J. L. ・ ランドルフ, M. ・ ダーリング, M. ・ タンドン, S. ・ ワイリー, A. D. ・ グレコ, M. A. ・ ゴールド, F.

講義のねらい

The aim of the course is to develop and improve the students' ability to speak in public situations in a variety of forms and situations. Prepared speeches, extemporaneous speeches, and debate will be the main forms practiced.

講義の内容・授業スケジュール

In addition to familiarizing themselves with these speaking forms, students will also be taught speaking techniques and styles popular with native English speakers. It therefore is essential that students have a firm working knowledge of English and the ability to speak without error for extended periods of time. Further, the content of their speech should be structured and presented in a way that would be deemed natural by a native English speaker.

Students will be evaluated on ability, effort, and attendance. The effort they put into preparation of their speaking assignments, the skill they exhibit in presenting their speeches and debates, and their prompt attendance will be the determining factors in their overall evaluation of the course. Students who successfully complete this course will be able to express their ideas in a logically clear manner in correct, easy to understand English.

成績評価の方法

Final grades will be based on attendance, ability, and effort.

Evaluation of ability and effort will be based on student presentation of three speeches and three debates. Half of the evaluation for each speech and debate will be based on form (English language skill) and the other half will be based on content (persuasiveness and clarity of ideas expressed).

Final Grade will be calculated using the following formula:

$$((100 - (10 * X) - (5 * Y) - (5 * D) - (2.5 * EL)) + 2Z) / 3 = \text{Final Grade}$$

X = number of unexcused absences

D = number of times dismissed

Y = number of unexcused tardiness

Z = average of all scores

E L = number excused tardiness

履修コード	409901・410001・410101・410201・410301・410401・410501・410601・410701・410801・ 410901・411001・411011・411021・411031・411041・411051・411061
科目名	Academic Writing
担当者名	トランブリー, J. ・ ワイリー, A. D. ・ タンドン, S. ・ ダーリング, M. ・ ブラック, A. ・ ゴールド, F. ・ グレコ, M. A. ・ バーンハート, J. L.

講義のねらい	The aim of this course is to build on the skills and experience gained in the first year 'Introduction to Writing' course by equipping students with the skills needed to produce longer, academic-style reports in English on media-related subjects. In academic writing, the ability to communicate one's own thoughts by synthesizing and transforming those of others becomes particularly important, as does the ability to fully acknowledge the ideas of others. Special attention will be paid therefore to research methods and citation conventions.
講義の内容・ 授業スケジュール	Class time will be dedicated to explanation and practice of research and English writing skills, and to the application of these skills to the production of one original 1500-word research paper on a subject determined in consultation with the instructor. Research in the library and via the Internet and engagement in a drafting and feedback process will be critical to the quality of the research paper produced. Students' adherence to a drafting schedule and their participation in the feedback process will be strongly emphasized.
履修上の留意点	Students need to manage their time effectively so that they can meet the deadlines that are set for submission of drafts and for the finished research report. In the description for the 'Introduction to Writing' course, it was emphasized that writing, especially writing in a foreign language, to the standard required usually involves many hours of hard work for each assignment. Students should be aware that for this course also, the drafting of a 1500-word research report is a time-consuming and onerous business and that writing time needs to be sensibly scheduled for among their other commitments. Attendance is essential and punctuality is expected. Students should tell the instructor why they have been absent and should advise the instructor about foreseeable absences as a normal courtesy. More than three unexcused absences in a term will incur a penalty in the final grade.
成績評価の方法	Grading is principally based on the quality of the final research report, but it also depends on how well students have kept to the drafting and submission deadlines set by the teacher and on the quantity and quality of the revisions made. Final research report (= Draft 3) grading: Quality of final research report = 70% Adherence to drafting schedule: Draft 1 handed in on time = 5% Draft 2 handed in on time = 5% Draft 3 handed in on time = 5% Participation in the feedback process: Quality of (principally content & organizational) revisions between Drafts 1 and 2 = 5% Quality of (principally editing) revisions between Drafts 2 and 3 = 5% Quality of feedback given to others on Drafts 1 and 2 = 5% After the third draft of the research report has been submitted and has been graded, students may re-submit one revised version of the research report by a set deadline in order to boost their final grade or to meet the minimum requirement.
教科書 参考書等	None. A good up-to-date portable electronic dictionary is highly recommended. Many now have an English-Japanese and several learners' English-English dictionaries incorporated.
その他	Students should have already passed the 'Introduction to Writing' course before taking the 'Academic Writing' course. If, however, after consultation with the instructor, it is felt that the student can cope with the demands of this higher level course, exceptions can be made.

履修コード	411101・411201・411301・411401・411501・411601・411611・411701・411801・411901・ 412001・412101・412201・412211・412221・412231・412241・412251
科目名	Strategic Presentation
担当者名	スメザム, M.・モハメッド, G.・バーンハート, J. L.・ランドルフ, M.・ダーリング, M.・ タンドン, S.・ワイリー, A. D.・グレコ, M. A.・ゴールド, F.

講義のねらい	The presentation of information and opinion is an essential skill in many social, business, and academic situations. The purpose of this course is to provide the student with the English skills required to create an organized, informative, interesting and, when necessary, convincing presentation. Students will be encouraged to experiment and develop strategies and techniques of their own.
講義の内容・ 授業スケジュール	The course is comprised of two parts: Observation and Analysis is followed by group and individual Presentations 1) Observation and analysis of model presentations Initially, model presentations (commercials, brief speeches, etc.) will be analyzed and discussed in class. Students will be required to identify the objectives of the presentations, analyze the presentation and evaluate its success in attaining its objectives. Model presentations may be followed by quizzes. 2) Presentation on a subject agreed upon by student(s) and instructor Building upon the skills acquired in step 1 above, students will next be required use Power-Point or Keynote to create one 5-10 minute group presentation and one 3-minute individual presentation. Presentations will be critiqued on the spot by the instructor and the class.
履修上の留意点	Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.
成績評価の方法	The final grade will be computed in the following way: Quizzes: 25% Group Presentation: 25%(Instructor 50%, Peer 50%) Group / Individual Presentation: 70%(Instructor 70%, Peer 30%) Elements of evaluation of presentations include: use of English and non-verbal communication skills, organization of material and creativity. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.
教科書	None. All course materials will be provided by the instructor. Audio and visual material or links to them will be made available on the course homepage on the GMS server when possible.
参考書等	Good, up-to-date English-Japanese and Japanese-English dictionaries for use at home as well as a portable dictionary of the English language in either print or electronic format are recommended.
その他	Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

履修コード	415901・416001
科目名	クリエイティブビジネス論
担当者名	クボタ, L.

講義のねらい

As the Industrial Economy gives way to the Creative Economy, this course will concentrate on creative businesses where ideas and talent are more important than physical capital. Various types of creative organizations will be examined: how they operate and how leadership and management are utilized. The major objectives for participants in this course are: to understand the significant theoretical constructs and relevant empirical evidence dealing with organizational-environmental boundary relationships, particularly as these impact creative organizations and the development of "great" or "hot groups" (groups that are able to achieve extraordinary results); and to gain an increased awareness of classical and emerging perspectives on the internal and external factors that give rise to new creative organizational forms.

講義の内容・授業スケジュール

This Semester 1 course will meet on Mondays during 2nd period. The course will utilize multimedia and the Internet. The selection of case studies will determine the specific topical areas of focus

成績評価の方法

Evaluation will be based 5% on class participation, 45% on the mid-term exam, and 50% on final team presentations.

教科書  
参考書等

There are no required textbooks, only suggested readings.  
Professor will provide materials from the following:  
Warren Bennis and Patricia Ward, *Organizing Genius: The Secrets of Creative Collaboration*, Addison-Wesley Publishing Co., Inc., Reading Mass., 1997.  
Ikujiro Nonaka and Hirotaka Takeuchi, *The Knowledge Creating Company*, New York, Oxford University Press, 1995,  
Peter Drucker, *Managing for the Future*, Truman Talley Books, 1992  
David B. Yoffie, *Competing in the Age of Digital Convergence*, Boston, MA, Harvard Business School Press, 1997.  
Jean Lipman-Blumen and Harold J. Leavitt, *Hot Groups*, New York, Oxford University Press, 1999.  
Shona L. Brown and Kathleen M. Eisenhardt, *Competing on the Edge*, Boston, MA Harvard Business School Press, 1998  
Geoffrey A. Moore, *Crossing The Chasm*, New York, HarperBusiness, 1995.  
Mihaly Csikszentmihalyi, *Creativity*, New York, HarperCollines Publishers, 1996  
Harold L. Vogel, *Entertainment Industry Economics*, Cambridge, United Kingdom, 1998.  
Peter F. Drucker, *Innovation And Entrepreneurship: Practices and Principals*, New York, Harper & Row Publishers, 1985.  
Michael Sorkin, *Variations On A Theme Park*, New York, Hill and Wang, 1992.  
Richard Saul Wurman, *Information Architects*, New York, Palace Press International, 1996  
William J. Mitchell, *City of Bits*, Cambridge, MA, MIT Press, 1995.

専門教育

履修コード	416101
科目名	コンテンツビジネス論
担当者名	やまぐち ひろし 山口 浩

講義のねらい

アニメ、映画、ゲーム、音楽その他のコンテンツビジネスは、日本の新たな有力産業として国内外から注目を集めています。本科目では、コンテンツビジネスと関係業界の歴史と現状、コンテンツの製作・流通の過程とその管理手法、知的財産権をはじめとするコンテンツビジネスに関わる法制度や政策、デジタル化などの技術進歩とコンテンツビジネスの変遷、コンテンツが社会や文化に与える影響など、影響力の裾野がきわめて広いこの産業の姿を概括的に理解することを目的とします。

講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点

コンテンツビジネスの歴史と現状、さまざまなコンテンツとその担い手たち、問題点と将来の展望、情報技術の発達とコンテンツビジネス、他。  
授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗をおそれず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。

成績評価の方法

配点は以下の通り。  
出席50%、小テスト(複数回計)20%、定期試験30%、授業への参加5%(ただし合計で100%)

教科書  
参考書等  
その他

長谷川文雄・福富忠和編『コンテンツ学』(世界思想社) 2,625円 ISBN-13: 978-4790712817  
杉山知之著『クール・ジャパン 世界が買ったがる日本』(祥伝社) ISBN-13: 978-4396612627  
講義形式、必要に応じて適宜資料配布。

履修コード	416201
科目名	コンテンツビジネス論
担当者名	クボタ、L.

講義のねらい

Students who are interested in the emerging digital content business sector and how it is being created will benefit from this course. The movie industry will provide a model for how digital content is being utilized in various forms. People and companies must learn to form new content possibilities in a rapidly changing environment.

講義の内容・授業スケジュール

This Semester 2 course will meet on Tuesdays during 1st period. In this course, students will be provided with an overview of the content creation industry, and examine case studies of various content creating companies.

成績評価の方法

Evaluation will be based 5% on class participation, 45% on the mid-term exam, and 50% on final team presentations.

教科書  
参考書等

There are no required textbooks, only suggested readings.

Professor will provide materials from the following:

Forfás report, *A Strategy for the Digital Content Industry in Ireland*, February 2005

Digital Content Industry Action Agenda, Austrian Government, Dept of Communications, Information, Technology and the Arts, November 2005

Japan's Digital Content Industry is Commanding Global Attention, Invest Japan, # 9, Summer 2005.

Report on Japan's Movie Industry

Harold L. Vogel, *Entertainment Industry Economics*, New York, Cambridge University Press, 2001

Jason E. Squire, *The Movie Industry Book, 3rd Edition*, Simon and Schuster, 2004

履修コード	416301
科目名	メディアと企業
担当者名	山口 浩

講義のねらい

この科目では、テレビ、新聞、インターネット等の「メディア」と企業とのかかわりを概観することを目的とします。企業はその事業目的を達成するため、メディアを通して上場やコンテンツを取り入れたり、メディアに対して情報やコンテンツを発信したり、また自らがメディアとなって情報やコンテンツの流通を媒介したりします。こうしたメディアをめぐる企業の活動の概要やその意義、社会の変化や新技術の開発などに伴う新たな動き等を概括的に把握することにより、企業という視点からメディアを理解し、また逆にメディアという視点から企業を理解することを目標とします。

講義の内容・授業スケジュール

さまざまなメディアビジネスの現状と課題、メディアとコンテンツ、情報技術の発展とメディアビジネス、他。

履修上の留意点

授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗をおそれず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。

成績評価の方法

配点は次の通り。

出席50%、小テスト（複数回計）20%、定期試験30%、授業への参加5%（ただし合計で100%）

教科書  
その他

加納寛子編著「情報社会論」北大路書房、2007年

講義形式。必要に応じて適宜資料配布。



履修コード	416401
科目名	メディアと企業
担当者名	山口 浩

**講義のねらい** この科目では、テレビ、新聞、インターネット等の「メディア」と企業とのかかわりを概観することを目的とします。企業はその事業目的を達成するため、メディアを通して上場やコンテンツを取り入れたり、メディアに対して情報やコンテンツを発信したり、また自らがメディアとなって情報やコンテンツの流通を媒介したりします。こうしたメディアをめぐる企業の活動の概要やその意義、社会の変化や新技術の開発などに伴う新たな動き等を概括的に把握することにより、企業という視点からメディアを理解し、また逆にメディアという視点から企業を理解することを目標とします。

**講義の内容・授業スケジュール** コンテンツビジネスの歴史と現状、さまざまなコンテンツとその担い手たち、問題点と将来の展望、情報技術の発展とコンテンツビジネス、他。

**履修上の留意点** 授業中の質問、発言等、積極的な参加を求めます。こちらから指名することもあります。失敗をおそれず、自分の意見を伝える練習の場としてトライしてみてください。

**成績評価の方法** 配点は次の通り。  
出席50%、小テスト(複数回計)20%、定期試験30%、授業への参加5%(ただし合計で100%)

**教科書その他** 加納寛子編著「情報社会論」北大路書房 ISBN-13: 978-4762825392  
講義形式。必要に応じて適宜資料配布。

履修コード	416501
科目名	グローバル企業行動論
担当者名	リンスキー, M

**講義のねらい** This course provides students an overview to the subject of global business collaboration, ranging from individual networking to nation-wide economic collaboration. Students will be introduced to several issues, such as individual networking and modes of intra-and interfirm collaboration (e.g., joint ventures and research collaboration), drawing on recent practical examples and the theoretical perspectives from economics, cross-cultural management, sociology, and organization and management theory.

**講義の内容・授業スケジュール** The content of the course is introduced in a series of lectures and from selected readings. These areas are explored further through the use of short case studies and exercises. Cases will be presented orally in class by a team of students, as well as written up by each student team. Class participation is central to the case method of learning. Class participation is defined as in-class comments that are relevant to the focal topic and that illuminate the issue via use of pertinent conceptual and theoretical framework, logical or intellectual processes, and illustrations drawn from the speaker's work experiences that are directly pertinent to focal topic.

**成績評価の方法** Students are evaluated by several short case papers, class participation, and final exam. Evaluation will be based 40 % on written cases, 30 % on class participation, and 30 % on final exam.

**参考書等** The required readings will be selected from the following publications:  
Burt, RS1992. Structural holes: the social structure of competition. Cambridge, MA: Harvard University Press.  
Granovetter M. 1973. The strength of weak ties. American Journal of Sociology78 (6) : 1360-1380  
Ibarra H, Andrews SB. (1993). Power, social influence, and sense making: Effects of network centrality and proximity on employee perceptions. Administrative Science Quarterly, 38, 277-303.  
Meyer GW. (1994). Social information processing and social networks: A test of social influence mechanisms. Human Relations, 47, 1013-1048.  
Monge PR, Contractor NS. (2003). Theories of communication networks. New York: Oxford University Press.  
Nahapiet J, Ghoshal S. 1998. Social capital, intellectual capital, and the organizational Advantage. Academy of Management Review23 (2) : 242-266.  
Other literature (articles, book chapters) as specified later by the instructor.

履修コード	416701
科目名	世界政治とメディア
担当者名	五野井 郁夫

**講義のねらい**

1. 本講義では、世界政治を読み解く基礎体力を養い、自分の日常生活と世界政治を結びつける回路をつくることを目的とする。
2. 具体的には、世界政治の現在と学問としての政治学、国際関係論、公共政策学の基礎を学ぶことを通じて、社会で通用する読む力、理解する力、書く力のトレーニングを行う。
3. これによって、テレビやラジオ、新聞、雑誌、ネット上のニュースはもちろん、文化、芸術まで、広く世界政治とメディアに関連する事象について自分で考え、解釈するための手がかりをつかむことが、本講義のねらいである。

**講義の内容・授業スケジュール**

1. ガイダンス：政治とは何か？ 世界の捉え方、世界政治とメディア
2. 世界政治のしくみ  
世界政治の形成と変容：メディアの変遷と統治形態の変容、グローバル化  
安全保障：核抑止、知識人と権力、人間の安全保障 \*映画鑑賞  
国際組織：国連、国際政治経済と相互依存、NGO
3. 世界政治の諸相・人権と民主化、フェミニズム、エコロジー、宇宙開発・貧困と飢餓、植民地主義、南北問題、援助政策、開発協力、多国籍企業・国民国家とナショナリズムの現在 \*映画鑑賞
4. 世界政治のなかの日本：日米安保の過去と現在
5. 世界政治への参加：パレード、カウンターサミット、ポピュラー文化とデモクラシー

**履修上の留意点** 本講義は双方向的な演習形式をとるため、講義内容の変更もある。資料等は毎回配布する。

**成績評価の方法** 1. 毎回の答案用紙の出来（出席・平常点も兼ねる）

2. 定期試験

**教科書** 1) 庄司真理子・宮脇昇 編 2) 『グローバル公共政策』 3) 晃洋書房 4) 2300円  
5) ISBN978-4-7710-1862-4

**参考書等** 山田高敬・大矢根聡編 『グローバル社会の国際関係論』有斐閣2006年、ロバート・J.C.ヤング『ポストコロニアリズム』岩波書店 2005年 藤原帰一他編『国際政治講座1-4』東京大学出版会 2004年

**その他の他** 受講者は後期科目「国際関係とメディア」も併せて受講することが望ましい。

履修コード	416801
科目名	国際関係とメディア
担当者名	芝崎 厚士

講義のねらい 国際関係・国際関係論に関する基礎知識を、さまざまなメディアとのかかわりにおいて学習し、この世界の歴史と現状を考える出発点を作り上げる。

講義の内容・授業スケジュール 講義の内容：テスト形式。小テストと解説を行い、作成した答案用紙を回収し成績を決定する。  
 (1) ニュースウォッチ (新聞記事要約)、(2) リーディング (テーマ論文要約)、(3) メディアウォッチまたはワード・データウォッチ (音楽・映像、重要語の定義、重要な世界の現状に関するデータ、10秒クイズなど)、の3部構成で行う。

授業スケジュール：

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 国際関係の歴史その1
- 3回目 国際関係の歴史その2
- 4回目 映像分析その1
- 5回目 主権国家と国民国家
- 6回目 多国籍企業・NGO
- 7回目 戦争・テロリズム・平和
- 8回目 映像分析その2
- 9回目 外交と対外政策
- 10回目 貧困と開発
- 11回目 環境問題
- 12回目 映像分析その3
- 13回目 ナショナリズムと民族紛争
- 14回目 日米安保とは何か
- 15回目 グローバル・ガバナンス

履修上の留意点 テスト方式なので、成績は、基本的に毎回回収する答案用紙の出来で判断する。ただ出席しているだけではなく、授業中に、与えられた課題にどれだけ主体的に取り組んだかによって評価する。予習の必要なし。

成績評価の方法 ・毎回回収する答案用紙の出来(読んで・書いて・考えたことをどれだけ答案用紙に残せたか)が60%、学期末試験(答案用紙、配布教材の持ち込み可。答案用紙は試験前に返却)が30%、授業支援システムを経由して提出する課題が10%  
 ・授業中の作業は最初はハードですが、慣れてくるとできてきます。答案用紙の完成度そのものよりも、努力した跡がどれだけ見られるかを重視して評価します。別の言い方をすると、出席していても努力の跡が見られない場合には、単位は取得できません。

教科書等  
 参考書  
 その他 開講時に指示。  
 授業中に随時指示。  
 ・教材は毎回プリントで配布。  
 ・前期科目「世界政治とメディア」と連動して開講するので、カリキュラム上可能であれば、「世界政治とメディア」を予め履修していることが望ましい。  
 ・2年次以降の演習で国際関係研究を履修したい場合には、「世界政治とメディア」または本科目を履修していることが望ましい。

専門教育

履修コード	417001
科目名	インターネットとメディア
担当者名	吉田 尚史 <small>よしだ なおふみ</small>

講義のねらい

インターネットはデジタルコンテンツの配布、共有、閲覧などのサービスを提供する主要な通信メディアの一つとなり、グローバルな研究・ビジネス活動に欠かせないものとなってきた。インターネット上でデジタルコンテンツを用いた様々なサービスを有効かつ効率よく実現するためには、インターネットおよびメディアが持つ特性、構成を理解することが必要不可欠である。この講義では、インターネットの原理、インターネット上に構成された様々なメディアを用いた応用サービスの構成について学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマは、次のとおりである。本講義では、講義形式と実習形式の組み合わせにより、インターネットの原理、インターネット上のメディアを用いた応用サービスについて体得することを目的とする。

－インターネットの原理

第1回: 導入, OSI7階層モデル

第2回: 静的と動的・プロトコル

第3回 : wiki

－インターネットのアーキテクチャ・通信方式

第4回 : MIME: Multipurpose Internet Mail Extension

第5回 : DNS: Domain Name System

第6回: インターネット上の経路, ルーティング

－インターネット上のメディアの基礎

第7回: マルチメディア検索

第8回: メタデータ, MPEG-7

－インターネット上のメディア応用サービス

第9回: ストリーミング

第10回: アクティブ情報システム

－インターネット上のメディア応用サービスの実現

第11回: WWWブラウザ

第12回: WWWサーバ(1)

第13回: WWWサーバ(2)

－まとめ

第14回: まとめ

第15回: レポート出題・解説

その他, 最新情報は, GMS授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

情報リテラシーおよび情報リテラシー実習との同時履修、または、履修済みであること。

毎回の講義における出席、課題、および、期末レポートにより評価する。

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

本講義は、講義と実習を併せた形式で行う。

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他

履修コード	417201
科目名	メディアと情報
担当者名	齋藤 信男

**講義のねらい** 情報はメディア（媒体）によって送付され、処理される。今日のコンピュータ時代には、あらゆる情報はすべてデジタル化され、メディアによって処理される。眼、耳、鼻、口、手、足などの人間の五感を司る要素がデジタル化されたメディアから様々な刺激を受け取るマルチメディアの世界が広がり、デジタルコンテンツという新しい領域の基盤として機能している。このメディアのデジタル化は、従来の社会で常識とされた慣習を新しいものに变革していく原動力ともなっている。放送、新聞、映画、広告、出版など、その将来の姿は、誰も正確に描くことは出来ない。また、著作権、肖像権、個人情報保護など、メディアのデジタル化によって生ずる新しい課題も存在する。

この講義では、以下に示すような具体的課題を踏まえて進めていく。

- (ア)メディアのデジタル化の基礎  
 (イ)デジタルメディアの処理  
 (ウ)デジタルメディアの応用  
 (エ)デジタルコンテンツの抱える課題と社会との関連  
 (ア)第一回 講義の目標付け  
 (イ)第二回 デジタルとアナログ  
 (ウ)第三回 テキスト、文字の処理  
 (エ)第四回 画像の扱い  
 (オ)第五回 画像処理の演習  
 (カ)第六回 コンピュータグラフィックス（2次元）  
 (キ)第七回 コンピュータグラフィックス（3次元）  
 (ク)第八回 コンピュータグラフィックスの演習  
 (ケ)第九回 音の扱い  
 (コ)第十回 音の処理 演習  
 (サ)第十一回 動画の扱い  
 (シ)第十二回 動画編集の演習  
 (ス)第十三回 ハイパーテキストからハイパーメディアへ  
 (セ)第十四回 メディアに関する技術の変化とその動向  
 (ソ)第十五回 デジタルメディアの社会的課題

**講義の内容・授業スケジュール**

**履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等**

コンピュータによるデジタルメディアの処理について、課題として出す。  
 定期試験、課題レポート、出席の総合評価により判定する。  
 特に指定しない。  
 講義の内容に応じて、その都度紹介する。

履修コード	417301
科目名	知的財産権と経済
担当者名	網川 真哉

**講義のねらい** 特許や著作権など知的財産権の経済における役割を理解する上で、経済学、とくにミクロ経済学は欠かせないものである。その基礎を学び、知的財産権制度への理解を深める。

**講義の内容・授業スケジュール**

- 1.知的財産の特質
- 2.需要と供給
- 3.需要曲線と消費者行動
- 4.費用の構造と企業行動
- 5.市場取引と資源配分
- 6.市場の失敗
- 7.独占

**履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書**

数学はほとんど使わないが、高校数学I程度の関数とグラフの知識は必要。  
 期末試験  
 伊藤元重、『ミクロ経済学 第2版』、日本評論社、3000円＋税、ISBN4-535-55261-4

履修コード	417401
科目名	知的財産権と統計
担当者名	絹川 眞哉

講義のねらい 知的財産権をめぐる経済活動の実態を把握するには、その量をデータとして記述し、分析することが必要である。そのような作業の基礎として、統計学の初歩を学ぶ。

- 講義の内容・授業スケジュール
1. データの記述
  2. 確率と確率分布
  3. 標本
  4. 推定
  5. 仮説検定
  6. 相関と回帰

履修上の留意点 高校数学I・Aの知識が必要。  
成績評価の方法 期末試験

教科書 P.G.ホーエル (浅井晃・村上正康共訳)、『初等統計学』、培風館 1650円+税、ISBN4-563-00839-7

参考書等 東京大学教養学部統計学教室編、『基礎統計学I統計学入門』、東京大学出版会、2800円+税、ISBN4-13-042065-8

履修コード	417501
科目名	グローバル文化論
担当者名	川崎 賢一

講義のねらい 文化的グローバリゼーションがもたらしつつある新しいグローバル文化 (Global Culture) について概説する。グローバル文化とは何か、その成立と展開、そして、問題点と可能性を分析する。

講義の内容・授業スケジュール  
まず、文化的グローバリゼーションについて、その歴史を短期的・長期的観点から観察する。それから、西欧諸国、そして、アメリカ、そしてアジア諸国の観点から、グローバル文化について論ずる。最後に、現在のグローバル文化の持つ問題点と可能性、特に、コスモポリタン文化について議論する。

〈スケジュール〉

1. イントロダクション
2. グローバル化について、概念とタイプ分け。また、文化とは何かを説明する
3. 文化的グローバル化について、その歴史と展開
4. 文化的グローバル化について、3つのサブシステムについての概略
5. 都市文化、そして世界都市論について説明する
6. グローバルシティ論について、その歴史的展開を概説する
7. クリエイティブシティ論について近年の成立過程を分析する
8. グローバル化を支える新しい社会的主体 <creative class> について(その1)
9. グローバル化を支える新しい社会的主体 <creative class> について(その2)
10. 文化政策とグローバル化について
11. 文化産業とグローバル化について
12. 文化交流とグローバル化について
13. 東京と京都を例にとってグローバル化と文化的変容について
14. メディア文化とグローバリゼーションについて
15. まとめ

履修上の留意点 授業以外に、グローバル文化について調べてもらう予定である。  
成績評価の方法 学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。  
教科書等 授業の中で指示する。

参考書等 川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年

D. Crane, N. Kawashima, K. Kawasaki (eds.), Global Culture, Routledge, 2002

履修コード	417601
科目名	メディア文化論
担当者名	高 媛 <small>たか めん</small>

講義のねらい	私たちが普遍的にげなく暮らしている社会において、メディアはどのような「位置」を占めているのだろうか。本講義では、メディアに媒介された文化現象を手がかりに、メディアと文化が、どのような関係性を持ちながら変容してきたかについて考えていく。
講義の内容・授業スケジュール	政治文化、民族紛争、人種表現、家庭・結婚観、ファッション・ブランドといった諸テーマをめぐって、多言語・多ジャンルの映像資料を活用しながら進めることにする。
履修上の留意点	講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。
成績評価の方法	出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（7割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）
教科書 参考書等	特に指定しない ・吉見俊哉『メディア時代の文化社会学』（新曜社、1994年）、2,800円、ISBN: 4788505061 ・阿部潔、難波功土編『メディア文化を読み解く技法』（世界思想社、2004年）、1,800円、ISBN: 4790710599
その他	講義形式

履修コード	418801
科目名	演習Ia
担当者名	石橋 直樹 <small>いしばし なおき</small>

講義のねらい	情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。 本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。 具体的には、World Wide Web を前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。
講義の内容・授業スケジュール	Ia は特に、文献調査・輪講を通じて社会情勢を読む視野を広げ、同時に、演習を通じてシステム構築の基礎を学ぶことを目標とする。 1 週～4 週：文献調査 (brainstorming) 5 週～8 週：プログラミング実習 (skill acquisition) 9 週～：システム設計実習 (governance design)
履修上の留意点	コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、I b と併せての履修を前提とする。
成績評価の方法	課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。
教科書 参考書等	Web において電子教材を提供する。 講義中において教材を指定する。

履修コード	418301
科目名	演習Ia
担当者名	各務 洋子 <small>かむら ようこ</small>

講義のねらい

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産（能力）を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容・授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関わり、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、経営環境、経営戦略、経営社の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、現実の企業研修に利用されているビジネス・シミュレーション・ゲーム（企業経営模擬実験）をチームに分かれて行う。会社の創立から株主総会の開催（ゲームの最終段階）、経営幹部反省会（コンパ）まで、企業経営の一連の流れを体感し、意思決定の難しさ、チームワークの重要性を実感してもらう。

履修上の留意点

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

成績評価の方法

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書

年に数冊。

参考書等

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

その他

特に重要な書籍などは適宜指示する。

- ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。
- ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。
- ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。



履修コード	418401
科目名	演習Ia
担当者名	かみやま ともこ 金山 智子

**講義のねらい** 本ゼミのテーマは「身近な社会現象をメディア・コミュニケーションの視点から研究する」ことです。自分たちの身近な社会問題や現象に対する関心や興味をもとにメディアと関連したテーマを設定し、実際に調査することを目的としています。メディアに関しては、マス・メディア、コミュニティ・メディア、そして、パーソナル・メディアにいたるまで、さまざまなメディアを対象とします。研究は、文献だけではなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って、実際に調査を実施します。調査結果は、論文として発表します。ゼミ全体でのプロジェクトも企画・実施する予定です。

**講義の内容・授業スケジュール** グループごとに研究を実施します。一連の研究プロセスをステップ・バイ・ステップで身につけられるよう指導します。前期は研究テーマの設定、文献の調査、仮説の設定、調査方法の選定を行います。

夏合宿ではフィールドワークを学びます。

<授業スケジュール>

- 1回----ガイダンス
- 2回----研究ステップ1：研究するということ
- 3回----研究ステップ2：研究テーマを決める
- 4-5回--研究ステップ3：文献調査をする
- 6-7回--研究テーマの発表
- 8回----研究ステップ5：研究課題または仮説を設定する。
- 9-11回--研究ステップ6：研究方法を決める。
- 12回----ゲスト
- 13-14回--研究計画発表
- 15回----まとめ

**履修上の留意点** 欠席はしないこと。原則として夏合宿には必ず参加すること。

**成績評価の方法** 出席、参加、および研究計画書による総合評価

**教科書** 授業内で資料を配布します。

**その他** メディア業界関係者をゲストとして招聘する予定です。

専門教育

履修コード	417801
科目名	演習Ia
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一

**講義のねらい** 社会学的方法の基礎を身につけることを目的とする。社会学の発想、社会学的概念、社会学の方向、などについて報告と討論を中心におこなう。特に、階層・ジェンダー・エスニシティ・知識システムなどが中心概念である。

**講義の内容・授業スケジュール** 基本的に、最初の2週間だけ様々な社会学の知識を講じ、残りは、様々な社会的なやり方をゼミ生諸君の発表を中心におこなう。

<スケジュール>

1. 社会学の発想法
2. 社会学的方法
- 3.-14. 社会学基礎文献講読・発表
15. まとめ

**履修上の留意点** これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

**成績評価の方法** 平常点と最後のレポートにより採点する。

**教科書** 授業の中で指示する。

**参考書等**

A. Giddens, Sociology (5th edition), Polity Press, 2006

川崎・藤村(編)、「社会学の宇宙 (Ver. 1.3)」, 恒星社厚生閣, 1999年

履修コード	418901
科目名	演習I a
担当者名	絹川 真哉

講義のねらい プレゼンテーションの基礎を講義と演習によって習得する。演習では、Businessweek など英文経済雑誌の記事を読み、内容をまとめて発表する。トピックは、コンテンツ（映画、アニメ、マンガ、音楽など）、ソフトウェア、インターネットビジネス、著作権・特許権制度など、知的財産に関するもの。各自、自分の関心のある記事を、教員と相談しながら自ら探す。

講義の内容・授業スケジュール 前半：講義およびプレゼンテーションの準備  
後半：発表

履修上の留意点 発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。

成績評価の方法  
・発表内容  
・出席  
・ディスカッションへの参加度合い

教科書 藤沢晃治、『「分かりやすい説明」の技術』、講談社ブルーバックス、800円＋税、ISBN4-06-257387-3

履修コード	417701
科目名	演習I a
担当者名	クボタ, L.

講義のねらい In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. The basics of the production process will be explored.

講義の内容・授業スケジュール This Semester 1 seminar will meet on Mondays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

成績評価の方法 Students will be graded based on participation and the results of their final project.

教科書 There are no required textbooks.

参考書等 Professor will provide materials from the following:

Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004

Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997

Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005

Brian McKernan(Editor), John Rice(Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	419001
科目名	演習I a
担当者名	高 媛

講義のねらい 本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、身近なメディア現象を読み解く技法を学び、TV番組、映画、広告、音楽といった多様なメディア文化を、「歴史」と「越境」をキーワードに分析する。

講義の内容・授業スケジュール 前半では、メディア分析に必要な論文の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につける。後半では、グループごとに行われるプレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。

履修上の留意点 積極的な参加を期待する。

成績評価の方法 出席状況、発表・討論への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

教科書 ゼミの中で随時に提示する。

参考書等 ゼミの中で随時に提示する。

その他 2年前期選択科目「情報社会論」と合せて受講されることをお勧めする。

履修コード	417901
科目名	演習Ia
担当者名	齋藤 信男

講義のねらい

WEB システム解題(1)

WEB システムを具体的な対象として、それに関連する情報システムの仕組みを理解し、分析し、実験してみる。具体的には、インターネットの機能と構造、オペレーティングシステムの機能と構造、Web システムの機能と構造などを基本から取り扱う。その上で稼動するソフトウェアの分析なども行う。将来、情報システムを扱う分野で活躍したい学生を歓迎する。具体的には、個人所有のノートPCを対象をして扱うが、可能ならば共有のサーバやメディア処理用PCなども扱っていく。また必要に応じて、プログラムの作成も行う。

講義の内容・  
授業スケジュール

●第一回～第五回 インターネットの機能と構造 一日常使っているインターネットはどんな仕組みで動いているのか、解明してみたい

- ①ネットワークプロトコルモデル
- ②TCP/IP
- ③IP V4 と V6
- ④ドメイン名
- ⑤メールシステムの構造は？
- ⑥ネットワーク方式とネットワーク機器
- ⑦ネットワークセキュリティ

●第六回～第十二回 コンピュータシステムおよびオペレーティングシステム(OS)の機能と構造 一日常使っているノートPCの機能と構造、それを稼動させているオペレーティングシステムはどんな仕組みで動いているのか、解明していく。

- ⑧コンピュータシステムの基本構造
- ⑨コンピュータシステムの基本的機能
- ⑩OSの役割
- ⑪OSの種類
- ⑫タスク管理
- ⑬ファイル管理
- ⑭ユーザ管理
- ⑮ユーザインタフェース
- ⑯セキュリティ管理
- ⑰OSとネットワーク

●第十三回～第十五回 コンピュータシステムを利用するためのソフトウェアとその作成、記述するシステムであるプログラミング言語についてその機能、役割を学び、まとめとする。

- ⑱プログラミングとは
- ⑲プログラミング言語とは

履修上の留意点

演習 Ib の履修も望ましい。ノートPCを対象として使いながら、上記の課題についてよく理解していく。

成績評価の方法  
教科書等  
参考書等  
その他

適宜課外演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。

特に指定しない。

進行状況に応じて、適宜紹介していく。

ゼミ形式、演習課題を多く出す。

履修コード	419101
科目名	演習Ia
担当者名	芝崎 厚士

講義のねらい ・国際関係論、国際関係史の基礎を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。

講義の内容・授業スケジュール 講義の内容  
前期は日本を中心とした国際関係史の文献輪読、発表を中心とし、関連する映像・メディア作品や、毎週課される課題に基づくディスカッションを行う。

授業の形式：

(1) 毎週課される課題、(2) 毎月課される課題がそれぞれある。また、文献の内容を発表する機会や、ディスカッションのためのプレゼンテーションや討論のまとめなども数多く行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 国際関係史1 幕末から明治維新
- 3回目 国際関係史2 文明開化から日清戦争
- 4回目 国際関係史3 日露戦争から第1次世界大戦
- 5回目 映像分析1
- 6回目 国際関係史4 戦間期
- 7回目 国際関係史5 太平洋戦争期
- 8回目 国際関係史6 占領期
- 9回目 映像分析2
- 10回目 国際関係史7 55年体制形成期
- 11回目 国際関係史8 高度成長期
- 12回目 国際関係史9 1980年代
- 13回目 映像分析3
- 14回目 国際関係史10 1990年代
- 15回目 まとめ 21世紀の世界と日本、そして我々

※とりあげる内容や順番は、若干変更することがあります。

履修上の留意点 ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。  
・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。  
・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。  
・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法 出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

教科書等その他  
・授業中に随時指示。  
・授業中に随時指示。  
・レポート課題図書については、授業時に指示する。  
・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。参加可能な場合には参加すること。

専門教育

履修コード	418001
科目名	演習Ia
担当者名	白水 繁彦

講義のねらい イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究

講義の内容・授業スケジュール 1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②テキスト輪読グループ分け、2～4 イノベーション普及の構成要素、5～7 個人過程、8～10 集団課程、11～12 オピニオンリーダー、13～14 チェンジ・エージェント、15 まとめ

履修上の留意点 絶えず新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアに接し、社会の動きに注意を払うこと。とくに社会や文化の変動の仕掛け人やオピニオン・リーダーの言動に注意を払うこと。

成績評価の方法 演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

教科書等その他

未定  
ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年、5040円 9784798113333  
能動的で積極的に欠席しない人の受講を望む。

履修コード	418501
科目名	演習I a
担当者名	手塚 義治

講義のねらい 社会調査を行い、卒業論文を執筆するための、基礎的な教養を身につけること。  
 講義の内容・ メディア&カルチュラル・スタディーズの基礎的な文献を読み、ディスカッションをします。学  
 授業スケジュール 生は順番でプレゼンテーションを行います。  
 履修上の留意点 ディスカッションへの積極的な参加を望みます。  
 成績評価の方法 授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。  
 教科書 随時読むものを指定します。  
 参考書等 グレアム タナー著、金 智子他訳、カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展  
 (1999)、作品社  
 ポール・ドゥ・ゲイ他著、暮沢 剛巳訳、実践カルチュラル・スタディーズ—ソニー・ウォーク  
 マンの戦略(2000)、大修館書店

履修コード	418101
科目名	演習I a
担当者名	苗村 憲司

講義のねらい 【内容】著作権に関する新たな課題について解決方法を考える。また、著作権を保護するために情  
 報セキュリティが果たすべき役割と課題につき、日本と外国の法律の相違点と技術との関連に留意  
 して検討する。  
 【手法】文化庁のウェブページで公開されている審議会資料等を読んで問題の本質を理解したうえ  
 で、対立案の比較とディベートを行い、対策案を作成する。  
 ※授業スケジュールは、I a・I bを通してのものである。  
 【第1週～第4週】指定する審議会資料等を読んで、問題点の整理を行う。調査・検討のグループ  
 構成を決める。  
 【第5週～第8週】問題点に関する論点と対立意見の比較表を作成する。  
 【第9週～第12週】グループの間でディベートを行う。  
 【第13週～第16週】新たな論点整理と対策案を検討する。  
 【第17週～第20週】対策案について有効性と限界を明確にする。  
 【第21週～最終週】レポートを作成し、発表する。  
 特になし。  
 履修上の留意点 次の3項目を総合して評価する。  
 成績評価の方法 1. レポートの内容(グループ内での役割も含む)  
 2. 最終回のプレゼンテーション  
 3. 毎回の演習時間における参加の積極性  
 参考書等 <http://www.mext.go.jp/b.menu/shingi/bunka/index.htm>  
 に公開された著作権分科会(法制問題小委員会、私的録音録画小委員会等)の公開資料

専  
門  
教  
育

履修コード	418601
科目名	演習Ia
担当者名	西岡 <sup>にしおか</sup> 洋子 <sup>ようこ</sup>

講義のねらい

メディアが、経済社会の変化およびメディア間の競争のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、現代におけるメディア進化の方向性を考える。メディアには、国内外の放送、通信、インターネット、映像、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

演習においては知識の蓄積より、課題の発見、視座の構築、分析および発表能力の一連の知的生産プロセスの修得に力点を置き、メディアをテーマとした演習を通じて論理的で説得力を持った議論展開能力の育成をめざす。

lab では、主要メディアの歴史を振り返り、メディアの進化について理解を深めるとともに、現在メディアの進化を展望するために、メディア産業の全体像および個別産業の特徴、メディア間の競争状況を理解する。また、文献調査、個人発表、グループ発表などを通して、文献調査、レジメ・資料の作成、発表・質疑応答の基礎を学ぶ。

なお、社会人となる準備として、自分の興味を認識し深めると同時に自分の課題を認識、修正していくことを促す。マナーなどの修得も求める。

講義の内容・授業スケジュール

前期はメディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、メディアが経済社会のなかで、変化を遂げてきたことを理解する。

後期は、現在の国内主要メディア産業の形成過程および変化の方向性を理解する。そしてメディア産業に共通の特質および各メディア産業間の構造の差、競争状況について考察を行う。

合宿については、メンバーと相談のうえ決定する。

テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。

平常点(出席、態度、発表内容、演習への貢献など)および期末レポートを総合して評価する。

随時指示する。

随時指示する。

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

履修コード	418201
科目名	演習Ia
担当者名	福家 <sup>ふけ</sup> 秀紀 <sup>ひでのり</sup>

講義のねらい

ブロードバンドインターネットの普及に伴って、情報メディア産業は大きく変貌してきている。従来は制度的にも別物と考えられてきた通信と放送が融合する一方で、マスメディアの提供するコンテンツの消費者に過ぎなかった利用者が、自ら情報を発信する CGM (Consumer Generated Media) が注目されるようになった。企業活動の面でも、Amazon に代表されるように Long Tail を対象としたビジネスが拡大するとともに、Web2.0 と呼ばれる新しいビジネスモデルが登場してきている。しかし、こうした変化は、デジタルデバイドの拡大、個人情報の流出、プライバシーの侵害・名誉毀損、迷惑メールの急増などの新たな社会的な問題も生み出してきている。

この演習では導入演習として、こうした問題を素材として、演習における基礎的な勉強方法の習得をねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

特定のテーマを指定してそのテーマを深めるのではなく、ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを主眼に進める。したがって、発表時の司会・討論は学生が主体となって進める。

(1) ガイダンス、(2)～(6) 文献輪読、(7)～(14) 文献輪読と個人研究発表、(15) まとめ

履修上の留意点

原則として演習I、II、IIIを通して履修すること、および情報メディア産業論Iを履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参すること。

成績評価の方法  
教科書

出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価する。

・村井純、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4

・村井純、『インターネットII』、岩波書店、640円、4-00-430571-3

・梅田望夫、『ウェブ進化論 本当の進化はこれから始まる』、筑摩書房、740円、4-480-06285-8

・その他適宜指示する。

参考書等

講義の中で適宜紹介する。

履修コード	418701
科目名	演習Ia
担当者名	山口 <small>やまぐち ひろし</small> 浩

**講義のねらい** 「金融・契約・情報の技術」をテーマとする。これまでは別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきている。これらすべての分野の専門家になることは難しいが、少しでも知っていれば大きな価値になる。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることを目的とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 共通プログラムと個別プログラムに分ける。

1 共通プログラム

- ①企業経営とファイナンスについての学習
- ②ゼミ企業の設立、経営、運営
- ③ゼミプログラムの運営

2 個別プログラム

上記の他、その時点での研究の進展状況および学生側の希望状況等に応じ、以下のテーマに関するプログラムを追加的に実施する。状況により、複数のチームに分割することもある。

- ①コンテンツ・ファイナンス
- ②予測市場
- ③仮想経済

前期、後期とも週1回。その他必要に応じサブゼミ等を開催。休み期間中でもブログ更新分担等一部のゼミ活動は継続する。ゼミ合宿は必要に応じて実施する。2の個別プログラムについては、状況に応じて実施する。

**履修上の留意点** 通年履修が前提。「グローバル経営論」を履修し単位を取得していること。「コンテンツ・ビジネス論」「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得しているか、あるいは履修中、履修予定であること。

その他、望ましい人物像は次の通り。

- ・やる気がある
- ・社会人としての常識・マナーをわかまえている
- ・チームワークと責任感を持つ
- ・書くこと・読むことをいやがらない
- ・ものごとを面白がる

**成績評価の方法** ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスのほか、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自らたてた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価する。

**教科書** 必要に応じ指定。

**参考書等** 必要に応じ指定。

履修コード	419301
科目名	演習Ia
担当者名	吉田 <small>よしだ なおふみ</small> 尚史

講義のねらい

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習 1a では、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 第1週～第4週: 導入と基礎となる学習
- IT系の学会の資料についての学習
  - プログラミング実習
  - 教科書に沿った学習
  - 研究プロジェクト紹介
- 第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション
- 計画発表会
  - ディスカッション
- 第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備
- プログラミングによるシステム試作
  - 発表会
  - ディスカッション
- 第14～15週: 最終発表会
- 発表会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

その他最新情報は、次の Web ページに掲載している。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。  
授業において指示する。  
授業において指示する。

専門  
教育

履修コード	419201
科目名	演習Ia
担当者名	リンスキー, M

※初回授業時に指示します。

履修コード	419501
科目名	演習Ib
担当者名	クボタ, L.

講義のねらい

In This class students will receive hands-on experience in producing new media content. The basics of the production process will be explored.

講義の内容・  
授業スケジュール

This Semester 2 seminar will meet on Mondays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

Students will be graded based on participation and the results of their final project.  
There are no required textbooks.  
Professor will provide materials from the following:  
Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004  
Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005  
Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997  
Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Therd Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005  
Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002



履修コード	419601
科目名	演習Ib
担当者名	川崎 賢一 <small>かわさき けんいち</small>

**講義のねらい** 前半で身についた社会学的方法をもとに、東京文化について共同研究と共同発表をもとに、グローバルな東京文化について分析する。

**講義の内容・授業スケジュール** 最初に東京文化について概説した後、各自が調査してきたグローバルな東京文化について、発表・議論をする予定である。  
 <スケジュール>  
 1. 社会学の発想と方法  
 2. 東京の社会学  
 3. ー14. 発表(東京の文化社会学的研究)  
 15. まとめ

**履修上の留意点** これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。

**成績評価の方法** 平常点と最後のレポートにより採点する。

**教科書** 授業の中で指示する。

**参考書等** 川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、草草書房、2006年  
 D.Crane, N.Kawashima, K.Kawasaki (eds.), Global Culture, Routledge, 2002

履修コード	419701
科目名	演習Ib
担当者名	齋藤 信男 <small>さいとう のぶお</small>

**講義のねらい** WEB システム解題(2)  
 WEB システムを具体的な対象として、それに関連する情報システムの仕組みを理解し、分析し、実験してみる。具体的には、インターネットの機能と構造、オペレーティングシステムの機能と構造、Web システムの機能と構造などを基本から取り扱う。その上で稼動するソフトウェアの作成言語 JavaScript を取り上げ、簡単なプログラムを例としながら、プログラミングの基本概念を習得する。将来、情報システムを扱う分野で活躍したい学生を歓迎する。具体的には、個人所有のノートPCを対象として扱うが、可能ならば共有のサーバやメディア処理用PCなども扱っていく。

**講義の内容・授業スケジュール**

- 第一回～第八回 JavaScript の基本的機能、処理の仕方、WEBの応用における位置づけを学ぶ。また、変数、型、演算子、式、制御構造(条件分岐および繰り返し)、配列、オブジェクト指向、イベント処理などのプログラミングの基本概念を学ぶ。
- 第九回～第十二回 JavaScript とそのオブジェクトの構造を学び、WEBのアプリケーションとの相互関係、オブジェクト指向の基本的考え方を学ぶ。
- 第十三回～第十五回 WEBの興味あるデザインと JavaScript 言語との相互関係を再確認し、その将来志向を考察する。

**履修上の留意点** 前期に開講される 演習 Ia を履修していることが、当科目を履修するには望ましい。

**成績評価の方法** 適宜課す演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。

**教科書** 特に指定はしない。

**参考書等** 必要に応じて紹介する。

**その他** ゼミ形式 演習課題を多く出す

履修コード	419801
科目名	演習Ib
担当者名	白水 繁彦 <small>しらみず しげひこ</small>

**講義のねらい** イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究：各班が独自のテーマで研究

**講義の内容・授業スケジュール** 1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②発表グループ分け、2～3 A班発表、4～5 B班発表、6～7 C班発表、8～9 D班発表、10～11 E班発表、12～13 F班発表、14～15 まとめ

**履修上の留意点** 自分が関心のある具体的なテーマを設定し、文献を調べ、仮説を設定し、小規模なフィールドワークもしくは文献調査をして検証する。それを各種メディアを使ってわかりやすく発表する。演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

**成績評価の方法** 各自

**教科書** ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年、5040円 9784798113333

**参考書等** 能動的で積極的で欠席しない人の受講を望む。

履修コード	419901
科目名	演習Ib
担当者名	苗村 憲司

講義の内容・授業スケジュール ※授業スケジュールは、I a・I bを通してのものである。  
 【内容】著作権に関する新たな課題について解決方法を考える。また、著作権を保護するために情報セキュリティが果たすべき役割と課題につき、日本と外国の法律の相違点と技術との関連に留意して検討する。  
 【手法】文化庁のウェブページで公開されている審議会資料等を読んで問題の本質を理解したうえで、対立案の比較とディベートを行い、対策案を作成する。  
 【第1週～第4週】指定する審議会資料等を読んで、問題点の整理を行う。調査・検討のグループ構成を決める。  
 【第5週～第8週】問題点に関する論点と対立意見の比較表を作成する。  
 【第9週～第12週】グループの間でディベートを行う。  
 【第13週～第16週】新たな論点整理と対策案を検討する。  
 【第17週～第20週】対策案について有効性と限界を明確にする。  
 【第21週～最終週】レポートを作成し、発表する。

成績評価の方法 次の3項目を総合して評価する。  
 1. レポートの内容（グループ内での役割も含む）  
 2. 最終回のプレゼンテーション  
 3. 毎回の演習時間における参加の積極性

教科書 <http://www.mext.go.jp/b.menu/shingi/bunka/index.htm>  
 に公開された著作権分科会（法制問題小委員会、私的録音録画小委員会等）の公開資料

専門教育

履修コード	420001
科目名	演習Ib
担当者名	福家 秀紀

講義のねらい ブロードバンドインターネットの普及に伴って、情報メディア産業は大きく変貌してきている。従来は制度的にも別物と考えられてきた通信と放送が融合する一方で、マスメディアの提供するコンテンツの消費者に過ぎなかった利用者が、自ら情報を発信する CGM (Consumer Generated Media) が注目されるようになった。企業活動の面でも、Amazon に代表されるように Long Tail を対象としたビジネスが拡大するとともに、Web2.0 と呼ばれる新しいビジネスモデルが登場してきている。しかし、こうした変化は、デジタルデバイドの拡大、個人情報の流出、プライバシーの侵害・名誉毀損、迷惑メールの急増などの新たな社会的な問題も生み出してきている。  
 この演習では導入演習として、こうした問題を素材として、演習における基礎的な勉強方法の習得をねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール 特定のテーマを指定してそのテーマを深めるのではなく、ゼミ生の関心の深いテーマを取り上げながら、文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを身につけることを主眼に進める。したがって、発表時の司会・討論は学生が主体となって進める。(1) ガイダンス、(2) ～ (14) 文献輪読と個人研究発表、(15) まとめ

履修上の留意点 原則として演習I、II、IIIを通して履修することと、情報メディア産業論IIを履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参すること。

成績評価の方法 出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価する。

教科書 演習 Ia の進捗状況を見て別途指示する。

参考書等 講義の中で適宜紹介する。

履修コード	420101
科目名	演習Ib
担当者名	各務 洋子

講義のねらい

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産（能力）を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容・授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、経営環境、経営戦略、経営社の役割など、経営学の基本を研究する。テキストを精読し、担当者がレジュメを作成し、報告。ゼミ全体で議論する。理論研究と並行して、後期は業界構造を研究する。チームに分れて、インターネットや図書館ばかりでなく、現実の業界を扱う団体、国会図書館、東京証券取引所、企業の運営する資料室など、各所を訪問して、できる限り質の高い情報を集める方法を学ぶ。集めたデータの分析方法、グループでの効果的なプレゼンテーションなどを通して、一冊の業界構造分析を製本する。最後に関係する企業にインタビューに伺い、企業人の生の声を伺う。情報収集力、データ分析力、プレゼンテーション力を養い、チームワークの重要性を身をもって体験してもらう。

履修上の留意点  
成績評価の方法

出席重視。無断欠席は嚴重注意。欠席は事前に連絡すること。

教科書

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

参考書等

年に数冊。

その他

適宜指示する。

あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

特に重要な書籍などは適宜指示する。

・宿舎は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

履修コード	420201
科目名	演習Ib
担当者名	金山 智子

講義のねらい

本ゼミのテーマは「身近な社会現象をメディア・コミュニケーションの視点から研究する」ことです。自分たちの身近な社会問題や現象に対する関心や興味をもとにメディアと関連したテーマを設定し、実際に調査することを目的としています。メディアに関しては、マス・メディア、コミュニティ・メディア、そして、パーソナル・メディアにいたるまで、さまざまなメディアを対象とします。研究は、文献だけではなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って、実際に調査を実施します。研究成果は論文として発表します。ゼミ全体でのプロジェクトも企画・実施する予定です。

講義の内容・授業スケジュール

個人またはグループで研究プロジェクトを実施してもらいます。

後期は前期にたてた研究計画を実施し、研究成果を発表します。

<授業スケジュール>

1回――ガイダンス

2-5回――メディア・プロジェクト

6-8回――理論発表

8-10回――研究ステップ9：分析

11回――研究ステップ10：研究成果の報告

12-14回――研究成果発表

15回――まとめ

履修上の留意点  
成績評価の方法

欠席はしないこと。

出席、参加度、および研究発表による総合評価

教科書

特になし。

その他

メディア業界関係者を招聘する予定です。

履修コード	420301
科目名	演習Ib
担当者名	手塚 義治

**講義のねらい** 社会調査を行い、卒業論文を執筆するための、基礎的な教養を身につけること。I b では、学生は自分の興味の対象を絞り、その特定分野に関する文献を読む。学生はそれぞれ自分の選んだ分野に関する発表を行います。

**講義の内容・授業スケジュール** ディスカッションへの積極的な参加を望みます。

**履修上の留意点** 授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。

**成績評価の方法** それぞれの分野においてできるものは推薦しますが、基本的に学生が自分で図書リサーチをします。

**教科書**

履修コード	420401
科目名	演習Ib
担当者名	西岡 洋子

**講義のねらい** メディアが、経済社会の変化およびメディア間の競争のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、現代におけるメディア進化の方向性を考える。メディアには、国内外の放送、通信、インターネット、映像、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

演習においては知識の蓄積より、課題の発見、視座の構築、分析および発表能力の一連の知的生産プロセスの修得に重点を置き、メディアをテーマとした演習を通じて論理的で説得力を持った議論展開能力の育成をめざす。

Iab では、主要メディアの歴史を振り返り、メディアの進化について理解を深めるとともに、現在メディアの進化を展望するために、メディア産業の全体像および個別産業の特徴、メディア間の競争状況を理解する。また、文献調査、個人発表、グループ発表などを通して、文献調査、レジメ・資料の作成、発表・質疑応答の基礎を学ぶ。

なお、社会人となる準備として、自分の興味を認識し深めると同時に自分の課題を認識、修正していくことを促す。マナーなどの修得も求める。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期はメディア論およびメディア史に関する文献を輪読し、メディアが経済社会のなかで、変化を遂げてきたことを理解する。

後期は、現在の国内主要メディア産業の形成過程および変化の方向性を理解する。そしてメディア産業に共通の特質および各メディア産業間の構造の差、競争状況について考察を行う。

合宿については、メンバーと相談のうえ決定する。

**履修上の留意点** テーマによって、英語文献の使用および調査を求める場合がある。

**成績評価の方法** 平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）および期末レポートを総合して評価する

**教科書** 随時指示する。

**参考書等** 随時指示する。

履修コード	420501
科目名	演習I b
担当者名	山口 浩

講義のねらい

「金融・契約・情報の技術」をテーマとする。これまでは別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきている。これらすべての分野の専門家になることは難しいが、少しでも知っていれば大きな価値になる。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分ける。

- 1 共通プログラム
  - ①企業経営とファイナンスについての学習
  - ②ゼミ企業の設立、経営、運営
  - ③ゼミブログの運営
- 2 個別プログラム

上記の他、その時点での研究の進展状況および学生側の希望状況等に応じ、以下のテーマに関するプログラムを追加的に実施する。状況により、複数のチームに分割することもある。

- ①コンテンツ・ファイナンス
- ②予測市場
- ③仮想経済

前期、後期とも週1回。その他必要に応じサブゼミ等を開催。休み期間中でもブログ更新分担等一部のゼミ活動は継続する。ゼミ合宿は必要に応じ実施する。2の個別プログラムについては、状況に応じて行う。

履修上の留意点

通年履修が前提。「グローバル経営論I」を履修し単位を取得していること。「コンテンツ・ビジネス論」「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得しているか、あるいは履修中、履修予定であること。

その他、望ましい人物像は次の通り。

- ・やる気がある
- ・社会人としての常識・マナーをわきまえている
- ・チームワークと責任感を持つ
- ・書くこと・読むことをいやがらない
- ・ものごとを面白いがる

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスのほか、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自らたてた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価する。

教科書  
参考書等

必要に応じ指定。  
必要に応じ指定。

履修コード	420601
科目名	演習I b
担当者名	石橋 直樹

講義のねらい

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。

本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。

具体的には、World Wide Web を前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容・授業スケジュール

I b では、特に、モバイル端末を対象として、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。

- 1 週～3 週：文献調査 (brainstorming)
- 4 週～7 週：Web Design (skill acquisition)
- 8 週～：システム構築実習 (service prototyping)

履修上の留意点

コンピュータワークショップ履修済、メディアとデータベースと併せて履修が望ましい。また、I a と併せての履修を前提とする。

成績評価の方法

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

教科書  
参考書等

Web において電子教材を提供する。  
講義中において教材を指定する。

履修コード	420701
科目名	演習Ib
担当者名	絹川 真哉

**講義のねらい** レポート作成の基礎を講義と演習によって習得する。各自、教員が与えるいくつかのテーマから選択し、レポートを作成、その内容について発表する。テーマは、コンテンツ（映画、アニメ、マンガ、音楽など）、ソフトウェア、インターネットビジネス、著作権・特許権制度など、知的財産に関するもの。

**講義の内容・授業スケジュール** 前半：講義、レポートの作成、プレゼンテーションの準備  
後半：発表

**履修上の留意点** 発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。

**成績評価の方法** ・レポートおよび発表内容  
・出席  
・ディスカッションへの参加度合い

**教科書** 木下是雄、『レポートの組み立て方』、ちくま学芸文庫、780円＋税、ISBN4-480-08121-6

履修コード	420801
科目名	演習Ib
担当者名	高 媛

**講義のねらい** 本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、身近なメディア現象を読み解く技法を学び、TV番組、映画、広告、音楽といった多様なメディア文化を、「歴史」と「越境」をキーワードに分析する。

**講義の内容・授業スケジュール** 前半では、メディア分析に必要な論文の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につける。後半では、グループごとに行われるプレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。

**履修上の留意点** 積極的な参加を期待する。

**成績評価の方法** 出席状況、発表・討論への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

**教科書** ゼミの中で随時に提示する。

**参考書等** ゼミの中で随時に提示する。

**その他** 2年後期選択必修科目「メディア文化論」と合せて受講されることをお勧めする。

専門教育

履修コード	420901
科目名	演習Ib
担当者名	芝崎 厚士

講義のねらい

・国際関係の理論と実践の初歩を学び、GMSの視点に基づいて国際関係を理解し、将来の卒業論文作成、社会で活動するための基礎訓練を行う。

※後期は特に、レジュメの作成、文献調査の方法など、研究の進め方、発表の仕方などについて力点を置き、ゼミ論を作成することで、3年次以降の研究の基礎体力を養成する。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容

後期は国際関係論・国際政治学の基礎的な理論と世界の実情に関する基礎文献の輪読と発表を第1の柱とする。第2の柱として、グループ単位での研究を行い、ゼミ論を作成する。

授業の形式：

(1) 毎週課される課題、(2) 毎月課される課題がそれぞれある。また、文献の内容を発表する機会や、ディスカッションのためのプレゼンテーションや討論のまとめなども数多く行う。さらに、グループ研究に関する各自の研究発表がこれに加わる。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 国際関係理論1 (全体像と歴史的背景)・グループ研究1
- 3回目 国際関係理論2 (リアリズム)・グループ研究2
- 4回目 国際関係の実践1 (外交と対外政策)・グループ研究3
- 5回目 メディア分析
- 6回目 国際関係理論3 (リベラリズム)・グループ研究4
- 7回目 国際関係理論4 (マルクス主義・世界システム論)・グループ研究5
- 8回目 国際関係の実践2 (国際政治経済)・グループ研究6
- 9回目 メディア分析
- 10回目 国際関係の理論5 (フェミニズム・ジェンダー)・グループ研究7
- 11回目 国際関係の理論6 (コンストラクティビズム)・グループ研究8
- 12回目 国際関係の実践3 (国際紛争)・グループ研究9
- 13回目 メディア分析3
- 14回目 国際関係の実践4 (国際組織)・グループ研究発表1
- 15回目 国際関係の実践5 (多国籍企業・NGO)・グループ研究発表2

履修上の留意点

※学生と相談の上で、順番、内容は変更することがあります。

- ・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。
- ・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。
- ・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退席は一切認めない。
- ・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他

- ・出席点、課題、発表、レポートにより評価。
- ・授業中に随時指示。
- ・授業中に随時指示。
- ・レポート課題図書については、授業時に指示する。
- ・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。参加可能な場合には参加すること。

履修コード	421001
科目名	演習Ib
担当者名	リンスキー, M

※初回授業時に指示します。

履修コード	421101
科目名	演習I b
担当者名	吉田 尚史 <small>よしだ なおふみ</small>

講義のねらい

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術を活用して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習 1a では、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文についての勉強、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1週～第4週: 導入と基礎となる学習
- IT系の学会の資料についての学習
  - プログラミング実習
  - 教科書に沿った学習
  - 研究プロジェクト紹介
- 第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション
- 計画発表会
  - ディスカッション
- 第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備
- プログラミングによるシステム試作
  - 発表会
  - ディスカッション
- 第14～15週: 最終発表会
- 発表会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

その他最新情報は、次の Web ページに掲載している。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>  
<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。  
 授業において指示する。  
 授業において指示する。

専門教育

履修コード	422301
科目名	演習II a
担当者名	石橋 直樹 <small>いしはし なおき</small>

講義のねらい

情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。

本演習では、情報技術の立場から、時勢に先じた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献しうる新規のビジネスモデルを各自構築する。

具体的には、World Wide Web を前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

講義の内容・授業スケジュール

演習 II a においては、特に、各自の興味対象に応じた既存システムの調査、ならびに、技術的裏付けの調査を行う。

- 1 週～4 週: 文献調査 (brainstorming)  
 5 週～8 週: プログラミング実習 (skill acquisition)  
 9 週～: システム設計実習 (governance design)

履修上の留意点

コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。  
 Web において電子教材を提供する。  
 講義中において教材を指定する。



履修コード	421801
科目名	演習IIa
担当者名	各務 洋子

**講義のねらい** 大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産（能力）を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

**講義の内容・授業スケジュール** 理論研究では、演習で学んだ経営学の基本を中心に、企業理論を深める。テキストを精読、レジュメを作成し、報告する。理論と同時に実践を学ぶために、様々な業界、業種の企業を深く学ぶケーススタディを採用している。更に、学習した内容を、自分の言葉で表現し直し、議論を通して深く理解することを表現するために、毎週、理論の重要なポイントをテーマとしてとりあげ、30分ディベートを実施。この独自プログラムは、毎年夏合宿で、徹底的に身体で身につけ、演習II&演習II Iのツールとして利用している。

**履修上の留意点** ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

**成績評価の方法** ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

**教科書** 年に数冊。

**参考書等** 適宜指示する。

**その他** あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。

特に重要な書籍などは適宜指示する。

・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。

・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。

・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

専門教育

履修コード	421901
科目名	演習IIa
担当者名	金山 智子

**講義のねらい** 本ゼミのテーマは「身近な社会現象をメディア・コミュニケーションの視点から研究する」ことです。自分たちの身近な社会問題や現象に対する関心や興味をもとにメディアと関連したテーマを設定し、実際に調査することを目的としています。メディアに関しては、マス・メディア、コミュニティ・メディア、そして、パーソナル・メディアにいたるまで、さまざまなメディアを対象とします。研究は、文献だけではなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って、実際に調査を実施します。調査結果は、論文、映像、フリーペーパーなどの形式を使って発表します。

ゼミ全体でもプロジェクトも企画・実施する予定です。

**講義の内容・授業スケジュール** IIaでは個人またはグループで研究を実施します。Iabで習得した研究手順に従い、前期は研究計画書の作成を行ないます。

夏合宿ではフィールドワークを学びます。

<授業スケジュール>

1回――ガイダンス

2-4回――研究テーマ発表

5-8回――文献調査発表

9回――理論

10-11回――調査方法

12回――ゲスト

13-15回――研究計画発表

**履修上の留意点** 欠席はしないこと。原則として夏合宿には必ず参加すること。

**成績評価の方法** 出席、参加度、研究発表&報告

**教科書** 特になし。

**その他** メディア業界関係者を招聘する予定です。

履修コード	421301
科目名	演習II a
担当者名	川崎 賢一

講義のねらい	社会学的な発想と方法を、2年次に身につけた上で、この学期では、共通のテーマをきめ、それについて共同で研究をする(場合によっては、単独の研究も可能)。
講義の内容・授業スケジュール	この学期では、今まで養ってきた基礎力を用い、そして、共同での作業を試みる。共通のテーマは、ゼミ構成員の協議により決定する。基本的には、現代文化に関するもので、実際に調査可能なものとする。 <スケジュール> 1. 共通のテーマ設定 2. 共通のテーマについての講義 3. -14. 発表 15. まとめ
履修上の留意点	これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。
成績評価の方法	平常点と最後のレポートにより採点する。
教科書	授業内で指示する。
参考書等	川崎賢一、「トランスフォーマティブカルチャー」、勁草書房、2006

履修コード	422401
科目名	演習II a
担当者名	絹川 真哉

講義のねらい	政府の「知的財産立国」を目指した政策推進に見られるように、音楽・映画・アニメ等コンテンツや情報技術(IT)は、日本が経済成長を維持する上で極めて重要な産業である。それら産業の構造、および知財ビジネスを支える特許・著作権など知的財産権制度についての理解を深めることが本演習の目的である。具体的なテーマは ・国内外の映画、アニメ、音楽、ソフトウェア、インターネットビジネスなど個別産業 ・日本のコンテンツの国内外における需要 ・国内外の知的財産権制度の諸問題 などである。
講義の内容・授業スケジュール	上記の内容に関して教員が選んだ文献(政府報告書、本の一部、論文など)から一人一本選択し、各自内容をまとめて発表する。
履修上の留意点	発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。
成績評価の方法	・発表およびショート・ペーパー ・出席 ・ディスカッションへの参加度合い
教科書	なし

履修コード	421201
科目名	演習II a
担当者名	クボタ, L

**講義のねらい** In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. This is a more advanced course than Seminar Ia.

**講義の内容・授業スケジュール** This Semester 1 seminar will meet on Wednesdays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.

**履修上の留意点** Students should have previously taken either a Seminar I class, or had project development experience so that they will be familiar with the project requirements.

**成績評価の方法** Students will be graded based on participation and the results of their final project.

**教科書等** There are no required textbooks.  
Professor will provide materials from the following:  
Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004  
Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005  
Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997  
Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005  
Brian McKernan(Editor), John Rice(Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	422501
科目名	演習II a
担当者名	高 媛

**講義のねらい** 本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、ファッション選びから健康や幸福をめぐる私たちの意識形成に至るまで、メディアが消費社会においてどのような役割をしてきたのか、「歴史」と「越境」をキーワードに検討する。

**講義の内容・授業スケジュール** 前半では、メディア分析に必要な論文の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につける。後半では、グループごとに行われるプレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。

**履修上の留意点** 積極的な参加を期待する。

**成績評価の方法** 出席状況、授業への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

**教科書等** ゼミの中で随時に提示する。  
ゼミの中で随時に提示する。  
3年前期選択科目「メディア史」と合せて受講されることをお勧めする。

履修コード	421401
科目名	演習II a
担当者名	齋藤 信男

講義のねらい

WEB応用システム構築（1）  
 インターネット上の応用システムは、WEB上で構築されることが多い。そこで、ここでは、応用システムの構築を支援する様々な機能を概括し、必要なものについて具体的に習得する。  
 応用システムを記述する際に必須となる JavaScript 言語について、まずその概要を理解し、更に詳細な機能について理解する。  
 また、音声、動画などのマルチメディアをWEB上で扱うための機能について理解し、具体的な処理の演習を実施していく。  
 これらにより、かなり複雑なマルチメディアの応用システムが構築できるまでその基本技能を修得していく。

講義の内容・授業スケジュール

- 第一回～第五回  
JavaScript の復習と、高度な機能の習得を目指す。
- 第六回～第十二回  
WEB上で、音声、画像、動画などを効率よく処理する機能を学び、JavaScript でその処理プログラムを記述する方法を習得する。
- 第十三回～第十五回  
WEB上でのマルチメディアを利用した応用システムのデザインについて考える。

履修上の留意点

演習 Ib の履修が望ましい。ノートPCを対象として使いながら、上記の課題についてよく理解していく。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他

適宜課外演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。  
 特に指定しない。  
 進行状況に応じて、適宜紹介していく。  
 ゼミ形式、演習課題を多く出す。

専門教育

履修コード	422601
科目名	演習II a
担当者名	芝崎 厚士 <small>あつし</small>

講義のねらい これまでに学んだ基礎知識に基づいて、(1) 国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2) 各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3) 文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかり、ゼミ論を作成し、卒業論文作成の下準備を完成させる。

講義の内容・  
授業スケジュール

講義の内容

(1) 文献の輪読・発表(2) 各自の研究テーマの発表と指導(3) さまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1) 課題の提出(2) 文献発表(3) 研究発表(4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 文献購読1・グループ研究1
- 3回目 文献購読2・グループ研究2
- 4回目 文献購読3・グループ研究3
- 5回目 メディア分析またはゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 文献購読4・グループ研究4
- 7回目 文献購読5・グループ研究5
- 8回目 文献購読6・グループ研究6
- 9回目 メディア分析またはゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 文献購読7・グループ研究7
- 11回目 文献購読8・グループ研究8
- 12回目 メディア分析またはゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 文献購読9・グループ研究9
- 14回目 ゼミ論発表・討論会1
- 15回目 ゼミ論発表・討論会2

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。

履修上の留意点

・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。  
・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。

・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。

・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。

成績評価の方法

教科書

参考書

その他

・授業中に随時指示。

・授業中に随時指示。

・レポート課題図書については、授業時に指示する。

・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。他のゼミ生や2年生も、参加可能な場合には参加すること。

履修コード	421501
科目名	演習II a
担当者名	白水 繁彦 <small>しげひこ</small>

講義のねらい イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究

講義の内容・  
授業スケジュール

1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②テキスト輪読グループ分け、2～4 イノベーション普及の構成要素、5～7 個人過程、8～10 集団課程、11～12 オピニオンリーダー、13～14 チェンジ・エージェント、15 まとめ

履修上の留意点

絶えず新聞、雑誌、テレビ、ラジオなどのメディアに接し、社会の動きに注意をはらうこと。とくに社会や文化の変動の仕掛け人やオピニオン・リーダーの言動に注意をはらうこと。

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。

成績評価の方法

教科書

参考書

その他

未定

ロジャーズ著、三藤訳『イノベーションの普及』翔泳社、2007年、5040円 9784798113333

能動的で積極的で欠席しない人の履修を望む。

履修コード	422001
科目名	演習II a
担当者名	手塚 義治

講義のねらい 社会調査を行い、卒業論文を執筆するための、基礎的な教養を身につけること。図書リサーチの方法を覚え、必要な文献を自分で探せるようになること。

講義の内容・授業スケジュール 演習II a  
メディア&カルチュラル・スタディーズの基礎的な文献を読み、ディスカッションをします。学生は順番で、各自選んだ調査分野についてプレゼンテーションを行います。

履修上の留意点 「メディア表現概論」および「メディアスタディーズ方法論」とあわせて履修することを強く推薦します。

成績評価の方法 授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。

教科書 はじめは読むものを指定します。

参考書等 グレアム ターナー著、金 智子他訳、カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展（1999）、作品社  
ポール・ドゥ・ゲイ他著、暮沢 剛巳訳、実践カルチュラル・スタディーズ—ソニー・ウォークマンの戦略（2000）、大修館書店

履修コード	421601
科目名	演習II a
担当者名	苗村 憲司

講義の内容・授業スケジュール ※授業スケジュールは、II a・II bを通してのものである。

【内容】日本の知的財産戦略およびコンテンツビジネス政策に関する新たな課題と解決方法を考える。また、財産的価値のある情報を保護するために情報セキュリティが果たすべき役割と課題につき、日本と外国の法律の相違点と技術との関連に留意して検討する。

【手法】政府の知的財産推進本部、情報セキュリティーセンター、文化庁、経済産業省等のウェブページで公開されている審議会資料等を読んで問題の本質を理解したうえで、インターネットを利用したアンケート調査、インタビュー、ソフトウェア試作等を行い、その結果を分析する。

【第1週～第4週】指定する審議会資料等を読んで、問題点の整理を行う。調査・検討のグループ構成を決める。

【第5週～第8週】調査すべき項目と内容を検討し、調査検討事項をまとめる。

【第9週～第12週】アンケート調査、インタビュー調査、ソフトウェア試作等を行う。

【第13週～第16週】調査等の結果を分析して整理し、対策案を検討する。

【第17週～第20週】対策案についてグループ間でディベートを行い、有効性と限界を明確にする。

【第21週～最終週】レポートを作成し、発表する。

成績評価の方法 次の3項目を総合して評価する。

1. レポートの内容（グループ内での役割も含む）
2. 最終回のプレゼンテーション
3. 毎回の演習時間における参加の積極性

教科書 「情報保護と社会」の教材およびその授業内で指定する参考書等

履修コード	422101
科目名	演習II a
担当者名	西岡 洋子

講義のねらい メディアが、経済社会の変化およびメディア間の競争のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、現代におけるメディア進化の方向性を考える。メディアには、国内外の放送、通信、インターネット、映像、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

演習においては知識の蓄積より、課題の発見、視座の構築、分析および発表能力の一連の知的生産プロセスの修得に力点を置き、メディアをテーマとした演習を通じて論理的で説得力を持った議論展開能力の育成をめざす。

IIab では、現代メディアについて検討すると同時に卒業論文へ向けて各自のテーマを深めていく。インタビュー調査なども取り入れながら分析能力の精緻化をはかる。また、Iab より議論を通じた学習を行うつもりである。なお、社会人となる準備として、自分の興味を認識し深めると同時に自分の課題を認識、修正していくことを促す。マナーなどの修得も求める。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、共通のテーマに取り組み、現代メディアの課題について認識すると同時に、問題意識を各自育てる。後期は卒業論文を意識し、主に個別のテーマに取り組み。ただし、共通の小テーマについて議論も行う機会も設ける予定である。

履修上の留意点

合宿については、メンバーと相談のうえ、決定する。

原則として通年履修。演習I,II,IIIを原則継続履修。Iを未履修の場合は、Ia（前期）の聴講および課題を課す。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）、期末レポートなどを総合して評価する  
適宜指定する。  
適宜指定する。

履修コード	421701
科目名	演習II a
担当者名	福家 秀紀

講義のねらい 演習Iを通して身につけた文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを生かして、各自の設定したテーマの研究を深め、卒業論文を書くための準備を進めることをねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業の変貌についての理解をさらに深めるための、文献輪読を行う。これと並行して、ゼミ生ごとに自ら設定したテーマに基づく個人研究を進める。また、発表については、演習Iと同様に司会・討論は学生が主体となって進める。具体的には次のスケジュールに基づいて進める。

履修上の留意点

(1) ガイダンス、(2)～(14) 文献輪読と個人研究発表、(15) まとめ

原則として演習I、II、IIIを通して履修することと、ネットワーク経済論を履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参すること。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価する。  
・湯浅正敏他、『メディア産業論』、有斐閣、1,800円、4-641-17311-7  
・その他ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて、適宜指示する。  
講義の中で適宜紹介する。

履修コード	422201
科目名	演習II a
担当者名	山口 <small>やまぐち ひろし</small> 浩

講義のねらい

「金融・契約・債報の技術」をテーマとする。これまでは別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきている。これらすべての分野の専門家になることは難しいが、少しでも知っていれば大きな価値になる。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

共通プログラムと個別プログラムに分ける。

1 共通プログラム

- ①企業経営とファイナンスについての学習
- ②ゼミ企業の設立、経営、運営
- ③ゼミブログの運営

2 個別プログラム

上記の他、その時点での研究の進展状況および学生側の希望状況等に応じ、以下のテーマに関するプログラムを追加的に実施する。状況により、複数のチームに分割することもある。

- ①コンテンツ・ファイナンス
- ②予測市場
- ③仮想経済

前期、後期とも週1回。その他必要に応じサブゼミ等を開催。休み期間中でもブログ更新分担等一部のゼミ活動は継続する。ゼミ合宿は必要に応じて実施する。2の個別プログラムについては、状況に応じて実施する。

履修上の留意点

通年履修が前提。

望ましい人物像は次の通り。

- ・やる気がある
- ・社会人としての常識・マナーをわかまえている
- ・チームワークと責任感を持つ
- ・書くこと・読むことをいやがらない
- ・ものごとを面白がる

成績評価の方法

ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスのほか、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自らたてた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価する。

教科書  
参考書等

必要に応じ指定。  
必要に応じ指定。

専門教育



履修コード	422801
科目名	演習IIa
担当者名	吉田 尚史

**講義のねらい** 本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習 2a では、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って推進する。

**講義の内容・授業スケジュール**

- 第1週～第4週: 導入と基礎となる学習
- IT系の学会の資料についての学習
  - プログラミング実習
  - 教科書に沿った学習
  - 研究プロジェクト紹介
- 第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション
- 計画発表会
  - ディスカッション
- 第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備
- プログラミングによるシステム試作
  - 発表会
  - ディスカッション
- 第14～15週: 最終発表会
- 発表会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

その他最新情報は、次の Web ページに掲載している。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

**成績評価の方法  
教科書  
参考書等**

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。

授業において指示する。

授業において指示する。

履修コード	422701
科目名	演習IIa
担当者名	リンスキー, M

※初回授業時に指示します。

履修コード	424001
科目名	演習IIb
担当者名	石橋 直樹

**講義のねらい** 情報技術を用いた新しいビジネスモデルの構築を目指し、情報システムの設計を行う。特に情報技術の分野において、資本の大小にかかわらず、斬新なアイデアが国際的ビジネスに発展した事例は数多く存在する。

本演習では、情報技術の立場から、時勢に先んじた情報システムの開発を行い、社会の進歩・発展に貢献する新規のビジネスモデルを各自構築する。

具体的には、World Wide Web を前提として、アイデアの設定、関連事業・周辺技術の調査、実現可能性・収益性の検討を行う。

**講義の内容・授業スケジュール**

演習 II b においては、特に、World Wide Web を対象として、自らのビジネスモデルの構築、システム設計を行い、システムのプロトタイプ作成を目指す。

- 1 週～3 週: 文献調査 (brainstorming)
- 4 週～7 週: プログラミング実習 (skill acquisition)
- 8 週: システム設計実習 (governance design)

**履修上の留意点**

コンピュータワークショップ、ならびに、メディアとデータベースが既履修であることが望ましい。

**成績評価の方法  
教科書  
参考書等**

課題やディスカッションへの寄与度、成果物等から総合的に評価する。

Web において電子教材を提供する。

講義中において教材を指定する。

履修コード	423501
科目名	演習II b
担当者名	各務 洋子

講義のねらい

大学は学問追究の場です。しかし、単に高度な学術知識を与えるだけの場ではありません。3年間の演習を通して、大学時代に身につけるべき個人の貴重な資産（能力）を知的交流を通して培うことを目指します。具体的には、(1)高度な学術性と同時に、創造的な理解力を身につけ、多様な価値観から常に自由な立場であり続けるための批判的知性を育てること。(2)多くの知識を幅広く学ぶということではなく、幅広い知識を深く学ぶための確固たる主体性を育てること。(3)生涯、知的に成長を続けるために備えておくべき力を、習慣化すること。これらを実現するために、様々なプログラムを用意しています。常に、ワクワクドキドキする知的緊張感を研ぎ澄ませ、楽しみながら現実と理論の融合を試みます。

講義の内容・授業スケジュール

現代企業に焦点をあて、企業の所属する業界構造、利害社集団との関り、競争状態など企業の外部環境分析と、ヒト・モノ・カネ・情報など企業の内部環境分析を通して、企業の採るべき行動、戦略、組織構造、経営管理形態などを考察する。企業をウチ側とソト側から、経営学の視点に立ち、複眼的、立体的に観察・分析・研究する。

理論研究では、演習で学んだ経営学の基本を中心に、企業理論を深める。テキストを精読、レジュメを作成し、報告する。理論と同時に実践を学ぶために、様々な業界、業種の企業を深く学ぶケーススタディを採用している。更に、学習した内容を、自分の言葉で表現し直し、議論を通して深く理解することを実現するために、毎週、理論の重要なポイントをテーマとしてとりあげ、30分ディベートを実施。この独自プログラムは、毎年夏合宿で、徹底的に身体で身につけ、演習II&演習II Iのツールとして利用している。

履修上の留意点

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

成績評価の方法

ゼミへの貢献度。プレゼンテーションの内容。質問の頻度。質問の内容。チームワークへの貢献などを総合して評価する。

教科書

年に数冊。

参考書等

適宜指示する。  
あらゆる媒体に流れる情報は参考になる。  
特に重要な書籍などは適宜指示する。

その他

- ・合宿は9月の後期が始まる直前に2泊3日で実施する。
- ・企業訪問は、チームによる事前準備が完了次第、何社でも訪問している。
- ・年に一度、OBOG全員が集まる各務ゼミ定例総会を実施している。

専門教育

履修コード	423601
科目名	演習II b
担当者名	金山 智子

講義のねらい

本ゼミのテーマは「身近な社会現象をメディア・コミュニケーションの視点から研究する」ことです。自分たちの身近な社会問題や現象に対する関心や興味をもとにメディアと関連したテーマを設定し、実際に調査することを目的としています。メディアに関しては、マス・メディア、コミュニティ・メディア、そして、パーソナル・メディアにいたるまで、さまざまなメディアを対象とします。研究は、文献だけではなく、アンケート、内容分析、インタビュー、そして参与観察といった方法を使って、実際に調査を実施します。調査結果は、論文、映像、フリーペーパーなどの形式を使って発表します。ゼミ全体でのプロジェクトも企画・実施する予定です。

講義の内容・授業スケジュール

後期は、前期でたてた研究計画をもとに、調査実施、発表&報告を行ないます。

<授業スケジュール>

- 1回――ガイダンス
- 2-5回――メディア・プロジェクト
- 6-8回――理論発表
- 8-10回――分析
- 11-14回――研究成果発表
- 15回――まとめ

履修上の留意点

欠席はしないこと。

成績評価の方法

出席、参加度、研究発表&報告

教科書

特になし。

その他

メディア業界関係者の招聘も予定しています。

履修コード	423001
科目名	演習IIb
担当者名	川崎 賢一

講義のねらい	卒業論文のテーマを発見し、卒業論文をどう書くのかに関する基礎力を要請することをねらいとする。
講義の内容・授業スケジュール	前期までの研究蓄積を活かし、各個人の卒業論文テーマを模索し、どのような内容にするのかの概要を決めるところまで持っていく。発表と討論が中心となる。 〈スケジュール〉 1. 卒論のテーマをどう決めるか 2. 卒論の書き方 3. -14. 発表 15. まとめ
履修上の留意点	これは講義ではない。出席は当然で、発表・討論を基礎とする。したがって、授業以外での準備が必要となる。
成績評価の方法	平常点と最後のレポートにより採点する。
教科書	授業の中で指示する。
参考書等	授業の中で指示する。

履修コード	424101
科目名	演習IIb
担当者名	絹川 眞哉

講義のねらい	演習IIaに引き続き、知的財産に関連する産業の構造や特許・著作権など知的財産権制度についての理解を深める
講義の内容・授業スケジュール	IIaで読んだ文献などを参考に、自らテーマを選択、調査・分析を行い、各自ショート・ペーパーにまとめて発表する。分析手法は、現状や歴史に関する記述的分析、経済学的分析、国際比較、統計分析など。各自、教員と相談しながら、自分の関心のあるテーマおよび分析手法を選択、独自の調査研究を行う。各テーマと分析手法の概要は講義で説明する。
履修上の留意点	発表は個人で行うが、発表者以外も必ず出席しなければならない。発表後のディスカッションに積極的に参加することが望まれる。
成績評価の方法	・発表およびショート・ペーパー ・出席 ・ディスカッションへの参加度合い
教科書	なし

履修コード	422901
科目名	演習IIb
担当者名	クボタ、L.

講義のねらい	In this class students will receive hands-on experience in producing new media content. This is a more advanced course than Seminar Ia.
講義の内容・授業スケジュール	This Semester 2 seminar will meet on Wednesdays during 1st period. Students will divide into teams to work on various phases and aspects of producing a media program. Students in teams will develop an interactive media project.
履修上の留意点	Students should have previously taken either a Seminar I class, or had project development experience so that they will be familiar with the project requirements.
成績評価の方法	Students will be graded based on participation and the results of their final project.
教科書	There are no required textbooks.
参考書等	Professor will provide materials from the following: Claudette Guzane Artwick, Reporting and Producing for Digital Media, Black Well Publishing, Ames Iowa, 2004 Dan Rayburn and Michael Hoch, The Business of Streaming and Digital Media, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Gorham Kindem, Robert B. Musburger, Introduction to Media Production: From Analog to Digital, Focal Press, Boston, MA, 1997 Robert B. Musburger, Gorham Kindem, Introduction to Media Production, Third Edition: The Path to Digital Media Production, Focal Press, Burlington, MA, 2005 Brian McKernan (Editor), John Rice (Editor), Creating Digital Content: Video Production for Web, Broadcast, and Cinema, NY, McGraw Hill, 2002

履修コード	424201
科目名	演習II b
担当者名	高 媛 <small>こうえん</small>

講義のねらい	本演習では、日頃の素朴な疑問から発想を広げ、ファッション選びから健康や幸福をめぐる私たちの意識形成に至るまで、メディアが消費社会においてどのような役割をしてきたのか、「歴史」と「越境」をキーワードに検討する。
講義の内容・授業スケジュール	前半では、メディア分析に必要な論文の輪読・討論を行い、メディアの限界と可能性を問い直す社会科学的な発想を身につける。後半では、グループごとに行われるプレゼンテーションと論文作成を通じて、物事を論理的に思考・表現するトレーニングを行う。
履修上の留意点 成績評価の方法	積極的な参加を期待する。 出席状況、授業への参加度、毎回ゼミの最後に提出してもらおうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（8割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）
教科書 参考書等 その他	ゼミの中で随時に提示する。 ゼミの中で随時に提示する。 3年後期選択科目「メディア・イベント論」と合せて受講されることをお勧めする。

履修コード	423101
科目名	演習II b
担当者名	齋藤 信男 <small>さいとうのぶお</small>

講義のねらい	WEB応用システム構築（2） インターネット上の種々の応用システムをWEB上で構築するために、基本技能を習得していく。また、マルチメディアを利用した応用の基本的考え方を学ぶ。 また、実際に高度な応用システムの例として、e-learning、mobile 応用システム、などを取り上げ、その具体的なデザインをし、実現へ向けて取り組む。
講義の内容・授業スケジュール	●第一回～第五回 WEB上のマルチメディア処理について、その基本技能を学ぶ。 ●第六回～第十四回 WEB上でのマルチメディアの応用を取り上げ、そのデザインを実施し、また実現のためのプログラム、システムインテグレーションなどに取り組む。 ●第十五回 WEB上でのマルチメディアを利用した応用システムの課題、将来の動向などを考えて、まとめとする。
履修上の留意点	演習 IIa の履修が必須条件である。 ノートPCを対象として使いながら、上記の課題についてよく理解し、体験していく。
成績評価の方法	適宜課す演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。
教科書 参考書等 その他	特に指定しない。 進行状況に応じて、適宜紹介していく。 ゼミ形式、演習課題を多く出す。

専門教育

履修コード	424301
科目名	演習IIb
担当者名	芝崎 厚士

**講義のねらい** これまでに学んだ基礎知識に基づいて、(1) 国際関係にかんするより高度で専門的な文献の輪読・発表(2) 各自が選んだテーマにかんする個別研究の指導(3) 文献調査、レジュメ作成、ディスカッション、プレゼンテーションなどの技術の向上をはかり、ゼミ論を作成し、卒業論文作成の下準備を完成させる。  
※後期は特に、卒業論文作成へ向けた各自の研究テーマの発見と調査の方向性、議論の仕方などに重点を置いて指導を行う。

**講義の内容・授業スケジュール**

講義の内容  
(1) 文献の輪読・発表(2) 各自の研究テーマの発表と指導(3) ささまざまな題材をもとにしたグループ・ディスカッションを基本とする。テーマごとに講師を招いたり、フィールドワークも行う。

演習の形式

(1) 課題の提出(2) 文献発表(3) 研究発表(4) ディスカッションへの参加。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 グループ研究1・メディア分析1
- 3回目 グループ研究2・メディア分析2
- 4回目 グループ研究3・メディア分析3
- 5回目 メディア分析またはゲスト講師の講演・ディスカッション
- 6回目 グループ研究4・メディア分析4
- 7回目 グループ研究5・メディア分析5
- 8回目 グループ研究6・メディア分析6
- 9回目 メディア分析またはゲスト講師を招いた講演とディスカッション
- 10回目 グループ研究7・メディア分析7
- 11回目 グループ研究8・メディア分析8
- 12回目 メディア分析またはゲスト講師の講演・ディスカッション
- 13回目 グループ研究9・メディア分析9
- 14回目 ゼミ論発表・討論会1
- 15回目 ゼミ論発表・討論会2

**履修上の留意点**

※参加者と相談の上、またゲスト講師の都合などをもとに若干変更することもあります。  
・毎週または毎月課される課題を必ず提出すること。予習の方法については詳細に指示します。  
・課される発表(プレゼンテーション)を必ず行う。発表の方法については詳細に指示します。  
・考慮に値する事情のない欠席・遅刻・退出は一切認めない。  
・参加の意思や意欲の低い学生には、以後の履修を認めない。

**成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他**

出席点、参加度・貢献度、課題、発表、レポートにより評価。  
・授業中に随時指示。  
・授業中に随時指示。  
・レポート課題図書については、授業時に指示する。  
・フィールドワーク、映画鑑賞、実務家や専門家によるレクチャーなどを行うサブゼミを3年生を中心に別途開講予定。他のゼミ生や2年生も、参加可能な場合には参加すること。

履修コード	423201
科目名	演習IIb
担当者名	白水 繁彦

**講義のねらい** イノベーションの社会学：新しいことを始めた人・店・集団・地域、または文化変容促進者の研究：各班が独自のテーマで研究

**講義の内容・授業スケジュール**

1回目 ガイダンス ①この演習の目指すところ。②発表グループ分け、2～3 G班発表、4～5 H班発表、6～7 I班発表、8～9 J班発表、10～11 K班発表、12～13 L班発表、14～15 まとめ

**履修上の留意点**

自分に関心のある具体的なテーマを設定し、文献を調べ、仮説を設定し、小規模なフィールドワークもしくは文献調査をして検証する。それを各種メディアを使ってわかりやすく発表する。

**成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他**

演習時における発表の質と量、発言の質と量から評価する。能動的姿勢、積極性が重要。  
各自  
白水繁彦編著『移動する人びと、変容する文化』御茶ノ水書房、2008年、2500円、  
能動的で積極的で欠席しない人の履修を望みます。

履修コード	423701
科目名	演習IIb
担当者名	手塚 義治 <small>てづか よしはる</small>

講義のねらい 社会調査を行い、卒業論文を執筆するための、基礎的な教養を身につけること。パイロット調査を行うこと。

講義の内容・授業スケジュール 学生は順番で、各自のパイロット調査についてプレゼンテーションを行います。

履修上の留意点 ディスカッションへの積極的な参加を望みます。

成績評価の方法 授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価します。

履修コード	423301
科目名	演習IIb
担当者名	苗村 憲司 <small>なえむら けんじ</small>

講義の内容・授業スケジュール 授業スケジュールは、II a・II bを通してのものである。

【内容】日本の知的財産戦略およびコンテンツビジネス政策に関する新たな課題と解決方法を考える。また、財産的価値のある情報を保護するために情報セキュリティが果たすべき役割と課題につき、日本と外国の法律の相違点と技術との関連に留意して検討する。

【手法】政府の知的財産推進本部、情報セキュリティセンター、文化庁、経済産業省等のウェブページで公開されている審議会資料等を読んで問題の本質を理解したうえで、インターネットを利用したアンケート調査、インタビュー、ソフトウェア試作等を行い、その結果を分析する。

【第1週～第4週】指定する審議会資料等を読んで、問題点の整理を行う。調査・検討のグループ構成を決める。

【第5週～第8週】調査すべき項目と内容を検討し、調査検討事項をとりまとめる。

【第9週～第12週】アンケート調査、インタビュー調査、ソフトウェア試作等を行う。

【第13週～第16週】調査等の結果を分析して整理し、対策案を検討する。

【第17週～第20週】対策案についてグループ間でディベートを行い、有効性と限界を明確にする。

【第21週～最終週】レポートを作成し、発表する。

成績評価の方法 次の3項目を総合して評価する。

1. レポートの内容（グループ内での役割も含む）
2. 最終回のプレゼンテーション
3. 毎回の演習時間における参加の積極性

教科書 「情報保護と社会」の教材およびその授業内で指定する参考書等

専門教育

履修コード	423801
科目名	演習IIb
担当者名	西岡 洋子 <small>にしおか ようこ</small>

講義のねらい メディアが、経済社会の変化およびメディア間の競争のなかで、どのように形成され進化してきたかを考察し、現代におけるメディア進化の方向性を考える。メディアには、国内外の放送、通信、インターネット、映像、新聞、出版、音楽、広告、PR、ゲーム、そのほかの新たなメディア現象などを幅広く含むこととする。

演習においては知識の蓄積より、課題の発見、視座の構築、分析および発表能力の一連の知的生産プロセスの修得に力点を置き、メディアをテーマとした演習を通じて論理的で説得力を持った議論展開能力の育成をめざす。

IIab では、現代メディアについて検討すると同時に卒業論文へ向けて各自のテーマを深めていく。インタビュー調査なども取り入れながら分析能力の精緻化をはかる。また、Iab より議論を通じた学習を行うつもりである。なお、社会人となる準備として、自分の興味を認識し深めると同時に自分の課題を認識、修正していくことを促す。マナーなどの修得も求める。

講義の内容・授業スケジュール 前期は、共通のテーマに取り組み、現代メディアの課題について認識すると同時に、問題意識を各自育てる。後期は卒業論文を意識し、主に個別のテーマに取り組み。ただし、共通の小テーマについて議論も行う機会も設ける予定である。

履修上の留意点 合宿については、メンバーと相談のうえ、決定する。

原則として通年履修。演習I,II,IIIを原則継続履修。Iを未履修の場合は、Ia（前期）の聴講および課題を課す。

成績評価の方法 平常点（出席、態度、発表内容、演習への貢献など）、期末レポートなどを総合して評価する。

教科書 適宜指定する。

参考書等 適宜指定する。

履修コード	423401
科目名	演習IIb
担当者名	福家 秀紀

**講義のねらい** 演習Iを通して身につけた文献学習の方法、情報・データの収集方法、レポートの書き方、プレゼンテーションの方法、および討論の進め方などに関する基礎的なノウハウを生かして、各自の設定したテーマの研究を深め、卒業論文を書くための準備を進めることをねらいとする。

**講義の内容・授業スケジュール** ブロードバンドインターネットの普及と情報メディア産業の変貌についての理解をさらに深めるための、文献輪読を行う。これと並行して、ゼミ生ごとに自ら設定したテーマに基づく個人研究を進める。また、発表については、演習Iと同様に司会・討論は学生が主体となって進める。具体的には次のスケジュールに基づいて進める。

**履修上の留意点** (1) ガイダンス、(2) ~ (14) 文献輪読と個人研究発表、(15) まとめ  
原則として演習I、II、IIIを通して履修すること、グローバルネットワーク論を履修することが望ましい。また、文献輪読に使用する教科書は各自で準備し、授業時間に持参すること。

**成績評価の方法** 出席、発表、議論への参加状況、およびレポートを総合的に評価する。

**教科書** ・福家秀紀、『ブロードバンド時代の情報通信政策』、3,600円、NTT出版、978-4-7571-0203-3

**参考書等** ・ゼミ生の個人研究の進捗状況に応じて、適宜指示する。  
講義の中で適宜紹介する。

履修コード	423901
科目名	演習IIb
担当者名	山口 浩

**講義のねらい** 「金融・契約・債権の技術」をテーマとする。これまでは別々の分野とされてきたこれらが今、結びつき始めており、これにより新たな価値が生まれ、新たな力となってきている。これらすべての分野の専門家になることは難しいが、少しでも知っていれば大きな価値になる。このゼミでは、単に理論を理解するだけでなく、実際に使ってみることで、これらを「実用の技術」として身につけることを目的とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 共通プログラムと個別プログラムに分ける。

1 共通プログラム  
①企業経営とファイナンスについての学習  
②ゼミ企業の設立、経営、運営  
③ゼミプログラムの運営

2 個別プログラム  
上記の他、その時点での研究の進展状況および学生側の希望状況等に応じ、以下のテーマに関するプログラムを追加的に実施する。状況により、複数のチームに分割することもある。

①コンテンツ・ファイナンス  
②予測市場  
③仮想経済

前期、後期とも週1回。その他必要に応じサブゼミ等を開催。休み期間中でもブログ更新分担等一部のゼミ活動は継続する。ゼミ合宿は必要に応じて実施する。2の個別プログラムについては、状況に応じて実施する。

**履修上の留意点** 通年履修が前提。  
望ましい人物像は次の通り。

- ・やる気がある
- ・社会人としての常識・マナーをわきまえている
- ・チームワークと責任感を持つ
- ・書くこと・読むことをいやがらない
- ・ものごとを面白がる

**成績評価の方法** ゼミ中の発言や発表、テストなどのパフォーマンスのほか、出席回数、ゼミ在籍期間、ゼミ活動全般への参加状況、自らたてた目標の達成状況などを総合的に勘案して評価する。

**教科書** 必要に応じ指定。

**参考書等** 必要に応じ指定。

履修コード	424501
科目名	演習II b
担当者名	吉田 尚史

講義のねらい

本演習では、グローバルな社会環境において実際に役立つ情報技術について一人ひとりが具体的な研究テーマを推進する。特に、実世界に存在する複雑な問題を従来の学問分野の枠を超えた分野横断的問題としてとらえ、情報技術の中でも特に多くのデータを対象とした分析方法を設計・実現して新たな解決に導く方法論について議論する。具体的には、この演習 2b では、演習 2a に引き続き、この目的に応じた基礎的な学習、この目的に沿った学会論文発表への挑戦、および、各自が設定した研究テーマについて、解決に向け実際に利用される情報システムの作成を伴って推進する。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1週～第4週: 導入と基礎となる学習
- IT系の学会の資料についての学習
  - プログラミング実習
  - 教科書に沿った学習
  - 研究プロジェクト紹介
- 第5週～第8週: 各研究テーマに関するディスカッション
- 計画発表会
  - ディスカッション
- 第9週～第13週: 各研究テーマに関する設計・試作、発表・報告準備
- プログラミングによるシステム試作
  - 発表会
  - ディスカッション
- 第14～15週: 最終発表会
- 発表会

おおよそこのようなスケジュールに沿って、基礎的な勉強から始め、各学生と個別に相談をしながら進める。

その他最新情報は、次の Web ページに掲載している。

<http://www.komazawa-u.ac.jp/~naofumi/Lectures/Seminars/>

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

出席、および、学期の最後のレポートまたは発表により評価する。  
授業において指示する。  
授業において指示する。

専門教育

履修コード	424401
科目名	演習II b
担当者名	リンスキー, M

※初回授業時に指示します。



履修コード	427501
科目名	メディア・コミュニケーション概論
担当者名	西岡 洋子

**講義のねらい** 本講義では、コミュニケーションの基本機能およびコミュニケーションにおいて活用されるメディアの基本的特性を理解することを目的とする。まずは、コミュニケーションの基本的構造モデルを紹介したのちに、コミュニケーション主体の違いによって展開される異なるレベルのコミュニケーション（個人、グループ、マスのレベル）があることを理解する。さらには、それぞれのコミュニケーションにおいてどのようなメディアが活用されているか、さらには、それがどのように使い分けられ、また、変化しようとしている大きな傾向を理解する。

**講義の内容・  
授業スケジュール**

1. イントロダクション  
コミュニケーション・モデル
2. パーソナル・コミュニケーション  
人と人とのコミュニケーション  
電話コミュニケーション
3. グループ・コミュニケーション  
集団・組織のコミュニケーション（企業の例を中心に）  
地域コミュニティのコミュニケーション  
集団行動のコミュニケーション（噂とクチコミ）
4. マス・コミュニケーション  
マス・メディアの変貌  
マス・コミュニケーション研究  
マーケティング・コミュニケーション（広告、PR）
5. グローバル・コミュニケーション
6. まとめ

**履修上の留意点**

社会における様々なコミュニケーション行為とメディア、その使い分けについて意識を持つように心がけて欲しい。

**成績評価の方法  
教科書  
参考書等**

テスト、レポート、平常点などで総合的に評価する。  
講義中に指示する。  
講義中に指示する。

専門  
教育

履修コード	427801
科目名	メディア政策論
担当者名	西岡 洋子

講義のねらい

放送および通信事業者は、政策に基づき課せられた様々なルールのもとに事業を展開している。本講義では、ネットワーク産業である放送および通信産業のそれぞれの産業の特徴に則した政策の基本的内容を理解するとともに、これに基づき事業者が競争を行った結果としての産業の概況との関係を理解することを目的とする。また、政府資料などを参照しつつ、実際の政策分析に役立つ基礎知識を身につけられるように配慮する。

講義の内容・授業スケジュール

1. イントロダクション
2. メディア産業の概要
  - ネットワーク産業としての特徴と規制政策決定
  - メディア産業の市場での位置づけ
3. 放送
  - 日本の放送産業の概要
  - 放送における各種規制
  - 地上放送とデジタル化
  - 衛星放送、ケーブルテレビ
4. 通信
  - 情報通信産業の概要
  - 通信における各種規制
  - 日本の通信政策の流れ
  - 携帯電話
5. 通信と放送の融合
  - 通信と放送の融合
  - 日本のIT戦略
6. まとめ

履修上の留意点

メディア産業は、非常に速いテンポで変化を遂げている。日常的に、関連ニュースに注意を払うこと。

成績評価の方法  
教科書

テスト、レポート、平常点などで総合的に評価する。  
総務省『通信・放送の総合的な法体系に関する研究会報告書』2007年、総務省サイトより取得可能

参考書等

ほか 講義中に指示する。  
総務省『情報通信白書』2008年、総務省サイトより取得可能  
ほか 講義中に指示する。

履修コード	427901
科目名	グローバル経営論II
担当者名	各務 <sup>かがみ</sup> 洋子 <sup>ようこ</sup>

**講義のねらい** グローバル経営論Iの講義をさらに深めることを目的とします。グローバル経営を追求する企業が、世界規模で付加価値活動を展開し、競争優位を築いていくための論理と、現実の企業行動を、事例研究を用いて理解することを目指します。グローバル経営はドメスティックな経営全般とは本質的に異なる属性をもち、単なる経営上のファンクション分野における国際化を越えたフレームワークを理解しなければなりません。世界に通じるグローバル経営の理論武装となるように、先行研究の成果を踏まえて、最新の理論動向まで修得します。

**講義の内容・授業スケジュール** グローバル経営は、政治、社会、文化など各国の様々な条件が考慮されているため、非常に複雑に見えますが、(1)どのような論理で組織が構築され、(2)どのような戦略が実行されているのかという2つの視点を念頭において理解してみると、わかりやすくなります。したがって、本講義は、組織論・戦略論をベースに体系的に解説します。

- I. グローバル経営の論理
  1. 企業活動の国際展開の論理
  2. グローバル経営の戦略論
  3. グローバル経営の組織論
  4. 海外子会社関係のマネジメント
  5. グローバル統合とローカル適応の論理
  6. トランスナショナル経営論
- II. グローバル経営の革新
  7. グローバル企業のイノベーション
  8. グローバル企業におけるナレッジ・マネジメント
  9. グローバル R&D マネジメント
  10. グローバル戦略提携のマネジメント
- III. グローバル経営環境とマネジメント
  11. グローバルな人的資源戦略
  12. リージョナル・マネジメント
  13. グローバル経営における文化
  14. まとめ

**履修上の留意点** グローバル経営論Iをすでに履修した学生に限りです。Iと同様、学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連のニュースを理解することを心がけて下さい。

**成績評価の方法** 各期定期試験と、講義中に実施する理解度テストにより総合的に評価します。  
**教科書** 開講時に指示。  
**参考書等** 必要に応じて随時紹介。

履修コード	428001
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	北川 <sup>きたがわ</sup> 和裕 <sup>かずゆう</sup>

**講義のねらい** 社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。  
 この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

**講義の内容・授業スケジュール** 本講義は、プログラミング言語 JavaScript の演習を通じ、WWW環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール(予定)で行う。

1. 導入－IDEの導入、2. IDEを用いたWWWにおけるクライアントサイドプログラミング、3. はじめての JavaScript、4. HTMLとCSS再入門、5. JavaScript とオブジェクト、6. 入出力処理と変数、7. イベント処理と関数、8. 演習、9. 条件分岐、10. 演習、11. 繰り返し、12. 応用、13. まとめ

**履修上の留意点** 情報リテラシー実習を履修済みであること。  
**成績評価の方法** 講義におけるミニレポート、学期中と学期末に作成するプログラムに関するレポート、を総合的に評価する。

**教科書** Web において電子教材を提供する。  
**参考書等** 講義中において教材を指定する。  
**その他** 本講義は、講義と実習を合わせた形式で行う。受講者は各自のノートパソコンを持参すること。

履修コード	428101・428201
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	苗村 憲司 <small>なえむら けんじ</small>

**授業のねらい** 社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

**授業の内容・スケジュール** 授業は次のスケジュール（予定）で行い、Java 言語によるプログラムの読み書き能力を身に付けることを目標とする。

- ①問題解決の手段としてのプログラム
- ②アプレットとアプリケーション \*19年度は①
- ③プログラムの読み方と書き方 \*新規追加
- ④アルゴリズムの構造（1）場合分けと繰返し
- ⑤アルゴリズムの構造（2）部品化と再帰
- ⑥データの種類
- ⑦データの構造
- ⑧オブジェクト指向
- ⑨配列の処理と探索
- ⑩ソート（1）選択／バブル／挿入・ソート
- ⑪ソート（2）併合／クイック・ソート
- ⑫入力と出力
- ⑬ファイルの取り扱い
- ⑭まとめ \*新規追加
- ⑮作成プログラムの発表

**履修上の留意点** 情報リテラシー実習を履修済みであること。また、この科目では、Java の環境を設定したパソコンを使用する。

**成績評価の方法** 次の2項目を総合して評価する。  
 1. 授業時間に行うミニテストの成績（合計40点）  
 2. グループで作成するプログラムの完成度（60点）  
 ただし、遅刻と欠席の回数に応じて減点する。

**教科書** <http://www.komazawa-u.ac.jp/~naemura/cw/> 上に電子教材を提供する。  
**参考書等** 電子教材の中で参考書を紹介する。  
**その他** 講義と実習を併せた形式で行う。

履修コード	428301
科目名	コンピュータワークショップ
担当者名	石橋 直樹 <small>いしばし なおき</small>

**講義のねらい** 社会のさまざまな分野に存在する多様な問題をデジタル情報で表現し、コンピュータ上のソフトウェアによって解決するためにはどうブレークダウンするかというプロセスの体得を目指す。このためには、解決方法をコンピュータが理解できるプログラミング言語で記述する手法の習得が不可欠である。この講義では、特定の分野に偏らず、プログラミングの概念、その構成を学び、さらに、実習を通じて実際のソフトウェア開発を体験する。

**講義の内容・スケジュール** 本講義は、プログラミング言語 Perl の演習を通じ、WWW 環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール（予定）で行う。

1. 導入— Perl を用いたプログラミング、2. WWW におけるサーバ・サイド・プログラミング— CGI、3. Perl の基本構造、4. CGI 入門— Hello, World.、5. 変数を用いた Programming、6. HTML との連携— GET と POST、7. Perl における if 構文—分岐、8. Perl における while 構文、for 構文—繰返し、9. Perl における文字列処理—正規表現、10. ファイルの読み書き、11. Perl におけるサブルーチン—部品化、12. 応用—チャット・システムの構築、13. まとめ

**履修上の留意点** 情報リテラシー実習を履修済みであること。  
**成績評価の方法** 毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

**教科書** Web において電子教材を提供する。  
**参考書等** 講義中において教材を指定する。  
**その他** 本講義は、講義と実習をあわせた形式で行う。

履修コード	428401・428501・428801・428901
科目名	Cross-Cultural Communication Practicum
担当者名	うちやま ひろみち 内山 浩道

**講義のねらい** Cross-cultural communication is based on much more than just verbal and non-verbal skills. It is heavily dependent on the culture of the speaker. In today's world, where English is the undisputed lingua franca, very often the nuances and concepts expressed in English can imperceptibly vary according to the culture of the speaker. Thus, even though two people from diverse cultural backgrounds may be able to communicate in grammatically correct English, they may still have difficulty in understanding each other because of diverse cultural values. Too often these are imperceptible but can lead to misunderstandings and difficulties. This course will attempt to introduce students to the affects of cultural diversity on conversation and how students can learn to detect and deal with the phenomenon.

**講義の内容・授業スケジュール** There are two main types of activities which will be fully assessed:  
 1. Use of functional English for a multitude of scenarios reflecting cultural diversity employed to act out specific situations in groups or pairs.  
 2. Analysis of "real-world" conversation/dialogue between native English speakers. This will be done by viewing and discussing the cultural differences of expressions in the areas of gender, politeness, compliment giving and etcetera. Authentic materials such as DVDs which can be accessed via the online GMS server will be used as a model.

**履修上の留意点** Attendance is mandatory and punctuality is expected. More than three unexcused absences in a semester will be penalized by a 5-point reduction, per absence, above three in the final grade. If you are late more than five minutes, this counts as half an absence.

**成績評価の方法** The final grade will be evaluated in the following way:

1. Role play:  
 A total of 3-5 role-plays performed during the semester will be assessed.  
 of the overall evaluation:  
 Pair / Group Individual Performance: 70% (Instructor 70%, Peer 30%)

2. A total of 3-5 quizzes based on DVD viewing (conversation analyses):total percentage: 30%  
 None. All course materials will be provided by the instructor. Audio and visual material or links to them will be made available on the course homepage on the GMS server when possible.

**参考書等** None

**その他の** Nothing

履修コード	429201・429301・429401・429501・429601・429701・429801・429901
科目名	Media English
担当者名	ハードグレーブ, B.・ギャリソン, E.・ゴールド, F.・レオーネ, J. V.

講義のねらい

The increasing quantity and questionable quality of information available through the media today presents many challenges to the informed citizen. That, coupled with the fact that the vast majority of information available through electronic media today is in English, makes it essential to have a critical mastery of the language in order to keep abreast of events and make informed judgments. The purpose of this course is to develop the critical skills required to understand and evaluate news and information presented in both traditional and new media including newspapers, magazines, radio, television, blogs, podcasts and videocasts.

講義の内容・  
授業スケジュール

This is a multi-media course. In it we will consider such issues as how the selection and presentation of news and information, including advertisements, shapes our intellectual milieu and how we can evaluate the information presented about events and products by both traditional and new media. Current English language newspaper and magazine articles and advertisements, radio and television shows and advertisements, webpages, blogs, podcasts and videocasts will be examined and discussed to illustrate issues. Assignments will be made in advance of scheduled class meetings. Class activities include listening to podcasts; watching television news and advertisements as well as videocasts; and reading, analyzing and discussing print media articles and advertisements. Students are expected to be familiar with assigned material prior to class. There will be a short test following the completion of each lesson.

履修上の留意点

Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be considered 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester will be penalized by a 5-point reduction per absence above 3 in the final grade.

成績評価の方法

The final grade will be computed by adding all test scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書

None. Copies of printed material for use in class will be provided by the instructor. Audio and visual materials or links to them will be available on the course homepage on the GMS server. Background information, vocabulary lists, and usage notes will be provided by the instructor.

参考書等

Good, up-to-date English-Japanese and Japanese-English dictionaries for use at home as well as a portable dictionary of the English language in either print or electronic format are recommended.

その他

Consult the instructor if you have any questions about the course or grading policy. Course may incorporate negotiated student/instructor-generated content depending on skill level and progress of class.

専門教育

履修コード	430001・430101・430201・430301・430401・430501・430601・430701
科目名	Integrated Media & Technology Readings
担当者名	ワイリー, A.D.・ギャリソン, E.・スメザム, M.・ブラック, A.

講義のねらい

The keystone in the linkage of the language and either the media or technology concentrations, this course is designed to integrate language acquisition with the content of specific courses offered by the GMS faculty. Together, the instructors of the language component and the media or technology component selected for inclusion in the Language-Link program will choose English-language textual material to supplement lecture topics addressed in the media or technology course. Coursework in each section of IM&TR&D will, insofar as practical, parallel and compliment the lectures and assignments of the major concentration course with the goal of nurturing a comprehensive in-depth or bilingual understanding of the major component course.

(IM&TR&Dの目的はメディアや情報科目をより深く尚、二カ国語で理解することです。そのためこの英語科目はメディアや情報科目とリンクしています。両科目の教員はリンクしているメディアや情報科目の講義内容を沿って英語教材を選んで使用しています。従って、リンクしているメディアや情報科目を履修して同時にIM&TR&Dを履修することによって講義をより深く(二カ国語で)理解することができます。)

講義の内容・授業スケジュール

前・後両学期に以下の4つずつのメディアや情報科目はIM&TR&D科目とリンクしています。

前期

- 1) グローバルメディアガバナンス論(水4/西岡)・IM&TR&D(月2/水2/Black)
- 2) マルチメディアビジネス論(火1/クボタ)・・・IM&TR&D(月3/水3/Garrison E.)
- 3) 教育環境とメディア(水2/斉藤)・・・・・・IM&TR&D(月2/木2/Smetham)
- 4) クリエイティブビジネス論(月2/クボタ)・・・IM&TR&D(火3/金3/Whiley)

後期

- 5) 知識創造戦略論(火2/各務)・・・・・・IM&TR&D(月2/水2/Black)
- 6) デジタル融合戦略論(水2/クボタ)・・・・IM&TR&D(月3/水3/Garrison, E.)
- 7) メディアとデータベース(火2/石橋)・・・・IM&TR&D(月2/木2/Smetham)
- 8) 複合ドキュメント概論(水4/吉田)・・・・IM&TR&D(火3/金3/Whiley)

Class activities will include watching videos, listening to podcasts and reading articles about material taught in the course to which IM&TR&D is linked as well as summarizing, analyzing, researching, and discussing related issues. All readings and discussions will be in English, with background information, vocabulary lists, and usage notes provided by the instructor when possible. There will be a short test, essay, or presentation following the completion of each assignment.

履修上の留意点

- 1) 上記のメディアや情報科目を単独履修する事が出来るがIM&TR&Dは単独履修することが出来ない。同時履修は望ましいが、以前リンクしているメディアや情報科目を履修した学生はIM&TR&D科目担当教員の承諾を得て、受講することができます。
- 2) IM&TR&Dは2・3・4年合わせて一回しか履修出来ません。
- 3) Attendance is mandatory. Two tardies of more than 5 minutes will be counted as 1 absence. More than 3 unexcused absences per semester may be penalized by an appropriate reduction in the final grade.

成績評価の方法

Grades will be computed by adding all test, essay, and presentation scores and any extra-credit points given in class and dividing the total by the number of tests administered. Points deducted for tardies and absences will be subtracted from the average.

教科書

Reading material for the course will be selected in consultation with the instructor of the Media or Technology course with which it is linked. Material or links to material online may be provided by the instructor.

参考書等  
その他の

最新版の英和辞典  
講義内容などについて、具体的な質問あれば、各メディア、情報、あるいは英語科目担当教員に相談してください。IM&TR&Dについての質問はこの科目の総合責任者 Garrison 氏(研究室1250)に相談してください。

履修コード	430801
科目名	情報社会論
担当者名	高 媛 <small>こうえん</small>

講義のねらい

社会は、さまざまな情報メディアが絡み合った場所である。19世紀以来、メディア技術の革新は、人々の日常生活から社会や国家のありかたまでさまざまな変化をもたらしてきた。本講義では、メディアの変容がどのような社会的諸条件のもとで要請されたのか、そしてそれが人間の知覚や精神にいかなる影響を与えたのかを、歴史的・文化論的な視点から掘り下げていく。

講義の内容・授業スケジュール  
履修上の留意点

新聞、ラジオ、映画、テレビ、写真、インターネットなどのメディアの歴史を辿りながら、それらを誕生させた時代状況と、その誕生が人間社会にもたらした変化について解説する。

講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

成績評価の方法

出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらおうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（7割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

教科書  
参考書等

特に指定しない  
・佐藤卓己『現代メディア史』（岩波書店、1998年）、2,300円、ISBN: 4000260154  
・吉見俊哉『メディア文化論』（有斐閣、2004年）、1,800円、ISBN: 4641121907

その他

講義形式

履修コード	430901
科目名	イノベーション普及論I
担当者名	白水 繁彦 <small>しらいず しげひこ</small>

講義のねらい

イノベーションとは、新しいアイデア、すなわち、新しいモノ、行為、思想などです。従って流行研究を含みます。前期は主にイノベーションの採用過程、集団過程を学びます。すなわち、わたしたちは、どのような心理的過程をへて、新しいものを採用するか、その仕組みを調べます。そして個人やメディアは新しいアイデアの、集団内や集団間の普及にどのような役割を果たすか、検討します。

講義の内容・授業スケジュール

どうして、わたしたちは、あるイノベーションは採用するが、あるイノベーションは採用しないのか、なぜ、ブランド品などの高価なものを買ってしまうのか。購入に際して友人や店員はどのような役割を果たしているのか。テレビなどのメディアはどのような役割を果たすのか…。身近なところに事例がいくらかもある、とても心理学的で興味深い研究です。

わかりやすい例としてまず、流行を取り上げてイノベーションの普及に入っていきます。

第1回～3回 流行と普及の実態

流行とはなにか  
流行と普及の関係

第4回～8回 個人過程：イノベーション採用過程

イノベーションの採用に至るまでの心的過程  
人はどのような過程を経て実際に使用するようになるか  
メディアはどのようなときに最も効果的に働くか

第9回～12回 集団過程：集団内での普及のメカニズム、個人やメディアの役割

第13回～15回 集団間普及：架橋的エージェントの活動、異文化間普及

履修上の留意点

参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を發します。答える意欲のない学生は脱落候補です。

成績評価の方法

授業時間中にしばしばエッセイを課す。しばしば出欠をチェックする。この両者を平常点とする。この平常点と期末等の定期的試験の結果との両方で前期の成績とする。その割合はおおよそ50：50である。

教科書  
参考書等

なし。パワーポイントによる説明。適宜プリント等を配布する。  
ロジャーズ著、三藤訳 2007『イノベーションの普及』翔泳社  
青池慎一 2007『イノベーション普及過程論』慶応義塾大学出版会  
白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社

その他

授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生は付いていけないので、そのつもりで。



履修コード	431001
科目名	イノベーション普及論II
担当者名	白水 繁彦

講義のねらい 情報が伝えられ、コミュニティが変化する過程を研究する。とくにコミュニティ・メディアの働きを研究する

講義の内容  
授業スケジュール

第1回目 コミュニティ・メディア、地域メディア、市民メディアとはなにか。関連文献の紹介  
 2 なぜ、いまコミュニティ・メディアか  
 3 コミュニティ・メディアの新しいかたち  
 4 インターネット新聞：市民が語る<ニュース>  
 5 コミュニティのラジオが果たす役割－日本と世界  
 6 ネットコミュニティ形成ツールのはたらき  
 7 町おこし、商店街再興とメディア活用  
 8 地域メディアの今～CATVにみられるビジネス化  
 9 コミュニティビジネスとマイノリティ  
 10 コミュニティ放送のディレンマ  
 11 コミュニティ・メディアの担い手の養成  
 12 コミュニティ・アイデンティティの作られ方  
 13 コミュニティとイノベーションの普及1  
 14 コミュニティとイノベーションの普及2  
 15 まとめ

履修上の留意点 前期のイノベーション普及論Iを履修しておくことが望ましい。  
教科書を読んでおけば理解できる程度の内容です。参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。授業中にしばしば質問を發します。

成績評価の方法 授業時間中にしばしばエッセイを課す。しばしば出欠をチェックする。この両者を平常点とする。この平常点と期末等の定期の試験の結果との両方で前期の成績とする。その割合はおおよそ50：50である。

教科書 田村紀雄・白水繁彦『現代地域メディア論』日本評論社、2000円

参考書等 授業中に適宜紹介します。

その他 授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。したがって参加意欲のない学生は付いていけないので、そのつもりで。

履修コード	431101
科目名	知識創造戦略論
担当者名	各務 洋子

講義のねらい

知識こそ企業にとって最大の価値創造の源泉であるという認識が知識経済や知識経営という概念を生んだ。モノづくりに限らず、あらゆる分野で企業は絶え間ない技術革新（知識の創造とイノベーション）を求められている。あらゆる分野で求められる知識創造を継続的に生み出すイノベーションのマネジメントに焦点をあてる。新規性の高いプロダクトやアイデアを創出するための経営資源セット、組織構造、システム、プロセスを解明し、企業唯を創造する経営戦略の論理を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

知識とはコンテンツであり、ソフトであり、企業の本業を強化するための貴重な付加価値となると同時に、コンテンツ自身を創出する産業は、21世紀の基幹産業として育成するという政府の政策が出された。グローバル経営を追求するなかで、知識創造を促進するための経営戦略を学ぶ。毎回、実際の企業の事例と、理論的フレームワークを提示し、理論と実際の両面から知識を深める。

1. 戦略の本質と意義
2. 全社戦略①企業全体を方向づける方法
3. 全社戦略②企業全体のバランスと成長を図る方法
4. 事業戦略①戦略分析のための基本ツール
5. 事業戦略②競争のメカニズム
6. 事業戦略③戦略の基本パターン
7. 戦略的経営①戦略の策定と実行のプロセス
8. 戦略的経営②戦略と組織の変革
9. 戦略的経営③戦略と財務
10. 戦略的経営④企業価値のマネジメント
11. グローバル時代の戦略①日本企業の課題
12. グローバル時代の戦略②グローバル企業の課題
13. グローバル時代の戦略③産業構造の変化とビジネスモデル
14. グローバル時代の戦略④企業の社会的貢献と地球環境問題

履修上の留意点

学習素材として新聞、雑誌、インターネットを始めとした幅広い情報源を駆使して、企業関連の情報を集めるように心がけて下さい。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

各期定期試験と、講義中に実施する理解度をはかるエッセーにより総合的に評価します。  
開講時に指示する。  
開講時に指示する。

履修コード	431201
科目名	知識経営論
担当者名	リンスキー, M

講義のねらい

This course is an introduction to the subject of knowledge management from both managerial and theoretical points of view. Students will be introduced to practical issues related to the processes of managing and creating knowledge in teams and organizations, as well as to theories and research on organizational learning and knowledge management. Theoretical frameworks are derived from philosophy, sociology, and organizational learning and knowledge management theories.

講義の内容・授業スケジュール  
成績評価の方法  
参考書等

This course is based on lectures and short reading assignments provided by the instructor.  
Students will be evaluated based on three short essays and final exam.  
Materials will be provided by the instructor.

履修コード	431301
科目名	異文化経営論
担当者名	リンスキー, M

講義のねらい This course provides students with a basic understanding of issues with in the developing field of international business and cross-cultural management. Students will be introduced to issues related to cross-cultural management and international business, such as foreign entry modes, implications for management in inter-cultural context, ethics and values in cross-cultural management, and the impact of cultural diversity in multinational companies, drawing on practical examples and theoretical perspectives from social anthropology, cross-cultural psychology, and organization and management theory.

講義の内容・授業スケジュール The content of the course is introduced in a series of lectures and from a text book. These areas are explored further through the use of short case studies and exercises.

成績評価の方法 Students will be evaluated based on three short essays and final exam.

参考書等 Materials will be provided mainly by the instructor.

履修コード	431401
科目名	マルチメディアビジネス論
担当者名	クボタ, L.

講義のねらい The purpose of this course is to prepare students to become “managers” of corporations that will increasingly face the challenges of a digital, multimedia world

講義の内容・授業スケジュール This Semester 1 course will meet on Tuesdays during 1st period. A highly important facet of the course will be lab work, in which students will gain direct exposure to various forms of multimedia. The course will be geared toward creating a dynamic interactive learning process in which emphasis will be placed on “real-world” managerial and program challenges. The key to acquiring useful knowledge here is active participation and involvement in the form of class discussions, lab work, and analysis of programs, as well as formulating corporate strategies for the developing field of multimedia, i.e, the digital content industry.

成績評価の方法 Evaluation will be based 5% on class participation, 45% on the mid-term exam, and 50% on final team presentations.

教科書 There are no required textbook, only suggested readings.

参考書等 Professor will provide materials from the following:

*Blueprint to the Digital Economy*, Alex Lowy and David Tocoll, New York: McGraw-Hill, 1998.

*City of Bits*, William J. Mitchell, Cambridge, MA: The MIT Press, 1995.

*Competing in the Age of Digital Convergence*, David B. Yoffie, Boston, Harvard Business School Press, 1997.

*Entertainment Industry Economics*, Harold L. Vogel, New York: Cambridge University Press, 1999.

*Hollywood Unstrung: The Emerging Digital Challenge—D Cinema and Beyond*, Iarta, Los Angeles: Iarta Publications, 2001.

*Hot Groups*, Jean Lipman-Blumen & Harold J. Leavitt, New York: Oxford University Press, 1999.

*Media Trends 2001*, Paul kagan Associates, Carmel, CA: Paul kagan Associates, September 2000

*Multimedia*, Tay Vaughen and Scott Rogers Osborne, New York: McGraw-Hill, 1998.

*Organizing Genius* Warren Bennis and Patricia Ward Biederman, Reading, MA: Addison-Wesley Publishing Company, Inc., 1997.

*The Highwaymen: Warriors of the Information Superhighway*, Ken Auletta, New York: Random House, 1997.

履修コード	431501
科目名	デジタル融合戦略論
担当者名	クボタ, L.

講義のねらい

In the era of digital convergence, with its rapid and chaotic change, how can companies formulate strategy? The objective of this course is to familiarize the students with the concept of digital convergence and the strategies that companies are undertaking to cope with these challenges.

講義の内容・授業スケジュール

This Semester 2 course will meet on Mondays during 3rd period. In this course, various views of digital convergence will be examined, as well as comparative studies of company strategies. Restructuring of these industries involves strategic implications suggesting that there are winners and losers. Analysis of key factors in this chaotic industrial environment and corporate responses will be studied.

成績評価の方法

Evaluation will be based 5% on class participation, 45% on the mid-term exam, and 50% on the final.

教科書

David B. Yoffie, *Competing in the Age of Digital Convergence*, Harvard Business School Press, Boston, MA, 1997

参考書等

Professor will provide materials from the following:  
 Digital Convergence and Market Structure  
 Milton L. Mueller, June 1999  
 Gerard, Damien & Luff, David (editors) (2004) - *The WTO and Global Convergence in Telecommunications and Audio-Visual Services* Cambridge U. Press  
 Gershon, R. A. and Kanayama, T. (2002) *The SONY Corporation: A Case Study in Transnational Media Management*, *International Journal of Media Management* 4(2).  
 By Stephen Baker and Heather Green With Bruce Einhorn in Hong Kong, Moon Ihlwan in Seoul, Andy Reinhardt in Paris, Jay Greene in Seattle, and Cliff Edwards in San Mateo, Calif., *Big Bang*, *Business Week OnLine*, June 21, 2004  
 Andy Covell, *Digital Convergence Phase II, Campaign, Illinois*, Stipes Publishing, L.L.C., 2004  
 The ANNALS of the American Academy of Political and Social Science, Vol.597, No. 1, 32-47 (2005)  
 Pablo J. Boczkowski, *Multiple Media, Convergent Processes, and Divergent Products: Organizational Innovation in Digital Media Production at a European Firm*

専門教育

履修コード	431601
科目名	グローバルビジネス人材マネジメント
担当者名	リンスキー, M

講義のねらい

These lectures introduce students to various challenges related to living and working abroad based on conceptual papers and empirical studies on self-initiated and organizational expatriates. Lecture and suggested readings.

講義の内容・授業スケジュール

成績評価の方法

Students will be evaluated based on an essay.

参考書等

Suggested readings can be found from the Komazawa Library or Komazawa Library date bases.

履修コード	431701
科目名	企業会計の実務
担当者名	伊藤 克容

講義のねらい	社会のなかで会計（経理あるいは簿記）関係の仕事は、ひじょうに重要な役割を担っています。会計についての知識を「英語」、「パソコン」とあわせて「ビジネスパーソンの3種の神器」と呼ぶ人もいるくらい、重視されている科目です。ビジネスの世界で活躍しようとするならば、会計・経理の知識をもっていた方が圧倒的に有利でしょう。この講義では、ビジネスで必須の会計・経理のセンスを身につけることを目標にします。
講義の内容・授業スケジュール	企業会計の基本構造（2～3回） 財務諸表作成のための手続き（3～4回） 財務諸表分析：財務諸表から企業行動を読み取る（3～4回） マネジメントのための会計情報：管理会計へのアプローチ（3～4回）
履修上の留意点	*いくつかの単元を終了後、区切りのよい時点で中間テストを実施する予定です。 授業時間中のディスカッション、課題提出など、受講者の側からの積極的な取り組みを前提として考えています。授業時間内に扱う計算問題は、かならず自分で解いてみることを。最初はよくわからなくても、自分で電卓をたたいて計算し、計算用紙にいろいろ書いているうちに段々分かっていくということが、頻繁にあります。毎時間かならず自分用の電卓を持ってきてください。
成績評価の方法	各受講者の個人得点を基準に成績をつけます。個人得点は、以下のように計算し、必要に応じて開示します。講義時間中の迷惑行為（理由のない遅刻、睡眠、携帯電話の使用、私語など）は、個人得点からそのつど差し引きます。
教 科 書 参 考 書 等 そ の 他	各受講者の個人得点=中間テスト（必修課題）の得点合計+小テスト（任意提出課題）の得点合計±受講態度 特に指定しません。 必要に応じて、講義時間内に指示致します。 毎時間プリントを配布します。

専門教育

履修コード	431801
科目名	コンテンツファイナンスI
担当者名	山口 浩

講義のねらい	映画、アニメ、ゲーム等のコンテンツビジネスにおいて、ファイナンス（資金調達）は重要な要素である。この授業では、ファイナンスの基礎知識や理論を理解し、それらをコンテンツビジネスの分野に適用する。
講義の内容・授業スケジュール	コンテンツファイナンスIでは、主に、ファイナンスを学ぶうえで前提となるさまざまな基礎知識や理論について学ぶ。
履修上の留意点	「コンテンツファイナンスII」と併せて履修すること。 「グローバル経営論I」を履修し単位を取得していること。「コンテンツ・ビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していること。 必要に応じて電卓やパソコンを使うことがあります。
成績評価の方法	小テスト（毎回）計100% その他授業への参加状況に応じプラスアルファ。（ただし上限100%）
教 科 書 参 考 書 等	井出正介・高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」日本経済新聞社。 ISBN: 4-532-13312-2 その他必要に応じ指定。 監査法人トーマツ編「コンテンツビジネスマネジメント」日本経済新聞社。 ISBN: 4-532-31093-8 その他必要に応じ指定。

履修コード	431901
科目名	コンテンツファイナンスII
担当者名	山口 浩 <small>やまぐち ひろし</small>

講義のねらい	映画、アニメ、ゲーム等のコンテンツビジネスにおいて、ファイナンス（資金調達）は重要な要素である。この授業では、ファイナンスの基礎知識や理論を理解し、それらをコンテンツビジネスの分野に適用する。
講義の内容・授業スケジュール	コンテンツファイナンスIIでは、コンテンツファイナンスIで学んだ知識や理論をふまえ、各分野のコンテンツビジネスのファイナンスについて、可能な限り具体的なケースを用いて学ぶ。
履修上の留意点	「コンテンツファイナンスI」と併せて履修すること。 「グローバル経営論I」を履修し単位を取得していること。「コンテンツ・ビジネス論」または「メディアと企業」のいずれかを履修し単位を取得していること。 必要に応じて電卓やパソコンを使用することがあります
成績評価の方法	小テスト（毎回）計100% その他授業への参加状況に応じプラスアルファ。（ただし上限100%）
教科書	井出正介・高橋文郎著「ビジネス・ゼミナール 経営財務入門」日本経済新聞社。 ISBN: 4-532-13312-2 その他必要に応じ指定。
参考書等	監査法人トーマツ編「コンテンツビジネスマネジメント」日本経済新聞社。 ISBN: 4-532-31093-8 その他必要に応じ指定。

履修コード	432001
科目名	情報メディア産業論I
担当者名	福家 秀紀 <small>ふけ ひでのり</small>

講義のねらい	インターネットをはじめとした様々なネットワークの特性を理解するとともに、ブロードバンド・インターネットの急速な普及により大きく変化している、日本の情報メディア産業の現状と課題を理解することを目的とします。
講義の内容・授業スケジュール	(1) 情報メディア産業とは、(2)～(3) 情報メディア産業を理解するためのキーワード、(4) 電気通信、(5) 放送、(6) 携帯電話、(7)～(8) インターネット、(9) 新聞、(10) 出版、(11) 広告、(12) 映像コンテンツ、(13) 音楽、(14)～(15) まとめ
履修上の留意点	情報メディア産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などの情報メディア関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。また、レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講してください。
成績評価の方法	授業中に実施する小テスト、レポート、定期試験、および出席状況を総合的に評価します。
教科書	特に指定しません。
参考書等	・村井純、『インターネット』、岩波書店、650円、4-00-430416-4 ・湯浅正敏他、『メディア産業論』、有斐閣、1,800円、4-641-17311-7 ・梅田望夫、『ウェブ進化論 本当の進化はこれから始まる』、筑摩書房、740円、4-480-06285-8 ・その他講義の中で適宜紹介します。
その他	レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	432101
科目名	情報メディア産業論II
担当者名	福家 <sup>ふけ</sup> 秀紀 <sup>ひでのり</sup>

**講義のねらい** インターネットのブロードバンド化・モバイル化に伴う情報メディア産業の新しい展開とそれが生み出した新たなビジネス、情報交流、社会的機能の現状分析、および評価を行うことを目的とします。

**講義の内容・授業スケジュール** (1)～(4) 情報メディア環境の変化、(5) 情報メディア産業の構造変化、(6) ピア・トゥ・ピア通信とCGM、(7) ロングテール現象と情報メディア、(8) デジタル情報の特性、(9)～(12) 情報メディア産業の課題、(13) 次世代ネットワーク (NGN) の意義、(14)～(15) まとめ

**履修上の留意点** 情報メディア産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などの情報メディア関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。また、レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講してください。なお原則として、情報メディア産業論Iの履修済みを前提とします。

**成績評価の方法** 授業中に実施する小テスト、レポート、定期試験、および出席状況を総合的に評価します。特に指定しません。

**教科書**

**参考書等**

・佐々木俊尚、『グーグル Google 既存のビジネスを破壊する』、文芸春秋社、760円、4-16-660501-1

・篠森ゆりこ訳『ロングテール』、早川書房、1,700円、4-15-208761-7

・その他、授業中に適宜紹介します。

**その他**

レジュメを配布する他、政府の各種審議会の報告書や新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	432201
科目名	ネットワークコミュニケーション論
担当者名	<sup>すがや</sup> 菅谷 <sup>みのる</sup> 実

講義のねらい

社会のコミュニケーション活動を支える情報ネットワークの基礎的知識の修得とネットワークの進化が社会のコミュニケーション活動にどのような影響を及ぼしてきたかを明らかにすることを目的としている。具体的には、人的組織、物理的ネットワーク、情報ネットワークの歴史、仕組み、機能、運営等を明らかにする。

前半は、「ネットワークとコミュニケーション」というテーマで、社会的コミュニケーション活動とネットワークの関係を明らかにする。具体的には、組織とネットワーク、組織コミュニケーション、ネットワーク産業の特質などを論じる。

後半は、「情報ネットワーク発展の歴史」を、各ネットワーク産業ごとに明らかにする。具体的には、郵便、交通、通信、放送、インターネットなどのネットワークの発展過程を論じる。まとめの部分においては、今後、ますます進化が期待されている「ネットワークの融合と社会的コミュニケーション」を取り上げる。具体的には、融合化が進むネットワーク環境のなかで社会的コミュニケーション活動がどのような影響を受け、変容していくかを展望する。

講義の内容・  
機軸スケジュール

第1部 ネットワークとコミュニケーション

1. ネットワークと経営
  - 企業経営とは
  - 企業活動にとっての情報基盤の重要性
  - クローズネットワークとオープンネットワーク
2. 企業組織とネットワーク
  - 企業組織
  - 組織コミュニケーション
3. ネットワーク産業の特質
  - ネットワーク産業の構造
  - ネットワーク産業の変容

第2部 情報ネットワーク発展の歴史

4. 郵便制度
  - 物流と情報流を支える流通ネットワーク
  - 郵便サービス
  - 郵便局
  - 民営化
  - 情報ネットワークとしての郵便ネットワーク
5. 交通ネットワーク
  - 貨物輸送
  - 国内旅客輸送
  - 国際輸送
6. 放送ネットワーク
  - 放送ネットワーク種別
  - 放送規制
  - テレビ放送ネットワークの発展
7. 通信ネットワーク
  - 通信事業者の種別
  - 通信ネットワークの構造
  - 制度の変容
8. インターネット
  - 発展の歴史
  - ブロードバンドネットワーク
  - ネットワーク機能

第3部 ネットワークの融合

9. ネットワークの融合
10. ネットワークの高度化と経営環境の変化

講義には毎回出席してください  
平常点と期末テスト  
特に指定しません  
公益事業学会編『日本の公益事業』白桃書房。  
その他 初回講義時に紹介します。

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等



履修コード	432301
科目名	グローバルメディアガバナンス論
担当者名	西岡 洋子

**講義のねらい** 本講義では、インターネットを含む電気通信およびコンテンツ流通に関するグローバルなガバナンスの問題を扱う。中心的な役割を果たす国際組織の役割を理解するとともに、過去および現在の主要な論点を理解する。

なお、本講義は、Integrated Media and Technology Reading and Discussion sections (IM & TR & D) でも、“Global Media Governance “として科目を設けている。併せて履修することで本講義の理解および関連英語能力の向上に効果的である。

**講義の内容・授業スケジュール**

1. イントロダクション
2. 電気通信（インターネットを含む）をめぐる議論  
ITU、ICANN、IETF、WTOなどの関連主要国際機関の歴史と機能
3. コンテンツ流通をめぐる議論  
WIPO、UNESCOなどの関連主要国際機関の歴史と機能

**履修上の留意点**  
**成績評価の方法**  
**教科書**  
**参考書等**

メディア政策論または、同様の科目を履修していることが望ましい。  
テスト、レポート、平常点などで総合的に判断する。  
講義中に指示する。  
講義中に指示する。

履修コード	432401
科目名	比較メディア制度論
担当者名	西岡 洋子

**講義のねらい** 放送の世界的な競争の歴史を理解するとともに、日本、米国、EU主要国、韓国などの放送制度とその変化の方向性について、特徴および制度形成の背景を理解する。また、適宜、日本との比較を行うことで、各国の制度が互いに影響し合っていることを理解する。

**講義の内容・授業スケジュール**

- (1) 本講義のアプローチ
- (2) 世界の放送の歴史
- (3) 日本の放送制度  
放送制度の概要と意義  
通信と放送の融合に対応した制度改革
- (4) 米国の放送制度
- (5) EU主要国の放送制度
- (6) 韓国の放送制度
- (7) まとめ

**履修上の留意点**  
**成績評価の方法**  
**教科書**  
**参考書等**

メディア政策論または同様の講義を受講していることが望ましい。  
テスト、レポート、平常点などで総合的に判断する。  
講義中に指示する。  
講義中に指示する。

履修コード	432501
科目名	都市とメディア
担当者名	高 媛

**講義のねらい** 都市は、種々のメディアが実践する場であると同時に、メディアによって紡ぎ出されたイメージ群から構成される空間でもある。本講義は、都市とメディアに関する基本的な理論を提示した上で、映画、CM、ドラマ、流行歌などに登場する多様な都市像を具体的に検討しながら、都市とメディアとの関係性を読み解いていく。

**講義の内容・授業スケジュール**

東京タワー、ディズニーランド、チャイナタウン、ファッションビルなどの事例を手がかりに、都市とメディアの関係を国家、権力、ジェンダーのさまざまな角度から読み解いていく。

**履修上の留意点**

講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

**成績評価の方法**

出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（7割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

**教科書**  
**参考書等**

特に指定しない  
・吉見俊哉『都市のドラマトゥルギー——東京・盛り場の社会史』（弘文堂、1987年）、2,300円、ISBN：4335550294  
・町村敬志・西澤晃彦『都市の社会学』（有斐閣、2000年）、2,300円、ISBN：4641121036

**その他**

講義形式

履修コード	432601
科目名	グローバルアート政策論
担当者名	かわさき けんいち 川崎 賢一

**講義のねらい** 現代文化システムの特徴・機能・可能性、について、文化政策 (cultural policies) 特に芸術文化政策をキーワードとして論じる。文化的グローバリゼーションにより、国家単位の文化システムが、越境的・グローバルな展開を遂げつつある、その中核的な機能を果たしている。その成立過程、展開・普及過程、そして将来の可能性を展望する。

**講義の内容・授業スケジュール** 文化政策のオリジナルを、西欧諸国等にイギリスとアメリカに求め、その歴史と展開を概観する。その後1980年代以降のグローバルな展開を、アジア諸国への普及を例とし、比較の観点から概説する。

<スケジュール>

1. イントロダクション
2. 文化政策とは何か？その期限と展開の概略
3. ファインアートカルチャーとポピュラーカルチャー
4. 文化階層と文化政策
5. 文化政策の3タイプ：アメリカ型
6. 文化政策の3タイプ：アジア型(シンガポールと中国(その1))
7. 文化政策の3タイプ：アジア型(シンガポールと中国(その2))
8. 文化政策の3タイプ：中間型 (イギリス)
9. 文化政策の3タイプ:(中間型(フランスとイタリア))
10. 文化政策の3タイプ:中間型(他のヨーロッパ諸国)
11. 文化政策の3タイプ：中間型(日本)
12. 文化政策と国際文化交流
13. 文化政策と文化産業のシナジー
14. 文化政策の限界と可能性
15. まとめ

**履修上の留意点** 授業以外に、文化政策について調べてもらう予定である。  
**成績評価の方法** 学期末のテスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平常点・出席点等を加算する。

**教科書**

**参考書等**

授業の中で指示する。  
川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年  
佐々木・川崎・河島（共編）、「グローバル化する文化政策」、勁草書房、2007年

履修コード	432701
科目名	グローバル創造都市論
担当者名	川崎 賢一

講義のねらい

文化的グローバリゼーションを推進する中核的なトレンドは、創造都市 (Creative Cities) ないし創造産業 (Creative Industries) である。本講義では、創造都市とは何か、どのように成立し、どのように発展しつつあるかを、具体的な例 (ロンドン・ニューヨーク・東京・香港・シンガポール、など) を例にとって、紹介・説明する。

講義の内容・授業スケジュール

授業は講義形式で、3つの内容からなる。創造都市と創造産業の成立とその機能。文化的グローバリゼーションに関連付けて、どのように発展したかについて具体的な例を挙げて説明する。最後に、将来的な可能性と問題点について考察する。

〈授業スケジュール〉

1. イントロダクション：予備的考察とキー概念
2. 何のためのグローバル創造都市か？なぜ、グローバル創造都市が生まれたのか？：グローバリゼーションとグローバルシティ、創造都市
3. 誰がグローバル創造都市を造るのか？：文化階層と文化資本
4. ロンドン
5. ニューヨーク
6. 東京
7. シンガポールと東南アジアの主要都市
8. 中国都市圏
9. 東京と京都
10. 日本のグローバル創造都市：金沢・横浜・大阪
11. ローカルとネイティブ
12. トランスナショナルの重要性：EUとASEAN
13. 新しいコスモポリタニズムと中間層
14. グローバル創造都市の限界と可能性
15. グローバル創造都市論：まとめ

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

授業以外に、創造都市について調べてもらう予定である。  
学期末テスト、あるいは、学期末のレポート、プラス、平均点・出席点等を加算する。  
授業の中で指示する。  
川崎賢一、「トランスフォーマティブ・カルチャー」、勁草書房、2006年  
佐々木雅幸、「創造都市への挑戦」、岩波書店、2001年  
J. Florida, The Rise of Creative Class, Basic Books, 2002

専門教育

履修コード	432801
科目名	グローバル交流論
担当者名	芝崎 厚士

講義のねらい

・国境を越えたトランスナショナル・グローバルな交流の諸相に関する基礎文献の検討をもとに、ヒト・モノ・カネ・情報など多種多様な分野における交流がもたらす問題を考える。  
 ・将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文をもとに、小テストや関連するメディアの分析などを交えつつ、解説を施す。

講義の形式：（１）授業支援システムから、各回の課題文献を入手する。（２）出席者は課題文献を、当日までに通読しておく。（３）当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス&イントロダクション
- 2回目 グローバル交流の枠組 1
- 3回目 グローバル交流の枠組 2
- 4回目 グローバルな交流の理論 1
- 5回目 グローバルな交流の理論 2
- 6回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 1
- 7回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 2
- 8回目 ケーススタディ 近代日本とグローバル社会 3
- 9回目 文化・思想の交流 1
- 10回目 文化・思想の交流 2
- 11回目 ヒト・モノ・カネの交流 1
- 12回目 ヒト・モノ・カネの交流 2
- 13回目 グローバルな交流とメディア 1
- 14回目 グローバルな交流とメディア 2
- 15回目 まとめ

※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。

履修上の留意点

・予習を前提として授業が進むので、予習（文献をひとつお読みしておくこと）を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。

・文献は授業支援システムからダウンロード入手すること。

成績評価の方法

（１）出席点兼毎回回収される答案用紙による平常点（70%）とブック・レポート（30%）により評価。

教科書  
参考書等  
その他

開講時に指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

授業中に随時指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

・2年生以上を対象とするが、事前に予習が必要なので、2年生で時間的に余裕のない学生は3年次以降に履修することを推奨する。

・3年生以上で、卒論やゼミ論のための読み・書き・考える力を本気でつけたい学生には、本講義への参加を推奨する。

・前期「グローバル交流論」では学術論文の読み方を重点的に学び、後期「グローバル市民社会論」ではより実践的な文献をとりあげる。どちらから履修しても構わないが、両方履修するとより効果が高まる。

履修コード	432901
科目名	異文化間コミュニケーション論
担当者名	高 媛 <small>こうえん</small>

**講義のねらい** 本講義では、「異文化現象」を多角的に取り上げ、異なる文化間の「境界線」がいかに社会的に作り出されてきたかを批判的に問い、「異文化」に向ける私たち自身のまなざしを再考する。

**講義の内容・授業スケジュール** 民族、国家、宗教、言語、階級、ジェンダー、身体といった諸テーマに沿って、多言語・多ジャンルの映像資料を交えながら、グローバル時代における異文化間コミュニケーションの技法を解説する。

**履修上の留意点** 講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

**成績評価の方法** 出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（7割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

**教科書** 特に指定しない

**参考書等** ・岩瀬功一『トランスナショナル・ジャパン——アジアをつなぐポピュラー文化』（岩波書店、2001年）2,800円、ISBN: 4000241184  
・ロバート・G.リー著、貴堂嘉之訳『オリエンタルズ——大衆文化のなかのアジア系アメリカ人』（岩波書店、1999=2007年）、4,400円、ISBN: 4000223909

**その他** 講義形式

履修コード	433001
科目名	グローバルシティズンシップ
担当者名	金山 智子 <small>かなやま ともこ</small>

**講義のねらい** グローバル社会が現実のものとなっていく一方で、国民国家間の境界がますます意識されるようになってきました。戦争やテロ、環境や開発問題、貧困や情報格差など、グローバルな解決が求められる社会的正義の問題が増加する中で、一国民ではなく、グローバルシティズンとしても意識や関わりが求められるようになってきています。本講義では、グローバルシティズンとしてどのようなアプローチをとるべきかについて、メディアとの関わり、特にNPO・NGOや市民による情報発信の事例などをもとに、日常的なコミュニティレベルから、地球市民レベルに向けた情報の受発信を考察し、そこから具体的なアクションへつなげていくために何が必要かを議論していきます。

**講義の内容・授業スケジュール** 授業では、グローバルシティズンシップとは何かという基礎的な考えについて理解します。また、環境、貧困などグローバルなテーマを題材として、その問題がどのような形でグローバルにディスカッションされているのかを考察します。メーリングリスト、ブログ、SNS、インターネット新聞や放送、ウェブサイトなど、さまざまなネットによるグローバルなディスカッションや対話について、その現状と問題などをみていきます。また、関心のあるテーマに関するイベントや活動への参加し、報告してもらいます。

<授業スケジュール>  
1回——ガイダンス  
2回——グローバルシティズンシップとは  
3-4回——グローバルな視点と問題  
5回——グローバル化された世界におけるシティズンシップ  
6-8回——人権  
9-11回——環境と開発  
12-13回——平和と安全  
14回——UNとグローバルガバナンス  
15回——社会企業家

**履修上の留意点** グローバルな問題に関心がある学生、様々なイベントや活動への参加、関連映画や写真展の鑑賞、関連誌の購読など、積極的な姿勢のある学生を望みます。英語の文献やウェブサイトも使用します。

**成績評価の方法** 出席、小レポート、および最終課題による総合評価

**教科書** 関連資料を配布します。

**その他** 人権や環境などの問題に取り組んでいる現場関係者を招聘する予定です。

履修コード	433101
科目名	グローバル英語概論
担当者名	<small>まちだ なおこ</small> 町田 尚子

講義のねらい

世界の共通語としての英語を、共時的観点と通時的観点から見ていきます。母語としての英語、第二言語あるいは公用語としての英語、外国語としての英語の三層を概観し、現代の英語の多様性を考察します。英語を母語としない私たちが共通語として使用する標準的、ニュートラルな英語の周りには、さまざまな英語が通用していることにも目をむけ、英語の多様性への理解を深めるとともに、英語を母語としない人々と英語を共通語とすることの意味を考えます。

講義の内容・授業スケジュール

以下のタイトルで講義を進めます。

- I. Introduction: What is English?
  1. English as a Global Language and International Varieties of English
  2. Historical background: The history of the English language is the history of invasions
  3. American English vs British English
  4. Other varieties
- II. Vocabulary
  1. Borrowing
  2. Why does English have more words of Romance language origin than those of Germanic origin?
  3. Synonyms
- III. Pronunciation
  1. Modern English sounds: vowels and consonants
  2. Old English and Middle English sounds
  3. The Great Vowel Shift
  4. Variations
- IV. Grammar
  1. How were inflections simplified in English?
  2. New grammatical features: word order, prepositions and modal auxiliaries
- V. Registers
  1. Style of speech
  2. Standard and non-standard English
- VI. English and the Internet

履修上の留意点  
成績評価の方法

英語教員免許の取得を考えている学生は2~3年次で履修しておく必要があります。後期半期科目なので、講義が中心ですが、作業課題レポート提出が2回ないしは3回あります。その成績と定期試験の成績を総合して評価点を出します。

教科書

・ Crystal, David (2002) The English Language, 2nd edition. Penguin Books (ISBN 0141003960)

参考書等

- ・ Blake, N. F.(1996) A History of the English Language, London: Macmillan (ISBN 0333609840)
- ・ Bragg, Melvyn (2004) The Adventure of English: The Biography of a Language, Arcade Publishing. (ISBN 1559707100)
- ・ Crystal, David (1997) English as a Global Language, Cambridge: Cambridge University Press. (ISBN 0521530326)
- ・ Crystal, David ( 2004 ) The Stories of English, Allen Lane (ISBN 0713997524)
- ・ Crystal, D. ( 2003 ) The Cambridge encyclopedia of the English language (2nd ed), Cambridge University Press (ISBN 0521530334)
- ・ 本名信行 編 (1990) 『アジアの英語』くろしお出版 (ISBN 4874240488)

その他

欠席する場合はメール等で連絡し、プリント教材、課題の指示を受けること。連絡変更事項はKOM SYの講義内容詳細修正に記載します。授業前に必ず確認して下さい。

専門教育

履修コード	433201
科目名	英語圏文学概論
担当者名	佐藤 <sup>キョウ</sup> アヤ子

講義のねらい 「世界文学」という言葉さえ使われる昨今、文学の世界の境界はますます低くなっています。英語はイギリス、アメリカのみならず、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、カリブ諸国、およびアフリカ、アジア等の一部の国々で公用語として用いられています。本授業では、「英語圏文学」という文学地図で英語圏の文学を講義します。

講義の内容・授業スケジュール 今日世界で生活する人々の四分の三以上の生活は、過去の植民地主義体験によって形作られたものであるとされています。世界の英語圏の国々も、かつてはイギリスの植民地でした。そして、このことがさまざまな民族の知覚や認識の枠組みに与えた影響は計り知れません。本授業では、こういった時代背景を学びながら、アメリカ、カナダ、オーストラリア、カリブ諸国およびアフリカで今日活躍する英語圏作家が提示するさまざまな問題を考えていきます。

履修上の留意点 上記にあげた英語圏の国々の代表的な作品を読みます。授業で取りあげる作品は事前に読んでおくこと。

成績評価の方法 連続して授業に出席することを受講の条件とし、授業への参加、各作品ごとに提出してもらったレポート等を総合的に評価します。

教科書 教材として使用する作品は開講時に指示します。プリントも使用。  
参考書等 ビル・アッシュクロフト他著『ポストコロナルの文学』（青土社）

履修コード	433301
科目名	NPO/NGOとメディア
担当者名	<sup>カナヤマ</sup> <sup>トモコ</sup> 金山 智子

講義のねらい この10年、市民が社会のさまざまな問題を解決するためにボランティアな形態で社会活動に参加し、それによってよりよい社会を構築しようとする流れが見られるようになりました。その中で中心的な役割を果たしているのは、市民グループ、NPO、NGOです。一般企業に目を転じてみても、NPO・NGOとのパートナーシップを通じた社会貢献（CSR）活動に積極的に参画しようとする動きがみられます。このような活動では、メディアの活用がますます重要になっています。市民によるメディア活用だけでなく、コピーライターやクリエイターらが先導する活動（例えば、おそうじプロジェクト、100万人のキャンドルナイト、ほっとけない世界のまずしさなど）もひとつのソーシャル・ムーブメントとなっています。講義では、市民、NPO・NGO、企業などの社会活動におけるメディア活用について、最近の事例を交えながらその現状と問題点について考えます。

講義の内容・授業スケジュール 本講義では社会運動から市民活動についての歴史やパブリック・コミュニケーションといった基本的な知識について学び、さまざまな市民のメディア活用や新しいソーシャル・ムーブメントについて、具体的な事例をもとに分析・考察していきます。また、関連イベントへの参加を通して、実際に体験してもらいます。

- <授業スケジュール>
- 1回――ガイドンス
  - 2-3回――市民活動の台頭
  - 4-6回――NPO・NGOによる情報発信～PR
  - 7-9回――NPO・NGOによる情報発信～アドボカシー
  - 10-11回――ソーシャル・ムーブメント
  - 12回――CSR
  - 13-15回――分析発表

履修上の留意点 テーマに関心を持ち、関連イベントやボランティアなど積極的に参加する学生を望みます。

成績評価の方法 出席、参加度、および分析報告による総合評価

教科書 関係資料を配布

その他 市民活動関係者やNPO/NGO関係者を招聘する予定です。

専門教育

履修コード	433401
科目名	グローバル市民社会論
担当者名	芝崎 厚士

講義のねらい

・いわゆるGCS（グローバル市民社会）、TCS（トランスナショナル市民社会）と言われる、NGO、グローバル企業、国際機関、国家などの多様な主体による、近年の国境を超えた諸活動に関する基礎文献をもとに、GCS/TCSとは何か、それが国際関係や世界全体においてどのような役割を果たしているか、といった点について理解を深める。  
 ・「グローバル交流論」と同様、将来レポートや論文を作成する時のために、論文の読み方・書き方・使い方・調べ方を基礎から身につける。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容：毎週特定のテーマに関する論文をもとに、小テストや関連するメディアの分析などを交えつつ、解説を施す。

講義の形式：（１）授業支援システムから、各回の課題文献を入手する。（２）出席者は課題文献を、当日までに一通り読んでおく。（３）当日は、・簡単な小テスト、・解説、・関連するメディアの紹介などを組み合わせて講義を行う。

授業スケジュール

- 1回目 ガイダンス
- 2回目 グローバル経済1 映像分析
- 3回目 グローバル経済2 グローバライザーたち
- 4回目 グローバル経済3 ネオ・リベラリズム批判
- 5回目 地球環境・資源1 映像分析
- 6回目 地球環境・資源2 地球環境問題の国際的取り組み
- 7回目 地球環境・資源3 水・食糧・生命
- 8回目 貧困と開発1 映像分析
- 9回目 貧困と開発2 貧困とは何か
- 10回目 貧困と開発3 開発の理論と実践
- 11回目 紛争と正義1 映像分析
- 12回目 紛争と正義2 民族紛争と難民
- 13回目 紛争と正義3 紛争の原因
- 14回目 グローバル市民社会1 映像分析
- 15回目 グローバル市民社会2 メディアと監視

※取り扱う分野は、受講者の希望等によって、相談の上若干変更する予定。

履修上の留意点

・予習を前提として授業が進むので、予習（文献をひととおり読んでおくこと）を必ずすること。徐々に読み方がわかり、主体的に読めるようになってきます。

・文献は授業支援システムからダウンロード入手すること。

成績評価の方法

（１）出席点兼毎回回収される答案用紙による平常点（70％）とブック・レポート（30％）により評価。

教科書等その他

開講時に指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

授業中に随時指示。授業支援システムの本講義ページを常にチェックすること。

・2年生以上を対象とするが、事前に予習が必要なので、2年生で時間的に余裕のない学生は3年次以降に履修することを推奨する。

・3年生以上で、卒論やゼミ論のための読み・書き・考える力を本気でつけたい学生には、本講義への参加を推奨する。

・前期「グローバル交流論」では学術論文の読み方を重点的に学び、後期「グローバル市民社会論」ではより実践的な文献をとりあげる。どちらから履修しても構わないが、両方履修するとより効果が高まる。



履修コード	433501
科目名	コンテンツデザイン各論I
担当者名	かみやま ともこ 金山 智子

**講義のねらい** コミュニケーション技術の発展により、誰でも手軽に情報やメッセージを発信できる時代になりました。本講義では、市民やNPOがプロデュースする様々なメディアのコンテンツ（フリーペーパー、コミュニティ・ラジオ、インターネット放送局、インターネット新聞、ビデオ、映画など）について考察し、市民が発信するメディア・コンテンツの特徴、社会的な意義、さらに既存のマスメディアとの違いを理解します。

**講義の内容・授業スケジュール** 市民とメディアに関する基本的な知識を学びます。  
受講生は、自分の関心のある市民メディアについて調べ、さらに現場関係者のインタビューや現場の参与観察などを行い、発表します。また受講期間中は、受講生ひとりひとりが市民記者として情報発信する機会をもらいます。

<授業スケジュール>

- 1回----ガイダンス
- 2回----市民メディアとは
- 3回----コミュニティメディア（地域メディア）とは
- 4-5回--CATV
- 6-7回--コミュニティFMラジオ・ミニFMラジオ
- 8-9回--ネット放送
- 10-11回--ネット新聞
- 12回----映像
- 13-14回--フリーペーパー
- 15回----まとめ

**履修上の留意点** 市民メディアや市民の情報発信に興味がある学生、また市民メディアを使う、市民記者として発信するなど、積極的な参加をする学生を期待します。コミュニティ・メディアの見学や関係者らへのインタビューなど、課外活動があります。

**成績評価の方法** 平常点、プロジェクト発表、レポート、参加度（市民記者）の総合評価  
**教科書** 関係資料を配布します。

**参考書等** 金山智子「コミュニティ・メディアーコミュニティFMが地域をつなぐ」慶應義塾大学出版会、2007年

田村紀雄・白水繁彦「現代地域メディア論」日本評論社、2007年

津田正夫「パブリック・アクセスを学ぶ人のために」世界思想社、2006年

松野良一「市民メディア活動ー現場からの報告」中央大学出版部、2005年

履修コード	433601
科目名	コンテンツデザイン演習I
担当者名	かたやま ちろこ 金山 智子

講義のねらい

メディア・メッセージを積極的に読み解くだけでなく、自らがメッセージや情報発信をする力としての「メディア・リテラシー」がますます重要と考えられるようになってきました。本講義では、映像制作実践を通して、より良いメディア・シチズンとしての基礎的な発想、表現、実技能力を身につけることを目標とします。また、映像制作課程において、いろいろな人たちとかかわり、その中で社会や他者に対する理解を深めていくプロセスを大切にしながら、伝えたい人に伝えたいことの難しさと面白さを経験してほしいと思います。  
良い作品は、CATVやウェブTVでの放送を予定しています。

講義の内容・授業スケジュール

- (1) 映像撮影や編集機材の使用方法を学ぶ  
基本的な機材の使い方や映像制作に必要なテクニックをまなびます。
- (2) 映像作品を読み解く  
一般市民が制作した“良い作品”を見て、「誰に何をどのように伝えるか」という意味でのメッセージ伝達について考えます。
- (3) 映像コンテンツを制作する  
個人またはグループで企画・構成・取材・撮影・編集加工といった映像制作課程を体験し、映像コミュニケーションを身につけます。

<授業スケジュール>

- 1回――映像コミュニケーションとは
- 2回――映像制作とは
- 3-5回―映像制作プロジェクト企画・プレゼンテーション
- 6回――映像撮影の基本・機材の使い方
- 7回――撮影実習プロジェクト
- 8-9回―編集機材の使い方・編集の基本
- 10回――実習作品発表
- 11-12回―映像撮影
- 12-13回―映像編集
- 14-15回―映像作品発表

履修上の留意点

チームで制作するため、原則として欠席しないことが前提条件です。  
(3回以上の無断欠席は自動的に不可)  
クラス授業外での作業がかなりあります。  
履修者が定員数(16名)を超えた場合は書類選考となります。

成績評価の方法その他

平常点、映像作品、レポートの総合評価  
映像によるコミュニケーションに興味のある学生、また作品を最後まで仕上げる学生を望みます。  
映像制作技術の有無は全く問いません。

履修コード	433701
科目名	コンテンツデザイン各論Ⅳ
担当者名	高橋 克三

講義のねらい

世界は小さく、よりシンプルになったと考えるか、いや、より複雑になったと考えるかは、その個人や企業がどこまでの広がりをもって世界と関わろうとしているかによる。

最初から世界全体と関わろうとしていた人や企業にとっては、現代の情報革命は、様々な障壁を取り除き、地球を小さく、シンプルにしてくれる魔法の杖の一振りであったろう。しかし、この一振りは、地域の自然や営みと深く関わり、穏やかに生きていこうとしていた人々にも否応無く大量な情報を伴った世界と直接対峙させることになった。

メディアを通して地球規模のサイズに拡張された人間と、田舎町の川のせせらぎや青空をよぎる白い雲の時空に生きる人間を比較すると、メディアが人間の想像力や価値観を規定していくことが十分に理解できるだろう。

しかし、世界は変わった、人間も変わるべきと単純には言えない。コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル（辺境。エッジ）なもの両方から生まれるからである。コンテンツの根本には、幸せや感動があることは言うまでも無い。

講義の内容・授業スケジュール

このフラット化された世界の秩序をメディアの側面から読み解くとともに、自らの感性に依拠したコンテンツを自由に発信するための基礎となる知識と考え方を整理する。

- ・メディアはメッセージである。
- ・フラット化する世界。
- ・テレビ・音楽・映画のコンテンツ制作。
- ・地域から考える。

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

美術館、博物館、コミケなど東京が教材。

出席 40%、質疑応答など講義への参加度 20%、レポート提出 40%

『宇宙船地球号 操縦マニュアル』バックミンスター・フラー ちくま学芸文庫 900円（税別）

『デジタルコンテンツ制作入門』（財）デジタルコンテンツ協会編 オーム社 1,800円（税別）

参考書等

『メディア論』マーシャル・マクルーハン みすず書房 5,800円（税別）

専門教育

履修コード	433801
科目名	コンテンツデザイン演習Ⅳ
担当者名	高橋 克三

講義のねらい

誰にでも小説が書けるし、見やすいデザインを作ることができる。言葉に文法があるように、表現には法則がある。小説、映画、アニメ、視覚的広告などを創造する上で使われている法則を学ぶことは、小説や美術の制作活動をしたことのない人たちが短期間でその創造力を磨くためには一番良い方法である。

人間の想像や物語は意外と典型的である。ウラジミール・プロップは、物語の構造を31のプロトタイプで説明できるとし、C.G.ユングは、世界の神話や昔話が似ていることから元型という概念を提出した。この普遍性の力を的確に使い世界の人々を楽しませているのがハリウッド映画である。

しかし、コンテンツの持つ面白さと力は、普遍性とマージナル（辺境。今風に言うならエッジ）なもの両方から生まれる。

ブルース、タンゴ、ジャズ、ロック、レゲエ、ヒップホップなど、町の一角、それもけして上品なところではなく、悪場所的なところで生まれた音楽が、なぜか世界性を獲得している。マージナルな力である。コンテンツの核心、表現と感動の関係を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

自己を理解し、他者を認識するコミュニケーションの原則を演劇で体験した後、表現の普遍的な法則を学ぶ。創造性とマージナルな力との関係についても検証していく。

- ・演劇によるロールプレイング。
- ・物語の構造。
- ・ビジュアル・コミュニケーションの法則。
- ・学習障害者の作品の力。

履修上の留意点  
成績評価の方法

写真や物語、コラージュ作品を制作する。技術力は問わない。発想力を評価する。

出席 40%

質疑応答など演習への参加度 20%

課題作品提出 40%

教科書

『キャラクター小説の作り方』大塚英志 角川文庫 627円

『ビジュアル・コミュニケーション』藤澤英昭 ダビッド社 1,600円（税別）

参考書等

『知の編集術』松岡正剛 講談社現代新書 720円

『私の体験的ノンフィクション術』集英社新書 佐野真一

履修コード	433901
科目名	実践メディアビジネス講座I
担当者名	各務 洋子・クボタ, L.・山口 浩・リンスキー, M

講義のねらい

メディアやコンテンツに関わる企業に携わる実務家を招き、担当教員と共同で実践的講義を提供する。本講義では、映像、音楽、出版、広告など、技術革新の最も激しい産業群で実務を担う企業人との共同講義により、最先端のコンテンツビジネス、メディアビジネスの現実を紐解く。

講義の内容・授業スケジュール

平成20年度は、いくつかのコンテンツ企業と、株式会社電通による講座である。講座担当者は、映像、音楽、出版、アニメ、ゲーム、ラジオ、通信など、幅広い分野の実務家による実践的な講義を提供する。

履修上の留意点

毎回、テーマごとに異なる実務家が講義を担当します。半期の講座全体を通して一貫したメッセージを深く理解するためには、毎回の出席を大変重視します。1つ1つの講義を理解することにより、半期全体で何を探求しているのかを常に頭に入れて出席して下さい。

成績評価の方法

毎回の講義をレポートにまとめ、最後に全体としての総括を提出してもらう予定。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

履修コード	434001
科目名	実践メディアビジネス講座II
担当者名	川崎 賢一・金山 智子・高 媛・芝崎 厚士・白水 繁彦・手塚 義治

講義のねらい

メディアやコンテンツに関わる企業に携わる実務家を招き、担当教員と共同で実践的講義を提供する。本講義では、対象を広く取り、文化産業・マスコミ産業・NPO/NGO関係者・視聴者団体・社会運動実践者などから最新の事情を講じていただく。

担当専任教員： 川崎賢一、金山智子、芝崎厚士、高媛、白水繁彦、手塚義治

講義の内容・授業スケジュール

講義のねらいは、エンターティメントのコンテンツに関わる吉本興業の歴史を振り返り実践的講義を提供することである。

本講義では、テレビの番組制作者・インターネット関係者・放送作家など吉本関係者からの最新の話題を講じていただく。

平成20年度は、吉本興業からテレビ番組制作の現場のプロが、毎回異なるテーマで吉本興業の歴史を振り返り、どのように変化してきたかを過去・現在・将来のエンターティメントビジネスの問題を講義する。現在の吉本興業が、いかにして只の「お笑い」からマクロ的な「エンターティメント」としてビジネス化したかを講義する

各回の講義テーマ(「吉本興業のエンターティメントビジネス」)

各回の講義テーマ	後期：(水)2限
担当者	テーマ
1 奥 正孝	自分自身が、エンターティメント
2 奥 正孝	エンターティメントの歴史
3 吉本興業	吉本興業の歴史 寄席・文芸部の創設
4 吉本興業	吉本興業の歴史 吉本新喜劇の歴史
5 吉本興業	吉本興業の歴史 ラジオ・テレビ界との連動と所属タレントの動向
6 吉本興業	吉本興業の歴史 ユニット制作とテレビ戦略
7 吉本興業	吉本興業の歴史 テレビ制作会社の創設(アイティエス)
8 吉本興業	吉本興業の歴史 東京進出とマンザイブーム
9 吉本興業	吉本興業の歴史 NSCの創設
10 吉本興業	吉本興業の歴史 吉本会館誕生(NGK)
11 吉本興業	吉本興業 お笑い以外のエンターティメント事業
12 吉本興業	吉本興業 放送作家
13 吉本興業	吉本興業 TVディレクター・TVプロデューサー
14 吉本興業	吉本興業の基本姿勢 社員はプロデューサー
15 奥 正孝	吉本興業の将来 よしもと・クリエイティブ・カレッジの設立

履修上の留意点

毎回、テーマごとに異なる実務家が講義を担当します。半期の講座全体を通して一環したメッセージを学ぶためには、毎回の出席を大変重視します。1つ1つの講義を理解することにより、半期全体で、メディアビジネスの集大成がどのようなものかを常に頭に入れて出席してください。

成績評価の方法

毎回の講義をレポートにまとめ、最後に全体としての総括を提出してもらう予定。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

履修コード	434101
科目名	メディアとデータベース
担当者名	石橋 直樹

講義のねらい

データベースは、コンピュータの記憶空間に散在する膨大なデータから情報検索者が適切なデータを容易に検索する機能を提供する。近年、インターネット、Web の目覚ましい発展により、広域ネットワークに多種多様なデジタルコンテンツが提供されるようになってきた。本講義では、データベースの基礎的な概念、構成を学ぶと同時に、広域ネットワーク上に散在するデジタルコンテンツをコンテキストや感性などを用いて検索可能とする将来のデータベース像についても言及する。

講義の内容・  
授業スケジュール

本講義は、プログラミング言語 Perl の演習を通じ、WWW環境を対象としたソフトウェア開発の過程を学ぶことを目的として、次のスケジュール（予定）で行う。

1. 導入 - データベースとは何か
2. リレーショナルデータベースの構造
3. リレーショナルデータベースの応用
4. リレーショナルデータベース実習
5. オブジェクト指向データベースの構造
6. マルチメディアデータベースと感性情報処理
7. データベース設計・構築実習
8. Web Database 事例1 - 掲示板の構築
9. Web Database 事例2 - サーチエンジンの構築
10. まとめ

履修上の留意点

情報リテラシー実習を履修済みであることに加え、コンピュータワークショップを履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法

毎回の講義におけるミニレポート、学期末に作成するプログラムに関するレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

教科書

Web において電子教材を提供する。

参考書等

講義中において教材を指定する。

その他

本講義は、講義と実習をあわせた形式で行う。

専門教育

履修コード	434201
科目名	コンテンツデザイン概論
担当者名	岡田 智博

講義のねらい

これからコンテンツに関わる諸君に向けて、社会やビジネスとコンテンツを扱う人との間の関係やそれを取り巻く環境について基本的な理解を自身で行うための材料を提供したい。本講座を通じて、諸君がこれから経験していくことになるであろうダイナミズムに富んだコンテンツを取り巻く生々しい現実の中での処方方の「デザイン」をこの講座を通じて自身の手で組み立ててもらいたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

コンテンツを取り巻く現在進行中の事象やワークモデルの構造を論じてゆく。内容は諸君の理解度に応じて柔軟に変える。

履修上の留意点

講義において出てきた事象などで分からなかったり、触れたことの無いものであったら、必要な限り自身で体験し、自身の力で理解するトレーニングをしてもらいたい。

成績評価の方法

試験において、授業において思考するために提供した材料をもとに課題を提供する。課題に対する理解と思考力を成績評価の主たる判断材料とする。授業では随時、試験に準じたロールプレイを行い、諸君の学びのベンチマークとして考慮する。

教科書

プリント等で随時提供する。

参考書等

参考書を求めなくとも学べるよう設計するが、授業中にでたURLやイベント、コンテンツや書籍に対し、関心を持ったならば目を通したり体験するように。

その他

本講座は覚えるものではなく、理解し考えることに主眼を置いている。授業中においては記録することよりも、自身の力で理解し、考えることに注意を払ってもらいたい。

履修コード	434301
科目名	情報保護と社会
担当者名	苗村 憲司

講義のねらい

社会活動の全般的な情報化が進展するのにしたがって、情報の価値が増大している。小説、映画、音楽、コンピュータプログラム、データベース、マルチメディア情報等のように経済的価値がありしかも公開された情報については、著作権法等の知的財産権法による保護に適している。企業秘密やプライバシー情報のように経済的価値がありしかも非公開の情報についてはセキュリティ上の対策が必要になる。また、危険な情報から子供を守るための対策も必要となる。この科目では、日本の知的財産戦略および情報セキュリティ政策との関連を含め、情報保護のニーズとこれに対応する種々の社会的方策について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- ①情報化社会における情報の価値とその保護の必要性
- ②知的財産権の保護に関する政策と技術（1. 知的財産戦略）
- ③知的財産権の保護に関する政策と技術（2. 著作権制度）
- ④知的財産権の保護に関する政策と技術（3. 著作権保護技術）
- ⑤知的財産権の保護に関する政策と技術（4. 産業財産権の保護と課題）
- ⑥知的財産権の保護に関する政策と技術（5. 営業秘密の保護と課題）
- ⑦情報セキュリティに関する政策と技術（1. 個人情報保護政策）
- ⑧情報セキュリティに関する政策と技術（2. 情報セキュリティ政策）
- ⑨情報セキュリティに関する政策と技術（3. 情報セキュリティ・マネジメント）
- ⑩情報セキュリティに関する政策と技術（4. 暗号技術）
- ⑪情報セキュリティに関する政策と技術（5. 情報セキュリティ技術の高度化と応用）
- ⑫グローバル環境における情報保護の課題（1. 国際機関の果たす役割）
- ⑬グローバル環境における情報保護の課題（2. 有害情報からの児童の保護）
- ⑭グローバル環境における情報保護の課題（3. 情報保護の新たな展望）
- ⑮まとめ

成績評価の方法

- 次の2項目を総合して評価する。
1. 授業時間に行うミニテストの成績（合計30点）
  2. 期末試験の成績（70点）

教科書  
参考書等

<http://www.komazawa-u.ac.jp/naemura/ps/> 上に電子教材を提供する。  
電子教材の中で参考書を紹介する。

専門教育

履修コード	434401
科目名	Eコマース論
担当者名	大場 みち子

講義のねらい

さまざまなネットビジネスについて、一通りの知識を習得し、これからのネットビジネスのアイデアを考える能力を身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

Eコマースの中心となっているネットビジネス全般および関連する情報システムや周辺知識について解説する。代表的なネットビジネスの事例を通してさまざまなEコマースの形態を理解するとともにそこでの課題や今後の発展形を学ぶ。

履修上の留意点  
成績評価の方法

インターネットの利用経験があることを前提条件とする。授業中の私語は厳禁とする。最終試験とレポート、小テストを実施する（合計で60%以上を合格最低ラインとする）。なお、毎回出席をとり、70%以上の出席率を合格最低ラインとする。追加試験は実施しない。

教科書  
参考書等  
その他

「IT Text（一般教育シリーズ）情報システム基礎」オーム社、神沼靖子編著  
必要に応じて資料を配布する。  
講義形式。外部講師による授業を盛り込む。

履修コード	434501
科目名	複合ドキュメント概論
担当者名	吉田 尚史

**講義のねらい** 多種多様なメディアをコンピュータ上で実際に実現可能な状況となり、今後、それらを組み合わせた複合ドキュメントを制作・編集・検索することが重要な技術となる。この講義では、それらを制作・編集・検索を行う要素技術として、XMLを作成および編集を行う方法論、XML対象とした検索の方法論、全文検索技術、ベクトル空間モデルなどについて実習を伴って学習する。また、複合ドキュメントを対象とした分析および可視化を行うためのデータマイニングの技術についても学ぶ。

**講義の内容・授業スケジュール**

第1週～第4週: 複合ドキュメントに関する基礎的な技術

第1回: 複合ドキュメントの導入, SIML: Synchronized Multimedia Integration Language

第2回: 複合ドキュメントの分類, XML: eXtensible Markup Language

第3回: SGML(Standard Generalized Markup Language)とXML

第4回: デジタル放送における複合ドキュメント, 集合論, 線形代数

第5週～第8週: 複合ドキュメントを対象とした検索技術・ベクトル空間モデルの技術

第5回: 全文検索

第6回: マルチメディアデータの検索

第7回: メタデータ, MPEG-7

第8回: Question Answering, メタ検索エンジン

第9週～第13週: 複合ドキュメントを対象とした分析および可視化によるデータマイニング技術

第9回: データマイニングの基礎, 相関ルール抽出

第10回: 時系列分析

第11回: 可視化: Visualization

第12回: クラスタリングとクラシフィケーション

第13回: データマイニングの応用

第14～15週: レポート問題の発表およびレポートの解説

第14回: まとめ, レポート問題発表

第15回: レポート問題解説

その他, 最新情報は, GMS授業支援システム上に公開する.

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

情報リテラシーおよび情報リテラシー実習を履修済みであること.

毎回の講義における出席、2回または3回のミニレポート、および、

期末レポートにより評価する。

**履修上の留意点  
成績評価の方法**

**教科書  
参考書等  
その他**

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

本講義は、講義と各自のノートパソコンを用いた実習を併せた形式で行う。

専門教育

履修コード	434601
科目名	教育環境とメディア
担当者名	齋藤 信男 <small>さいとう のぶお</small>

講義のねらい

情報技術の進展は、人間の本質に深く関係する教育・学習の領域にも深い影響を与えてきた。これは、コンピュータが教育を支援するCAI (Computer Aided Instruction) という分野から始まり、多くの試行錯誤が試みられた。更に、近年ではインターネットの発達とネットワークの高速化により、遠隔地で学習するという e-learning がこの主流となってきている。これは、従来の教育環境を大きく変化させ、大学教育にその学習の規程まで変更を迫るような状況となっている。また、教育産業、教育ビジネスと言われるセクターに対しても、大きな影響を与え、様々な可能性をもたらすことになった。

ここでは、教育、学習という人間の本質に関わる活動を踏まえて、情報技術がどのように関連するのが良いのか、時代や技術の進展を見ながら考察する。また、インターネットという新しいメディアの時代にふさわしい e-learning について、その現状の課題、具体的な教育環境の例示、標準化の課題、実際の応用の例示、学習・教育への影響と効果、など、種々の事項について学ぶ。また、今後の教育環境のあり方を様々な方向から考察し、新しいメディアの時代にふさわしい教育の環境と方法論についてその方向性を示す。

講義の内容・授業スケジュール

- 第一回 情報処理と教育環境の概要
- 第二回 e-learning の具体例とその使用体験演習
- 第三回 e-learning の標準化とその意義
- 第四回 e-learning の標準仕様SCORMの意味
- 第五回 LMS(Learning Management System) の位置づけとその役割
- 第六回 LMSの具体例 moodle とその機能例
- 第七回 教材作成システム (Authoring System) の位置づけとその役割
- 第八回 教材作成システム (Authoring System) の具体例 eXe とその機能
- 第九回 eXe を用いた教材作成の演習
- 第十回 e-learning の具体的システムとその運用例 (大学、企業ほか)
- 第十一回 e-learning の具体的システムとその課題
- 第十二回 e-learning の開発・運用プロセスのモデル
- 第十三回 e-learning の専門家の育成
- 第十四回 良い教材とその開発の演習
- 第十五回 教育環境の将来像とその支援に対する課題

履修上の留意点

LMSとして moodle、教材作成システム (Authroing System) として eXe を使い、具体的な体験をする演習を行う。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他

適宜課す演習レポート、および出席状況から総合的に判定する。  
特に指定しない  
講義の中で紹介していく  
講義形式

専門教育



履修コード	434701
科目名	Webコンテンツ
担当者名	齋藤 信男

講義のねらい

Web は、高エネルギー物理学実験のデータ共有を簡単に行えるようにするという発想から生まれ  
てきたインターネットのキラアプリケーションであるが、これは様々な使い道があり、コミュニ  
ケーションスペース、知識の共有空間、オンラインビジネスやオンラインコミュニティのインフラ、  
共同作業の実践空間など、様々な方向へと発展的に利用されている。ここでは、その基本的な構造  
と機能とをよく理解し、有効なグローバルメディア空間として活用していく方法について習得し、  
また、Web が持つ種々の課題について認識を高める。

具体的には、Web システムの基本アーキテクチャの理解、Web 関連のコンテンツを記述するX  
MLベースの種々の言語の理解、具体的な表示を修飾するスタイルシートとその記述言語CSSの理  
解、エージェントやアプリケーションを記述する言語 JavaScript とそのインターフェースの理解を  
進めていく。

具体的には、以下の項目に取り組んでいく。これらは、Web 標準化の国際組織W3C (World Wide  
Web Consortium) の仕様に基づいて講義をすることを原則とする。

- (ア) Web システムの機能と構造、動的な機能
- (イ) 情報記述言語XMLとその機能、関連言語の現状
- (ウ) 具体的な表示の修飾を担うスタイルシートとその記述言語CSSの体系
- (エ) WEBアプリケーションと JavaScript 言語
- (オ) アプリケーションの設計とAJAX
- (カ) Web の課題と将来の発展方向

講義の内容・  
授業スケジュール

- 第一回 WEBの概要とその標準化
- 第二回 HTMLの復習とXMLについて
- 第三回 CSSの意味とその適用
- 第四回 WEBデザイン支援システムAPTANについて
- 第五回 URI、HTTPとその機能
- 第六回 WEBの動的機能HTTPとCGI
- 第七回 WEBの情報デザインの基礎
- 第八回 WEBの高度な応用：AJAXの基礎
- 第九回 AJAXの意味、DHTMLについて
- 第十回 DOM (Document Object Model) とは
- 第十一回 動的なアプリケーションモデル Google Map API
- 第十二回 Google Map API を利用した演習
- 第十三回 WEBデザインのいくつかの手法
- 第十四回 WEBデザイン演習
- 第十五回 WEBの様々な表現と今後の課題

履修上の留意点

各種言語の習得には、演習的体験が必要であるので、適宜課題を与えて、なるべく実践的な経験  
を積めるようにしていく。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他

適宜課す演習レポート、総合課題、および出席状況から総合的に判定する。  
特に指定しない。  
講義の中で適宜紹介する。  
講義形式

専門  
教育

履修コード	434711
科目名	イスラムと文化
担当者名	奥田 敦 <small>おくた あつし</small>

**講義のねらい** イスラムについて、その教えの基本を念頭におきながら、さまざまな角度から紹介を行い、先入観や偏見にとらわれない、イスラムに対する包括的な理解を深めると同時に、グローバル化時代に生きる人間およびその社会にとって、人類全体に向けられた教えとしてのイスラムの意義を探究していく。アラビア語の用語の紹介なども積極的に行ないたい。

**講義の内容・授業スケジュール** 講義では、次のトピックを扱う。  
 ①宗教と文化 ②アラビア語のススメ ③オリエンタリズムを越えて ④神はどこにいるのか ⑤イスラムとは ⑥人はなぜラマダーンをするのか ⑦イスラム神学のココロ ⑧イスラム法への招待 ⑨イスラムにおける人と人権 ⑩ジハードはテロリズムか？ ⑪イスラムの信仰とスーク経済の精神 ⑫イスラム社会の理想と現実 ⑬イスラム圏との文化交流 ⑭グローバル化時代のイスラム

**履修上の留意点** 講義には必ず出席すること。授業中の私語と飲食は厳に慎むように。  
**成績評価の方法** 講義内容に関する学期中5回のレポートと、出席の状況を中心に評価を行なう予定である。(場合によっては授業態度を考慮することがある)

**教科書** 毎回レジュメを配布する。  
**参考書等** 奥田敦『イスラムの人権』慶應義塾大学出版会、2005年。その他については講義中に案内する。

履修コード	434721
科目名	キリスト教文化
担当者名	豊川 慎 <small>とよかわ しん</small>

**講義のねらい** 本講義では文化を形成する力のひとつとしてのキリスト教を論じる。キリスト教は2000年以上の歴史の中で政治、経済、芸術、教育など多様な文化諸領域に関連し、自由、平等、人権、寛容などデモクラシーの基礎となる価値概念や制度の発展に寄与してきた。本講義ではキリスト教の歴史を概観しつつ、キリスト教と文化をめぐる諸課題を論じる。

**講義の内容・授業スケジュール** <講義キーワード>  
 自由、平等、人権、寛容、戦争と平和、正戦論と平和主義、宗教と暴力、デモクラシー、近代市民社会、職業観、宗教改革と活版印刷術、グローバルイゼーション、愛と正義、赦しと和解、神存在証明、クリスマスの起源など

**履修上の留意点** 授業参加を重視する。単位修得には三分の二以上の出席。  
**成績評価の方法** 授業ごとに書くコメントシート(40点)、レポート試験(60点)  
**教科書** 教科書は使用しない、授業ごとに配布するレジュメに沿ってすすめる。  
**参考書等** 『聖書 新共同訳』、日本聖書協会 その他の参考書は授業で指示する。

履修コード	434731
科目名	韓国の文化と社会I
担当者名	春木 育美 <small>はるき いくみ</small>

**講義のねらい** グローバル社会の中で、韓国や朝鮮半島の諸問題とどのように向きあったらよいのだろうか。情報の受信・発信をいかにすべきだろうか。一緒に考えながら韓国という地域について総合的知識を獲得するのが本講義のねらいである。授業では、その当時の時代背景がよくわかるような映像資料を用い、理解を深めていく。

**講義の内容・授業スケジュール** ① 韓国近代史：朝鮮時代～日本による植民地時代、② 韓国現代史：民主化と韓国社会の変容、③ 韓国と北朝鮮、④ グローバル化と朝鮮半島、  
**履修上の留意点** 上記のテーマに関する研究論文や新聞記事、歴史記述などを輪読・発表しながら演習形式の授業を予定している。

**成績評価の方法** 出席率、授業中の発表、議論参加、期末のレポートによる総合評価。  
**教科書** プリント教材を配布し、適宜参考文献を紹介する。  
**その他** 日常的に日本の新聞や韓国の新聞(日本語のインターネットサイト有り)に目を通し、朝鮮半島に関する最新の情報収集に努めてほしい。

履修コード	434741
科目名	韓国の文化と社会II
担当者名	春木 育美 <small>はるき いくみ</small>

**講義のねらい** 現代韓国の文化と社会について基礎的な知識を習得するとともに、みずからが日韓文化の架け橋になるように、能動的な文化実践者としての視座を養うことが本講義のねらいである。授業では、配布資料の他に、映画やドキュメンタリーなどの映像資料を用い、韓国の文化と社会への理解を深めていく。

**講義の内容・授業スケジュール** ① 言語、思想、宗教のような基底文化、② 韓国社会と儒教：制度、家族、男女関係、③ 日韓文化交流の歴史と文化融合、④ 日本の中の在日韓国、朝鮮人との共生、⑤ 韓国にとって日本とは何か。

**履修上の留意点** 随時、上記のテーマに関する感想や質問を記入してもらい、授業に反映させていく。

**成績評価の方法** 出席率、授業の感想、期末のレポートによる総合評価による。

**教科書** プリント教材を配布し、適宜参考文献を紹介する。

**参考書等** 春木育美『現代韓国と女性』新幹社 2006年、2000円  
澤田克己『「脱日」する韓国：隣国が日本を捨てる日』ユビキタ・スタジオ、2006年、1680円

**その他** 日常的に日本の新聞や韓国の新聞（日本語のインターネットサイト有り）に目を通し、朝鮮半島に関する最新の情報収集に努めてほしい。

履修コード	434751
科目名	国際法
担当者名	山村 恒雄 <small>やまむら つねお</small>

**講義のねらい** 国際社会は、分権的な社会であり、統一政府などは存在しない。そのために、国際社会を規律するルールが複雑になっている。本講義では、その国際社会の基本的なルールの修得を目的とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 講義形式で行う。  
①国際社会の特質について ②国際法について ③国際法主体について ④国家の成立要件について ⑤個人の国際法上の地位について ⑥国家の基本的権利について ⑦外交関係と領事関係について を中心に国際社会の基本的ルールを概説する。

**履修上の留意点** 国際法は、理解が難しいといわれている教科のひとつです。そのため、授業に確実に出席し、理解しようとする心がけるようにすること。

**成績評価の方法** 学期末の筆記試験のみによる。

**教科書** 『国際法入門 第二版』横田洋三編 有斐閣 2000円+税

**参考書等** 出版社や年度は問わないが、『条約集』があれば便利である。

履修コード	434761
科目名	国際協力法
担当者名	山村 恒雄 <small>やまむら つねお</small>

**講義のねらい** 今日では、国際関係が重要なものとなっている。我々の日常生活で関係のある他国との協力関係を規律する基本的ルールについて学習することを目的とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 基本的には、講義形式で授業を行うが、必要に応じて質疑形式を用いる。  
国際協力に関する法制度  
日本の国際協力に関する具体的な法律  
国際協力の主体について  
日本の海外協力の基本となる方針について  
国際機構におけるルール作りについて

**履修上の留意点** 日常的に報道されている国際関係に関するニュースに気を配ること  
努力しようとする意思を持っていること  
課題の提出を厭わないこと  
心をかけることのできる人を希望します

**成績評価の方法** 学期末の筆記試験とレポートで評価を行います。割合は等分とします。

**教科書** とくに指定はしません。

**参考書等** 授業中、必要に応じて指示します。

履修コード	434801
科目名	メディアスタディーズ方法論
担当者名	手塚 義治

講義のねらい

ここで言う方法論とは、知るための方法を指します。本講義では、まず、知識とは何かを問いかね、社会科学における方法論を歴史的に検証したうえで、社会調査の方法、特に質的調査の方法とそれを裏づける認識論について学びます。

講義の内容・  
授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

自然科学と社会科学の認識論および方法論上の違い、量的調査と質的調査の違い等を説明した上で、メディア&カルチュラル・スタディーズでよく採用される社会調査の方法を紹介します。

現代思想に興味のある人で、すでに社会科学の基礎を履修していることが望ましい。

授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価する。

教科書として指定はしないが、この講義は以下を下敷きにしている。

Smith, Mark J. (1998) *Social Science in question*, London: Sage Publications.

グレアム ターナー著、金 智子訳、カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展 (1999)、作品社

ポール・ドゥ・ゲイ他著、暮沢剛巳訳、実践カルチュラル・スタディーズ—ソニー・ウォークマンの戦略 (2000)、大修館書店

参考書等

履修コード	434901
科目名	メディア表現概論
担当者名	手塚 義治

講義のねらい

この講座では、メディアによって意味がいかにか構築されるかを、ソシユールの差異論、ロラン・バルトの記号論、フーコーの力/知識/言説論等によって説明します。メディア（媒体）とは、メッセージ（意味）を伝えるための単純な経路ではなく、メッセージの意味そのものを構築する、送り手と受けての交渉の場であることを理解します。文化とリプレゼンテーション（表徴）の関係を理解し、テキスト（表徴物）分析の基礎となる理論を学びます。

講義の内容・  
授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

メディア&カルチュラル・スタディーズの基礎的な文献を紹介し、テキストの分析方法を紹介します。

現代思想に興味があり、社会科学の基礎をすでに履修していることが望ましい。

授業中の発言、レポート、口頭試問により総合的に評価する。

教科書として指定はしないが、この講義は Stuart Hall (ed) (1997) *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, London: Sage Publications を下敷きにしています。

グレアム ターナー著、金智子他訳、カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展 (1999)、作品社

ポール・ドゥ・ゲイ他著、暮沢剛巳訳、実践カルチュラル・スタディーズ—ソニー・ウォークマンの戦略 (2000)、大修館書店

参考書等

履修コード	435001
科目名	映像コンテンツ論
担当者名	手塚 義治

講義のねらい

資本による文化の疎外を批判する進歩的言説— Culture Industry（文化産業、アドルノ/ホーケイマー、2007）—が、いかに経済の情報化/グローバル化にともない、市場メカニズムそのものを“創造的”とみなし文化の資本化を奨励する“Creative Industry（創造産業）”的言説へと変節していったかを、日本の映画産業史を例にとり説明します。現在の文化産業の状況を批判的に検証する教養を身につけることを目的とします。

講義の内容・  
授業スケジュール  
履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

アドルノ/ホーケイマーの文化産業論、ウォルター・ベンヤミンの複製芸術論等、メディア&カルチュラル・スタディーズにおける基本文献を紹介し、戦後から前世紀末までの日本映画産業史を情報化/グローバル化の文脈から分析します。

現代思想に興味があり、社会科学の基礎を履修していることが望ましい。

授業中の発言、レポート、口頭試問によって総合的に評価する。

教科書としての指定はしないが、この講義は Du Gay, Paul (ed.) (1997) *Production of Culture/ Culture of Production*, London: Sage Publications. を下敷きにしている。

アドルノ/ホルクハイマー著、啓蒙の弁証法—哲学的断想 (2007)、岩波文庫 青 692-1

グレアム・ターナー著、金智子他訳、カルチュラル・スタディーズ入門—理論と英国での発展 (1999)、作品社

ポール・ドゥ・ゲイ他著、暮沢剛巳訳、実践カルチュラル・スタディーズ—ソニー・ウォークマンの戦略 (2000)、大修館書店

参考書等

履修コード	435101
科目名	放送メディア論
担当者名	増淵 敏之

**講義のねらい** 放送メディアが誕生して以降、その力が大きなものになると共に、様々な社会システムに変化を与えてきました。放送メディアの現在までを経年的に追いながら、デジタル化を含めた今後のあり方についても考察していきます。

**講義の内容・授業スケジュール** メディアとしての放送の特性（2～3）放送メディアの歴史（4～6）産業としての放送メディア（7～8）ラジオメディア（9～10）テレビメディア（11～12）コミュニティメディア（13）放送と通信の融合（14～15）

**履修上の留意点** 放送メディアと生活の関わりは密接なものになっています。日常で放送メディア（コンテンツ含む）を客観的に捉える習慣を身につけて下さい。

**成績評価の方法** 学期末レポートと授業内に提出を求める課題を基本に評価します。出席状況も考慮します

**教科書** 特にありません。レジュメを毎回配布します。

**参考書等** 授業内で適宜紹介します。

履修コード	435201
科目名	音楽メディア論
担当者名	増淵 敏之

**講義のねらい** 音楽をメディアとして捉えていくためには、音楽の持つ消費財としての側面と文化的財としての側面を両義的に見ていく必要があります。事例分析を通じて消費者受容の背景にある社会的変化について考察を加えていきます。

**講義の内容・授業スケジュール** メディアとしての音楽（2～3）音楽メディアの歴史（4～6）産業としての音楽メディア（7～8）ヒットの事例分析（9～11）デジタル化による転換（12～13）音楽メディアの新展開（14～15）

**履修上の留意点** ポピュラー音楽を中心に扱っていきます。自分がどのように音楽を受容してきたのかを整理しておいて下さい

**成績評価の方法** 学期末レポートと授業内に提出を求める課題を基本に評価します。出席状況も考慮します。

**教科書** 特にありません。レジュメを毎回配布します。

**参考書等** 授業内で適宜紹介します。

履修コード	435301
科目名	メディア史
担当者名	高 媛

**講義のねらい** 本講義は、重要な視覚メディアの一つである「広告」に焦点を当て、広告史における国家の関与と消費社会との関係を明らかにし、ジェンダー、人種、階級といった様々な角度から、広告の持つ意味を読み解く。

**講義の内容・授業スケジュール** 広告の誕生、戦争ビラとプロパガンダ、商業美術としてのポスター、新聞雑誌広告、ラジオ・コマーシャル、テレビ・コマーシャル、CMソング、公共広告、ネット広告といった諸テーマに沿って進める。

**履修上の留意点** 講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

**成績評価の方法** 出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（7割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

**教科書** 特に指定しない

**参考書等** ・ジャン・ボードリヤール著、今村仁司、塚原史訳『消費社会の神話と構造』（紀伊国屋書店、1995年）、2,039円、ISBN: 4314007001  
・山田奨治『文化としてのテレビ・コマーシャル』（世界思想社、2007年）、3,150円、ISBN:4790712540

**その他** 講義形式

履修コード	435401
科目名	メディアイベント論
担当者名	高 媛 <small>こう えん</small>

**講義のねらい** 芸能人の結婚会見からスポーツの祭典まで、現代社会には、メディアによって報道あるいは創出されるイベントが数多く存在する。本講義では、メディア・イベントの歴史、類型とメカニズムを、国家の権力と消費社会の構造の中で解析していく。

**講義の内容・授業スケジュール** メディア・イベントの基本理論について解説したうえで、紅白歌合戦や流行語大賞、オリンピック、大統領選挙といった具体例を挙げながら進める。

**履修上の留意点** 講義中に取り上げたトピックについて、討論やグループ発表を行うことがあるので、積極的な参加を期待する。

**成績評価の方法** 出席状況、授業への参加度、毎回講義の最後に提出してもらうコメントの内容、レポートによって総合的に評価する。出席重視（7割以上の出席率がC評価のための前提条件とする）

**教科書** 特に指定しない

**参考書等** ・ダニエル・ダヤーン、エリユ・カッツ著、浅見克彦訳『メディア・イベント——歴史をつくるメディア・セレモニー』（青弓社、1996年）、4,200円、ISBN: 4787231154  
・有山輝雄『甲子園野球と日本人——メディアのつくったイベント』（吉川弘文館、1997年）、1,785円、ISBN: 4642054146

**その他** 講義形式

履修コード	435501
科目名	国際移動とメディアI
担当者名	白水 繁彦 <small>しろみず しげひこ</small>

**講義のねらい** 人びとの国際移動やメディアの発達をもたらすグローバリゼーションと文化変容の関係を研究する。地域コミュニティやエスニック・コミュニティが変化するとき、リーダーやメディアはどのような働きをするか。ハワイやブラジル、日本の地域の、具体的な例をあげてわかりやすく説明する。

**講義の内容・授業スケジュール** 第1回目 国を越えて移動する人びと 人の国際移動のはじまり。社会の変化、文化の変化をもたらす国際移動、第2～3回 ハワイにおける新しい文化の創造、第4～5回 ハワイにおける民族の出会いと文化創造、第6回 人の移動とハワイにおける料理の変化、第7回 人の移動と混血児の誕生 新しいアイデンティティ、第8～9回 ハワイの中国人の文化 新しい文化の創造、第10回 在日ブラジル人芸能人のアイデンティティ、第11回 東京・月島のもんじゃとグローバリゼーション、第12回 東京・中野の祭りの創造、第13～14回 移動先でつくるメディア、第15回 まとめ

**履修上の留意点** 教科書を読んでおけば理解できる、比較的わかりやすいテーマです。参加意欲旺盛で、好奇心に富む学生を歓迎します。

**成績評価の方法** 授業時間中にしばしばエッセイを課す。しばしば出欠をチェックする。この両者を平常点とする。この平常点と期末等の定期の試験の結果との両方で前期の成績とする。その割合はおおよそ50：50である。

**教科書** 白水繁彦編『移動する人びと、変容する文化』御茶の水書房、2500円

**参考書等** 白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社  
白水繁彦 2004『エスニック・メディア研究』明石書店

**その他** 授業は講義形式だが、頻繁に質疑応答の時間をもうける。

履修コード	435601
科目名	国際移動とメディアII
担当者名	白水 繁彦

**講義のねらい** メディアのイメージ形成力を明らかにする。メディアは町や組織や民族をどう描いてきたか。それは人びとになにを植えつけてきたか。メディアのイメージ形成のリアリティに迫ります。

**講義の内容・授業スケジュール** 第1回 メディアの機能、擬似環境についての理論、第2回 同上、第3回 ハワイの観光地イメージの形成とメディア、観光産業、第4回 同上、第5回 広告とイメージ形成 広告の理論、第6回 広告とイメージ形成 説得的コミュニケーションの理論、第7回 感性に訴える広告の手法とその分析法、第8回 ワークショップ(実際の広告を見ながら分析してみる)、第9回 各自の分析の報告、第10回 受け手の分析 マーケットのとらえ方、第11回 地域広報の手法、第12回 地域広報の分析、第13回 宣伝の手法、第14回 宣伝の実際、第15回 まとめ

**履修上の留意点** 画像を用いたり、実例を提示するわかりやすい授業を心がけますが、毎回出席しないとわからなくなりますが。学生と質疑のできる双方向の授業にしたいと思います。ですから参加意識の高いかたに受講して頂きたいと思います。

**成績評価の方法** 授業時間中にしばしばエッセイを課す。しばしば出席をチェックする。この両者を平常点とする。この平常点と期末等の定期的試験の結果との両方で前期の成績とする。その割合はおおよそ50:50である。

**教科書** なし。パワーポイント

**参考書等** 白水繁彦 1998『エスニック文化の社会学』日本評論社

**その他** 能動的で積極的で欠席しない人の受講を望む。

専門教育

履修コード	435701
科目名	統合リスクマネジメント論
担当者名	山口 浩

**講義のねらい** 近年、企業をめぐるリスク環境はますます複雑になり、有効なリスクマネジメントの重要性はかつてないほど大きくなっている。しかし、リスクはしばしば同時にチャンスが存在を示すものもあり、またリスクはそれをとらえるフレームワークが適切でなければ管理することはできない。この科目では、企業をとるリスクの状況をさまざまな側面から統合的にとらえることで、企業のよりよいリスクとの付き合い方を考える。

**講義の内容・授業スケジュール** リスクに関する学問分野は幅広い。この科目ではまずそれらを俯瞰し、そのそれぞれについて概要をなぞりながら、企業とリスクの関係を考えていく。定性的および定量的なアプローチの双方をカバーする。

**履修上の留意点** 「コンテンツ・ファイナンスI」及び「コンテンツファイナンスII」を履修し単位を取得していること。  
毎回、事前課題を読んでくるのが前提。大量に読むことを好まない者には不向き。  
定量的な分析を多く取り入れる。計算が嫌いな者には不向き。  
グループ作業によるレポート課題を取り入れる予定。共同作業や、ものを書くことを好まない者には不向き。  
全体として、期限を守れない者、時間にあまり余裕のない者には不向き。

**成績評価の方法** レポート(複数回) 40%  
小テスト(複数回) 40%  
授業中の発言や授業に対する貢献 20%

**教科書** 橋本俊昭・長谷部恭男・今田高俊・益永茂樹編『リスク学入門1: リスクとは何か』(岩波書店) ISBN-13:9784000281317  
東京海上リスクコンサルティング編『図解入門ビジネス 最新 リスクマネジメントがよーくわかる本—トップカンパニーが教える「危機管理学」入門』(秀和システ) ISBN-13: 978-4798007748  
その他、必要に応じ適宜指示。

**参考書等** James R. Evans・David L. Olson 著、服部正太・桑原敬幸・木村香代子・津崎克彦訳『リスク分析・シミュレーション入門— Crystal Ball を利用したビジネスプランニングの実際』(構造計画研究所) ISBN-13: 978-4320097254  
Martha Amram・Nalin Kulatilaka 著、石原雅行・吉田二郎・中村康治・脇保修司訳『リアル・オプション—経営戦略の新しいアプローチ』(東洋経済新報社) ISBN-13: 978-4492601051  
畑村洋太郎著『失敗学実践講義 だから失敗は繰り返される』(講談社) ISBN-13: 978-4062135931  
下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険 改訂版』(有斐閣) ISBN-13: 978-4641183506

履修コード	435801
科目名	ネットワーク経済論
担当者名	福家 秀紀

講義のねらい	情報通信を含むネットワーク産業は、公益事業として政府によって規制されてきたが、1980年以降規制緩和・自由化の中で、新しい発展を遂げてきている。この講義では、ネットワークを理解するための基礎的な経済理論を取り上げて解説し、こうした発展の要因を理解することをねらいとします。
講義の内容・授業スケジュール	わが国の情報通信産業の発展動向に即して、具体的に解説し、身近な変化を解明するツールとしての理論の重要性を示します。具体的なスケジュールは次の通りとします。 (1) ネットワークとは、(2) ネットワークの現状、(3) ネットワークの特性、(4) ネットワークの外部性とデファクトスタンダード、(5) 民営化と競争導入 (6) 参入・退出規制、(7) 料金規制、(8) 相互接続規制、(9) ユニバーサル・サービス、(10) IBM化の進展とネットワーク産業、(11) 融合時代の規制政策、(12) インターネットとコモングの悲劇、(13) コンテンツビジネスとプラットフォーム、(14) ～ (15) まとめ
履修上の留意点	ネットワーク産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などのネットワーク関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。また、レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講してください。
成績評価の方法	授業中に実施する小テスト、レポート、定期試験、および出席状況を総合的に評価します。
教科書	福家秀紀、『ブロードバンド時代の情報通信政策』、NTT出版、3,600円、978-4-7571-0203-3
参考書等	講義の中で適宜紹介します。
その他	レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。

履修コード	435901
科目名	グローバルネットワーク論
担当者名	福家 秀紀

講義のねらい	主権を有する国と国との国境を前提として生まれた国際電話に対して、インターネットはそもそもボーダレスなコミュニケーションのツールとして発展してきた。グローバルなネットワークとして発展してきたインターネットがグローバルなビジネス活動や社会生活にどのような影響を与えているのかを理解することをねらいとする。
講義の内容・授業スケジュール	まず、伝統的な国際ネットワークの仕組みを明らかにした後に、インターネットの発展がどのような経済・社会活動にどのような影響を与えているのかを学習する。具体的には、次のスケジュールに従って進める。(1) 国際通信の仕組み、(2) グローバルネットワークとしてのインターネット、(3) ITUからWTOへ、(4) ～ (5) 米国の情報通信ネットワークの現状、(6) EUの情報通信ネットワークの現状、(7) 韓国の情報通信ネットワークの現状、(8) 中国の情報通信ネットワークの現状、(9) ～ (11) グローバリゼーションとネットワーク、(12) 国際標準化と競争力、(13) 国際的なデジタルディバイド、(14) ～ (15) まとめ
履修上の留意点	ネットワーク産業の変化のスピードは極めて速いので、日頃から新聞、雑誌などのネットワーク関連の記事を読む習慣を身につけておいて下さい。また、レジュメは事前に授業支援システムに掲載しますので、予習をしてから受講してください。
成績評価の方法	授業中に実施する小テスト、レポート、定期試験、および出席状況を総合的に評価します。
教科書	特に指定しません。
参考書等	・野口悠紀雄、『資本開国論』、ダイヤモンド社、1,800円、978-4-478-00130-1 ・その他講義の中で適宜紹介します。
その他	レジュメを配布する他、新聞記事なども適宜使用します。



履修コード	436001
科目名	著作権の経済分析
担当者名	絹川 真哉

**講義のねらい** 日本政府の「知的財産立国」を目指した政策推進に見られるように、音楽・映画・アニメ等コンテンツは、今後の日本にとって極めて重要な産業である。それら産業のビジネスを支えているのが著作権制度である。本講義では著作権制度の理論的背景と現状、およびコンテンツ産業との関係について学習する。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- (1) 著作権法の概説
  - (2) 著作権の経済学
    - ①保護範囲と自由利用
    - ②保護期間
  - (3) 著作権とコンテンツ産業の関係
    - ①音楽のダウンロード・サービス
    - ②同人誌とマンガ・アニメ市場

**履修上の留意点** 『知的財産権と経済』の履修を要件とする。  
**成績評価の方法** 期末レポート  
**教科書** 角田政芳・辰巳直彦、『知的財産法 第3版 (有斐閣アルマ)』、有斐閣、2500円+税、ISBN4-641-12294-6

履修コード	436101
科目名	特許権の経済分析
担当者名	絹川 真哉

**講義のねらい** インターネットビジネスの発展により、コンテンツの制作および流通におけるコンピューターや情報通信技術（ICT）の役割は大きくなっている。それら技術や知識を財産として取引可能にするのが特許権制度である。本講義では特許権制度の理論的背景、ソフトウェアやビジネス・メソッド特許などの特質、特許のライセンス、そしてオープン・ソースなど特許権に依存しない技術開発の動向などについても学ぶ。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- (1) 特許権法の概説
  - (2) 特許権の経済学
  - (3) ソフトウェア特許とビジネス・メソッド特許の特質
  - (4) 特許権のライセンス市場
  - (5) ソフトウェア企業のオープンソース戦略

**履修上の留意点** 『知的財産権と経済』の履修を要件とする。  
**成績評価の方法** 期末レポート  
**教科書** 角田政芳・辰巳直彦、『知的財産法 第3版 (有斐閣アルマ)』、有斐閣、2500円+税、ISBN4-641-12294-6

履修コード	436201
科目名	知的財産法／個人情報保護法
担当者名	新保 史生

**講義のねらい** ネットワーク社会の発達により、個人が情報発信の主体となる機会が増えるのと同時に、様々なコンテンツを利用することもできるようになっています。また、利便性の高いサービスの利用のために自分の個人情報を提供しなければならない場面も多くなっています。このように、ネットワーク社会はダイナミックに情報のやりとりが行われる社会であるため、そこで利用される情報の保護が重要な問題となっています。本講義では、ネットワーク社会における知的財産の保護と個人情報保護の問題を通して、情報の適正な取扱と保護に必要な知識について講義します。

- 講義の内容・授業スケジュール**
1. 知的財産制度の概要、2. 著作権法、3. 特許法、4. 商標法、意匠法、実用新案法、5. 不正競争防止法、6. 個人情報保護制度の概要、7. 諸外国の個人情報保護制度、8. 個人情報保護とプライバシー保護の違い、9. 個人情報保護法（総論）、10. 個人情報保護法（個人情報取扱事業者の義務）、11. 行政機関等個人情報保護法（総論）、12. 行政機関等個人情報保護法（行政機関、独立行政法人等の義務）、13. 地方自治体の個人情報保護条例、14. 個人情報保護マネジメントシステム（JIS Q 15001）、15. 個人情報保護のための情報セキュリティ対策

**成績評価の方法** 講義の際の小レポート及び期末試験の成績によって評価します。

**その他** 講義用のウェブサイト：[www.shimpo.org](http://www.shimpo.org)  
 アクセス用のID及びパスワードは講義の際に連絡します。

履修コード	436301
科目名	メディア法
担当者名	新保 史生 <small>しんぼ しみお</small>

**講義のねらい** 情報メディアに関する法体系と法的諸問題を総合的に学びます。社会の情報化とネットワーク化の進行は、電子商取引の普及をはじめとして産業構造のみならず社会生活に多大な変化をもたらしています。その一方で、ネットワーク社会では新たな問題が生じており、それらに対応するために様々な法整備が行われています。本講義では、情報メディアに関する法整備の現状から個別の法律について解説し、ネットワーク社会における法的諸問題への対応を具体例を踏まえて講義します。

**講義の内容・授業スケジュール** 1. ネットワーク社会における法的諸問題の類型, 2. IT関連の法整備の状況, 3. 違法情報・権利侵害情報・有害情報の実状と法的対応の現状, 4. 権利侵害情報への対応, 5. ネットワーク社会における知的財産権の侵害, 6. ネットワーク社会における名誉毀損・プライバシー侵害, 7. 違法情報への対応, 8. サイバー犯罪の実状と対策(ネットワーク関連型犯罪), 9. サイバー犯罪の実状と対策(ネットワーク利用型犯罪), 10. ネットワーク社会の安全性確保のための法制度, 11. 電子商取引の推進と規制のための法制度, 12. ネットワーク社会における個人情報の保護, 13. 情報セキュリティと法, 14. 行政の情報化及び公共分野における情報通信技術の活用推進, 15. 講義期間中に新たに制定されたIT関連の新法解説

**成績評価の方法** 講義の際の小レポート及び期末試験の成績によって評価します。

**その他の** 講義用のウェブサイト: [www.shimpo.org](http://www.shimpo.org)  
アクセス用のID及びパスワードは講義の際に連絡します。

履修コード	436401
科目名	コンテンツデザイン各論II
担当者名	手塚 義治 <small>てづか よしはる</small>

**講義のねらい** ドキュメンタリー映画発達の歴史を学び、「Cinema Varite」(映画的真実)とは何か検証します。伝統的ドキュメンタリーにおける客観的方法論と主観的方法論、見る者と見られる者の力関係、撮影者の自己再帰性、カメラを他者に向けることの倫理等について考察し、ディスカッションを行います。

**講義の内容・授業スケジュール** この講義では歴史的に重要なドキュメンタリー作品を鑑賞し、ディスカッションを行います。

**履修上の留意点** 積極的にディスカッションに参加することが求められます。履修者人数に制限あり。

**成績評価の方法** 授業中の発言、レポート、口頭試問により総合的に評価する。

履修コード	436501
科目名	コンテンツデザイン演習II
担当者名	手塚 義治 <small>てづか よしはる</small>

**講義のねらい** この講座では学生が各自の生活圏において、1人称形の映像作品を制作します。カメラを持つことによって、「私」がいかに他者、そして社会との接点を見つけていくか、「私」を記録し映像作品をつくるとはどういうことかを各自が考察し、社会的実践としての私的映像制作を目指します。

**講義の内容・授業スケジュール** 初歩的な映像の文法を学んだあと、学生は各自のプロジェクトを考案し、自分と自分の生活圏についての3分以内の映像を制作します。

**履修上の留意点** 特に難しいことはありませんが、自主性と自己について語る若干の勇気が求められます。履修者人数に制限あり。

**成績評価の方法** コンテンツデザイン各論とあわせて履修すること。

制作への取り組み方と、作品によって総合的に評価します。

履修コード	436601
科目名	コンテンツデザイン各論III
担当者名	石橋 直樹

**講義のねらい** 最も一般性の高いデジタルコンテンツである Web コンテンツをデザイン、作成するための基本的な概念、原理について学ぶ。実際には、マルチメディアデータのデザイン技法として、画像処理、イラスト描画、音楽データ作成法、アニメーション作成法等を概観する。また、携帯電話その他の機器におけるコンテンツのデザイン手法についても学ぶ。

**講義の内容・授業スケジュール** 本講義は、Web コンテンツのデザインにおける基礎を学ぶことを目的として、次のスケジュール(予定)で行う。

1. 導入—マルチメディアデータの基礎
2. ラスター画像における標本化、量子化
3. Adobe Photoshop を用いた画像の加工
4. Adobe Illustrator を用いたベクター画像の作成
5. 事例紹介：ロゴ・デザインに見る記号論
6. 音声の標本化、量子化
7. Digidesign ProTools を用いた音楽データ作成と圧縮
8. Adobe Flash を用いたベクターアニメーション
9. HTML、CSS、メタデータとマルチメディア
10. まとめ—デザインという行為とコンピュータ

**履修上の留意点** コンピュータワークショップが履修済み、かつ、コンテンツデザイン演習Ⅲと併せて履修すること。

**成績評価の方法** レポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。  
**教科書** Web において電子教材を提供する。  
**参考書等** 講義中において教材を指定する。

専門教育

履修コード	436701
科目名	コンテンツデザイン演習Ⅲ
担当者名	石橋 直樹

**講義のねらい** 最も一般性の高いデジタルコンテンツである Web コンテンツをデザイン、作成する過程を実習する。実際には、多様なマルチメディア作成ソフトウェアを利用し、Web サイトの構築を行う。また、携帯電話その他の機器におけるコンテンツに関しても実習を行う。

**講義の内容・授業スケジュール** 本講義は、Web コンテンツのデザインに関する技法の習得を目的として、履修者各自に対して製作を課す。なお、スケジュールは以下のものを予定している。

1. 導入—マルチメディアデータと Web デザイン
2. 演習 1—HTML、CSSを用いたデザイン技法
3. 演習 2—ラスター画像処理と Web デザイン
4. 演習 3—ベクター画像処理と Web デザイン
5. 演習 4—音声処理と Web デザイン
6. 演習 5—アニメーション作成と Web デザイン
7. 演習 6—サーバサイドスクリプトと Web デザイン

**履修上の留意点** コンピュータワークショップが履修済み、かつ、コンテンツデザイン各論Ⅲと併せて履修すること。

**成績評価の方法** 期末までに構築する作品、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。  
**教科書** Web において電子教材を提供する。  
**参考書等** 講義中において教材を指定する。

履修コード	436711
科目名	コンテンツデザイン各論III
担当者名	<small>よしだ なおみ</small> 吉田 尚史

講義のねらい

最も一般性の高いデジタルコンテンツである Web コンテンツをデザイン、作成するための基本的な概念、要素技術、構成法などについて学ぶ。実際には、XHTMLによるコンテンツの記述、CSSによるスタイルの記述、メタデータの付与、SMIL、SVGなどを用いたマルチメディア処理を会話型の処理のデザインと技法、スクリプトによるユーザーエージェント側での高度な処理について学ぶ。また、動画像や、携帯電話その他の機器におけるコンテンツのデザイン手法についても学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

第1週～第4週: 導入と基礎となる学習

- World Wide Web 概要
- 要素技術・原理
- XHTMLとCSS
- SMILとSVGの基礎

第5週～第8週: マルチメディアコンテンツ処理

- マルチメディアコンテンツとメタデータ
- SMILとSVGによるマルチメディア
- スクリプト処理(1)
- スクリプト処理(2)

第9週～第13週: マルチメディアコンテンツ応用

- 動画像
- システム試作(1)
- システム試作(2)
- システム試作(3)
- システム試作(4)

第14～15週: まとめとレポート

- まとめ
- レポート解説

順序については変更される場合がある。

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

本講義の内容は、「コンテンツデザイン演習III」と対応している。

毎回の講義における出席・課題、最終レポートにより評価する。

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

履修コード	436721
科目名	コンテンツデザイン演習III
担当者名	吉田 尚史 <small>よしだ なおふみ</small>

**講義のねらい** 最も一般性の高いデジタルコンテンツである Web コンテンツの制作を実践し、デザイン、作成するための基本的な概念、要素技術、構成法など各論Iで得た知識を確実なものとする。XHTMLによるコンテンツの記述、CSSによるスタイルの記述、メタデータの付与、SMIL、SVGなどを用いたマルチメディア処理を会話型の処理のデザインと技法、スクリプトによるユーザーエージェント側での高度な処理を用いて、Web ページの作成実践を行う。また、動画像の制作実践、携帯電話その他の機器用の Web コンテンツの制作実践も行う。

**講義の内容・授業スケジュール**

第1週～第4週: 導入と基礎となる学習

- World Wide Web 概要
- 要素技術・原理
- XHTMLとCSS
- SMILとSVGの基礎

第5週～第8週: マルチメディアコンテンツ処理

- マルチメディアコンテンツとメタデータ
- SMILとSVGによるマルチメディア
- スクリプト処理(1)
- スクリプト処理(2)

第9週～第13週: マルチメディアコンテンツ応用

- 動画像
- システム試作(1)
- システム試作(2)
- システム試作(3)
- システム試作(4)

第14～15週: まとめとレポート

- まとめ
- レポート解説

順序については変更される場合がある。

その他、最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

本講義の内容は、「コンテンツデザイン各論III」と対応している。  
毎回の講義における出席・課題、最終レポートにより評価する。  
GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定し、教科書とする。  
講義中あるいは教材中に適宜指示する。

履修コード	436801
科目名	実践メディアビジネス講座III
担当者名	苗村 憲司・石橋 直樹・齋藤 信男・吉田 尚史

#### 講義のねらい

本講義では、メディアとインターネットの新しい時代のビジネスの本質を実際的な成功例と共に習得することを目的とする。特に、メディアを活用したビジネスを支える中核の技術としてメディア技術、システムソフトウェア、インターネット、セキュリティ、データベース、知的財産権などについてビジネスの視点から学び、同時に、グローバルなビジネスの創出・起業の基礎を技術的な視点から学習する。本講義では、ビジネスにおける成功者からのゲスト講演を交えて行う。また、実践的なビジネスについてケーススタディーにより習得する。

#### 講義の内容・授業スケジュール

本講義において取り上げるテーマと、半期15回、各回の内容は次のとおりである。

順序については変更される場合がある。

－インターネットビジネス1, 2&3

サーチエンジン、ソーシャルネットワークなどのインターネット上のビジネスを起業、運営する方々をお招きし、それらの体験について議論する。

－IT・通信系ビジネス1&2

IT・メディアには通信は必要不可欠であり、通信会社・インターネットプロバイダなどの企業の方々に講演頂き、そのビジネスモデル、運営などについて議論する。

－著作権ビジネス1, 2&3

社会的に重要な著作権について、それを管理する立場、それを利用してビジネスする立場、様々な方に講演して頂き、多角的な視点から議論する。

－ゲームコンテンツ・ソフトウェアビジネス1&2

ゲームコンテンツや、ソフトウェアを扱うビジネスについて、実際に携わっておられる様々な方に講演して頂き、議論する。

－環境・メディア系ビジネス1, 2&3

環境問題を取り上げるメディアや公的組織の方々から講演を頂き、環境問題とビジネスの現状について議論する。

－IT・メディア系研究とビジネス1&2

IT・メディア系の研究所の方々をお招きし、ビジネスと研究の接点、あるいは企業と大学の接点などについてお話し頂く。

以上、最大15人のゲストスピーカーの講義により、実践的なビジネスについて習得する。

ゲストスピーカーに関する最新情報は、GMS授業支援システム上に公開する。

<https://gmsweb.komazawa-u.ac.jp/moodle/>

#### 履修上の留意点

教場の座席に空きがある限り、すなわち履修者の妨げにならない限り、履修者以外の学生の聴講を可能とする場合がある。

#### 成績評価の方法

毎回の講義における出席、期末レポートにより評価する。

#### 教科書

GMS授業支援システムおよびWWW上に教材を設定する。

#### 参考書等

講義中あるいは教材中に適宜指示する。

履修コード	436901
科目名	実践メディアビジネス講座Ⅳ
担当者名	各務 洋子・西岡 洋子・福家 秀紀

**講義のねらい** ブロードバンドインターネットの普及に伴って急速に進展している通信放送の融合を踏まえて、電気通信事業者、放送事業者、ISP、およびコンテンツ事業者などがどのような事業展開を図っているのかを、各業界の専門家を招聘して講義して頂き、現状と課題について解明を図る。具体的には以下の通り計画する。

**講義の内容・授業スケジュール**

- 1 ガイダンス
- 2 固定電気通信事業の現状と課題
- 3 携帯電話事業の現状と課題
- 4 インターネット事業の現状と課題
- 5 法人向け情報通信事業の動向
- 6 放送事業者のインターネットへの取り組み
- 7 IP放送の現状と課題
- 8 コンテンツビジネスの現状と課題
- 9 インターネット時代のソフトウェア事業
- 10 NGN (Next Generation Network) の意義
- 11 まとめ

**履修上の留意点**

毎回、テーマごとに異なる実務家が講義を担当します。半期の講座全体を通して一環したメッセージを学び取るためには、毎回の出席を重視します。

**成績評価の方法**

毎回の講義をレポートにまとめ、最後に全体としての総括を提出してもらう予定。

**教科書**

開講時に指示する。

**参考書等**

開講時に指示する。

履修コード	437001
科目名	テクノロジーマネジメント
担当者名	石橋 直樹

**講義のねらい**

国際的な産業技術の発展史を示すことで、新しい社会の創出を目指すプロジェクト推進の過程を学ぶ。ビジネス、政治など分野にかかわらず、我々の生活/社会は多様な技術を前提として成り立っている。本講義では、社会と技術の接点、具体的には、多様なケーススタディを通じ、問題の設定、問題の解決を含む社会のニーズに基づいた技術開発プロジェクトの推進過程や、技術が社会に与える影響を明らかにする。

**講義の内容・授業スケジュール**

本講義のスケジュールは以下のケーススタディを予定している。なお、講義の進捗に応じて、関連するゲストを外部から招聘する予定である。

1. 導入—テクノロジーと国家の隆盛
2. 重工業—高度経済成長と日本の自動車産業
3. コンピュータ産業—IT革命の萌芽期
4. ITビジネス— Web ビジネスの今日
5. エンターテインメントビジネス—ソフトウェア産業の動向
6. インフラ事業における技術—エネルギー安全保障
7. エコ産業に見る技術開発—持続可能な社会に向けて
8. まとめ—技術と社会の行く末

**成績評価の方法**

毎回の講義におけるミニレポート、学期のレポート、ならびに、毎回の講義における出席状況を総合的に評価する。

**教科書**

Web において電子教材を提供する。

**参考書等**

講義中において教材を指定する。

履修コード	437101
科目名	メディアと知識論
担当者名	齋藤 信男

講義のねらい

メディアは人間の知識の表現と言えるが、その作成、操作、管理などをより効率的、効果的に行う事を支援する知的な処理の基本的な考え方をまず理解する。知識処理の具体例としてセマンティックWEBを取り上げ、メタデータを利用したインテリジェントなWEBの操作を体験する。更に、メタデータの作成、その操作、基本的な辞書構築、自然言語処理機能の利用など知識表現やその処理に関連する課題について理解し考えていく。メタデータが、高度なコミュニケーション環境や社会システムの実現に寄与し、今後のWEB利用における種々のイノベーションに発展していく可能性を探る。

講義の内容・授業スケジュール

- 以下の具体的な項目を学んでいく。
- 第一回～第四回 知識表現、知識獲得、知識管理など従来の手法の概括とその課題を考える。
  - 第五回～第九回 セマンティックWEBについて、その基本的機能、構造を学ぶ。メタデータ記述言語RDF (Resource Description Framework)、オントロジーとその記述言語OWL、RDFに対する検索言語SPARQLについて、その概要を学び、具体的な演習を行う。
  - 第十回～第十二回 セマンティックWEBの応用例をいくつか取り上げ、その効果、メタデータによる種々のWEBの統合化、RSSへの適用などを学ぶ。
  - 第十三回～第十五回 メタデータと自然言語処理の関係、知識管理の諸問題、将来に実現すると思われる知識社会への展望などを学び、講義全体のまとめとする。

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他

実際のシステムをなるべく体験できるような演習を行う。  
いくつかの課題レポート、総合課題、および出席の総合評価により判定する。  
特に指定しない。  
講義の内容に応じて、その都度紹介する。  
WEBシステムについて、その基礎的理解をしておくことが望ましい。

専門教育

履修コード	437201
科目名	ネットワーク進化論
担当者名	北川 和裕

講義のねらい

様々なデジタルネットワークがコンテンツを配布する基盤として利用されている。ネットワークの特徴を理解することなしに、メディアビジネスコンテンツビジネスを効率よく行う事は非常に困難である。この講義は、様々なデジタル機器を接続するネットワーク技術およびデータサービス技術の概念を学ぶと同時に実際のビジネスモデルへの適応についてケーススタディを通して学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

- 本講義は、様々なネットワーク技術を学ぶ。また、抽象的な概念だけでなく、実際のケーススタディを通してそれらを確かなものとする。講義は、次のスケジュール（予定）で行う。
1. はじめてのデジタルネットワーク—歴史を踏まえて、
  2. 様々なコンピュータネットワーク、
  3. インターネットってなに？、
  4. インターネットの様々なサービス、
  5. ケーススタディー：World Wide Web、
  6. インターネットを用いた高度サービス、
  7. モバイルネットワークとデータサービス、
  8. ケーススタディー：モバイルネットワークとビジネス、
  9. 家電ネットワークとセンサネットワーク、
  10. インターネットからユビキタスネットワークへ、
  11. ケーススタディー：デジタルネットワークの統合技術、
  12. ネットワークサービスのための技術：ケーススタディを通して、
  13. まとめ

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

学期中および学期末のレポートを総合的に評価する。  
Web において電子教材を提供する。  
講義中において教材を指定する。



履修コード	437301
科目名	メディアとセキュリティ
担当者名	苗村 憲司

**講義のねらい** コンピュータネットワークは、電子政府、電子商取引、遠隔教育等を含む社会全般を支える重要な社会基盤となった。その適用分野と機能範囲が拡大する一方で、その安全性は確保されているとは言いがたい。犯罪行為、意図的攻撃等によるメディア情報の漏洩・改ざん、システム停止等の被害を最小化するため、情報セキュリティの技術、法律、規格、倫理、組織、教育等の多面的な対策が必要となる。この科目では、情報システムの安全性を確保するための基本的な対策に重点を置いて学習し、その現状と課題について検討する。

**講義の内容・授業スケジュール** ①リスクと対策、②情報セキュリティのガイドラインと法制度、③暗号の技術と制度、④共通鍵暗号技術(1)、⑤共通鍵暗号技術(2)、⑥公開鍵暗号技術(1)、⑦公開鍵暗号技術(2)、⑧認証の技術(1)、⑨認証の技術(2)、⑩認証に関わる法制度(3)、⑪不正アクセス対策の技術と法制度、⑫情報セキュリティの応用(1)、⑬情報セキュリティの応用(2)、⑭情報セキュリティを巡る新たな展開、⑮まとめ

**成績評価の方法** 次の2項目を総合して評価する。  
 1. 授業時間に行うミニテストの成績(合計30点)  
 2. 期末試験の成績(70点)

**教科書** <http://www.komazawa-u.ac.jp/~naemura/ms/> 上に電子教材を提供する。  
**参考書等** 電子教材の中で参考書を紹介する。

専門教育

履修コード	437401
科目名	国際標準化論
担当者名	苗村 憲司

**講義のねらい** メディア情報の有効利用を促進するためには、情報の符号化、物理媒体への格納、ネットワーク上の通信と相互運用等に関する技術を相互に共通化する必要がある。また、情報の品質と安全性を確保するためには、関連組織における情報の取り扱いに関する管理手続き等の標準化を行うことが望ましい。グローバル・メディア環境では、これらの標準の開発と適用の推進を国際レベルで推進することが必要である。先進国の中で日本はこの面で立ち後れていたが、近年には顕著な進展を見せている。その意義と課題を明確化し、今後の方策について議論する。

**講義の内容・授業スケジュール** ①標準・規格の意義とその変化、②情報通信分野における標準化の意義とその変化、③国内および国際標準化組織の役割とその変遷、④デファクト標準、フォーラム標準の増加の背景と動向、⑤政府調達と国際標準化との関連、⑥知的財産戦略における標準化の意義、⑦標準に関わる知的財産権を巡る課題、⑧マネジメントシステムに関する国際標準化、⑨情報セキュリティに関する国際標準とガイドライン、⑩情報セキュリティマネジメントシステムに関する国際標準化、⑪情報セキュリティ評価基準に関する国際標準化、⑫暗号アルゴリズムとデジタル署名の標準化、⑬電子的権利管理(DRM)技術の現状と展望、⑭プライバシー分野の国際標準とガイドライン、⑮まとめ

**成績評価の方法** 次の2項目を総合して評価する。  
 1. 授業時間に行うミニテストの成績(合計30点)  
 2. 期末試験の成績(70点)

**教科書** <http://www.komazawa-u.ac.jp/~naemura/is/> 上に電子教材を提供する。  
**参考書等** 電子教材の中で参考書を紹介する。

履修コード	437501
科目名	海外演習実践講座I
担当者名	内山 浩道・アシュウェル, T.・各務 洋子

**講義のねらい** 休学せずに、半年以上1年未満の長期にわたる海外留学を計画する学生（2～4年次のいずれか）が対象である。留学方法は「交換留学」か「認定校留学」のどちらかである。渡航年度にこの科目を履修し、帰国後に留学の報告書を提出する。留学先大学で取得した単位は、卒業単位として認定する。海外留学先で取得した単位のなかで、本学部の設置する科目名で読み替えの不可能な科目については、履修内容を勘案したうえで、『海外演習I～X』として読み替えることができ、卒業単位として認定する。

**講義の内容・授業スケジュール** 渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に「海外演習実践講座I報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。  
**履修上の留意点** 年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある。留学期間中の履修登録は家族等の代理人をたてて行うようにすること。その際、本人の委任状および本人の学生証（又はコピー）が必要である。

**成績評価の方法** 担当教員と相談して「海外演習実践講座I報告書」を作成し、帰国後2週間以内に担当教員に提出。成績認定は、この報告書とともに、留学先からの成績評価資料及び事前、事後の指導における評価をもとに行う。

**教科書** 指定しない。  
**参考書等** 適宜資料を紹介する。

履修コード	437601
科目名	海外演習実践講座II
担当者名	内山 浩道・川崎 賢一・ギャリソン, J. G.

**講義のねらい** 半年未満の短期にわたる海外留学を計画する学生（2～4年次のいずれか）が対象である。留学先は、「交換留学」か「認定校留学」のどちらか、または、国際センター主催の短期留学セミナーである。渡航年度の4月の履修登録機関にこの科目の登録をし、帰国後に留学報告書をGMS学部に提出する。留学先大学で取得した単位は、卒業単位として認定する。

**講義の内容・授業スケジュール** 渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、帰国後に「海外演習実践講座II報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。  
**履修上の留意点** 年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある。留学期間中の履修登録は家族等の代理人をたてて行うようにすること。その際、本人の委任状および本人の学生証（又はコピー）が必要である。

**成績評価の方法** 担当教員と相談したうえで、詳細な「海外演習実践講座II報告書」を作成し、帰国後2週間以内に担当教員に提出。成績認定は、この報告書とともに、留学先からの成績評価資料及び事前、事後の指導における評価をもとに行う。

**教科書** 指定しない。  
**参考書等** 適宜資料を紹介する。

履修コード	437701
科目名	海外演習実践講座III
担当者名	内山 浩道・町田 尚子・モエ, R. A.

**講義のねらい** 最長1年未満の長期から短期のものまで期間は任意に設定でき、渡航目的が留学以外である学生を対象とする。海外インターンシップや海外ボランティア、語学学習と組み合わせたワーキングホリディ制度、その他海外の専門学校などで自主的に多様なかたちでの学習を体験することを目的とする。この科目の要件は、就業先、あるいは受け入れ団体から、修了証書を持ち帰ること、渡航前と渡航後にプロジェクトに関して本学担当教員から個別指導を受け、報告書を作成することである。

**講義の内容・授業スケジュール** 渡航年度の4月の履修登録期間にこの科目の履修を登録し、「海外演習実践講座III報告書」を担当教員に提出する。渡航前、海外滞在中、渡航後に、指導教員による指導を受ける。  
**履修上の留意点** 年度をまたがって留学する場合、両年度の4月に履修登録を行う必要がある。留学期間中の履修登録は家族等の代理人をたてて行うようにすること。その際、本人の委任状および本人の学生証（又はコピー）が必要である。

**成績評価の方法** 所属先あるいは受け入れ団体からの正式な修了証書を添えて、詳細な「海外演習実践講座III報告書」を、帰国後2週間以内に担当教員に提出。この報告書及び事前、事後の指導における評価をもとに成績認定を行う。

**教科書** 指定しない。  
**参考書等** 適宜資料を紹介する。

# Ⅲ 他学部履修科目

他学部  
履修科目

履修コード	003801
科目名	インド仏教文化史
担当者名	金沢 篤 <small>あつし</small>

講義のねらい  
講義の内容・  
授業スケジュール

インド生まれの仏教を、広範で多岐多彩なインド文化の史的展望の中でとらえてみたい。  
神や人間などが織りなす奇想天外なインドの物語世界の解説を皮切りに、仏教の出現と展開と衰  
頹にまつわる文化的トピックを論究する。

- ◎インド仏教文化史とは？(1～3) 日本人、日本文化と仏教
- ◎文化的側面より見たインド仏教とその展開(4～8) 他宗教と仏教の比較の視点から
- ◎仏教の起源と仏教出現の背景(8～15) 仏教哲学の成立 ヒンドゥー教と仏教 仏教の独自  
性

- ◎仏教の変容と展開(16～22) 哲学から宗教へ 仏教哲学の革新と宗教理論の確立
- ◎インド仏教文化史・むすび(23～)

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

仏教や古今のインド文化に熱い関心を持つ学生諸君の主体的取り組みを期待する。  
年度末試験などで総合的に判断する。  
渡辺照宏著『仏教(第二版)』(岩波新書)740円  
教場で適宜紹介する。

履修コード	003901
科目名	中国仏教文化史
担当者名	永井 政之 <small>まさし</small>

講義のねらい

中国における仏教の展開を論ずることは決してやさしいことではありません。今に残る膨大な資  
料によって語られる綿密な思想構築の世界がある一方、資料に残らない、つまり資料を残し得ない  
ような人々によって受容され支持された仏教の世界もあったからです。その双方がともに「中国仏  
教」であることは言うをまちません。むしろその双方を複眼的に見てはじめて中国仏教の実像が理  
解できると、私は考えています。中国仏教に関わるさまざまな材料、時には取るに足りないよう  
に見えるものでも対象にし、それらを積み上げてみましょう。私達が考える以上に「立体的」な中国  
仏教の世界が見えてくるように思います。

そこで今年是中国の歳時記に表れた仏教を考えてみたいと思います。言うまでもなく歳時記には  
人々の1年間の行事が記されますが、それらの多くは背景に仏教や道教といった宗教的なものを固  
有しています。人々はそれらの行事を通して、宗教—ここでは仏教や禅の立場のある部分—に触れ  
ていったように思います。結局、年間の行事と宗教とは、私達がおぼろげに想像する以上の力で、  
相互に影響し合いつつ補完する関係にあることとなります。

受講した諸君は、一方では歳時記をとおして中国文化を、仏教や禅の文献をとおしてその教えを  
理解してくれることにはないかと考えています。

(1～3) 本授業の目指すところを基本的なガイダンスとして講じます。(4～30) 中国的な考え  
方からすれば四季の基本は冬至にあるのですが、一応、正月から始めて一年間の主たる行事につ  
いて月を追いつつ紹介し、さらにそれらの行事に対する禅僧の発言を見ていきたいと思ひます。

毎回、必要なプリントを配布し、積み上げるように授業を進めますから、まじめに出席してくだ  
さい。

レポート、出席、期末試験等を総合的に評価します。

特に教科書として使用するものではありません。必要な資料は授業中にコピーを配布します。

『荆楚歳時記』東洋文庫324

中村喬『中国の年中行事』『続中国の年中行事』平凡社選書115・134

講義の内容・  
授業スケジュール

履修上の留意点

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

他学  
部履  
修科  
目

履修コード	004001
科目名	日本仏教文化史
担当者名	袴谷 憲昭

講義のねらい 仏教思想とはなにかという課題を断えず問いかけながら、日本における文化の実態を検討する。その検討課題を章節仕立てて示せば、次のとおりである。

講義の内容・授業スケジュール (1) 仏教伝来以前の文化、(2) 文化構造の解釈、(3) 日本古来の文化、(4) 中国朝鮮の影響下の仏教文化、(5) 呉音漢音と文化、(6) 美術中の仏教観、(7) 自利利他の問題、(8) 太子信仰の背景、(9) 南部の学問仏教と民衆の文化、(10) 大仏建立の理念、(11) 学問仏教の実際、(12) 勸進聖と修験道、(13) 仏教と神祇信仰、(14) 日本独自の文化形成と仏教観、(15) 大乘戒壇の設立、(16) 一乗三乗の論争、(17) 密教と祈禱仏教、(18) 本覚思想の定着、(19) 中世の仏教信仰の確立と変容、(20) 浄土信仰の諸相、(21) 法華信仰の諸相、(22) 禅宗と五山文学、(23) 神仏習合の諸相、(24) 近世と近代の社会文化と仏教、(25) 鉄砲と吉利支丹、(26) 幕府の宗教政策、(27) 江戸文化と仏教、(28) 維新と廃仏毀釈、(29) 近代より現代へ、(30) 戦後と民主主義 以上を講義のかたわら、『妙貞問答』を講談する。

履修上の留意点 講義ではあるが、参加者には、文献を自ら読もうとすることが要求される。必要な資料については教場で配布するが、その再発行は原則としてしないので、気をつけられたい。

成績評価の方法 学年末の定期試験による。ただし、参加者の状況によっては評価の方法の変化もありうる。

教科書 袴谷憲昭著『日本仏教文化史』(大蔵出版) 2005年

参考書等 袴谷憲昭著『仏教入門』(大蔵出版) 2004年

その他 必要購読文献はコピーで配布し再発行はしないので注意されたい。

履修コード	007401
科目名	中国哲学史
担当者名	前川 亨

講義のねらい 中国の社会・文化を理解するうえで重要であり、東アジア世界にも強い影響を及ぼしている中国思想を歴史的に辿っていく。

講義の内容・授業スケジュール 本年度は、唐代の思想・文化の概括、唐宋変革の意義についての解説から始め、宋代以降の思想史を取り扱う。宋初の文化的状況、道学運動の発生、宋代禅宗の抬頭、(特に大慧宗杲の登場)、朱熹の登場、元代の思想史、明代の陽明学、民衆の宗教(宝卷)、明末の思想、清初の三大儒、清朝の思想、近代への胎動などをとりあげることになる。どのような方面を主にとりあげるかは、受講者の関心などを考慮して決める。

履修上の留意点 継続して出席し、積極的に授業に参加すること。私語厳禁。

成績評価の方法 出席と前期・後期のレポートで評価する。追試験は実施しない。

教科書 特に必要としない。

参考書等 授業内で適宜紹介する。

その他 できるだけ多くの知識を提供するため、講義の形式をとるが、受講者の意見を徹しながら進めていくので、質問には積極的に応答してもらいたい。中国(東アジア)の社会・文化・宗教など様々な方面に関心をもつ諸君の受講を期待する。

履修コード	O16601
科目名	演劇概論
担当者名	森井 直子

**講義のねらい** 今日私たちが触れることの出来る演劇は、人々の問題意識やさまざまな時代の要請が、積み重なって生まれてきたものです。演劇が、どのような道を辿って今日の姿となったのか。また、それはなぜなのかを考えていきます。今日の演劇の背景を知ること、演劇の新たな魅力に触れることを目的とします。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期に小劇場運動を取り上げ、後期に明治から昭和までの近代演劇の歴史を辿ります。  
**前期**  
 演劇史総論(1)、小劇場演劇1960年代、状況劇場、早稲田小劇場、現代人劇場(2~5)、小劇場演劇1970年代、つかこうへい(6、7)、小劇場演劇1980年代、野田秀樹、鴻上尚史ほか(8~11)、小劇場演劇1990年代以降、平田オリザほか(12~15)

**後期**  
 日本近代演劇の黎明、文芸協会、自由劇場(16~19)、大正時代の演劇、芸術座ほか(20~22)、プロレタリア演劇と築地小劇場(23~26)、戦後の新劇(27~29)、まとめ(30)

**履修上の留意点** 基本的には講師による講義形式です。ただし、4、5回ほど、授業で取り上げる戯曲を事前に読み簡単な感想を提出してもらいます。  
 また、1年のうちに2度、劇場へ行って観劇してもらうので、了承の上、履修してください。

**成績評価の方法** 前期末、後期末の観劇レポート、出席点、平常点から評価します。  
**教科書** 特に定めません。  
**参考書等** 授業時に指示します。

履修コード	O16701
科目名	西洋思想史
担当者名	河谷 淳

**講義のねらい** 本年度のこの授業では「物語と哲学」という視点から西洋思想史を概観する。「物語」を意味するギリシア語「ミュートス」は、「神話」や「悲劇」として、ギリシア哲学においては哲学を補完するものとみなされる場面がある一方で、「語る」ということが「騙る(騙す)」という側面も持つことから、「物語」は時として哲学の敵ともみなされてきた。こうしたギリシア哲学以来の「物語る」とことと「哲学する」とこととの間の緊張関係をいくつかの場面を選んで見ていくことにしたい。

**講義の内容・授業スケジュール** (1、2)序論、(3~7)「物語」としての神話(物語としてのギリシア神話、キリスト教における神話的物語)、(8~16)「物語の哲学」の二つの方向性(ギリシア哲学入門、プラトンの「詩人追放論」、アリストテレスの悲劇論)、(17~22)「物語」としての科学(「科学の哲学」入門、物語としての科学的説明)、(23~)「物語」と人間(物語制作者としての人間、物語としての過去・現在・未来)

**成績評価の方法** 前期最終授業日に実施する中間試験と期末試験(40点満点×2)ならびに出席状況との総合点によって評価する。

履修コード	O17001
科目名	比較文学
担当者名	木村 朗子

**講義のねらい** はじめに比較文学がなにをどのように研究することなのか、また比較文学は、どのような歴史的背景のなかではじまった学問なのかについて確認し、その上で比較文学の方法を実際に用いながらさまざまな文学を実際に検討する。

比較の方法は、異なる国の文学を比較するだけでなく、翻訳の問題、文学を絵画化した場合、映像にした場合などさまざまな可能性がある。授業ではとくに小説を映画化したケースを中心に課題として分析を進めながら、比較文学の方法を学ぶ。

**成績評価の方法** 出席と授業内レポートあるいは学期末のテストによる。  
**教科書** コピーを配布する。  
**参考書等** 授業中に指示する。

他学部  
履修科目

履修コード	017101
科目名	日本民俗学
担当者名	谷口 貢

**講義のねらい** 日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の調査・研究を通して、日本社会に展開する生活文化を追究する学問である。地域社会に伝承されてきた民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していきたい。

**講義の内容・授業スケジュール** (1～2) 民俗学とは (3～5) 民俗学の流れと現在 (6～7) 家族生活と住まい (8～10) 食をめぐる民俗 (11～12) 村と町の成立ち (13～15) 若者と一人前 (16～18) 婚姻と出産・子育ての民俗 (19～21) 女性・子ども・老人の民俗 (22～24) 葬送儀礼と先祖祭祀 (25～27) 里と海・山のなりわい (28～29) 祭りと年中行事 (30) 民俗宗教の諸相

**履修上の留意点** 夏期レポート及び小レポートを実施する予定。  
**成績評価の方法** 学年末に実施する筆記試験、それに夏期レポートと小レポートの合計をもって評価を行う。出席を重視する。

**教科書** 谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義—生活文化へのアプローチ』2006年刊(八千代出版) 2, 100円(税込)、ISBN 4-8429-1405-X

履修コード	025601
科目名	イギリス文学特講I
担当者名	石原 孝哉

**講義のねらい** イギリスのルネッサンス期の文学について講義します。主な作家とその作品を通じて、イギリス文学の大きな流れを読み取るのがこの講義の目的です。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期には、「ヨーロッパにおけるルネッサンス運動の流れをその実態」、「イギリスのルネッサンス」について、Thomas More, Edmund Spenser, Christopher Marlowe, William Shakespeare などを例に講じます。後期は、Shakespeare の作品を中心に Ben Jonson, John Bunyan, John Milton などを取り上げます。

**成績評価の方法** 期末試験、レポートにより評価します。  
**教科書** ノースロップ・フライ、『シェイクスピアを読む』、三修社、2, 800円、ISBN4-384-01177-6

履修コード	025701
科目名	イギリス文学特講II
担当者名	高野 正夫

**講義のねらい** 18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心が持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、Dryden や Pope などに代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomson のように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward Young や Robert Blair そして Thomas Gray などのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年に William Wordsworth と Samuel Taylor Coleridge によって出版された *Lyrical Ballads* という、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまったのである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

**講義の内容・授業スケジュール** (1～8) Love Poetry (9～15) Nature Poetry (16～24) Religious Poetry (25～30) Poetry of Meditation など多様な作品を読んできます。  
**成績評価の方法** 前期のレポートと期末試験によって評価する。  
**教科書** 教場にて指示します。

履修コード	025801
科目名	イギリス文学特講III
担当者名	<small>おかざき としひらみち</small> 岡崎 寿一郎

講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代性」modernity という言葉の感覚を理解することは、むづかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマシュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T. S. エリオットの現代詩（モダニズム）、さらにD. H. ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

(1)(2)英詩と日本の詩の背景（定型詩）(3) ワーズワス (4) コールリッジ (5) バイロン (6) シェリー (7) キーツ (8) ロバート・バーンズ (9) チャールズ・ラム (10) ヴィクトリア時代 (1837-1901) の思想・文学・芸術 (11) ウィリアム・ブレイク (12) アルフレッド・テニスン (13) ロバート・ブラウニング (14) フランスのローマン主義・象徴主義の詩人・詩 (15) ロセッティ兄・妹 (16) スウィンバーン (17) ジェラード・マンリ・ホプキンズ (18) マシュー・アーノルド (19) イエーツ (20) オスカー・ワイルド (21) (22) D.H.ロレンス (23) エズラ・パウンド (24) T.S. エリオット (25) 20世紀の現代詩人 (ロバート・グレイヴズ・ディラン・トマス、セシル・デイ・ルイス、W.Hオーデン、テッド・ヒューズ)

成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席（50%）、前期試験に代わる夏季レポート（25%）、後期試験（25%）による総合評価とします。

教科書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

参考書等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。



履修コード	025901
科目名	イギリス文学特講IV
担当者名	川崎 明子

**講義のねらい** ヴィクトリア朝の小説を中心に、19世紀のイギリスの文化と社会を紹介します。小説の黄金時代といわれるヴィクトリア朝の著名作家、具体的には、ディケンズ、ブロンテ姉妹、エリオット、ギャスケル、サッカレー、ハーディ等の代表作品を解説します。並行して、カーライル、アーノルド、ニューマン等、当時の思想についても解説します。

**講義の内容・授業スケジュール**

前期・後期末に試験とレポート。レポートは合格点に達しない場合再提出を命じる場合がある。優秀レポートの口頭発表あり。レポートと口頭発表は日本語・英語いずれでも可。

前期 1 オリエンテーション 2 ヴィクトリア朝のイギリス概観 3 チャールズ・ディケンズ 4 『オリヴァ・ツイスト』と救貧法 5 『ハード・タイムズ』と功利主義 6 『ディヴィッド・コパフィールド』と自伝小説 7 ジョン・スチュアート・ミルと自伝 8 スマイルズの『自助論』と立身出世 9 ゲーテの『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』、レポート作成法 10 『大いなる遺産』と教養小説 11 サッカレーの『虚栄の市』 12 ニューマンとオックスフォード運動 13 試験、レポート提出 14 試験・レポート全体コメント、試験・レポート個別返却、プレゼンテーション 15 まとめ

後期 1 エミリー・ブロンテの『嵐が丘』と語りの構造 2 シャーロット・ブロンテの『ジェイン・エア』と女性版教養小説 3 アン・ブロンテの『アグネス・グレイ』とキャリアウーマン 4 カーライルとアーノルドのイギリス批判 5 ギャスケルの『メアリ・バートン』と『北と南』と社会小説 6 エリオットの『アダム・ビード』、『フロス河の水車場』 7 エリオットの『ミドルマーチ』と『ダニエル・デロンダ』 8 ハーディの『テス』とダーウィンの進化論 9 ハーディの『日陰者ジュード』と女性 10 ハーディの『日陰者ジュード』と教育制度と労働者階級 11 ワイルドと世紀末 12 ラスキンとモリス 13 試験、レポート提出 14 試験・レポート全体コメント、試験・レポート個別返却、プレゼンテーション 15 まとめ

**履修上の留意点**

- 1 第一回目の授業より必ず辞書を持参すること
- 2 レポート作成においては書式を指定するので最低限のパソコンの知識を持つこと

**成績評価の方法  
教科書等  
参考書等**

出席を含めた授業への貢献度、レポート、試験の結果により総合的に評価します。特になし。

- ・イギリスの歴史を概観したい→指昭博『図説イギリスの歴史』河出書房新社
- ・19世紀のイギリスの歴史を概観したい→谷川稔他『世界の歴史22 近代ヨーロッパの情熱と苦悩』中央公論新社
- ・イギリスも含めた19世紀の欧州の歴史を知りたい→J.M.ロバーツ『図説 世界の歴史(7) 革命の時代』創元社
- ・19世紀のイギリスの文化を知りたい→佐久間康夫他『概説 イギリス文化史』ミネルヴァ書房
- ・19世紀のイギリス文化を詳しく知りたい→松村昌家他『英国文化の世紀1～5』研究社
- ・ヴィクトリア朝の思想について知りたい→荻野昌利『歴史をく読む>ヴィクトリア朝の思想と文化』英宝社
- ・イギリス小説とその読み方について知りたい→川口喬一『イギリス小説入門』研究社
- ・小説の研究方法について知りたい→川口喬一『「嵐が丘」を読む ポストコロナル批評から「鬼丸物語」まで』

履修コード	026001
科目名	イギリス文学特講V
担当者名	富士川 義之

講義のねらい	ノルマン征服(1066年)から中世、ルネサンス時代を経て近現代にいたるイギリスの歴史と文化を概観しながら、「イギリス性」(Englishness)とは何かを探ることを目的とする講義。
講義の内容・授業スケジュール	歴史的・文化的に中心となったイングランドとイングランドに従属せざるをえなかったスコットランド、ウェールズ、アイルランドとの関係(1~3) 中世から近代にいたる王室の歴史(4~8) エリザベス一世治下の文芸復興(シェイクスピアなど)(9~11) ピューリタン革命(12~15) 王政復古から名誉革命へ(16~17) カントリー・ハウスと風景庭園(18~19) ジャーナリズムの誕生(20~21) 劇場の繁栄(22) パブリック・スクールを中心とする教育制度について(23~24) 大英帝国と植民地問題(25~26) 世紀転換期のイギリス文化(27~28) 第一次大戦と第二次大戦の影響とイギリス社会(29~30)
履修上の留意点	講義を通じて自分にとって興味深く考えるテーマを見つけて調べてほしい。レポートを提出してもらう。
成績評価の方法	レポートと学年末試験を最も重視した上で総合的に判断して評価する。出席状況も考慮する。
教科書	『概説イギリス文化史』(ミネルヴァ書房2003)
参考書等	適宜提示する。

履修コード	026101
科目名	イギリス文学特講VI
担当者名	富士川 義之

講義のねらい	近年注目されている「環境批評」(Ecocriticism)の諸問題をめぐって、とくに19世紀イギリスにおける自然環境や風景への関心の増大と関連づけながら、その歴史的・文化的な意義について学ぶことを目的とする。
講義の内容・授業スケジュール	自然環境への関心がいかにしてロマン主義詩人(とくにワーズワス)の風景観、風景感覚を生み出したか(1~3)、記憶の発見と風景意識との関わり(4~8)、社会の風景意識と個人の風景意識(9~12)、『近代画家論』において示されるラスキンの風景観(13~15)、ロマン主義最大の画家ターナーの風景画との関連(16~20)、風景と大気現象、公害問題においてラスキンが果たした先駆的役割(21~25)、動物愛護(26~28)、ナショナル・トラスト(29~30)等の諸問題をめぐって、19世紀文学と絵画に主として拠りながら「環境批評」とは何かを解明したい。とくに19世紀後半には、ラスキンとペイターを代表例とするように、ギリシア神話への関心と「環境批評」が結びつくが、そのあたりの考察を行う。
履修上の留意点	講義を通じて自分にとって興味深く見えるテーマを見つけて調べてほしい。レポートを提出してもらう。
成績評価の方法	レポートと学年末試験を最も重視した上で総合的に判断して評価する。出席状況も考慮する。
教科書	適宜コピーを使用する
参考書等	富士川義之『風景の詩学』(白水社2004年新装復刊) アラン・コルバン『風景と人間』(藤原書店2002) サイモン・シャーマ『風景と記憶』(河出書房新社2005)

履修コード	026201
科目名	演劇特講 (イギリス・アメリカ)
担当者名	<small>おちあい みずみ</small> 落合 和昭

講義のねらい

主として、20世紀のアメリカの著名な劇作家、および、現在、活躍中の劇作家を取り上げ、彼等の劇の特徴を、劇の構成要素(「筋」、「登場人物」、「テーマ」、「台詞」、「視覚効果(背景、照明等)」、「効果音(音楽も含む)」等を通して、できるだけ多角的に考察する。後期には、数回を費やして、イギリス中世演劇やギリシャ演劇にも目を向け、現代演劇との共通点や相違点を探る。また、講義の中で、演劇史における思潮も考慮に入れるつもりであるが、講義が抽象的にならないように、必ず、劇作品を通して、具体的に、考察する。

講義で取りあげる劇作家は、多くは、アメリカの劇作家であるが、それ以外にも、数人ではあるが、20世紀のアイランドやイギリスの劇作家も取り上げる予定である。さらに、一般には、あまり知られていない劇作家、特に、一幕劇(短い劇、小説で言うなら、短編小説、通常、「場所」が一つだけの劇)を書いた劇作家も取り上げ、劇の持つ多様性をも考察する。また、講義のなかで、折に触れ、重要な演劇用語や劇場の種類等も学ぶ。さらに、時間があれば、ビデオを通して、劇作家の生い立ちや背景についても学ぶ。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 第一回 オリエンテーション(授業の進め方・内容等についての説明)
- 第二回 ピューリタン(1)
- 第三回 ピューリタン(2)
- 第四回 Arthur Miller (1915-2005) (1)
- 第五回 Arthur Miller (1915-2005) (2)
- 第六回 Susan Glaspell (1882-1948)
- 第七回 リアリズムと表現主義(1)
- 第八回 リアリズムと表現主義(2)
- 第九回 Eugene O'Neill (1888-1953) (1)
- 第十回 Eugene O'Neill (1888-1953) (2)
- 第十一回 劇のプロットの要素
- 第十二回 Shirley Jackson (1919-65)
- 第十三回 Alice Gerstenberg (1885-1972)
- 第十四回 Tennessee Williams (1911-83) (1)
- 第十五回 Tennessee Williams (1911-83) (2)
- 第十六回 Thornton Wilder (1897-1975)
- 第十七回 John Boynton Priestley (1894-1984)
- 第十八回 「登場人物」
- 第十九回 Samuel Beckett (1906-89) (1)
- 第二十回 Samuel Beckett (1906-89) (2)
- 第二十一回 Harold Pinter (1930-)
- 第二十二回 Sam Shepard (1943-)
- 第二十三回 Bernard Pomerance (1940-)
- 第二十四回 Peter Shaffer (1926-)
- 第二十五回 Arthur Kopit (1937-)
- 第二十六回 アリストテレスの『詩学』、ホラティウスの「詩論」(1)
- 第二十七回 アリストテレスの『詩学』、ホラティウスの「詩論」(2)
- 第二十八回 中世演劇(1)
- 第二十九回 中世演劇(2)
- 第三十回 期末試験

履修上の留意点  
成績評価の方法

講義の内容をふまえて、劇作品を分析してもらうので、積極的な参加が望ましい。  
期末試験が全評価の40%、前期の課題が30%、後期の課題が30%とする。一回の課題は原稿用紙400字詰め7枚から15枚(ワープロの場合は、2800字から6000字)とする。出席率が3分の2以上を越えなければ、成績は「不合格」とする。また、遅刻2回で、欠席1回とし、30分以上の遅刻は欠席とする。出席率が3分の2以上を越えなければ、成績は「不合格」とする。

教科書

- 1) 『楽しく読める英米演劇』 ミネルヴァ書房
- 2) プリント

履修コード	026401
科目名	アメリカ文学特講I
担当者名	あずま 雄一郎

講義のねらい

アメリカ詩を通時的、共時的に考察し、アメリカとは何かを考えるのが、この講義の主眼である。グローバル・ヴィレッジ化や越境化が進行する21世紀において、ダイナミックなアメリカ文学の動向は、アングロ・アメリカン（白人）文学を視座にした従来の閉塞的な把握方法では、捉えきれない。アメリカ文学、広義にはアメリカの芸術一般の根源的な特徴は、その多様性であり、また、アメリカ的なものの必要以上の定義と強調・主張である。How do I find America? What is America? Who is an American? How can I become an American? これらの自意識や自問のうちに、様々なアメリカ詩人たちが、独自の詩を創作している。巨大なサラダボール化したエスニックのアメリカが、今後どのような方向に進もうとしているのか。その未来のヴィジョンを受講者各自に考えて欲しい。

講義の内容・授業スケジュール

毎回、数名の詩人・芸術家を取り上げ、その作品を精読します。歴史、文化、社会、時代精神、その時代の思潮も考察します。また音楽や映画も取り上げます。①アメリカ文学の発生と実用文学、並びに白人移民による先住民への迫害・ジェームスタウンとプリマスが意味するもの（1～4）②アメリカの荒野と自然・牧歌の夢並びに独立革命（5～7）③「明白な運命」の嘘・分離戦争としての南北戦争・西部開拓時代・ホイットマンを読む（8～10）④アマーストの隠遁者の魔女・エミリー・ディキンソンを読む・彼女は如何にして厳格な神を飼い馴らしたのか ⑤アメリカの世紀末からモダニズム・農本主義の完全崩壊と産業資本主義の形成・第1次世界大戦と迷える若者たち・国を捨てた若者たち・パウンドとエリオットを中心に読む ⑥アフリカン・アメリカン文学の台頭・ハーレム、そしてジャズとは何か・ラングストン・ヒューズたちのルネッサンス・地霊を守るモダニスト（11～15）⑦大恐慌から第2次世界大戦・ピンクのリボンに飾られた小箱（または精巧に作られた壺）のような詩・形式主義者たちの詩を読む（16～18）⑧沈静した社会への反逆と対抗文化・ビート詩人とギンズバーグを読む・大胆な告白をする病んだ詩人たち ⑨ロバート・ブライ、ジェームズ・ライトの牧歌的瞑想とアウトサイダー指向 ⑩ポストモダニズム考察・ソローに帰るエコロジー・ディキンソンの妹リッチのフェミニズム詩を読む（19～20）⑪祖国を奪われた人々・チカーノ／チカーナの詩人・ネティヴ・アメリカンの詩人を読む（21～24）⑫アメリカの子どもの詩・マザーグースはボストンに永眠する（26～）

成績評価の方法

①年間5回ほどの授業内小レポート（25%）②2400字以上の前期レポート（25%）③2400字以上の後期レポート（25%）④出席点（25%）

教科書

新倉俊一著『アメリカ詩入門』研究社 2000円程度

他  
修  
学  
科  
目  
部

履修コード	033101
科目名	文化地理学
担当者名	おた 匡保

講義のねらい

文化地理学の内容は幅広いが、特に宗教地理学の代表的な研究テーマについて研究例に基づき述べる。

講義の内容・授業スケジュール

1. オリエンテーション
2. 文化地理学の概要
- 3～4. 宗教地理学の概要
- 5～11. 宗教分布
- 12～14. 信仰圏
- 15～16. 宗教集落・宗教都市
- 17～20. 巡礼・社寺参詣
- 21～23. 墓地・火葬場
24. 村落の宗教組織

成績評価の方法

成績評価は、試験（前期・後期の2回、持込不可）の点数が基本であり、これに夏休みレポートの点数を加味する。出席は参考程度であるが、半分以上の出席と夏休みレポートの提出を必須条件とする。試験の点数が低い時はもちろんだが、出席回数が足りない場合、レポートが受理されない場合も、単位は認定されない。

教科書  
参考書等

使用しない。  
授業中に指示する。

履修コード	035101
科目名	人口地理学
担当者名	山内 昌和

**講義のねらい** 人口現象が社会問題として表出する際には、少子化、高齢化、過密・過疎といった形をとるが、これらの理解のためには、出生、死亡、移動、世帯に関する概念や諸指標を理解する必要がある。とくに、地域の人口問題を扱う際には、人口の地域分布変動にもっとも大きな影響を与える地域間の人口移動についての理解が不可欠である。前期では、各種概念や指標に関する基礎的な学習を中心に行い、後期では、日本の人口問題に関する様々な論点について、人口移動を中心に、理解を深めることを目的とする。

**講義の内容・授業スケジュール** おおむね以下のような項目を扱う。  
 〔人口分析の基礎:3〕人口学的方程式、人口構造の把握(性比、年齢構造)  
 〔少子化問題と出生の分析:5〕出生の指標(合計特殊出生率)、出生率の低下とその要因  
 〔人口高齢化と死亡の分析:5〕死亡の指標(生命表、平均寿命)、人口高齢化とその要因  
 〔世帯の分析:2〕人口と世帯の関係、世帯データとその特徴、世帯構造の把握  
 〔人口分布・移動の概念とデータ:2〕人口分布・移動の概念、人口移動データとその特徴、人口分布と人口移動  
 〔日本国内の人口移動:2〕戦後日本の人口移動の概観、地方圏と大都市圏の間の人口移動  
 〔日本の地域の人口変化と:6〕人口の都心回帰、人口からみた郊外の変化、Uターン移動とその要因、過疎地域の現況  
 〔将来人口の推計:3〕将来人口推計の理論、コーホート法による人口推計の実際  
 〔世界の人口:2〕人口転換、世界人口の将来

**履修上の留意点** あらゆる地域において、現在の人口ピラミッドの形は将来の地域人口のあり方を大きく規定する。例えば郊外のニュータウンにおいては今後急激な高齢化が不可避である。このような地域人口変化のメカニズムを本講義を通じて理解して欲しい。

**成績評価の方法** 授業時間内に複数回の試験を実施し、その結果に基づき成績評価を行う。  
**教科書** とくに指定しない。  
**参考書等** 授業時間内に適宜指摘する。

履修コード	041001
科目名	現代地理学特論
担当者名	平井 幸弘

**講義のねらい** 人為的な開発行為によって傷ついた自然の再生を目指す「自然再生推進法」が2003年1月に施行され、2007年11月には「第三次生物多様性国家戦略」が策定されるなど、近年身近な自然・生態系に関する行政や一般市民の関心が高まっている。また、IPCCによる「第4次統合報告書」も2007年11月にまとまり、地球温暖化に対する様々な対応が強く求められるようになった。このような国内外における現代の環境問題を踏まえ、本講義では、とくに水辺の環境問題の事例として、それぞれの地域における人間と環境の関係について、主として自然地理学の視点から考察する。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期は主として日本国内の水辺(河川、海岸、湖沼)を対象として、(1)日本のラムサール条約登録湿地をめぐる課題と意義(2回~6回)、(2)日本の湖沼(霞ヶ浦、宍道湖・中海など)における自然再生への取り組み(7回~10回)、(3)日本の海岸(オホーツク海沿岸、東京湾、有明海など)における近年の環境問題(11回~15回)。後期は主としてアジアの水辺を対象として、(1)タイのチャオプラーヤ川、ソンクラー湖、アンダマン海での環境問題(16回~20回)、(2)ベトナムの江河デルタ、メコンデルタ、フエのラグーン地域での海面上昇問題(21回~25回)、(3)韓国の始華湖、セマングム干拓地、ほか(26回~30回)。

**履修上の留意点** 現実の様々な環境問題に、広い視野から関心を持ち学ぼうとする意欲を期待したい。出席とレポート及びその発表。受講生が多数の場合は試験を行う。

**成績評価の方法** とくに指定しない。  
**教科書** 高校で使う程度の地図帳(二宮書店や帝国書院発行のものなど)と12色の色鉛筆を用意することが望ましい。

履修コード	O46911
科目名	西洋文化史
担当者名	西浦 <sup>にしうら</sup> 麻美子 <sup>まみこ</sup>

講義のねらい

前期は、古代から20世紀までの西洋服飾の歴史を、図像資料を中心に概説する。後期は、18世紀後半のフランスにおける服飾流行をとりあげ、とくに「アングロマニー（イギリス崇拜）」との関わりから解説する。

講義の内容・授業スケジュール

前期：（1～2）古代ギリシャ、ローマの服飾（3～4）中世ヨーロッパの服飾（5～6）ルネサンス期の服飾（7～8）17世紀の服飾（9～10）18世紀の服飾（11～12）19世紀の服飾（13～14）20世紀の服飾（15）まとめ

後期：（1～2）ファッション・プレートの歴史（3～4）アングロマニーの起源（5～7）イギリスモード（8～10）シャルトル公のアングロマニー（11～12）懐古趣味の舞踏会（13～14）アメリカ独立戦争とフランスモード（15）まとめ

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

学期末試験（60％）と出席状況（40％）により評価する。

特に指定しない。

授業内で随時紹介していく。

履修コード	048401
科目名	日本史特講VII〔近代〕
担当者名	熊本 史雄

講義のねらい

本講義では、日清・日露戦争期から第一次大戦、第二次大戦を経て、戦後のサンフランシスコ平和条約・日米安全保障条約締結に至るまでの日本外交につき、史料を交えて講述する。

前期では、朝鮮・満洲地域進出の足がかりとなった日清・日露戦争期の日本外交政策を起点に、第一次大戦後の「転換期」に「新外交」を模索したはずの日本が、満州事変を経て日中戦争、アジア・太平洋戦争へと突入していく過程を検証しつつ、その根底に潜む「外交思想」の解明を試みる。

後期には、終戦工作を経て、敗戦後の日本が独立に向けて再生していく過程を、占領期GHQとの折衝交渉をつうじて検証する。

こうした検証と解明をもとに、近代日本の歴史像の一面の提示を併せ行いたい。

講義の内容・  
授業スケジュール

- 第1回 前期の授業計画、参考文献などの説明
- 第2回 アジア進出の端緒①
- 第3回 アジア進出の端緒②
- 第4回 第一次大戦と東アジア社会
- 第5回 「転換期」としての戦間期
- 第6回 「新外交」としての「対支文化事業」
- 第7回 「幣原外交」と「田中外交」
- 第8回 若槻礼次郎と海軍軍縮会議
- 第9回 満州事変とその拡大過程 ①
- 第10回 満州事変とその拡大過程 ②
- 第11回 松岡洋右と国際連盟脱退をめぐる動向
- 第12回 「広田外交」と「佐藤外交」
- 第13回 日中戦争への道
- 第14回 日中戦争とその拡大
- 第15回 中間試験  
《以上前期》
- 第16回 前期の総括（中間試験返却）／後期の授業計画
- 第17回 日独伊三国同盟と日ソ中立条約 ①
- 第18回 日独伊三国同盟と日ソ中立条約 ②
- 第19回 南進政策と日米関係
- 第20回 日米交渉から日米開戦へ
- 第21回 総力戦体制と銃後の世界
- 第22回 終戦工作と戦後構想
- 第23回 敗戦と占領の開始 ①
- 第24回 敗戦と占領の開始 ②
- 第25回 「自衛外交」の模索
- 第26回 サンフランシスコ講和会議の準備作業 ①
- 第27回 サンフランシスコ講和会議の準備作業 ②
- 第28回 吉田茂の安全保障構想
- 第29回 サンフランシスコ講和条約の締結
- 第30回 日米安全保障条約と行政協定の締結

履修上の留意点

史料の講読を通じて外交政策の決定過程を追体験して欲しい。外交指導者が下した決断の理由は何か、その根底にある主張とは何か、といった問題意識を常に持つことが重要。

成績評価の方法  
教科書等  
その他の

前・後期2回の試験の成績（70%）、および出席状況と授業態度（30%）で評価する。とくに指定しない。  
適宜紹介する。  
講義形式で進め、レジュメと史料を毎回配布する。

履修コード	O49711
科目名	東洋史特講III〔近世史〕
担当者名	杉山 清彦

**講義のねらい** ユーラシア東方における最大最後の帝国であった大清帝国（清朝）は、一般には「最後の中華王朝」「漢化した異民族王朝」として理解されている。しかし、これは漢人（漢民族）中心の歴史観に引きつけられた見方であり、非漢人のマンジュ（満洲）人が広大な非漢地を統治した帝国であるという事実を正面から捉えたものではない。本講義では、大清帝国の形成過程と支配構造を、支配層たるマンジュ人に焦点を当て、ユーラシア史の観点から再構成することをめざす。

**講義の内容・授業スケジュール** 〔前期〕大清帝国の形成と発展 1. 近世のユーラシア東方（1～5） 2. マンジュ国から大清国へ（6～10） 3. 大清帝国の発展（11～15）  
〔後期〕大清帝国の統治構造 4. 八旗制度（16～20） 5. 八旗制下の支配構造（21～25） 6. 帝国統合の構造（26～30）

**履修上の留意点** 講義形式で進め、随時アンケート等を実施して受講生との疎通を図る。高校世界史B程度の知識を前提として進めるので、講義中随時紹介する参考文献などを手がかりに、必要な知識は自分でフォローすること。

**成績評価の方法** 前後期各1回課外レポートを基本とし、平常点を参考とする。

**参考書等** 講義中適宜紹介する。全般にわたるものとして、岡田英弘・神田信夫・松村潤『紫禁城の栄光』（講談社学術文庫、2006）を薦める。

履修コード	O52911
科目名	考古学特講III
担当者名	設楽 博己

**講義のねらい** 顔の考古学 現代日本人の祖先はどこに求められるのか。それを解く手がかりは、縄文・弥生・古墳時代の人々にある。彼らはどのような顔立ちをしていたのか。そうした形質の起源はどこに求められるのか。その答えがヒントになる。また、彼らはたたくさんの顔にかかわる造形を残した。土偶や埴輪などは、その代表的な遺物である。本講義では、古代人の顔にまつわるさまざまな問題を取り上げ、日本古代文化とそれを担った人々を掘り下げる。あわせて、縄文・弥生・古墳時代の概略も把握できるようにする。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期は、弥生・古墳時代・律令期の線刻人面絵画や埴輪、人面墨書土器を取り上げ、その特徴や意味を探る。後期は、縄文時代の土偶や仮面など顔にまつわる造形品に対して、その特徴や性格について考える。また、縄文・弥生・古墳時代の人骨を取り上げ、その形質的な特徴、DNA分析の結果などに関する研究の現状を解説し、現代日本人とのかかわりを考える。

**履修上の留意点** 講義中の私語は慎むようにしてください。

**成績評価の方法** 年度末の試験と中間レポートやミニ試験、出席によって総合評価する。

**参考書等** その都度指示するが、当面原始絵画にかかわる参考書として、（佐原真・春成秀爾1997『原始絵画歴史発掘5』講談社）に目を通しておくこと。

他  
学  
部  
履  
修  
科  
目

履修コード	O53201
科目名	哲学史
担当者名	山口 祐弘

**講義のねらい** ヨーロッパ中世における哲学的概念と諸問題を学ぶことによって、古代以来の哲学の発展を見るときにも近代思想の誕生の背景を探る。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期  
①中世哲学の前提。ユダヤ教・キリスト教・古代哲学、②教父哲学、③アウグスティヌス、④ボエティウス、⑤ディオニュシオス・偽アレオパギタ、⑥初期スコラ哲学、エリウゲナ、⑦カンタベリーのアンセルムス、⑧ペトルス・アペラルドゥス、⑨シャトル学派、⑩神秘主義  
後期  
①盛期スコラ哲学。アリストテレス哲学の受容、②パリのユニベルシタス、③オクスフォード学派、④アルベルトゥス・マグヌス、⑤フランシスコ会学派。ボナヴェントゥラ、スコトゥス、⑥トマス・アクィナス、⑦人文学部とアヴェロエス学派、⑧マイスター・エックハルト、⑨後期スコラ学派。ウィリアム・オッカム、ニコラウス・クザーヌス、⑩中世哲学の意義と近代  
**履修上の留意点** 講義に集中し、疑問点は質問し理解に努めること。

**成績評価の方法** 平常の授業態度および小論文による。

**教科書** ヒルシュベルガー「西洋哲学史Ⅱ中世」、理想社、3310-124002-8905



履修コード	059701
科目名	産業・職業社会学
担当者名	山田 信行

講義のねらい  
講義の内容・  
授業スケジュール

“労使関係”をキ概念として、産業社会学を体系的・概論的に講義する。  
講義は2部から構成される。  
第1部（前期）では、産業（・職業）社会学の主要分野について、主として日本の事例について紹介しながら概説する。  
第2部（後記）では、「グローバル化」をポイントにして労使関係の比較歴史社会的な分析を行う。具体的な講義プランは、以下のとおり（それぞれの項目について、1～3回程度の講義回数を予定している）。

第1部 現代日本の産業・労働・職業

1. 産業（・職業）社会学の対象・方法・課題
2. 労使関係とはどんな関係なのかー労使関係論としての産業社会学
3. 賃金・雇用・労働者
4. 労働者の統制と参加
5. 労働組合と労働運動
6. 技術革新と技能の変化
7. 国家と労使関係
8. 変容する産業・労働・職業の世界

第2部 労使関係の比較歴史社会的分析

1. グローバル化と労使関係
2. 労使関係と社会変動ーインダストリアルイズムと多元的資本主義発展
3. アメリカ合州国と不自由労働
4. 資本・賃労働の国際化と日本的労使関係
5. 周辺社会マレーシアの労使関係と資本主義発展
6. 労使関係と社会変動・再論

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

必修科目ではないので、自覚的な学生の参加を希望する。  
主として、中間レポート（前期）および学年末試験（後期）による。  
山田信行『労使関係の歴史社会学』ミネルヴァ書房。  
本書を逐一なぞるかたちで講義を進めるわけではないもの、とりわけ第2部については本書に依拠した講義内容となるため、授業に際して携帯することが望ましい。

参考書等

適宜指示する。

履修コード	063901
科目名	社会福祉発達史
担当者名	堀 千鶴子

講義のねらい  
講義の内容・  
授業スケジュール

我が国における、近代以降の社会事業・社会福祉の生成、発展について学ぶ。特に、社会福祉事業・社会福祉に貢献した人物史の足跡をたどることから、社会福祉の歴史を理解する。

1	社会福祉の歴史と人物史 1	13	人物史 4
2	”	2	14 ” 4
3	慈善・救済の時代	15	” 4
4	人物史 1	16	社会事業・社会福祉の時代
5	” 1	17	人物史 5
6	” 1	18	” 5
7	” 2	19	” 5
8	” 2	20	” 6
9	” 2	21	” 6
10	” 3	22	” 6
11	” 3	23	社会事業に生きた女性
12	” 3	24	地域の歴史

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書

出席を重視する。テキスト必ず持参。  
出席（40%）、レポート（60%）  
室田保夫「人物で読む近代社会福祉のあゆみ」ミネルヴァ書房2800円ISBN4-623-04519-6

他学  
履修  
科目

履修コード	091101
科目名	日本経済論
担当者名	小林 正人

**講義のねらい** 日本経済の（第二次世界大）戦後の歴史について総合的に講義する。とくに日本経済を支える産業の発展史について詳しく説明し、これに対する日本的経営システムの役割について検証する。さらに、平成不況のなかで浮き彫りになった日本の経済システムの課題について述べる。

日本経済は高度経済成長をへたのち、幾度かの「危機」――とくに1970年代の石油ショックと、1980年代後半の円高――をのりこえてきた。しかし長年の平成不況とグローバリゼーションの中で、日本の経済システムや経営システムの問題点も浮き彫りになった。このような経済の発展や変化の意味をリアルにつかむために、産業や企業のレベルにまで立ち入り、技術発展や企業間競争の実態について講義する。

**講義の内容・授業スケジュール**

1. 戦後日本経済の展開過程

(1~3) 戦後史の概要、(4~5) 景気の現状と雇用情勢、(6) 戦後改革、(7~10) 日本の高度経済成長の国内原因と海外要因、(11) 産業政策と経済成長、(12) 石油ショックの展開、(13~15) 円高、バブル経済、平成不況

2. 日本の経済発展とイノベーション

(16~17) イノベーションと産業構造、(18~19) 産業分類と製造業の現状、(20~22) 自動車産業の発展と生産システム、(23~25) 半導体産業の発展と国際的特質、(26~27) 鉄鋼、電機、工作機械等の産業の発展過程、(28) 製品の安全性とPL法

3. 日本の経済発展と日本型経済システムの展望 (29~30)

**履修上の留意点**

講義資料をひんばんに配付する。一度しか配付しないので確実に収集し、授業に持参して保管し、定期試験にそなえることが必要である。教場の前面のスクリーンに講義資料を表示しながら講義ですめるので、見やすい位置に着席すること。板書はあまりせず、プレゼンテーション中心の講義である。なお、ほとんどの講義資料は「小林研究室」のウェブサイト (<http://www.komazawa-u.ac.jp/~kobamasa/>) の「講義」の「日本経済論」のサイトにもできるだけ載せるようにしている。

**成績評価の方法**

定期試験の成績と、講義の節目に出題する数回の小論文またはレポートの達成度とを総合して評価する。

**教科書**

なし

**参考書等**

適時紹介する。なお、経済学の概念や経済用語を調べるための辞典ないし事典の一つは常備してもらいたい(有斐閣、岩波書店、東洋経済新報社などが出版している)。

**その他**

講義についての質問を歓迎します。ただしそのときは、関連する講義資料を持参することが必要です(有意義な回答のため)。

他  
修  
科  
目  
部

履修コード	092401
科目名	財務会計論
担当者名	寺坪 修

**講義のねらい** 財務会計は、企業活動の実態を投資者などの利害関係者へ報告するための「みせる会計」です。そのための開示手段の中心となるのが財務諸表ですが、その作成方法に関しては統一的な制度として、会社法や金融商品取引法などの法令および会計基準が制定されています。会計基準は、現在、グローバル化の進展に伴ないグローバル・スタンダード(世界標準)との調和が進められています。本講義では、日本における財務諸表制度の変遷と動向を踏まえて、会計上の主要なテーマについて具体的にみていきます。

おおむね次の構成で進めていきます。

**講義の内容・授業スケジュール**

(1) オリエンテーション、(2~5) 財務会計の意義・会計の構造、(6~9) 財務諸表の仕組み・企業会計制度、(10~13) 企業会計原則、(14~26) 会計ビックバン・リース会計・退職給付会計・税効果会計・キャッシュフロー会計・連結財務諸表、(27~28) 会計の国際化、(29~30) 財務諸表の活用

**履修上の留意点**

会計は積み重ねの学習によって理解が深まりますので、休まずに受講してください。私語は厳禁とします。

**成績評価の方法**

学年末試験(60%)、出席率(25%)、宿題・レポート提出(15%)の総合評価。ただし、S・Aの評価はGPA評価ガイドラインによる調整を行うことがあります。

**教科書**

寺坪修『会社会計論<改訂版>』2004年刊(創成社)3, 990円

**参考書等**

寺坪修『英文会計論[基本編]第2版』2007年刊(五紘舎)1, 575円

履修コード	093301
科目名	日本経済史
担当者名	わたなべ わいぢ 渡邊 恵一

講義のねらい	経済学は現状分析あるいは将来予測に関心を置く学問であり、歴史的アプローチとはいささか縁遠いものと思われがちである。しかし、われわれの目の前にあるすべての経済的現象は、あるどこかの時点で発生し、その後発展あるいは変容を遂げてきたものであって、その歴史的経緯を理解することは、一見遠回りのように見えるが、きわめて重要な作業であるといえよう。本講義では、研究史上の論争や最新の研究成果などをわかりやすく紹介しつつ、現代日本経済の形成過程をたどっていくこととしたい。
講義の内容・授業スケジュール	(1) 課題と方法、(2)～(6) 幕藩制下の経済発展、(7)～(9) 幕末開港の歴史的意義、(10)～(12) 明治前期の経済政策、(13)～(18) 日本産業革命の展開、(19)～(23) 第一次大戦期の日本経済、(24)～(27) 恐慌の時代、(28)～(29) 戦時経済の展開と崩壊、(30) 総括と展望
履修上の留意点	毎回の講義は連続した内容となっている。欠席もしくは遅刻は、その分だけ話の前後関係がつかなくなることを意味するので、くれぐれも注意されたい。
成績評価の方法	基本的には期末試験の成績で評価するが、小テストの成績、「リアクション・ペーパー」の記載内容などについても、平常点として加味したい。
教科書	老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史—太閤検地から戦後復興まで—』(税務経理協会、2002年)。あらかじめ指示したページ範囲に目を通していることを前提に授業を行う。その他、補助教材として、資料・図表をまとめたプリントを講義時に配布する。後日になって再び参照する資料もあるので、各自ファイルして毎回持参すること。
参考書等 その他の	上記教科書の巻末に掲載。個別の問題に関する文献は、講義の中でその都度紹介する。日本史の知識不問(挫折者歓迎!)。「経済学」を遠巻きに見ている他学部の方も、ぜひ受講してみてください。

履修コード	094701
科目名	中国経済論
担当者名	小杉 修二

講義のねらい

前期は中華人民共和国の経済を歴史的に学ぶ。その開発目標に着目して、中ソ同盟下の大国志向としての「ソ連モデル」、独自の超大国を志向して米ソと対立した「毛沢東モデル」について学ぶ。後期は現在につながる鄧小平モデルの経済発展と問題点について学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

第1—3週：キーワードの解説を中心に基礎知識にふれる。

第4週—10週：ソ連モデル期に中国は発展途上国の特徴である機械の生産能力を欠いているという弱点を克服した。現在、中国の知的財産権侵害が問題にもされているが、発展途上国が発展していくとき良かれ悪しかれ、先進的な技術をまねることになる。しかし、世界中のどの国でもまねができるかといえば必ずしもそうではない。まねすることも偉大な能力であることはわが日本が示してきた能力である。まねができるだけの基礎的能力のかなりの部分がこの時期に培われたと考えられる。また、年9%近い高度経済成長、国民生活の一定の改善もこの時期に達成された。さらに一定の兵器の自給も達成された。

第11週—15週：毛沢東モデル時期には国家目標は独自の超大国に切り替えられた。この時期中国は一見すると経済発展に背を向けて「革命」を目指していたなどといわれることもある。しかし、この時期にも6%程度の経済成長があった。しかし、その成果は国民生活のためには使われず、核ミサイルの開発や米ソとの覇権争いのため、また、後にはソ連との戦争に備える臨戦態勢づくりに消費されてしまった。そしてこの開発戦略のため、中国経済の効率は低下し、行き詰った。これら二つの時期の中国の行き方は良くも悪くも今日にまで続く影を落としている面がある。

後期は鄧小平モデル期（1978年—）の中国を考える。この時期の中国は、平和共存の戦略の下でもうひとつの超大国を目指すべく目覚ましい経済発展を遂げるにいたった。平和共存への転換は臨戦態勢からの脱却を可能にした。資本が乏しいというのが発展途上国の特徴だが、中国は毛沢東式の共産主義の下に「我慢することが共産主義」だとして、さまざまなキャンペーンを通じて消費を抑制し、工場や核ミサイルの開発をしてきた。毛沢東の後継者たち＝「4人組」が敗退したということは、新しい国際条件の下では、国民生活の抑制による経済運営ではなく経済成長による国民生活の向上が新しい経済発展の道として選ばれたということであり、この流れは不可逆的なものである。

第16週—25週：新しい発展戦略は外国の技術・資本を積極的に導入することによって可能になった。中国の低賃金労働力もそれを後押しする要因だった。電機産業にみられる「組み合わせ型」の技術による産業分野では中国はテレビ、パソコン、電子レンジ、洗濯機、冷蔵庫等で世界有数の生産国になった。1人あたりの所得も1000ドルを超えるにいたった。こうした中国の発展を可能にした要因を考えていく。

第26—30週：産業構造の特徴、地域的な産業集積、産業高度化の課題、日中関係、地域格差、階層格差等について考えていく。

私語、飲食、携帯電話禁止（授業に集中できない人は出席不可）。

前期レポート、後期試験（30%、70%）。

前期 小杉修二『増補 現代中国の国家目的と経済開発』（龍溪書舎 1997年）4000円

加藤弘之・上原一慶編著『中国経済論』ミネルヴァ書房 2004年、馬成三『中国経済の読み方』ジェトロ、2002年 周牧之『中国経済論』日本経済評論社、2007年

履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書  
参考書等

他学部  
履修科目

履修コード	094801
科目名	アメリカ経済論
担当者名	<small>せとおか ひろ</small> 瀬戸岡 紘

**講義のねらい** 現代のアメリカ経済事情を幅広くわかりやすく解説します。特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です。アメリカ経済を自力で理解していく力をつけることが目標です。

**講義の内容・授業スケジュール** 1回の講義でひとつのテーマをとりあげます。あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します。アメリカの諸大学の授業にみられる長所を可能なかぎりとり入れた授業です。

以下の項目をさしあたり準備しています。受講者の要望の強いものから講義していきます。◇大統領選挙の動向、◇大統領の今年の経済政策、◇建国の理念と現実、◇アメリカの農業、◇アメリカの工業、◇ベンチャービジネス、◇雇用と労働者、◇商業とサービス、◇金融、◇教育と経済、◇科学技術、◇先端産業、◇経済と環境問題、◇アメリカ社会とヴォランティア、◇女性・マイノリティー、◇ドルの地位、◇アメリカの貿易、◇軍の世界的ネットワークと経済的意義、◇海外援助、◇多国籍企業とアメリカ経済、◇アメリカとEU、◇アメリカと日本、◇アメリカとアジア・太平洋、◇アメリカとカナダ・メキシコ、◇アメリカの経済学、など

**履修上の留意点** この講義は、アメリカ経済の個々の現象を羅列的に述べるようなことはしません。むしろ、日々報道されているアメリカ経済の事象を、みなさんが自力で読み解く力をつけるための話に徹します。アメリカものの本には書かれていない事柄をたくさんお話することによって、みなさんが講義に出席してよかったと実感してもらえたらありがたい、と考えています。

**成績評価の方法** アメリカ経済を理解することは、この国が好きであれ嫌いであれ、現代世界経済全体を理解するためのカナメです。現代の国際事情を幅広く解明したい諸君は、この科目を早めに履修して、いっそう広範かつ深い国際理解へとすすむことをお勧めします。

**教科書** 随時、受講者には小論を書いてもらい、それで成績評価をします。平常点重視のたてまえから、一発勝負の年度末試験は、受講者の強い要望がないかぎり実施しません。

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定の教科書は使用しません。講義では、随時よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体がこの講義の教科書ですが、どうしてもといわれれば、

瀬戸岡著『アメリカ理念と現実』（時潮社、2005年）

グリーンバーグ著・瀬戸岡訳『資本主義とアメリカの政治理念』（青木書店、1994年）

瀬戸岡ほか編著『グローバル時代の貿易と投資』（桜井書店、2003年）

をおすすめします。

履修科目

履修コード	095001
科目名	EU統合論
担当者名	<small>くどう みい</small> 工藤 芽衣

**講義のねらい** 欧州連合（European Union）は、欧州統合という国民国家を超えた超国家的組織の下で、欧州の平和と繁栄の実現を目指す、第二次大戦後の歴史的・政治経済的試みの、一つの成果です。しかしながら現実を見ると、EUは域外地域の動きと無関係に展開しているのではなく、またEU内部では各国の利害が錯綜しているというのが現状です。本講義ではEUの生成と発展を、各加盟国の政治経済社会における諸政策、EU域外の動きとの関連から考察し、欧州統合の理念と現実について考えたいと思います。

**講義の内容・授業スケジュール**

- I. 欧州統合の軌跡
  1. 欧州の戦後復興と統合
  2. EEC、ECからEUへ
- II. 欧州統合と国民国家
  1. 主要国の欧州統合への姿勢
  2. EUの諸政策
- III. EU域外との関係
  1. 旧植民地諸国
  2. アメリカ
  3. 日本

**成績評価の方法** 出席、授業中に行う小テストで評価します。

履修コード	095101
科目名	現代西欧経済論
担当者名	工藤 <sup>くどう</sup> 芽衣 <sup>めい</sup>

講義のねらい 本講義は、欧州通貨統合の経緯を、国際通貨体制およびドルの動き、加盟国とりわけ独仏の政策との関連で考察します。

講義の内容・授業スケジュール I. プレトンウッズ固定相場制とその崩壊  
II. スネークの発足と挫折  
III. 欧州通貨制度（EMS）の展開  
IV. ユーロをめぐる諸問題

成績評価の方法 出席、授業中に行う小テストで評価します。

履修コード	097001
科目名	会計監査論
担当者名	森田 <sup>もりた</sup> 佳宏 <sup>よしかひろ</sup>

講義のねらい 会計監査とは、企業における会計記録および会計行為につき、それに関与しない独立第三者が分析的に検討を加え、その適否または正否に関する批判的意見を表明することである。会計監査のうち、現在もっとも広く行われ、かつ、もっとも重要な監査方式は、職業監査人すなわち公認会計士による財務諸表監査である。本講義においては、職業監査人による財務諸表監査を中心として、会計監査の意義・目的、種類および歴史、ならびに会計・監査制度、監査基準等について解説する。

講義の内容・授業スケジュール (1) 会計監査の意義と概要 (2~5) 企業会計法と監査、会計の国際化と監査、監査の主体① (6~10) 監査の主体②、外部監査制度の生成①、監査の種類、監査役監査、委員会設置会社 (11~15) ディスクロージャー制度（金融商品取引法・会社法）、外部監査制度の生成②、監査基準の生成①、監査基準の生成② (16~20) 監査基準の体系、公正不偏性と外観的独立性、監査のプロセス、内部統制、監査調書 (21~25) 重要な虚偽表示、監査の品質管理、守秘義務、リスク・アプローチ、監査要点 (26~30) 監査証拠、継続企業の前提、監査意見、監査報告書

履修上の留意点 本講義の履修にあたっては、すでに「簿記論」、「会計学基礎または会計学総論」および「財務会計論」を履修済みであることが望ましい。

成績評価の方法 原則としてレポートおよび期末試験により評価する。

教科書等 指定しない。必要に応じて資料を配付する。  
山浦久司『監査論テキスト（第2版）』（中央経済社）  
友杉芳正『新版スタンダード監査論（第2版）』（中央経済社）  
千代田邦夫『現代会計監査論』（税務経理協会）  
日本公認会計士協会編『監査小六法（平成19年版）』（中央経済社）  
日本公認会計士協会編『監査実務指針ハンドブック（平成20年版）』（中央経済社）

他学部  
履修科目

履修コード	097601
科目名	貿易論
担当者名	古沢 絃造 <small>ふるさわ こうぞう</small>

**講義のねらい** オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまでできています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

**講義の内容・授業スケジュール**

I. 生産・消費と貿易

1. 農産物と貿易（4～5回）
2. 水産物と貿易（1～2回）
3. 林産物と貿易（1～2回）
4. 鉱物資源と貿易（1～2回）
5. エネルギーと貿易（1～2回）
6. 工業製品と貿易（4～5回）

社会・経済状況の変化に対応して、アップ・ツー・デートな貿易問題も積極的に取り上げるようにしたい。

II. 政治・経済・社会と貿易

1. 自由貿易とその問題点（3～4回）
2. 開発援助と貿易（1～2回）
3. 軍事と貿易（1～2回）
4. 環境と貿易（1～2回）
5. WTOと貿易（2～3回）
6. グローバリゼーションと貿易（3～4回）
7. 持続可能な発展と貿易（1～2回）

**成績評価の方法**

本試験を基本とするが、提出物（講義ごとのまとめ、前期、後期のまとめ）などを総合して評価を行う。答案やまとめを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

**教科書**

特にこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

**参考書等**

講義の中で興味をもち、もっと知りたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

履修科目部

履修コード	119701
科目名	経済法
担当者名	若林 理理砂 <small>わかばやし ありさ</small>

**講義のねらい** 経済法の中心をなす独占禁止法を理解することを目標とする。独占禁止法は、市場における競争秩序の維持をになうものであるが、これは事業者の活動にかかわるのみならず、私たち消費者の生活にも密着している。この点を念頭に置き、講義では、なるべく多くの事例を紹介することにより、独占禁止法の解釈や運用について具体的なイメージをもって理解できるように進める予定である。

**講義の内容・授業スケジュール**

以下のトピックについて講義を行う予定である。

- 1 独占禁止法の基礎概念
- 2 不当な取引制限
- 3 私的独占
- 4 一般集中規制
- 5 市場集中規制
- 6 不公正な取引方法
- 7 公正取引委員会
- 8 私的エンフォースメント・刑事罰

**成績評価の方法**

期末試験により評価を行う。

**教科書**

丹宗・厚谷編『新現代経済法入門（第2版）』（法律文化社）

**参考書等**

別冊ジュリスト『独禁法審決・判例百選（第六版）』（有斐閣）

**その他の**

授業は毎回配布するレジュメに基づいて進めることとする（基本的には教科書に沿ったものとなる予定である）。

履修コード	126601
科目名	国際政治学
担当者名	小堀 訓男 <small>こほり のりお</small>

**講義のねらい** 国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解し、同時に、国家が国際社会のステージで行動するとき、その国家の内部の意思決定のシステムが、どのように作用し合うかを理解することが、本講義の目的である。

**講義の内容・授業スケジュール** 前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに基礎的知識の整理をおこなう。

後期では、国際政治と国内政治との関係を理解し、国際政治の本質を、利益、権力政治、国際組織、政治は矛盾であり対立である、というテーマでアプローチして考案する。最後に、国家が国際社会の中で行動するとき、原理、原則があるのだろうか、というテーマで、国家の行動基準、冷戦中、冷戦後の国際政治を検証する。

授業スケジュールは、(1～5) 政治学の基礎的知識の整理、(6～8) 国家、権力、民族、階級、(9～11) 近代国家の特質、(12～15) 国際社会の特質、(16～17) 国際政治と国内政治、(18～22) 国際政治の本質、(23～26) 国家の行動基準、(27～30) 冷戦中、冷戦後の国際政治の予定である。

**履修上の留意点** 授業中に読むべき本を紹介しますので本を読むことと、TV・新聞・雑誌の報道に日頃から留意すること。

**成績評価の方法** 1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

**教科書** 使用しません  
**参考書等** 必要に応じて講義のなかで紹介いたします。

履修コード	126701
科目名	ヨーロッパ政治史
担当者名	土井 美徳 <small>どい、よしのり</small>

**講義のねらい** 近・現代ヨーロッパの政治史・国際関係史を概説する。今日の欧州統合という展開をふまえながら、ヨーロッパが近代において提示したものの、さらに20世紀末以降に、ヨーロッパが提起しているものとは何かを考察する。

- 講義の内容・授業スケジュール**
- I 近代ヨーロッパの成立と展開
- ①西欧国家体系の誕生と展開
  - ②絶対主義国家の台頭と覇権闘争
  - ③国民国家の誕生
  - ④18世紀のヨーロッパの国際社会
  - ⑤19世紀ヨーロッパ協調とナショナリズム
  - ⑥自由主義社会の変容
  - ⑦両大戦間期のヨーロッパ
- II 現代ヨーロッパの形成と変容
- ①戦後ヨーロッパの形成
  - ②冷戦体制とヨーロッパ分断
  - ③ヨーロッパ統合の理想と現実
  - ④米欧関係の新展開
  - ⑤世界経済の多極化とヨーロッパ統合
  - ⑥米ソのデタントとヨーロッパのデタント
  - ⑦米ソ「新冷戦」とレーガンの対ソ政策
  - ⑧ソ連・東欧ブロック崩壊の始まり
  - ⑨冷戦の終焉とヨーロッパ新秩序の胎動
  - ⑩統一ドイツと欧州統合
  - ⑪ポスト冷戦期のヨーロッパの安全保障
  - ⑫EU条約とヨーロッパ統合の新展開
  - ⑬ヨーロッパ統合の東方拡大

**成績評価の方法** ・定期試験の結果を中心に、出席状況を加味して総合的に判断する。

他  
学  
部  
履  
修  
科  
目



履修コード	128201
科目名	比較政治学
担当者名	三竹 <small>みなけ なおや</small> 直哉

**講義のねらい** 比較政治学は、いろいろな国や地域の事例を比較して、政治現象の因果関係の解明を目指す分野です。この授業では、その一端をご紹介しますとともに、みなさん自身が比較研究をするのに役に立つ勉強をすることを目標にします。

**講義の内容・授業スケジュール**

「比較」という手法は、あらゆる分野に使える方法ですので、まじめに勉強すると卒業後も役に立つことが多いと思います。

この文章は2007年12月の時点で書いています。この授業には世界や日本で今現在起きている出来事を反映させる必要があります。また、よいドキュメンタリー番組などが放映されれば、積極的に使っていきたいと考えています。参加する学生さんの関心や熱意、人数によって、授業内容も変えていきます。したがって、2007年12月の時点で詳細な授業スケジュールを確定させることはできません。基本的には2008年度も2007年度同様、民主化、民族問題、移民政策といったテーマで授業を進めていき、その後比較研究の方法論の勉強をします。下記に2007年度のスケジュールを掲載してありますので、参考にしてください。授業のやり方は、参加人数や大学からあてがわれる教場の設備によっても大きく変わってきます。参加人数が非常に少なければ、ゼミのようにやることもあります。

前期

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民主化を考える：ビルマ1
- 第3回 民主化を考える：ビルマ2
- 第4回 民主化を考える：ウクライナ1
- 第5回 民主化を考える：ウクライナ2と民主化支援
- 第6回 民主化を考える：サウジアラビア
- 第7回 民族対立を考える：ルワンダ
- 第8回 民族対立を考える：クルディスタン
- 第9回 移民政策を考える：アメリカとヨーロッパ
- 第10回 移民政策を考える：日本(1)
- 第11回 移民政策を考える：日本(2)
- 第12回 移民政策を考える：日本(3)
- 第13回 前期のまとめ

後期

- 第14回 先住民族政策を考える(1)：ハワイ
- 第15回 先住民族政策を考える(2)：アイヌ民族
- 第16回 先住民族政策を考える(3)：オーストラリアのアボリジニー
- 第17回 先住民族政策を考える(4)：グループ作業討論と全体討論
- 第18回 日本の難民政策を考える
- 第19・20回 『創造の方法学』
- 第21回 「比較政治学の方法論」：事例選択のバイアス
- 第22回 質的比較分析：ブール代数の練習
- 第23回 質的比較分析：西欧の民族言語運動
- 第24回 ブール代数による仮説の検証の練習
- 第25回 ブール代数による仮説の検証の練習(続き)
- 第26回 質的比較分析の実際

**履修上の留意点**

YeStudy の利用を前提とします。

ほぼ毎週文献を読む課題が出ます。教室には必ず課題を読んでもることが条件です。毎週こつこつやると興味深く感じるが増えていきます。

また、中学校の社会科レベルの内容が身につけていること、新聞(特に国際面)をふだんから読んでいること、高校の社会科レベルの内容で授業に関連することは自分で学習することが条件です。欠席したときの授業内容は各自の責任で補ってください。就職活動であろうが部活動であろうが、欠席した人を特別扱いすることはありません。(病気による長期欠席の場合は早めに相談してください。)

**成績評価の方法  
教科書  
参考書等  
その他**

平常点と定期試験によります。参加人数が少なくなった場合、出席を取る可能性があります。指定する可能性はありますが、現時点で未定です。

その都度紹介します。

この文章は2007年12月時点で書いています。変更もあり得ます。

他  
学  
部  
履  
修  
科  
目

履修コード	133801
科目名	現代国家論
担当者名	おおつか かつら 大塚 桂

**講義のねらい** 本講義は近代における日本国家の解明を主たる目的に定めます。具体的には下記の諸課題を検討していきます。第一に近代日本国家の形成過程＝明治国家の構造（前期）であり、第二に日本人の政治的行動様式・観念形態を規定するもの＝政治文化の問題（後期）をとりあげます。

**講義の内容・授業スケジュール**  
 I 前期 (1) 幕末維新の政治過程 (2) 内閣官制 (3) 大日本帝国憲法 (4) 統帥権 (5) 帝国議会 (6) 自由民権運動 (7) 地方官官制 (8) 財政 (9) 国家神道 (10) 教育勅語 (11) 社会主義 (12) 大正デモクラシー (13) 天皇制ファシズム (14) 統制経済 (15) 中間試験  
 II 後期 (16) 日本の宗教①～⑤ (17) 日本人の死生観 (18) タテ社会の原理 (19) 和の精神 (20) ムラ・イエの原理 (21) ホンネとタテマエ (22) 集団指導体制 (23) 意志決定 (24) 被害者意識 (25) 期末試験

**成績評価の方法** 授業内における中間試験(50%)と期末試験(50%)により評価します。

**教科書** 大塚桂『明治国家の基本構造』(法律文化社) 3200円  
 大塚桂『政治文化論入門(仮題)』(勁草書房)未定 ※2008年夏に刊行予定

**参考書等** 上記教科書の巻末にかかげた参考文献を参照のこと。

**その他** 私の研究室は、第二研究館八階(2835)です。電話は、3418-9377(直)です。

履修コード	140001
科目名	経営労務論
担当者名	かしま ひであき 鹿嶋 秀晃

**講義のねらい** 現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。経営労務論を受講することで企業と労働、社会について幅広い問題関心を持ってもらいたい。

**講義の内容・授業スケジュール** 講義は1コマ1テーマの原則。各回毎に「日本は終身雇用なのか?」といったテーマを掲げ、その解説をおこなう。また、最近の新聞記事から重要な経営労務問題をピックアップして紹介する。スケジュールは大まかに次の予定。(1) ガイダンス、(2)～(4) 経営労務論と日本的経営論、(5)～(10) 正規、非正規の雇用管理、出向・転籍・早期退職など、(11)～(16) 賃金論入門、年功賃金の歴史、職能資格制度、人事考課、昇進・昇格など、(17)～(22) 労使関係の歴史、構造、労働組合など、(23)～(29) 各論(労働時間、福利厚生、賃金格差問題、教育訓練など)とまとめ、質問受付、(30) 試験。

**履修上の留意点** 詳細は最初の講義で説明。(1) 出席点は無し。(2) 私語は真剣に聞いている他の学生に迷惑になるので厳禁。(3) 携帯電話は消音。ひどいときには退室させ、単位認定をしない。

**成績評価の方法** 評価は学期末試験とレポート提出の合計点で成績評価を実施する。受講者数によって変更の場合もあり。

**教科書** 特になし。

**参考書等** 津田眞激『人事労務管理』(ミネルヴァ書房) 1993(定価3,000円程度)、経営労務をより体系的に深く学習するのによい白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』(東洋経済新報社) 1992(定価3,500円程度)をあげておく。他にも適宜講義中に紹介していく。

**その他** 図表やグラフを多用し、ただノートを取るだけでなく「頭をつかう」ようにする。WEBページでも授業に関する情報を提供。URL参照。http://www.komazawa-u.ac.jp/~kashima/

他学  
履修  
科目

履修コード	141301
科目名	経営分析論
担当者名	かたぎり のぶお 片桐 伸夫

講義のねらい 経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか（安定性分析）、
  - 2 「儲け」はどうだろうか（収益性分析）、
  - 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか（生産性分析）、
  - 4 長期的な会社の「伸び」はどうだろうか（成長性分析）、また、
  - 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか（社会性分析）、
- といった内容です。

講義の内容・  
授業スケジュール

(1) 経営分析について、(2-6) 経営分析の資料、貸借対照表・損益計算書の読み方、(7-12) 収益性・安定性分析、製造業-製造原価報告書、(13-15) 貸借対照表・損益計算書問題、安定性・収益性比率の計算問題、(16-20) 生産性分析、標準原価、損益分岐点分析、(21-26) キャッシュフロー計算書、連結財務諸表、(27-30) 税効果会計、正味現在価値法と設備投資

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、さきやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと授業中のテストで行います。学年末試験は行いませんのでご注意ください。

評価基準 前期レポート40%、前期小テスト10%、

後期レポート40%、後期小テスト10%、

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教科書  
参考書等

開講時、指示します。

随時、紹介します。

履修コード	141201
科目名	アメリカ経営学
担当者名	みやぎ 徹

#### 講義のねらい

世界の経営学をリードしているのは、いうまでもなく、アメリカ経営学とドイツ経営学である。そして、日本の経営学の研究・教育は、第2次大戦前はドイツ経営学から、大戦後はアメリカ経営学から圧倒的な支配的影響を受けて発展してきた。ところが、特に1960年代以降になると、ドイツ経営学にもアメリカ経営学の影響が顕著に見られるようになった。

学生諸君は、必修科目である「経営学」の授業を通じて、無意識のうちに、アメリカとドイツの経営学にかんする基礎知識をある程度身につけていることを前提とした上で、経営学徒のメッカ、アメリカ経営学をその最先端の理論的・経験的研究の基本的成果を踏まえて全般的に講義するが、主として、下記の授業計画の7つの要目について検討する。その際、日本の企業との関連についても検討を加える。

#### 講義の内容・授業スケジュール

マイクと板書。教科書は指定しない。

この授業は1週1回90分で年間30週の時間数（ただし、期末試験日を入れて）から成る。最初の授業時間は、この科目を選択するか否かを判断するために見に来ている学生諸君に、アメリカ経営学の1年間の授業の概要を説明する。原則として、下記の授業計画の要目をそれぞれカッコ内の授業回数（合計29回）で完結する予定である。

なお、この授業回数は一応の目安であり、授業時間が祝祭日に当る場合は授業の進展状況によって若干変更することがある。

（2008年度『アメリカ経営学』授業計画）

- I 1年間の授業の概要 (1)
- II 経営学の対象と方法 (2)
- III 意思決定と権力（パワー：マハト） (8)
- IV 戦略（特に提携、グループ、ファミリー） (4)
- V コンティンジェンシー理論 (4)
- VI 取引コスト理論 (6)
- VII プロパティ・ライツ理論 (2)
- VIII プリンシパル-エージェント理論 (2)

#### 成績評価の方法

期末筆記試験。なお、学生諸君の理解度と教育効果を確かめるために、期末試験以外に、小試験をおこない、その結果を評価の対象に加味することがある。

《期末試験の出題形式》

複数の問題から1題選択して論注する。詳細は試験前の授業で説明する。

#### 参考書等

- 1 宮城徹『企業の政治理論序説』（税務経理協会）1983：1997年
- 2 宮城徹「企業制度とプロパティ・ライツ理論」『商学研究科紀要』（早大、第20号）1985年
- 3 宮城徹「情報と企業経営の理論的諸問題」日本経営学会編『情報化の進展と企業経営』（千倉書房）1987年
- 4 宮城徹『経営者論』鈴木英寿編『経営学総論』（第2版）（成文堂）1998年
- 5 宮城徹「経営学の歴史」藤芳誠一編『新版・新時代の経営学』（学文社）1993年
- 6 宮城徹「組織の経済理論の基礎構造」日本経営学会編『現代経営学の課題』（千倉書房）1997年
- 7 宮城徹「企業統治の研究の総合の一試論」『駒大経営研究』第31巻 第1・2号、2000
- 8 宮城徹（単独訳書）『情報時代の企業管理の教科書－組織の経済理論の応用－』（税務経理協会）2005年（A.Picot u.a., *Die grenzenlose Unternehmung*, Gabler, 1998）
- 9 宮城徹（共訳書）『新制度派経済学による組織入門』（白桃書房）2007年（A.Picot u.a., *Organization. Eine ökonomische Perspektive*, Schaffer-Poeschel, 1997）

ここでは紙幅の関係で上記の授業内容に直接関連のある私の著書・論文・訳書だけを参考文献の一部として掲げておいたが、その他の文献については適宜紹介してゆく。

履修コード	139501
科目名	経営学史
担当者名	中川 淳平

講義のねらい この講義では、100年あまりにわたる経営学の歴史上、重要なものと位置づけられる学説を、その問題意識に着目し、現代企業経営の諸問題を解決するための技法として解説を加えていく。

講義の内容・  
授業スケジュール

1. コーポレートガバナンスのための問題解決技法（制度学派など、1-7）
2. リストラクチャリングへの問題解決技法（経営戦略論など、8-15）
3. イノベーションへの問題解決技法（生産管理論など、16-21）
4. コミュニケーションへの問題解決技法（人間関係論など、21-23）
5. セクショナルリズムへの問題解決技法（経営組織論など、24-30）

履修上の留意点  
成績評価の方法

講義中の私語は慎んで下さい。  
定期試験100%。但し講義中などで必要に応じレポートの提出を求めることがあり、内容いかんによってこれを評定に加えることがある。

教科書  
参考書等

中川淳平『問題解決のための経営学』泉文堂、2007年。  
授業毎に配布するプリントに適宜指示する。

履修コード	139601
科目名	経営史
担当者名	前田 和利

講義のねらい 経営史を学ぶことによって企業経営の変化のダイナミズムを理解することが可能となる。本講義では、方法論を検討したうえで、経営発達史における各段階の典型型をとりあげて講義するが、その際できるだけ産業・企業の歴史や国際比較の視点をふまえて論じていく。その結果、日本の企業経営の特質を鮮明に浮かび上がらせることができよう。

講義の内容・  
授業スケジュール

- I. 経営史の学び方（1回）
- II. 経営史研究の課題と方法（4回）  
伝統的経営史、企業者史、組織総合理論
- III. 企業経営発達史
  1. 企業経営の生成（4回）  
商人資本の経営、マニファクチュア経営
  2. 企業経営の確立（3回）  
産業革命、工場制度
  3. 確立期企業経営の諸様相（5回）  
企業経営者と行動原理、企業形態と企業金融、労務管理、流通・販売組織
  4. 企業経営の発展（7回）  
市場と技術、大量生産システム、大企業の形成と戦略・組織、巨大企業の成立と管理機構
  5. 企業経営の変容（4回）  
大企業体制の動揺と新動向（経営戦略と経営組織の変遷）

履修上の留意点

教科書は使用しないので、授業開始時に配布するレジュメおよび下記の参考書を参照し、必ずノートを整理しておくこと。年に4～5回簡単な問題等を提示して回答してもらう予定である。

成績評価の方法  
教科書  
参考書等

学年末試験による評価を90%、出席時に提出した回答を10%とする。  
使用しない。  
榎本悟『アメリカ経営史学の研究』新版（同文館）、大河内暁男『経営史講義』（第2版）（東京大学出版会）、米倉誠一郎『経営革命の構造』（岩波新書）、安部悦生『経営史』（日経文庫）、鈴木良隆ほか『ビジネスの歴史』（有斐閣）、経営史学会編『外国経営史の基礎知識』（有斐閣）。  
その他随時紹介する。

履修コード	141701
科目名	国際経済論
担当者名	<small>ながた とものり</small> 永田 智則

**講義のねらい** 本講義の目的は、現実が生じている国際経済現象の解明に役立つような基礎的理論を簡潔に提示することにあります。「なぜ貿易が行われるのか」から説き起こし、最近の東アジアの経済発展に大きな役割を演じている「直接投資」まで題材にして講義する予定です。

**講義の内容・授業スケジュール** 分析道具が習得できれば、それを利用することによって現実の国際経済現象を自ら解明できるようになるはずです。

**履修上の留意点** (1) 国際経済学の異議、(2～7) 国際分業論、(8～12) 貿易政策、(13～15) 経済成長と貿易、(16～22) 国際マクロ経済学、(23～25) 外国為替と国際収支、(26～30) 資本の国際移動

**成績評価の方法** 現実の世界経済の動きを題材にしますので、新聞等で報道される関連ニュースに接しておいてください。

**教科書** 原則として学年末の定期試験で評価しますが、授業への出席も重視します。途中、検討課題を出すことも考えていますので、総合的な評価になることもあります。定期試験だけを受けて、要領よく単位をとりたいと考えている人は、受講を遠慮して下さい。

**参考書等** 下記の書物と、授業中に配布するプリントを併用します。  
仙頭佳樹著「最もやさしい国際経済学」多賀出版、2800円+税、ISBN4-8115-6491-X  
随時必要に応じて紹介します。

履修コード	142351
科目名	リスクマネジメント論
担当者名	<small>いしなざか くにあき</small> 石名坂 邦昭

**講義のねらい** 近年、企業を取り巻く環境は多種多様なリスクに囲まれている。企業はそれらのリスクを征服しなければ、安定経営は望めない。企業を取り巻くリスクにはどのようなものがあるかを知り、それらにどのように対処したらよいかを講義の中心とする。

**講義の内容・授業スケジュール** リスクマネジメントの生成について学び、リスクマネジメント・プロセスについて講義を行う。その後、PLリスクや環境リスクについて学ぶ。

**履修上の留意点** ①リスクマネジメントの生成と発達、1～3、②リスクマネジメントの理論、4～10、③企業経営とリスクマネジメント、11～20、④PLとリスクマネジメント、21～25、⑤環境リスクとリスクマネジメント、26～30

**成績評価の方法** ノートをしっかりととること  
定期試験の成績と平常点

**教科書** 特になし

**参考書等** リスクマネジメントの理論 石名坂邦昭著 白桃書房

**その他の** 授業にまじめに出席すること

他学部  
履修科目

履修コード	143231
科目名	消費者行動論
担当者名	菅野 佐織

**講義のねらい** この授業では、人の消費場面における心理的作用と、それらと企業のマーケティング活動の相互作用について考え、理解することを目的としています。今日の企業のマーケティング活動においては、消費者のインサイトを掴むことが欠かせません。この授業では、身近な事例や企業ケースを用いて、消費者の心理を学ぶだけでなく、企業のマーケティング活動と消費者行動分析のリンクについて考えていきたいと思います。また、企業の方をお招きしての講義も予定しています。

**講義の内容・授業スケジュール**

1. 授業計画の説明とイントロダクション
2. 消費者行動とは
- 3～5. 消費者行動研究の歴史
- 6～10. 消費者の購買意思決定過程
- 11～12. 消費者行動の影響要因
- 13～14. 消費者行動のケース分析
15. 実務家を招いてのゲストスピーカー講義
16. 前期授業の復習
- 17～20. 消費者行動分析の手法
- 21～28. 企業のマーケティング戦略と消費者行動のリンク（価格、ブランド、広告プロモーション、インターネット、デザインと消費者心理）
29. 実務家を招いてのゲストスピーカー講義
30. 講義のまとめ

**履修上の留意点  
成績評価の方法  
教科書**

授業中に学生の皆さんに意見を求めるので積極的に参加してください。  
出席点（数回）、レポート（数回）、定期試験によって評価します。  
授業時に資料を配布します。理解を深めるために下記の参考書を予習・復習の参考にしてください。

**参考書等**

杉本徹雄編『消費者理解のための心理学』1997年（福村出版）2730円  
清水聡『新しい消費者行動』1999年（千倉書房）3360円

他学部  
履修科目

履修コード	143241
科目名	マーケティング・コミュニケーション論
担当者名	中野 香織

**講義のねらい** 近年は、マーケティングそのものがマーケティング・コミュニケーション（MC）だと認識され始めてきた。その背景には、マス広告が効かなくなってきたことに加え、様々な手段によって消費者との関係性を構築する必要がうまれてきたことなどがある。このような背景のもと、日常生活で接するもの全てをコミュニケーションのためのメディアと捉える統合マーケティング・コミュニケーション（IMC）が、今後重要になってくるだろう。そこで本講義ではIMCを包括的に理解してもらうことを目的とし、理論的な説明に加えて事例紹介やゲスト（実務担当者）による講義等、実践的な説明も行う。

**講義の内容・授業スケジュール**

講義は3段階に分けて行う。初めにマーケティング・コミュニケーション（MC）の全体構造を説明する。次にMCを構成する具体的な戦略を説明し、最後に各MC戦略がどのように統合されるのかを説明する。（1～5）マーケティング・コミュニケーション（MC）の全体構造、（6～9）広告戦略、（10～12）販売促進戦略、（13）ゲストスピーカー、（14）商品コミュニケーション戦略、（15～17）店頭MC戦略、（18～19）PR戦略、（20～21）パーソナル・コミュニケーション戦略、（22～23）ダイレクトマーケティング戦略、（24～25）インタラクティブマーケティング戦略、（26～27）IMC戦略、（28～30）ケース研究とまとめ

**成績評価の方法  
教科書  
参考書等**

平常点10%、中間試験40%、学期末試験50%で評価する。  
教科書は使わず、レジュメを配布する。  
亀井昭宏・疋田聰編『新広告論』2005年刊（日本経済新聞社）1,800円、嶋村和恵監修『新しい広告』2006年刊（電通）2,000円、岸志津江・田中洋・嶋村和恵『現代広告論』2000年刊（有斐閣）2,000円、上条典夫監修・内藤敏夫責任編集『実践マーケティング・コミュニケーションズ』2005年刊（電通）2,200円

履修コード	143251
科目名	マーケティング・チャネル論
担当者名	青木 <sup>あおき</sup> 茂樹 <sup>しげき</sup>

講義のねらい

我々が手にしている商品、とくにブランドとして認知されている商品は、ある一企業の戦略目的に基づき、他の流通パートナーをコントロールしながら成果を挙げていくために形成されたマーケティング・チャネルを経由してきている。

従来はメーカーがチャネル・リーダーとなって、これらが形成され、卸売業、小売業がこれによりコントロールされてきた。近年は従来、被支配的な立場とされてきた卸売業や小売業が、主体的にチャネル・リーダーとなって、自社のブランドを強めていく例も増えてきた。また新しいツールとしてインターネットにおいて、チャネル構築を試みる中小企業や農林水産業者も出てきている。

本稿では、これまでの中心であったメーカーの国内マーケティング・チャネル戦略から、情報化・国際化の中で形成されていく新たなマーケティング・チャネルまでを考察していく。将来、マーケティングや営業を志向する学生にとっては必須の科目となろう。

講義の内容・授業スケジュール

1) メーカーによる垂直的マーケティング・チャネル, 2) マーケティング・チャネル構築・管理の諸理論, 3) プライベート・ブランドに見られるマーケティング・チャネル戦略, 4) 国際マーケティングにおけるマーケティング・チャネル戦略, 5) 農林水産物におけるマーケティング戦略とチャネル管理, 6) インターネットにおけるマーケティング・チャネル管理, 7) 生産財マーケティングにおけるマーケティング・チャネル管理

履修上の留意点

流通システム論を既習していることが望ましい。講義形式ではあるが、机上に名札を置くなどして、学生の主体的な発言と双方向のコミュニケーションを促す。

成績評価の方法

毎回の小テストと、個人レポートの評価をベースとする。場合によっては、グループレポートおよびその発表を評価に加えることもある。また、講義内の自主的発言1回に対して1点以上のボーナス点が与えられる。

教科書  
参考書等

和田充夫、日本マーケティング協会編(2005)『マーケティング用語辞典』日本経済新聞社。

日経MJ編(2007)『流通経済の手引<2008年版>』日本経済新聞社。

Erin Anderson, Louis W. Sterm, Adel I. El-Ansary, Anne T. Coughlan(2001) *Marketing Channels*, The Prentice Hall, 978-0130127723。



履修コード	326201
科目名	国際紛争解決法
担当者名	王 <sup>おう</sup> 志安 <sup>しあん</sup>

講義のねらい	国際法における紛争処理の様々な手段について、それぞれの形態、機能、限界及び適用可能性を把握し、国際紛争解決の法的仕組みを理解する。
講義の内容・授業スケジュール	国際紛争の処理を具体的な法制度、手続きの側面から取り上げ、一回の講義で一つの課題を絞り、それぞれ制度の展開、機能及び事例検証の形で説明する。前期では、国際紛争の基本構造、紛争解決手段の基本的枠組みを講義した上で、外交的手段による紛争解決、国連における紛争解決及び世界貿易機構（WTO）の紛争処理制度を取り上げる。具体的には、国際義務違反の責任形態、紛争の平和的解決の意義、交渉、仲介、国際調査及び調停といった制度の展開及び適用、国連における紛争処理の制度的展開及び現状、そしてWTOの紛争処理制度の発展、手続き及び制度の意義を講義する。後期では、仲裁裁判及び国際司法裁判を取り上げる。具体的には、国際裁判の史的展開、仲裁裁判制度の確立及びその手続き、国際商業仲裁の現状、国際司法裁判所の組織、管轄権、適用法規則、手続規則などを講義する。
履修上の留意点	参考資料を適宜に配布し、教科書の内容を補足しながら講義を進めていく。power point で講義を進める。簡潔な聴講ノートは、下記のホームページから入手できる。 <a href="http://www.komazawa-u.ac.jp/~anzhi/index.htm">http://www.komazawa-u.ac.jp/~anzhi/index.htm</a>
成績評価の方法	年末の筆記試験によって評価する。ただし、前期小テストと出席状況も成績を評価する際に考慮される。
教科書 参考書等 その他	大沼保昭編著『資料で読み解く国際法』第2版（下）（東信堂）2002年 2,000円 市販されている国際条約集及び国際判例集。これらにつき開講時に詳しい情報を提供する。 授業は主として講義方式で行うが、判例の分析につき学生のまとめ報告を求めることもある。板書のかわりに、powerpoint を利用した講義を行う。

履修コード	331801
科目名	会計監査論
担当者名	阿部 一人

講義のねらい

“監査論を無味乾燥であるとエスケープしないでくれたまえ”

もともと監査論は、その言葉自体がもつ語感からして、堅苦しく・手続的で暗いイメージを与えがちである。

監査論は他人の不実行為を暴くこと自体を目的とするものではないので、仮にその結果、内容のどこにも非のうちどころがなく全く適切で妥当なことが明らかになったとしても、それはむしろ当然の事柄であって、その人が負っている責任を免れることにもなるのである。

監査は、優れて社会的・人間的な用具として生みだされたものであるが、しかしそれを悪用したり骨抜きにしたりする者も現実存在することは、過去の事例からも明らかなことであるけれども、そのような者が多ければなおのこと監査に対する社会的な要望も多岐に存在している。

まさに、監査がどれだけ社会一般に受け入れられているかということこそ、文明社会を映し出す尺度であると言えまいか！

監査論は財務諸表監査として特徴づけられている。

これは、企業をめぐる多数の利害関係者を保護するため、企業の発表する財務諸表が企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、職業的監査人が公正な立場から批判的意見を表明する社会制度であり、他のあらゆる監査の標準をなすものである。

本講義では、財務諸表監査を中心として、さらに監査役監査ならびに内部監査をはじめ最近の経営監査、監査の国際化などの関連領域をも含めて論及する。

講義の内容・授業スケジュール

1. 会計監査の意義と目的（総論）（1）、（1）監査の必要 （2）監査の意義、（3）監査の対象、2. 会計監査の意義と目的（2）、（1）監査の目的 （2）監査思想の変遷、（3）監査の効用、3. 監査の機能、4. 会計上の誤謬と不正、5. 監査の種類、6. 会計監査と財務諸表監査、7. 我国の監査制度、（1）証券取引法監査 （2）商法監査、（3）その他の監査制度、8. 監査基準（1）、（1）必要性 （2）生成と展開、9. 監査基準（2）、（1）意義 （2）体系 （3）一般基準、（4）実施基準 （5）報告基準、10. 監査人、11. 監査証拠、12. 監査計画、13. 内部統制、14. 試査、15. 監査技術と監査手続、16. 監査調書、17. 監査報告書、18. 連結財務諸表の監査、19. 中間財務諸表の監査、20. システム監査、21. 国際監査基準、22. 現代監査論の動向、（1）監査概念の拡大化、（2）監査保証に程度の差を認める監査概念

履修上の留意点  
成績評価の方法

「簿記学」「会計学」の科目を履修済みであることが好ましい。

評価の方法は、後期の定期試験、レポート（夏季）および出席状況を考慮して、総合的に判定する。なお、最初の講義時に詳細な講義内容、試験の方法および評価の方法等について説明するので、受講希望者は必ず出席すること。

教科書  
参考書等

- 開講後指示する。
- 田島四郎『最新監査論』（税務経理協会）2,900円  
 高田正淳『最新監査論』（中央経済社）2,800円  
 鳥羽至英『監査基準の基礎』（白桃書房）3,900円  
 三澤 一『会計監査の理論』（中央経済社）2,800円  
 山本忠恕・松田信男『監査基準精鋭精説』（税務経理協会）3,500円  
 脇田良一『財務諸表監査の構造と制度』（中央経済社）3,800円

履他  
修学  
科目

履修コード	334001
科目名	国際会計論
担当者名	山田 <small>やまだ じゆんぺい</small> 純平

講義のねらい	<p>生産や販売、資金調達などの企業活動は、国内のみならず、海外でも活発に行われる流れにあります。その結果、会計の分野においても急速な国際化が進みつつあり、近年は会計基準の統合化がひとつの大きなテーマとなっています。</p> <p>そこで、この講義では、会計の国際的な側面を以下の点から説明します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 会計基準の統合化が進んでいる現状と問題点</li> <li>(2) 具体的な会計基準の動向とその背景となる考え方（特に国際基準と日本基準が異なる分野を重点的に）</li> <li>(3) 多国籍企業の財務諸表分析</li> </ol> <p>この講義を受講することで、さしあたり以下の点が理解できるようになることが望まれます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 国際基準をそのまま受けることにもいくつか問題があること</li> <li>② 各国の考え方の相違から差異が残されてしまうこと</li> <li>③ 国際基準で提案される考え方自体がこれまでの実務に根ざした考え方とは異なること</li> <li>④ 現実の財務諸表における会計基準の適用と財務諸表の分析の仕方</li> </ol>
講義の内容・授業スケジュール	<p>第1～3回：会計の基礎に関する復習</p> <p>第4～6回：会計基準の統合化に関する様々な議論</p> <p>第7～13回：金融商品、減損、退職給付・リース・税効果の会計</p> <p>第14～20回：企業結合・連結会計、新株予約権の会計、業績報告、概念フレームワーク</p> <p>第21～27回：アメリカ・日本・ヨーロッパの企業の分析</p> <p>第28～30回：総まとめ</p>
履修上の留意点	<p>簿記学や会計学の履修を前提とします。ただし、授業の内容を理解するのに必要な基礎的知識については、そのつど解説します。</p>
成績評価の方法	<p>試験65%、小テスト25%、出席10%。</p>
教科書	<p>富塚嘉一編著『どうなってる!? 国際会計』中央経済社。</p>
参考書等	<p>授業中に適宜指示します。</p>
その他	<p>私語がひどい学生は退席をしてもら場合があります。</p>

履他  
修学  
科目部

## IV 「日本語」・「日本事情」科目

「日本語」  
「日本事情」

履修コード	230511
科目名	日本語入門Ⅰa
担当者名	歌代 <sup>うたしろ</sup> 礼子 <sup>れいこ</sup>

- 講義のねらい** 日本語入門Ⅰaは、初めて日本語を学習する人から、日本語学習歴が150時間未満までの学習者を対象とし、日本語の基本的な文法、語彙、文字の習得を目指す。
- 講義の内容・授業スケジュール** 自己紹介（第1週）、学校生活について（第2週）、日常生活について（第3、4週）、友人を誘う（第5週）、自分の国と日本について（第6週）、過去の経験について話す（第7週）、買い物（第8週）、パーティー（第9、10週）、将来について話す（第11週）、旅行（第12週）、比較（第13週）、病院（第14週）、期末試験（第15週）  
\*これは、現時点での予定であり、受講する学生の日本語のレベル・ニーズなどを見て、変更する可能性がある。その場合、講義が開始してから、講義の内容・授業スケジュールを改めてプリントにて学生に配布する。
- 履修上の留意点** 日本語入門Ⅰaは、非漢字圏の学生で、日本語の学習経験が全くないか、もしくはほとんどない学生を対象としているため、日本語の学習経験を持っている学生、および漢字圏の学生は受講できない。  
また、日本語入門Ⅱaと連続して講義を行うため、日本語入門Ⅰaと日本語入門Ⅱaは同時に受講するのが望ましい。
- 成績評価の方法** 学期末試験（40%）と平常点（30%）、および出席状況（30%）から評価する。  
**教科書** 「はじめよう日本語初級① メインテキスト」スリーエーネットワーク(予定)  
**参考書等** 「はじめよう日本語初級① ドリルと文法」スリーエーネットワーク(予定)  
各自辞書を持参してください。

履修コード	230521
科目名	日本語入門Ⅰb
担当者名	歌代 <sup>うたしろ</sup> 礼子 <sup>れいこ</sup>

- 講義のねらい** 日本語入門Ⅰbは、日本語入門Ⅰaの続きとして講義を行う。日本語学習歴が150時間程度の学習者を対象とし、日本語の基本的な文法、語彙、および漢字の習得を目指す。
- 講義の内容・授業スケジュール** 目上の人と話す（第1、2週）、面接を受ける（第3週）、食事について（第4週）、休日（第5週）、自分の国と日本の習慣（第6週）、引越し（第7、8週）、約束をする（第9週）、日本での生活（第10週）、困った出来事（第11、12週）、教育（第13、14週）、期末試験（第15週）  
\*これは、現時点での予定であり、受講する学生の日本語のレベル・ニーズなどを見て、変更する可能性がある。その場合、講義が開始してから、講義の内容・授業スケジュールを改めてプリントにて学生に配布する。
- 履修上の留意点** 日本語入門Ⅰbは、日本語入門ⅠaとⅡaを受講した学生を前提とするが、日本語入門Ⅰa、Ⅱaを受講しなかった学生でも、日本語のレベルが適当であれば（日本語学習歴150時間程度）、受講を認める。なお、非漢字圏の学生を対象としているため、漢字圏の学生は受講できない。  
また、日本語入門Ⅱbと連続して講義を行うため、日本語入門Ⅰbと日本語入門Ⅱbは同時に受講することが望ましい。
- 成績評価の方法** 学期末試験（40%）と平常点（30%）、および出席状況（30%）から評価する。  
**教科書** 「はじめよう日本語初級② メインテキスト」スリーエーネットワーク(予定)  
**参考書等** 「はじめよう日本語初級② ドリルと文法」スリーエーネットワーク(予定)  
「BASIC KANJI BOOK Vol.1」凡人社(予定)  
各自辞書を持参してください。

履修コード	230531
科目名	日本語入門II a
担当者名	歌代 礼子

**講義のねらい** 日本語入門II aは、初めて日本語を学習する人から、日本語学習歴が150時間未満までの学習者を対象とし、日本語入門I aで学んだことをもとに、「話す、聞く、書く、読む」の4技能の修得を目指す。特に「話す、聞く」に重点を置くが、会話では学生が日常生活の中で遭遇する場面を想定し、そこで日本語での会話が可能なることを目指す。

**講義の内容・授業スケジュール** 自己紹介(第1週)、学校生活について(第2週)、日常生活について(第3、4週)、友人を誘う(第5週)、自分の国と日本について(第6週)、過去の経験について話す(第7週)、買い物(第8週)、パーティー(第9、10週)、将来について話す(第11週)、旅行(第12週)、比較(第13週)、病院(第14週)、期末試験(第15週)

\*これは、現時点での予定であり、受講する学生の日本語のレベル・ニーズなどを見て、変更する可能性がある。その場合、講義が開始してから、講義の内容・授業スケジュールを改めてプリントにて学生に配布する。

**履修上の留意点** 日本語入門II aは、非漢字圏の学生で、日本語の学習経験が全くないか、もしくはほとんどない学生を対象としているため、日本語の学習経験を持っている学生、および漢字圏の学生は受講できない。

また、日本語入門I aと連続して講義を行うため、日本語入門I aと日本語入門II aは同時に受講するのが望ましい。

**成績評価の方法** 学期末試験(40%)と平常点(30%)、および出席状況(30%)から評価する。

**教科書**

「はじめよう日本語初級① メインテキスト」スリーエーネットワーク(予定)

「はじめよう日本語初級① ドリルと文法」スリーエーネットワーク(予定)

**参考書等**

各自辞書を持参してください。

履修コード	230541
科目名	日本語入門II b
担当者名	歌代 礼子

**講義のねらい** 日本語入門II bは、日本語入門II aの続きとして講義を行う。日本語学習歴が150時間程度の学習者を対象とし、日本語の基本的な「話す、聞く、書く、読む」の4技能の習得を目指す。日本語入門II bでは「読む、書く」にも力を入れて講義を進める。

**講義の内容・授業スケジュール** 目上の人と話す(第1、2週)、面接を受ける(第3週)、食事について(第4週)、休日(第5週)、自分の国と日本の習慣(第6週)、引越し(第7、8週)、約束をする(第9週)、日本での生活(第10週)、困った出来事(第11、12週)、教育(第13、14週)、期末試験(第15週)

\*これは、現時点での予定であり、受講する学生の日本語のレベル・ニーズなどを見て、変更する可能性がある。その場合、講義が開始してから、講義の内容・授業スケジュールを改めてプリントにて学生に配布する。

**履修上の留意点** 日本語入門II bは、日本語入門I aとII aを受講した学生を前提とするが、日本語入門I a、II aを受講しなかった学生でも、日本語のレベルが適当であれば(日本語学習歴150時間程度)、受講を認める。なお、非漢字圏の学生を対象としているため、漢字圏の学生は受講できない。

また、日本語入門I bと連続して講義を行うため、日本語入門I bと日本語入門II bは同時に受講することが望ましい。

**成績評価の方法** 学期末試験(40%)と平常点(30%)、および出席状況(30%)から評価する。

**教科書**

「はじめよう日本語初級② メインテキスト」スリーエーネットワーク(予定)

「はじめよう日本語初級② ドリルと文法」スリーエーネットワーク(予定)

「BASIC KANJI BOOK Vol.1」凡人社(予定)

**参考書等**

各自辞書を持参してください。

履修コード	230611
科目名	日本語I a
担当者名	佐野 典子

**講義のねらい** 本講義は、留学生を対象とし、日本語のみならず、広く日本文化の把握を目的とする。授業は、日本の劇場用映画を主教材とし、日本語を勉強すると同時に、日本人のものの考え方や行動パターン、日本文化の特質を探る。

**履修上の留意点** 教材は、担当者が用意する。

**成績評価の方法** 成績は、提出物(毎週)、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

履修コード	230621
科目名	日本語I b
担当者名	佐野 典子

講義のねらい 本講義は、留学生を対象とし、日本語のみならず、広く日本文化の把握を目的とする。  
 講義の内容・授業スケジュール 授業は、日本の劇場用映画を主教材とし、日本語を勉強すると同時に、日本人のものの考え方や行動パターン、日本文化の特徴を探る。  
 履修上の留意点 教材は、担当者が用意する。  
 成績評価の方法 成績は、提出物（毎週）、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

履修コード	230631
科目名	日本語I a
担当者名	多田羅 哲子

講義のねらい 語彙・表現を豊かにし、日本語の理解力、表現力を高める。  
 講義の内容・授業スケジュール 衣③・食①・住②・学生生活④⑤など日常の場面ごとに、よく使われる漢語・和語・外来語・擬音語・擬態語・機能語・慣用表現などを紹介し、実際にどう使われているかを知り、より豊かな表現ができるようにする。  
 成績評価の方法 出席率・平常点（小テスト・提出物・授業への参加度）、期末テストの成績から総合的に評価する。  
 教科書 プリントを配布する。  
 辞書を持ってくること。

履修コード	230641
科目名	日本語I b
担当者名	多田羅 哲子

講義のねらい 語彙・表現を豊かにし、日本語の理解力・表現力を高める。  
 講義の内容・授業スケジュール 日本語I a に続き政治⑥・法律⑦・経済⑧・文化⑩・社会問題⑨などの分野ごとに、よく使われる漢語・和語・外来語・省略語・慣用表現など日本語の知識を高め・より深く理解できるようにする。  
 成績評価の方法 出席率・平常点（小テスト・提出物・授業への参加度）、期末試験から総合的に評価する。  
 教科書 プリントを配布する。  
 辞書を持ってくること。

履修コード	230711
科目名	日本語II a
担当者名	佐野 典子

講義のねらい 本講義は、留学生を対象とし、日本語の聴解力、及び読解力の向上を目的とする。  
 講義の内容・授業スケジュール 授業では、テレビドラマのVTRを教材に、実際に話される日本語がどのようなものか学習し、同時に、書き言葉、話し言葉の違いを把握する。  
 履修上の留意点 教材は、担当者が用意する。  
 成績評価の方法 成績は、提出物（毎週）、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

履修コード	230811
科目名	日本語II b
担当者名	佐野 典子

講義のねらい 本講義は、留学生を対象とし、日本語の聴解力、及び読解力の向上を目的とする。  
 講義の内容・授業スケジュール 授業では、テレビドラマのVTRを教材に、実際に話される日本語がどのようなものか学習し、同時に、書き言葉、話し言葉の違いを把握する。  
 履修上の留意点 教材は、担当者が用意する。  
 成績評価の方法 成績は、提出物（毎週）、試験、授業への参加度、出席率等により、総合的に評価する。

履修コード	230721
科目名	日本語II a
担当者名	多田羅 哲子

**講義のねらい** 話すことを中心に日本語の運用能力を高める。  
 言うべきことが、正しく適切な表現を用いて効果的に相手に伝わることを目指す。  
 発音・アクセント・イントネーション等、自分で見直し矯正する習慣をつける。

**講義の内容・授業スケジュール** 紹介・インタビュー・情報提供のスピーチをして、質疑応答・意見交換を行う。ほかの人のスピーチの内容・感想・意見などを限られた時間内に文章にまとめる。  
 テープで自分が話した日本語を聞く。必要に応じて発音・アクセント・読み方等の練習をする。

**履修上の留意点** 授業活動が大切なので出席し、授業に積極的に参加すること。

**成績評価の方法** 平常点（出席、授業への参加度、提出物など）を重視する。期末テストも行う。

**教科書** 必要に応じてプリントを配布する。

履修コード	230821
科目名	日本語II b
担当者名	多田羅 哲子

**講義のねらい** 話すことを中心に日本語の運用能力を高める。  
 言いたいことが、正しく適切な表現を用いて効果的に相手に伝わることを目指す。  
 発音・アクセント・イントネーション等を自分で見直し矯正する習慣をつける。  
 話し言葉と書き言葉の違いを知る。

**講義の内容・授業スケジュール** 意見表明や提案のスピーチ・ディベートを行う。スピーチのあと質疑応答・討論を行い、自分の意見とその根拠を文章にまとめることによって論理的に話したり書いたりする練習をする。  
 テープで、自分が話した日本語を聞く。

**履修上の留意点** 授業活動が大切なので出席し積極的に授業に参加すること。

**成績評価の方法** 平常点（出席、授業への参加度、提出物など）を重視する。期末テストも行う。

**教科書** 必要に応じてプリントを配布する。

日本語  
 日本事情

履修コード	230911
科目名	日本語III a
担当者名	多田羅 哲子

**講義のねらい** 聞き取ることを中心に日本語の総合能力を強化する。  
 まず内容を聞き取って把握すると共に、相手や立場、場面にふさわしい言葉の使い方を知る。  
 次に話し言葉と書き言葉の違いを知り、レポートを書く練習の第一歩とする。

**講義の内容・授業スケジュール** ビデオでドラマ・映画などを聞き取り、自然な話しかたに慣れる。敬語の使い方、くだけた言い方、改まった言い方、この場合どういえば自然かなど、場面や相手や立場などによって適切に使い分けられるようにする。聞き取った内容を文章にまとめる。

**成績評価の方法** 平常点（出席、授業への参加度、提出物など）を重視する。期末テストも行う。

**教科書** ビデオを準備し必要に応じてプリントを配布する。  
 辞書を持ってくること。

履修コード	231011
科目名	日本語III b
担当者名	多田羅 哲子

**講義のねらい** 聞き取ることを中心に日本語の総合的能力を強化する。  
 ビデオの内容を把握すると共に、文章力を強化する。

**講義の内容・授業スケジュール** ドキュメンタリー、ニュース関連番組などのビデオを用い、今話題になっている問題の内容を聞き取る。  
 聞き取った内容、自分の感想、意見とその根拠などを文章にまとめながら、レポートの書き方の練習をする。

**成績評価の方法** 平常点（出席、授業への参加度、提出物など）を重視する。  
 ビデオを準備し必要に応じてプリントを配布する。  
 辞書を持ってくること。



履修コード	230921
科目名	日本語III a
担当者名	湯村 礼子

講義のねらい	これまでに修得してきた日本語能力をさらに高め、文献を自分で調べながら読み、理解できるようになること。さらに、文献を通して考え、自分の意見を持ち、発表、説明ができるようになることをめざす。
講義の内容・授業スケジュール	新聞・雑誌・専門書などから教材を選び、辞書や事典、他の資料を使って詳しく調べながら読み、理解を深める。その後、意見を出し合い討論をして、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出する。2コマで一つの文章・記事を読み進め、一学期中に七つの題材を扱う予定。
履修上の留意点	授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。国語辞典を持参すること。調べてくる宿題が出る。
成績評価の方法	小レポート、小テスト、授業活動50% 期末試験50%
教科書	最初の授業時に指定する。

履修コード	231021
科目名	日本語III b
担当者名	湯村 礼子

講義のねらい	これまでに修得してきた日本語能力をさらに高め、文献を自分で調べながら読み、理解できるようになること。さらに、文献を通して考え、自分の意見を持ち、発表、説明ができるようになることをめざす。
講義の内容・授業スケジュール	新聞・雑誌・専門書などから教材を選び、辞書や事典、他の資料を使って詳しく調べながら読み、理解を深める。その後、意見を出し合い討論をして、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出する。2コマで一つの文章・記事を読み進め、一学期中に七つの題材を扱う予定。
履修上の留意点	授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。国語辞典を持参すること。調べてくる宿題が出る。
成績評価の方法	小レポート、小テスト、授業活動50% 期末試験50%
教科書	最初の授業時に指定する。

「日本語  
日本事情」

履修コード	231111
科目名	日本語IV a
担当者名	歌代 礼子

講義のねらい	中級レベルの日本語学習（日本語能力試験2級程度）を修了した学生を対象とし、特に「話す、書く」に重点を置く。グループワークを基本に講義を進め、専門の研究にも役立つアカデミックな日本語運用能力の養成を目指す。 話し言葉・書き言葉の両方を学び、理論的に分かりやすい説明ができるようになることを目標とする。
講義の内容・授業スケジュール	・講義内容 身近な話題から専門的な事柄まで、受講生の興味関心も考慮しながらトピックを設定し、そのトピックに関する意見を文章でまとめ、発表する。意見をまとめる際には、学生同士の活発な意見交換を望む。 ・授業スケジュール（予定） オリエンテーション（第1週）、少子化問題（第2、3週）、教育問題（第4、5週）、若者の感性（第6、7週）、仕事への意識（第8、9週）、日本にいる外国人（第10、11週）、電子メールとトラブル（第12、13週）、経済（第14週）、期末試験（第15週）
履修上の留意点	日本語入門IV aは、日本語能力試験2級程度の日本語能力を持っている学生を対象としているため、ある程度の日本語力を持った学生が受講することが望ましい。 なお、日本語能力試験対策は行わない。
成績評価の方法	学期末試験（40%）と平常点（30%）、および出席状況（30%）から評価する。
教科書 参考書等	随時プリントを配布。 各自辞書を持参してください。

履修コード	231211
科目名	日本語IV b
担当者名	歌代 礼子

講義のねらい 中級レベルの日本語学習（日本語能力試験2級程度）を修了した学生を対象とし、レポートや論文に必要な論理的な文章の書き方を学ぶことを目指す。「である体」というあらたまった文体を用いて、事柄の説明・論述を論理的な手法で行えるようになることを目標とする。

講義の内容・授業スケジュール オリエンテーション、レポートに使われる文体（第1週）、文の基本（第2週）、句読点の打ち方、各種記号の使い方（第3週）、引用の仕方（第4週）、段落（第5週）、仕組みの説明（第6週）、歴史的な経過の説明（第7週）、分類（第8週）、定義（第9週）、要約（第10週）、因果関係（第12週）、論述（第13週）、レポートの作成（第14週）、期末試験（第15週）

履修上の留意点 日本語入門IV aは、日本語能力試験2級程度の日本語能力を持っている学生を対象としているため、ある程度の日本語力を持った学生が受講することが望ましい。

成績評価の方法 学期末試験（40%）と平常点（30%）、および出席状況（30%）から評価する。

教科書 「留学生のための論理的な文章の書き方」スリーエーネットワーク（予定）  
参考書等 各自辞書を持参してください。

履修コード	231121
科目名	日本語IV a
担当者名	湯村 礼子

講義のねらい 文章表現を中心に学び、日本語の知識を深め、大学生として必要な表現力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール レポートの書き方を学習する。事実・情報を正確に伝える文章を書くために、文、段落、構成などの基本から始める。授業は、講義、そして実践として書き、必要に応じて書き直しをするというように進める。

履修上の留意点 (1~5)文章の基本-文・段落・構成- (6~10)レポートの方法-主題・材料・アウトライン等- (11~15)レポートの形式-表紙・序論・本論・結論・参考文献-

授業活動が重要となるので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法 提出物・小テスト・授業活動（授業での発言、授業態度など）50%

教科書 期末テスト 50%  
教科書は授業時に指定する。

履修コード	231221
科目名	日本語IV b
担当者名	湯村 礼子

講義のねらい 文章表現を中心に学び、日本語の知識を深め、大学生として必要な表現力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール レポート、意見文を学習する。授業は、講義、そして実践として書き、必要に応じて書き直しをするというように進める。(1~7)レポートを書く

(8~15)意見文の書き方、実践  
授業活動が重要となるので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法 作文（3~4回） 50%  
提出物・小テスト・授業活動（授業での発言、授業態度など） 50%

教科書 教科書は授業時に指定する。

履修コード	231311
科目名	日本語V a
担当者名	石川 守 <small>いしかわ まもる</small>

**講義のねらい** しっかりとした日本語の基礎を築くために概念シラバス、機能シラバスの観点からやっています。日本語の基本となる部分、呼称や指示詞などを深くやっています。もう一度しっかりとした日本語の基本を復習したい人にお勧めします。

**講義の内容・授業スケジュール** 日本語Vは、日本語VIと連携しています。日本語の基礎文法が復習ができるように構成されています。

**履修上の留意点** この日本語V→日本語VIの順に進みます。取り扱う内容は、日本語の基礎的な部分です。したがって、中上級の表現や語彙をたくさん勉強したい人は他の授業を取ることをお勧めします。

**成績評価の方法** 試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとって、悪い成績が付く可能性があります。

**教科書** 特になし。授業中にプリントを配ります。

**参考書等** 辞書を持ってきてください。

**その他** 受講態度を重視しています。

履修コード	231411
科目名	日本語V b
担当者名	石川 守 <small>いしかわ まもる</small>

**講義のねらい** 日本語 Va に続けて、日本語のしっかりとした基礎を深く追究していきます。

**講義の内容・授業スケジュール** 日本語 Va の続きをやっていきます。

**履修上の留意点** 日本語 Va と同じです。

**成績評価の方法** 試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとって、悪い成績が付く可能性があります。

**教科書** 特になし。授業中にプリントなどを配ります。

**参考書等** 辞書を持ってきて下さい。

**その他** 受講態度を重視しています。

「日本語」  
「日本事情」

履修コード	231321
科目名	日本語V a
担当者名	多田羅 哲子 <small>たたら あきこ</small>

**講義のねらい** 読むことを通して日本語の読解力、表現力を高める。特に今、話題になっているニュース等について読んだり説明したり意見を述べたりする力をつける。

**講義の内容・授業スケジュール** レポートを書くための基礎を学ぶ。各種の新聞記事など時事問題を中心に読む。見出しから内容を推測したりわかる言葉から概要をつかむ練習をし、さらに自分で調べながら細部まで読み、内容について説明したり、意見発表を行う。

**履修上の留意点** それらを文章にまとめる。

**成績評価の方法** 平常点（小テスト・提出物・授業の参加度）を重視する。期末テストも行う。

**教科書** プリント配布する。

**その他** 辞書を持ってくること。

履修コード	231421
科目名	日本語V b
担当者名	多田羅 哲子 <small>たたら あきこ</small>

**講義のねらい** 読むことを通して日本語の読解力、表現力も高め、時事の問題について読んだり読んだり文章で意見を述べたりする力を養う。

**講義の内容・授業スケジュール** 各自関心のある新聞記事等を読み、内容を発表する。その内容に関して話し合ったり、文章を書いたりする。

**履修上の留意点** 平常点（小テスト・発表・提出物・授業への参加度）を重視する。期末テストも行う。

**成績評価の方法** プリントを配布する。

**教科書** 辞書を持ってくること。

履修コード	231511
科目名	日本語VI a
担当者名	石川 <sup>いしかわ まもる</sup> 守

講義のねらい 日本語の基礎文法を日本語Vに引き続き行い、正確な日本語文法の基礎を作るために概念シラバス、機能シラバスの観点からやっていきます。

講義の内容・授業スケジュール 日本語V a、bで行った日本語の後の部分をやっていきます。講義内容は日本語V→日本語VIの順番で構成されています。

履修上の留意点 日本語VIは、日本語Vと日本語VIで構成されています。したがって、両方を続けて取ることをお勧めします。

成績評価の方法 試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとっても、悪い成績が付く可能性があります。

教科書等その他 特になし。授業中にプリントを配ります。  
辞書を持ってきてください。  
授業態度を重視しています。

履修コード	231611
科目名	日本語VI b
担当者名	石川 <sup>いしかわ まもる</sup> 守

講義のねらい 日本語の VIa の続きを行い、日本語文法の基礎をもう一度深く追究します。

講義の内容・授業スケジュール 日本語 VIa の残りの部分を行っていきます。

履修上の留意点 この授業は、日本語 VIa の次の部分をやっていきます。

成績評価の方法 試験50%、平常点（出席、授業態度）50%の合計。ただし、成績評価は駒沢大学の新評価法により行っていますので、高得点をとっても、悪い成績が付く可能性があります。

教科書等その他 特になし。授業中にプリントを配ります。  
辞書を持ってきてください。  
受講態度を重視しています。

日本語  
事情

履修コード	231521
科目名	日本語VI a
担当者名	多田羅 <sup>たたら あきこ</sup> 哲子

講義のねらい 文章読解を通して日本語の総合力を高めると共に日本人の考え方にふれる。

講義の内容・授業スケジュール 雑誌を中心にさまざまな文章を読み、その内容を把握し、感想や意見を述べる。  
現在よく使われているカタカナ語、語句の意味や使い方、漢字の読み、文法事項等についても各自調べ、確認しながら細部まで理解して読む。

成績評価の方法 平常点（提出物・小テスト・授業への参加度）、出席率、期末試験の成績から総合的に評価する。

教科書等その他 プリントを配布する。  
辞書を持ってくること。

履修コード	231621
科目名	日本語VI b
担当者名	多田羅 <sup>たたら あきこ</sup> 哲子

講義のねらい 文章読解を通して日本語の総合力を高めると共に日本人の考え方にふれる。

講義の内容・授業スケジュール 雑誌を中心にさまざまな文章を読み、その内容を把握し感想や意見を述べる。  
現在よく使われているカタカナ語、語句の意味や使い方、漢字の読み、文法事項等についても復習し、確認しながら理解していく。

成績評価の方法 平常点（提出物・小テスト・授業への参加度）、出席率、期末試験の成績から総合的に評価する。

教科書等その他 プリントを配布する。  
辞書を持ってくること。

履修コード	231701
科目名	日本事情I〔地理〕
担当者名	須山 聡

講義のねらい 日本 の 諸 地 域 の 特 徴 を 理 解 す る こ と を 目 的 と す る。  
 講義の内容・授業スケジュール 自然・文化・歴史・都市・農村などのトピックにしたがって講義を進める。  
 成績評価の方法 出席状況とレポートで評価する。  
 参考書等 日本の地図を用意することをおすすめする。

履修コード	231801
科目名	日本事情II〔自然〕
担当者名	清水 善和

講義のねらい 日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り亜熱帯の沖縄まで、約 3,000km の細長い国土を有している。四季の季節変化が明瞭で梅雨や台風、日本海の多雪のような独特な気象現象もみられる。また、37万平方キロメートルの狭い国土の中に、山脈、丘陵、河川、湖沼、平野、海岸が箱庭のように組み合わせり、多種多様な地形が形成されている。さらに、日本は複数のプレートの境界域にあたるため、世界でも有数の火山・地震地帯となっており、これらによる自然災害も多い。このような多様な自然環境を反映して、日本には独特の生物相が発達している。本講義では日本の自然を位置、気候、地質・地形、生物、自然保護の5つの章に分けて解説する。

講義の内容・授業スケジュール 1章：位置（国土の範囲、行政区分、位置の特徴；1,2回）、2章：気候（気候帯、海流、気候の特徴、気団と季節、気象観測、気候と文化；3-7回）、3章：地質・地形（弧状列島、変動の歴史、多様な地形、火山、地震；8-11回）、4章：生物（植生帯、生物多様性、生物地理区、里山、帰化生物；12-14回）、5章：自然保護（レッドデータ、国内の法律、国際条約；15回）

成績評価の方法 2回のレポートと出席回数に基づいて評価する。  
 教科書 講義内容を文章化した「web 版テキスト（日本語版）」を紹介する。受講者は指定のHPから自由にダウンロードして利用できるようにする。

参考書等 講義と web 版テキストの中で適宜紹介する。  
 その他 講義に必要な図表をまとめたプリントを毎回配布する。講義は日本語で行うが、英語圏の留学生のために講義内容を英語で著した「web 版テキスト（English version）」を用意する。

「日本語」  
「日本事情」

履修コード	231901
科目名	日本事情III〔歴史〕
担当者名	井上 桂子

講義のねらい 本講義では、19世紀以降の日本と中国大陸の文化、人事交流を中心に、大きな歴史の流れの中で両国の人びとがどのような交流し、相互理解に努力したかを学ぶことを目的とする。

- 講義の内容・授業スケジュール
1. 19世紀－鎖国政策の中での日本の他国関係
  2. 中国商人の「唐風説書」の役割
  3. 江戸幕府貿易船で上海に行った明治維新のキーマン
  4. 日米和親条約と中国
  5. 明治維新と中国の反応
  6. 駐華公使森有礼と清朝の李鴻章の会談から見えてくるもの
  7. 清末の改革維新と日本との関係
  8. 孫中山と日本
  9. 民間交流と日中関係
  10. 戦争中中国大陸で反戦活動
  11. 日中国交正常化への道のり

履修上の留意点 第一回目にオリエンテーションを行い、全般的な講義内容を説明します。特別な予習、復習は必要ありません。

成績評価の方法 出席回数と課題レポートで評価します。  
 教科書 必要に応じてプリントを配布します。  
 参考書等 授業のなかで適宜紹介します。  
 その他 希望があれば、その日の要点を中国語でも話します。また、中国語で発言してもかまいません。

履修コード	232001
科目名	日本事情Ⅳ〔思想〕
担当者名	佐藤 美奈子

講義のねらい

明治維新によって江戸幕府は倒れ、日本は新しく近代国家としての道を歩み始めました。この大きな転換期を、当時の思想家達はどのように受け止めたのでしょうか。本授業では、幕末から明治末期にかけて活躍した代表的思想家について学びます。彼らは、自分が生きた時代の中で何を問題だと考えていたのか。その問題をどのように解決しようとしていたのか。こういった問いを明らかにしていくことが本授業の目的です。この作業を行うことにより、学生の皆さんは近代日本（ひいては現代日本）がどのように成立したかを知る手がかりを得ることができるでしょう。なお、授業を理解する上では、常識レベルでの日本史の知識が必須です。よって、日本の中学校で学ぶ程度の日本史の知識について学ぶことも授業の目的の一つとなることは留意しておいてください。

講義の内容・  
授業スケジュール  
履修上の留意点

オリエンテーション（1）、儒教思想（2～3）、福沢諭吉（4～5）、明六社（6～7）、自由民権（8～9）、中江兆民（10～11）、徳富蘇峰（12～13）、社会主義（14～15）。

毎回行う小テストの合計で成績を決定します。そのため欠席が多い場合は、単位が取得できません。また、毎回のテストの点数が低い場合も不可となります。授業への積極的参加、及び毎回の授業の復習は必須と考えてください。それから可能であれば、授業内で一度学外研修を実施したいと考えています。

成績評価の方法

出席点と授業内で実施する小テストの点数で成績を決定します。なお、小テストは毎回授業開始時に、前回の授業内容に基づいて行います。欠席の場合、点数は与えられません。

教科書  
参考書等  
その他

特に指定しません。  
授業時に適宜、紹介します。  
講義形式。授業や小テストは日本語で行いますが、授業後の個別質問には英語でも対応します。

履修コード	232101
科目名	日本事情Ⅴ〔社会〕
担当者名	李 妍炎

講義のねらい

この講義は、日本人の価値観や意識、国民性を中心に取り上げていく。

講義の内容・  
授業スケジュール

前半は、「数字や映像で見る日本と日本人」と題して、各種統計データやテレビの特集番組などを題材に、現代日本人の生き方や意識について探っていく。後半は、日本人の国民性について書かれた文献を題材に、日本人の国民性に関するさまざまな議論について学び、考えていく。具体的には、以下のスケジュールを予定している。ガイダンス(1)、日本人の平均値(2-5)、日本人の価値観の変化(6-7)、日本人が関心を持つ社会問題(8-11)、日本人の国民性(12-15)。

履修上の留意点

私語をしない。携帯電話を出さない。

成績評価の方法

期末レポートで評価するが、出席に対する要求を満たさなければならない。

教科書

特に指定しないが、毎回必要な資料をコピーして渡す。

参考書等

鳥羽賢, 2005, 『日本人の平均値』生活情報センター。

(株)電通総研, 2005, 『日本人の価値観変化』。

その他

大越明彦, 2005, 『日本および日本人』鳥陰社。

講義は日本語で行うが、個別の質問は中国語と英語でも受け付ける。

履修コード	232201
科目名	日本事情VI〔政治・法律〕
担当者名	三竹 直哉

**講義のねらい** 日本政治について知り、みんなで意見交換します。  
**講義の内容・授業スケジュール** 下記のようなトピックを考えていますが、参加者のみなさんの意見を聞いて決めます。

- ◎議会制民主主義
- ◎三権分立と二院制
- ◎天皇
- ◎選挙制度
- ◎政党と派閥
- ◎ナショナリズム
- ◎安全保障
- ◎日本のマイノリティ
- ◎日本の移民政策

**履修上の留意点** 日本政治について考える授業ですから、日本の政治に関心がなかったり、政治について学ぶ気がない学生は履修すべきではありません。  
 授業参加を重視します。参加人数によって授業のやり方は変わります。人数が少なれば討論中心になりますので、発言することが重要になります。

**成績評価の方法** 平常点と期末テストによります。2007年度までは期末テストを行っていませんでしたが、2008年度は行いますので注意すること。

**教科書その他** 指定する予定はありません。  
 I speak English, but students are encouraged to communicate in Japanese.

履修コード	232301
科目名	日本事情VII〔文学〕
担当者名	坂口 博規

**講義のねらい** 本講義は、日本語を母国語としない外国人留学生等を中心に、日本の文学作品を歴史的な流れに立って紹介し、日本の美意識を含めて文化の諸相に対する理解を深めることを目標とする。

**講義の内容・授業スケジュール** 日本の古典文学の作品が成立した時代や社会の背景を紹介しつつ、それぞれの時代の美意識の特徴を概説するとともに、作品内容の一部を読みながら、理解を深めることを目標とする。各時限の内容は以下の通り。

- 1、ガイダンス、日本文学のジャンル発生
- 2、古代前期の歌謡
- 3、日本神話・伝説・説話
- 4、古代前期の詩歌
- 5、古代後期の文学とその美意識（1）
- 6、古代後期の文学とその美意識（2）
- 7、中世の文学とその美意識（1）
- 8、中世の文学とその美意識（2）
- 9、中世の文学とその美意識（3）
- 10、近世の文学とその美意識（1）
- 11、近世の文学とその美意識（2）
- 12、近世の文学とその美意識（3）
- 13、日本文学の特質（1）
- 14、日本文学の特質（2）
- 15、日本文学の特質（3）

**履修上の留意点** 第1回にガイダンスを行い、半期の講義内容を総括するとともに、日本文学に対する受講生の興味・関心を喚起したい。半期の限られた時間の中で日本文学を要約する上で、中心となるのは時代背景の理解と美意識の把握であることを確認したい。なお古典文学の文章は現代語表現と違うので、出来るかぎり現代語に置き換えるか、現代語を添えて紹介する。

**成績評価の方法** レポートにより、授業において特に興味・関心を持った内容について受講生自身の所感をまとめてもらう。レポート評価（90%）を中心に、受講姿勢（出席状況・関心の度合等々、10%）を加えて評価する。

**教科書等** 必要に応じて適宜プリントを配布する。  
**参考書** 授業内で紹介する。

「日本語」  
「日本事情」

履修コード	232401
科目名	日本事情VIII〔文化・芸術〕
担当者名	佐藤 美奈子

講義のねらい

「日本文化」とは何か。日本に生まれ育った人でも、この問いにきちんと答えられる人はあまりいません。それは「日本文化」と呼ばれるものが時代によって変化したり、作り変えられたりするものだからではないでしょうか。よって本授業では、特定の「日本文化」に注目し、明らかにするという方法を取りません。かわりに、食文化など我々の身近にあるものを例としてとりあげます。そして、その変容の過程を学びながら、「日本文化」が時代ごとにどのような特徴を持つのか、それがどのように人々の日常に影響を及ぼすのか、を明らかにしていこうと思います。よって、日本の中学校で学ぶ程度の日本史の知識について学ぶことも授業の目的の一つとなることは留意しておいてください。

講義の内容・  
授業スケジュール

オリエンテーション(1)、古代日本の文化(2~4)、中世日本の文化(5~8)、近代日本の文化(9~14)、まとめ(15)。

履修上の留意点

毎回行う小テストの合計で成績を決定します。そのため欠席が多い場合は、単位が取得できません。また、毎回のテストの点数が低い場合も不可となります。授業への積極的参加、及び毎回の授業の復習は必須と考えてください。それから可能であれば、授業内で一度学外研修を実施したいと考えています。

成績評価の方法

出席点と授業内で実施する小テストの点数で成績を決定します。なお、小テストは毎回授業開始時に、前回の授業内容に基づいて行います。欠席の場合、点数は与えられません。

教科書  
参考書等  
その他

特に指定しません。  
授業時に適宜、紹介します。  
講義形式。授業や小テストは日本語で行いますが、授業後の個別質問には英語でも対応します。

履修コード	232501
科目名	日本事情IX〔経済〕
担当者名	渡邊 恵一

講義のねらい

外国人留学生を対象に、日本の経済・社会への理解をいっそう深めてもらうことが到達目標である。本講義では日本における資本主義経済システムの定着期である明治期に始まり、二つの世界大戦、戦後の高度経済成長、そして「経済大国」と称されるようになるまでの日本経済の歴史をダイジェスト版でたどることで、この課題に接近していきたい。授業ではVTR、DVDなどの映像資料を積極的に活用し、受講生の理解を助けるつもりでいる。

講義の内容・  
授業スケジュール

(1) 課題と方法、(2) 日本経済の長期的概観、(3)~(5) 明治期の日本経済、(6)~(9) 大正期の日本経済、(10)~(14) 昭和期以降の日本経済、(15) 総括と展望

成績評価の方法

出席状況(遅刻は出席と見なさない)、「リアクション・ペーパー」提出を通じた授業への理解度、積極的姿勢を平常点として重要視する。期末試験・レポートの実施については、受講者数などをみてから、後日決定したい。

教科書  
参考書等  
その他

使用しない。  
老川慶喜・仁木良和・渡邊恵一『日本経済史—太閤検地から戦後復興まで—』(税務経理協会、2002年)、三和良一『概説日本経済史 近現代(第2版)』(東京大学出版会、2002年)  
授業は日本語で行うが、留学生向けの授業であることを考慮し、無理のないペースでの進行を心がけたい。

「日本語」  
「日本事情」



履修コード	232601
科目名	日本事情X〔経営〕
担当者名	高井 徹雄

**講義のねらい**

本講義は留学生の方を対象とした講義です。第一の趣旨は、皆さんの日本語コミュニケーション能力を本学で学ぶに十分なレベルに高めていただくことにあります。そのために、教員と受講生間のコミュニケーションを密に相互に協力しながら、今日の日本事情に関する理解を深めて行きます。この国を正しく理解するには、ここに至る歴史を知ることや政治・経済など専門家の意見を聞く必要があります。しかし、それ以前にまず「日本人の心」に触れていただきたいと思ひます。この国で生まれ・学び・働き・暮らしてきた、ごく普通の日本人の人々と本音のコミュニケーションがとれるようになっていただくことを目指します。

**講義の内容・授業スケジュール**

留学生の方々が、本学における学修を円滑に進めていただくためには、一定の日本語能力のうえに、日本社会と日本人に関するよりベーシックな理解が不可欠です。そこで、講義の前半から中盤部分では、Q&A方式によって皆さんと十分なコミュニケーションをとりながら、皆さんの興味に沿った個別テーマを選んで解説して行くことにします。およそのスケジュールは以下のようになります。

- 第1週：イントロダクション…本講義の趣旨説明
- 第2週：教員・受講者自己紹介。日本に関する興味についてアンケート調査
- 第3～10週：Q&A方式による日本事情個別テーマの解説
- 第11～12週：今日の日本的経営システムについて
- 第13～14週：情報ネットワーク社会の日本的事情
- 第15週：日本語コミュニケーション能力確認テスト

**履修上の留意点**

留学生の皆さんが、今日まで受け継がれてきた日本の文化とその背景にある日本人の心、現代日本の社会・政治・経済など本当のところを知りたいとお望みであれば何なりと質問してください。是非、興味をもって能動的に授業に参加されることを期待いたします。

**成績評価の方法**

毎回出席を取ります。その上で、最終授業時に日本語コミュニケーション能力に関する筆記試験を実施して成績評価を行います。

**教科書  
参考書等**

特にありません。  
個別テーマによって、必要なものがあれば適宜紹介します。

